LX600

取扱説明書

イラスト目次	**イラスト**から検索	
安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと** （主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置）	1
走行に関する情報表示	走行に関する情報を表示する計器類の見方 （主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ）	2
運転する前に	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整 （主な項目：キー、ドア、シート、パワーウインドウ）	3
運転	運転に必要な操作やアドバイス （主な項目：エンジン始動のしかた、給油のしかた）	4
室内装備・機能	室内装備の使い方など （主な項目：エアコン・収納装備の使い方）	5
お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法 （主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換）	6
万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処 （主な項目：バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処）	7
車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報 （主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧）	8
さくいん	**症状**から検索	
	音から検索	
	アルファベットで検索	
	五十音で検索	

知っておいていただきたいこと 6
本書の見方..... 12
検索のしかた..... 13
イラスト目次..... 14

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 30
安全なドライブのために 31
シートベルト 33
SRS エアバッグ..... 37
排気ガスに対する注意 45

1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは 46
チャイルドシート..... 47

1-3. 盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム 62
オートアラーム..... 63
指紋認証システム..... 67

2 走行に関する情報表示

2-1. 計器の見方
警告灯／表示灯..... 72
計器類 78
マルチインフォメーションディスプレイ 84
ヘッドアップディスプレイ 86
ディスプレイの表示内容 89

3 運転する前に

3-1. キー
キー 98

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア（フロントドア・リヤドア）103
バックドア 109
スマートエントリー＆スタートシステム.....124

3-3. シートの調整
フロントシート 130
リヤシート（5 人乗り車／ 7 人乗り車）.....135
リヤシート（4 人乗り車）.....143
ヘッドレスト 147

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 150
デジタルインナーミラー.....151
ドアミラー 159

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉
パワーウインドウ 162
ムーンルーフ 165

3-6. お好み設定
パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能.....168
リヤシートポジションメモリー（4 人乗り車）.....172
マイセッティング 173

4 運転

4-1. 運転にあたって
運転にあたって 177
荷物を積むときの注意.....184
トレーラーのけん引（ヒッチメンバー付き車）.....185

4-2. 運転のしかた
エンジン（イグニッション）スイッチ 188
オートマチックトランスミッション 193
方向指示レバー 197
パーキングブレーキ.....197
ブレーキホールド 201

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方
ランプスイッチ 204

AHS（アダプティブハイビームシステム）..... 208
AHB（オートマチックハイビーム）..... 211
フォグランプスイッチ..... 213
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）..... 214
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）217

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方..... 219

4-5. 運転支援装置について

ソフトウェアアップデートを確認する（Lexus Safety System +／アドバンスト ドライブ［渋滞時支援］装着車）..... 221
Lexus Safety System + ... 224
ドライバーモニター..... 232
PCS（プリクラッシュセーフティ）..... 234
LTA（レーントレーシングアシスト）..... 243
LCA（レーンチェンジアシスト）247
LDA（レーンディパーチャーアラート）..... 250
PDA（プロアクティブドライビングアシスト）..... 255
FCTA（フロントクロストラフィックアラート）..... 260
発進遅れ告知機能..... 262
RSA（ロードサインアシスト）... 264
レーダークルーズコントロール . 267
クルーズコントロール..... 276
ドライバー異常時対応システム . 279
アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）..... 282
ITS Connect..... 286
BSM（ブラインドスポットモニター）..... 292
後方車両接近告知..... 298
周辺車両接近時サポート（録画機能、通報提案機能）..... 300
後方車両への接近警報..... 304
セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）..... 306
安心降車アシスト 308
クリアランスソナー.....312
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）.....318
RCD（リヤカメラディテクション）.....322
PKSB（パーキングサポートブレーキ）.....326
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）.....330
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）.....332
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）.....333
マルチテレインモニター.....335
ドライブモードセレクトスイッチ.....398
AHC（アクティブハイトコントロール）.....400
フルタイム 4WD.....407
フロントデフロック.....410
リヤデフロック 412
クロールコントロール（ターンアシスト機能付き）.....413
マルチテレインセレクト.....418
ダウンヒルアシストコントロールシステム.....421
プラスサポート（販売店装着オプション）.....423
排出ガス浄化装置（GPF）.....428
運転を補助する装置.....429

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転 436

5 室内装備・機能

5-1. ディスプレイ

フロントマルチオペレーションパネル.....440
リヤマルチオペレーションパネル（4人乗り車）.....443

5-2. レクサスクライメイトコンシェルジュ

レクサスクライメイトコンシェルジュ 447

5-3. エアコンの使い方

フロントオートエアコン 448
リヤオートエアコン 456
ステアリングヒーター／シートヒーター＆ベンチレーター 460

5-4. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 464

5-5. 収納装備

収納装備一覧 469
ラゲージルーム内装備 475

5-6. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 480

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 498
内装の手入れ 502

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 505
エンジンルームカバー 506
ウォッシャー液の補充 508
タイヤについて 508
タイヤ空気圧について 517
エアコンフィルターの交換 518
電子キーの電池交換 520
ヒューズの点検・交換 522
電球（バルブ）の交換 524

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは 528
非常点滅灯（ハザードランプ） ... 529
発炎筒 529
車両を緊急停止するには 530
水没・冠水したときは 531
車中泊が必要なときは 532

7-2. 緊急時の対処法

けん引について 533
フューエルポンプシャットオフシステム 537
警告灯がついたときは 538
警告メッセージが表示されたときは 547
パンクしたときは 555
エンジンがかからないときは 565
キーをなくしたときは 567
電子キー、または指紋認証システムが正常に働かないときは 567
バッテリーがあがったときは 569
オーバーヒートしたときは 573
スタックしたときは 576

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など） 578

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能 583

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 603

8-4. フリー／オープンソースソフトウェア

フリー／オープンソースソフトウェア情報 604

さくいん

こんなときは（症状別さくいん） 606
車から音が鳴ったときは（音さくいん） 608
アルファベット順さくいん 611
五十音順さくいん 613

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

● レクサスが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。

● 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

また、このような改造は Lexus Safety System + のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。

● ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。

- タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換

異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

- 電装品・無線機の取り付け・取りはずし

電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

RF 送信機の取り付けについては、P.9も参照してください。

● フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

サイバー攻撃のリスクについて

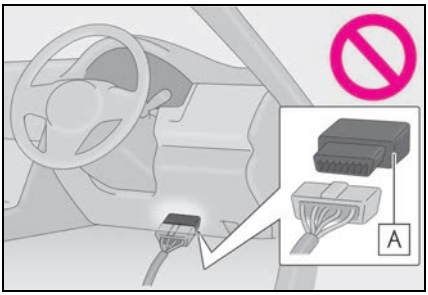
電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。

レクサス純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してレクサスは保証いたしません。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターA などに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装着されています。

■ コンピュータ（マルチメディアシステム除く）に記録されるデータ ※1

※1グレード／オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- 車両の挙動に関する基本的なデータ（エンジン回転数・アクセルペダルの操作状況・ブレーキペダルの操作状況・車速など）
- 運転支援システムの作動状況（システムの作動に付随して記録される車両の挙動に関する基本的なデータも含みます）
- 運転支援システムのセンサーのデータ
- 画像データ（前方・後方・周辺・ドライバーモニターのカメラ画像）※2

※2車両には複数のカメラが付いています。どのカメラが画像を記録しているかはレクサス販売店にお問い合わせください。

- 位置情報

コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

また、お客様個人を特定できる種類のデータ（氏名・性別・年齢など）は記録されません。

■ Lexus Safety System + によるデータの記録・個人情報の取り扱いについて

トヨタ自動車は Lexus Safety System + により車両に記録された各システムの作動状況・各センサーのデータ・画像データ（前方・後方カメラの画像）・位置情報を次の場合に該当するときに限り、お客様が販売店に入庫されたときに取得するほか、トヨタ自動車のサーバーに送信する形で取得します。

- 一定の衝突や衝突に近い状態などが発生した場合
- 渋滞や悪路、悪天候などの特定の交通環境にある道路を走行している場合
- 新規開通道路、拡張された道路などの特定の道路を走行している場合
- エンジン始動後の一定のタイミング

Lexus Safety System + によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータの取り扱いについての詳細は、G-Link ご契約時にご署名いただいた留意事項説明をご覧ください。

■ データの利用目的と第三者提供について

車両に記録されたデータは、事故解析・故障診断、自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術・商品開発、品質向上など）、データを利用した商品・サービス（自動運転・先進安全技術用の地図の提供、走行状況の分析・道路インフラなど走行環境の分析・交通状況の配信などがあります。以下、これらを「個別サービス」といいます）および事故に関するお客様対応、事故の解決のための協議を目的に利用することがあります。

なお、次の場合に、トヨタ自動車は、取得したデータを第三者へ開示または提供することがあります。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察／裁判所／政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- トヨタ自動車が訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

Lexus Safety System + によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータについては、上記に加え、次の場合に第三者に提供することがあります。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合。レクサス以外の第三者が提供する車両記録データを利用する個別サービスに申し込みされた場合などであって、第三者がレクサスに代わり、レクサスから第三者へのデータの提供についてお客様の同意を取得した場合も含みます。
- 自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術／商品開発／品質向上など）の目的で、自動運転ソフトウェア関連の会社などの第三者に提供する場合
- 地図関連技術のための研究開発の目的で、地図作成会社などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- 道路整備などの目的で、地方自治体などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- 交通状況配信などの個別サービスの申込者に対して、画像データと位置情報を加工した情報を提供する場合
- レクサスと別途契約を締結した各自治体の消防組織に対して、火災発生時または救急出動時に、現場付近の画像データを提供する場合

知識

車両に記録されている画像データおよびそれに付随する一部のデータは、レクサス販売店にて、消去することが可能です。

また、画像データを記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

Lexus Safety System + によって研究開発、および個別サービスの提供を目的としてトヨタのサーバーに送信する形で取得しているデータの取得と利用を停止したい場合は、My LEXUS より停止いただけます。詳細は、My LEXUS のマイページをご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した

時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

・ 車両の各システムの作動状況
・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。レクサスにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、レクサスは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- レクサスが訴訟で使用する場合

ただし、レクサスは

- データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

● EFI コンピュータ

● Lexus Safety System +

● ABS（アンチロックブレーキシステム）

● SRS エアバッグ

● シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずレクサス販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をレクサス販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

プラスサポートについて

レクサス販売店で専用の電子キーをご購入し、ご使用いただくことで、プラスサポート（→P.423）の機能が利用可能になります。詳細については、レクサス販売店にお問い合わせください。

アクセサリーパーツ・用品について

下記サイトより取扱説明書（デジタル配信）をご確認いただけます。
ご購入いただきましたアクセサリーパーツの取扱説明書をご使用前にお読みいただき、記載された内容に従って正しくお使いください。
商品の使用方法や安全にお使いいただく上での注意点を記載しております。
なお、デジタル配信により印刷や輸送にともなう CO_2 排出量の低減が見込まれます。
持続可能な社会を構築するためにレクサスはこれからも取扱説明書のあり方を見直してまいります。

アクセサリーパーツ取扱説明書掲載サイト：
お持ちのスマートフォンやタブレット、携帯電話等にて QR コードを読み取りいただくか、URL より閲覧してください。
URL:https://manual-accessories.toyota/CAWeb/index.html

なお、紙面で必要な場合はサイトより印刷いただくか、レクサス販売店にご相談ください。

QR コードについて

QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

高電圧部位に貼り付けられている記号について

パワーコントロールユニットなどの高電圧部位には、取り扱いに注意することを示すラベルが貼付されている場合があります。

記号の示す意味は次のとおりです。

記号	意味
	危険であることを示しています。
	高電圧部位であることを示しています。

記号	意味
	手で触れてはいけない部位であることを示しています。
	高温部位であることを示しています。

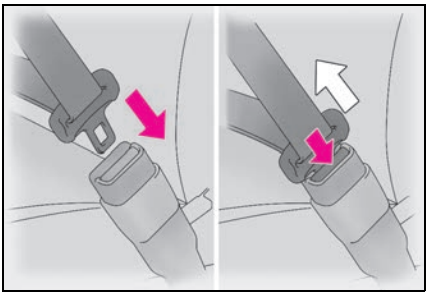
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

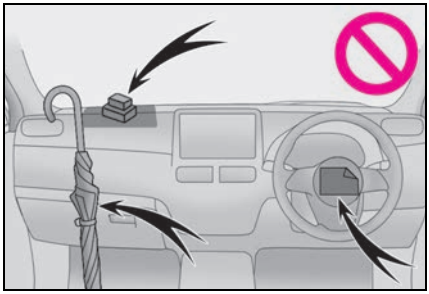
本文の記号について

記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
1 2 3...	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号について



記号	意味
	押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。

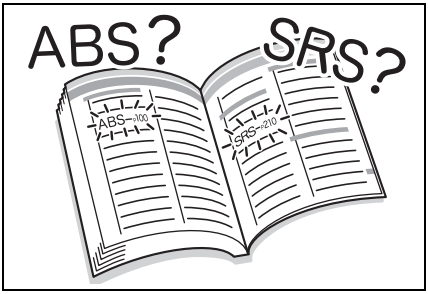


記号	意味
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

検索のしかた

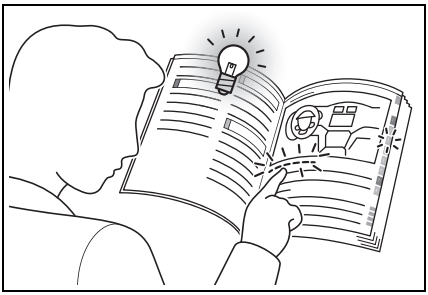
■ 名称から探す

●五十音順さくいん：→P.613
●アルファベット順さくいん：→P.611



■ 取り付け位置から探す

●イラスト目次：→P.14

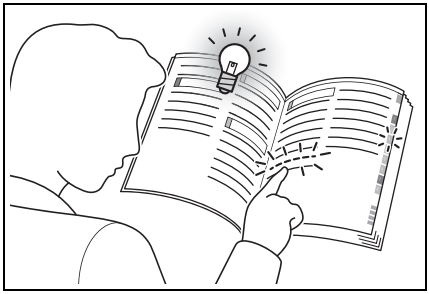


■ 症状や音から探す

●こんなときは（症状別さくいん）：→P.606
●車から音が鳴ったときは（音さくいん）：→P.608

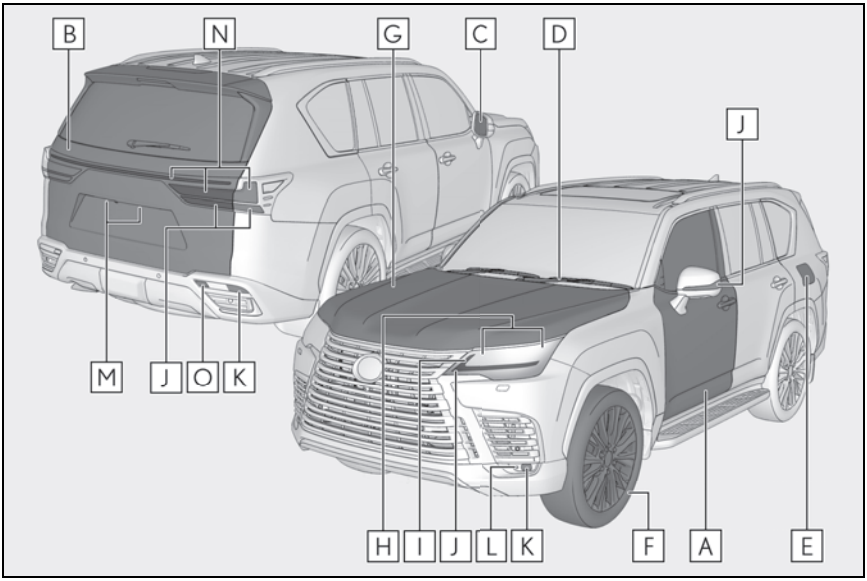
■ タイトルから探す

●目次：→P.2



イラスト目次

■外観



A ドア P.103

施錠／解錠 P.103, 106

ドアガラスの開閉 P.162

メカニカルキーでの施錠／解錠 P.568

警告メッセージ P.547

B バックドア P.109

施錠／解錠 P.110

開け方／閉め方 P.111

警告メッセージ P.547

C ドアミラー P.159

鏡面の角度調整 P.159

ミラーの格納 P.160

調整位置の登録 P.169

曇りを取る（ミラーヒーター） P.450

D ワイパー P.214

冬季の注意 P.436
凍結防止（ウインドシールドデアイサー）..... P.453
洗車時の注意 P.500

E 給油口 P.219
給油方法 P.220
燃料の種類・燃料タンク容量 P.578

F タイヤ P.508
サイズ・空気圧 P.581
冬用タイヤ・タイヤチェーン P.436
点検・ローテーション・タイヤ空気圧警報システム P.508
パンク時の対処 P.555

G ボンネット P.505
開け方 P.505
エンジンオイル P.578
オーバーヒート時の対処 P.573
警告メッセージ P.547

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P.524, ワット数：P.582）

H ヘッドランプ P.204

I 車幅灯・LED デイタイムランニングランプ P.204

J 方向指示灯 P.197

K フロントフォグランプ・リヤフォグランプ P.213

L コーナリングランプ P.207

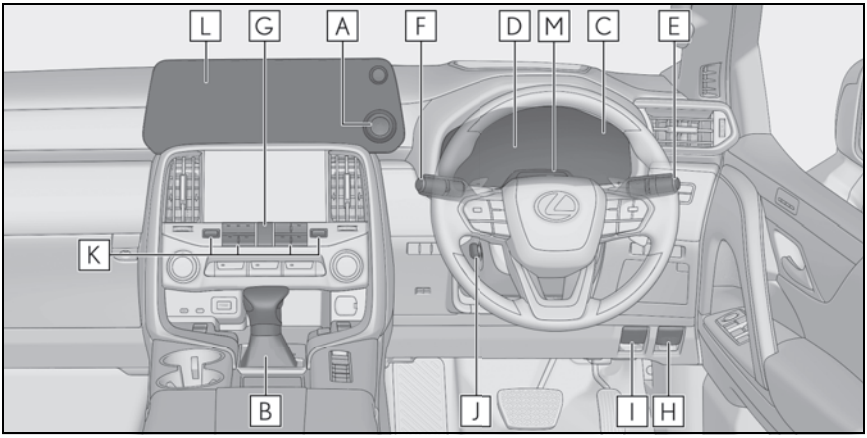
M 番号灯 P.204

N 尾灯 P.204
制動灯
緊急ブレーキシグナル P.430

O 後退灯

シフトポジションを R にする P.194

■インストルメントパネル



A エンジンスイッチ P.188
エンジンの始動・モード切りかえ P.188
エンジンの緊急停止 P.530
エンジンが始動できないときの対処 P.565
警告メッセージ P.547

B シフトレバー P.193
シフトポジションの切りかえ P.194
けん引時の注意 P.533
シフトレバーが動かないときの対処 P.194

C メーター P.78
見方・明るさの調整 P.78
警告灯／表示灯 P.72
警告灯点灯時の対処 P.538

D マルチインフォメーションディスプレイ P.84
表示内容 P.84
警告メッセージ表示時の対処 P.547

E 方向指示レバー P.197
ランプスイッチ P.204

ヘッドランプ・LED デイタイムランニングランプ・車幅灯・尾灯 .. P.204
フロントフォグランプ・リヤフォグランプ P.213
アダプティブハイビームシステムスイッチ P.208
オートマチックハイビームスイッチ P.211

F ワイパー＆ウォッシャースイッチ（フロント）..... P.214
ワイパー＆ウォッシャースイッチ（リヤ）..... P.217
使い方..... P.214, 217
ウォッシャー液の補充 P.508
ヘッドランプクリーナー P.214
警告メッセージ P.508

G 非常点滅灯スイッチ P.529

H 給油扉オープナー P.220

I ボンネット解除レバー P.505

J ハンドル位置調整スイッチ..... P.150
調整方法..... P.150
調整位置の登録 P.169

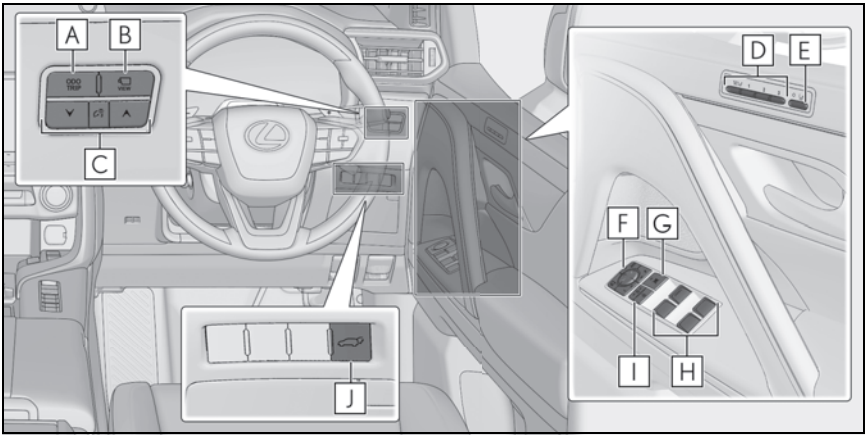
K フロントエアコン P.448
操作方法..... P.448
リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）..... P.450

L オーディオ ※

M ドライバーモニターカメラ..... P.232

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ スイッチ類



A ODO TRIP スイッチ P.83

B カメラスイッチ P.339

C インストルメントパネル照度調整スイッチ P.84

D ポジションメモリーボタン..... P.169

E 助手席操作モードボタン★ P.131

F ドアミラースイッチ P.159

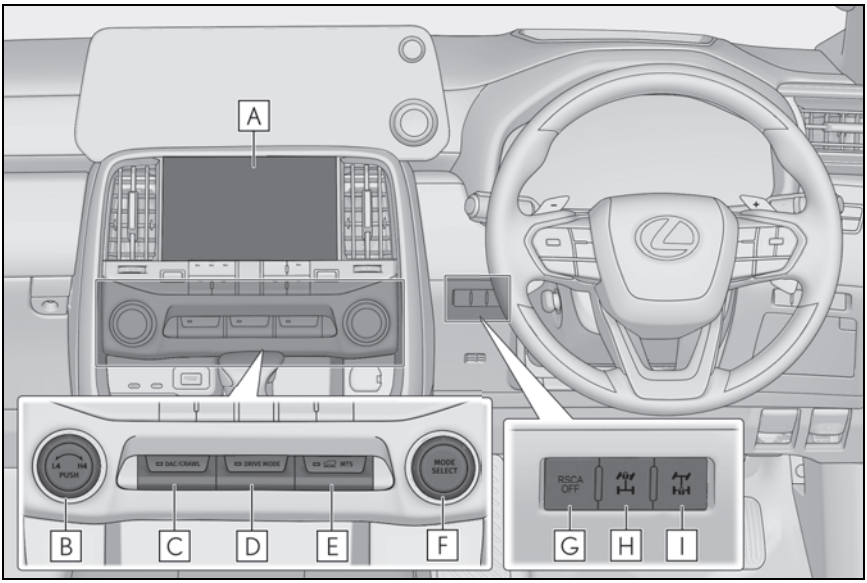
G ウインドウロックスイッチ..... P.164

H パワーウインドウスイッチ..... P.162

I ドアロックスイッチ P.106

J パワーバックドアスイッチ..... P.111

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



A フロントマルチオペレーションパネル P.440

B トランスファースイッチ P.407

C DAC/CRAWL スイッチ..... P.414, 421

D DRIVE MODE スイッチ P.398

E MTS スイッチ P.418

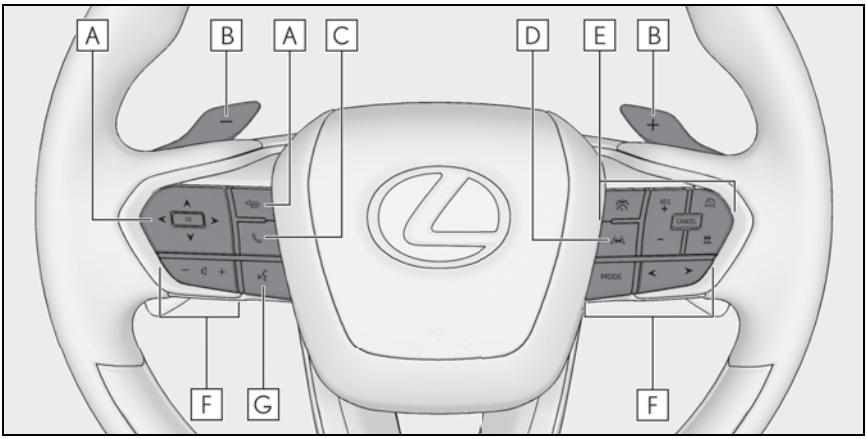
F MODE SELECT スイッチ P.398, 414, 418, 421

G RSCA OFF スイッチ P.44

H フロントデフロックスイッチ★ P.410

I リヤデフロックスイッチ★ P.412

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



A メーター操作スイッチ P.89

B パドルシフトスイッチ P.195, 196

C 電話スイッチ ※

D LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ..... P.245

E クルーズコントロールスイッチ

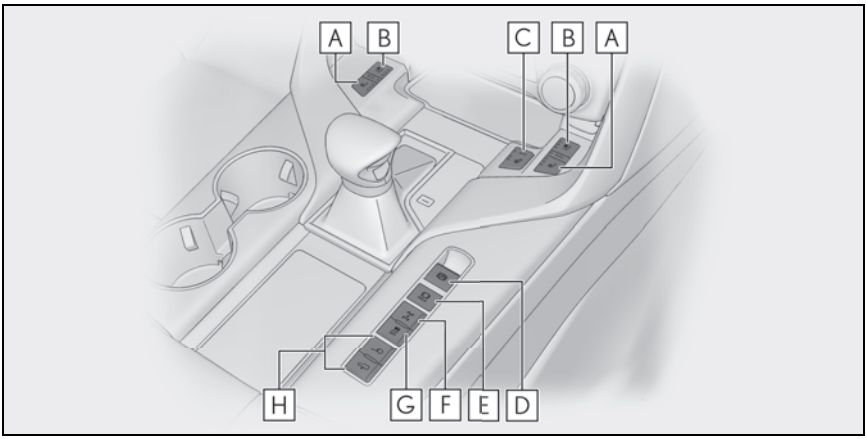
レーダークルーズコントロール..... P.267

クルーズコントロール P.276

F オーディオスイッチ ※

G トークスイッチ ※

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



A フロントシートヒータースイッチ P.460

B フロントシートベンチレータースイッチ P.462

C ステアリングヒータースイッチ P.460

D パーキングブレーキスイッチ P.197

かける・解除する P.197

冬季の注意 P.438

警告ブザー・警告メッセージ P.199, 538

E ブレーキホールドスイッチ P.201

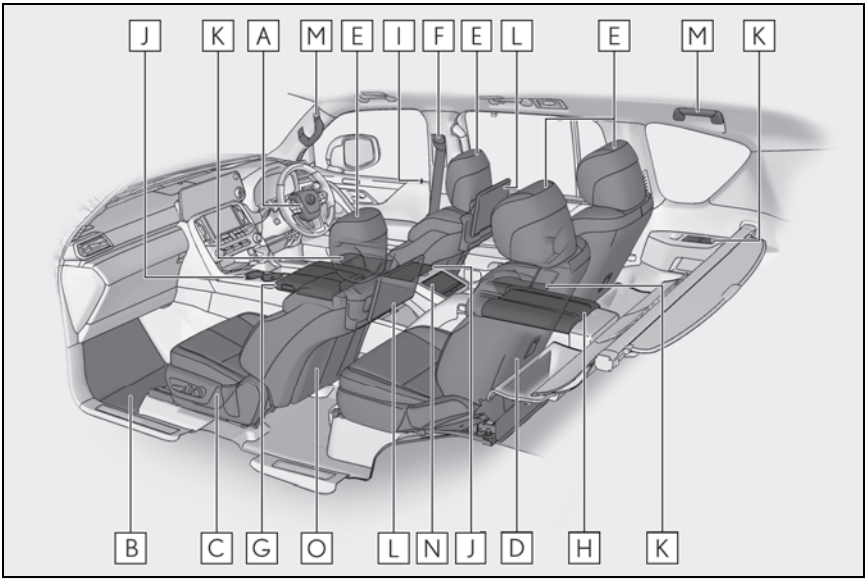
F センターデフロックスイッチ P.408

G VSC OFF スイッチ P.431

H 車高切りかえスイッチ P.400

■ 室内

▶ 4 人乗り車



A SRS エアバッグ P.37

B フロアマット P.30

C フロントシート P.130

D リヤシート P.143

E ヘッドレスト P.147

F シートベルト P.33

G クールボックス P.480

H コンソールボックス P.471

I ドアロックボタン P.106

J カップホルダー P.472

K ボトルホルダー P.473

L リヤシートエンターテインメントシステム（後席 11.6 型ワイドディスプレ

イ）※

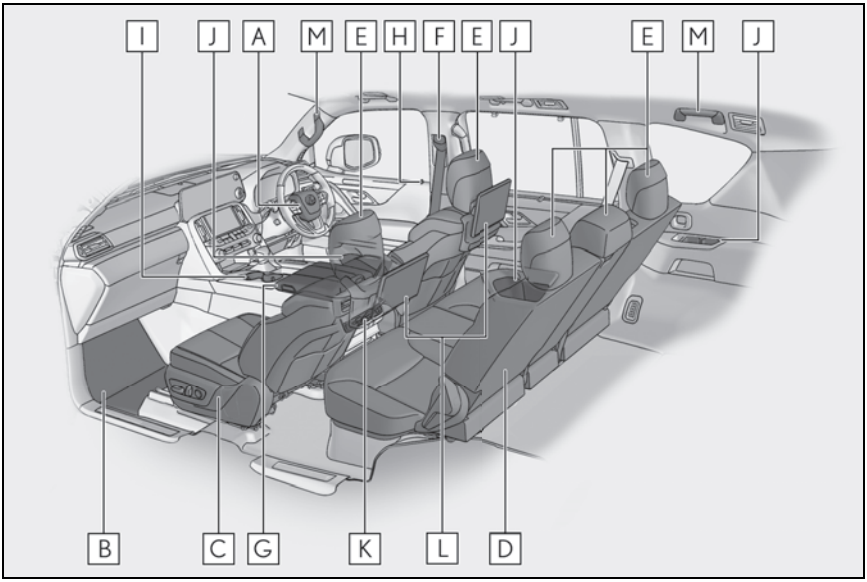
M アシストグリップ P.495

N リヤマルチオペレーションパネル P.443

O オットマン P.144

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

▶ 5 人乗り車



A SRS エアバッグ P.37

B フロアマット P.30

C フロントシート P.130

D リヤシート P.135

E ヘッドレスト P.147

F シートベルト P.33

G クールボックス P.480

H ドアロックボタン P.106

I カップホルダー P.472

J ボトルホルダー P.473

K リヤエアコン P.456

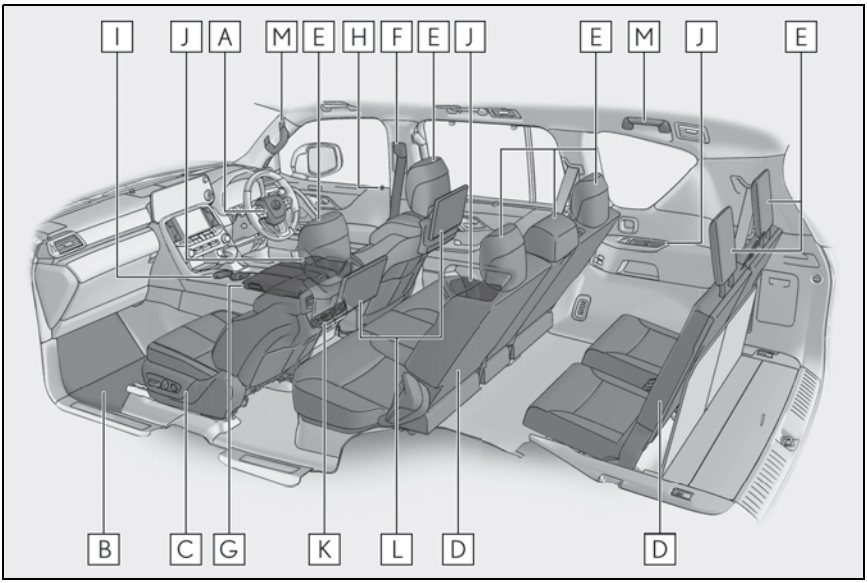
L リヤシートエンターテインメントシステム（後席 11.6 型ワイドディスプレイ）★※

M アシストグリップ P.495

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

▶ 7 人乗り車



A SRS エアバッグ P.37

B フロアマット P.30

C フロントシート P.130

D リヤシート P.135

E ヘッドレスト P.147

F シートベルト P.33

G クールボックス P.480

H ドアロックボタン P.106

I カップホルダー P.472

J ボトルホルダー P.473

K リヤエアコン P.456

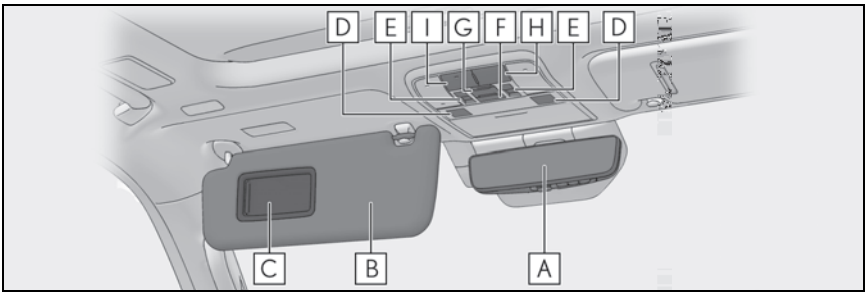
L リヤシートエンターテインメントシステム（後席 11.6 型ワイドディスプレイ）★※

M アシストグリップ P.495

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ 天井



A デジタルインナーミラー P.151

B サンバイザー ※1 ..... P.481

C バニティミラー P.481

D インテリアランプ P.466
パーソナルランプ P.467

E ムーンルーフスイッチ P.165

F 侵入・傾斜センサー OFF スイッチ P.65

G ヘルプネットスイッチパネル ※2

H インテリアランプスイッチ..... P.466

I インテリアランプドア連動スイッチ P.466

※1やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→P.49）

※2別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に 30

安全なドライブのために 31

シートベルト 33

SRS エアバッグ 37

排気ガスに対する注意 45

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは 46

チャイルドシート 47

1-3. 盗難防止装置

エンジンイモビライザーシステム 62

オートアラーム 63

指紋認証システム 67

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

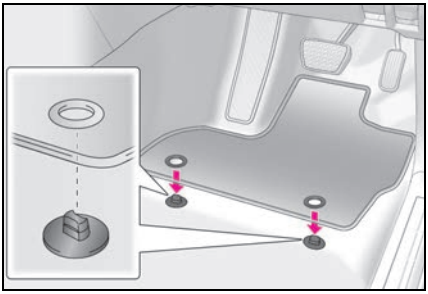
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、レクサス販売店で必ず点検整備を受けてください。

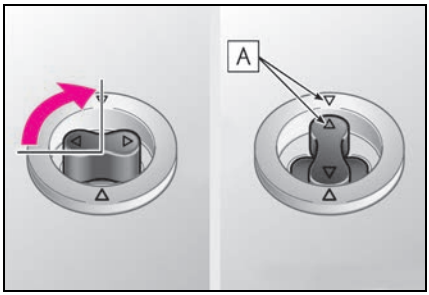
フロアマットを固定するには

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



△マーク A を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

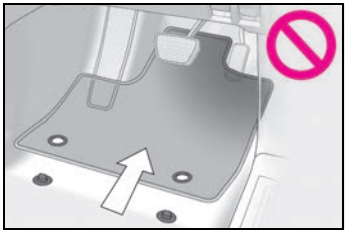
■運転席にフロアマットを敷くとき

- レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

警告

■運転する前に

●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

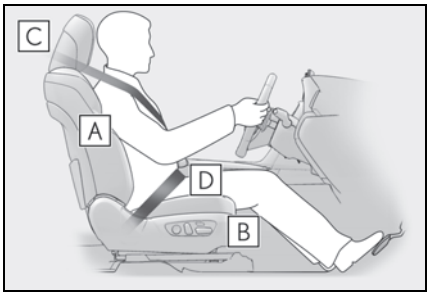


●エンジン停止およびシフトレバーがPの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢をとるには



A まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.130）

B ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.130）

C ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P.147）

D シートベルトを正しく着用する（→P.34）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。
  お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
  周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用するには

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。(→P.34)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→P.47)

ミラーを調整するには

後方が確実に確認できるように、デジタルインナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。
(→P.151, 159)

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

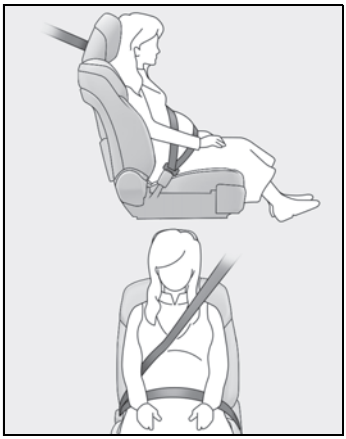
- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはセカンドシートまたはサードシート★に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- セカンドシート外側席やサードシート★のシートベルトを使用するときは、シートベルトがシートベルトハンガー（→P.136, 140）にかかっていないことを確認する

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→P.34）
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまを乗せるとき

→P.58

■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

警告

- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。
うまく挿し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

正しく着用するには

- 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

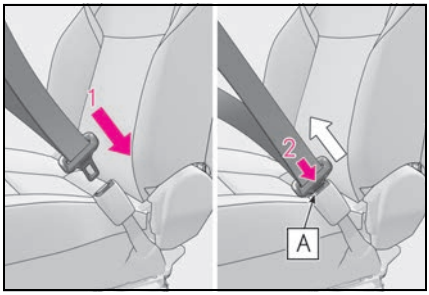
知識

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P.47)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P.33)

着け方・はずし方



1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

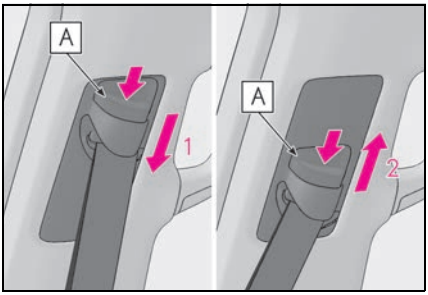
2 ベルトを解除するには、解除ボタン A を押す

知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを巻きもどしゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

シートベルトの高さ調節（フロントシート）



1 解除ボタン A を押しながら、アジャスターを下げる

2 解除ボタン A を押しながら、アジャスターを上げる

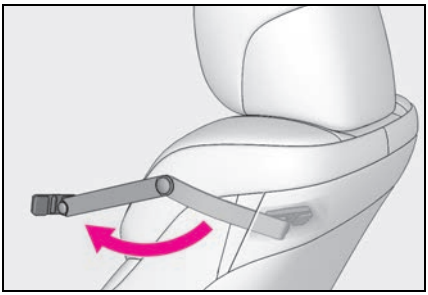
“カチッ” と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトリルータ★

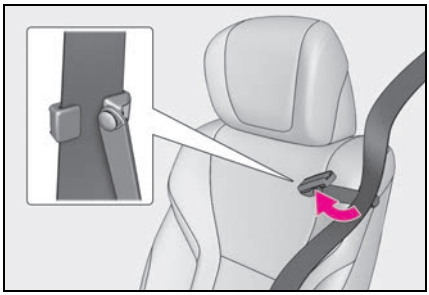
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

背もたれの角度によりシートベルトが視界のさまたげになる場合、シートベルトリルータを使用する事で視界をより広くすることができます。

1 背もたれうしろのポケットからシートベルトリルータを引き出す



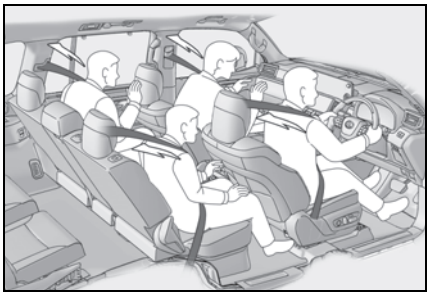
2 シートベルトをシートベルトリルータの穴に通す



シートベルトプリテンショナー（フロントシート・セカンドシート外側席）

前方・側方から強い衝撃を受けたときや、横転したときにフロント席・セカンドシート外側席のシートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃のときは通常は作動しません。



知識

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しま

せん。

■予防連携機能について

PCS（プリクラッシュセーフティ）によって車両との衝突の可能性が高いと判断されたとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

警告

■プリテンショナー付きシートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。

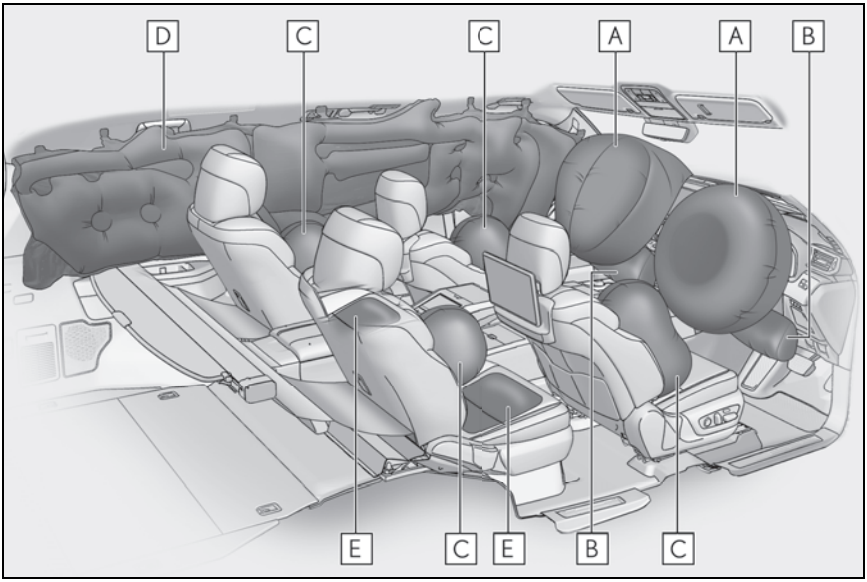
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム

■ SRS エアバッグの配置（4 人乗り車）



A フロント SRS エアバッグ（運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ）
運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和

B SRS ニーエアバッグ
運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助

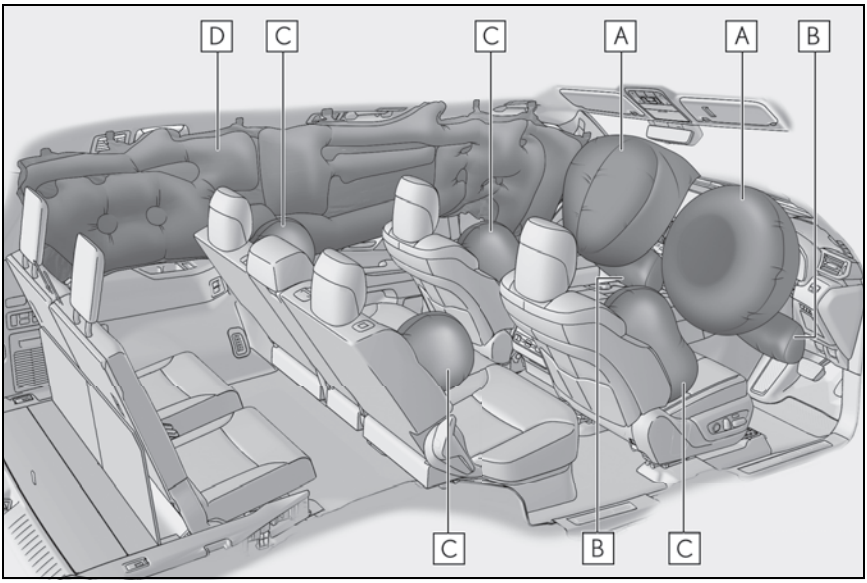
C SRS サイドエアバッグ
・ フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和
・ リヤ席乗員の胸などへの衝撃を緩和

D SRS カーテンシールドエアバッグ
フロント席とリヤ席乗員の主に頭部への衝撃を緩和

E SRS シートクッションエアバッグ

リヤ席乗員の拘束に寄与

■ SRS エアバッグの配置（5 人乗り車、7 人乗り車）



イラストは 7 人乗り車で代表しています。

A フロント SRS エアバッグ（運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ）
運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和

B SRS ニーエアバッグ
運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助

C SRS サイドエアバッグ
・ フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和
・ セカンドシート外側席乗員の胸などへの衝撃を緩和

D SRS カーテンシールドエアバッグ
フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●エアバッグ近辺の部品の一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●すべてのドアが解錠されます。（→P.105）

●自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→P.430）

●室内灯が自動で点灯します。（→P.466）

●非常点滅灯が自動で点滅します。（→P.529）

●燃料供給を停止します。（→P.537）

■緊急通報について

●G-Link の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。
・SRS エアバッグが作動した
・シートベルトプリテンショナーが作動した
・車両に一定以上の衝撃を受けた

オペレーターからの呼びかけに応答がなくても、緊急車両などを手配することがあります。詳しくは「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■正面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

●次のエアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
・フロント SRS エアバッグ
・SRS シートクッションエアバッグ★
・SRS ニーエアバッグ

●次の場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によっては次の部品のみが作動する場合があります。
・シートベルトプリテンショナー

●SRS シートクッションエアバッグ装着車：後席の SRS シートクッションエアバッグは、シートベルトを着用していないときは作動しません。

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

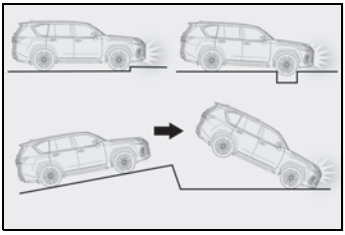
■側面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

●次の SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
・SRS サイドエアバッグ
・SRS カーテンシールドエアバッグ

●横転時は、次のエアバッグが作動します。
・左右の SRS カーテンシールドエアバッグ

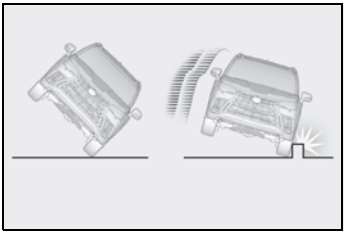
■車両下部からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

●次の SRS エアバッグは、車両下部が固いものにぶつかったときなどの状況で作動する場合があります。
・フロント SRS エアバッグ
・SRS ニーエアバッグ
・SRS シートクッションエアバッグ★
・SRS サイドエアバッグ
・SRS カーテンシールドエアバッグ



●次の SRS エアバッグは、車両が大きく傾いたときや、車両が横滑りして縁石などに衝突して強い衝撃があったときに作動する場合があります。

・ SRS カーテンシールドエアバッグ

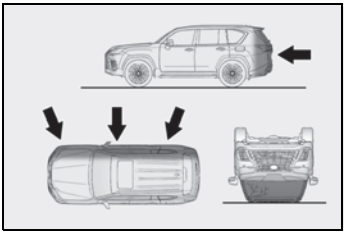


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■**SRS エアバッグが作動しないとき**

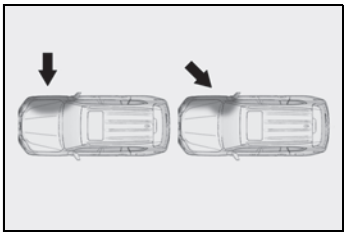
●次の SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、作動することがあります。

・ フロント SRS エアバッグ
・ SRS ニーエアバッグ
・ SRS シートクッションエアバッグ★



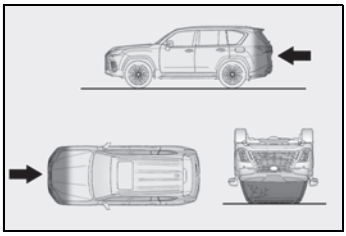
●次の SRS エアバッグは、斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときに作動しない場合があります。

・ SRS サイドエアバッグ
・ SRS カーテンシールドエアバッグ



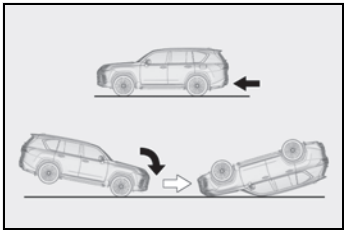
●次のエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

・ SRS サイドエアバッグ



●次のエアバッグは、後方からの衝撃、縦方向への転覆、または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

・ SRS カーテンシールドエアバッグ



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

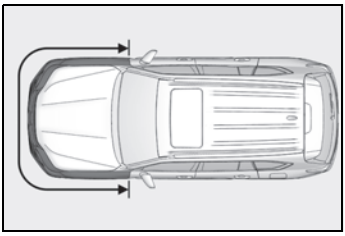
■**レクサス販売店に連絡が必要な場合**

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

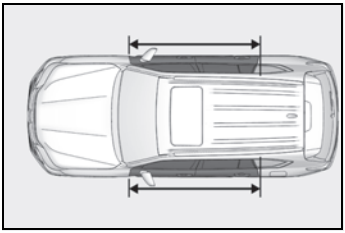
●いずれかの SRS エアバッグがふくらん

だとき

●次のエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき
・ フロント SRS エアバッグ
・ SRS ニーエアバッグ
・ SRS シートクッションエアバッグ★



●次のエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき
・ SRS サイドエアバッグ
・ SRS カーテンシールドエアバッグ



●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS シートクッションエアバッグ装着車：シートクッションの表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

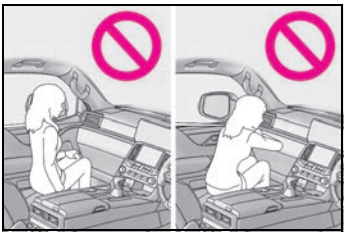
●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

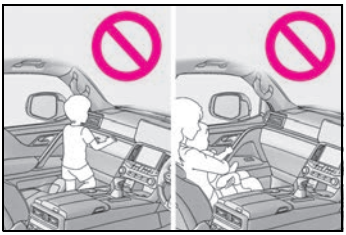
●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。（→P.47）

警告

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



●お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

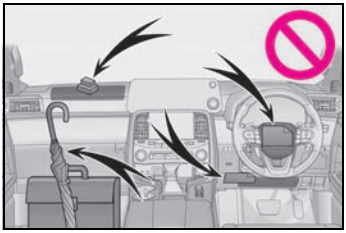


●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

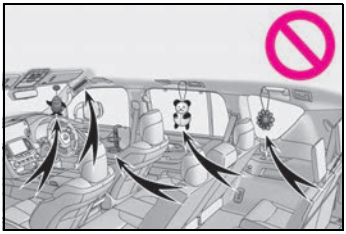
●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

●ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



●ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー、ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない



●コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- エアバッグがふくらむ場所を覆うようなアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されている部分に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずレクサス販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- 次の部品周辺の修理・取りはずし・改造
  - ・ハンドル
  - ・インストルメントパネル
  - ・ダッシュボード
  - ・シート
  - ・シート表皮
  - ・フロントピラー
  - ・センターピラー
  - ・リヤピラー
  - ・ルーフサイドレール
  - ・フロントドアパネル
  - ・フロントドアトリム
  - ・フロントドアスピーカー
- フロントドアパネルの穴あけなどの改造
- 次の部品やその周辺の修理・改造
  - ・フロントフェンダー
  - ・フロントバンパー
  - ・車内側面部
- 次の部品、または装置の取り付け
  - ・グリルガード
  - ・除雪装置
  - ・ウインチ
  - ・ルーフキャリア

警告

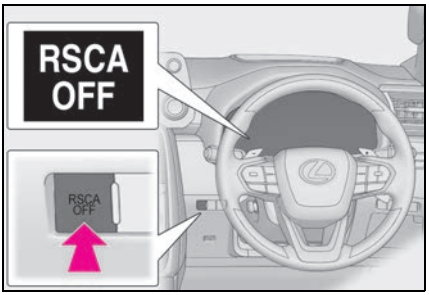
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

車両の横転時に SRS カーテンシールドエアバッグの作動を停止するには

スイッチを長押しして ON/OFF を切りかえます。

SRS カーテンシールドエアバッグの作動が OFF のときは、RSCA OFF 表示灯（→P.75）が点灯します。

エンジンスイッチを ON にするたびに、SRS カーテンシールドエアバッグとシートベルトプリテンショナーは作動可能状態にもどります。



知識

■ご留意いただきたいこと

レジャー的なオフロード走行時、運転者の意思によって車両が大きく傾くことが予想される場合、RSCA システムを OFF にしてください。

■RSCA OFF 表示灯が点灯しているときの作動

- 車両の横転・転覆時に、SRS カーテンシールドエアバッグとシートベルトプリテンショナーは作動しません。
- 車両側面方向からの強い衝撃を感知したときは、SRS カーテンシールドエアバッグが作動します。
- 車両前方や、車両側面方向からの強い衝撃を感知したときは、シートベルトプリテンショナーが作動します。

警告

■通常走行時は

RSCA OFF 表示灯が点灯していないことを確認してください。
お守りいただかないと、事故が起きたときなどに重大な傷害を受けたり、最悪の場合、死亡につながるおそれがあります

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンが作動したままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→P.47）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→P.108）・ウインドウロックスイッチ（→P.164）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

■お子さまを乗せるとき

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。（→P.47）

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
  取り付け方法は、商品に付属の取り扱い説明書に必ず従ってください。
- レクサスでは、より安全にお使いいただくために、レクサス純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
  レクサス純正チャイルドシートは、レクサス車のために作られたチャイルドシートです。
  レクサス販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと：P.47

チャイルドシートを使用するときは：P.48

シート位置別チャイルドシートの適合性について：P.51

チャイルドシートの取り付け方法：P.56

・ シートベルトで固定する：P.56

・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：P.58

・ トップテザーアンカレッジを使用する：P.60

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。（→P.51）

警告

■お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

警告

- レクサスでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをセカンドシートまたはサードシート★に取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→P.51）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

● 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

● シートをいちばんうしろに下げる

シートの高さが調整できる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

● ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正

しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

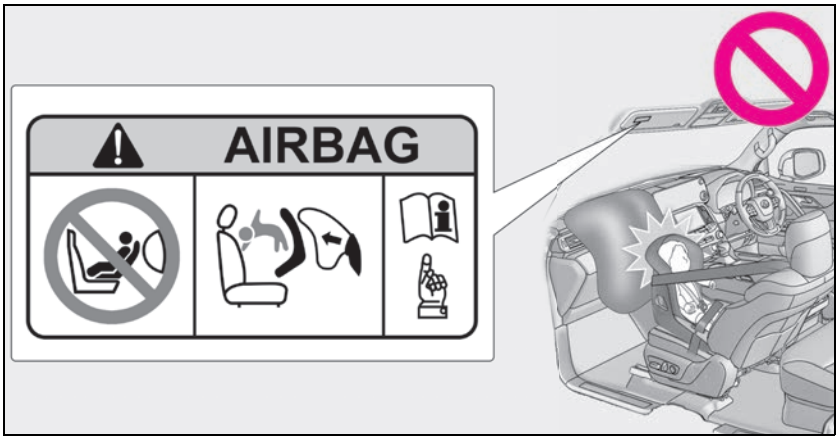
警告

■チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

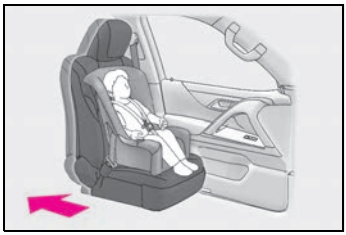
●やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

警告



警告

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

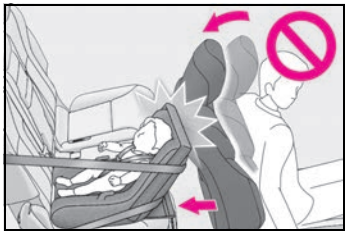


●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・サイドピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、セカンドシートまたはサードシート★に取り付けてください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のセカンドシートに取り付けてください。



●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

●セカンドシートの中央席★にチャイルドシートを取り付けるときは、セカンドシートの位置と背もたれの角度をあわせてください。セカンドシートの位置や背もたれも角度が違うとチャイルドシートを正しく取り付けられず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●サードシート★にチャイルドシートを取り付けるときは、セカンドシートとチャイルドシートが干渉しないようにセカンドシートを調整してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.52）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。
また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。
推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→P.55）
次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

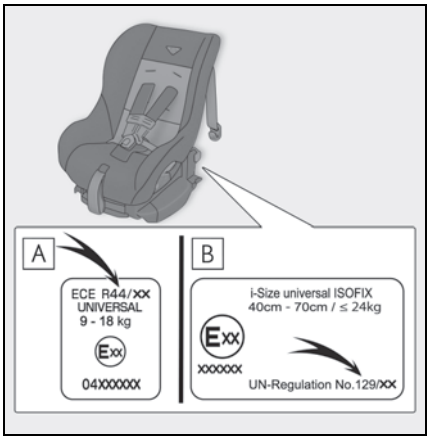
■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

UN（ECE）R44※1 または、UN（ECE）R129※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。

適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。

チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



法規番号の表示例

A UN（ECE）R44 認可マーク ※2

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

B UN（ECE）R129 認可マーク ※2

対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載されています。

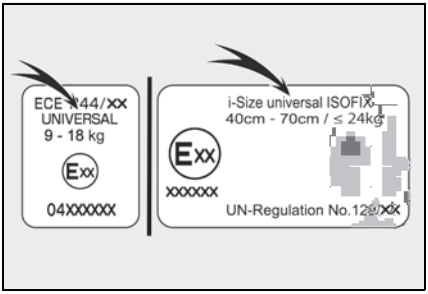
2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取り扱い説明書を確認いただくか、または販売業者へ確認してください。

- ユニバーサル「universal（汎用）」
- セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
- リストリクティッド「restricted（限定）」
- ビークルスペシフィック「vehicle

specific（特定車両）」

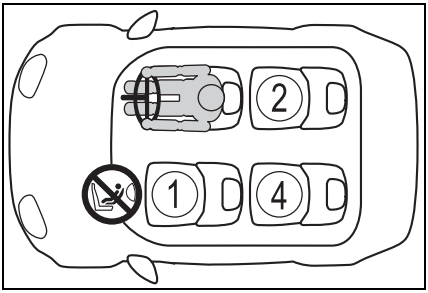


※1UN（ECE）R44、UN（ECE）R129は、チャイルドシートに関する国連法規です。

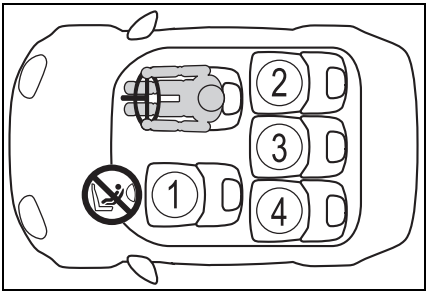
※2表示されているマークは、商品により異なります。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性

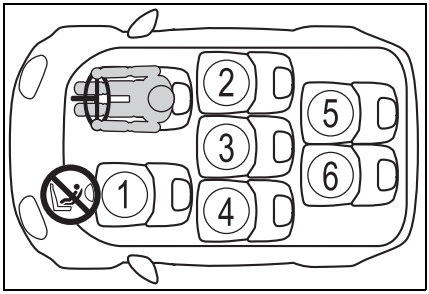
▶ 4 人乗り車



▶ 5 人乗り車



▶ 7 人乗り車



1 ※1, 2, 3	UF ※4
2 ※2, 3	U L
3 ※2, 3	U
4 ※2, 3	U L
5 ※2, 3	U
6 ※2, 3	U

車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取り付けるユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→P.55）に記載されたチャイルドシートに適しています。

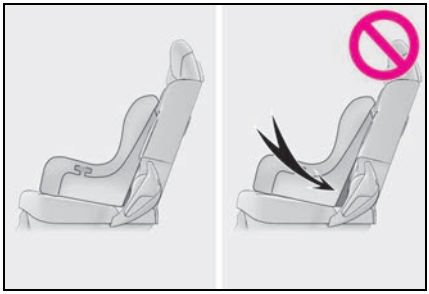
i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。

トップテザーアンカレッジが装備されています。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置						
シート位置の番号	①	②	③	④	⑤	⑥
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無）	有 前向きのみ	有	有	有	有	有
アイサイズ着座位置（有／無）	無	有	無	有	無	無
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1 ／ L2）	×	×	×	×	×	×

着座位置						
シート位置の番号	①	②	③	④	⑤	⑥
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1 ／ R2X ／ R2 ／ R3）	×	R1, R2X, R2, R3	×	R1※, R2X※, R2※, R3※	×	×
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X ／ F2 ／ F3）	×	F2X, F2, F3	×	F2X, F2, F3	×	×
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 ／ B3）	×	B2, B3	×	B2, B3	×	×

※ 助手席の前後調整スイッチを操作して、助手席をいちばん前に調整してください。（4 人乗り車のみ）

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。
「治具」の種類は、次の表を確認ください。
チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

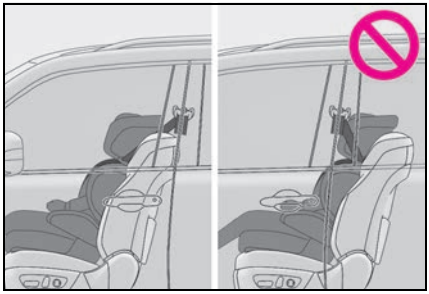
治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

推奨チャイルドシート	適応範囲	搭載する向き	着座位置					
			①	②	③	④	⑤	⑥
レクサス純正 NEO G-Child i-Size	身長：～ 83cm（体重：～ 13kg）	後向き	×	○	×	○	×	×
	月齢 15 か月以上かつ、身長：76 ～ 100cm（体重：～ 18kg）	前向き	×	○	×	○	×	×
レクサス純正 NEO G-Child Junior	身長：100 ～ 150cm（体重：15 ～ 36kg）	前向きのみ	×	○	×	○	×	×

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

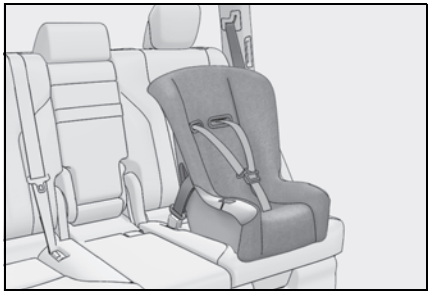
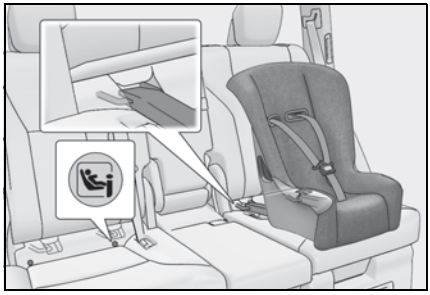
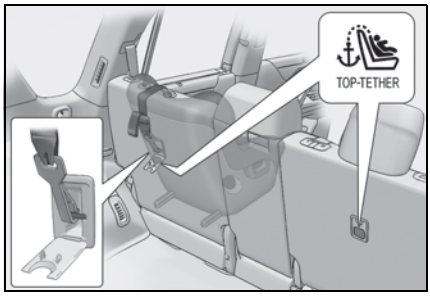
- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートの取り付けについては、チャイルドシートに付属の取り扱い説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P.56
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P.58
テザーベルトを固定する		P.60

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

（→P.51, 52）

1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→P.48）

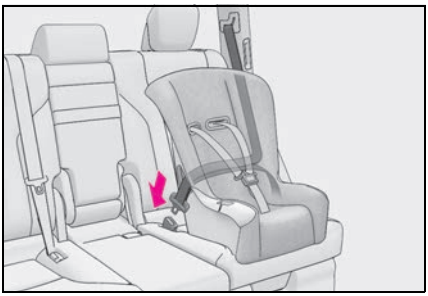
2 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるとき：
背もたれとチャイルドシートのあいだにすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.147）

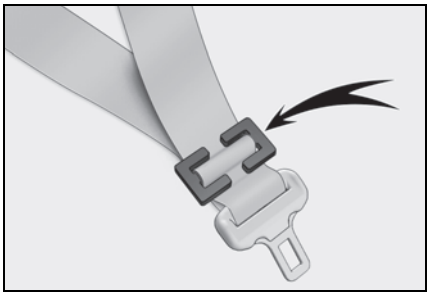
4 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



5 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、レクサス販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



6 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→P.58）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。
チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

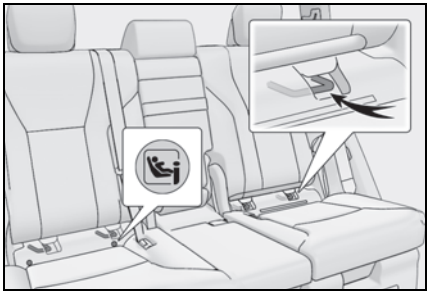
- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

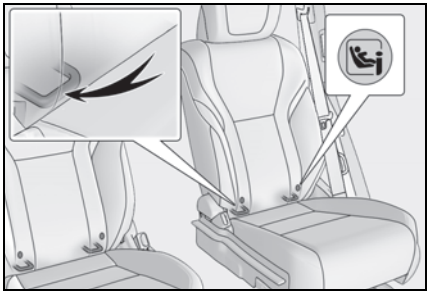
▶ 5 人乗り車／ 7 人乗り車

この車はセカンドシート外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。（ロアアンカレッジが装備されていることを示すマークがシートに付いています）



▶ 4 人乗り車

この車はセカンドシートに ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。（ロアアンカレッジが装備されていることを示すマークがシートに付いています）



■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.51, 52）

1 背もたれを可能な限り起こす

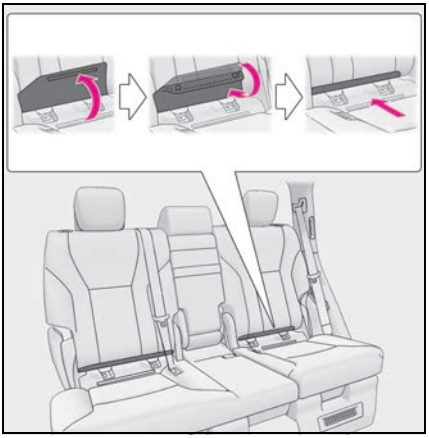
前向きにチャイルドシートを取り付けるとき：背もたれとチャイルドシートのあ

いだにすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.147）

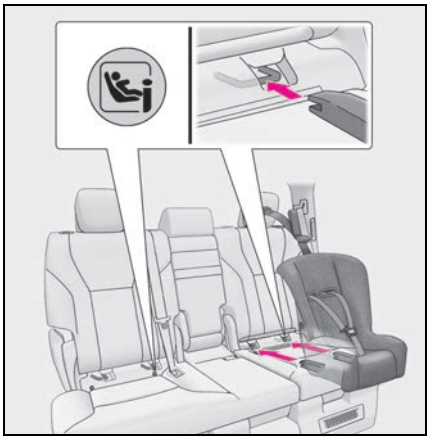
3 5人乗り車／7人乗り車：カバーをめくる

めくったカバーをシートクッションと背もたれのあいだに挿し込んでください。



4 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってください。



5 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→P.58）

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

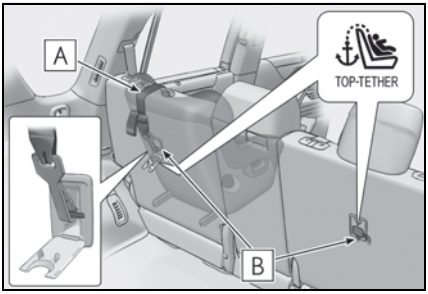
トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

▶ 5 人乗り車／ 7 人乗り車

この車はセカンドシート外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



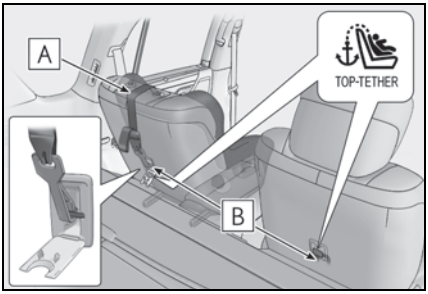
A テザーベルト

B トップテザーアンカレッジ

▶ 4 人乗り車

この車はセカンドシートにトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



A テザーベルト

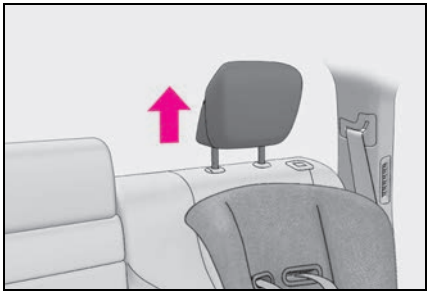
B トップテザーアンカレッジ

■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 ヘッドレストを上げる

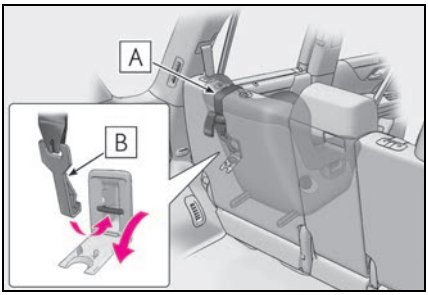
ヘッドレストとチャイルドシートまたはテザーベルトが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。（→P.147）



2 フタを開けて、トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。（→P.58）
ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してくだ

さい。



A テザーベルト

B フック

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外にかけないでください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

注意

■トップテザーアンカレッジについて

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

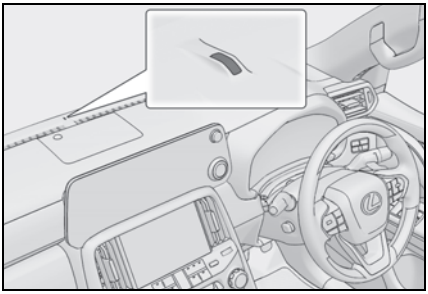
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには

エンジンスイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチを ACC または ON にするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

●キーが金属製のものに接したり、覆われているとき

●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。
オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはバックドアが、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- 施錠時にボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動く物体を検知したとき（侵入者がガラスを割るなどして車内に乗り込んだとき）
- 傾斜センサーが車内の傾きを検知したとき
- リヤクォーターガラスやリヤウインドウガラスが割られたとき
- バッテリーがはずされたとき
- バッテリーが再接続されたとき

G-Link サービス をご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合、ご登録のメールアドレスや専用のスマートフォンアプリ「My LEXUS（アプリ）」へお知らせすることができます。G-Link については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

オートアラームを設定／解除／停止する

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

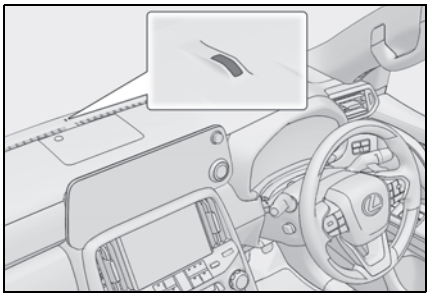
- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームを設定するには

全ドア・ボンネットを閉め、すべてのドアを施錠※ します。30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。

※ メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームはセットされません。



■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンを使ってドアを解錠する
- エンジンスイッチを ACC または ON にするか、エンジンを始動す

る（数秒後に解除・停止します）

知識

■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■G-Link（ご契約のお客様のみ）

●うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れ、ムーンルーフの閉め忘れなどを、ご登録のメールアドレスやスマートフォンアプリ「My LEXUS（アプリ）」へお知らせすることができます。

うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー＆スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

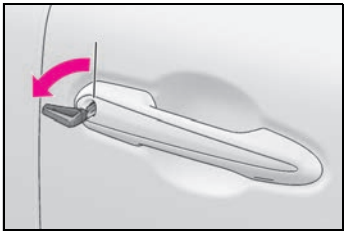
●リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどをスマートフォンアプリで確認できます。

詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。

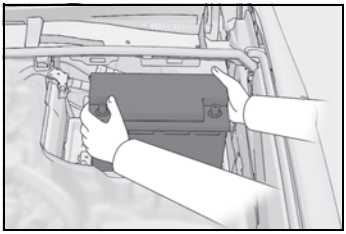
●メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき



●車内に残った人が、ドア・バックドア・ボンネットを開けたり、ドアロックスイッチで解錠したとき

●施錠後、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電や交換をしたとき（→P.569）

●施錠後、バッテリーを取りはずしたとき



■オートアラーム作動によるドアロック機能

次のとき、自動的にドアが施錠されることがあります。

●車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき

●オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき

●バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■カスタマイズ機能

メカニカルキーを使って解錠したとき、オートアラームが作動しないよう、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.583）

注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

侵入・傾斜センサー

■ 侵入・傾斜センサーの検知について

● 侵入センサーは、車内に入り込んだ侵入者の動きを超音波で検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って乗り込んだ侵入者なども検知できます。

● 傾斜センサーは、車の傾きの変化を検知するセンサーです。けん引などで車が盗難される場合などを検知します。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入・傾きの変化に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

■ 侵入・傾斜センサーを設定するには

オートアラームを設定すると、自動でセットされます。（→P.63）

■ 侵入・傾斜センサーの作動を停止するには

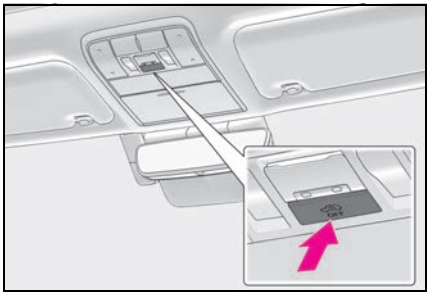
車内で動くすべてのものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入・傾斜センサーを停止してからアラームを設定してください。

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 侵入・傾斜センサー OFF スイッチを押す

もう一度スイッチを押すと、侵入・傾斜センサーは再びセットされます。

侵入・傾斜センサーを OFF ／ ON するたびに、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



知識

■侵入・傾斜センサーの作動・停止について

●侵入・傾斜センサーを停止しても、オートアラームは作動します。

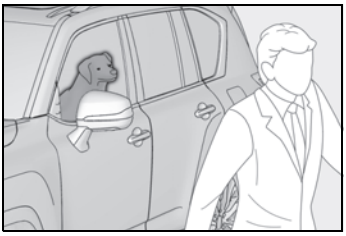
●侵入・傾斜センサーを停止したあとにエンジンスイッチを押すか、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレス機能による解錠操作を行うと、侵入・傾斜センサーが復帰します。

●オートアラームの設定を解除するたびに侵入・傾斜センサーは復帰します。

■侵入センサーについて

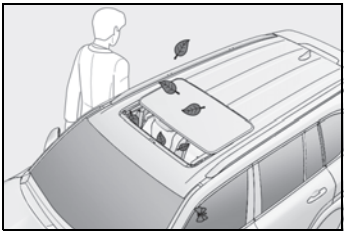
次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

●車内に乗員やペットなどを残して車両から離れる場合

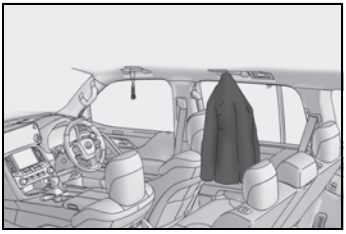


●ドアガラスやムーンルーフなどが開いている場合、次のものを検知することがあります。

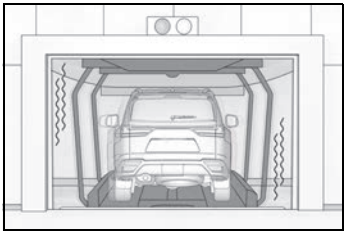
・室内に入った落ち葉・虫・風など
・他車の侵入センサーなどが発する超音波
・室外の歩行者の動き



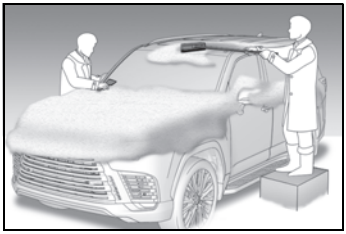
●マスコットやアクセサリーをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にある場合



●立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車したとき



●雪かきやガラスに付着した氷を削り落とす際に、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき



●高圧洗車機や自動洗車機などを使うとき

●ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき

■傾斜センサーについて

次のような場合、傾斜センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、傾斜センサーを停止してからアラームを設定してください。

●フェリー・トレーラー・列車などで運搬するとき

●立体駐車場に駐車したとき

●車両移動をともなう洗車機を使用するとき

●タイヤ空気圧が少ないとき

●ジャッキアップするとき

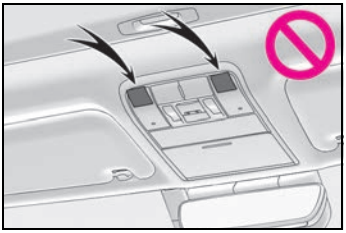
●地震や路面陥没が起きたとき

●ルーフキャリアにスキー板やスノーボード等を積んだり、荷降ろしするとき

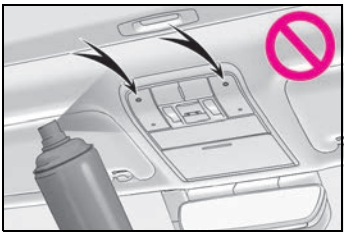
注意

■侵入センサーを正しく作動させるために

●センサーの穴はふさがないようにしてください。



●センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴霧しないでください。



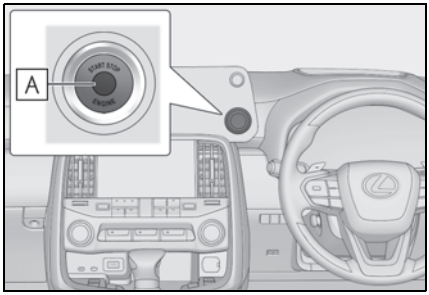
●運転席と助手席のシートのあいだに、レクサス純正品以外のアクセサリーを装着したりものを放置したりすると、検知性能が低下することがあります。

●電子キーが車両の近くにある場合、侵入センサーの作動を停止することがあります。

指紋認証システム

指紋認証システムとは、車両に登録された指紋情報とエンジンスイッチ上の指紋センサーにふれた指で指紋認証を行い、認証に成功しないとエンジンを始動することができないシステムです。

指紋情報の登録・消去については別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



A 指紋センサー

知識

■指紋認証システムについて

●納車時は指紋情報が未登録です。未登録の状態でもスマートエントリー＆スタートシステムとしてエンジンを始動することができます。

●指紋認証結果の一致だけではエンジンスイッチのモードの切りかえやエンジンの始動をすることはできません。必ず電子キーを携帯する必要があります。

●指紋認証はマイセッティング機能の認証デバイスとして使用されます。(→P.173)

■指紋情報の登録について

●指紋情報を登録するときは、エンジンの始動を行う姿勢で指紋センサにくり

返しタッチしてください。

●指紋情報を登録するときは、エンジンを始動するときに使用する指で複数回タッチする必要があります。指のあてる位置を少しずつかえながら、広い範囲をタッチしてください。

●指紋情報を初めて登録すると、自動的に指紋認証システムが ON になります。指紋認証システムの ON/OFF は、マルチメディア画面で確認することができます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

●指紋センサーにタッチするときは、指がセンサーの全面にかかるようにしてください。指先や指の側面で押すと認証できないことがあります。

●タッチ操作はゆっくり行ってください。速すぎたり、強すぎたり、スライドしながらさわると、正常に認識できないことがあります。

●指紋センサーをくり返しタッチする場合、タッチからタッチまでの時間を約 1 秒あけてください。素早くタッチをくり返すと認証失敗の原因となります。

■指紋登録注意事項

本システムで利用する指紋情報は、セキュリティ機能およびマイセッティング機能で活用しています。指紋情報はエンジンスイッチ内にのみ暗号化した上で保存されており、指紋認証によるエンジンの始動許可やその他車両各種機能（シートやミラーポジションの自動調整等）以外での用途では使用いたしません。また、指紋情報が第三者へ開示、または提供されることはありません。保存された指紋情報はお客様の意思で消去することが可能です。

指紋情報の取り扱いについて、以下の項目を同意いただいた上でご利用ください。

●指紋認証システムは完全な本人認証、照合、識別を保証するものではありません。指紋認証を使用されたこと、または使用できなかったことによって生じるいかなる損害に関しても、レクサスでは一切責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

●本システムは指紋の特徴を認証に利用するものです。このため、指紋の特徴が少ないお客様は指紋情報登録ができない、もしくは指紋情報を登録できたお客様でも認証率が悪い場合があります。そのような場合、指紋認証システムを OFF にしてください。

●指紋認証システムの認証性能はお客様の使用状況によって異なります。指が汚れていたり、ぬれていたり、乾燥や怪我など、指の状態によっては指紋の読取りが困難になったり、認証性能が低下する原因となります。

●指紋情報の登録失敗や指紋認証失敗が頻発する場合は、指紋センサー表面を清掃、または指紋情報を登録し直してください。

●エンジンスイッチに登録した指紋情報を移行することはできません。指紋情報の消去、または部品交換した場合は指紋情報を再度登録する必要があります。

●指紋認証システムの故障診断を行う際に指紋情報を登録済みのお客様を特定できない場合は、レクサス販売店により指紋情報を消去する場合があります。

●消去された指紋情報を復元することはできません。再度、指紋情報の登録を行う必要があります。

●エンジンスイッチの交換をするときは、指紋情報を原則消去します。故障等により指紋情報を消去できない場合は、指紋情報が記憶された状態での部品回収、またはお客様へご返却があることをご了承ください。

●部品回収した場合、故障解析の目的以

外での利用はありません。

●お客様へご返却した場合、エンジンスイッチにはお客様の個人情報が記憶されています。管理には十分にご注意ください。

●車両を売却、譲渡、廃棄等する場合は必ず事前に指紋情報を消去してください。指紋情報が記憶されたまま、売却、譲渡、廃棄等された場合に生じるいかなる損害に関しても、レクサスでは一切責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

■指紋センサーのお手入れについて

指紋センサーの表面を掃除するときは、糸くずの出ないやわらかい布で乾拭きしてください。

■カスタマイズ機能

指紋認証システムの ON/OFF を切りかえることができます。（カスタマイズ一覧：→P.584）

指紋認証システムの ON/OFF を切りかえるには、以下のことにご注意ください。

●指紋情報を 1 本以上登録する必要があります。

●指紋情報を登録済みのお客様による指紋認証の成功かつエンジンスイッチを ON にする必要があります。

●指紋認証に成功しない場合でも、電子キーをエンジンスイッチにふれてエンジンスイッチを ON にしたあと、指紋認証システムの ON/OFF をマルチメディア画面で切りかえることができます。（→P.568）

●指紋認証システムを OFF にすると、エンジンスイッチを OFF にしたとき、マルチインフォメーションディスプレイに指紋認証システムが OFF になっていることを示すメッセージが 10 日間表示されます。

注意

エンジンスイッチの故障を防ぐために、次のことをお守りください。

●強い衝撃を与えたり、本体の取り外し、分解、改造はしないでください。故障および破損の原因となります。

●指紋センサーの表面をペン先など先の尖ったものでつついたり、ひっかいたりしないでください。指紋センサーの表面に傷が付く原因となります。

●長時間の使用によりゴミがたまることがありますが、その場合でも先の尖ったもので取り除かないでください。

●指紋センサーの表面やタッチ操作する指先に水滴や汚れが付着した場合は、指紋認証失敗の原因となります。

●指紋センサーの表面にシールを貼ったり、インクで塗りつぶしたりしないでください。

●指紋センサーの表面は定期的に清掃してください。ほこりや皮脂などの汚れ、汗などが指紋センサーの表面に付着、または結露が発生すると不作動の原因となります。

●故障および破損の原因となるもの（ほこりや砂、染料、インク、石鹸、洗剤、酸や酸性の食品、油、ローションなど）が付着した場合、すぐに指紋センサーをきれいに掃除してください。

●ガラスクリーナー、スプレー式の液体クリーナー、溶剤、アンモニアなどの洗浄剤や、ワックス、サンドペーパーなどの研磨剤の利用は避けてください。故障および破損の原因となります。

走行に関する情報表示

2

2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯..... 72
計器類 78
マルチインフォメーションディスプレイ 84
ヘッドアップディスプレイ 86
ディスプレイの表示内容 89

警告灯／表示灯

メーター・ドアミラーの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

メーターの警告灯／表示灯

▶ タイプ 1

実際の表示内容は、イラストと異なる場合があります。

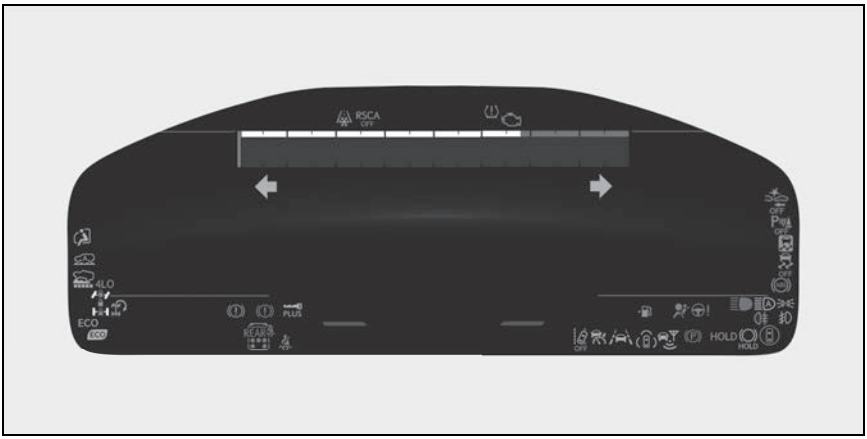
▶ タイプ 2

実際の表示内容は、イラストと異なる場合があります。

▶ タイプ 3（F SPORT 以外）

実際の表示内容は、イラストと異なる場合があります。

▶ タイプ 3（F SPORT）



実際の表示内容は、イラストと異なる場合があります。

警告灯一覧

システム異常などを警告します。

（赤色）

ブレーキ警告灯 ※1
（→P.538）

（黄色）

ブレーキ警告灯 ※1
（→P.538）

充電警告灯 ※2 （→P.538）

油圧警告灯 ※2 （→P.538）

高水温警告灯 ※2 （→P.539）

エンジン警告灯 ※1
（→P.539）

SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ※1（→P.539）

ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 ※1（→P.539）

パワーステアリング警告灯 ※1（→P.539）
（赤色）

パワーステアリング警告灯 ※1（→P.539）
（黄色）

PCS 警告灯 ※1（→P.540）

LTA 表示灯 （→P.540）
（黄色）

LDA 表示灯（→P.540）
（黄色）

PDA 表示灯（→P.540）
（黄色）

クルーズコントロール表示灯（→P.540）
（黄色）

レーダークルーズコントロール表示灯（→P.541）
（黄色）

運転支援情報表示灯 ※1（→P.541）

クリアランスソナー OFF 表示灯 ※1（→P.541）

ペダル誤操作警告灯 ※2（→P.542）

スリップ表示灯 ※1（→P.542）

L4 作動表示灯（→P.542）
（点滅）

フロントデフロック作動表示灯★（→P.542）
（点滅）

センターデフロック作動表示灯（→P.543）
（点滅）

リヤデフロック作動表示灯★（→P.543）
（点滅）

パーキングブレーキ表示灯（→P.543）
（点滅）

ブレーキホールド作動表示灯 ※1（→P.543）
（点滅）

燃料残量警告灯（→P.543）

タイヤ空気圧警告灯 ※1（→P.544）

運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（→P.544）

リヤ席シートベルト非着用警告灯（→P.544）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 作動確認のためにエンジンスイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。
レクサス販売店で点検を受けてください。

※2 メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンスイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→P.197）

尾灯表示灯（→P.204）

ハイビーム表示灯（→P.207, 210, 212）

AHS 表示灯（→P.208）

AHB 表示灯（→P.211）

フロントフォグランプ表示灯（→P.213）

リヤフォグランプ表示灯（→P.213）

PCS 警告灯 ※1, 2（→P.234）

（白色）
LTA 表示灯（→P.243）

（緑色）
LTA 表示灯（→P.243）

（黄色点滅）
LTA 表示灯（→P.243）

（緑色）
LDA 表示灯（→P.250）

（黄色点滅）
LDA 表示灯（→P.250）

（黄色）
LDA OFF 表示灯 ※2（→P.250）

（白色）
PDA 表示灯（→P.255）

（緑色）
PDA 表示灯（→P.255）

（緑色）
クルーズコントロール表示灯（→P.276）

（白色）
クルーズコントロール表示灯（→P.276）

（緑色）
レーダークルーズコントロール表示灯（→P.267）

（白色）
レーダークルーズコントロール表示灯（→P.267）

運転支援情報表示灯 ※1, 2（→P.292, 308, 318, 323, 327）

ドアミラーインジケーター ※3（→P.292, 308, 318）

クリアランスソナー OFF 表示灯 ※1, 2（→P.312）

クリアランスソナー検知表示灯★（→P.312）

エコドライブインジケーターランプ ※1（→P.91）

（点滅）
スリップ表示灯 ※1
（→P.431）

OFF
VSC OFF 表示灯 ※1, 2
（→P.431）

ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯 ※1
（→P.421）

ターンアシスト表示灯
（→P.413）

クロールコントロール表示灯 ※1（→P.413）

乗降モード表示灯 ※1
（→P.402）

4LO
L4 作動表示灯（→P.407）

フロントデフロック作動表示灯★（→P.410）

センターデフロック作動表示灯（→P.408）

リヤデフロック作動表示灯★
（→P.412）

パーキングブレーキ表示灯
（→P.197）

HOLD
ブレーキホールドスタンバイ表示灯 ※1（→P.201）

HOLD
ブレーキホールド作動表示灯 ※1（→P.201）

RSCA OFF
RSCA OFF 表示灯 ※1, 2
（→P.44）

スマートエントリー＆スタートシステム表示灯 ※4
（→P.188）

低温表示灯 ※5（→P.82）

ITS Connect アイコン
（→P.286）

ITS Connect アイコン
（→P.286）

ITS Connect アイコン
（→P.286）

PLUS
プラスサポート表示灯★
（→P.423）

制動灯表示灯
（→P.77）

ECO
エコドライブモード表示灯
（→P.398）

COMFORT
コンフォートモード表示灯
（→P.398）

SPORT S
スポーツ S モード表示灯
（→P.398）

SPORT S+
スポーツ S+ モード表示灯
（→P.398）

CUSTOM
カスタムモード表示灯
（→P.398）

AUTO モード表示灯
（→P.418）

DIRT モード表示灯
（→P.418）

SAND モード表示灯
（→P.418）

MUD モード表示灯
（→P.418）

DEEP SNOW モード表示灯
（→P.418）

ROCK モード表示灯
（→P.418）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 作動確認のためにエンジンスイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはエンジンを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。
レクサス販売店で点検を受けてください。

※2 システムが OFF のときに点灯します。

※3ドアミラーに表示されます。

※4メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※5外気温が約 3 ℃以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

知識

■クリアランスソナー OFF 表示灯について

クリアランスソナー検知表示灯がある車両（→P.72, 312）は、クリアランスソナー機能の ON ／ OFF の状態に関わらずシフトポジションを R にすると消灯します。

■制動灯表示灯について

ブレーキペダルの操作や運転支援システムの作動により、制動灯が点灯したときに点灯します。

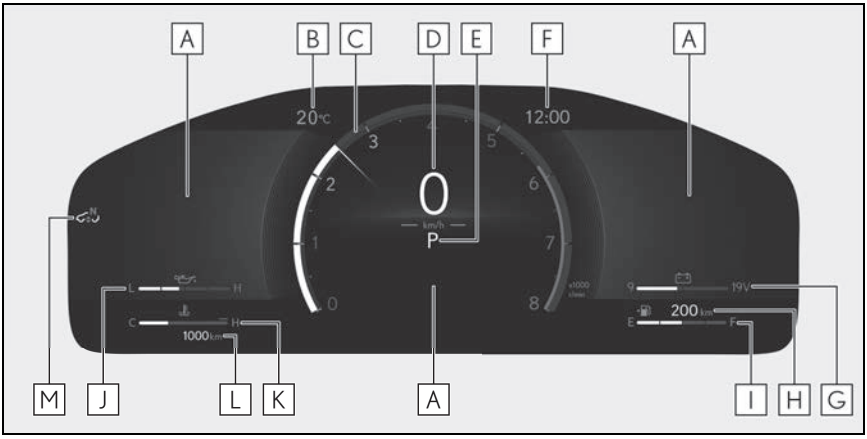
計器類

メーターの表示について

■ 計器類の位置

メーター表示のタイプを選択することができます。（→P.583）

▶ タイプ 1 ／タイプ 3（F SPORT 以外）



A マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→P.84）

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.547）

B 外気温（→P.82）

C タコメーター（タイプ 1 のみ）

毎分のエンジン回転数を示します。

D デジタルスピードメーター

車両の走行速度を示します。

E シフトポジション・ギヤ段表示

選択されているシフトポジションまたはギヤ段を表示します。（→P.193）

F 時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

G 電圧計

バッテリーの充電状態を示します。

H 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。（→P.82）

I 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油（約 10L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

J 油圧計

エンジンオイルの圧力を示します。

K 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

L オドメーター／トリップメーター

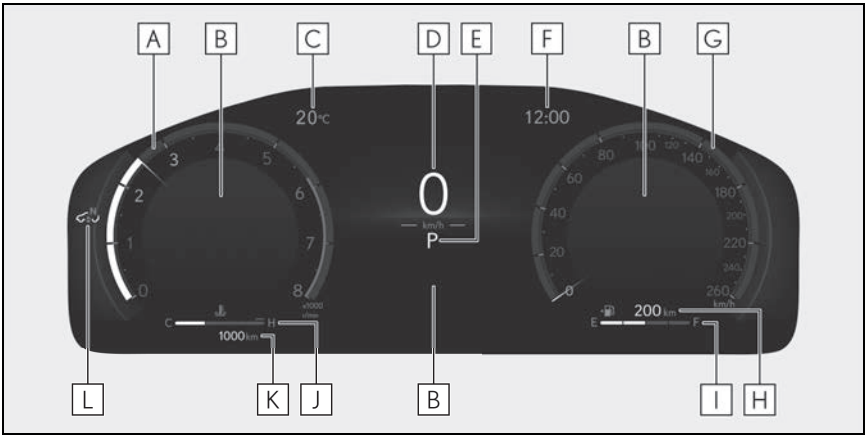
オドメーター：
走行した総距離を表示します。

トリップメーター：
リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A ／トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

M AHC 表示

AHC（アクティブハイトコントロール）のモードを表示します。（→P.400）

▶ タイプ 2



A タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

B マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→P.84）
車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.547）

C 外気温（→P.82）

D デジタルスピードメーター

車両の走行速度を示します。

E シフトポジション・ギヤ段表示

選択されているシフトポジションまたはギヤ段を表示します。（→P.193）

F 時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

G アナログスピードメーター

車両の走行速度を示します。

H 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。（→P.82）

I 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。
・ 少量給油（約 10L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

J 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

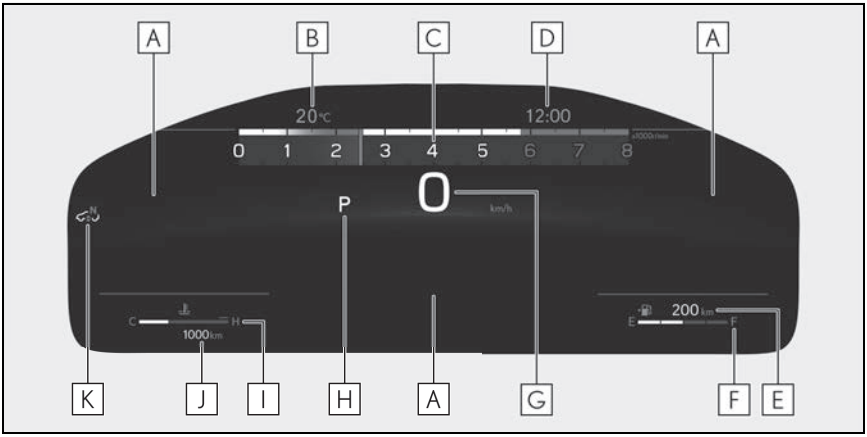
K オドメーター／トリップメーター

オドメーター：
走行した総距離を表示します。
トリップメーター：
リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A ／トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

L AHC 表示

AHC（アクティブハイトコントロール）のモードを表示します。（→P.400）

▶ タイプ 3（F SPORT）



A マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→P.84）

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.547）

B 外気温（→P.82）

C タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

D 時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

E 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。（→P.82）

F 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油（約 10L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

G デジタルスピードメーター

車両の走行速度を示します。

H シフトポジション・ギヤ段表示

選択されているシフトポジションまたはギヤ段を表示します。（→P.193）

I 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

J オドメーター／トリップメーター

オドメーター：
走行した総距離を表示します。
トリップメーター：
リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A ／トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

K AHC 表示

AHC（アクティブハイトコントロール）のモードを表示します。（→P.400）

知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■航続可能距離について

- 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。
- 燃料給油量が少量（約 10L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→P.82）
- “給油してください” と表示されたときは、燃料残量が少ないため、航続可能距離の計算ができません。その場合は、すみやかに給油してください。

■燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

1 車両を平坦な場所に停車させる
2 ODO TRIP スイッチ（→P.83）を押してオドメーター／トリップメーターの表示をオドメーター表示に切りかえる
3 エンジンスイッチを OFF にする
4 ODO TRIP スイッチを押したまま、エンジンスイッチを ON にする
5 そのまま約 5 秒間 ODO TRIP スイッチを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■外気温度表示について

- 外気温度を－ 40 ℃～ 60 ℃のあいだで表示します。
- 外気温度が約 3 ℃以下のときは、外気温表示の上に が点滅し、そのあと点灯します。
- 次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
  - ・停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
  - ・外気温度が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “--” または “E” が表示されたときは、システム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用して

も問題ありません。

警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばギヤ段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにギヤ段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

●タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

●水温計の表示が H のレッドゾーンに入ったときや、マルチインフォメーションディスプレイに “エンジン冷却水高温　安全な場所に停車して取扱書を確認してください” が表示されたときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P.573）

■電圧計について

エンジン回転中に電圧計が 19V 以上、または 9V 以下を示すときは、バッテリーや充電系統の異常が考えられますのでレクサス販売店で点検を受けてください。

■油圧計について

エンジン回転中に油圧計の値が低下したときは、ただちに安全な場所に停車し、エンジンオイル量を点検してください。点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

エンジンオイルが減っていないのに油圧が低下する、またはオイルを補給しても油圧が上昇しないときは、潤滑系統の異常が考えられるため、レクサス販売店にご連絡ください。

ODO TRIP スイッチの操作について

■ 表示項目

● オドメーター

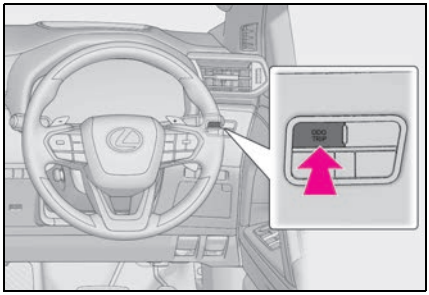
走行した総距離を表示します。

● トリップメーター A ／トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

■ 表示の切りかえ

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中にスイッチを押し続けると、走行距離を 0 にすることができます。



知識

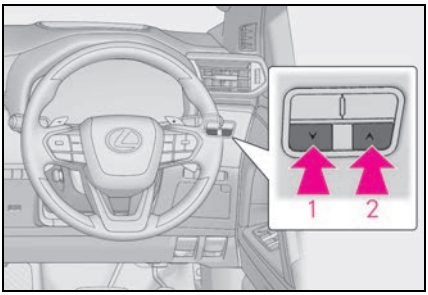
■音声操作システムでのオドメーター／トリップメーター操作について★

音声対話サービスを使用して、オドメーター・トリップメーターの表示を切りかえることができます。音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

インストルメントパネル照明の明るさを調整するには

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。



1 暗くする

2 明るくする

知識

■メーター照度調整について

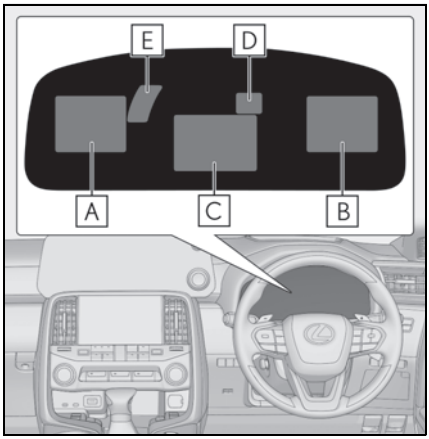
周囲が明るいとき（昼間など）と暗いとき（夜間など）それぞれの明るさのレベルを調節することができます。

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、燃費に関する情報や、走行に関する各種の情報などを表示します。

ディスプレイの表示

マルチインフォメーションディスプレイの各エリアには、次の情報が表示されます。



A コンテンツ表示エリア（左）

B コンテンツ表示エリア（右）

C コンテンツ表示エリア（中央）

D 運転支援システム情報表示エリア

コンテンツ表示エリアで運転支援システム情報を選択している場合は、表示されません。

E RSA（ロードサインアシスト）表示エリア（→P.264）

■ **コンテンツ表示エリア（中央）**

● ブランク（→P.93）

● 運転支援システム情報（→P.91）

● 地図表示（→P.91）

■ **コンテンツ表示エリア（左／右）**

● ブランク（→P.93）

● 燃費グラフ（→P.90）

● エコドライブインジケーター（→P.91）

● 運転支援システム情報（→P.91）

● ナビゲーションシステム連携表示（→P.91）

● オーディオシステム連携表示（→P.92）

● ドライブインフォメーション（→P.92）

● 油圧計／電圧計（→P.92）

● 油温計／トランスミッションフルード温度計（→P.92）

● ターボゲージ（→P.93）

知識

■ **マルチインフォメーションディスプレイの作動条件**

エンジンスイッチが ON のとき

■ **液晶ディスプレイについて**

→P.82

■ **走行モードを切りかえたとき**

選択したモードに従って、マルチインフォメーションディスプレイの背景色が変化します。（→P.398）

警告

■ **運転中の使用について**

● マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。

● マルチインフォメーションディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

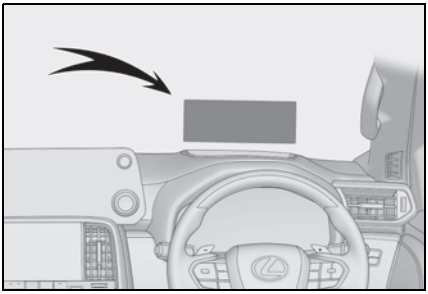
■ **低温時の画面表示について**

→P.83

ヘッドアップディスプレイ

ヘッドアップディスプレイは、フロントウインドウガラスに運転支援システムの作動状況や走行に関するさまざまな情報を表示することができます。

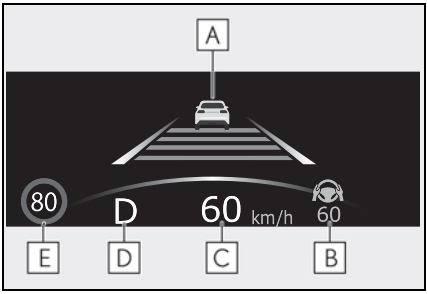
ディスプレイの表示



ヘッドアップディスプレイ表示のタイプを変更することができます。（→P.88）

表示内容は、走行状況・走行モードやヘッドアップディスプレイの表示モードによって異なります。また、状況に応じて割り込み表示されます。

■ **フル**



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

A 運転支援システム表示エリア（→P.91）／ナビゲーションシステム連携表示エリア／タコメーター表示エリア（→P.89）

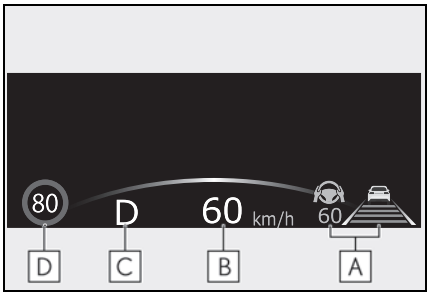
B 運転支援システム表示エリア（→P.91）

C スピードメーター

D シフトポジション・ギヤ段表示（→P.193）

E RSA（ロードサインアシスト）表示エリア（→P.264）

■ **スタンダード**



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

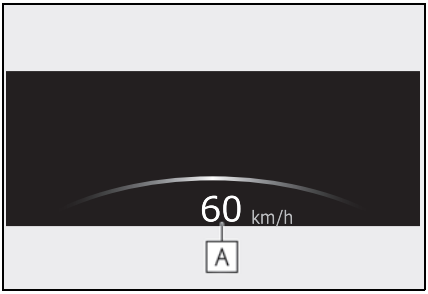
A 運転支援システム表示エリア（→P.91）

B スピードメーター

C シフトポジション・ギヤ段表示（→P.193）

D RSA（ロードサインアシスト）表示エリア（→P.264）

■ ミニマム



A スピードメーター

知識

■ヘッドアップディスプレイの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ヘッドアップディスプレイを使用するときは

サングラス（特に偏光サングラス）を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

■交差点名表示について

地図データに情報がない場合など、状況によっては交差点名称が表示されない場合があります。

■レーン（車線）表示について

地図データに情報のない交差点では、レーン表示は行われません。また、交差点によっては、レーン表示と実際の交差点形状が異なる場合があります。現場の標識、道路形状に従ってください。（レーン情報のある交差点の手前 300m 以内にレーン情報のない交差点がある場合、道路形状が工事等で変更になった場合など）

警告

■ヘッドアップディスプレイを使用するときは

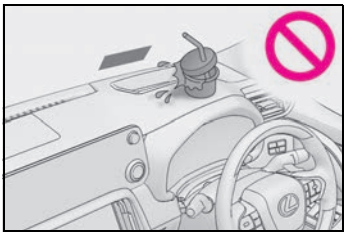
●映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。
調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ヘッドアップディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

注意

■ヘッドアップディスプレイ映写部について

●映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。



●映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。
ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。

●映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。
装置が故障する原因となります。

ヘッドアップディスプレイの使い方

■ ヘッドアップディスプレイの設定

1 マルチメディア画面の⚙を選択する

2 “車両カスタマイズ” を選択する

3 “ヘッドアップディスプレイ” を選択する

次の設定を変更することができます。(→P.583)

● ヘッドアップディスプレイの表示／非表示

ヘッドアップディスプレイの表示／非表示を切りかえることができます。

● 表示タイプ

ヘッドアップディスプレイ表示のタイプ(→P.86)を変更することができます。

● 表示の明るさ／上下位置

表示の明るさや、上下の位置を調整することができます。

● 表示の傾き

表示の傾きを調整することができます。

知識

■ヘッドアップディスプレイの表示／非表示について

ヘッドアップディスプレイを非表示にしたときは、エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、非表示のままです。

■表示の明るさについて

●明るさの設定に加えて、周囲の明るさに応じて表示の明るさが自動で調整されます。

●ヘッドアップディスプレイ周辺の温度が高温になると、ヘッドアップディスプレイの保護のため、表示の明るさが徐々に暗くなります。周辺の温度が下がると徐々にもとにもどります。

■ヘッドアップディスプレイ表示の自動調整

お好みのヘッドアップディスプレイ表示をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P.168)

■バッテリー端子の脱着をしたときは

ヘッドアップディスプレイの設定がリセットされます。

■音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して、ヘッドアップディスプレイの表示／非表示を切りかえることができます。音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

警告

■ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンが始動している状態で実施してください。

タコメーター表示エリア

■ タコメーター

毎分のエンジン回転数を表示します。

■ エコドライブインジケーター

エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。詳しくは、P.91を参照してください。

知識

■タコメーターの表示条件

次の条件をすべて満たしているときタコメーターが表示されます。

・ ヘッドアップディスプレイをフル表示（→P.86）しているとき

・ LTA（レーントレーシングアシスト）、LDA（レーンディパーチャーアラート）、レーダークルーズコントロールがOFF のとき

・ 走行モードがエコドライブモード以外のとき

■エコドライブインジケーターの表示条件

次の条件をすべて満たしているときエコドライブインジケーターが表示されます。

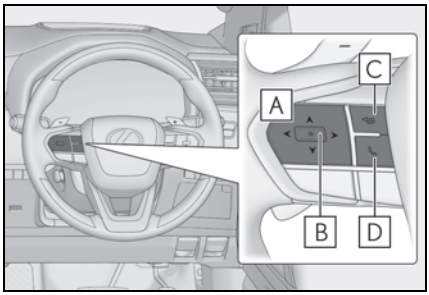
・ LTA（レーントレーシングアシスト）、LDA（レーンディパーチャーアラート）、レーダークルーズコントロールがOFF のとき

・ ヘッドアップディスプレイをフル表示（→P.86）しているとき

・ 走行モードがエコドライブモードのとき

ディスプレイの表示内容

構成部品／操作について



A ＜／＞：ページの切りかえ・カーソル移動

∧／∨：表示項目の切りかえ・ページ送り

B 短押し：決定

長押し：リセット・詳細項目表示・カーソル表示

C ひとつ前の画面にもどる

D 電話の発着信・履歴表示

ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムについて詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

走行に関する情報について

走行に関する情報は次のディスプレイに表示されます。

● マルチインフォメーションディスプレイ

● ヘッドアップディスプレイ

● マルチメディア画面

表示される項目は、ディスプレイに

よって異なります。

マルチインフォメーションディスプレイの表示を切りかえるには

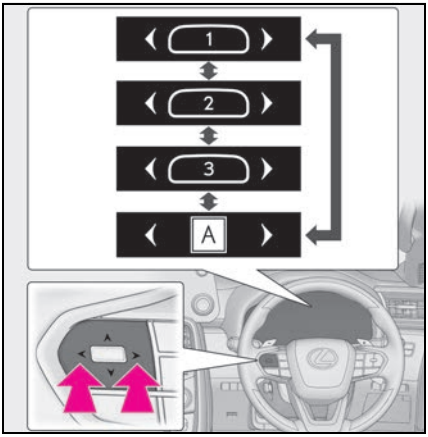
■ メーター表示タイプの切りかえ

マルチメディア画面の⚙から、メーター表示タイプを切りかえることができます。（→P.583）

■ ページの切りかえ

3 エリアのコンテンツ表示を、3 ページ分の組み合わせから選択することができます。

メーター操作スイッチの＜または＞を押してページを切りかえます。



A 警告メッセージ

非表示にした警告メッセージを確認することができます。

警告メッセージがない場合は表示されません。（→P.95）

■ コンテンツ表示項目の切りかえ

コンテンツ表示エリア（左／中央／右）の項目を切りかえることができます。

1 メーター操作スイッチの＜または＞を押してページを選択する

2 メーター操作スイッチのOKを長押しして、コンテンツ表示エリア（中央）にカーソルを表示させる

3 ＜または＞を押してカーソルを移動し、コンテンツ表示エリアを選択する

4 ∧または∨を押して表示項目を選択する

燃費グラフ

A 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

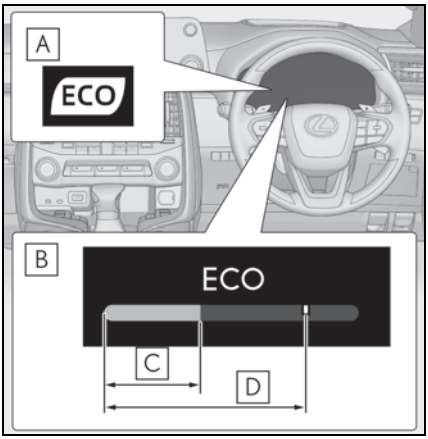
B リセット間平均燃費 ※

マルチメディア画面の燃費履歴画面で“履歴削除”を選択すると、燃費データがリセットされます。

※ 表示される燃費は参考として利用してください。

エコドライブインジケーター

■ エコドライブインジケーターの見方



A エコドライブインジケーターランプ

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

B エコドライブインジケーターゾーン表示

エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

C 現状のアクセル開度

現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点灯します。このとき、エコドライブインジケーターランプは消灯します。

D エコ運転の範囲

知識

■エコドライブインジケーターの作動条件

次の場合、エコドライブインジケーターの作動が停止します。

- シフトレバーが D 以外にあるとき
- 車速が約 130km/h 以上のとき

運転支援システム情報

次のシステムの作動状況を表示します。

- LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.243）
- LCA（レーンチェンジアシスト）（→P.247）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）（→P.250）
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）（→P.255）
- レーダークルーズコントロール（→P.267）
- クルーズコントロール（→P.276）

地図表示

ナビゲーションシステムと連携して、マルチインフォメーションディスプレイに地図情報を表示します。

ナビゲーションシステム連携表示について

マルチインフォメーションディスプレイに次の情報を表示します。

- 目的地案内

● レーン（車線）案内

交差点にさしかかったとき、車線・進行方向などのレーン情報が表示されます。

● コンパス

知識

■レーン表示について

地図データに情報のない交差点では、レーン表示は行われません。また交差点によっては、レーン表示と実際の交差点形状が異なる場合があります。現場の道路標識・表示や道路状況に従って走行してください。

オーディオシステム連携表示について

オーディオシステムの作動状況をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。

ドライブインフォメーション

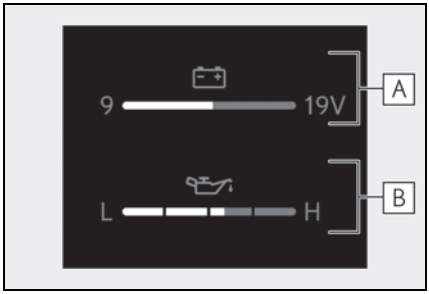
マルチインフォメーションディスプレイに次の情報を表示します。

表示される情報は、参考としてご利用ください。

・ 平均車速：リセット後の平均車速を表示
・ 走行時間：リセット後の経過時間を表示

電圧計／油圧計

マルチインフォメーションディスプレイに次の項目を表示できます。



A 電圧計

バッテリーの充電状態を示します。

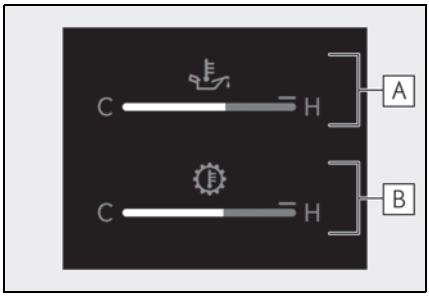
B 油圧計

エンジン内部の油圧を表示します。油圧が低下すると、ブザーが鳴り、警告メッセージを表示します。（→P.538）

表示画面については路面状況、気温、車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。表示画面は参考として利用してください。

油温計／トランスミッションフルード温度計

マルチインフォメーションディスプレイに次の項目を表示できます。



A 油温計

エンジンオイルの温度を表示します。エンジン油温が 140 ℃以上になると、表示が点滅します。

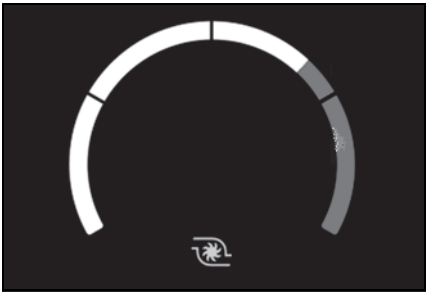
B トランスミッションフルード温度

計

トランスミッションフルードの温度を表示します。

ターボゲージ

マルチインフォメーションディスプレイに過給圧を表示します。



表示画面については路面状況、気温、車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。表示画面は参考として利用してください。

ブランク（非表示）

マルチインフォメーションディスプレイにブランク画面を表示します。

タイヤ空気圧

タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をマルチメディア画面に表示できます。

■ マルチメディア画面にタイヤ空気圧を表示させるには

1 メインメニューの を選択する

2 “タイヤ空気圧” を選択する

知識

■タイヤ空気圧表示について

→P.510

瞬間燃費／燃費履歴画面

燃費に関する情報をマルチメディア画面に表示します。

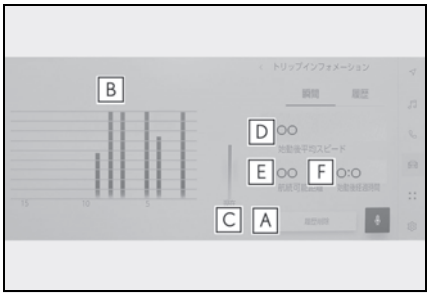
■ マルチメディア画面に瞬間燃費／燃費履歴画面を表示させるには

1 メインメニューの を選択する

2 “トリップインフォメーション” を選択する

3 “瞬間” または “履歴” を選択する

■ 瞬間燃費画面



A 履歴消去

B 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

C 瞬間燃費

D エンジン始動後平均車速

E 航続可能距離

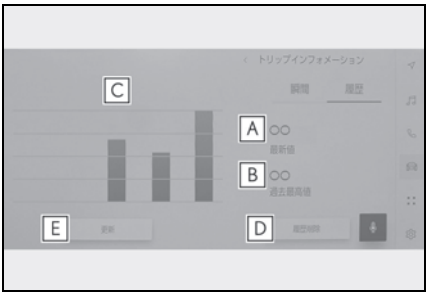
F エンジン始動後経過時間

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずか

に異なる場合があります。

■ 燃費履歴画面



A 最新値表示

B 過去最高値表示

C 過去平均燃費表示

D 履歴削除

E 最新値更新

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

知識

■過去の区間平均燃費の記録を更新するには

燃費履歴画面で “ 更新 ” を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■燃費データをリセットするには

“ 履歴削除 ” を選択すると、燃費データがリセットされます。

■航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

優先的に表示される情報

状況に応じて、マルチインフォメーションディスプレイやヘッドアップディスプレイに割り込み表示されます。

割り込み表示される項目によっては、一部の表示エリアが非表示になります。割り込み表示終了後、もとの表示にもどります。

■ 運転支援システム

状況に応じて、次のシステムの警告・注意喚起・通知・作動状況を割り込み表示します。

- レーダークルーズコントロール
- クルーズコントロール
- LTA（レーントレーシングアシスト）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）
- LCA（レーンチェンジアシスト）
- RSA（ロードサインアシスト）
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- 安心降車アシスト
- FCTA（フロントクロストラフィックアラート）
- 発進遅れ告知機能
- 後方車両接近告知
- 後方車両への接近警報
- 周辺車両接近時サポート
- ITS Connect
- ドライバー異常時対応システム

■ 警告メッセージ

状況に応じて、警告メッセージが割り込み表示されます。

警告メッセージは機能切りかえスイッチを長押しすることで非表示にすることができます。（→P.89）

■ ハンズフリー作動表示

ハンズフリーの作動中に表示されます。

■ 提案サービス機能

状況に応じて運転者に提案メッセージを表示する機能です。提案メッセージが表示されたときにハンドル上のスイッチを操作することで、提案された内容を直接操作することができます。

● ヘッドランプ消灯提案

エンジンスイッチを OFF にしたあとにヘッドランプを点灯したまましばらく車内にいると、ヘッドランプの消灯を提案するメッセージを表示します。

● パワーバックドア機能の ON 切りかえ提案

パワーバックドアメインスイッチが OFF（マルチメディア画面でパワーバックドアの機能を OFF に設定しているとき）の状態で運転席のパワーバックドアスイッチを操作したときに、メインスイッチを ON に変更する提案メッセージを表示します。

● 窓閉め提案（ワイパー連動）

雨が車内に入ることを防ぐために、ドアガラスが開いている状態でワイパーが動き始めるとドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。

このとき “YES” を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

● 窓閉め提案（高速走行時）

ドアガラスが開いている状態で一定以上の車速になると、ドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。

このとき “YES” を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

■ ステアリングスイッチ操作表示

ハンドル上のオーディオ操作スイッチを使用したときに、オーディオ操作の表示がされます。

■ ナビゲーションシステム連携情報

状況に応じて、ナビゲーションシステムと連携した次の項目を表示します。

● 目的地案内

● レーン（車線）案内

交差点にさしかかったとき、車線・進行方向などのレーン情報が表示されます。

エンジンスイッチを OFF にしたときに表示される項目

エンジンスイッチを OFF にしたときに、マルチインフォメーションディスプレイに次の項目を表示します。

● 始動後走行距離 ※

● 始動後走行時間 ※

● 始動後平均燃費 ※

※ エンジンを始動するたびに、表示がリセットされます。

運転する前に 3

3-1. キー

キー 98

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア（フロントドア・リヤドア） 103

バックドア 109

スマートエントリー＆スタートシステム 124

3-3. シートの調整

フロントシート..... 130

リヤシート（5 人乗り車／ 7 人乗り車）..... 135

リヤシート（4 人乗り車）..... 143

ヘッドレスト 147

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル 150

デジタルインナーミラー 151

ドアミラー 159

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉

パワーウインドウ..... 162

ムーンルーフ 165

3-6. お好み設定

パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能 168

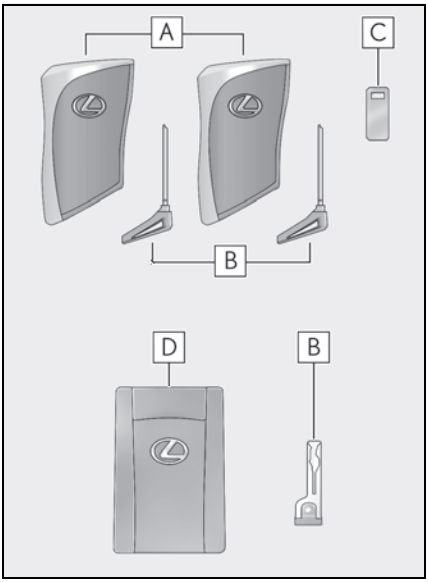
リヤシートポジションメモリー（4 人乗り車）..... 172

マイセッティング..... 173

キー

キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。



A 電子キー

・スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P.124）
・ワイヤレス機能の作動（→P.101）

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

D カードキー★

スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P.124）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■カードキー★について

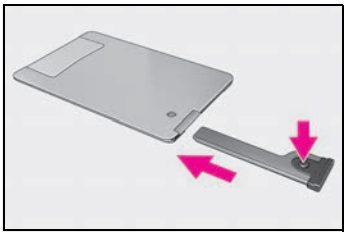
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●カードキーは非防水です。

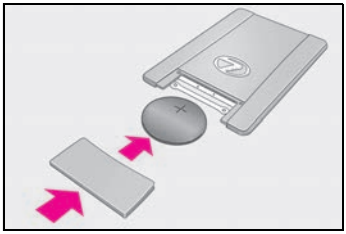
●カードキーに内蔵されているメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。

●メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などでロック解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。

●メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、ロック解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。



●電池カバーがはずれたときやぬれたときに電池をはずした場合は、電池の＋極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。



■航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。（カードキーは 1 ～ 1 年半で消耗します）

●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。

●長期間使用しない電子キーは、節電モードにすることで電池の消耗を抑えることができます。（→P.125）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池はお客様自身で交換することができます（→P.520）が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、レクサス販売店での交換をおすすめします。

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを保管しないでください。

・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

●スマートエントリー＆スタートシステムによる操作をしなくても、車両周辺に長時間いると、電池の消耗は早くなります。操作をしない場合は、車両周辺に長時間いないことをおすすめします。

●電池の消耗を抑えるため、車両周辺に長時間いるときは、降車オートロック機能を一時的に非作動にすることをおすすめします。（→P.104）

■電子キーの状態や、エンジンスイッチのモードに関するメッセージが表示されたとき

車内への電子キーの閉じ込みや、同乗者による電子キーの持ち出し、電源の切り忘れなどを防止するため、電子キーやエンジンスイッチなどの状態の確認をうながすメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されることがあります。その場合は、表示内容に従ってすみやかに対処してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “ キーの電池残量が少なくなっています 電池を交換してください ” が表示されたとき

電子キーの電池残量が少なくなっています。新しい電池と交換してください。（→P.520）

■電池の交換方法

→P.520

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはレクサス販売店へご相談ください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “ 新しいキーが登録されました 詳しくは販売店に問い合わせください ” と表示されたときは

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが 10 日ほど続きます。電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをレクサス販売店で確認してください。

■電子キーの取り扱いについて

JP

電子キーは電波法の認証に適合しています。
必ず以下のことをお守り下さい。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用下さい。

00

本製品は電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

・本製品を不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

・必ず日本国内でご使用ください。

・技適マークと認可番号はケースを取り外した際、確認が可能です。

本製品は電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。
・本製品を不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

・必ず日本国内でご使用ください。

注意

■キーの故障を防ぐために

●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない

●湿度の高いところに長時間放置しない

●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない

●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない

●分解しない

●電子キー表面にシールなどを貼らない

●テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない

●電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身に付けたまま治療を受けない

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

→P.568

■電子キーを紛失したとき

→P.567

注意

■カードキー★の取り扱いについて

●メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。

●電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が腐食するおそれがあります。
水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分をふき取ってください（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください）。電池が腐食した場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。

●電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。
無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷を付けたりするおそれがあります。

●電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。

●電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。

●次のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷を付けたり塗装がはがれたりするおそれがあります。

・小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき

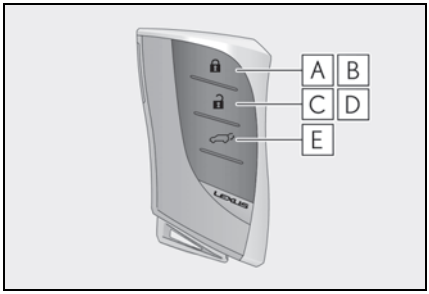
・シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき

・シンナーやベンジンでカードキーの表面をふいたとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が搭載されています。



A 全ドアを施錠する（→P.103）

B ドアガラスとムーンルーフを閉める※（→P.103）

C 全ドアを解錠する（→P.103）

D ドアガラスとムーンルーフを開く※（→P.103）

E パワーバックドアを開閉する（→P.111）

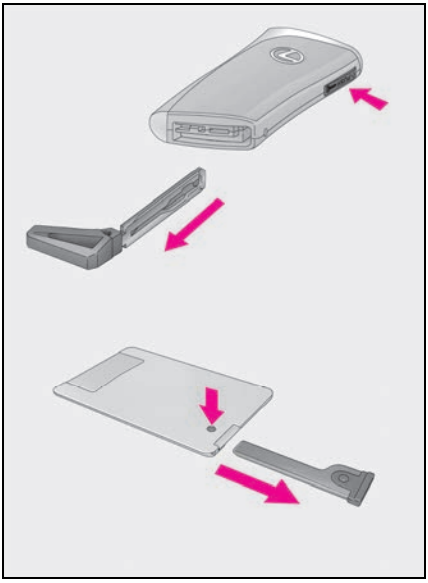
※レクサス販売店での設定変更が必要です。

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください。

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P.567）



知識

■駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じてグローブボックスを施錠（→P.471）します。メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

指紋認証システムがONの場合に、エンジンを始動するには、ブレーキペダルを踏みながらキーでエンジンスイッチにふれてから、エンジンスイッチを押してください。（→P.568）

■メカニカルキーを紛失したとき

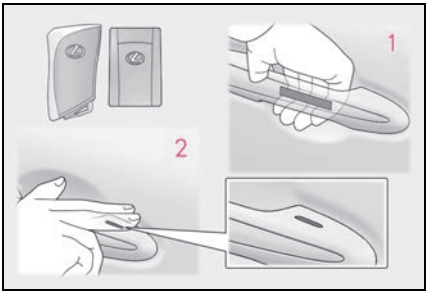
→P.567

ドア（フロントドア・リヤドア）

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 ドアハンドルを握って解錠する

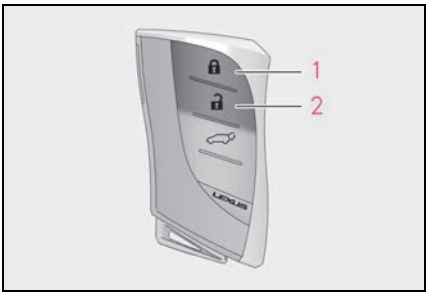
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 ドアハンドル上側、または下側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスとムーンルーフが閉まります。※

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスとムーンルーフが開きます。※

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

知識

■降車オートロック機能 ※

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

次の手順で車から離れることで、自動で施錠することができます。

1 電子キーを携帯して降車し、すべてのドアを閉める

車内に電子キーがあると施錠できません。車内にあるすべての電子キーを携帯してください。

2 電子キーの作動範囲内（→P.125）でブザーが“ピピッ”と鳴るまで待機する

降車オートロック待機状態になります。

3 降車オートロック待機状態になったら、電子キーの作動範囲から離れる

すべてのドアが施錠され、作動の合図でお知らせします。（→P.105）

約 1 分間電子キーの作動範囲から離れなかったときは、警告ブザーが鳴り、降車オートロック待機状態が解除されます。この場合は、ドアを開閉することで降車オートロック待機状態にもどります。

■パワーバックドア閉作動中降車オートロック機能

パワーバックドアの閉作動中 ※1 にも、降車オートロック機能の手順ですべてのドアを施錠することができます。※2

※1 バックドアハンドルを使用したときは、機能は作動しません。

※2 レクサス販売店での設定変更が必要で

す。

■降車オートロック機能を一時的に非作動にするには

降車オートロック待機状態のときに電子キーを携帯し、ブザーが“ピッピー”と鳴るまでドアハンドルを握り続けることで、降車オートロック機能を非作動にすることができます。

降車オートロック機能を一時的に非作動にした場合、次の操作のあとドアを開閉することで作動可能状態にもどります。

● ドアを施錠・解錠する

● エンジンを始動する

■接近時オートアンロック機能※

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

次の条件を満たしているときに、電子キーの作動範囲内に電子キーがあるとドアを解錠することができます。

● すべてのドアが閉まっている

● すべてのドアが施錠されている

■接近時オートアンロック機能を一時的に非作動にするには

すべてのドアが閉まっている状態のときに電子キーを携帯し、ブザーが“ピッピー”と鳴るまでドアハンドル表面のロックセンサー部にふれ続けることで、接近時オートアンロック機能を非作動にすることができます。

接近時オートアンロック機能を一時的に非作動にした場合、エンジンを始動することで作動可能状態にもどります。

■解錠するドアを切りかえるには

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。切りかえ操作は、車内または車から約 1m 以内の範囲で実施してください。

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 オートアラームの侵入・傾斜センサーを停止する（操作中のオートアラーム誤作動防止）（→P.65）

3 キー表面のインジケーターが消灯しているときに ボタンと同時に、 ボタンまたは ボタンのいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。（続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 **3** を行ってください）

マルチインフォメーションディスプレイ表示／ブザー音	解錠できるドア
 車外：“ピピッ”（3 回）	運転席側のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠
	運転席以外のドアハンドルを握ると全席解錠
 車外：“ピピッ”（2 回）	いずれかのドアハンドルを握ると全席解錠

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。

（ ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます）

オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。（→P.63）

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

ドアガラスとムーンルーフの開閉をブザーで知らせます。

■解錠操作のセキュリティ機能

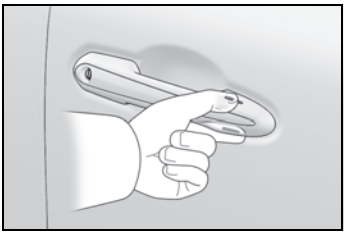
解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。

■ドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル上側のロックセンサー部にふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■半ドア警告ブザー

次のような場合、半ドア警告ブザーが鳴ります。すべてのドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

●スマートエントリー＆スタートシステムで施錠操作をしたときに、施錠しようとしたドア以外のドアが開いていた

●ワイヤレス機能で施錠操作をしたときに、いずれかのドアが開いていた

■オートアラームの設定制御

施錠するとオートアラームが設定されます。（→P.63）

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのあるとき

→P.126

■スマートエントリー＆ スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

●メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→P.568）

●電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→P.520）

■バッテリーがあがったとき

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することはできません。メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。（→P.568）

■リヤシートリマインダー機能

リヤシートへの荷物の置き忘れなどを防止するため、次の操作を行ってからエンジンスイッチを OFF にするとブザーが鳴り、約 6 秒間マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

また、ドアを施錠したときにマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブザーと非常点滅灯が数秒作動します。

エンジンスイッチを OFF にしてからリヤドアを開けた場合は、ドアを施錠してもリヤシートリマインダー機能は作動しません。

●リヤドアを開閉したあと約 10 分以内にエンジンを始動した

●エンジンがかかっている状態でリヤドアを開閉した

ただし、リヤドアを開けてから約 2 秒以内にリヤドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しません。

リヤシートリマインダー機能は、リヤドアの開閉によりリヤシートに荷物などを載せたと判断します。そのため、使い方によってはリヤシートに荷物を置き忘れていてもリヤシートリマインダー機能が作動しないなど、実際の状況とは異なる作動をする場合があります。

■カスタマイズ機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.583）

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●すべてのドアを確実に閉め、施錠する

●走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
特に、運転席はドアロックボタンが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

●お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

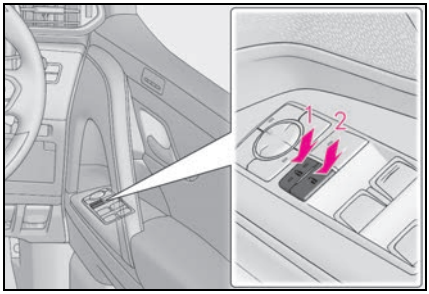
傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスやムーンルーフを操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

車内から解錠／施錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する

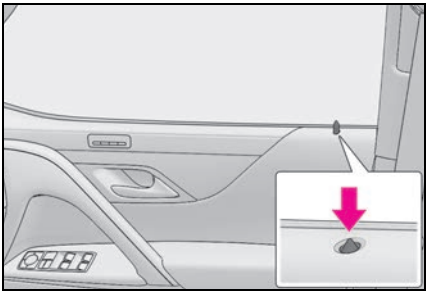


1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

■ ドアロックボタンを使って施錠する

ドアロックボタンを押し下げて、ドアを施錠する



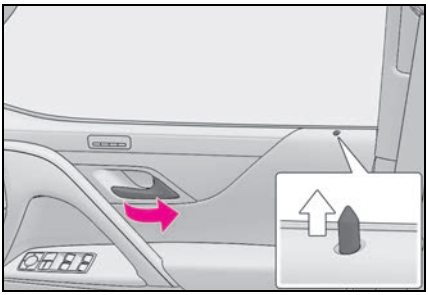
■ ドアハンドルを使って解錠する

運転席ドア：ドアハンドルを引くとドアが解錠され、ドアが開きます。

ドアが解錠されると、ドアロックボタンが上がります。

運転席以外のドア：ドアハンドルを引くとドアが解錠され、再度ドアハンドルを引くとドアが開きます。

ドアが解錠されると、ドアロックボタンが上がります。



知識

■キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき

1 ドアロックボタンを押し下げる（→P.106）

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

エンジンスイッチが ACC または ON のときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。電子キーの位置によっては、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

■イージークローザー

ドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。

●エンジンスイッチが OFF になっていても、イージークローザーは作動します。

●車内のドアハンドルや車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーは作動しません。

●イージークローザーが作動中でも、車内のドアハンドルや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。（ドアロックボタンやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く）

●イージークローザーでドアが閉まったあと数秒間モーター音が聞こえますが、異常ではありません。

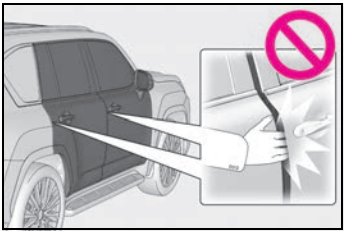
■半ドア走行時警告ブザー

全ドアまたはボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴り、開いているドアまたはボンネットがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

警告

■**イージークローザーについて**

ドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き完全に自動で閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをドアのあいだに挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。チャイルドプロテクターが施錠側になっているドアは、車内のドアハンドルを引いてもイージークローザーの作動を停止できないため、特にご注意ください。



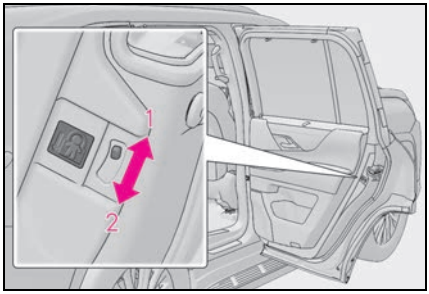
注意

■**イージークローザーの故障を防ぐために**

ひんぱんにドアの開閉をくり返したり、イージークローザーの作動中にドアに無理な力をかけたりしないでください。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。



1 解錠

2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

知識

■**チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方**

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P.583 を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	エンジンが作動中にシフトレバーをPから動かすと全ドアが施錠されます。

機能	作動内容
シフト操作連動アンロック	シフトレバーをPに入れると全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	エンジンスイッチをOFFにしてから約45秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開閉することができます。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

●走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の留意事項

●走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

●傾斜が急な場所で半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。
必ずバックドアが静止していることを確認して使用してください。

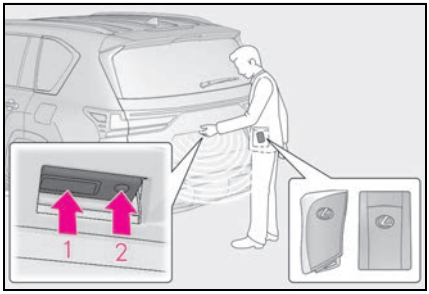
●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

●スピンドルユニット（→P.121）を持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、スピンドルユニットが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 全ドアを解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する

→P.101

知識

■作動の合図

→P.105

■解錠操作のセキュリティ機能

→P.105

車内から解錠／施錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する

→P.106

バックドアを開閉するには

■ ワイヤレス機能を使用して開閉する

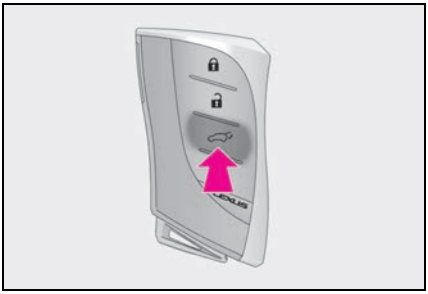
スイッチを約 1 秒押し続ける

ブザーが鳴りバックドアが自動で開閉します。

バックドアを解錠※してから操作してください。

※カスタマイズ機能により、施錠時からでも作動できるように設定できます。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度スイッチを約 1 秒間押し続けると、バックドアは反転作動します。



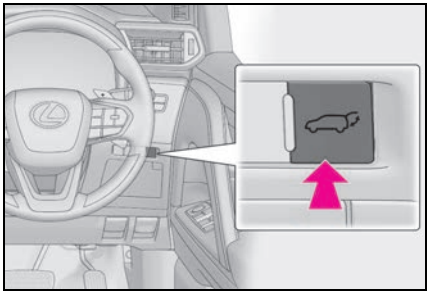
■ 車内からスイッチ操作で開閉する

スイッチを約 1 秒押し続ける

ブザーが鳴りバックドアが自動で開閉します。

バックドアを解錠してから操作してください。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度スイッチを約 1 秒間押し続けると、バックドアは反転作動します。



■ バックドアのスイッチを使用して開閉する

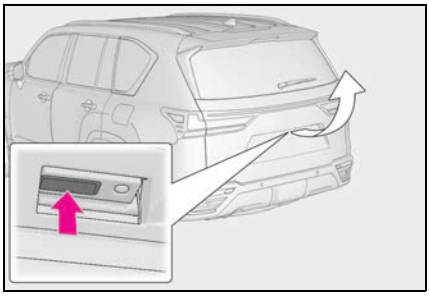
● 開ける

バックドア解錠時：バックドアオープンスイッチを押す

バックドア施錠時：電子キーを携帯して、バックドアオープンスイッチを押し続ける

ブザーが鳴りバックドアが自動で開きます。

バックドアが開く途中でスイッチを押すと、作動が停止します。



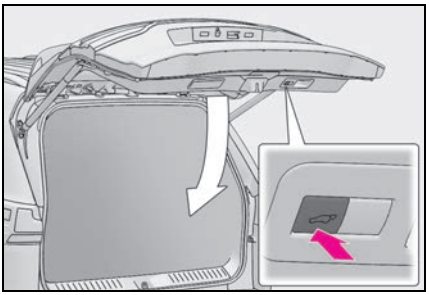
● 閉じる

バックドア下部のスイッチを押す

ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まります。

バックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、作動が停止します。作動が

停止した状態から再度スイッチを押すと、バックドアは自動で開きます。

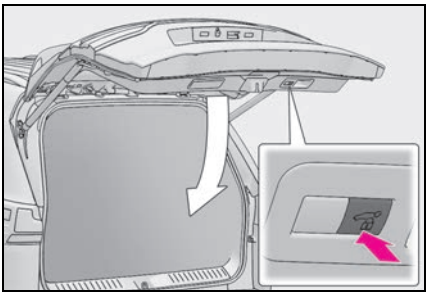


● バックドアを閉じたあと全ドアを施錠する（クローズ＆ロック機能）

バックドア以外のすべてのドアを閉じて、電子キーを携帯してバックドア下部のスイッチを押す

通常ブザーと異なるブザー音が鳴り、バックドアが自動で閉まります。バックドア以外のすべてのドアが施錠され、バックドアも閉まると同時に施錠されます。すべてのドアが閉まり施錠されると、作動の合図でお知らせします。

バックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度スイッチを押すと、バックドアは自動で閉まります。

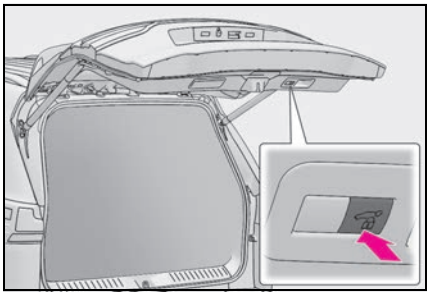


● バックドアから離れて閉じたあと全ドアを施錠する（クローズ＆ロック［ウォークアウェイ］機能）※

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

1 バックドア以外のすべてのドアを閉じて、電子キーを携帯してバックドア下部のスイッチを押す

通常ブザーとは異なるブザー音が断続的に鳴り、クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態になります。



2 ブザーが鳴っているあいだに、バックドアから十分に離れる

バックドアから離れたことを検知すると、作動の合図でお知らせします。

バックドアから離れる方向、電子キーの位置や持ち方、周囲の状況によって正しく検知できない場合があります。

バックドア以外のすべてのドアが施錠され、バックドアも閉まると同時に施錠されます。

すべてのドアが閉まり施錠されると、作動の合図でお知らせします。

約 30 秒間バックドアから離れなかったときは、待機状態が解除されます。

再度作動させるには、手順 **1** からやり直してください。

バックドアが閉作動中に電子キーを携帯してバックドアに近付くと作動が停止し、すべてのドアが解錠され、作動の合図でお知らせします。

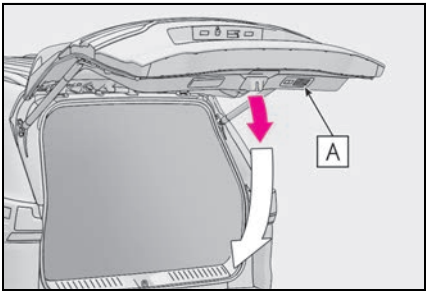
作動が停止した状態から再度 ス

イッチを押すと、再びクローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態になります。

■ バックドアハンドルを使用して閉じる

バックドアハンドル A を持ってバックドアを引き下げる

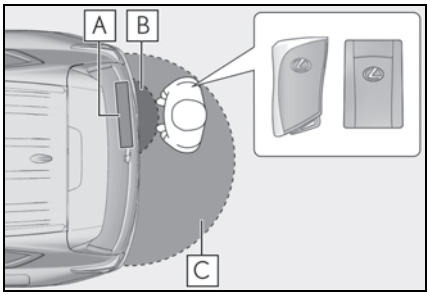
ブザーが鳴りバックドアクローズアシスト機能（→P.116）が作動し、バックドアが自動で閉まります。



■ キックセンサーを使用して開閉する（ハンズフリーパワーバックドア）

リヤバンパー運転席側の下部に足を近付けて離す動作をすることで、バックドアを自動で開閉することができます。キックセンサーを使用して開閉するときは、エンジンスイッチが OFF、かつハンズフリーパワーバックドアの作動が ON で、電子キーを携帯していることを確認してください。

1 電子キーを携帯し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動範囲内でリヤバンパーから約 30 ～ 50cm 離れた位置に立つ



A キックセンサー

B ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

C スマートエントリー＆スタートシステム作動検知エリア（→P.125）

2 足をリヤバンパーから約 10cm の距離になるまで近付けて、ブザーが 1 回鳴ったあと足を引く

足を近付けて引く動作を 1 秒以内に行ってください。

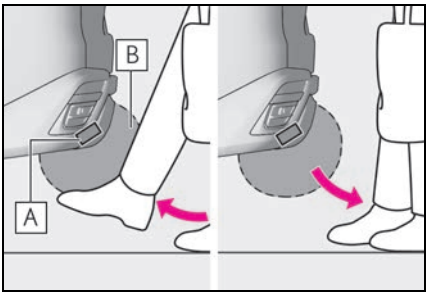
足先をリヤバンパーの下に入れたままでは作動しません。

リヤバンパーに足先をあてずに非接触で操作してください。

車室内またはラゲージルーム内に他の電子キーがあると、作動までの時間が少し長くなることがあります。

ブザーが 2 回鳴った場合は、再度足を近

付けて引く動作を行ってください。



A キックセンサー

B ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

3 足を引く動作をセンサーが検知するとブザーが鳴り、その後バックドアが自動で全開・全閉します。

バックドアの開閉作動中に再度操作をすると、作動を停止します。

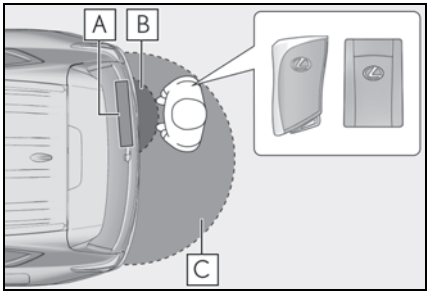
作動が停止した状態から再度操作をすると、バックドアは反転作動します。

■ キックセンサーを使用してバックドアから離れたあとに閉じて施錠する（ハンズフリークローズ＆ロック［ウォークアウェイ］機能）※

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

リヤバンパー運転席側の下部に足を近付けて離す動作をし、バックドアから十分に離れることで、バックドアを自動で閉じたあと全ドアを施錠することができます。キックセンサーを使用するときは、エンジンスイッチが OFF、かつキックセンサーの作動が ON で、電子キーを携帯していることを確認してください。

1 電子キーを携帯し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動範囲内でリヤバンパーから約 30 ～ 50cm 離れた位置に立つ



A キックセンサー

B ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

C スマートエントリー＆スタートシステム作動検知エリア（→P.125）

2 足をリヤバンパーから約 10cm の距離になるまで近付けて、ブザーが 1 回鳴ったあと足を引く

足を近付けて引く動作を 1 秒以内に行ってください。

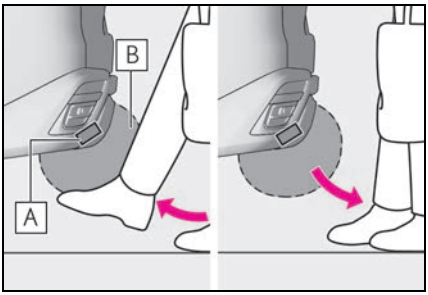
足先をリヤバンパーの下に入れたままでは作動しません。

リヤバンパーに足先をあてずに非接触で操作してください。

車室内またはラゲージルーム内に他の電子キーがあると、作動までの時間が少し長くなることがあります。

ブザーが 2 回鳴った場合は、再度足を近

付けて引く動作を行ってください。



A キックセンサー

B ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

3 足を引く動作をセンサーが検知すると、通常ブザーとは異なるブザー音が鳴りハンズフリークローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態になります。

4 ブザーが鳴っているあいだに、バックドアから十分に離れる

バックドアから離れたことを検知すると、作動の合図でお知らせします。バックドアから離れる方向、電子キーの位置や持ち方、周囲の状況によって正しく検知できない場合があります。

バックドア以外のすべてのドアが施錠され、バックドアも閉まると同時に施錠されます。すべてのドアが閉まり施錠されると、作動の合図でお知らせします。

約 30 秒間バックドアから離れなかったときは、待機状態が解除されます。再度作動させるには、手順 **1** からやり直してください。

バックドアが閉まる途中で電子キーを携帯してバックドアに近付くと作動が停止し、すべてのドアが解錠され、作動の合図でお知らせします。作動が停止した状態から再度ハンズフリーパワーバックドアを作動させると、バックドアは自動で閉まります。

知識

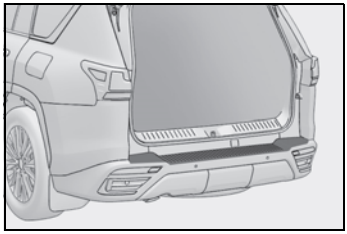
■ラゲージルームランプ

●バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

●エンジンスイッチが OFF の場合、ラゲージルームランプが点灯したままのときは、約 10 分後に自動消灯します。

■リヤバンパー

リヤバンパー上部に過度の力がかかると変形したり破損したりするおそれがあります。



■バックドアイージークローザー

バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが作動し、バックドアが自動で完全に閉まります。

エンジンスイッチがどの状態であっても、バックドアイージークローザーは作動します。

■パワーバックドアの作動条件

次の作動条件を満たしているときに作動します。

●パワーバックドアの作動が ON のとき

●バックドアが解錠されているとき

ただし電子キーを携帯してバックドアオープンスイッチを押し続けたときはバックドアが施錠されていてもパワーバックドアは作動します。（→P.111）

●エンジンスイッチが ON のとき開作動するには、上記に加え、車速が約 3km/h 未満で次のいずれかの条件を満たす必要があります。

・パーキングブレーキがかかっている
・ブレーキペダルを踏んでいる
・シフトレバーが P の位置にある

■パワーバックドアの作動について

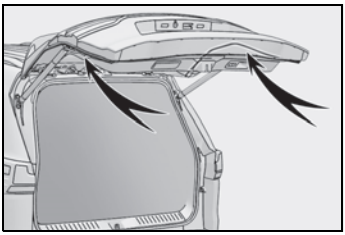
●作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が 2 回点滅します。

●パワーバックドアの作動が OFF のときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。

●パワーバックドアが自動で開いているときに、人や異物などにより異常を感知すると、作動が停止します。

■挟み込み防止機能

パワーバックドアの左右端部には、センサーが付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に少し動き、作動が停止します。



■落下防止機構

バックドアが自動で開くときに無理な力がかかると、バックドアが急激に落下しないようにブレーキをかけます。

■バックドアクローズアシスト機能

バックドアが開いているときに手動でバックドアを下げると、バックドアクローズアシスト機能が作動し、自動で全閉します。

■予約ドアロック機能について

パワーバックドアの自動閉作動中に、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。

次の操作をすると、パワーバックドア以外のすべてのドアが施錠され、パワーバックドアも閉まると同時に施錠されます。

1 バックドア以外のすべてのドアを閉じる
2 パワーバックドアの自動閉作動中にドアハンドルのロックセンサーにふれてスマートエントリー＆スタートシステムによる施錠操作を行う（→P.103）、またはワイヤレスリモコンによる施錠操作を行う（→P.103）

すべてのドアが閉まり施錠されると、作動の合図でお知らせします。（→P.105）

●予約ドアロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、キーを車内にもどすと、車内にキーが閉じ込められることがあります。
予約ドアロック機能は、必ずキーを携帯した状態で使用してください。

●予約ドアロック操作をしてパワーバックドアが自動閉作動中に、挟み込み防止機能が作動するなど停止操作が行われると、予約ドアロック機能が解除されすべてのドアが解錠されます。

●車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。

■クローズ＆ロック機能の作動条件

次の作動条件を満たしているときに作動します。

●車内に電子キーがない

●バックドア以外のドアがすべて閉じている

●エンジンスイッチが OFF のとき

■クローズ＆ロック機能が正常に作動しない状況

クローズ＆ロック機能は、次のような状況では正常に作動しないことがあります。

●電子キーを持った手でパワーバックドア下部の スイッチを押したとき

●地面に置いたかばんなどに電子キーを入れたままパワーバックドア下部の スイッチを押したとき

●パワーバックドア下部の スイッチから離れた位置から押したとき

■**クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能※の作動条件**

※レクサス販売店での設定変更が必要です。

次の作動条件を満たしているときに作動します。

●クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能の作動が ON のとき

●車内に電子キーがない

●バックドア以外のドアがすべて閉じている

●ブレーキペダルを踏んでいないとき

●エンジンスイッチが OFF のとき

●電子キーが作動検知エリア内にあるとき

■**クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能※が正常に作動しない状況**

※レクサス販売店での設定変更が必要です。

次のような状況では正常に作動しないことがあります。

●スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

●クローズ＆ロック機能が正常に作動しないとき

●クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態でバックドアからすばやく離れたとき

●車両に登録された電子キーの本数が増えたとき

■**ハンズフリーパワーバックドアの作動条件**

次の作動条件を満たしているときに自動で開閉できます。

●キックセンサーの作動が ON のとき

●エンジンスイッチが OFF、または ON で、シフトレバーの位置が P にあるとき

●電子キーが作動範囲内にあるとき（→P.125）

●足をリヤバンパー運転席側の下部に近付けて離す動作をしたとき（手やひじ、ひざなどでも作動します）

■**ハンズフリーパワーバックドアが正常に作動しない状況**

ハンズフリーパワーバックドアは、次のような状況では正常に作動しないことがあります。

●足先をリヤバンパーの下に入れたままのとき

●リヤバンパーに足先が強くあたったときや、一定時間ふれたとき

リヤバンパーに一定時間ふれた場合は、少し時間をおいてから再度操作してください。

●人がリヤバンパーに近すぎる位置で操作したとき

●電子キーと車両間の通信をさまたげる電波があるとき（→P.126）

●コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯などキックセンサーの感度をさまたげる電波やノイズがある場所に駐車したとき

●近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるな

ど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき

●リヤバンパーの表面に泥・雪・氷などが付着したとき

●リヤバンパーに草木などの動くものがふれる状態が長時間続いたとき

●リヤバンパーにアクセサリー用品を付けたとき
アクセサリー用品を取り付けた場合は、キックセンサーの作動を OFF にしてください。

■**ハンズフリーパワーバックドアの誤作動を防ぐために**

ハンズフリーパワーバックドアは、電子キーが作動範囲内にあるとき、次のような状況で意図せず作動するおそれがあります。

誤作動を防ぐために、電子キーが作動範囲内に入らないようにするか、キックセンサーの作動を OFF にしてください。(→P.84)

●洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき

●リヤバンパーの汚れを拭き取る動作をしたとき

●小動物やボールなどがリヤバンパーの下を横切ったとき

●リヤバンパーの下のものを取る動作をしたとき

●リヤバンパーに腰かけて、足を動かしたとき

●リヤバンパーに足や体をふれながら車両を横切ったとき

●コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯などキックセンサーの感度をさまたげる電波やノイズがある場所に駐車したとき

●近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●リヤバンパーの近くに草木などがある場所に駐車したとき

●リヤバンパーの近くで荷物などの積み降ろしをしたとき

●リヤバンパーの近くでアクセサリー用品やカーカバーの着脱作業したとき

●けん引されるとき

■**ハンズフリークローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能の作動条件**

次の作動条件を満たしているときに作動します。

●ハンズフリークローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能の作動が ON のとき ※

●ハンズフリーパワーバックドアの作動が ON のとき

●車内に電子キーがない

●バックドア以外のドアがすべて閉じている

●エンジンスイッチが OFF のとき

●電子キーが作動検知エリア内にあるとき

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

■**ハンズフリークローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能 ※ が正常に作動しない状況**

次のような状況では正常に作動しないことがあります。

●スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

●クローズ＆ロック機能が正常に作動しないとき

●ハンズフリークローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態でバックドアからすばやく離れたとき

●車両に登録された電子キーの本数が増えたとき

●ハンズフリーパワーバックドアが正常に作動しないとき

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

■バッテリーを再接続したとき

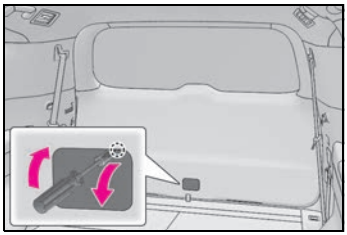
パワーバックドアを適切に作動させるために、初期設定としてバックドアを手動で一度全閉にしてください。

■バックドアが開かないとき

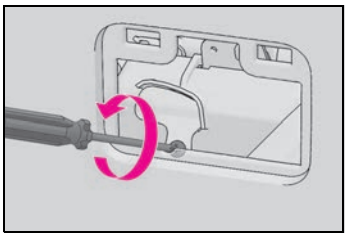
バックドアのロックを内側から解除することができます。

1 カバーをはずす

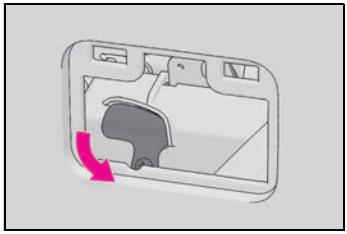
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



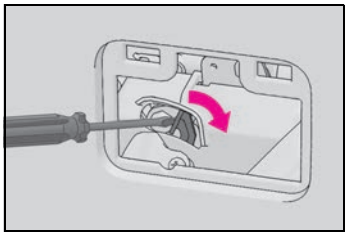
2 ネジをゆるめる



3 カバーをまわす



4 レバーを押す



5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

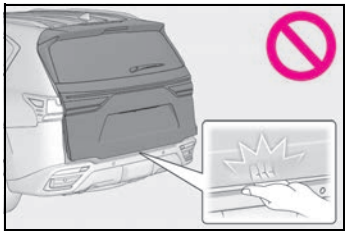
■カスタマイズ機能

パワーバックドアの全開時の開度などを変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.583）

警告

■バックドアイージークローザーについて

●バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



警告

●バックドアイージークローザーは、パワーバックドアの作動が OFF のときにも作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

■パワーバックドアについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●自動開閉中にパワーバックドアの作動を OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

●自動開閉中に作動条件（→P.115）を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。
この場合、坂道などの傾斜した場所ではバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。

●傾斜した場所では、開いたあとにドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが静止していることを確認してください。

●次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

・自動作動中、障害物に干渉したとき

・エンジン停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、エンジンスイッチを ON にしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

●バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

■挟み込み防止機能

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

●挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

警告

■ハンズフリーパワーバックドアについて

ハンズフリーパワーバックドアを操作するときは、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●リヤバンパー下に足を出し入れする際は、排気管にふれないように注意してください。熱くなっている排気管にふれると、やけどをするおそれがあります。

●リヤバンパーの下のスペースが狭い場合は、操作しないでください。

■クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能※・ハンズフリークローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能※について

※レクサス販売店での設定変更が必要です。

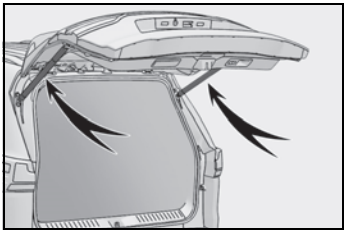
バックドアから離れると自動でバックドアが閉まり始めます。

周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

注意

■スピンドルユニットについて

バックドアにはバックドアを支えるためのスピンドルユニットが取り付けられています。スピンドルユニットの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をスピンドルユニットに付着させない

●バックドアにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けない

●スピンドルユニットに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

■バックドアイージークローザーの故障を防ぐために

バックドアイージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、バックドアイージークローザーの故障の原因になります。

■パワーバックドアの故障を防ぐために

●パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼り付きがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。

●パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理に力をかけないでください。

注意

●パワーバックドア左右端部のセンサー（→P.116）を刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

■クローズ＆ロック機能について

クローズ＆ロック機能でパワーバックドアを閉じると、通常ブザーと異なるブザー音が鳴り作動します。

正常に作動開始したことを確認するため、通常ブザーと異なるブザー音が鳴ったことを確認してください。

またパワーバックドアが完全に閉じ施錠されると、すべてのドアが施錠されたことを作動の合図でお知らせします。（→P.105）

車から離れるときは、作動の合図を確認し、全ドアが施錠されたことを確認してください。

■ハンズフリーパワーバックドアについて

キックセンサーは、リヤバンパーの内側に設置されています。ハンズフリーパワーバックドアを正しく作動させるために次のことをお守りください。

●リヤバンパーは常にきれいにしておく
リヤバンパーに汚れや着雪などがある場合、キックセンサーが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、現在の位置から車両を動かしてから作動するか確認を行ってください。それでも作動しない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。

●リヤバンパーに親水性コーティングなどの液体を塗らない

●リヤバンパーに草木など動くものを近付けない
リヤバンパーに草木などの動くものがふれる状態が長期間続いたときは、キックセンサーが作動しなくなることがあります。その場合、現在の位置から車両を動かしてから作動するか確認を行ってください。それでも作動しない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。

●リヤバンパーへの強い衝撃を避ける
リヤバンパーが強い衝撃を受けると、キックセンサーが正常に作動しなくなるおそれがあります。次のような場合にキックセンサーが作動しないときは、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

・キックセンサーやキックセンサー周辺に強い衝撃を受けた

・リヤバンパーに傷や破損がある

●リヤバンパーを分解しない

●リヤバンパーにステッカーを貼らない

●リヤバンパーを塗装しない

●パワーバックドアに自転車キャリアなどを取り付けた場合は、キックセンサーの作動を OFF にする

パワーバックドアの作動を ON ／ OFF するには

マルチメディア画面からパワーバックドアの ON ／ OFF の切りかえができます。（→P.583）

1 マルチメディア画面の⚙を選択する

2 “車両カスタマイズ” を選択する

3 “ドアコントロール” を選択する

4 “パワーバックドア” を選択する

5 （ON）・（OFF）を選択する

OFF を選択して、パワーバックドアの作動を停止させた場合、再度、ON にしないとパワーバックドアの作動は復帰しません。（エンジンスイッチの操作では復帰しません）

ハンズフリーパワーバックドアの作動を ON ／ OFF するには

マルチメディア画面からキックセンサーの ON ／ OFF の切りかえができます。（→P.583）

1 マルチメディア画面の を選択する

2 “車両カスタマイズ” を選択する

3 “ドアコントロール” を選択する

4 “キックセンサー” を選択する

5 （ON）・（OFF）を選択する

OFF を選択して、ハンズフリーパワーバックドアの作動を停止させた場合、再度、ON にしないとハンズフリーパワーバックドアの作動は復帰しません。（エンジンスイッチの操作では復帰しません）

バックドア自動開停止位置調整について

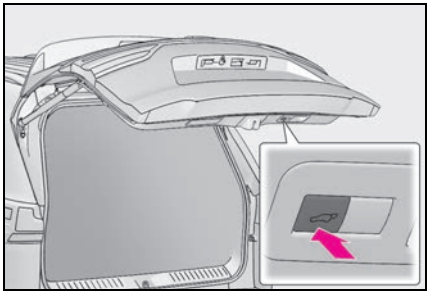
パワーバックドアを自動で開けたときに、開く位置を調整できます。

1 バックドアをお好みの位置で停止させる（→P.111）

2 バックドア下部の スイッチを約 2 秒間押し続ける

設定が完了するとブザーが 4 回鳴ります。

次回パワーバックドアを開けると、その位置でバックドアが停止します。

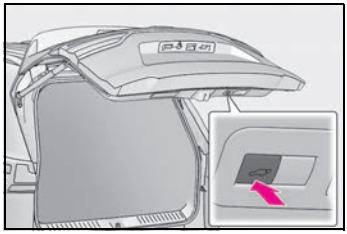


知識

■バックドア自動開停止位置を初期状態の位置にもどすには

バックドア下部の スイッチを約 7 秒間押し続けてください。

ブザーが 4 回鳴ったあと、さらに 2 回鳴ります。次回パワーバックドアを開ける操作をすると、初期状態の位置までバックドアが開きます。



■カスタマイズ機能

マルチメディア画面からもパワーバックドアの自動開停止位置の変更ができます。

（→P.583）

バックドア下部の スイッチまたはマルチメディア画面のうち、最後に設定した方の停止位置が優先されます。

スマートエントリー＆スタートシステム

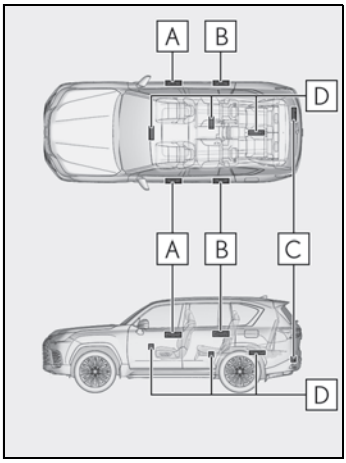
電子キー（カードキー★含む）をポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する（→P.103）
- バックドアを施錠・解錠する（→P.110）
- エンジンを始動する（→P.188）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■アンテナの位置



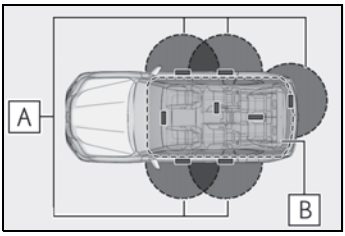
A 車外アンテナ（フロントドア）

B 車外アンテナ（リヤドア）

C 車外アンテナ（バックドア）

D 車室内アンテナ

■作動範囲（電子キーの検知エリア）



A ドアの施錠・解錠時

フロントドアのドアハンドル・リヤドアのドアハンドル・バックドアオープンスイッチから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

B エンジン始動時またはエンジンスイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

●車外から警告音が “ピー” と 5 秒鳴る

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する

●車内から “ポーン、ポーン” と鳴り続ける

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチを ACC にした（エンジンスイッチが ACC のとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉める

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。またイルミネーテッドエントリーシステムが作動しない、接近時オートアンロック機能による解錠が作動しない場合があります。
・車の周辺に一定時間電子キーを放置した
・5 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

●14 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーを節電モードにするには

●節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの 🔒 を押しながら、

🔓 を 2 回押し、電子キーのインジケーターが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー＆

スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。

●長期間使用しない電子キーは、節電モードにしておくことをおすすめします。

■電子キーの機能が停止するとき

電子キーを置いたままにするなど、一定時間電子キーの位置に変化がなかった場合、電池の消耗を抑えるために電子キーの機能が停止します。この場合は、電子キーを持ち上げるなどして位置を動かすことで、自動的に復帰します。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子キーを置いた場合

●コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき

スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠・解錠できない場合は、次の方法を試してください。

●ドアハンドルに電子キーを近付けて操作する

●ワイヤレス機能を使用する

上記の方法でも施錠・解錠できない場合は、メカニカルキーを使用してください。（→P.102）

また、スマートエントリー＆スタートシステムでエンジンが始動できない場合は、P.568 を参照してください。

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある

・エンジン始動時またはエンジンスイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネル・トノカバー（装着車のみ）・フロア上、またはドアポケット・グローブボックス内などに置かれている
・ドア解錠時に電子キーと車両との間を体でさえぎっている

●インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では解錠できません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、エンジンを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。
・キーを車両から約 2m 以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）
・キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P.125）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。すべてのドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作するか、ハンドル下側のロックセンサーで操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■降車オートロック機能 ※1 についてご留意いただきたいこと

※1 レクサス販売店での設定変更が必要です。

●車内に人が乗っている場合でも、車内に電子キーがないときは降車オートロック機能が作動します。施錠したくないときは、降車オートロック機能を一時的に非作動にしてください。（→P.104）
乗員を残して施錠するとオートアラームが作動することがあります。

●洗車機などの大きな金属物が動くよう

な場所では、電子キーの位置が正しく検知されないおそれがあります。降車オートロック機能の誤作動を防ぐために、車から離れるときは車内に電子キーを残さないでください。

●すべてのドアを閉めたあと（パワーバックドア閉作動中も含む※2）に次の操作をすると、降車オートロック機能が解除されます。
・ブレーキペダルを踏む
・エンジンスイッチを押す
・降車オートロック機能以外で施錠・解錠する

降車オートロック機能を作動させるには、いずれかのドアを開閉（パワーバックドア閉作動開始も含む※2）してください。

●電子キーのスイッチを押し続けている場合、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。

●降車オートロック待機状態のときにいずれかのドアを開けると、降車オートロック機能が解除されます。※2

●すべてのドアが閉じたときに電子キーが作動範囲内にない場合でも、一定時間内に電子キーが作動範囲内に入ると降車オートロック機能が作動します。※2

●電池残量が少ないときは、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。

●降車オートロック機能を一時的に非作動にする（→P.104）とき、ブザーが鳴る前に次の操作をすると、降車オートロック機能は非作動になりません。
・いずれかのドアを開ける
・ブレーキペダルを踏む
・エンジンスイッチを押す

降車オートロック機能を一時的に非作動にするには、いずれかのドアを開閉したあと、操作をやり直してください。

●降車オートロック機能を一時的に非作動にする（→P.104）ときは、施錠されていないドアのドアハンドルを握ってください。

●降車オートロック機能を一時的に非作動にする（→P.104）ときにブザーが鳴らない場合は、電子キーの位置を確認してから再度ドアハンドルを握ってください。

※2パワーバックドア閉作動中降車オートロック機能（→P.103）の設定を有効にしている場合は同様にご留意ください。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から2m以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。（→P.584）

●電子キーを節電モードに設定すると、電池の消耗を抑えることができます。（→P.125）

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

■電子キーが正常に働かないとき

●ドアの施錠・解錠（→P.568）

●エンジンの始動（→P.568）

■カスタマイズ機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧：→P.584）

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、次の操作の説明を参照してください。

- ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→P.103, 568）
- エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ：→P.568
- エンジンの停止：→P.190

警告

■電波がおよぼす影響について（スマートエントリー＆スタートシステムアンテナ）

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器を装着されている方は、スマートアンテナ（→P.124）から 22cm 以内に植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器が近づかないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医療用電気機器メーカーなどにご確認ください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与える場合があります。

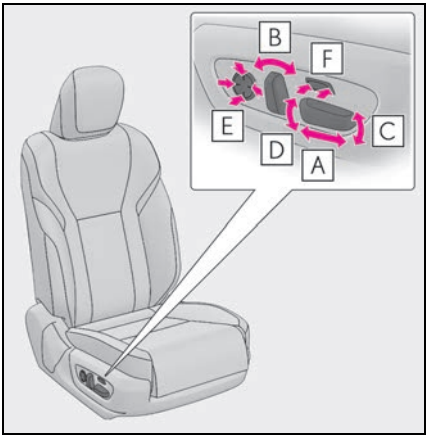
スマートエントリー＆スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

フロントシート

スイッチ操作により、シートの前後・上下位置などの調整ができます。正しい運転姿勢がとれるよう調整してください。**（→P.31）**

調整するには

▶ 手動式ヘッドレストタイプ



A 前後位置調整

B リクライニング調整

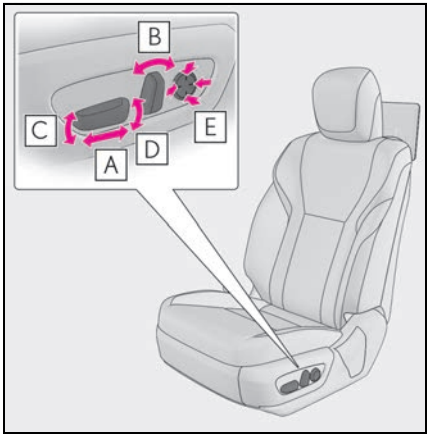
C クッション前端の上下調整

D シート全体の上下調整

E 腰部硬さ調整

F クッションの長さ調整（運転席）

▶ 電動式ヘッドレストタイプ



A 前後位置調整

B リクライニング調整

C クッション前端の上下調整

D シート全体の上下調整

E ヘッドレストの調整（→P.147）

知識

■シートを調整するときは

●周囲の人やものがシートに挟まれないよう注意してください。

●ヘッドレストが天井やサンバイザー等にあたらないように注意してください。

■パワーイージーアクセスシステム

エンジンスイッチのモード切りかえ・運転席のシートベルト脱着に連動して、運転席シートとハンドルが動きます。（→P.168）

警告

■シートを調整するとき

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

警告

- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
  指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり、肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席またはリヤ席からの助手席操作について（4 人乗り車）

助手席に乗員がいるときは操作をしないでください。また、操作中やヘッドレストが前倒しになっているときは、助手席に座らないでください。
足や頭を挟むなどして助手席乗員がけがをするおそれがあります。

■助手席を前倒しにしたとき（4 人乗り車）

運転席からドアミラーが見えにくい場合は、助手席の位置を調整してください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■運転席またはリヤ席からの助手席操作について（4 人乗り車）

操作するときは助手席の上や足元に作動をさまたげるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

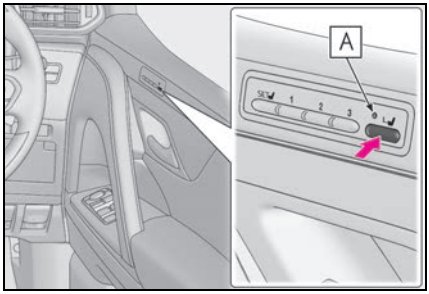
運転席から助手席を操作するには（4 人乗り車）

■ 運転席側シート調整スイッチでの操作（助手席操作モード）

助手席操作モードにすることで、運転席のシート調整スイッチで助手席を操作できます。

1 助手席操作モードボタンを押す

インジケーター A が点灯します。



2 運転席のシート調整スイッチを押して、助手席を操作する

助手席操作モードボタンをもう一度押すと、助手席操作モードが解除されます。

運転席のシート調整スイッチを約 30 秒間操作しなかった場合は、助手席操作モードが自動的に解除されます。

■ マルチメディア画面での操作

1 メインメニューの を選択する

2 “シート” を選択する

3 “アレンジ” を選択する

4 “助手席” を選択する

5 操作ボタンを選択する

A 助手席を前方に移動し、背もたれとヘッドレストを前倒しにする（エクストラフロント）

B 助手席を後方に移動し、背もたれとヘッドレストを中立位置にもどす

途中で停止するときは、助手席操作ボタンのA または B を選択するか、またはシートスイッチを押します。

C 後席ディスプレイを倒す

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

知識

■**助手席側シート調整スイッチでの可倒式ヘッドレストの操作について**

助手席のヘッドレストが前倒しのとき、助手席側のドアを開けて、助手席側シート調整スイッチで助手席位置を後方に調整、またはリクライニングを後方に倒すと、スイッチを離したあと、ヘッドレストが中立位置までもどります。

ヘッドレスト作動中に次のいずれかの操作をすることで、ヘッドレストの作動を停止することができます。

- 助手席側シート調整スイッチのいずれかを操作する
- ドライビングポジションメモリーの SET ボタンを押す
- ドライビングポジションメモリーの1～3 のボタンを押す
- シートスイッチを押す

■**マルチメディア画面での助手席操作について**

次のときは、助手席を操作できません。

- エンジンスイッチが ACC または OFF のとき
- 助手席に乗員がいるときや重い荷物を載せているときなど、シートが重量を検知したとき

一度シートが重量を検知すると、助手席ドアを開閉するか、エンジンスイッチを OFF にするまで、検知状態が継続します。

- 助手席シートベルトがバックルに留められているとき
- 助手席ドアが開いているときの前方への作動

リヤ席から助手席を操作するには（4 人乗り車）

1 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で “シート” を選択する（→P.443）

2 “助手席” を選択する

3 操作ボタンを選択する

作動条件を満たしていないときは、操作

ボタンがグレー表示になります。

A 助手席のリクライニングを調整する

ボタンをタッチしているあいだ、背もたれが動きます。

B 助手席の前後位置を調整する

ボタンをタッチしているあいだ、助手席が動きます。

C 後席ディスプレイを倒す

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

D 助手席を前方に移動し、背もたれを前倒しにする

ヘッドレストも前倒しになります。

途中で停止するときは、“停止”をタッチします。

E 助手席を後方に移動し、背もたれを中立位置にもどす

ヘッドレストも中立位置にもどります。

知識

■リヤ席からの助手席操作について

●次のときは、助手席を操作できません。
・エンジンスイッチが ACC または OFF のとき
・助手席に乗員がいるときや重い荷物を載せているときなど、シートが重量を検知したとき

一度シートが重量を検知すると、助手席ドアを開閉するか、エンジンスイッチを OFF にするまで、検知状態が継続します。
・助手席シートベルトがバックルに留められているとき
・助手席ドアが開いているときの前方への作動

フロントシートリフレッシュシステム

エアーの作動による押圧機能を備えたリフレッシュシステムが装備されています。コースと作動の強さをお好みにより調整することができます。

1 メインメニューの にタッチし、サブメニューの“シート”にタッチする
2 “リフレッシュ”にタッチする
3 運転席または助手席★を選択する
4 コースを選択する

● 全身 1

シートクッションの前部から背もたれの上部へ作動します。

● 全身 2

背もたれの上部からシートクッションの前部へ作動します。

● 上半身

背もたれの下部から上部へ作動します。

● 下半身

シートクッションの前部から後部へ作動します。

● 腰

背もたれ腰部の下部から上部へ作動します。

5 作動の強さを調整し、（作動）に切りかえる

5 段階で調整することができます。

作動を停止するには、（非作動）に切りかえてください。

シートに乗員がいないときは、リフレッシュシステムを使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動条件

●エンジンスイッチが ON のとき

●助手席★：シートが乗員の重量を検知しているとき

一度シートが重量を検知すると、助手席ドアを開閉する、またはエンジンスイッチを OFF にするまで、検知状態が継続します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■自動停止機能

作動開始から約 15 分で自動的に停止します。

警告

■走行中の留意事項

走行中は運転席リフレッシュシステムの調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■フロントシートリフレッシュシステムのご使用について

●妊娠中のかた、出産直後のかた、静養を要する疾患（心臓疾患）のあるかたは、使用する前に必ず医師に相談してください。

●お子さまは使用しないでください。

●食後や飲酒後、または長時間の使用は避けてください。

●使用中に気分が悪くなった場合は、ただちに使用を止めてください。

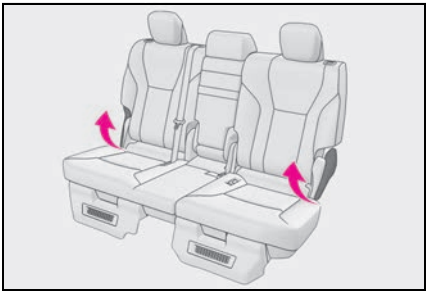
リヤシート（5 人乗り車／7 人乗り車）

レバー操作もしくはスイッチ操作により、リクライニングの調整や背もたれを倒すことができます。

調整するには

■ セカンドシート

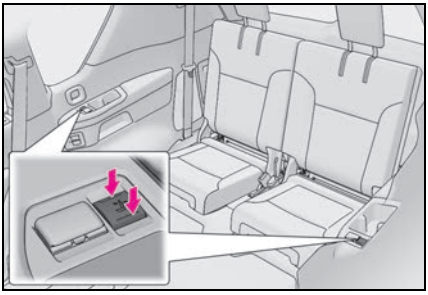
レバーを引いて、背もたれを調整する



■ サードシート★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スイッチを押して、背もたれを調整する

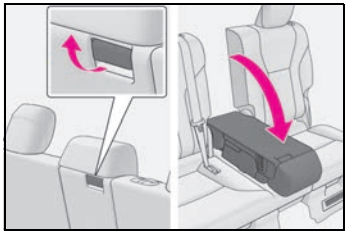


知識

■中央席の前倒しについて

中央席の前倒しレバーをいっぱいまで引き上げると、中央席のみを前倒しすることができます。長い荷物を積む場合に便利です。

もとにもどすときは、ロックされる位置まで中央席を引き起こします。



警告

■リヤシートを操作するときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中にリヤシートを操作しない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■リクライニング調整について

背もたれを必要以上に倒さないでください。事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり、肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■リヤシートを操作するときは

●可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。

●シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしないでください。

サードシート★へ乗り降りするときは

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

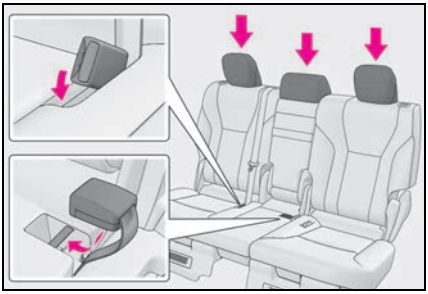
サードシートへの乗り降りの際は、“セカンドシートの格納のしかた”の手順 **1** と手順 **2** の操作を行ってください。（→P.136）

セカンドシートを格納するときは

■ セカンドシートを格納する前に

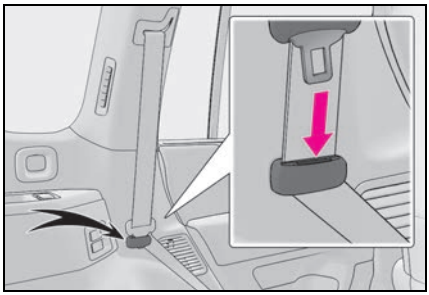
1 バックルを格納し、ヘッドレストをいちばん下まで下げる

中央席のバックルは、バンドで固定してください。



2 シートベルトハンガーに外側席シートベルトを格納し、プレートをハンガー穴部に挿し込む

シートベルトが損傷するのを防ぎます。



■ セカンドシートの格納のしかた

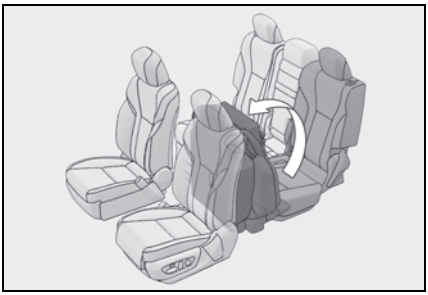
1 スイッチを押し続ける

フロントシートが前方へ移動して停止します。作動中はスイッチから手を離さないでください。

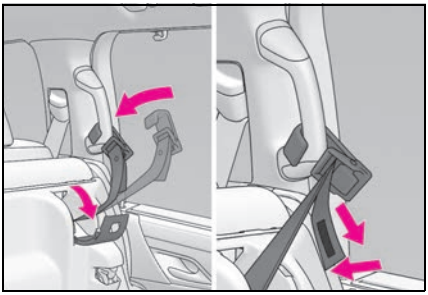
2 フロントシートが停止したことを確認してスイッチから手を離す

背もたれが前に倒れ、シートがはね上が

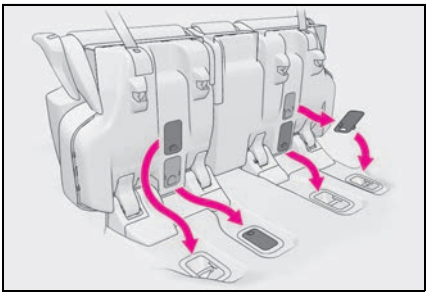
ります。



3 カバーを開け、アシストグリップにフックをかけ、シートが動かなくなるよう固定する



4 シートクッション裏からシートフックカバーを取りはずしシートフックの位置に取り付ける



知識

■**作動条件**

エンジンスイッチが OFF、または ON で、シフトレバーの位置が P にあるとき

■**セカンドシートを格納するときは**

●次のときはセカンドシートが正常に格納されず、作動が停止します。
・背もたれが前倒しになっているとき
・中央席が前倒しになっているとき
・アームレストを使用しているとき

●シートクッションにものが置いてある場合、作動が停止する場合があります。

警告

■**セカンドシートを格納するときは**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●操作前に必ず、シート周辺に人や荷物などがないことを確認する

●シート可動部分には絶対に手や足などを入れない

●お子さまにシートの操作をさせない

■**セカンドシートを格納したときは**

●走行中は、格納したシートに乗ったり、ものを置いたりしないでください。

●シートフックの位置に確実にシートフックカバーを取り付けてください。お守りいただかないと、やけどをするおそれがあり危険です。

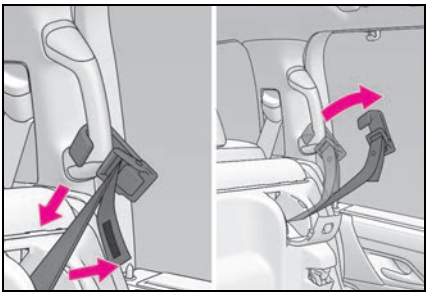
●センターコンソール後部のアクセサリーソケットや充電用 USB Type-C 端子に電気製品を接続したまま、セカンドシートを格納しないでください。電気製品にセカンドシートがぶつかり、破損するおそれがあります

●シートを格納したときはフックで固定してください。シートが固定されていないと、走行中に突然シートがもどり重大な傷害を受けるおそれがあります。

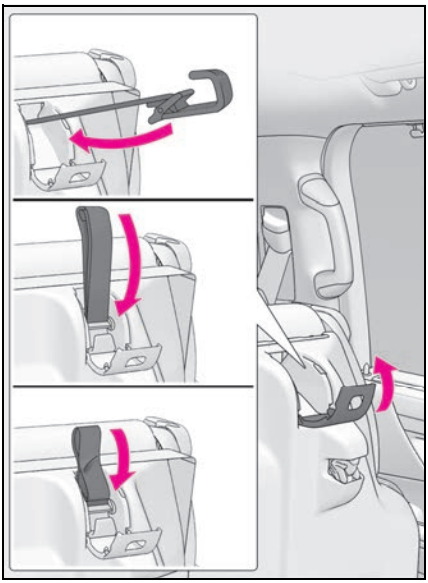
セカンドシートをもとにもどすには

1 アシストグリップからフックを取りはずす

アシストグリップから取りはずしにくいときは、ベルトをゆるめてください。

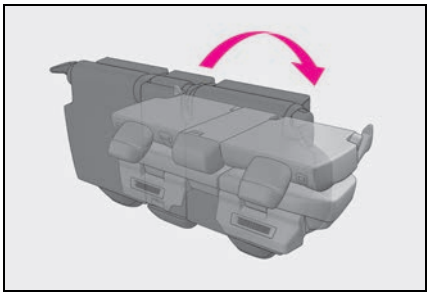


2 フックとタンブルバンドを格納し、カバーを閉める



3 シートをもとにもどす

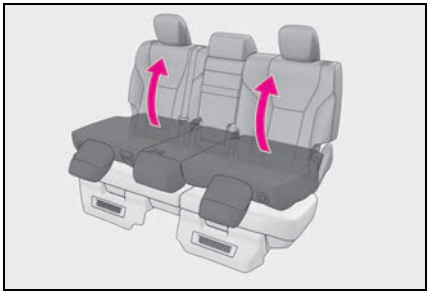
ロックされる位置までシートを押してください。



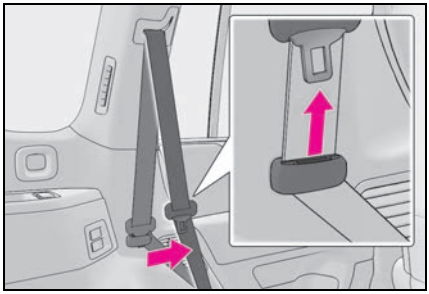
4 背もたれを起こす

ロックされる位置まで背もたれを起こしてください。

フロントシートがもとの位置にもどります。セカンドシートとの距離が近い場合、フロントシートの作動が制限されることがあります。

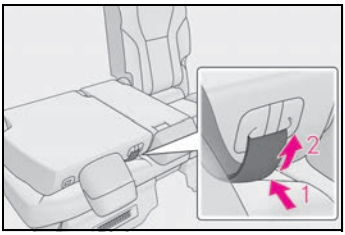


5 シートベルトをシートベルトハンガーから取りはずす



知識

■前倒ししたあと、背もたれが引き起こせない場合は



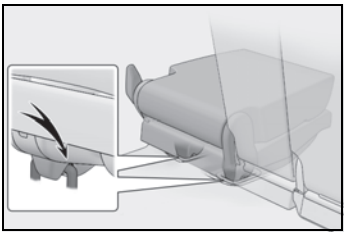
1 背もたれの先端 を押し込んで、中央席のシートベルトをゆるめる

2 シートベルトを少し巻き取らせてシートベルトのロックを解除する

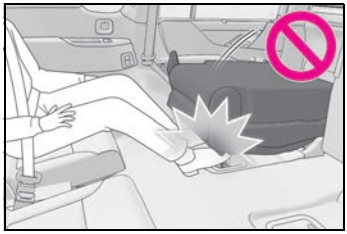
警告

■シートをもとにもどすときは

●シートを降ろしたときは、シート脚部が床面ロック部に確実に固定されたことを確認してください。



●シートをもとにもどすときは、シート脚部と床面ロック部のあいだに手や足を近付けないでください。手や足を挟み、けがをするおそれがあります。



■シートをもとにもどしたあとは

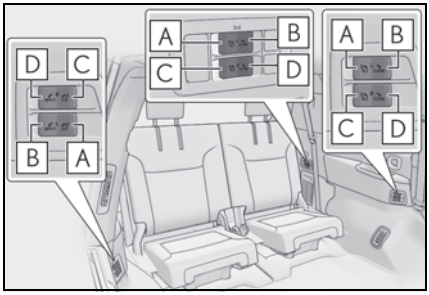
●シートをもとにもどしたあとはシートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する

●シートベルトを挟み込まないようにする

●シートベルトハンガーから、シートベルトをもとどおりに取りはずしてあるか確認する

サードシート★の操作スイッチについて

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



A 復帰スイッチ（助手席側用）

B 格納スイッチ（助手席側用）

C 復帰スイッチ（運転席側用）

D 格納スイッチ（運転席側用）

シート側とラゲージルーム側のどちらのスイッチでも操作することができます。

知識

■作動条件

エンジンスイッチが OFF、または ON で、シフトレバーの位置が P にあるとき

■スイッチ操作について

●サードシートが作動中はスイッチから手を離さないでください。作動中に手を離すと作動が中断し、ブザー（連続音）が鳴ります。再度スイッチを押すと、ブザーは止まります。

●サードシートがセカンドシートなどの周辺部品に近い場合は、サードシートの作動が制限されることがあります。

■警告ブザーが鳴り続けて止まらない場合は

システムに異常が発生すると、エンジンスイッチが ON のあいだ、警告ブザーが鳴り続ける場合があります。この場合は、次の操作を行ってください。

1 バックドア側の復帰スイッチを押し続ける

2 10 秒以内にシート側の格納スイッチを 5 回押し、ブザーが 3 回鳴るのを確認する（ブザーが 3 回鳴るまで、バックドア側の復帰スイッチを離さないでください）

3 シート側またはバックドア側の復帰スイッチを押し続ける

シートの格納作動が行われたあと、ブザーが止まります。

この処置を行っても異常が解消されない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

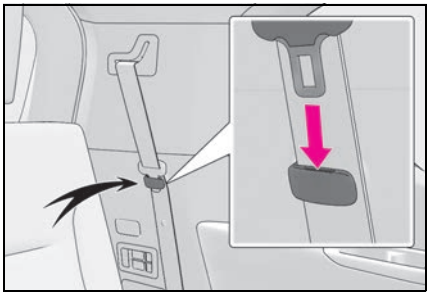
サードシート★を格納するときは

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ サードシートを格納する前に

1 シートベルトハンガーにシートベルトを格納し、プレートをハンガー穴部に挿し込む

シートベルトが損傷するのを防ぎます。



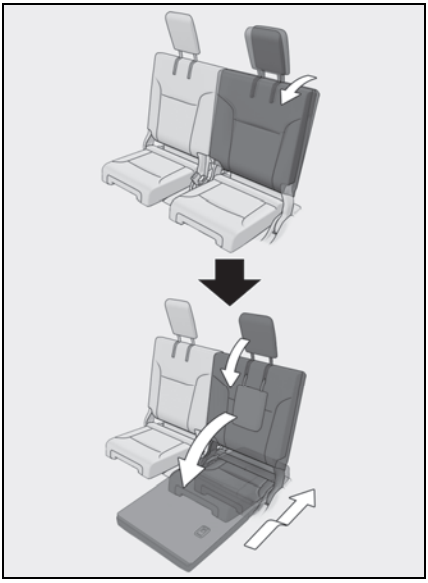
2 セカンドシートの背もたれがサードシートに干渉しないように調整する（→P.135）

■ サードシートの格納のしかた

格納スイッチを押し続け、サードシートを格納する

ブザーが 2 回鳴ったあと、背もたれの前倒し作動が開始し、ヘッドレストが倒れシートクッションが自動でフロアに格納されます。

格納作動が完了すると、ブザーが 2 回鳴り、自動停止します。自動停止後、スイッチから手を離します。



警告

■サードシートを格納するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 操作前に必ず、シート周辺に人や荷物などがないことを確認する
- シート可動部分には絶対に手や足などを入れない
- お子さまにシートの操作をさせない
- シートクッションだけを格納した状態で使用しない

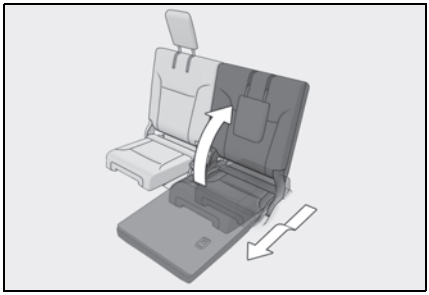
サードシート★をもとにもどすには

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

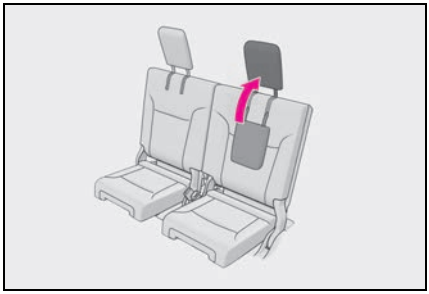
1 復帰スイッチを押し続ける

ブザーが 2 回鳴ったあと、背もたれとシートクッションが作動開始します。作動中は、スイッチから手を離さないでください。

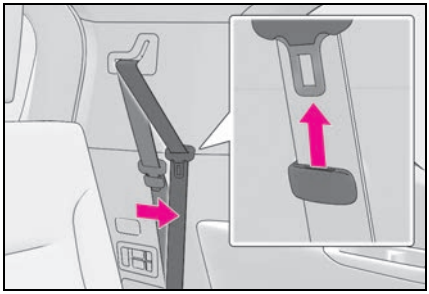
復帰作動が完了すると、ブザーが 2 回鳴り、自動停止します。自動停止後、スイッチから手を離します。



2 ヘッドレストを起こす



3 シートベルトをシートベルトハンガーから取りはずす



警告

■シートをもとにもどしたあとは

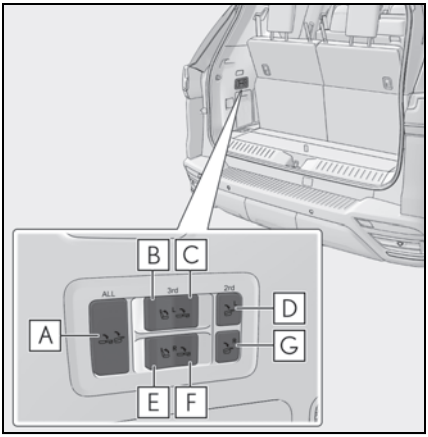
- シートベルトを挟み込まないようにする

警告

- シートベルトハンガーから、シートベルトをもとどおりに取りはずしてあるか確認する
- ヘッドレストをもとどおりに起こす

ラゲージルームの操作スイッチ★について

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



A オートアレンジスイッチ

B サードシート復帰スイッチ（助手席側用）

C サードシート格納スイッチ（助手席側用）

D セカンドシートスイッチ（助手席側）

E サードシート復帰スイッチ（運転席側用）

F サードシート格納スイッチ（運転席側用）

G セカンドシートスイッチ（運転席側）

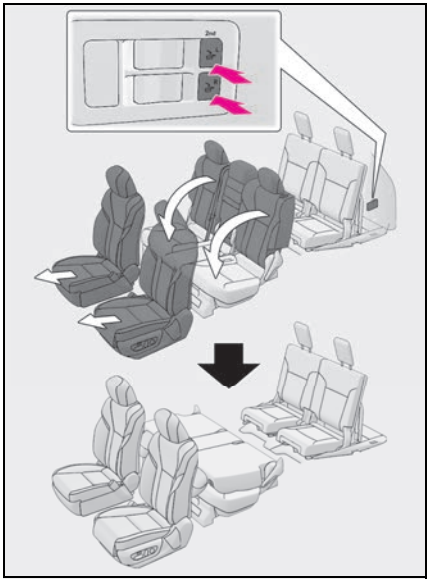
グレード、オプションなどにより、装着されているスイッチが異なります。

■ セカンドシートを操作する

セカンドシートスイッチを押し続ける

背もたれが前に倒れます。

セカンドシートをもとにもどすときは：→P.138



■ サードシートを操作する

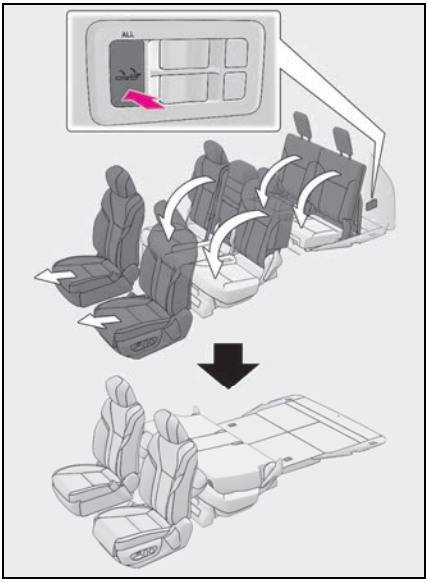
→P.139

■ セカンドシートとサードシートを同時に格納する

オートアレンジスイッチを押し続ける

セカンドシートとサードシートが格納されます。

シートをもとにもどすときは：→P.138, 141



知識

■作動条件

→P.140

■スイッチ操作について

→P.140

■警告ブザーが鳴り続けて止まらない場合は

→P.140

リヤシート（4 人乗り車）

警告

■シートを調整するとき

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●前後調整やオットマンの操作をするときは、足元のスペースを確保し、足をフロント席に挟まないように注意してください。

■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■オットマンの使用について

●オットマン部分には座らないでください。

シートベルトが適切に着用できないため、急ブレーキや事故のときに体がシートから投げ出され、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●つまずいてけがをするのを防ぐため、車を乗り降りする際はオットマンを格納してください。

●走行中は角度調整をしないでください。

●格納するときにシートの下に手や足を入れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

注意

■オットマンの故障を防ぐために

●足元のスペースを確保し、オットマンの作動をさまたげないようにしてください。

●オットマン部分に重いものを載せないでください。

●オットマンを上げているときに下にものを置かないでください。格納時にものを挟み破損するおそれがあります。

■後席ディスプレイの故障を防ぐために（オットマン付きシート）

後席ディスプレイを手で動かさないでください。ディスプレイが損傷するおそれがあります。

調整するには

■ オート作動での操作

シートをあらかじめ登録されたモードにすることができます。

1 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で “ シート ” を選択する（→P.443）

2 “ 左席 ” または “ 右席 ” を選択する

3 モードボタンを選択する

作動条件を満たしていないときは、モードボタンがグレー表示になります。

A オットマン付きシートの背もたれを前倒しにして、リヤ席の背もたれを倒す（リラックスモード）

オットマン付きシートは前方に移動し、ヘッドレストも前倒しになります。

途中で停止するときは、“ 停止 ” をタッチします。

B 中立位置にする（ビジネスモード）

C オットマン付きシートの後席ディスプレイを倒す

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

■ マニュアル作動での操作

1 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で “ シート ” を選択する（→P.443）

2 “ 左席 ” または “ 右席 ” を選択する

3 ボタンを選択して調整する

A リクライニング調整

B クッション前端の上下調整

C オットマン角度調整（オットマン付きシート）

D 前後位置調整（助手席）

ボタンをタッチしているあいだ、シートが作動します。

知識

■ビジネスモードの作動条件

リヤ席シートベルトがバックルに留められているときは、ビジネスモードを選択できません。

■リラックスモードの作動条件

次のときは、リラックスモードを選択できません。

●エンジンスイッチがACCまたはOFFのとき

●助手席に乗員がいるときや重い荷物を載せているときなど、シートが重量を検知したとき

一度シートが重量を検知すると、助手席ドアを開閉するか、エンジンスイッチをOFFにするまで、検知状態が継続します。

●助手席シートベルトがバックルに留められているとき

●助手席ドアが開いているとき

■プリクラッシュシートバック

衝突の可能性が高いとPCS（プリクラッシュセーフティ）が判断したとき、リヤシートの背もたれを起こします。（→P.234）

シートの背もたれを倒しているときに作動します。

スイッチ操作によるシート調整中には作動しません。

フロント席からリヤ席をもどすには

1 メインメニューの を選択する

2 “シート” を選択する

3 “アレンジ” を選択する

4 “リヤ席” を選択する

5 “戻す” を選択する

リヤ席が中立位置に戻ります。

知識

■フロント席からのリヤ席操作について

次のときは、リヤ席を操作できません。

●リヤ席に乗員がいるときや重い荷物を載せているときなど、シートが重量を検知したとき

一度シートが重量を検知すると、リヤ席ドアを開閉するか、エンジンスイッチをOFFにしたあとドアを施錠するまで、検知状態が継続します。

●リヤ席シートベルトがバックルに留められているとき

警告

■フロント席からリヤ席をもどすとき

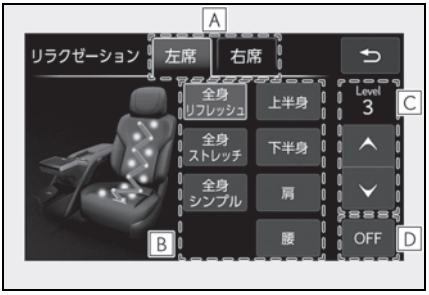
リヤ席の乗員が車を降りてから操作してください。

リヤシートリラクゼーションシステム

エアーの作動による押圧機能を備えたリラクゼーションシステムが装備されています。リラクゼーションシステム操作画面でコースや作動の強さなどをお好みにより調整することができます。

リラクゼーションシステム操作画面を表示するには、リヤマルチオペ

レーションパネルの HOME 画面で“リラクゼーション”を選択します。（→P.443）



A 操作するシートの選択

B コースの選択

コースをタッチすると作動が開始します。

C 作動の強さ調整

5 段階で調整することができます。

D 作動の停止

シートに乗員がいないときは、リラクゼーションシステムを使用しないでください。

知識

■ **リヤシートリラクゼーションシステムについて**

● 作動条件
・ エンジンスイッチが ON のとき
・ 車室内の温度が高温でないとき
・ リヤシートが乗員の重量を検知しているとき、またはリヤ席シートベルトがバックルに留められているとき

一度シートが重量を検知すると、リヤ席ドアを開閉するか、エンジンスイッチを OFF にしたあとドアを施錠するまで、検知状態が継続します。

● 自動停止機能
・ 作動開始から約 15 分で自動的に停止します。

警告

■ **リヤシートリラクゼーションシステムのご使用について**

● 妊娠中の方、出産直後の方、静養を要する疾患（心臓疾患）のある方は、使用する前に必ず医師に相談してください。

● お子さまは使用しないでください。

● 食後や飲酒後、または長時間の使用は避けてください。

● 使用中に気分が悪くなった場合は、ただちに使用を止めてください。

ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

警告

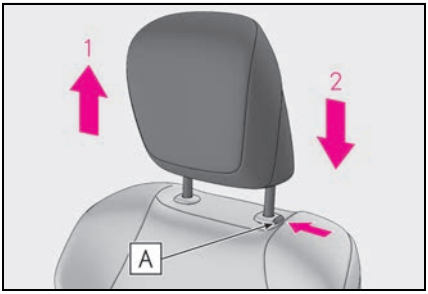
■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- 手動式ヘッドレスト：ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない
- サードシート装着車：サードシートに乗車するときは、必ずヘッドレストを起こした状態にする

上下調整するには

■ フロントシート（手動式ヘッドレスト）・セカンドシート（外側席）

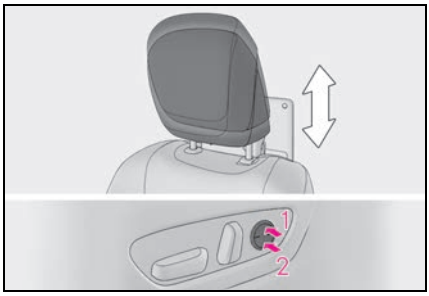


1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作します。

■ フロントシート（電動式ヘッドレスト）

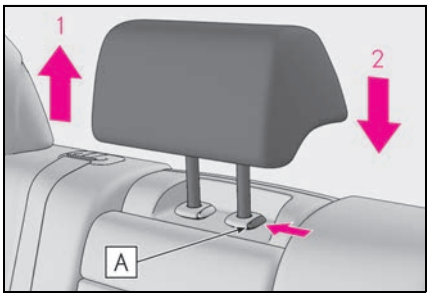


1 上げる

2 下げる

■ セカンドシート（中央席）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



1 上げる

2 下げる

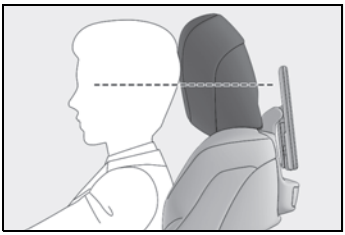
下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作します。

知識

■ヘッドレストの高さについて（フロントシート・セカンドシート［外側席］）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してくださ

い。



■セカンドシート（中央席）★のヘッドレストの使用について

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

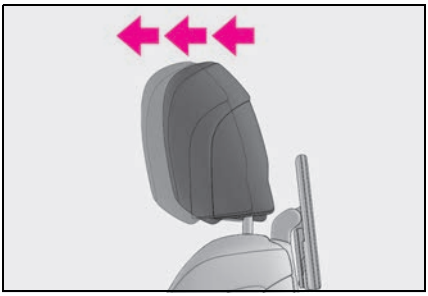
前後調整するには★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

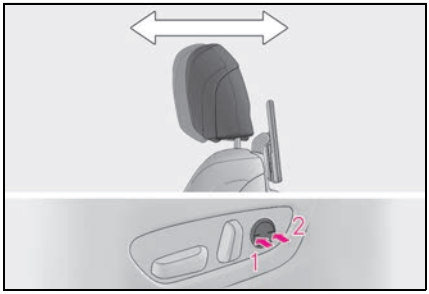
▶ 手動式ヘッドレスト

ヘッドレストの前後位置を、4 段階に調整できます。

いちばん前の状態からさらに前に引くと、いちばんうしろにもどります。



▶ 電動式ヘッドレスト



1 前方に移動

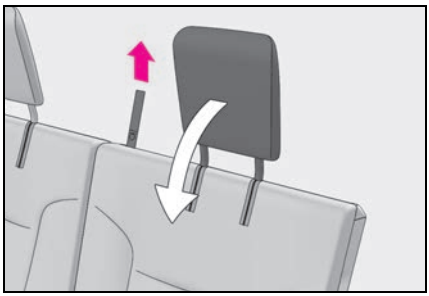
2 後方に移動

倒すには（サードシート）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ストラップを引いてヘッドレストを倒す

起こすときは、ヘッドレストを引き上げます。



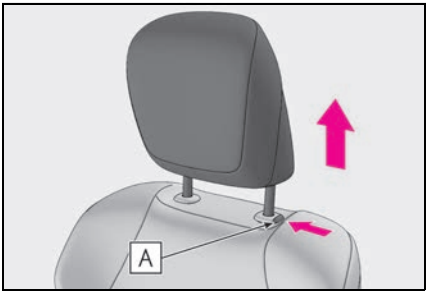
ヘッドレストを取りはずすには

■ フロントシート（手動式ヘッドレスト）・セカンドシート（外側席）

解除ボタン A を押しながらヘッドレストを引き上げます。

ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。

(→P.130, 135, 144)

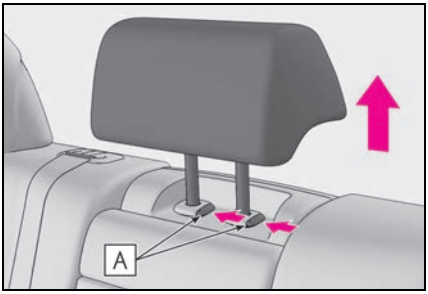


■ **セカンドシート（中央席）★**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

解除ボタン A を押しながらヘッドレストを引き上げます。

ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの角度をかえてください。(→P.135)



■ **フロントシート（電動式ヘッドレスト）・サードシート★**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

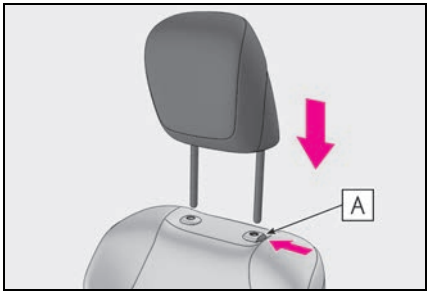
ヘッドレストを取りはずすことはできません。

ヘッドレストを取り付けるには

■ **フロントシート（手動式ヘッドレスト）・セカンドシート（外側席）**

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作してください。

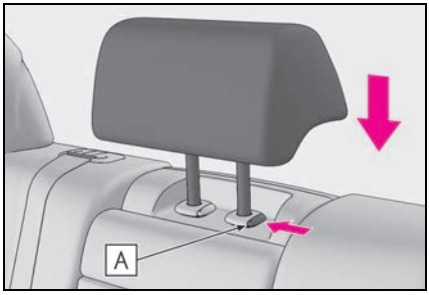


■ **セカンドシート（中央席）★**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

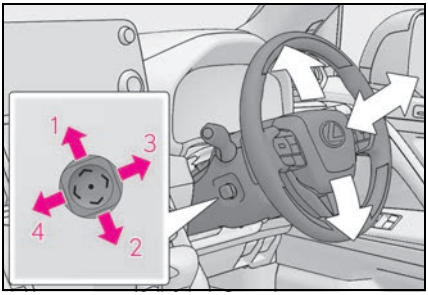
さらに下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作してください。



ハンドル

調整のしかた

スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。



1 上方へ
2 下方へ
3 手前へ
4 前方へ

知識

■ハンドル位置調整の作動条件

エンジンスイッチが ACC、または ON のとき ※

※ 運転席シートベルトを装着していれば、エンジンスイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

■ハンドル位置の自動調整

お好みのハンドル位置をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→P.169）

■パワーイージーアクセスシステム

エンジンスイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。（→P.168）

■ハンドル位置調整について

車両カスタマイズ機能の「降車時の運転席シート前後移動量」で「OFF」以外を選択しているときは、エンジンスイッチが OFF でも、シートベルトのバックルを装着すると、ハンドルの位置を調整できます。

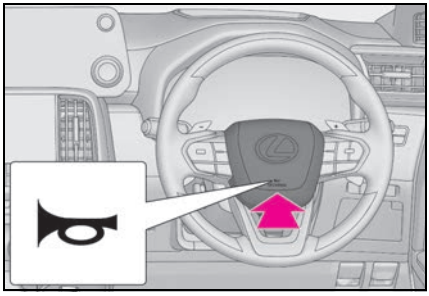
警告

■走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ホーン（警音器）を使うには

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



デジタルインナーミラー

車両後方カメラの映像をミラー内のディスプレイに表示する装置です。

切りかえレバーを操作することで、鏡面ミラーモードからデジタルミラーモードに切りかえることができます。

ヘッドレストや荷物などで視界をさえぎられずに後方を確認することができます。また、リヤ席を映さないことで乗員のプライバシーを保護することができます。

車両後方カメラの映像をドライブレコーダーに録画します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■デジタルインナーミラーをお使いになる前に

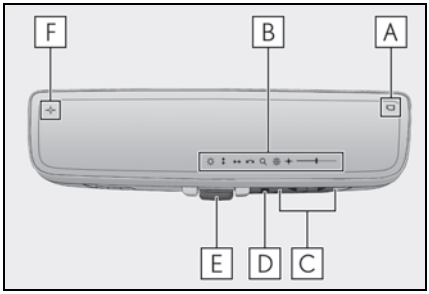
●走行前に必ずミラーの調整を行ってください。(→P.152)

・鏡面ミラーモードに切りかえて、鏡面を後方が正しく映る位置に調整する

・デジタルミラーモードに切りかえて、ディスプレイに表示される映像を調整する

●ディスプレイに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ違いを確認してください。

各部の名称



A カメラインジケーター

カメラが正常に作動していることを示します。

B アイコン表示エリア

調整アイコン(→P.153)・調整ゲージが表示されます。

C 選択／調整スイッチ

調整項目の設定を変更します。

D メニュースイッチ

調整アイコンの表示や、調整項目の移動を行います。

E 切りかえレバー

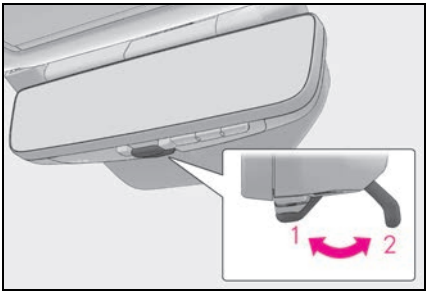
デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードの切りかえを行います。

F デジタル防眩モードインジケーター

デジタルミラーモード時、防眩機能がON に設定されていることを示します。(→P.153)

モードを切りかえるには

切りかえレバーを操作することで、デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードを切りかえることができます。



1 デジタルミラーモード

車両後方の映像を表示します。

ディスプレイに が表示されます。

2 鏡面ミラーモード

映像が消え、鏡面ミラーとして使用できます。

知識

■デジタルミラーモードの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

エンジンスイッチを ON から OFF または ACC にすると、数秒後に表示が消えます。

■デジタルミラーモードについて

●ミラーの反射や汚れ、カメラに水滴やほこりが付いているなどでディスプレイに表示される映像が見えにくい場合や、後続車のライトのちらつきや圧迫感が気になる場合は、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

●雨天時リアガラスに水滴が付いて映像が見にくい場合は、リアワイパを作動させてください。

●バックドアが開いているときは、デジタルインナーミラーの映像が正しく表示されません。走行前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

●ディスプレイが反射して見えにくい場合は、サンシェードを閉めてください。

●夜間など暗いところでは、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・映像の色と実際の色が異なって見える
・後続車のライトの高さなどによっては、後続車の周囲が白くぼやけて見える
・周辺を明るく見せるために映像が自動的に調整されることにより、特有のちらつきが発生する

映像が見えにくい場合や、ちらつきが気になる場合は、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

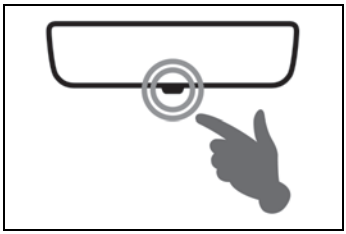
●デジタルインナーミラー本体が発熱することがありますが、異常ではありません。

●体調・年齢などにより、ディスプレイに表示される映像に焦点が合うまで時間がかかる場合があります。焦点が合わせづらいと感じたときは、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

●主に同乗者がディスプレイを凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。

■システムに異常が発生したとき

デジタルミラーモード時に、図で示すシンボルが表示されます。シンボルの表示は数秒後に消えます。切りかえレバーを操作し、鏡面ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。

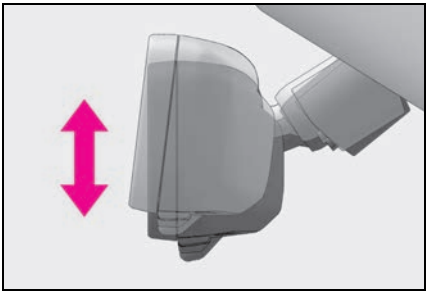


調整するには

■ ミラー本体の上下調整

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

鏡面ミラーモードに切りかえて、インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

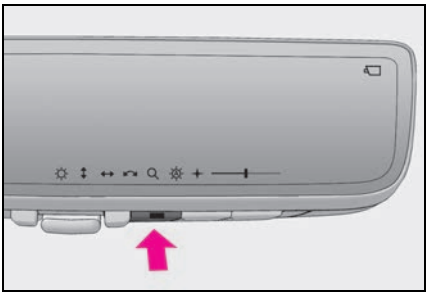


■ **ディスプレイの調整（デジタルミラーモード）**

デジタルミラーモードの調整や機能の ON ／ OFF ができます。

1 メニュースイッチを押す

調整アイコンが表示されます。



2 メニュースイッチをくり返し押して、調整したい項目（調整アイコン）を選択する

3 または を押して、設定を変更する

約 5 秒以上スイッチ操作をしないと、調整アイコンと各調整画面の表示が消えます。

調整アイコン	設定内容
☼	ディスプレイの明るさを調整することができます。
↕	ディスプレイの表示映像を上下に調整することができます。
↔	ディスプレイの表示映像を左右に調整することができます。
↻	ディスプレイの表示映像の傾きを調整することができます。 ：時計回りに映像が回転します ：反時計回りに映像が回転します
🔍	ディスプレイの表示映像を拡大／縮小することができます。
Ⓐ	自動防眩機能の ON ／ OFF を切りかえることができます。※ ON にすることで、後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に調整します。 エンジンスイッチを ON にしたときは、常に自動防眩機能が ON になっています。
✦	デジタル防眩モードの ON ／ OFF を切りかえることができます。ON にすることで、夜間にディスプレイの表示映像の明るさを抑えて表示し、後続車のヘッドランプのまぶしさを抑えます。

※ 鏡面ミラーモード使用時の機能ですが、デジタルミラーモード使用時にも設定できます。

■ 自動防眩機能の ON ／ OFF 切りかえ（鏡面ミラーモード）

鏡面ミラーモードの自動防眩機能の ON ／ OFF を変更できます。変更はデジタルミラーモード使用時、鏡面ミラーモード使用時のいずれからでも行えます。

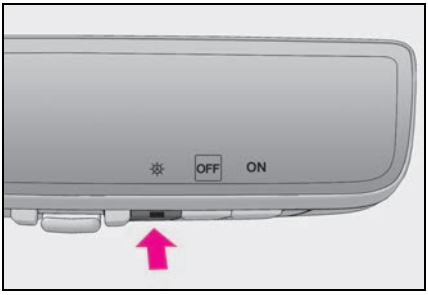
▶ デジタルミラーモード使用時

→P.153

▶ 鏡面ミラーモード使用時

1 メニュースイッチを押す

設定画面が表示されます。



2 ▭ または ▭ を押して、自動防眩機能の ON ／ OFF を切りかえる

約 5 秒以上スイッチを操作しない状態が続くと、設定画面の表示が消えます。

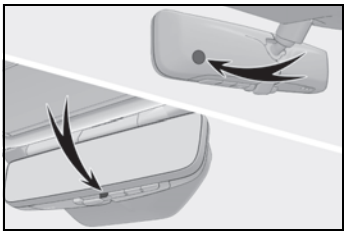
知識

■ ディスプレイの調整について（デジタルミラーモード）

- 約 5 秒以上スイッチ操作をしないと、調整アイコンと各調整画面の表示が消えます。
- ディスプレイ表示の調整を限界値まで行うと、映像がゆがむ場合がありますが故障ではありません。
- ディスプレイ表示が明るすぎると、目が疲れることがあります。適度な明るさに調整してください。
  目が疲れた場合には、鏡面ミラーモードに切りかえてご使用ください。
- ディスプレイ表示の明るさは、車両前方の明るさに合わせて自動でかわります。
- デジタル防眩モードは周囲が暗い場所でのみ働き、周囲の照度環境によっては映像の明るさが抑えられず、後続車のヘッドランプのまぶしさが低減できない場合があります。
- デジタル防眩モードを ON にすると、夜間のドライブレコーダーへの録画映像も暗くなります。

■ センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■走行中の留意事項

●走行中は、デジタルインナーミラーの位置やディスプレイに表示される映像を調整しないでください。
デジタルインナーミラーの操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●必ず車両周辺の状況を直接確認してください。

デジタルミラーモード使用時は、ディスプレイ上に映る車両や障害物が実際の大きさと異なる場合があります。後退時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。また、夜間など暗いところで後続車が接近したときは、周囲が暗く映る場合があります。

■安全にお使いいただくために

煙が出る、異臭がするなど異常な状態で使用すると、発火の原因になります。ただちに使用を中止してレクサス販売店にご相談ください。

お手入れについて

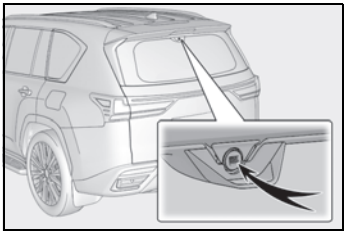
■ デジタルインナーミラーのお手入れについて

ミラー表面が汚れていると、映像が見えにくくなることがあります。あらかじめ、乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。

知識

■カメラについて

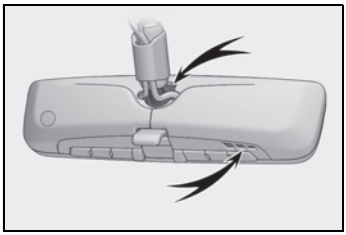
デジタルインナーミラーのカメラは、図の位置にあります。



注意

■デジタルインナーミラーの故障や誤作動を防ぐために

ミラーの通風口をふさがないでください。ミラー内部に熱がこもり、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。



■カメラの故障や誤作動を防ぐために

●デジタルインナーミラーが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

・カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置・取り付け角度がずれるおそれがあります。

・カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。

・有機溶剤・ボデーワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。

注意

・カメラレンズをふくときは水で湿らせたやわらかい布を使用してください。清掃しにくい場合は綿棒を使用してください。
カメラレンズを強くこするとレンズが傷付いて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。

・リヤウインドウガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼る場合は、カメラ前部に貼らないでください。カメラ前部に貼り付けた場合、映像が正しく映らなくなる場合があります。

●カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

故障とお考えになる前に

デジタルミラーモード使用時に次のような症状で気になったときやお困りになったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

処置をしても直らないときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい	ミラー表面が汚れている	乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。
	強い光（太陽やヘッドランプの光など）がデジタルインナーミラーにあたった	鏡面ミラーモードに切りかえてください。 （ムーンルーフからの光があたっているときは、サンシェードを閉めてください）

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい	・夜間など暗いところで使用した ・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くで使用した ・カメラ付近の温度が高い、または低い ・外気温が低い ・雨天時など湿度が高い ・太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたった ・蛍光灯・ナトリウム灯・水銀灯などの照明の下で使用した ・排気ガスが映り込んでいる	鏡面ミラーモードに切りかえてください。 （カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びデジタルミラーモードをご使用ください）
	カメラのレンズに水滴、ほこりなどの異物や汚れが付着している	レクサス販売店で点検を受けてください。
	ラゲージルームの荷物がガラス等に反射して映り込んでいる	・鏡面ミラーモードに切りかえてください。 ・荷物を映りこまない位置に移動するか、黒い布等で覆いガラスへの反射を抑えてください。
	リヤウインドウガラスが曇っている	リヤウインドウデフォッガー（→P.450）を使用し、曇りを取ってください。
	リヤウインドウガラスの外側が汚れている	リヤワイパーで汚れをふき取ってください。
	リヤウインドウガラスの内側が汚れている	レクサス販売店で点検を受けてください。
ディスプレイに表示される映像がずれている	バックドアが完全に閉まっていない	バックドアを閉めてください。
	カメラ部に強い衝撃が与えられた	鏡面ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイ上に が表示され、ディスプレイに表示される映像が暗くなった	システムに異常が発生した	鏡面ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上の が消灯した		
ディスプレイ上に に が表示された	デジタルインナーミラーの温度が非常に高い （徐々にディスプレイが暗くなり、その後も温度が上がり続けると映像が消えます）	ミラーの温度を下げるために、車室内の温度を下げることを推奨します。 （ミラーの温度が下がると が消えます） ミラーの温度が下がっても が消えない場合は、鏡面ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。
切りかえレバーが正常に作動しない	切りかえレバーに異常が発生した	鏡面ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。 （メニュー／決定スイッチを約10秒間押し続けることで、鏡面ミラーモードに切りかえることができます）

ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようミラーの角度を調整してください。

知識

■ **ミラーが曇ったとき**

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。(→P.450)

■ **自動防眩機能**

インナーミラーを自動モードにしておくと、ドアミラーも連動して防眩機能が作動します。(→P.154)

■ **寒冷時にドアミラーを使用するとき**

寒冷時にドアミラーが凍結していると、ドアミラーの格納・復帰や鏡面の調整ができない場合があります。ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

警告

■ **走行中の留意事項**

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ミラーを格納したまま走らない

必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

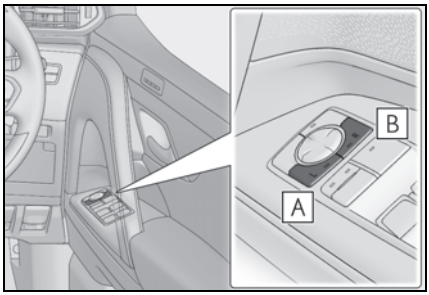
■ **ミラーヒーターが作動しているとき**

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

調整するには

1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

インジケーターが点灯します。

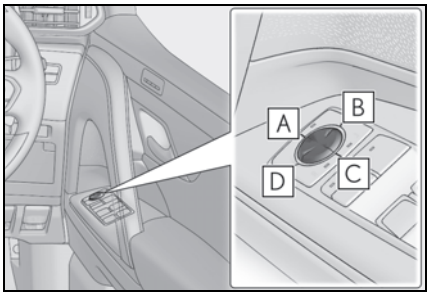


A 左

B 右

もう一度押すと、選択が解除されます。

2 ミラーの鏡面を調整するには、スイッチを操作する



A 上

B 右

C 下

D 左

知識

■ **鏡面調整の作動条件**

エンジンスイッチが ACC または、ON のとき

■ ミラー角度の自動調整

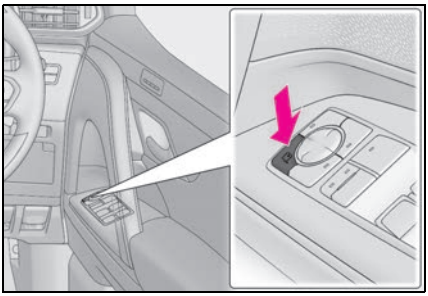
お好みのミラー角度をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→P.169）

ドアミラーを格納するには

■ マニュアル作動での格納・復帰

ボタンを押す

もう一度押すと、もとの位置にもどります。



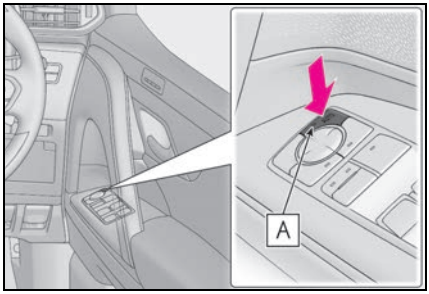
■ オート作動での格納・復帰

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーを自動的に格納・復帰させることができます。

ボタンを押す

ボタンを押すと、インジケーター A が点灯します。

もう一度ボタンを押すとマニュアル作動にもどります。



知識

■ カスタマイズ機能

オート作動の設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.583）

警告

■ ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがをしたり、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

リバース連動機能について

ミラー選択スイッチの L または R どちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。
この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチが解除された状態にしてください。

■ 後退時に下向きになる角度を調整するときは

シフトレバーを R に入れた状態で、鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。
次回からシフトレバーを R にするたびに、その角度で作動します。

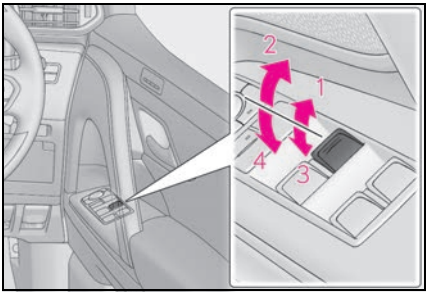
通常時（シフトレバーが R 以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位

置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。
通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

パワーウインドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチを操作し、ドアガラスを開閉できます。



1 閉める

2 自動全開 ※

3 開ける

4 自動全開 ※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■エンジン停止後の作動

エンジンスイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して、ドアガラスを開閉することができます（ウインドウロックスイッチが OFF のときのみ操作可能）。

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- 車を停止し、エンジンスイッチを ON の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 エンジンスイッチを ON にする

2 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする

3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける

4 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける

5 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける

6 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※（→P.568）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※（→P.103）

●オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→P.63）

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

■窓開警告機能

エンジンスイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などを設定することができます。（カスタマイズ一覧：→P.583）

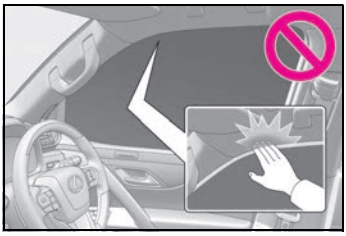
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→P.164）

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないように声かけをしてください。



●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

警告

- 車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

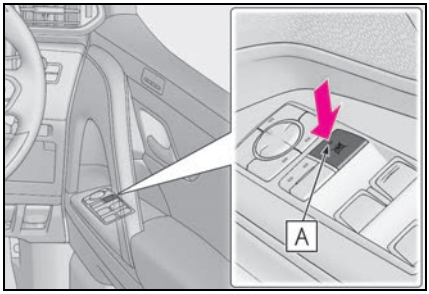
■巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服など巻き込まないように注意してください。

誤操作を防止するには（ウインドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、インジケーター A が点灯し、運転席以外のドアガラスが非作動になります。



知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■バッテリーをはずしたとき

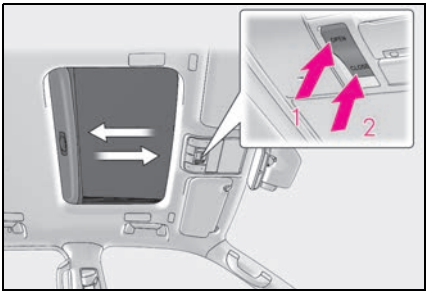
ウインドウロックスイッチが OFF になるため、バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

ムーンルーフ

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ／ダウンできます。

ムーンルーフを操作するには

■ 開閉するには



1 ムーンルーフを開く ※

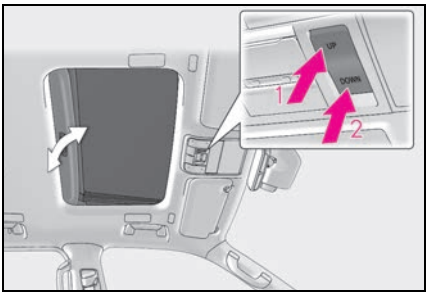
全開の手前の位置で止まります。（風切り音の低減機能）

全開にしたいときは、スイッチをもう一度押してください。

2 ムーンルーフを閉める ※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

■ チルトアップ／ダウンするには



1 チルトアップ ※

2 チルトダウン ※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ エンジン停止後の作動

エンジンスイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■ サンシェード

手動で開閉できます。また、ムーンルーフが開くと連動して開きます。

■ 音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して、ムーンルーフを開閉することができます。

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能

- メカニカルキーでムーンルーフを開閉できます。※ （→P.568）
- ワイヤレスリモコンでムーンルーフを開閉できます。※ （→P.103）
- オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能でムーンルーフを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→P.63）

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

■ムーンルーフが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 スイッチの “CLOSE” 側を押し続ける ※1

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します ※2。その後再び閉じ、チルトアップし、1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 スイッチの “UP” 側を押し続け ※1、ムーンルーフをチルトアップ位置にする

3 スイッチから一度手を離し、再度 “UP” 側を押し続ける ※1

ムーンルーフがチルトアップの状態で 10 秒間停止し ※2、微調節後 1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

4 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※1途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

※2 10 秒間停止したあとにスイッチから手を離すと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの “UP” 、または、 “CLOSE” 側を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1 秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手をはなしてください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ムーンルーフ開警告機能

エンジンスイッチが OFF でムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.583）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ムーンルーフを開けているとき

●走行中はルーフから手や顔を出さない

●開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するとき

●運転者は、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

警告

●ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。

●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってムーンルーフを操作するときは、ムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。
またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●車両から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■**挟み込み防止機能**

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能

自動で運転席・ハンドル・ドアミラー・ヘッドアップディスプレイを動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整します。

ドライビングポジションは、マイセッティングに登録した運転者とゲストにそれぞれ 3 パターンまで登録できます。

マイセッティングに登録した運転者ごとにドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。（メモリーコール機能）

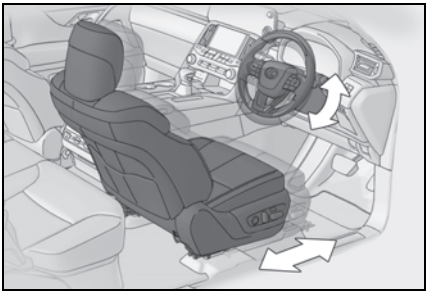
マイセッティングについては、P.173 を参照してください。

運転席への乗り降りをしやすくするには（パワーイージーアクセスシステム）

乗降時に運転者が乗り降りしやすいよう、シートやハンドルが自動で動きます。

次のすべての操作を行ったとき、シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。

- シフトレバーを P に入れる
- エンジンスイッチを OFF にする
- シートベルトをはずす



次のいずれかの操作を行ったとき、シートとハンドルがもとの位置にもどります。

- エンジンスイッチを ACC または ON にする
- シートベルトを着用する

知識

■パワーイージーアクセスシステムの作動について

降車時に、シートの位置が最後方付近にあるなど、パワーイージーアクセスシステムが作動しない場合があります。

■挟み込み防止機能

シートが自動で動いているときに人やものが干渉すると、作動が停止します。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.583）

警告

■パワーイージーアクセスシステムでハンドル・シートが作動しているとき

体や荷物などが挟まれないようにしてください。けがをしたり、荷物が破損するおそれがあります。

ドライビングポジションをポジションメモリーボタンに登録する／呼び出すには

■ 登録方法

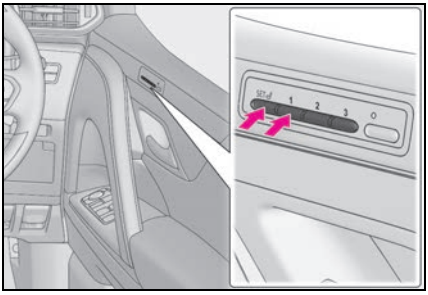
1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 エンジンスイッチを ON にする

3 運転席・ハンドル・ドアミラー角度・ヘッドアップディスプレイ表示をお好みの位置に調整する

4 SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に 1 ～ 3 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

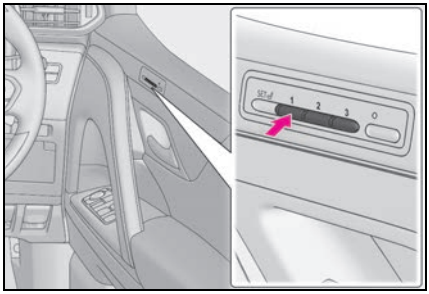


■ 呼び出し方法

1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 エンジンスイッチを ON にする

3 1 ～ 3 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す



知識

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1 ～ 3 のボタンを押す
- シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）
- ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

■挟み込み防止機能

シートが自動で動いているときに人やものが干渉すると、作動が停止します。

■音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して次の操作をすることができます。

- ドライビングポジションの登録
- ドライビングポジションの呼び出し（シフトレバーが P の位置にあるときのみ操作可能）

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■登録できるシート位置（→P.130）

腰部硬さ調整（ランバーサポート）以外の位置が登録できます。

■エンジンスイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉めて 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

■ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

■ポジションを呼び出すとき

ヘッドレストが天井にあたらないよう注意してください。

■登録したシート位置が呼び出せないとき

シート位置を特定の範囲内に登録した場合、状況によってはシート位置を呼び出せないことがあります。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.583）

警告

■シート調整時の警告

シート調整中は、シートがセカンド席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

乗車時にドライビングポジションを自動で呼び出すには（メモリーコール機能）

■ マイセッティングが電子キーで個人を特定する場合

マイセッティングに電子キーの割り当てを登録することで、登録した運転者ごとのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

● 登録方法

運転を終了したあとにシフトポジションを P にすると、現在のドライビングポジションが登録されます。

● 呼び出し方法

1 マイセッティングに割り当てを登録している電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

ハンドルおよびヘッドアップディスプレイ表示を除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は動きません。

2 エンジンスイッチを ACC または ON にする

シート・ハンドル・ヘッドアップディスプレイ表示（エンジンスイッチを ON にしたときのみ）が登録したドライビングポジションに動きます。

● 解除方法

マイセッティングで運転者の登録内容を初期化する

初期化方法については別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ マイセッティングが顔情報で個人を特定する場合

顔認証システムに顔情報を登録することで、登録した運転者ごとのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

● 登録方法

運転を終了したあとにシフトレバーを P にすると、現在のドライビングポジションが登録されます。

● 呼び出し方法

エンジンスイッチを ACC または ON にする

顔認証に成功したあと、シート・ハンドル・ヘッドアップディスプレイ表示（エンジンスイッチを ON にしたときのみ）が登録したドライビングポジションに動きます。ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は動きません。

● 解除方法

顔認証システムで顔情報を消去する

消去については別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ マイセッティングが指紋情報で個人を特定する場合

指紋認証システムに指紋情報を登録することで、登録した運転者ごとのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

● 登録方法

運転を終了したあとにシフトポジションを P にすると、現在のドライビングポジションが登録されます。

● 呼び出し方法

エンジンスイッチを ACC または ON にする

指紋認証に成功したあと、シート・ハンドル・ヘッドアップディスプレイ表示（エンジンスイッチを ON にしたときのみ）が登録したドライビングポジションに動きます。
ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は動きません。

● 解除方法

指紋認証システムで指紋情報を消去する

消去については別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

知識

■ 挟み込み防止機能

シートが自動で動いているときに人やものが干渉すると、作動が停止します。

リヤシートポジションメモリー（4 人乗り車）

お好みのリヤ席の位置を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。

ポジションを登録するには

1 エンジンスイッチを ON にする
2 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で “ シート ” を選択する（→P.443）
3 “ 左席 ” または “ 右席 ” を選択する
4 リヤ席を好みの位置に調整し、“ 登録 ” を選択する
5 “1” または “2” を選択する

すでに登録されている場合は、上書きされます。

知識

■ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

警告

■シート調整時の警告

シート調整中は、リヤ席乗員がフロントシートにあたらないよう注意してください。

ポジションを呼び出すには

1 エンジンスイッチを ON にする
2 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で “ シート ” を選択する（→P.443）
3 “ 左席 ” または “ 右席 ” を選択する
4 “1” または “2” を押し続ける

登録位置になると作動が停止します。

作動条件を満たしていないときは、操作ボタンがグレー表示になります。

マイセッティング

電子キーなどのデバイスから個人を特定し、運転者ごとのドライビングポジションや車両設定を記憶しておくことで、次回乗車時に再生します。

あらかじめ認証デバイスを割り当てておくことで、運転者に合わせたお好みの設定で乗車することができます。

マイセッティングには、運転者 3 名分の設定を記憶することができます。

認証デバイスの割り当て／削除、ドライバー名の設定、初期化方法、運転者の手動きりかえ、記憶してあるドライバーの削除については別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

割り当てる認証デバイスの種類

次の認証デバイスから個人を特定します。

● 電子キー

スマートエントリー＆スタートシステムが電子キーを検出することで個人を特定します。（→P.124）

● 顔認証システム

ドライバーモニターカメラで登録した顔情報をドアの開閉時に顔認証することで個人を特定します。（→P.232）

電子キーで個人を特定した場合でも、顔認証による個人の特定が優先されます。

● 指紋認証システム

エンジンスイッチの指紋センサーに指紋情報を登録した指をタッチして指紋認証をすることで個人を特定します。（→P.67, 188）

電子キーまたは顔認証システムで個人を特定した場合でも、指紋認証による個人の特定が優先されます。

● Bluetooth® 対応機器

Bluetooth® 機器をマルチメディアシステムに接続することで個人を特定します。

Bluetooth® 機器の接続方法については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

電子キー・顔認証システム・指紋認証システムで個人を特定したときは、Bluetooth® 機器での個人の特定はしません。

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。

再生される機能

認証デバイスから個人が特定されたとき、次の機能の設定を再生します。

● ドライビングポジション（メモリーコール機能）

個人が特定されたあとに、以下の操作を行うと前回運転終了時（シフトレバーを P にしたとき）のドライビングポジションを再生します。

- 電子キーで個人を特定：スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける
- 顔認証システムで個人を特定：ドライバーモニターカメラが顔情報を認証したあとにエンジンスイッチを ACC または ON にする
- 指紋情報で個人を特定：エンジンスイッチを ACC または ON にする

ドライビングポジションの登録、再生に

ついては、P.170 をご参照ください。

● メーター表示 ※ ／ヘッドアップディスプレイ表示 ※

個人が特定されると、前回エンジンスイッチを OFF にしたときの表示設定を再生します。

● マルチメディア設定 ※

個人が特定されると、前回エンジンスイッチを OFF にしたときのマルチメディアシステムの設定を再生します。

● 安全運転支援機能 ※

個人が特定されると、前回エンジンスイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

● マルチテレインモニター表示 ※

個人特定されると、前回エンジンスイッチを OFF にしたときの表示設定を再生します。（→P.344）

● 車両設定 ※（マルチメディア画面で設定できる項目）

個人が特定されると、前回エンジンスイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

※ 一部の設定項目を除く

4-1. 運転にあたって

運転にあたって..... 177

荷物を積むときの注意..... 184

トレーラーのけん引（ヒッチメンバー付き車）..... 185

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ..... 188

オートマチックトランスミッション..... 193

方向指示レバー..... 197

パーキングブレーキ..... 197

ブレーキホールド..... 201

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ..... 204

AHS（アダプティブハイビームシステム）..... 208

AHB（オートマチックハイビーム）..... 211

フォグランプスイッチ..... 213

ワイパー＆ウォッシャー（フロント）..... 214

ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）..... 217

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方..... 219

4-5. 運転支援装置について

ソフトウェアアップデートを確認する（Lexus Safety System +／アドバンスト ドライブ［渋滞時支援］装着車）..... 221

Lexus Safety System + ... 224

ドライバーモニター..... 232

PCS（プリクラッシュセーフティ）.....234

LTA（レーントレーシングアシスト）.....243

LCA（レーンチェンジアシスト）.....247

LDA（レーンディパーチャーアラート）.....250

PDA（プロアクティブドライビングアシスト）.....255

FCTA（フロントクロストラフィックアラート）.....260

発進遅れ告知機能 262

RSA（ロードサインアシスト）.264

レーダークルーズコントロール 267

クルーズコントロール.....276

ドライバー異常時対応システム 279

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）.....282

ITS Connect.....286

BSM（ブラインドスポットモニター）.....292

後方車両接近告知 298

周辺車両接近時サポート（録画機能、通報提案機能）.....300

後方車両への接近警報.....304

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）.....306

安心降車アシスト 308

クリアランスソナー.....312

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）.....318

RCD（リヤカメラディテクション）.....322

PKSB（パーキングサポートブレーキ）.....326

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）..... 330
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）..... 332
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）..... 333
マルチテレインモニター..... 335
ドライブモードセレクトスイッチ..... 398
AHC（アクティブハイトコントロール）..... 400
フルタイム 4WD..... 407
フロントデフロック..... 410
リヤデフロック..... 412
クロールコントロール（ターンアシスト機能付き）..... 413
マルチテレインセレクト..... 418
ダウンヒルアシストコントロールシステム..... 421
プラスサポート（販売店装着オプション）..... 423
排出ガス浄化装置（GPF）..... 428
運転を補助する装置..... 429

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転..... 436

運転にあたって

安全運転を心がけて、手順に従って走行してください。

安全に走行するには

■ エンジンを始動する

→P.188

■ 発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P.194）
2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキを解除する（→P.197）
3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける（→P.197）

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。（→P.194）

■ 駐車する

1 車を完全に停止させる
2 パーキングブレーキをかけて（→P.197）、シフトレバーを P にする（→P.194）

シフトレバーを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

3 エンジンスイッチを押してエンジンを停止する
4 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

■ 上り坂で発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P.194）
2 パーキングブレーキスイッチを引いて、手動でパーキングブレーキをかける（→P.197）
3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏む
4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキスイッチを押し、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。（→P.430）

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況

に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

●車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき

●アクセルペダルを離したとき

●ブレーキペダルを踏んだとき

■エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■運転標識の取り付けについて

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

●暑い日に長い上り坂を走行する

●高速走行直後に急減速や急停止をする

■エンジン停止前のアイドリング運転について

ターボ装置などの損傷を防ぐため、高速走行・登坂走行直後は、アイドル運転を行ってからエンジンを停止してください。

走行状況	アイドル運転時間
市街地、郊外等の一般走行	不要
高速走行（約 100km/h 定速）	不要
山岳ドライブウェイなどの急な登坂路走行およびレース場などの 100km/h 以上の連続走行	約 1 分

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、バッテリーの残量や使用状況によっては、車両が停止する前に操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になるおそれがあります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.530 を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→P.193)

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・デジタルインナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

●シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。

急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出したりして乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■すべりやすい路面を運転するとき

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

●急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

警告

●走行中にシフトレバーをNに入れると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

●アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

●空ぶかしをしないでください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する

・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす

・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●フロントウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

警告

- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPに入れ、エンジンを停止し、施錠してください。
  エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
  パーキングブレーキをかけずにシフトレバーをPにした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- トランスファースイッチを操作した際、L4 作動表示灯が点灯または消灯する前にシフトレバーを操作すると、トランスファーの切りかえが完了せず、シフトポジションに関係なく駆動軸が拘束されません。(表示灯が点滅し、ブザーが鳴ります)
  この場合、シフトレバーをPに入れても車両が動くおそれがあり危険です。必ず、トランスファーの切りかえを完了させてください。
  (→P.407)
- エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。やけどをするおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
  ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。
  また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
  この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。
  また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。
- ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

警告

■万一脱輪したときは

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■運転しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP.555 を参照してください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは、必ずレクサス販売店で次の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●エンジン・オートマチックトランスミッション・トランスファー・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化

●プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

急発進および後退速度の抑制（ドライブスタートコントロール）

■ 急発進の抑制制御

● アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、エンジン出力を抑制することがあります。

- R に切りかえたとき ※
- P または R から、D などの前進シフトポジションに切りかえたとき ※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※ 状況によっては操作できない場合があります。

● 後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき、車速の急速な上昇を抑えるためにエンジン出力を抑制※することがあります。

※ 状況によっては出力を抑制できない場合があります。

■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるようにエンジン出力を抑制※します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに“速度抑制中”が表示されます。

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

知識

■ ドライブスタートコントロールについて

● アクティブ TRC の作動を停止（→P.431）すると、急発進の抑制制御も停止します。急発進の抑制制御により、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、アクティブ TRC の作動を停止してください。（→P.431）

また、次のときは急発進の抑制制御は作動しません。

・ トランスファースイッチが L4 にあるとき
・ センターデフロック状態のとき
・ マルチテレインセレクトを選択しているとき

● タイヤがスリップ（空転）していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。

● 後退速度の抑制制御の ON（作動）／OFF（非作動）を切りかえることができます。（→P.583）

・ エンジンスイッチを ON にしたときは、後退速度の抑制制御は常に ON（作動）になっています。
・ 後退速度の抑制制御を OFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。

● 次のときは後退速度の抑制制御は作動しません。

・ トランスファースイッチが L4 にあるとき
・ センターデフロック状態のとき

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元

・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）

・トノカバー（装着車のみ）

・インストルメントパネル

・ダッシュボード

・フタのない小物入れ／トレイ

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

●ルーフレールには直接荷物を置かないでください。荷くずれを起こしたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ルーフレールを使用するときは

ルーフラゲージキャリアに荷物を積むときは、次のことをお守りください。

●車両に荷重が均等になるように荷物を積んでください。

●車両の大きさ（全長、全幅）をこえる荷物を積まないでください。

●走行する前に、荷物が確実に固定されていることを確認してください。

警告

- ルーフラゲージキャリアに荷物を積むと、車両の重心が高くなります。高速走行、急加速、急旋回、急ブレーキなどは避けてください。車両を適切に操作することができなくなることで横転し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 長距離走行、荒れた路面での走行、高速走行をするときは、時おり車両を止めて、荷物が固定した位置にあることを確認してください。
- 75kg 以上の荷物を積まないでください。

注意

■荷物を積むとき

ムーンルーフに荷物がふれないようにしてください。お守りいただかないと傷が付いたり割れたりするおそれがあります。

トレーラーのけん引（ヒッチメンバー付き車）

接続部品を取り付けることによりトレーラーがけん引可能になります。必要な部品などの情報はレクサス販売店にお問い合わせください。

けん引するときは各部品の取扱説明書もお読みいただき、記載された内容に従って正しくお使いください。

トレーラーをけん引する場合は、運輸支局・検査登録事務所へ所定の申請が必要となります。詳細は、レクサス販売店または、運輸支局・検査登録事務所へお問い合わせください。

トレーラーをけん引すると、ハンドル操作・走行性能・制動力・耐久性・燃費に悪影響をおよぼします。ご自身の安全と安心のために、正しい器具を適切に使用し、走行習慣にも注意を払ってください。また、車両・トレーラーに過積載しないでください。

トレーラーを安全にけん引するため、十分な注意を払い、トレーラーの特性と操作状況に応じた走行を行ってください。

けん引する前に

■ 重量制限について

トレーラーをけん引する前に、車両のけん引能力・車両総重量を確認してください。（→P.582）

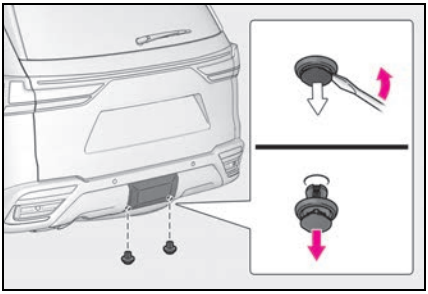
トレーラーをけん引するときは

次のシステムが正常に作動しないおそれがあるため、各システムを OFF にしてください。

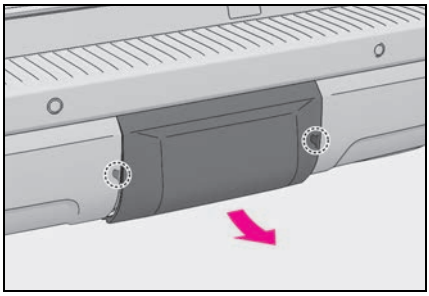
- LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.243）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）（→P.250）
- レーダークルーズコントロール（→P.267）
- クルーズコントロール（→P.276）
- BSM（ブラインドスポットモニター）（→P.292）
- クリアランスソナー（→P.312）
- RCTA（リヤクロストラフィックアラート）（→P.318）
- RCD（リヤカメラディテクション）（→P.322）
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→P.326）

ヒッチカバーの取りはずし

1 クリップを取りはずす

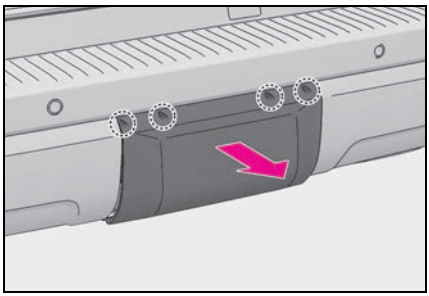


2 ヒッチカバーの下端を手前に引いて、ツメ（2ヶ所）を取りはずす



3 ヒッチカバー本体を手前に引いて取りはずす

カバーをもとにもどすときは、逆の手順で取り付けてください。



警告

この項目に記載されている、すべての指示に従ってください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■事故や傷害の発生を防ぐために

- トレーラーを連結するときは、車高を L モードにしてから、AHC を OFF にしてください。AHC が OFF になっていないと、オートレベリング機能によって車高がかわり、体が車両に挟まるなどの事故につながるおそれがあり危険です。（→P.400）

警告

- トレーラーをけん引しているときは、レーダークルーズコントロールやクルーズコントロールを使用しないでください。

■トレーラーをけん引するときは

- 許容車両総重量・けん引能力および合計重量をこえていないことを確認してください。(→P.582)
- 連結するトレーラーの各機能が正常に作動することを確認してください。
- 接続部品が確実に取り付けられていることを確認してください。

■けん引時の車速について

けん引時の法定最高速度をお守りください。

■長い下り坂を走行するときは

減速し、ダウンシフトしてください。急激なダウンシフトを行わないでください。

■ブレーキペダルの操作について

ブレーキペダルをくり返し踏んだり、長時間踏み続けたりしないでください。

ブレーキの過熱や、ブレーキ性能の低下などにつながるおそれがあります。

注意

■ヒッチについて

トレーラーのヒッチは、メーカーごとに許容荷重が異なります。車両がより大きなけん引能力を備えていたとしても、装着されているヒッチの許容荷重を把握し、ヒッチの許容荷重を絶対にこえないようにしてください。ヒッチのメーカーが設定した許容荷重をこえると、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■トレーラーのランプについて

トレーラー側のランプ類で使用できる電力量は、次のとおりです。下記の電力量を上まわるランプ類を使用しないでください。また、装飾等の目的でのランプ類の増設も行わないでください。

- 制動灯：合計 42W 以下（例：21W×2 灯）
- 方向指示灯（右）：合計 21W 以下（例：21W×1 灯）
- 方向指示灯（左）：合計 21W 以下（例：21W×1 灯）
- 尾灯・番号灯・車幅灯：合計 10W 以下（例：5W×2 灯）
- 後退灯：合計 32W 以下（例：16W×2 灯）

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンをかけるには

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く（→P.197）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されます。

表示されないと、エンジンは始動しません。

4 指紋認証システムが ON のとき：エンジンスイッチの指紋センサーに指紋情報を登録した指をタッチして指紋認証をする（→P.67）

指紋認証に成功すると “ピッ” とブザーが鳴ります。

極端に素早い操作や指をスライドさせながらの操作をすると指紋認証に失敗することがあります。

5 エンジンスイッチを短く確実に押す

指紋認証システムが ON のときは、指紋認証に成功し、“ピッ” とブザーが鳴ったあと、約 5 秒以内にエンジンスイッチを押してください。時間がかかりすぎると、再度指紋認証をする必要があります。

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

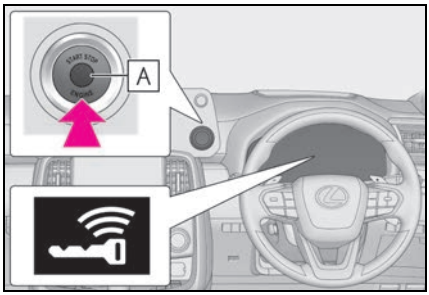
エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。

プラスサポート★をご使用の方は、P.423 も併せて参照してください。

★：グレード、オプションなどに より、装備の有無があります。



A 指紋センサー

知識

■エンジンスイッチ文字照明演出

状況に応じて、次のようにエンジンスイッチ照明が切りかわります。

- 運転席または助手席ドアが開いているときは、エンジンスイッチ照明が点灯します。
- 電子キーを携帯したままブレーキペダルを踏むと、エンジンスイッチ照明が明るく点灯します。
- エンジンスイッチがACCまたはONのときは、エンジンスイッチ照明が点灯します。

●エンジンスイッチをACCまたはONからOFF にしたときは、エンジンスイッチ照明がしばらく点灯し、その後消灯します。

■エンジンが始動しないとき

●エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。
（→P.62）
レクサス販売店へご連絡ください。

●始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

●メカニカルキーを使ってドアを解錠した場合は、スマートエントリー＆スタートシステムでエンジンを始動することができません。エンジンを始動するには、P.568 を参照してください。または、乗車中に電子キーを携帯し、施錠した場合（→P.106）はエンジンを始動できます。

■バッテリーがあがったとき

スマートエントリー＆スタートシステムでエンジンを始動することができません。エンジンを始動するには、P.569 を参照してください。

■指紋認証について

●指紋情報の登録本数によって、指紋認証の照合に時間がかかることがあります。

●指紋センサーにタッチするときは、指がセンサーの全面にかかるようにしてください。指先や指の側面で押すと認証できないことがあります。

●タッチ操作はゆっくり行ってください。速すぎたり、強すぎたり、スライドしながら触ると、正常に認識できないことがあります。

●爪が長いなどの理由で、指紋認証に使用する指でエンジンスイッチを押しにくいときは、指紋認証に成功したあと、一度指を離してから、押すことが可能な別の指でエンジンスイッチを押してください。

●指紋情報を登録済みのお客様が不明、または指紋認証に成功しない場合、ブレーキペダルを踏みながら電子キーをエンジンスイッチにかざし、エンジンスイッチを押してください。
（→P.568）

■電子キーの電池の消耗について

→P.99

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P.126

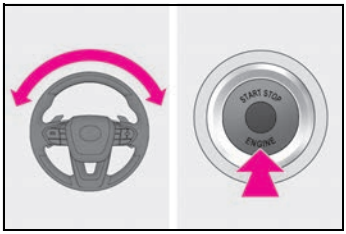
■ご留意いただきたいこと

→P.126

■ステアリングロック機能

●エンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

●ステアリングロックが解除できないときは、マルチインフォメーションディスプレイに “ハンドルを左右に回しながらエンジンスイッチを押してください” が表示されます。シフトレバーが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながらエンジンスイッチを短く確実に押してください。



●短時間にエンジンの始動・停止をくり

返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに“スマートエントリー＆スタートシステム故障 取扱書を確認”が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■電子キーの電池交換

→P.520

■エンジンスイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやエンジンの始動ができない場合があります。

●エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、P.568 を参照してください。

警告

■エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■エンジンを始動するとき

●エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。

●もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。

エンジンを停止するには

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかける（→P.197）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

3 シフトレバーを P の位置にする（→P.194）

シフトレバーを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

4 エンジンスイッチを短く確実に押す

エンジンが停止し、メーター表示が消えます。

エンジンスイッチを押すときは、シフトレバーから手を離してください。

5 ブレーキペダルから足を離してメーターの“アクセサリー”や“パワー ON”の表示が消灯していることを確認する

警告

■緊急時のエンジン停止方法

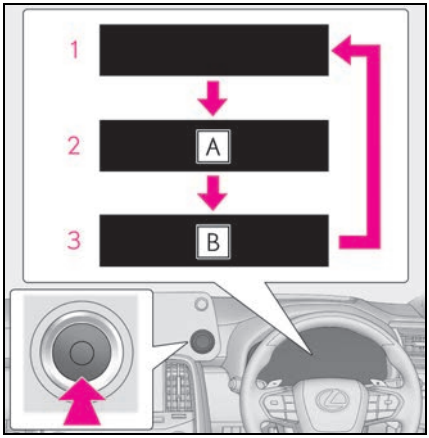
●走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→P.530)ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、バッテリーの残量や使用状況によっては、車両が停止する前に操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になるおそれがあります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

●走行中にエンジンスイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。

●走行中にエンジンを緊急停止したあと、走行中にエンジンを再始動させる場合は、シフトレバーを N にし、エンジンスイッチを短く確実に押してください。

エンジンスイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)



A アクセサリー

B パワー ON

1 OFF※1

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC※2

オーディオなどの電装品が使用できます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。

※1シフトレバーが P 以外またはシフトレバーのボタンを押しているときは ON のままになり、OFF になりません。

※2カスタマイズメニューで ON ／ OFF を切りかえることができます。(→P.584)

知識

■ACC カスタマイズが OFF のとき

●エンジンスイッチ OFF の状態でも、節電機能が働くまでの一定時間はマルチメディアシステムが使用できます。

●安心降車アシスト作動時、ブザー吹鳴に加え音声でも案内します。

■自動電源 OFF 機能

●シフトレバーが P にあり、シフトレバーのボタンを押していないとき、数分以

上 ACC か ON（エンジンが始動していない状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。

●シフトレバーが P にあり、シフトレバーのボタンを押していないとき、エンジンスイッチが ACC または ON（エンジンが始動していない状態）のときにバッテリーの残量が少なくなると、ブザーが鳴りマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。そのままの状態を続けると、エンジンスイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

●エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

●エンジンがかかっていないときに、メーターの “アクセサリー” または “パワー ON” の表示が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーが P 以外またはシフトレバーのボタンを押しているときにエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーを P の位置にする

シフトレバーを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

3 メーターに “パワー ON” が表示されていることを確認し、エンジンスイッチを短く確実に押す

4 メーターの “アクセサリー” または “パワー ON” の表示が消灯していることを確認する

注意

■バッテリーあがりを防止するために

シフトレバーが P 以外またはシフトレバーのボタンを押している状態でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外またはシフトレバーのボタンを押している状態でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチは ON のままになるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因になります。

オートマチックトランスミッション

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはエンジンの始動・停止
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※1
M	M モード走行 ※2 (→P.196)

※1燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※2シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作して変速段を切りかえることにより、適切なエンジンブレーキ力が得られます。

知識

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■オートマチックトランスミッションの保護制御

●ぬかるみや砂地・雪道などでスタックしてタイヤが空転する状態が続くときや、走行時にアクセルペダルをくり返し踏んだり離したりする状況が続くと、トランスミッションが高温になり損傷するおそれがあります。
このとき、トランスミッションが損傷しないように、ギヤ段が一時的に固定される場合があります。
トランスミッションの温度が下がるとギヤ段の固定は解除され、通常作動にもどります。

●トランスミッションフルードの温度が高くなると、マルチインフォメーションディスプレイに “トランスミッションオイル高温　安全な場所に停止し取扱書を確認してください” が表示されます。
ただちに安全な場所に停車し、シフトレバーを P にして、エンジンをかけたまま温度が下がるまで待ちます。しばらくして表示が消えたら、走行可能になります。表示が消えないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

■レーダークルーズコントロールまたはクルーズコントロールを使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、レーダークルーズコントロールまたはクルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは効きません。

●シフトレバーを D の位置で走行中に D9・D8・D7 レンジにシフトダウンしたとき（→P.195）

●シフトレバーをDの位置で走行中に走行モードをスポーツ S モード・スポーツ S+ モードにしたとき（→P.398）

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→P.182

■AI-SHIFT

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤ段に切りかえます。

AI-SHIFT は、シフトレバーを D にして

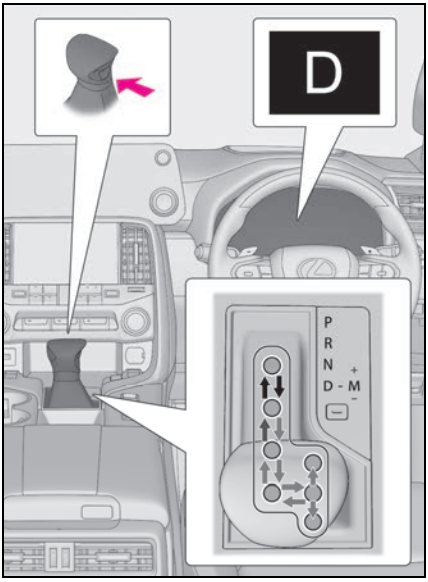
いるときに自動的に作動します。（シフトレバーを M にすると、機能が解除されます）

警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

シフトレバーの動かし方



エンジンスイッチが ON の状態で、ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーのボタンを押しながら操作します。※

シフトレバーのボタンを押しながら操作します。

シフトレバーのボタンを押さずそのまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

※ シフトレバーのボタンを押す前にブレーキペダルを踏んでください。シフトレバーのボタンを最初に押してもシフトロックは解除されません。

知識

■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

エンジンスイッチが ON でブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押した状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

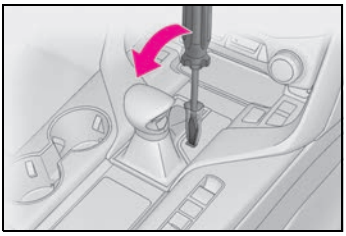
■シフトレバーをPからシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。
ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押した状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

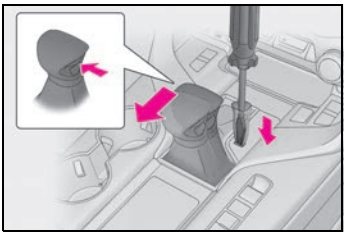
シフトロックの解除のしかた：

1 パーキングブレーキをかける
2 エンジンスイッチを OFF にする
3 ブレーキペダルを踏む
4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす
傷が付くのを防ぐため、マイナスドラ

イバーの先端に布などを巻いて保護してください。



5 シフトロック解除ボタンを押しながらシフトレバーのボタンを押す
シフトロック解除ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



警告

■シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

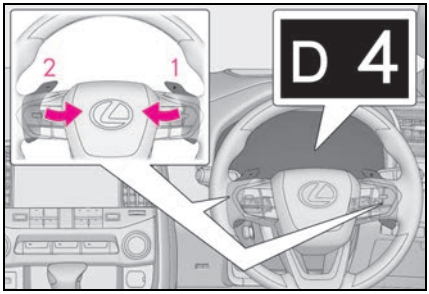
走行モードの選択

→P.398

D ポジションで変速段選択するには

シフトレバーを D ポジションで走行中、パドルシフトスイッチを操作することにより任意の変速段を選択することができます。

変速段を選択することで、使用する変速段の上限を制限し、不要なシフトアップを抑えたり、エンジンブレーキ力を切りかえたりすることができます。



1 シフトアップ
2 シフトダウン

D1 から D10 レンジのあいだで選択されている変速段がメーターに表示されます。

通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの “＋” 側を一定時間以上保持します。

知識

■変速段機能

- エンジンブレーキ力は、10 段階から選択が可能です。
- 変速段の数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

■Dポジションでのレンジ選択の自動解除

次のとき、自動的に D ポジションでのレンジ選択が解除されます。

●停車したとき

●アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき

●シフトレバーを D 以外にしたとき

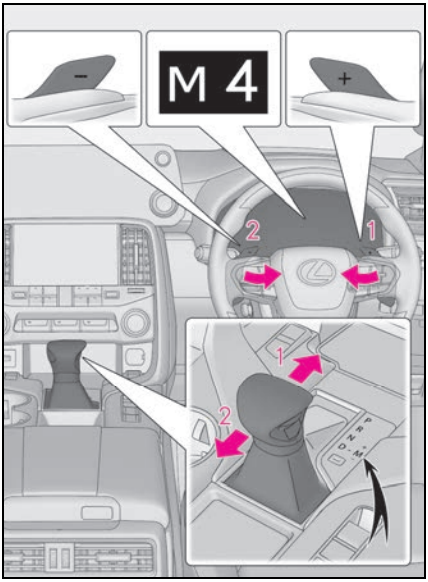
●パドルシフトスイッチの “＋” 側を長押ししたとき

■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、パドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

M モードでのギヤ段選択

シフトレバーを M ポジションにすると、M モードに切りかわります。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの操作で思い通りのギヤ段を選択し、運転することができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作するごとに 1 速ずつ変速します。

M1 から M10 の中で選択したギヤ段に固定され、ギヤ段がメーターに表示されます。

M ポジションでは、次の場合を除いてシフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作しない限り、変速しません。

● 車速が低下した場合（シフトダウンのみ）

● エンジン冷却水が低温のときや、オートマチックトランスミッションフルードが高温または低温のときなど、エンジンやオートマチックトランスミッションの保護が必要な場合

また、車速が低い場合はシフトアップ操作をしても変速しません。

知識

■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

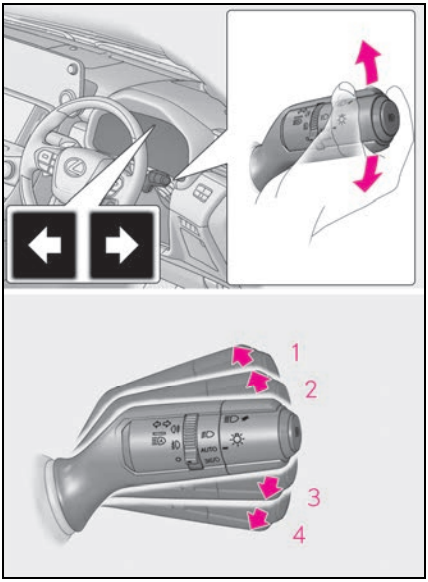
■シフトレバーを M にしてもシフトポジション・ギヤ段表示に M が表示されないとき

システム異常のおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。



1 左折

2 左側へ車線変更
（レバーを途中まで動かして離す）

左側方向指示灯が 5 回点滅します。

3 右側へ車線変更
（レバーを途中まで動かして離す）

右側方向指示灯が 5 回点滅します。

4 右折

知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

レクサス販売店で点検を受けてください。

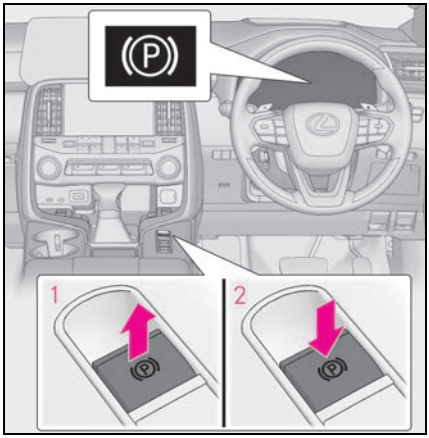
パーキングブレーキ

自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。
オートモードのときは、シフトレバーの操作に応じてパーキングブレーキが自動で作動します。また、オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。



1 スイッチを引き、パーキングブレーキをかける

パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるとき、スイッチを引き続けてください。

2 スイッチを押し、パーキングブレーキを解除する

・ ブレーキペダルを踏みながら操作して

ください。

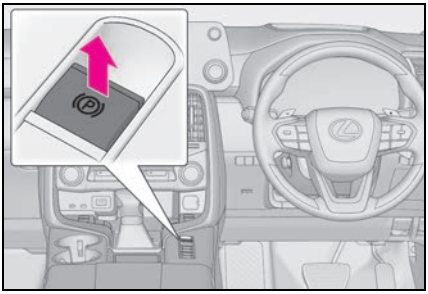
・パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。（→P.198）

解除後、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

パーキングブレーキ表示灯が点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。（→P.543）

■ オートモードを ON にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを引き続ける



オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

● シフトレバーをPからP以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

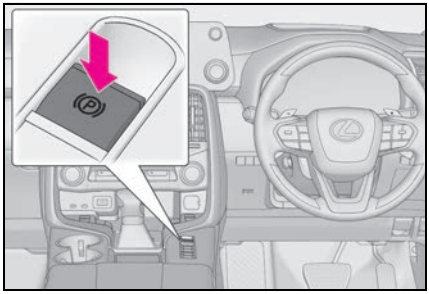
● シフトレバーをP以外からPにすると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

シフトレバーは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

急なシフト操作を行ったときやブレーキペダルが十分に踏み込まれていないときに、オートモードが作動しない場合があります。その場合は、手動でパーキングブレーキを操作してください。（→P.197）

■ オートモードを OFF にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続ける。



知識

■パーキングブレーキの作動

●エンジンスイッチが ON 以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。

●エンジンスイッチが ON 以外では、オートモード（かける・解除する）は作動しません。

■パーキングブレーキ自動解除機能について

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

●運転席ドアが閉まっているとき

●運転席シートベルトを着用しているとき

●シフトレバーが前進もしくは後退の位置にある

●エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している

アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除しない場合、手動で解除してください。

オートモードではシフトレバーを P から P 以外にすると、パーキングブレーキが自動的に解除されます。

■パーキングブレーキ自動作動機能について

次の条件をすべて満たしたとき、パーキングブレーキが作動します。

●ブレーキを踏んでいない

●運転席のドアが開いている

●運転席のシートベルトを装着していない

●シフトレバーが P もしくは N 以外の位置にある

●エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している

■マルチインフォメーションディスプレイに “EPB が連続で操作されました しばらくお待ちください ” と表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “EPB 動作が途中で停止しました ” または “EPB 現在使用できません ” と表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作してもメッセージが消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキ表示灯について

●パーキングブレーキをかけたとき、エンジンスイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
ON：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
ON 以外：約 15 秒間点灯します。

●パーキングブレーキをかけた状態でエンジンスイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキスイッチが故障したとき

自動的にオートモードが ON になります。

■駐車するとき

→P.177

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに “EPB がロックされています ” が表示されます。（車速が 5km/h をこえたとき）

■ブレーキ警告灯が点灯したときは

→P.538

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.438

警告

■駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。

■パーキングブレーキ自動作動機能について

パーキングブレーキ自動作動機能を日常のパーキングブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本機能は運転者のパーキングブレーキかけ忘れによって起こる事故を軽減するための機能です。機能に頼ったり、安全を委ねて駐車をしたりすると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■駐車するとき

車から離れるときは、シフトレバーをPにし、パーキングブレーキをかけて、車が動かないことを確認してください。

■システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告メッセージを確認してください。

■バッテリーがあがったとき

パーキングブレーキシステムを作動させることはできません。(→P.569)

■故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

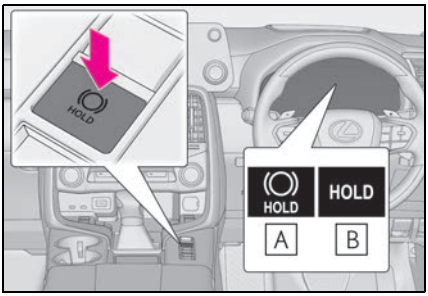
ブレーキホールド

シフトレバーがD・M・NまたはPでブレーキホールドシステムがONのとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーがDまたはMのとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムをONにする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯A（緑）が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯B（黄）が点灯します。



知識

■システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムをONにできません。

- 運転席ドアが閉まっていない
- 運転席シートベルトを着用していない
- マルチインフォメーションディスプレイに、“EPB動作が途中で停止しました”や“EPB故障　販売店で点検してください”が、表示されている

ブレーキホールドシステムがONのときに上記いずれかを検出したときは、システムがOFFになり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ブレーキ保持について

- ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約3分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 急坂路ではブレーキ保持できないことがあり、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
- ブレーキ保持中にシステムをOFFにするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。
- パーキングブレーキを自動的に作動させたくない場合は、ブレーキホールドスイッチを押してスタンバイ表示灯（緑）が消灯したのを確認してからエンジンスイッチをOFFにしてください。

■ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

- 運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む
- ブレーキペダルを踏みながら、パーキ

ングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。（→P.197）

■レクサス販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに“BrakeHold 故障 ブレーキを踏み解除ください 販売店で点検してください”または“BrakeHold 故障 販売店で点検してください”と表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキホールドシステムと他制御を同時に作動させた場合

次のいずれかのときは、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●ブレーキホールド作動不可
・ダウンヒルアシストコントロールシステムが作動中に、ブレーキホールドスイッチを押した場合
・トランスファーが L4 レンジの状態で、DAC/CRAWL スイッチを押した場合

●ブレーキホールド現在使用不可
・ブレーキホールドシステムが作動中に、DAC/CRAWL スイッチを操作した場合
・ブレーキホールドシステムが作動中に、トランスファーを L4 レンジにした場合

ブレーキホールドシステムは、ダウンヒルアシストコントロールシステムまたはトランスファーが L4 状態と同時に作動させることができません。

ブレーキペダルを踏んだ状態でブレーキホールドスイッチを押し、ブレーキホールドシステムを OFF にしてください。

■ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→P.543

警告

■急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

また、勾配によってはシステム自体が作動しないことがあります。

■すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

注意

■駐車するとき

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にエンジンスイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。エンジンスイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

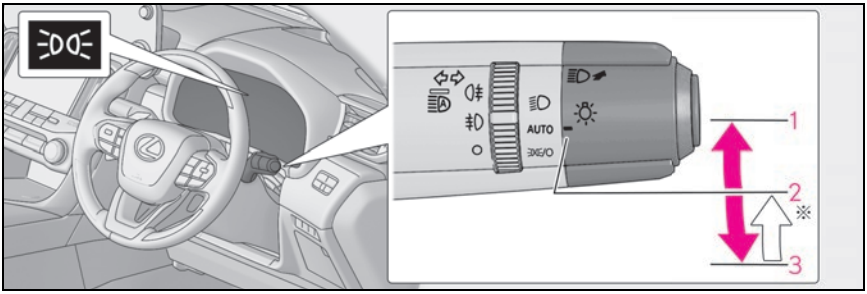
ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯／消灯のしかた

■ 点灯する

次のように スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを 3の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2AUTOの位置へもどります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
1	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
2AUTO	LED デイタイムランニングランプ（→P.205）が点灯 ※2	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
3※1	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※3

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを意味します。

※1 3の状態に切りかえるには、 スイッチを下にまわした状態で約 1 秒保持してから、手を離します。

約 1 秒保持しないと、ランプ類の作動は 2AUTOのまま変化しません。

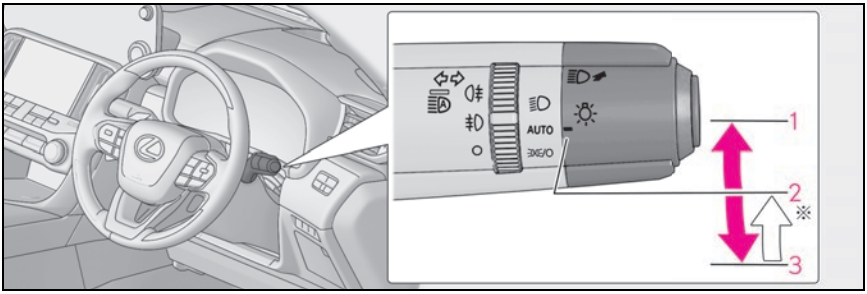
※2 周囲の明るさに従って、尾灯・番号灯が自動的に点灯・消灯します。

※3 停車中から低車速での走行中にのみ、点灯します。ただし、一定の車速をこえるか、走行開始後しばらくすると自動で解除され、2AUTOでの点灯状態にもどります。

■ 消灯する

スイッチを 3の位置で約 2 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に 1か 3の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを 3の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2AUTOの位置へもどります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
3	ヘッドランプ・スモールランプ・LED デイタイムランニングランプ（→P.205）が消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯 ※

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを意味します。

※ シフトレバーが P にある、またはパーキングブレーキがかかっているときに消灯できます。シフトレバーを P 以外にしてパーキングブレーキを解除すると、消灯状態は解除されます。

知識

■AUTO モードの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■LED デイタイムランニングランプ

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、エンジン始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチをAUTOにすると、LED デイタイムランニングランプが自動で点灯します。（車幅灯より明るく点灯します）

LED デイタイムランニングランプは夜間の使用を意図したものではありません。

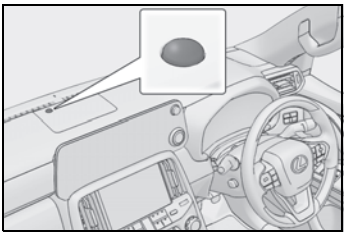
■自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ライトセンサーについて

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・

消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチを ACC、または OFF にするとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチを ON にするか、一度ランプスイッチをAUTOにしてからOFFまたは

の位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

エンジンスイッチが ACC または OFF のとき、ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチが OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 10 分後すべてのランプが自動消灯します。

エンジンスイッチを ON にすると節電機能は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き約 10 分後すべてのランプが自動消灯します。

●ランプスイッチを操作したとき

●ドアを開閉したとき

■ドアを解錠するとき（おむかえ照明機能）

ランプスイッチがAUTOで車両周辺が暗いとき、スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠すると、車幅灯が自動で点灯します。

■ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能

日中での走行時、ランプスイッチがAUTOでワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドランプが自動点灯します。

■制動灯について

尾灯の点灯または消灯により、制動灯の点灯状態が変わります。

■カスタマイズ機能

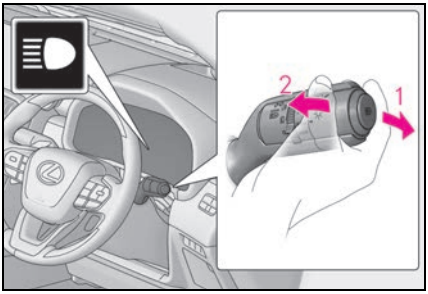
ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.583）

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプを長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには



1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

コーナリングランプ

ヘッドランプ（ロービーム）点灯時に次のいずれかの条件を満たしたとき、夜間走行時の交差点や駐車時に優れた視認性を確保するため、コーナリングランプが追加点灯し車両進行方向を照射します。

- ハンドルを操作したとき
- 方向指示レバーを操作したとき
- シフトレバーが R のとき（左右両側のコーナリングランプが点灯）

知識

■コーナリングランプ制御について

- 車速が約 30 km/h 以下のときに点灯します。ただし、約 35 km/h 以上になると消灯します。
- 点灯した状態で 30 分間経過すると、自動で消灯します。

AHS（アダプティブハイビームシステム）

アダプティブハイビームシステムは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、ヘッドランプの配光を制御します。

警告

■安全にお使いいただくために

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■アダプティブハイビームシステムの誤作動を防ぐために

● システムを OFF にする必要があるとき：→P.224

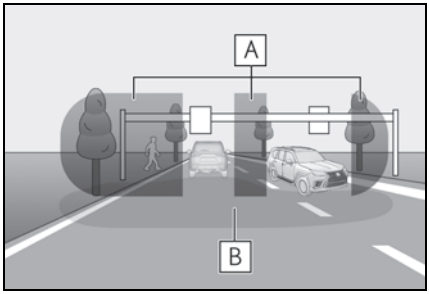
システムの制御

● 車速に応じて、ハイビームの明るさと照らす範囲を調整します。

● カーブを走行しているとき、進行方向側をハイビームでより明るく照らします。

● 前方車両の周辺を遮光したハイビームを点灯します。（遮光ハイビーム）

前方車両へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。



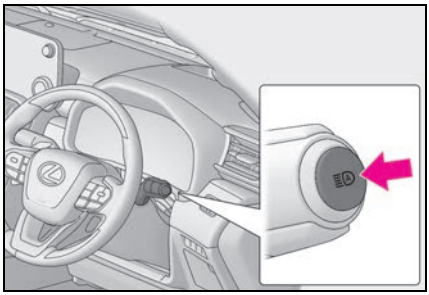
A ハイビームで照らす範囲

B ロービームで照らす範囲

● 先行車との距離に応じて、ロービームの照らす範囲を調整します。

アダプティブハイビームシステムを使うには

1 アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

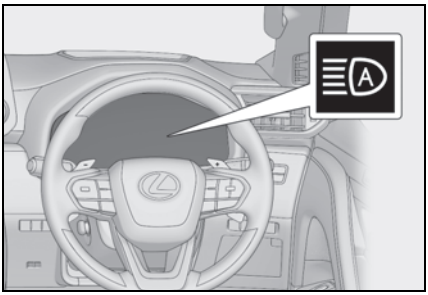


2 ランプスイッチをAUTOまたは

にする

レバーがロービームの位置にあるとき、アダプティブハイビームシステムが作動

し、AHS 表示灯が点灯します。



知識

■システムの作動条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯し、システムが作動します。
・車速が約 15km/h 以上※
・車両前方が暗い

※車速が約 30km/h 以上になると、カーブ走行時に進行方向側を明るく照らします。

●次の条件をすべて満たすと、前方車両の位置に応じて遮光ハイビームに切りかわります。
・車速が約 15km/h 以上
・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいる
・前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない

●次の条件のいずれかのとき、ロービームに切りかわります。
・車速が約 12km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両の台数が多い
・前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

■前方カメラの検知について

●次のような状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切りかわらない場合があります。
・車両が割り込んできたとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が遠方を走行しているとき
・前方車両が無灯火のとき
・前方車両のランプ類の照度が低いとき
・前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.229

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板・反射板（リフレクター）などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合や切りかわらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。

●次の原因により、遮光範囲の追従速度やロービームへの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両との車間距離
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
・システムを OFF にする必要があるとき：→P.224
・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.229

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.583）

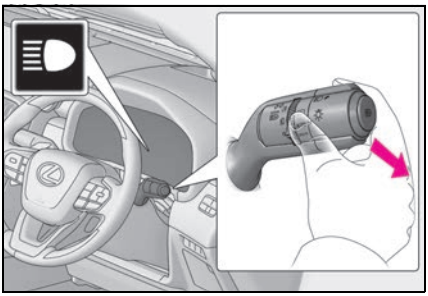
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

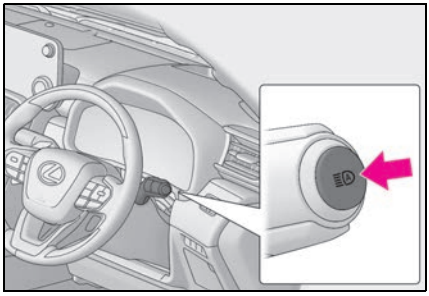


■ ロービームへの切りかえ

アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度スイッチを押します。

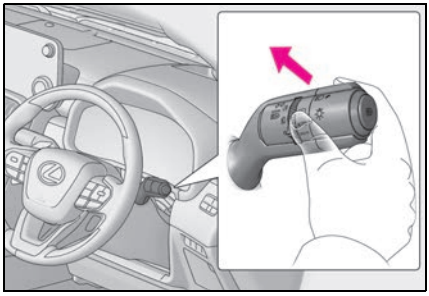


一時的なロービームへの切りかえ

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度アダプティブハイビームシステムが作動します。



AHB（オートマチックハイビーム）

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告

■安全にお使いいただくために

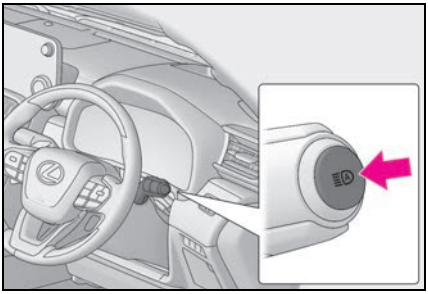
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

●システムを OFF にする必要があるとき：→P.224

オートマチックハイビームを使うには

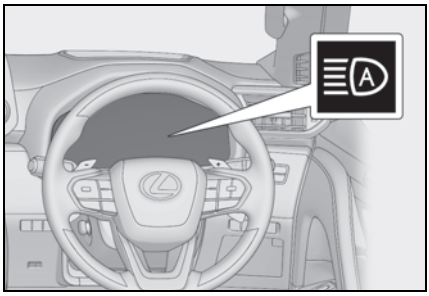
1 オートマチックハイビームスイッチを押す



2 ランプスイッチをAUTOまたは

にする

レバーがロービームの位置にあるとき、オートマチックハイビームシステムが作動し、AHB 表示灯が点灯します。



知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
・車速が約 30km/h 以上
・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいない
・前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない

●次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
・車速が約 25km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両がランプを点灯している
・前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

■前方カメラの検知について

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
・車両が割り込んできたとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が遠方を走行しているとき
・前方車両が無灯火のとき

・前方車両のランプ類の照度が低いとき
・前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.229

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両との車間距離
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
・システムを OFF にする必要があるとき：→P.224
・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.229

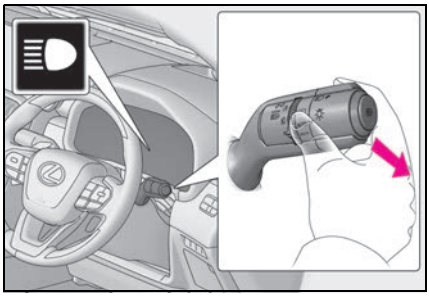
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

AHB 表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

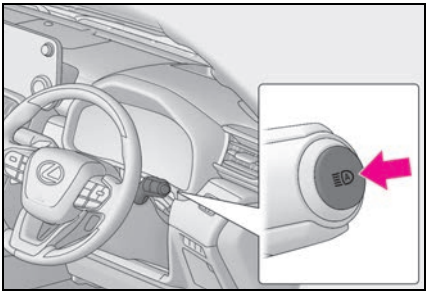


■ ロービームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

AHB 表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度オートマチックハイビームスイッチを押します。

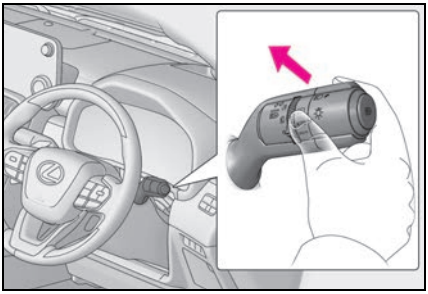


一時的なロービームへの切りかえ

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

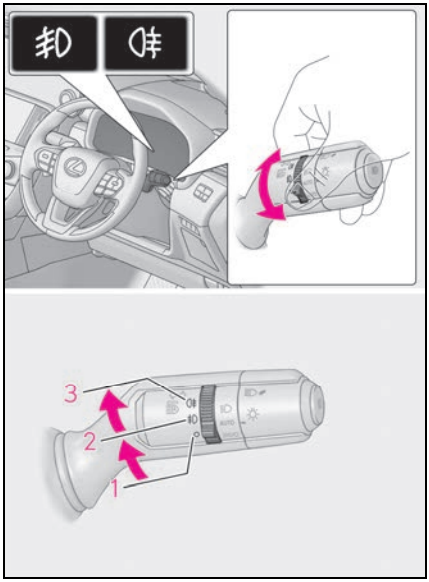
レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。



フォグランプスイッチ

雨や霧などの悪天候下では、前方の視界を確保するためにフロントフォグランプを、後続車に自車の存在を知らせるためにリヤフォグランプを点灯させます。

操作のしかた



1 ○ 消灯する

2 フロントフォグランプを点灯する

3 フロント＆リヤフォグランプを点灯する

手を離すとの位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。

知識

■点灯条件

フロントフォグランプ：車幅灯が点灯しているときに使用できます。
リヤフォグランプ：フロントフォグランプが点灯しているときに使用できます。

■リヤフォグランプについて

●リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー＆ウォッシャー（フロント）

レバー操作で、ワイパーの作動を自動／手動に切りかえたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

注意

■フロントウインドウガラスが乾いているときは

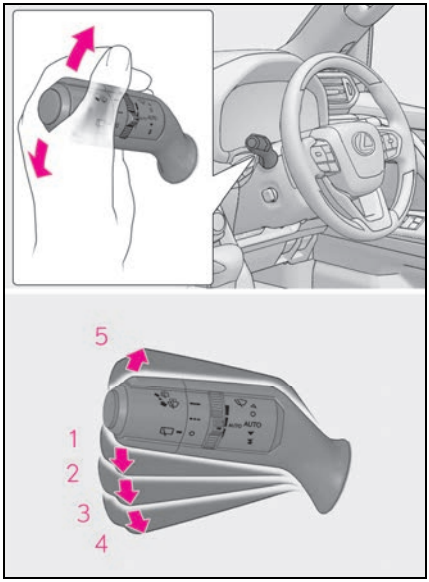
ワイパーを使わないでください。

ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

AUTO を選択したときは、雨滴量や車速に応じてワイパーが自動で作動します。



1 ○ 停止

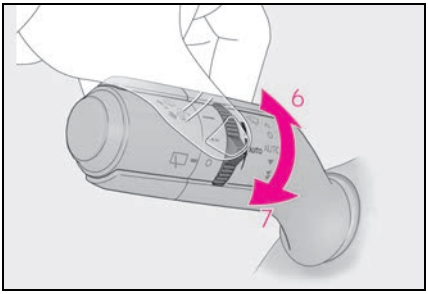
2 AUTO 雨滴感知オート作動

3 ▼ 低速作動

4 ▼▼ 高速作動

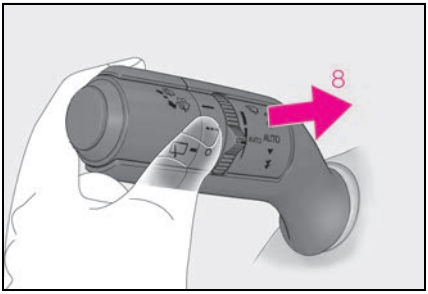
5 ▲ 一時作動

AUTO が選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。



6 雨滴センサーの感度調整（高）

7 雨滴センサーの感度調整（低）



8 ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

（数回作動したあと、液だれ防止としてさらに 1 回作動します）

ヘッドランプが点灯しているときに 5 回連続で手前に引くとヘッドランプクリーナーが作動します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して次の操作をすることができます。

●フロントワイパーを 1 回のみ作動

●ウォッシャー液を出す（停車中のみ操作可能）

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

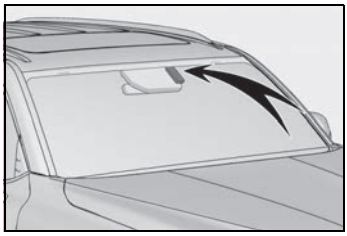
■車速による作動への影響

低速作動選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。（雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます）

■雨滴感知センサー

●雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



●エンジンスイッチが ON のときにワイパースイッチを AUTO にすると、作動確認のためワイパーが 1 回作動します。

●ワイパースイッチが AUTO のときに雨滴感知センサーの感度調整を高側へ調整すると、作動確認のためにワイパーが 1 回作動します。

●雨滴感知センサーの温度が 80 ℃以上または－ 30 ℃以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■AUTO モード時のワイパー作動について

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが働くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ウォッシャーを使用するとき

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。

ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。

ノズルが損傷するおそれがあります。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）

レバー操作でワイパーを作動させたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

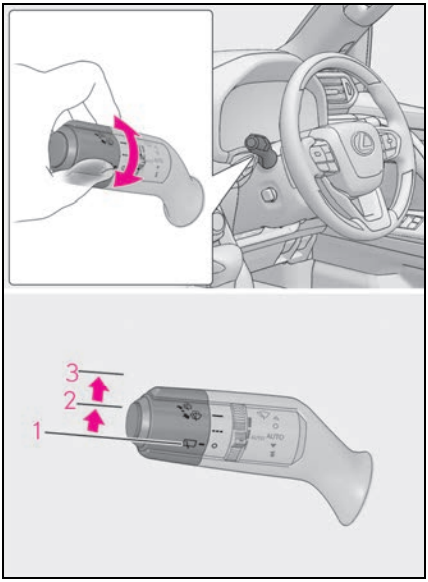
⚠ 注意

■リヤウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

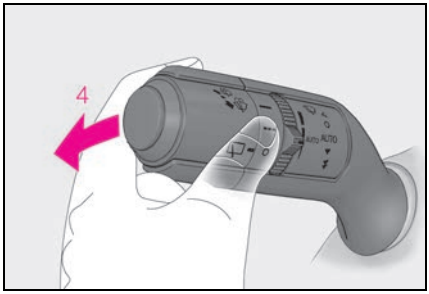
次のように スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。



1 ○ 停止

2 - - - 間欠作動

3 ━━ 通常作動



4 ウォッシャー液を出す

レバーを前方へ押すとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

カメラ洗浄システムも連動して作動します。（→P.388）

知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して次の操作をすることができます。

- リヤワイパーを 1 回のみ作動
- ウォッシャー液を出す（停車中のみ操作可能）

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■液だれ防止機能

ウォッシャー液を出すと、数秒後に液だれ防止としてワイパーがもう 1 度作動します。

■バックドア開連動リヤワイパー停止機能

停車状態でリヤワイパーが作動しているときにバックドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。バックドアを閉めると作動を再開します。

■リバース連動機能

フロントワイパーが ・ ・ で作動中、かつリヤワイパーを作動させていないとき、シフトレバーを R の位置にすると、リヤワイパーが自動で 1 回作動します。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.583）

注意

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

給油口の開け方

給油する前に

● ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを OFF にしてください。

● 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類について

●無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）

●バイオ混合ガソリン（プレミアム）

■バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

警告

■給油するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

●気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しないでください。

●給油口にノズルを確実に挿入してください。

●継ぎ足し給油をしないでください。

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

注意

■給油するとき

●燃料をこぼさないでください。塗装が損傷する可能性があります。

●無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）が入手できないときは、無鉛レギュラーガソリンを使用することもできますが、次のような状態になるおそれがあります。

・ガソリンエンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する

・ガソリンエンジンの出力が低下する

●その他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用しないでください。その他の燃料を使用すると、次のような状態になるおそれがあります。

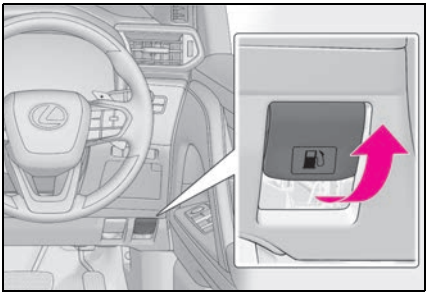
注意

・ガソリンエンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
・ガソリンエンジンの出力が低下する
・ガソリンエンジンの始動性が悪くなる
・排気制御システムが正常に機能しない
・燃料系部品が損傷する

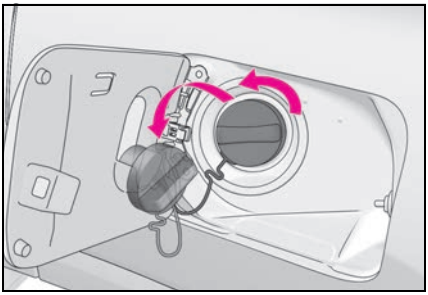
※ エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE 混合率 22%をこえるもの

給油口を開けるには

1 オープナーを上げて、給油扉を開ける



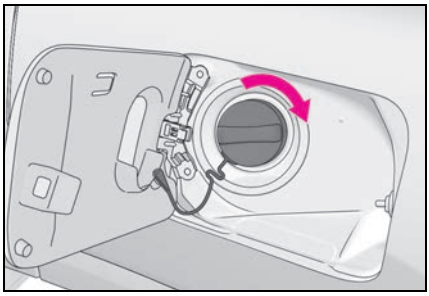
2 キャップをゆっくりまわして開け、ハンガーにかける



給油口を閉めるには

キャップを “カチッ” と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずレクサス販売店へご連絡ください。正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ソフトウェアアップデートを確認する（Lexus Safety System +／アドバンスト ドライブ［渋滞時支援］装着車）

G-Link ご利用契約中のお客様は通信モジュール（DCM）を使ってソフトウェアアップデートを実施することで、システムのアップデート・機能の変更／追加ができます。

警告

■安全にお使いいただくために

- Lexus Safety System +／アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）は、ソフトウェアを更新することで各機能の取り扱い方法が変わることがあります。正しい取り扱い方法を知らずにシステムを使用すると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- レクサス公式 Web サイトにある、システムのソフトウェアバージョンに合ったデジタル取扱説明書をお読みいただいた上でご使用ください。

Lexus Safety System +／アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）の取扱説明書での記載内容について

本取扱説明書では、Ver.3 までの情報を記載しています。Lexus Safety System +／アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）各機能の制御内容・取り扱い・警告／注意事項などの最新情報については、レクサス公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。

ご使用前に必ずシステムのソフトウェアバージョンに合った取扱説明書をお読みください。

知識

■ご使用にあたっての留意事項

- お客様の安全に関わる問題や法規上の問題が発生したときは、一時的に一部の機能を作動不可にすることがあります。あらかじめご了承ください。
- G-Link 利用契約が未契約／未更新の場合、無線通信によるソフトウェアアップデートは行われません。

自車の Lexus Safety System +／アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）のバージョンに合った取扱方法をお読みいただくには

システムのソフトウェアバージョンを確認した上で、レクサス公式 Web サイトにアクセスする必要があります。

■ マルチメディア画面※／スマートフォンでバージョンを確認する

運転支援機能の更新に関するお知らせ、または運転支援アップデートアプリケーションから現在のソフトウェアバージョンを確認することができます。

1 メインメニューの ⊞ にタッチする

2 “運転支援アップデート” にタッチする

※ マルチメディアのバージョンによっては表示されない場合があります。

■ 自車の Lexus Safety System +／アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）のバージョンに合った取扱方法をお読みいただくには

1 パソコンやスマートフォンから、以下 URL にアクセスする

URL	QR コード
https://manual.lexus.jp/safetysu/	

2 事前に確認したバージョンが含まれたファイルを選択する

知識

■デジタル取扱説明書について

ご希望の場合、印刷した冊子を購入することもできます。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

ソフトウェアを更新する

ソフトウェアアップデートがある場合、マルチメディア画面に通知画面が表示されます。画面の指示に従ってください。

ソフトウェアを更新することで、各機能の取り扱い方法が変わったり、機能が追加されたりすることがあります。

変更・追加された内容は、レクサス公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。

知識

■ソフトウェアアップデートについて留意事項

- 一度ソフトウェアアップデートを実施すると、前のバージョンにもどすことはできません。
- 通信環境や更新内容によって、ソフトウェアアップデートに数時間かかることがあります。エンジンスイッチを OFF にすると更新は中断されますが、再度 ON にすると

前回の続きから再開します。

●ソフトウェアアップデートに失敗した場合、前のバージョンでシステムを起動します。

●ソフトウェアアップデートの実施中でもLexus Safety System +／アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）を使用することができます。

●次のようなときは自動でソフトウェアアップデートを実施することがあります。

・システムの不具合など、お客様の安全に関わる問題が発生したとき ※

・法規上の問題が発生したとき ※

・取り扱い方法や性能に影響がない、軽微な修正を行うとき

※ すべての更新内容がインストールされ、ソフトウェアが最新の状態になることがあります。

■運転支援機能の更新通知で確認できること

次の項目を確認、または実行できます。

●ソフトウェアのバージョン、更新内容、注意事項、使い方などの表示

●ソフトウェアの更新履歴表示へのリンク

●ソフトウェアの更新

Lexus Safety System +

Lexus Safety System + は、運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

警告

■Lexus Safety System + について

Lexus Safety System + は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。
本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■安全にお使いいただくために

- システムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。本システムはあらゆる状況で動作するものではなく、支援には限界があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お客様ご自身で作動テストを行わないでください。

対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。ディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。
- 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。

■システムを OFF にする必要があるとき

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過積載やパンクで車両が傾いているとき
- 過度な高速走行をしているとき
- けん引時
- トラック／船舶／列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- 洗車機を使用するとき
- センサーやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれているとき、変形しているとき
- センサーやライトをさえぎるような装備品を装着しているとき

警告

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき、タイヤパンク応急修理キットで修理したとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 事故や故障などにより走行不安定なとき

運転支援装置

■ AHS（アダプティブハイビームシステム）

→P.208

■ AHB（オートマチックハイビーム）

→P.211

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）

→P.234

■ LTA（レーントレーシングアシスト）

→P.243

■ LDA（レーンディパーチャーアラート）

→P.250

■ LCA（レーンチェンジアシスト）

→P.247

■ FCTA（フロントクロストラフィックアラート）

→P.260

■ PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

→P.255

■ 発進遅れ告知機能

→P.262

■ RSA（ロードサインアシスト）

→P.264

■ レーダークルーズコントロール

→P.267

■ クルーズコントロール

→P.276

■ ドライバー異常時対応システム

→P.279

■ ドライバーモニター

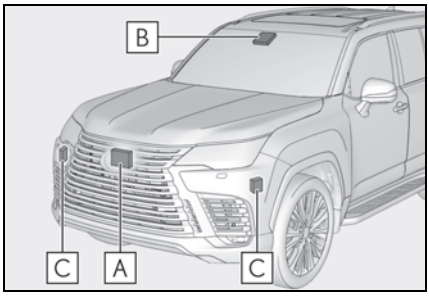
→P.232

Lexus Safety System + で使用するセンサー

複数のセンサーにより、システムの作動に必要な情報を認識します。

■ 周囲の状況を検出するセンサー

▶ フロント

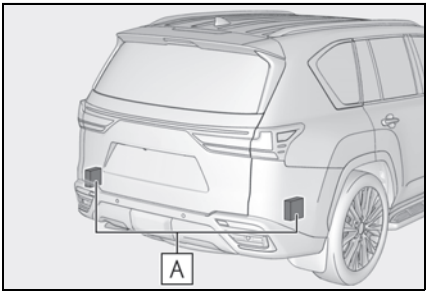


A 前方レーダー

B 前方カメラ

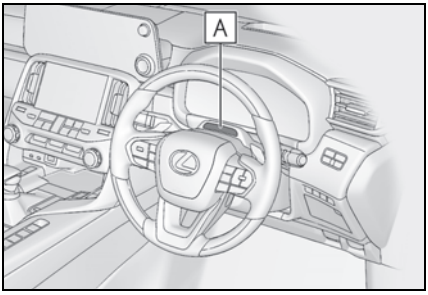
C 前側方レーダー

▶ リヤ



A 後側方レーダー

■ **運転者の状態を検出するセンサー**



A ドライバーモニターカメラ

警告

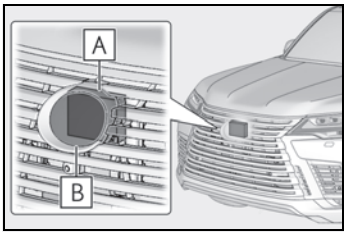
■ **レーダーの故障や誤作動を防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

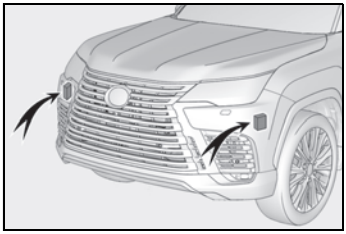
お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布で汚れをふき取ってください。



A レーダー

B レーダー専用カバー

● 前側方レーダー周辺のフロントバンパーは常にきれいにしておく



● レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

● レーダー周辺への衝撃を避ける
レーダー／フロントグリル／フロントバンパーに衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

● レーダーを分解しない

警告

●レーダーやレーダー専用カバーを改造、塗装したりしない。純正部品以外に交換しない。

●次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

・レーダーを脱着や交換したとき

・フロントバンパー／フロントグリルを交換したとき

■ヒーター機能付レーダー専用カバーについて

レーダー専用カバーに雪が堆積する可能性があるとシステムが判断した場合、ヒーターが自動的に作動します。お手入れなどでレーダー専用カバー周辺にふれるときは、十分に冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

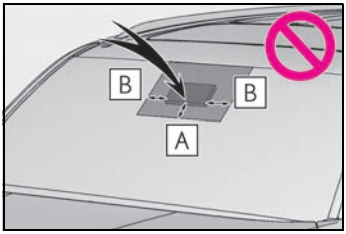
●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。

・フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、レクサス販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



A 約 4cm

B 約 4cm

●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する

●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する

●フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

●フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

●前方カメラに液体をかけない

●前方カメラに強い光を照射しない

警告

- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
  フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
  レンズに汚れ・傷がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
  詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

■フロントウィンドウガラスの前方カメラ取り付け部について

フロントウインドウガラスが曇る可能性があるとシステムが判断した場合、ヒーターにより前方カメラ周辺のフロントウインドウガラスの曇り取りが自動的に作動します。お手入れなどで前方カメラ周辺にふれるときは、十分にフロントガラスが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ドライバーモニターカメラの取り扱いについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、ドライバーモニターカメラの故障や誤作動によりシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ドライバーモニターカメラおよびその周辺に強い衝撃を与えない
  強い衝撃を受けると、ドライバーモニターカメラの位置や向きがずれ、運転者を正しく検知できなくなるおそれがあります。必ずレクサス販売店で点検を受けてください。
- ドライバーモニターカメラを分解・改造しない
- ドライバーモニターカメラおよびその周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない
- ドライバーモニターカメラおよびその周辺に液体をかけない
- ドライバーモニターカメラの前にものを置いたり、覆ったりしない
- ドライバーモニターカメラのレンズを傷付けない
- ドライバーモニターカメラのレンズをさわったり、汚したりしない
  レンズに指紋や汚れが付着した場合は、レンズを傷付けないよう乾いたやわらかい布でふき取ってください。
- お手入れする際は、樹脂を腐食させるような洗剤・有機溶剤を使用しない

知識

■センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき

●車両の高さや傾きが変わるような改造をしているとき

●フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき、ひび割れや破損があるとき

●外気温が高温または低温のとき

●センサー前面に泥、雨滴、雪、虫、ゴミなどが付着したとき

●悪天候時（雨・霧・雪・砂嵐など）

●前方に水／雪／土ぼこりなどの巻き上げや水蒸気・煙があるとき

●夜間やトンネル内など暗い場所でヘッドランプを点灯していないとき

●ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いとき

●ヘッドランプの光軸がずれているとき

●ヘッドランプが故障しているとき

●対向車のヘッドランプ光／太陽光／反射光などが前方カメラに入射しているとき

●急激な明るさの変化があるとき

●テレビ塔／放送局／発電所／レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

●ワイパーブレードがセンサーの視界をさえぎっているとき

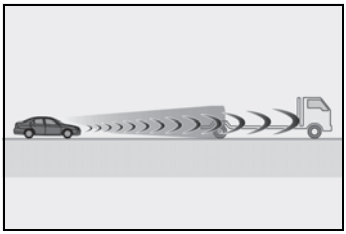
●周囲に次のようなレーダーの電波を反射するものがあるとき
・トンネル
・トラス橋
・砂利道
・轍のある雪道
・壁
・大型トラック
・マンホール
・ガードレール
・鉄板

●周囲に段差や突起物があるとき

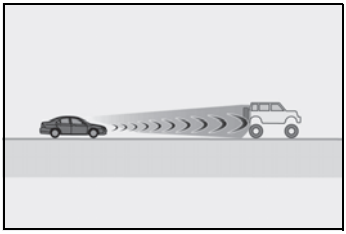
●超小型モビリティなどのように対象車両の全幅が狭いとき

●空荷のトラックなど対象車両の前端・後端面積が小さいとき

●低床トレーラーなど対象車両の前端・後端が低い位置にあるとき



●対象車両の最低地上高が極端に高いとき



●対象車両の荷台から荷物がはみ出しているとき

●対象車両の一部が布で覆われているなど金属の露出が少ない車両のとき

●トラクター・サイドカーなど対象車両が特殊な形状のとき

●対象車両との車間距離が極端に短くなったとき

●対象車両の位置がずれているとき

●対象車両に雪や泥などが付着しているとき

●次のような道路を走行しているとき
・急なカーブや曲がりくねった道
・急な上り坂や下り坂など、路面勾配が

変化する道
・左右に傾きのある道
・路面に深いわだちがある道
・整備されていない荒れた道
・起伏や段差が多い道路

●ハンドル操作が不安定なとき

●車線内での自車の位置が一定でないとき

●本システム部品もしくはブレーキ等の関連部品が冷えている・過熱している・ぬれているなど

●ホイールアライメントがずれているとき

●凍結路・積雪路・砂利道などのすべりやすい路面を走行するとき

●カーブの形状とは異なる経路で走行するとき

●カーブに対して進入速度が過度に高いとき

●駐車場や車庫、カーエレベータなどに出入りするとき

●駐車場内を走行するとき

●生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など自車に覆い被さるような障害物がある場所を走行するとき

●風が強いとき

■車線を検知できないおそれがあるとき

●車線の幅が極端に狭い、または広いとき

●車線変更をした直後、または交差点を通過した直後

●工事によって規制された車線、または仮設の車線を走行しているとき

●周囲に車線もしくは類似の構造物、模様、影があるとき

●同一車線上に複数の白線があるとき

●車線が明瞭でないとき、濡れた路面を走行しているとき

●車線が縁石等の上に引かれているとき

●コンクリート路のような照り返しなどで明るい路面を走行しているとき

■システムの一部もしくは全てが作動しないとき

●本システムもしくはブレーキ、ステアリング等関連システムに異常検出時

●VSC、アクティブ TRC 等の安全システムが作動時

●VSC、アクティブ TRC 等の安全システムが OFF のとき

■ブレーキの作動音や踏み応えの変化について

●ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

●システムの制御によるブレーキ作動中はブレーキペダルがお客様の想定よりも固く感じられたり、ブレーキペダルが沈みこんだりすることがあります。どちらの場合もブレーキの踏み増しは可能です。必要に応じてブレーキを踏み増ししてください。

■ドライバーモニターが正常に作動しないおそれがある状況

次のような状況のとき、ドライバーモニターカメラは運転者の顔を検知できず、機能が正常に作動しないおそれがあります。

●炎天下での駐車後など、車内が高温のとき

●強い光（太陽光や後続車のヘッドランプ光など）がドライバーモニターカメラにあたっているとき

●周囲の構造物の影響などで、車内の明るさがひんぱんに変化するとき

●強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が運転者の顔にあたってい

るとき

●眼鏡・サングラスのレンズに車内や車外からの光が映り込んでいるとき

●助手席や後席の乗員が身を乗り出すなど、ドライバーモニターカメラの検知範囲に複数の顔があるとき

●前に身を乗り出したり、窓から顔を出したりするなど、顔がドライバーモニターカメラの検知範囲から外れているとき

●ハンドルやハンドルを握る手・腕などでドライバーモニターカメラが隠れたとき

●帽子を被っているとき

●眼帯を着用しているとき

●赤外線を通しにくい眼鏡やサングラスをかけているとき

●コンタクトレンズをつけているとき

●マスクを着用しているとき

●笑ったり、眼を細めたりしているとき

●眼・鼻・口や、顔の輪郭が隠れているとき

●眼・鼻・口・顔の輪郭が判定できなくなるような化粧をしているとき

●眼鏡・サングラスのフレームや髪などで眼が隠れているとき

●車内に近赤外線光源を搭載した機器（市販のドライバーモニタリングシステムなど）があるとき

■レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

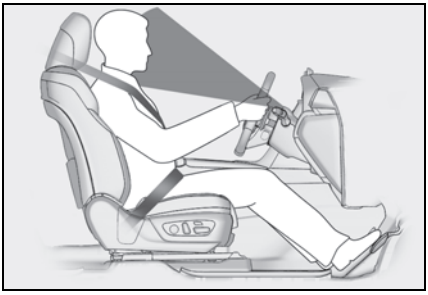
JP 01

ドライバーモニター

基本機能

ドライバーモニターカメラで運転者の顔の位置・向きや眼の開閉状態を検知し、運転者が周囲の状況を確認し運転操作できる状態であるかシステムが判断します。

ドライバーモニターが正常に作動するためには、ドライバーモニターカメラで運転者の顔全体を撮影する必要があります。ハンドルやシートの位置が高すぎたり、低すぎたりするとドライバーモニターカメラが運転者の顔を一部撮影できず、運転支援システムが一部作動できなかったり、ブザーとディスプレイ表示で注意喚起を行ったりすることがあります。



■ 注意喚起

次のようなとき、ブザーとディスプレイ表示で注意喚起を行うことがあります。

- 運転者が脇見している／眼を閉じているとシステムが判断したとき
- 運転者の顔が検知できない／姿勢が崩れているとシステムが判断したとき

ハンドル／シートの位置が高すぎたり低すぎたりする場合、ドライバーモニターカメラが運転者の顔全体を認識できず、注意喚起を行うことがあります。メーター全体が見える運転姿勢になるようにハンドル／シートの位置を調整してください。
運転姿勢を調整しても注意喚起が継続するときは、レクサス販売店にご相談ください。

■ 顔認証システム

個人特定システムの一機能として、ドライバーモニターは顔認証機能のデバイスとして使われます。

車両での顔認証機能の使い方、他個人特定デバイスとの優先度、連動する車両設定については「マイセッティング」を参照してください。(→P.173)

警告

■安全にお使いいただくために

- ドライバーモニターは運転者の不注意行動や姿勢崩れを未然に防ぐものではありません。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- ドライバーモニターは運転者の眠気を解消するものではありません。集中力の低下や眠気を感じたら、適度に休憩や仮眠を取り、安全運転に努めてください。

知識

■注意喚起

車速が低いときは作動しないことがあります。

■顔認証システムについて

ドアを開け閉めすると顔認証が開始されます。

顔認証システムでは、お客様の顔の特徴

情報を数値化し、車両に装備されたコンピューター内に保存してマイセッティングにおける認証に利用します。

●お客様の顔の画像／動画や音声を保存することはありません。

●数値化された顔情報はマイセッティングにおける認証以外での用途では使用いたしません。また、顔情報を読み出すことはできず、第三者へ開示または提供されることはありません。

●顔情報はお客様自身で削除することが可能です。

●顔情報の取扱いについて、以下項目を同意いただいた上でご利用ください。
・顔認証システムは完全な本人認証、照合、識別を保証するものではありません。
・顔登録失敗や顔認証失敗が頻発する場合は、ドライバーモニターカメラを清掃または顔情報を登録し直してください。
・コンピューターに保存した顔情報を読み出したり他の媒体に移行したりすることはできません。消去、部品交換した場合は再度顔情報を登録する必要があります。
・消去された顔情報は復元することはできません。再度登録を行う必要があります。

■顔認証システムが正しく認識しない場合

本システムは顔の特徴の情報を認証に利用するものです。次の場合、顔登録／認証が正しくできない場合があります。

●顔の一部（眉、目、鼻、口のいずれか）が隠れている状態

●眼鏡やサングラス、マスク、マフラー等を着用している

●正面を向いていない場合

●髪の毛、ひげ、手、衣服、アクセサリー等で顔の一部が隠れている

●目を閉じている

●双子など、顔の特徴情報が極めて似通った非登録者

■ドライバーモニターが正常に作動しないおそれがある状況

→P.230

ドライバーモニターの設定を変更する

ドライバーモニターの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。（→P.583）

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→P.234）をセンサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.242）

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・安全にお使いいただくために：→P.224

■プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

システムを OFF にする必要があるとき：→P.224

システムの作動対象

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

● 車両

● 自転車 ※

● 歩行者

● 自動二輪車 ※

● 壁

※ 人が乗車している場合のみを作動対象としています。

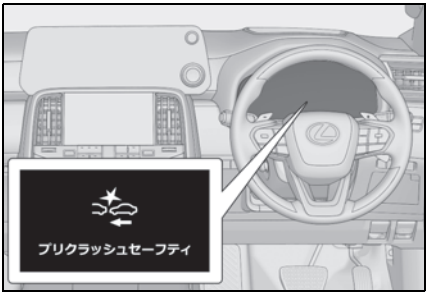
機能一覧

■ 衝突警報

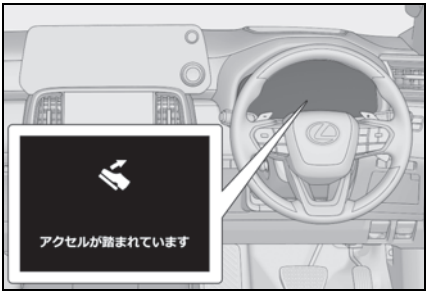
衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンとメッセージを表示し、回避操作をう

ながします。

作動対象が車両の場合、緩ブレーキによる警告を行う場合もあります。



アクセルが強く踏み込まれているとシステムが判断した場合は、図で示すアイコンとメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



■ **プリクラッシュブレーキアシスト**

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、運転者のブレーキ操作で不足しているブレーキ力を増強します。

■ **プリクラッシュブレーキ**

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

■ **緊急時操舵支援**

システムが次の条件を全て満たしたと判断した場合、操舵支援を行い、車両の安定性確保と車線逸脱の抑制に寄与します。

作動時には衝突警報に加え、図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

- 衝突する可能性が高い
- 自車線内に回避するための十分なスペースがある
- 運転者の回避操舵があった

運転者の回避操舵にかかわらず、ブレーキとハンドルの制御を行い、衝突回避の支援や衝突被害の軽減に寄与します。

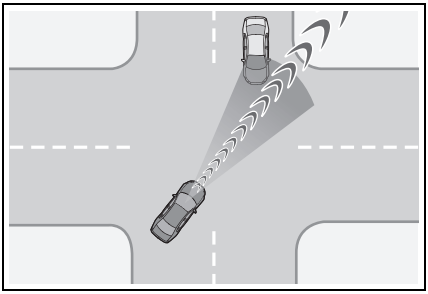
作動時には衝突警報とディスプレイ表示で注意喚起を行います。

■ **交差点衝突回避支援（右左折）**

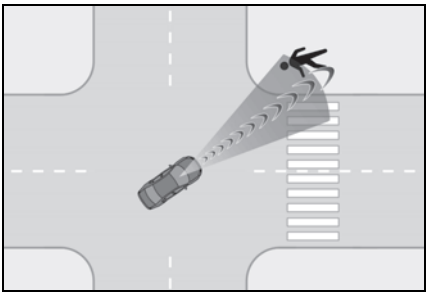
次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

- 交差点で右折して対向車／対向自動二輪車の進路を横切るとき



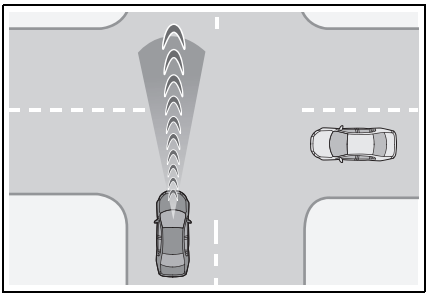
● 右左折中に、横断歩行者や、自転車を検出したとき



■ **交差点衝突回避支援（出合頭車両）**

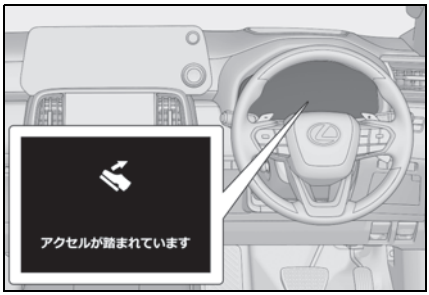
交差点など、側方から接近する車両や自動二輪車との衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。



■ **低速時加速抑制**

低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとシステムが判断したとき、エンジン出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに図で示すアイコンとメッセージを表示します。



■ **サスペンションコントロール**

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、AVS（→P.430）によってショックアブソーバーの減衰力を制御することで、安定した車両姿勢の維持に寄与します。

警告

■ **プリクラッシュブレーキについて**

● プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。

● プリクラッシュブレーキは停止状態を保持する機能ではありません。プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、必要に応じて速やかに運転者自らブレーキをかけてください。

警告

●プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない、または作動が解除される場合があります。

●ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない、または作動が解除される場合があります。

■緊急時操舵支援について

●緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。

●緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。

・運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。

・緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

・緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

知識

■プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

●バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

●シフトレバーが R のとき

●VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 180km/h
対向車両	約 30 ～ 180km/h	約 80 ～ 220km/h
自転車	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
歩行者	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 80km/h
対向自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 30 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h
歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 10 ～ 80km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 180km/h
対向車両	約 30 ～ 180km/h	約 80 ～ 220km/h
自転車	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
歩行者	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 80km/h
対向自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

・ アクセルペダルを強く踏み込む

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、自転車、歩行者、自動二輪車	約 40 ～ 80km/h	約 40 ～ 80km/h
先行車両、静止車両、自転車、歩行者、自動二輪車	アクティブ操舵機能：※ ～ 80km/h	アクティブ操舵機能：※ ～ 80km/h

※ 下限速度：プリクラッシュブレーキでは回避が困難な速度

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

・ アクセルペダルを強く踏み込む

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

・ ブレーキペダルを踏む

●交差点衝突回避支援（右左折）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 5 ～ 40km/h	約 5 ～ 75km/h	約 10 ～ 115km/h
歩行者	約 5 ～ 30km/h	—	約 5 ～ 40km/h
自転車	約 5 ～ 30km/h	—	約 5 ～ 50km/h
対向自動二輪車	約 5 ～ 40km/h	約 5 ～ 75km/h	約 10 ～ 115km/h

●交差点衝突回避支援（出合頭車両）

作動対象	自車速度	相手車速度	相対速度
車両、自動二輪車（側面）	約 5 ～ 60km/h	約 50km/h 以下	約 5 ～ 60km/h

●低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、歩行者、自転車、壁	約 0 ～ 15km/h	約 0 ～ 15km/h

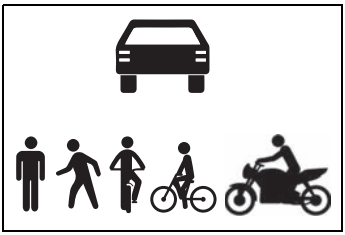
低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

・ アクセルペダルを離す

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

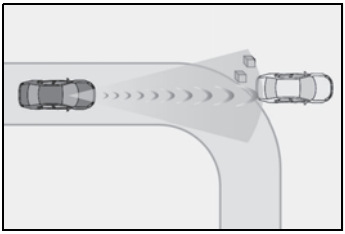
■作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
図は作動対象として検出する対象のイメージです。

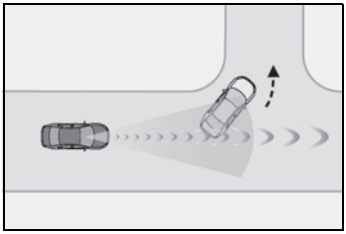


■衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

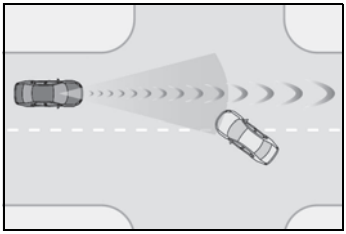
●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。
・作動対象などのすぐそばを通過するとき
・車線を変更して作動対象などを追いこすとき
・作動対象などに急接近したとき
・道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）に近付いたとき
・カーブの道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



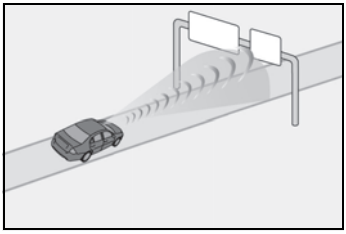
・自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
・車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



・右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき

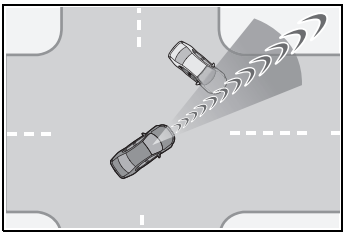


・作動対象などが自車進路内に入る手前で停止または進路変更したとき
・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき

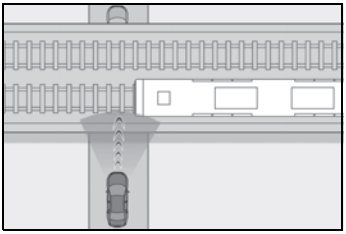


・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
・右左折中に、対向車／対向自動二輪車／横断歩行者／横断自転車が自車の前方を通過したとき
・右左折中に、対向車／対向自動二輪車／横断歩行者／横断自転車の手前を通過しようとしたとき
・右左折中に、対向車／対向自動二輪車／横断歩行者／横断自転車が自車進路に入る手前で停止または進路変更したとき
・交差点内で右折中、対向車／対向自動二輪車が右折しているとき、または左

折しているとき

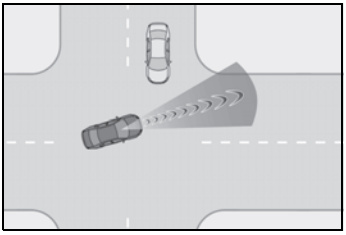


・ 対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
・ 道路上方／下方を移動するものがあるとき

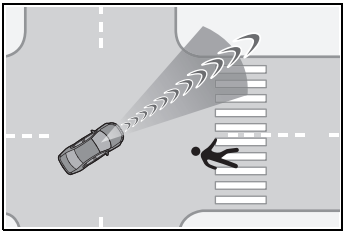


■**システムが正常に作動しないおそれがあるとき**

●例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・ 自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
・ 自車や作動対象がふらついているとき
・ 作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
・ 作動対象に急接近したとき
・ 作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
・ 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
・ 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
・ 作動対象が複数重なっているとき
・ 作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
・ 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
・ 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
・ 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・ 斜めを向いている前方車両に近付いたとき
・ 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、前傾姿勢で乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
・ 歩行者・自転車の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
・ 歩行者・自転車の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
・ 歩行者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
・ 歩行者・自転車の移動速度が速いとき
・ 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
・ 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
・ エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
・ 右左折中および右左折後の数秒間
・ カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
・ 右折中に、対向車／対向自動二輪車が自車の走行する車線よりも 3 つ以上離れた車線を走行しているとき
・ 右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



・右左折中に、歩行者や自転車が自車の後方から追い抜くように前方にでてくるとき



・交差点で出会い頭に大型トラック／けん引トレーラーなど全長の長い車両が接近してくるとき

●上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。
・作動対象に近づきすぎたとき
・回避するための十分なスペースがない、または回避先に物があるとき
・対向車がいるとき

●上記に加えて、例えば次のような状況では壁を作動対象として検知できず、低速時加速抑制が作動しないおそれがあります。
・ガラス扉や網目状のフェンスなど壁の背面が透けているとき
・壁が傾いていたり、高さが低いとき
・壁がポールなど幅の狭いもののとき
・壁が生垣など草木のとき
・壁に路面などが映りこんでいるとき
・自車が壁に斜めに近づくとき

PCS の設定を変更する

● PCS の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.583）

エンジンスイッチが ON になるとシステムは ON になります。

● システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

● カスタマイズ設定から、PCS の設定を変更することができます。（→P.583）

● 衝突警報の作動タイミングを変更すると、緊急時操舵支援のタイミングも変更されます。
“遅い” を選択した場合、緊急時操舵支援（アクティブ操舵機能を除く）はほとんどの場合作動しません。

● 運転者が脇見をしているとシステムが判断した場合は、ユーザー設定に関わらず、衝突警報・緊急時操舵支援が “早い” のタイミングで作動します。

● レーダークルーズコントロール制御中はユーザー設定に関わらず、衝突警報が “早い” のタイミングで作動します。

● アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）制御中はユーザー設定に関わらず、衝突警報が “早い” のタイミングで作動します。

LTA（レーントレーシングアシスト）

LTA の機能

● 車線が整備された道路を走行中かつ、レーダークルーズコントロールの作動中に、車線や先行車／周辺車を前方カメラやレーダーで認識し、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

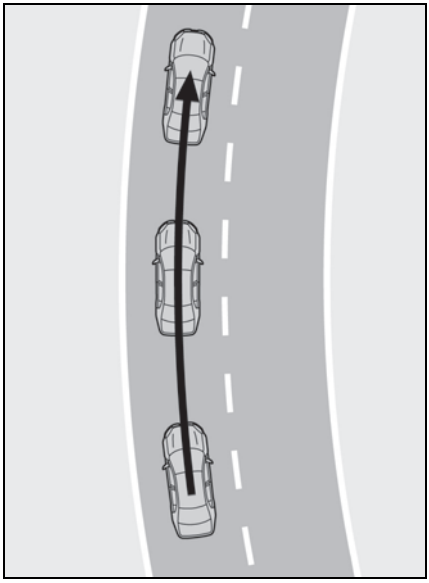
高速道路や自動車専用道路で使用してください。

レーダークルーズコントロールが作動していないとき LTA は作動しません。

渋滞のときなど車線が見えにくい、または見えない場合、先行車／周辺車の軌跡を利用して支援を行います。

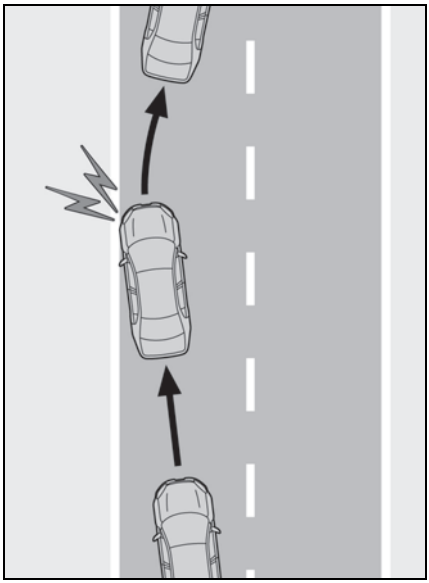
ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

機能が解除されたときはハンドルをしっかり握り直してください。



● 車両が車線から逸脱した場合、ディスプレイの表示および、ブザーにより注意をうながします。

ブザー吹鳴時は、道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線内の中央付近にもどってください。



警告

■LTA をお使いになる前に

●LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●LTA を使用しないときは、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。

知識

■機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

●システムが車線を認識しているとき、または先行車／周辺車の軌跡を認識しているとき

●レーダークルーズコントロールが作動しているとき

●車線の幅が約 3 ～ 4m のとき

●方向指示レバーを操作していないとき

●急カーブを走行していないとき

●一定以上の加減速がないとき

●大きな操舵力でハンドルを操作していないとき

●手放し運転に対する注意喚起（→P.244）が行われていないとき

●車線中央付近を走行しているとき

■機能の一時解除

●機能の作動条件（→P.244）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

●機能作動中に、作動条件が満たされなくなった場合、“ピピッ”とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

●機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

■LTA 中の車線逸脱警報について

●LDA の警報手段をハンドル振動に変更していても、LTA 作動中は車線逸脱時にブザーによる警報を実施します。

●車線変更に相当するハンドル操作を検知した場合、システムは車線逸脱とは判断せず、警報も作動しません。

■手放し運転に対する注意喚起について

●手放し運転をしているとシステムが判断したとき、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●操作しない状態が続くと注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が

続いたときも同様に注意喚起が行われます。

■手放し運転に対する注意喚起が正常に作動しないおそれがあるとき

●車両の状態やハンドル操作状態、路面状況によっては注意喚起が行われないおそれがあります。

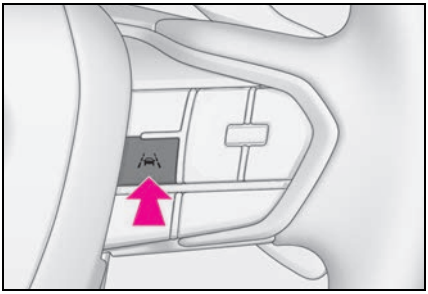
●次の状況では、手放しを検知する性能が低下または検知できなくなるおそれがあります。
・ハンドルにカバーを取り付けたとき
・運転者が手袋をしているとき
・ハンドルに異物が付着しているとき
・部分ウッド部、革の継ぎ目、スポーク部等のセンサ線が無い部分を握っているとき

●次の状況では、手放しをしていても手放し運転警告が作動せず、LTA が継続することがあります。
・ハンドルに手以外の物が接触しているとき
・ハンドルに、物や腕等を広い範囲で近づけるとき

システムの ON ／ OFF を変更する

LTA の ON ／ OFF を切り替えるには LTA スイッチを押す

LTA が ON のときは LTA 表示灯が点灯します。

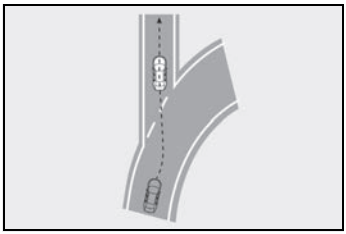


警告

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

●先行車／周辺車が車線変更したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）



●先行車／周辺車がふらついたとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

●先行車／周辺車が車線から逸脱したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）

●先行車／周辺車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

●周囲に移動物、構造物があるとき（移動物、構造物と自車の位置によっては自車がふらついて走行するおそれがあります）

●横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき

警告

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.229
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.230
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.224

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

LTA の作動状態を示しています。

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
白色	灰色／白色	灰色	LTA がスタンバイ中
緑色	緑色	緑色	LTA が作動中
黄色点滅	黄色点滅	緑色	車両が点滅している側の車線から逸脱している

LCA（レーンチェンジアシスト）

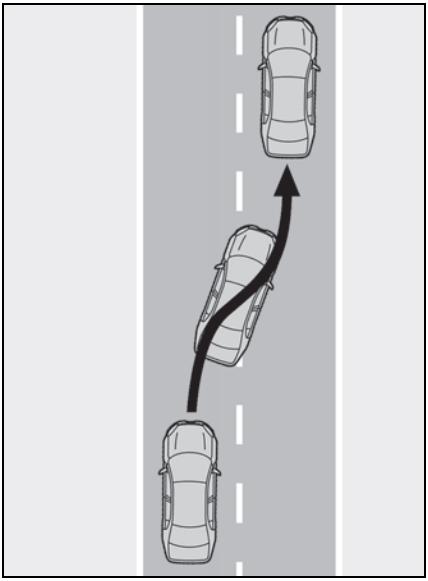
LCA の機能

LTA と連携し、車線変更に必要なハンドル操作を支援します。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

ステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

分岐・合流路での車線変更は作動の対象外です。



警告

■LCA をお使いになる前に

●LCA を過信しないでください。

LCA は自動で運転する装置でも車線変更先の並走車や急な接近車両等への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

また、車線変更してはいけない車線（対向車線、路肩等）に対して LCA を使用しないでください。

●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

■機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

●LTA が作動しているとき

●カスタマイズメニューでレーンチェンジアシストを ON に設定したとき

●自車速度が約 70 ～ 130km/h のとき

●システムが高速道路または自動車専用道路（一部を除く）と認識しているとき

●システムが車線を変更する側の白線を破線と認識しているとき

●車線を変更する先に車両が存在しないとき

●ナビゲーションシステムの地図データが正常に取得できているとき

●大きな操舵力でハンドルを操作していないとき

●手放し運転に対する注意喚起（→P.244）が行われていないとき

●エンジン始動後、システムが一度でも車両後方の移動物を検知しているとき

■機能の解除

次のような状況では、LCA が作動途中で解除されることがあります。その際に、ディスプレイの表示およびブザーにより、機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

●作動条件が満たされなくなった場合（→P.247）

●システムが車線を認識できなくなったとき

●方向指示レバーを 2 段目の位置（→P.248）へ操作したとき

●方向指示レバーを車線変更をする方向とは逆方向に操作したとき

●運転者によるハンドルやブレーキ、アクセルなどの操作をシステムが検知したとき

●手放し運転に対する注意喚起（→P.248）が行われているとき

急な接近車両を検出した場合には、ブザー音、ディスプレイ表示で警報を行うとともに、小さな操舵力をハンドルに加えることで、接近車両へ近づかないよう支援を行う場合があります。

■手放し運転に対する注意喚起について

手放し運転をしているとシステムが判断したとき、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

■手放し運転に対する注意喚起が正常に作動しないおそれがあるとき

●車両の状態やハンドル操作状態、路面状況によっては注意喚起が行われないおそれがあります。

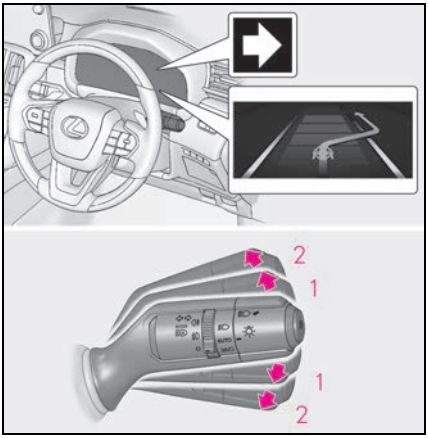
●次の状況では、手放しを検知する性能が低下または検知できなくなるおそれがあります。
・ハンドルにカバーを取り付けたとき
・運転者が手袋をしているとき
・ハンドルに異物が付着しているとき
・部分ウッド部、革の継ぎ目、スポーク部等のセンサ線が無い部分を握っているとき

●次の状況では、手放しをしていても手放し運転警告が作動せず、LCA が継続することがあります。
・ハンドルに手以外の物が接触しているとき
・ハンドルに、物や腕等を広い範囲で近づけるとき

LCA の作動方法

方向指示レバーを 1 段目の位置で “ピッ” とブザーが鳴るまで保持すると、車線変更方向の表示とともにシステムが作動します。

LCA を利用せず方向指示レバーを 1 段目の位置で保持して車線変更する場合は LCA のカスタマイズ設定を OFF としてください。



1 1 段目：LCA 作動位置

2 2 段目：LCA 非作動位置

警告

■LCA を使用してはいけない状況

●片側1車線の道路を走行しているとき

●自車の走行車線と、車線変更先の車線の間が白線の破線でないとき

システムの ON ／ OFF を変更する

LCA の ON ／ OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.583）

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

LCA の作動状態を示しています。

LCA 表示	ステアリングアイコン	状態
灰色矢印／緑色線	緑色	LCA がスタンバイ状態
青色矢印／白色線		LCA が作動中
	灰色	LCA 作動中に自車に接近してくる車両を検知した
灰色線	灰色	LCA 作動中に車線を検知できなくなった

LDA（レーンディパーチャーアラート）

基本機能

車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。

車線または走路※を前方カメラで認識します。

※アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

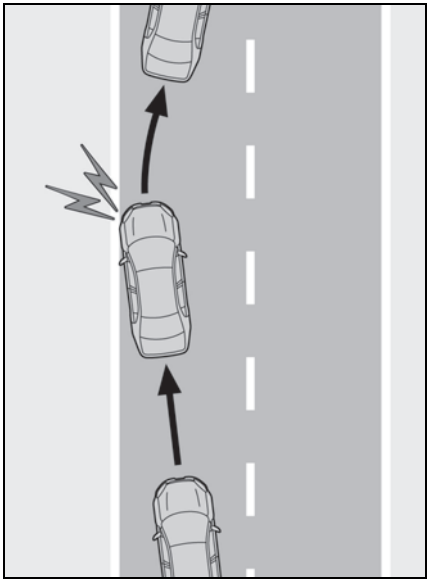
■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合にディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線または走路※内の中央付近にもどってください。

方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、車線逸脱警報機能が作動します。

※アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体



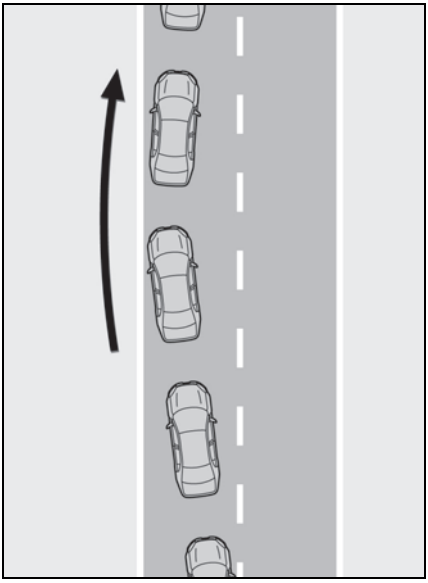
■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、一定時間ディスプレイの表示と警報ブザーで注意喚起が行われます。

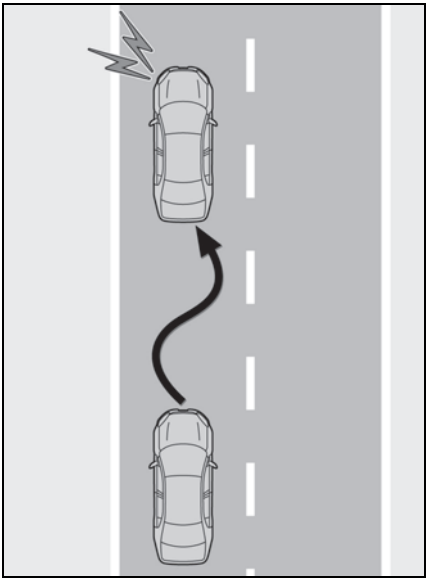
方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、車線逸脱抑制機能が作動します。

※アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体



■ 休憩提案機能

車両がふらついて走行しているときに、ディスプレイの表示およびブザーにより休憩をうながします。



警告

■LDA をお使いになる前に

●LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報／抑制機能

次の条件をすべて満たしたときに作動します。

・ 車速が約 50km/h 以上のとき

車線の周囲に車両、自動二輪車、自転車、歩行者を検知した場合は約 40km/h 以上のときに作動することがあります。

対象が縁石、ガードレールなどの構造体の場合は約 35km/h 以上のときに作動します。（カスタマイズメニューで低車速支援を作動にしたとき）

・ システムが車線または走路※を認識しているとき（車線または走路※が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
・ 方向指示レバーを操作していないとき（方向指示灯方向に車両がいる場合は除く）
・ 急カーブを走行していないとき
・ 一定以上の加減速がないとき
・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき

・VSC またはアクティブ TRC を OFF にしていないとき

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

■機能の一時解除

作動条件（→P.251）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■車線逸脱警報／抑制機能の作動について

●車速や路面の状況、逸脱の程度などにより、車線逸脱抑制機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能が作動しなかったりすることがあります。

●カスタマイズで振動を選択していても状況によって警報ブザーが吹鳴する場合があります。

●走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報、抑制が作動しない場合があります。

●意図的に歩行者や駐車車両を避けたと判断した場合に警報、抑制が作動しない場合があります。

●となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。

●運転者の状態に応じて、走路逸脱に対する警報、抑制のタイミングが変化します。

●車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル操作をうながすメッセージとアイコンのディスプレイの表示、および警報ブザーにより注意喚起を行います。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援中にハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態だとシステムが判断したとき

ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、警報ブザーの継続時間が長くなります。ハンドルを操作したとシステムが判断しても一定時間警報ブザーが鳴り続けます。

■休憩提案機能について

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

●車速が約 50km/h 以上のとき

●車線の幅が約 3m 以上のとき

車両の状態や路面状況によっては休憩提案が行われない場合があります。

LDA の設定を変更する

● LDA の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.583）

● カスタマイズ設定から、LDA の設

定を変更することができます。
（→P.583）

警告

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体が不明瞭または直線的でないとき
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.230
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.229
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.230
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.224

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援、または車線逸脱警報の作動状態をディスプレイ表示で示します。

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
OFF 黄色点灯	消灯	消灯	システムが非作動
消灯	灰色	消灯	システムが車線を認識していない
消灯	白色	消灯	システムが車線を認識している
黄色点滅	黄色点滅	消灯	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能が作動中

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
緑色	緑色	緑色	点灯している側の車線に対して車線逸脱抑制機能が作動中
黄色点滅	黄色点滅	緑色	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能／抑制機能が作動中

PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

プロアクティブドライビングアシストは、作動対象（→P.256）を検出した場合、対象に近づきすぎないように、ブレーキやハンドルの操作を支援します。

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。

- プロアクティブドライビングアシストは日常のブレーキ操作、ステアリング操作の一部を支援し、作動対象に近づきすぎないように支援することを目的としていますが、支援の範囲には限りがあります。

必要に応じて運転者自らブレーキやステアリング操作を行ってください。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。（→P.257）

- プロアクティブドライビングアシストは前方への注意を軽減する装置ではありません。システムが正常に機能していても運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。注意義務は運転者にあり、危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。
- わき見運転やぼんやり運転などを許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■プロアクティブドライビングアシストを OFF にするとき

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.229
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.224

システムが作動する状況と対象

プロアクティブドライビングアシストは、次のように自車が走行中の状況に応じて、作動内容と作動対象を切りかえます。

機能	状況	作動内容	作動対象
障害物先読みアシスト（OAA）	道路を横断中の作動対象を検知したとき	衝突の可能性を軽減するため、ブレーキ操作の一部を支援します。	●歩行者 ●自転車運転者
	道路脇の作動対象を検知したとき	作動対象に近づきすぎないよう、周囲の状況に応じてハンドル操作やブレーキ操作の一部を支援します。 ハンドル操作の支援は自車線から逸脱しない範囲で行います。	●歩行者 ●自転車運転者 ●駐車車両
減速アシスト（DA）	先行車を検出したとき、または隣接車の割り込みを検出したとき	車間距離が近づきすぎないようにブレーキ操作の一部を支援します。	●先行車 ●自動二輪車
	自車前方にカーブを検出したとき	前方のカーブに対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし
	信号のある交差点で右左折するとき	右左折する交差点に対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし
操舵アシスト（SA）	車線を認識しているとき	運転操作を先読みして、ハンドル操作を支援します。	なし

知識

■システムの作動車速

●道路を横断する作動対象に対する支援

約 30km/h ～ 60km/h

●道路脇の作動対象に対する支援

約 30km/h ～ 60km/h

●先行車に対する減速支援

約 20km/h 以上

●カーブに対する減速支援

約 20km/h 以上

●信号のある交差点に対する右左折時の減速支援

約 30km/h ～ 80km/h（信号のある交差点で方向指示レバーを操作したとき）

●車線に対する操舵支援

約 10 ～ 140km/h

■システムの作動が停止するとき

●次のときシステムは作動を停止します。
・レーダークルーズコントロール、またはクルーズコントロールをセットしたとき
・PCS が OFF のとき
・システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.230
・シフトポジションが P、R または N のとき
・運転席シートベルトを着用していないとき

●次のときブレーキ操作の支援は作動を停止します。
・車速が約 15km/h 以下のとき
・周囲の状況からシステムが判断した目標の速度に到達したとき

●次のときシステムは作動を停止する場合があります。
・運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
・作動対象が遠ざかったとシステムが判断した場合
・車線が検出できなくなった場合
・ブレーキ操作を行った場合
・アクセル操作を行った場合
・一定以上の操舵力でハンドルを操作した場合
・方向指示レバーを左折または右折の位置へ操作したとき（信号のある交差点に対する右左折時の減速支援を除く）

警告

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●車線を検知できないおそれがあるとき：→P.230

●作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき

●ガードレールや柵などの奥にいる作動対象のすぐそばを通過するとき

●車線を変更して作動対象などを追いこすとき

●車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき

●物体（ガードレール・電柱・木・壁、柵、ポール、工事用コーン、ポストなど）が周囲に存在するとき

●自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき

●道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識・看板など）がある場所を走行するとき

●雪道、轍のある道路や凍結路を走行するとき

●自車に向かって作動対象が近づいてくるとき

●自車や作動対象がふらついているとき

●作動対象の動きが変化したとき（方向転換、急加速、急減速など）

●作動対象に急接近したとき

●先行車・自動二輪車が自車の中心軸からずれているとき

●上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき

●作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）

●作動対象が複数重なっているとき

●作動対象が太陽光や他車両からのヘッドランプなどの強い光を反射しているとき

●作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき

警告

- 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- 横向き、斜め、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- 駐車車両が横向き、斜め向きのとき
- 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
- 歩行者・自転車運転者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、および周囲が暗い（夜間やトンネル内など）ため、作動対象が周囲に溶け込んでいるとき
- 車線幅が約 4m 以上あるとき
- 車線幅が約 2.5m 以下のとき
- エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- 右左折中および右左折後の数秒間
- 進路変更中および進路変更後の数秒間
- 作動対象がカーブ進入前、カーブ走行中およびカーブを曲がり切ってからの数秒間に存在するとき
- 信号機の灯色が黄色のとき
- 信号機が一灯式や二灯式のとき

プロアクティブドライビングアシストの設定を変更する

- プロアクティブドライビングアシストの作動／非作動は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。（→P.583）
- プロアクティブドライビングアシストの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。（→P.583）

システムの作動表示

状況に応じて、ディスプレイに次のような表示灯やアイコンを表示します。

アイコンの種類によっては、ディスプレイを運転支援機能情報に切り替えないと表示されません。

表示	意味
	●白色：作動対象監視中 ●緑色：道路を横断する作動対象に対する支援または道路脇の作動対象に対する支援が作動中
	道路を横断中、または道路脇の歩行者を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
 	道路脇の車両を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
	●道路脇の作動対象へ近づきすぎないように、ハンドルの操作を支援している ●操舵支援が作動中
	先行車に対する減速支援が作動中
	適正な車間距離を確保するよう注意喚起している
	カーブに対する減速支援が作動中
	信号のある交差点に対する減速支援が作動中

知識

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●道路を横断する作動対象に対する支援または道路脇の作動対象に対する支援が作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

■先行車への減速支援終了後の注意喚起について

先行車への減速支援が終了後、ドライバーによるブレーキまたはアクセル操作が無く、先行車へ接近したとき、ディスプレイ表示の点滅とブザーによって注意喚起し、減速をうながします。ドライバーがブレーキまたはアクセルを操作したとシステムが判断した場合、注意喚起を停止します。

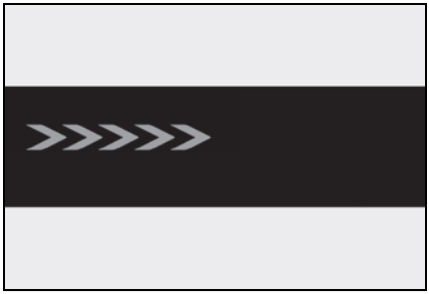
FCTA（フロントクロストラフィックアラート）

自車が低速で交差点などへ進入するとき、交差する車両の接近を検知して運転者へ注意喚起を行います。

システムの制御

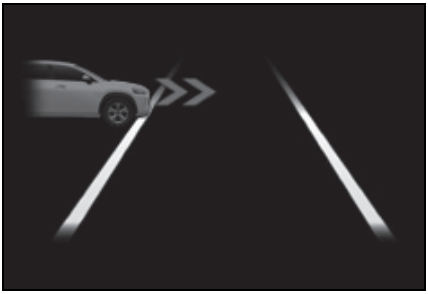
● 運転者へ前方を交差する車両が接近していることを、ディスプレイの表示で知らせます。

・ヘッドアップディスプレイ



● 前方を交差する車両が接近しているにも関わらず、運転者が発進しようとしている可能性があるとシステムが判断した場合、さらに、ディスプレイ表示とブザーによって注意喚起し、減速をうながします。

・マルチインフォメーションディスプレイ



警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。FCTA は前方を交差する車両の存在を運転者に知らせる補助的なシステムです。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車両や歩行者がいないことを示すものではありません。

知識

■FCTA システムの作動条件

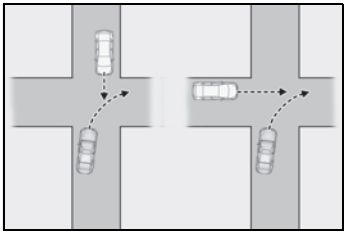
システムは、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- シフトポジションが P・R 以外にあるとき
- 自車速度が約 15km/h 以下のとき
- 前方を交差する接近車両の速度が約 10 ～ 60km/h であるとき
- 先行車がいないとき
- アクセルを強く踏み込んでいないとき
- ブレーキを強く踏み込んでいないとき

■検知対象となる車両の接近が無くてもシステムが作動するおそれがあるとき

例えば次のような状況では、検知対象となる車両が存在しない場合でもシステムが作動するおそれがあります。

- 道路脇の構造物（ガードレール・標識・電柱・街灯・木・草・壁など）に近付いたとき
- 路上駐車している車両等の横をすり抜けるとき
- 自車から遠方で車両や歩行者が交差するとき
- 自車線脇の駐車場等を車両や歩行者が移動しているとき
- 自転車や歩行者が歩道を通行しているとき
- 車両や歩行者が自車から遠ざかるとき
- 交差車両が減速し停止するとき
- 交差車両が自車直前で右左折するとき
- 歩行者が自車に接近するとき
- 対向車が右左折するとき
- 交差車両より先に自車が交差点を通過するとき
- 信号待ち時に交差車両が接近するとき
- 右左折など旋回時に交差車両が存在するとき



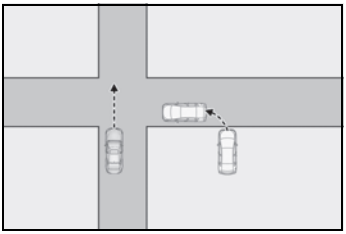
- 前方から車両が接近し、すれちがうとき
- 後方から車両が接近し、追い抜かれるとき
- 自車が車両や歩行者と並走するとき

●自車側面に車両や歩行者が接近するとき

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

例えば次のような状況では、前側方センサーが対象となる車両を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●交差車両が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）



●交差車両が自車進行方向に対し斜めに接近するとき

●交差車両が自車から遠方を交差するとき

●自車と交差車両のあいだに障害物があるとき

●複数台の車両が狭い間隔で連続して接近するとき

●センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.229

●システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.230

FCTA の設定を変更する

● FCTA の作動／非作動は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。（→P.583）

● カスタマイズ設定から、FCTA の設定を変更することができます。（→P.583）

発進遅れ告知機能

先行車の発進または信号が青にかわったあと、自車が停止し続けた場合、告知音とマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止中、先行車が発進しても停止し続けた場合にお知らせします。

信号切替り告知機能

交差点の先頭で停止中、信号が青（方向指示器と同一方向の青矢印信号も含む）にかわっても停止し続けた場合にお知らせします。

知識

■作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

●シフトレバーが P・R 以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトレバーが N で停止しているとき

●ブレーキホールドが作動中のとき

●レーダークルーズコントロールが作動していて、制御停車中のとき

■発進遅れ告知機能が正しく作動しないおそれがある状況

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

●先行車がオートバイ・自転車などのとき

●車両や樹木、看板などにより信号を正しく認識できないとき

●右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

●センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.229

■先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

●先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき

●自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■信号機が青にかわっていなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、信号が青にかわったと判断し、システムが作動する場合があります。

●道路標識や看板などの信号機でないものを信号機と認識したとき

●歩行者用、または自転車用の信号機の形状が自動車用と似ているとき

●交差側や遠くの交差点にある信号機など、自車の対象ではない信号機を認識したとき

●日照条件などにより、正しく自車対象の信号機を判別できないとき

システムの ON ／ OFF を変更する

発進遅れ告知機能の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.583）

発進遅れ告知機能の設定を変更する

カスタマイズ設定から発進遅れ告知機能の設定を切りかえることができます。（→P.583）

RSA（ロードサインアシスト）

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識や信号などを認識し、ディスプレイ表示やブザーで運転者にお知らせします。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●RSA は、道路標識などの情報を知らせることで運転の支援を行いますが、支援の範囲には限りがあります。運転者は常に道路標識などに従い、ご自身で適切な運転操作をしてください。

■RSA を使用してはいけない状況

●システムを OFF にする必要があるとき：→P.224

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

●センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.229

ディスプレイ表示機能

● 前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）によって道路標識などを認識すると、ディスプレイに表示します。

● 複数の道路標識を表示できます。

車の仕様によっては表示される標識が制限される場合があります。

知識

■標識表示の作動条件

次の条件を満たしたとき、標識の表示を行います。

●システムが標識を認識しているとき

次の状況では、標識の表示が消えることがあります。

●一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき

●右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

●終わりを示す補助標識を認識したとき

■表示機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

●標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき

●電光標識のコントラストが低いとき

●標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき

●前方カメラが標識を認識する時間が短いとき

●運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき

●標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき

●先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき

●システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき

●側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき

●ロータリー（環状交差路）を走行しているとき

●トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき

●補助標識（区間の終わり、曜日、時間など）があるとき

●工事などの通行規制区間に標識があるとき

●標識の後ろに木・電柱・建物・看板などがあるとき

●ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき

●ナビゲーションシステムを利用できないとき

マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

告知機能

次の状況では、システムが運転者に告知（例えば、強調表示やブザー吹鳴）します。

● 速度超過告知：自車の車速がディスプレイに表示されている制限速度より一定の速度を超過したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

● 車両進入禁止告知：進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したとシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

● 赤信号告知：赤信号を認識している場合に、信号を見落として交差点に進入する可能性があるとシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

知識

■告知機能の作動条件

●速度超過告知に対する作動条件

次の条件を満たしたとき作動します。
・ 最高速度を表示しているとき

●車両進入禁止告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。
・ 進入禁止標識を 2 つ以上認識しているとき
・ 進入禁止標識の間を通過するとき

●赤信号告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。
・ システムが信号機や路面ペイントを認識しているとき
・ 車速が約 20 ～ 70km/h のとき
・ 一定以上の減速がないとき
・ 方向指示レバーを操作していないとき
・ 一定以上のハンドル操作をしていないとき
・ 先行車がいないとき

■告知機能が正常に作動しないおそれのある状況

●表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象があるのにシステムが作動しないおそれがあります。
・ 右左折等により標識が検知できないとき
・ 信号機が矢印信号のとき
・ 信号機が点滅信号のとき
・ 信号機の庇で発光部の一部が隠れているとき
・ ルーバー信号機で発光部が見えづらいとき
・ 停止線などの路面ペイントが先行車などで隠れているとき
・ 停止線などの路面ペイントがかすれているとき
・ 停止線に対し信号機が遠くにあるとき

・交差点間の距離が近いとき

●表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象がないのにシステムが作動するおそれがあります。
・標識が通常とは異なる大きさのとき
・標識や信号機が多数あるとき
・自車が走行するレーンではない側道や分岐地点などの標識や信号機を認識したとき
・作動対象の標識、信号機や路面ペイントとは区別がつきにくい模様・光源・ペイントがあるとき
・信号機の灯色が黄色のとき
・信号機が矢印信号のとき
・予告信号があるとき

ディスプレイ表示および告知される道路標識などの種類

● 次の種類の道路標識を表示します。

ただし、規定外の道路標識、新しく導入された道路標識は表示されない場合があります。

	最高速度
	はみ出し通行禁止
	車両進入禁止
	転回禁止
	一時停止
	赤信号

RSA の設定を変更する

RSA の設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。
(→P.583)

レーダークルーズコントロール

車両前方の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

システムが正しく作動しないおそれのある状況：→P.272

●設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

●システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

走行中に限らず、運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

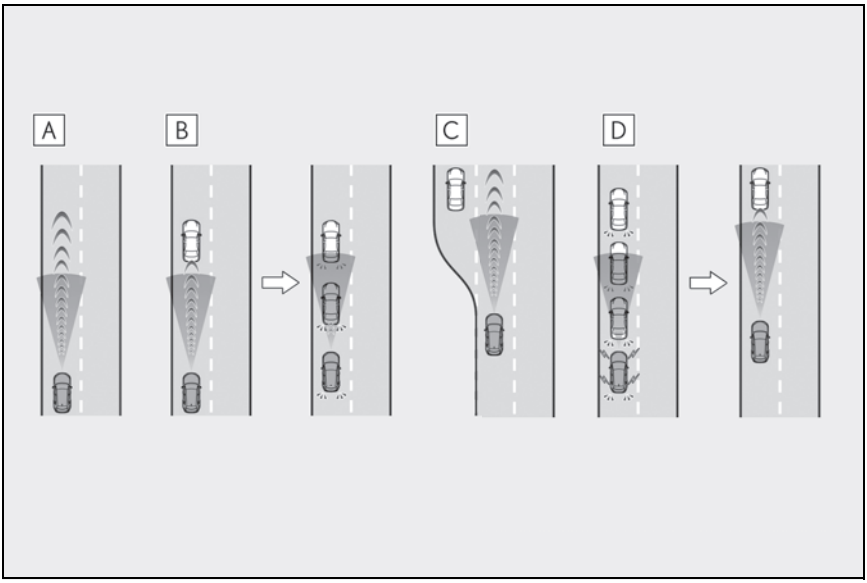
警告

■レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.229
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.224

基本機能



A 定速走行：
先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

下り坂走行で設定車速を超えた時、設定車速が点滅し警報ブザーが吹鳴します。

B 減速走行ー追従走行：

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

C 加速走行：

設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

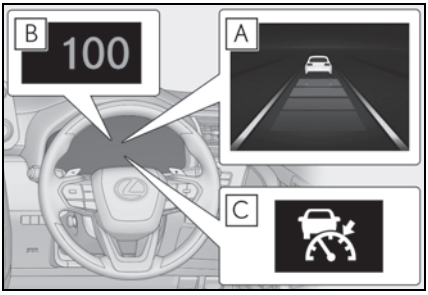
D 発進：

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、RES スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

高速道路／自動車専用道路の一部を走行中に先行車が停止したときは、続いて停車します。停車してから約 3 分以内に先行車が発進したとシステムが判断すると、ブザーとディスプレイ表示でお知らせし、先行車に続いて発進します。（再発進可能時間延長）

システムの構成部品

■ メーター表示

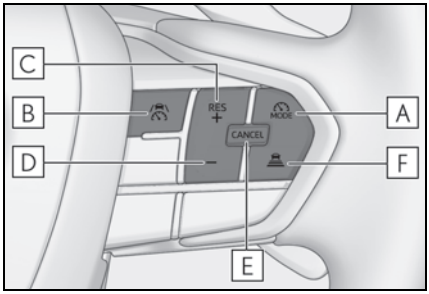


A マルチインフォメーションディスプレイ

B 設定速度

C 表示灯

■ 操作スイッチ



A 走行支援モード選択スイッチ

B 走行支援スイッチ

C + スイッチ、RES スイッチ

D ースイッチ

E キャンセルスイッチ

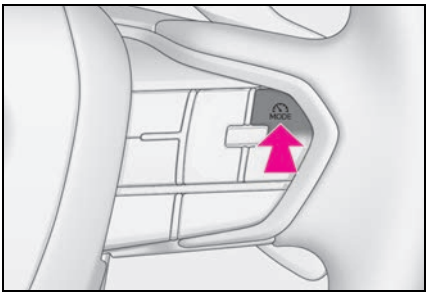
F 車間距離切りかえスイッチ

レーダークルーズコントロールを使用する

■ 速度を設定する

1 走行支援モード選択スイッチを押して、レーダークルーズモードを選択する

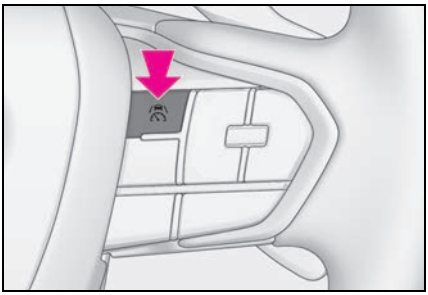
レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。



2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

マルチインフォメーションディスプレイに設定した速度が表示されます。

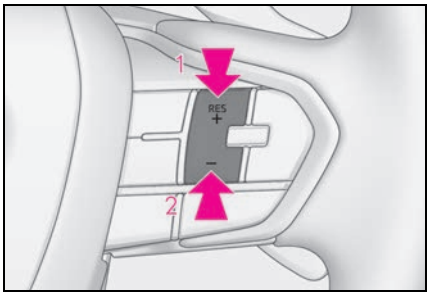
スイッチを離したときの車速で定速走行できます。



■ 設定速度をかえる

● スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで + スイッチまたは－スイッチを押します。



1 速度を上げる

2 速度を下げる

短押し調整：スイッチを押す

長押し調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す

設定速度は、次のとおりに増減されます：

短押し調整：スイッチを操作するごとに 1km/h

長押し調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/h ずつ

カスタマイズメニューから、設定速度の変化量を変更することができます。

● アクセルペダルで設定速度を上げる

1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

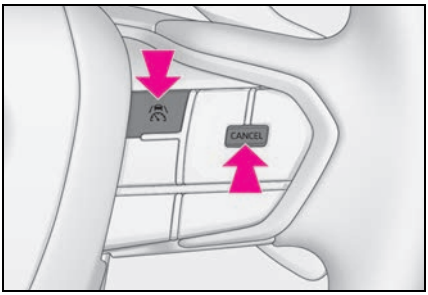
2 + スイッチを押す

■ 制御を解除する・復帰させる

1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（制御停車中は、ブレーキペダルを

踏んでも解除されません）

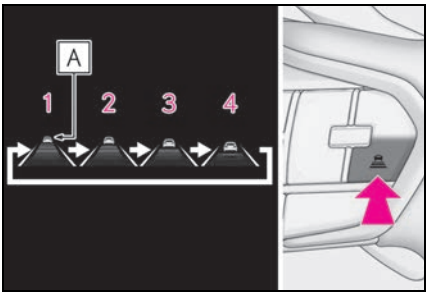


2 制御を復帰させるには、RES スイッチを押す

■ 車間距離を変更する

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

先行車がいる場合、先行車マーク A も表示されます。



イラスト番号	車間距離	距離の目安（車速100km/h の場合）
1	最長	約 70m
2	長	約 60m
3	中	約 45m
4	短	約 30m

車速に応じて実際の車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

■ 音声対話サービスでの操作

音声対話サービスを使用して、次の操作を音声で行うことができます。音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

● 設定速度の変更

● 車間距離の変更

知識

■設定条件について

●シフトレバーが D のとき設定できます。

●車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。

・車速が約 30km/h 未満のときに設定すると、約 30km/h に設定されます。

・車速がシステムの上限を超えているときに設定すると、設定速度の上限に設定されます。

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■追従走行中の停車制御について

●制御停車中に RES スイッチを押した場合、約 3 秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。

●先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）

●パーキングブレーキが作動したとき

●走行中に運転席シートベルトを着用していないとき

●プリクラッシュセーフティが OFF のとき

●急坂路で制御停車したとき

●制御停車中に次を検出したとき
・ 運転席シートベルトを着用していない
・ 運転席ドアが開いた
・ 車両が停止したあと約 3 分経過した

自動でパーキングブレーキがかかることがあります。

●システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.230

■**レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー**

安全にお使いいただくために：→P.224

■**センサーが正しく検知しないおそれのある先行車**

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P.272）も作動しないおそれがあります。

●割込み車両、離脱車両の車線変更が極端に速い、または遅いとき

●自車が車線変更しているとき

●先行車が低速で走行中のとき

●同じ車線に停車中の車がいるとき

●同じ車線を二輪車が走行中のとき

■**システムが正しく作動しないおそれのある状況**

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●先行車が急ブレーキをかけたとき

●渋滞時等、低速で車線変更したとき

■**再発進可能時間延長の作動条件**

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●自動車専用道路など限定された道路を走行中

●先行車が存在し、システムが先行車を検知できている

●先行車と自車のあいだに他車が割り込んできていない

●先行車が入れかわっていない

●クリアランスソナーおよび前側方レーダーが前方の物体を検知していない

●運転者が前方を向いているとドライバーモニターが判断している

●ハンドルを操作していない

●ブレーキペダルを操作していない

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

■ **警報されないとき**

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

● 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき

● 先行車が極端な低速走行をしているとき

● 速度を設定した直後

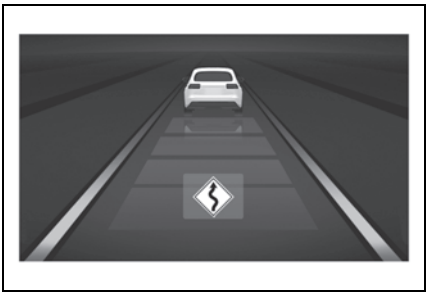
● アクセルペダルを踏んだとき

カーブ速度抑制機能

カーブを認識すると車速の抑制を開始します。カーブが終了すると車速の抑制が終了します。

状況に応じて設定速度まで復帰します。

先行車に割り込まれる等で、追従走行が優先された場合も車速抑制は終了します。



知識

■ **カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況**

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が作動しない場合があります。

● 緩やかなカーブを走行しているとき

● アクセルペダルを操作しているとき

● 極端に短いカーブを走行しているとき

ドライバーモニター連携機能

ドライバーモニターによる注意喚起が表示されている場合、加速を抑制します。

ドライバーモニターによる注意喚起の表示が消えた場合、加速抑制を終了します。

車線変更時の補助機能

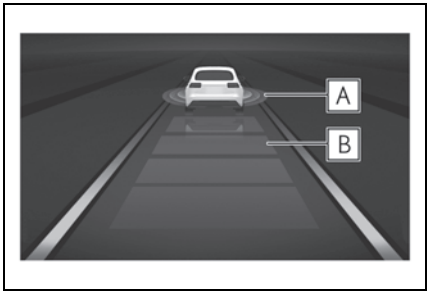
約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

約 80km/h 以上で走行中に自車より遅い車両の後方へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して緩減速することで、車線変更を補助します。

通信利用型レーダークルーズコントロール

先行車の加減速の情報を通信で取得することにより、先行車の加減速に素早く追従して車間距離や速度の変動を抑制し、スムーズな追従走行に寄与します。また、先行車が認識できなくなった場合は自動的に通常のレーダークルーズコントロールに切りかわります。

先行車も通信利用型レーダークルーズコントロールに対応している場合に自動的に作動します。



A 先行車通信マーク

B 車間距離表示

知識

■ **通信利用型レーダークルーズコントロールについて**

● 本機能によって、車間制御モードの速

度や車間距離設定が変更されることはありません。

●先行車が通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していないときは、本機能は作動しません。

●先行車や周囲の車両の走行状態によっては、スムーズな追従走行が行われない場合や、自車の速度や先行車との車間距離に影響がおよぶ場合があります。必要に応じてブレーキ・アクセルを操作してください。

■**通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しないおそれがある状況**

次のような状況では、通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しない、または通信利用型レーダークルーズコントロールから通常のレーダークルーズコントロールに切りかわる場合があります。

●先行車との通信が途絶したとき

●センサーが先行車を誤って検知したとき

●トンネルやビル街などで、自車または先行車の GPS 受信状態や通信状態が悪化しているとき

●追従していた先行車が車線変更などで離脱したとき

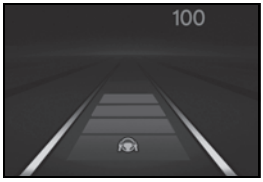
●通信していた先行車とのあいだに、通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していない車両が割りこんできたとき

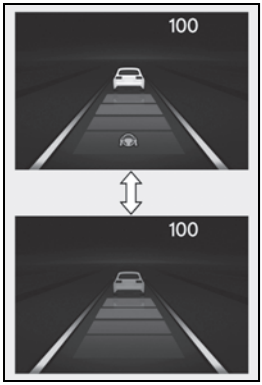
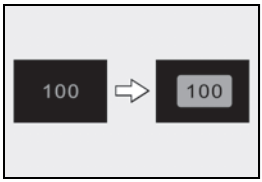
レーダークルーズコントロールの設定を変更する

レーダークルーズコントロールの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。(→P.583)

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

レーダークルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
白色		設定車間距離：灰色	レーダークルーズコントロール OFF
緑色		設定車間距離：青色 設定速度：緑色	定速走行

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
緑色		設定車間距離：青色 設定速度：緑色 先行車：白色	追従走行
緑色		設定車間距離：橙色点滅 設定速度：緑色 先行車：橙色点滅	接近警報
緑色		設定車間距離：灰色 設定速度：白色 先行車：灰色	アクセルペダルによる加速中
緑色		設定速度：緑色反転表示	設定速度超過時
緑色		設定車間距離：灰色 設定速度：白色 先行車：灰色	制御停車

クルーズコントロール

アクセルペダルを踏まなくても、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

■クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面

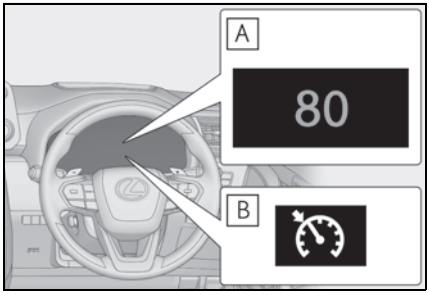
●急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

●システムを OFF にする必要があるとき：→P.224

システムの構成部品

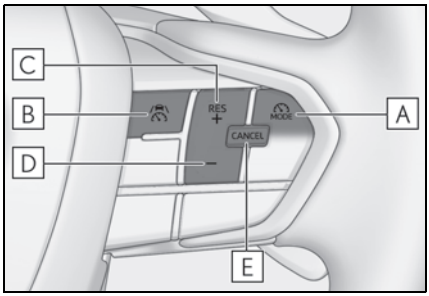
■ メーター表示



A 設定速度

B クルーズコントロール表示灯

■ 操作スイッチ



A 走行支援モード選択スイッチ

B 走行支援スイッチ

C + スイッチ、RES スイッチ

D ースイッチ

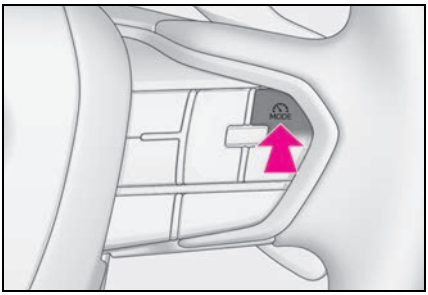
E キャンセルスイッチ

クルーズコントロールを使用する

■ 速度を設定する

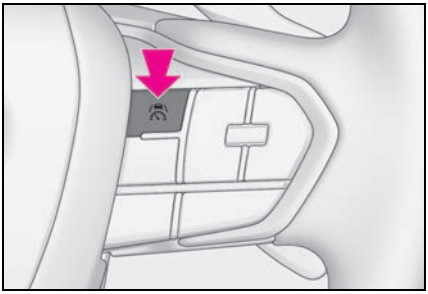
1 走行支援モード選択スイッチを押してクルーズコントロールモードを選択する

クルーズコントロール表示灯が点灯します。



2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

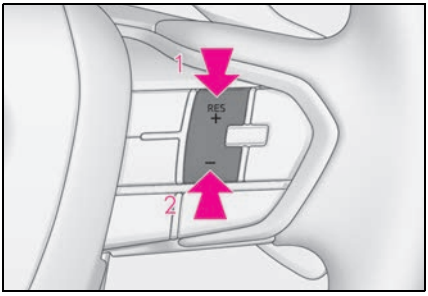
スイッチを離したときの車速で定速走行できます。



■ **設定速度をかえる**

● スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで＋スイッチまたは－スイッチを押します。



1 速度を上げる

2 速度を下げる

設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

● アクセルペダルで設定速度を上げる

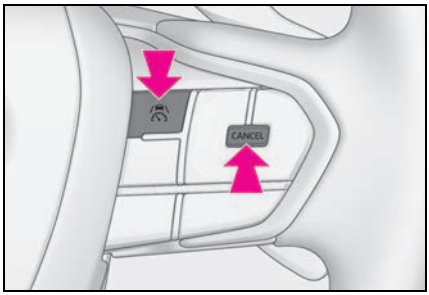
1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

2 ＋スイッチを押す

■ **制御を解除する・復帰させる**

1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。



2 制御を復帰させるには、RES スイッチを押す

知識

■ **クルーズコントロールの自動解除**

次のとき、自動的にクルーズコントロールが解除されます。

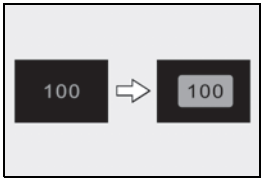
● 設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき

● 車速が約 30km/h 未満になったとき

- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
  （例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
- パーキングブレーキが作動したとき
- 運転席シートベルトを着用していないとき
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.230

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

クルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
白色		なし	クルーズコントロール OFF
緑色		設定速度：緑色	定速走行
緑色		設定速度：緑色反転表示	設定速度超過時

ドライバー異常時対応システム

ドライバー異常時対応システムは、走行中の運転者が、急病などにより運転の継続が困難になった場合に、自動的に車線内で自車を減速、停車させるシステムです。

LTA（レーントレーシングアシスト）制御中に、手放しなどの無操作運転状態からシステムが運転者が異常状態であると判断すると、車線内で減速、停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）制御中のハンドル保持警告に運転者が反応しない場合も減速・停車します。

警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合を対象とするシステムであり、居眠り運転や注意散漫な運転、体調が悪い場合の運転を対象とするものではありません。
- ドライバー異常時対応システムは、システムが運転者による運転の継続が困難と判断した場合に、自車線内で減速、停車を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。また、作動には条件があり、作動条件を満たさない場合は作動しません。
- システム作動後、異常から復帰できた場合には、速やかに運転を再開するか、路肩へ避難し、三角表示板および発炎筒を設置して後続車両に停車していることをお知らせください。
- システム作動後、同乗者は運転者への救護措置をはじめとした必要な危険防止措置をとり、路側帯やガードレールの外側などの安全な場所にすみやかに退避してください。
- 本システムは運転者の異常をハンドルの操作状態などで判断しています。正常な運転者が意図的に無操作を続けた場合には、システムが作動することがあります。また、運転者が異常状態であっても、ハンドルにもたれかかるなどシステムが手放し運転と判断できない場合は、システムが作動しないことがあります。
- ドライバーモニターが正常に作動しないおそれがある状況：→P.230

システム概要

本システムは 4 つの状態に分けられます。「警告 1 フェーズ」、「警告 2 フェーズ」で運転者への注意喚起や速度抑制を実施しながら、運転者の正常／異常判定を行います。システ

ムが、運転者が異常状態であると判断した場合には「減速停車フェーズ」、「停車保持フェーズ」で自車を減速、停車させます。

知識

■作動条件

次の条件をすべて満たすと作動します。

●システムが自動車専用道路と認識しているとき

システムが誤って一般道を自動車専用道路と認識する場合があります。

●LTA を ON にしているとき

または、アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）制御中のとき

●自車速が約 50km/h 以上

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）作動中は 50km/h 以下でも作動します。

■作動解除条件

次のいずれかの状況では作動解除されます。

●LTA 制御がキャンセルされたとき（LTA スイッチを押した場合など）

●レーダークルーズコントロール制御がキャンセルされたとき

●ドライバー操作が検出されたとき（ハンドルを握る、ブレーキ操作、アクセル操作、パーキングブレーキ操作、非常点滅灯スイッチ操作、方向指示レバー操作）

●自車が一般道を走行しているとシステムが判断したとき

●停止保持中、シフトポジションを P にした状態で走行支援スイッチを押したとき

●エンジンスイッチをONからOFFにしたとき

●システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.230

■作動解除時の LTA 制御

システムの作動が解除された場合、LTA 制御がキャンセルされる場合があります。

警告 1 フェーズ

手放し運転警告がされてからも運転操作がない場合、ブザー（断続音）とディスプレイ表示により注意喚起を行い、運転者の正常／異常判定を行います。一定時間以内にハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合、警告 2 フェーズに移行します。

ドライバー異常の検出状況によっては警告 1 フェーズを経由せず警告 2 フェーズから制御が開始される場合があります。

警告 2 フェーズ

ブザー（早い断続音）とディスプレイ表示により注意喚起を行い、ゆるやかに車速を減速させます。一定時間以内にハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合には、システムが運転者が異常状態であると判断し、減速停車フェーズに移行します。

車両の減速時に道路環境等の要因によって、ストップランプが点灯する場合があります。

ある程度減速すると、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。システムの作動が終了しても、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅は継続します。

減速停車フェーズ

運転者が異常状態にあると判断し、ブザー（連続音）とディスプレイ表示で運転者に注意喚起を行うとともに、ゆるやかに減速して車両を停車させます。減速と同時に、ストップランプの点灯、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態であることをお知らせします。車両が停車すると停車保持フェーズに移行します。

停車保持フェーズ

停車後、パーキングブレーキが自動でかかります。引き続きブザー（連続音）で注意喚起を行うとともに、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅とホーンによって周囲に緊急事態を知らせます。また、ドア解錠やヘルプネット自動接続による運転者の救命・救護要請（ヘルプネット契約時のみ）を行います。

知識

■ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続後、ヘルプネットのオペレーターからの声掛けに対して車内からの応答がない場合、救命・救護のために救急や警察へ通報を行います。

■作動解除後の機能制限

減速停車フェーズに移行後は、ドライバー異常時対応システムの作動が解除されていてもエンジンを再始動するまで次の機能が使用できなくなります。

- LTA
- LCA
- アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）

警告

■ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続は、G-Link 通信エリア内、かつ G-Link 契約がされている場合にのみ行われます。G-Link 通信エリア外や G-Link 未契約、G-Link 契約が未更新の場合は接続が行われず、警察・救急への通報が行われません。あらかじめ通信エリアとご自身の G-Link 契約をご確認の上、システムをご利用ください。

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）は、運転者による状況確認のもと、一部を除く、高速道路・自動車専用道路の本線での車線維持・加減速・停車・発進を支援するシステムです。また、緊急時には減速・停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）を支援するセンサー

- 周囲の状況を検出するセンサー（→P.225）
- 運転者の状態を検出するセンサー（→P.226）

知識

■ **システムの一部もしくは全てが作動しないとき**

→P.230

■ **ブレーキの作動音や踏み応えの変化について**

→P.230

■ **ドライバーモニターが正常に作動しないおそれがある状況**

→P.230

ドライバー異常時対応システム

→P.279

レーダークルーズ再発進可能時間延長

→P.272

渋滞時支援機能

渋滞時支援機能は、一部を除く、高速道路・自動車専用道路の本線において運転者による状況確認の下で車線維持・加減速・停車を支援するシステムです。

作動条件をすべて満たした場合、渋滞時支援機能が作動します。

システム作動中はハンドルから手を離すことが可能です。（→P.284）

レーダークルーズコントロール、LTA（レーントレーシングアシスト）の内容をご理解いただいた上で、渋滞時支援機能をお使いください。

サービスエリア／パーキングエリア、料金所などに進入する際や、車線変更時は運転者自身の操作で運転を行ってください。

警告

■ **安全にお使いいただくために**

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- 渋滞時支援機能は自動で運転するシステムではありません。
  本システムは道路の形状・状態・交通状況や運転者の状態に応じて、運転者への情報提供や運転支援を行います。常に周囲の状況を把握した上で、運転者の責任においてシステムを使用してください。

警告

●渋滞時支援機能は周囲の状況・道路の状態、運転者の状態によっては作動しない、または作動を中断することがあります。また、常に同じ性能を発揮できるものではありません。機能の作動条件をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

●渋滞時支援機能の認識性能・制御性能には限界があるため、システム作動中であっても運転者自身の操作で安全を確保する必要があります。また本システムの操舵アシストは、渋滞中の緩やかな操舵に限定した機能であり、本機能作動中は LDA の逸脱抑制機能は作動しません。何らかの理由で車線を逸脱しそうになった場合は運転者は自らの責任で運転操作してください。

●システムが正常に作動していたとしても、運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり安全を委ねる運転をしたりすると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●渋滞時支援機能作動中でも運転者での操作が必要となる状況があるため、運転者自身で視界を確保する必要があります。

●渋滞時支援機能は状況に応じてディスプレイ表示でハンドルの保持を促すことがあります。ハンドルを保持し、運転者自身の操作で安全を確保してください。

●渋滞時支援機能は、次のものを検出しません。必要に応じて自らハンドル・アクセル・ブレーキなどの操作をし回避してください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・路上落下物

・車線外（路肩など）にいる車両

・くぼみ・陥没・ひび割れなどの破損した道路

・工事区間

・隣接する並走車両や壁

・動物

■機能を使用してはいけない状況

次のような状況では渋滞時支援機能を使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●システムを OFF にする必要があるとき

→P.224

●センサーが正しく作動しないおそれがあるとき

→P.229

●車線を検知できないおそれがあるとき

→P.230

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では渋滞時支援機能が正常に作動しないおそれがあります。必要に応じて運転者自身で操作してください。

●水しぶきがかかったとき

●外気温が高温または低温のとき

警告

- 自車の前方に割り込みがあったとき
- 合流してくる車線があるとき
- 見通しが悪い状況で走行しているとき
- 車両姿勢が変化しているとき
- タイヤの接地面の状態が、左右で著しく異なる場所を走行しているとき
- 中央分離帯がポール等で区切られている暫定供用区間や中央分離帯がない自動車専用道路を走行しているとき
- 自車と他車の速度差が大きいとき
- 地図情報が正常に更新されていないとき

■レーダーの故障や誤作動を防ぐために

→P.226

■前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

→P.227

■フロントウインドウガラスの前方カメラ取り付け部について

→P.228

知識

■機能の作動条件

次の条件を満たしたとき作動します。

- システムが車線および先行車／周辺車の軌跡を認識しているとき
- レーダークルーズコントロールおよびレーントレーシングアシストが作動しているとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 急なカーブを走行していないとき
- 車線中央付近を走行しているとき
- ドライバーの前方監視状態を検知しているとき
- 高速道路・自動車専用道路の本線にて渋滞走行しており、車速が約 40km/h 以下であるとき（渋滞開始時など、一部条件下では、約 30km/h 以下で機能が開始します）
- 運転席ドアが閉まっている
- 運転席シートベルトを締めている
- アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）のカスタマイズが OFF に設定されていないとき
- システムを構成する機能や部品が正常な状態であるとき
- PCS カスタマイズが OFF に設定されていないとき
- レーダークルーズコントロールの再発進可能時間延長カスタマイズが OFF に設定されていないとき

■機能の一時解除

- 機能の作動条件が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。
- 機能作動中に作動条件が満たされなくなった場合、ブザー音と表示で一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。お知らせに対して運転者の反応がなかった場合、ドライバー異常時対応システムが作動することがあります。それぞれの表示の意味については以下をご覧ください。（→P.285）

■制御走行中の運転操作について

- アクセルペダル

通常走行と同様、アクセルペダルを踏むことで加速できます。

約 10km/h 以上で走行中にアクセルペダ

ルを踏んだときには、機能が解除されます。

●ブレーキペダル

通常走行と同様、ブレーキペダルを操作することができます。ただし、制御走行は解除されます。

●ハンドル

通常走行と同様、ハンドルを操作することができます。一定以上ハンドルを操作すると、制御走行が解除されることがあります。

■**ディスプレイに警告メッセージが表示されているとき**

● “Advanced Drive 使用できません　販売店で点検 ”

渋滞時支援機能が正常に作動しなくなっているおそれがあります。販売店で点検をうけてください。

● “Advanced Drive 使用できません　停車支援機能作動履歴有 ”

ドライバー異常時対応システムが作動したため、一時的にシステムが使用できません。使用するには、エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしてください。

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）の設定を変更する

渋滞時支援機能の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.583）

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

以下の表示を用いて渋滞運転支援システムの作動状態を示しています。

ディスプレイ表示	状態	対処
	渋滞時支援機能が作動中	—
（灰色）	渋滞時支援機能終了を事前に告知	ハンドルを保持する
（橙色）	渋滞時支援機能終了を告知	ハンドルを保持する
（赤色）	レーダークルーズコントロール／LTA の両方、またはいずれかの作動が終了したことを通知	速やかに運転者自身でハンドルを保持し、運転操作を行う
（黄色）	割り込みや周辺車両の動きに応じた運転操作が必要であることを告知	運転者自身で周辺環境に応じて、ハンドル・アクセル・ブレーキの操作を行う

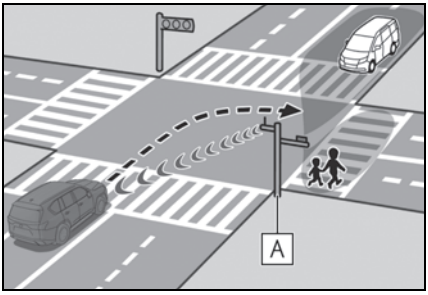
ITS Connect

ITS Connect は、交通情報や周辺車両の情報を受信することにより、安全運転や快適な運転を支援するシステムです。

ITS Connect の概要

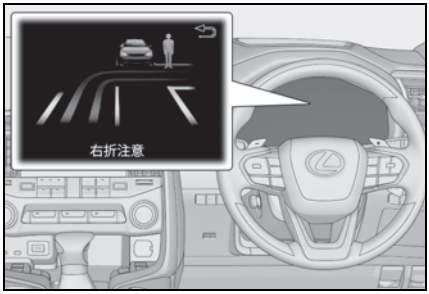
■ 安全運転を支援する通知・案内・注意喚起

ITS Connect は、道路に設置された DSSS※ 用路側装置や通信機を搭載した車両と無線通信することで、見通しが悪い交差点の交通状況などの情報を受信します。



A 路側装置

受信した情報は、状況に応じて通知・案内や注意喚起としてマルチインフォメーションディスプレイなどに表示され、運転者に注意をうながすことにより安全運転を支援します。



※ DSSS（Driving Safety Support Systems）とは、運転者の認知・判断の遅れや誤りによる交通事故を未然に防止することを目的とするシステムで、警察庁が推進しているプロジェクトです。

■ 通信利用型レーダークルーズコントロール

先行車との通信により受信した加速／減速情報をレーダークルーズコントロールの制御に利用し、よりスムーズな追従走行に寄与することで快適な運転を支援します。詳細はP.267 を参照してください。

知識

■ITS Connect 機器に関する情報

- 本機は、ITS Connect 推進協議会が規定する相互接続性確認試験に適合しています。
  機種名：DTU-1030
  型式認定番号：10008
- 本システムは、周波数 760MHz の電波を発信するため、お車を海外へ持ち込んだ場合はその国の関連法規に違反する場合があります。

■ITS Connect に関するお問い合わせについて

ITS Connect に関するお問い合わせ（機器の調子・機能・使用方法や路側装置の整備計画など）はレクサスオーナーズデ

スクにお問い合わせください。

レクサスオーナーズデスクについて詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
ITS Connect はあらゆる状況で安全運転の支援をするものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ITS Connect は安全運転の支援を目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかわり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
「システムが正常に作動しないおそれがあるとき」（→P.290）をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

■ITS Connect について

●次のような状況では、ITS Connect は作動しません。

・交差点に DSSS 用路側装置が設置されていないとき

・先行車や接近してくる車両に通信機が搭載されていないとき

●交差点に進入する方向によっては、作動する通知・案内・注意喚起が異なる場合があります。

■右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）について

DSSS 用路側装置が設置された交差点であっても、DSSS 用路側装置の種類や交差点に進入する方向によっては、対向車のみを検知し、歩行者に対する注意喚起をしない場合があります。
そのため、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。
「割り込み表示による通知・案内・注意喚起」（→P.288）をお読みいただき、必ず自らの目視による安全確認を行ってください。

■右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）・出会い頭注意喚起について

通信機を搭載した車両が接近してきても、地図データと実際の道路状況が異なるときは、交差点付近であることが判断できず、注意喚起をしなかったり、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。

注意

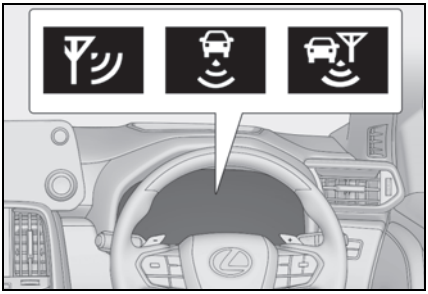
■ITS Connect 機器取り扱いの注意

●ITS Connect 機器は電波法の基準に適合しています。ITS Connect 機器に貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。

●ITS Connect 機器を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

ITS Connect アイコンの見方

ITS Connect の機能が利用可能なとき、メーターに次のアイコンを表示して通信の接続状態をお知らせします。



アイコン	接続状態
	道路に設置された DSSS 用路側装置から必要な情報を取得できている
	通信機を搭載した車両から必要な情報を取得できている
	道路に設置された DSSS 用路側装置、および通信機を搭載した車両、両方から必要な情報を取得できている

割り込み表示による通知・案内・注意喚起

状況に応じて、次の通知・案内・注意喚起をマルチインフォメーションディスプレイに割り込み表示します。

右折時注意喚起・赤信号注意喚起・出会い頭注意喚起はヘッドアップディスプレイにも割り込み表示します。

出会い頭注意喚起はパノラミックビューモニターにも表示します。

■ 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）

交差点で右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、対向車や歩行者がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車や右折先の歩行者を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点に設置されている DSSS 用路側装置（感知器）の種類によって、注意喚起の表示は次のように異なります。

▶ 対向車および歩行者を感知する交差点

▶ 対向車のみを感知する交差点

・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）

DSSS 用路側装置が設置されていない交差点で、地図データを用いるこ

とにより、右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、通信機を搭載した対向車がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ **出会い頭注意喚起**

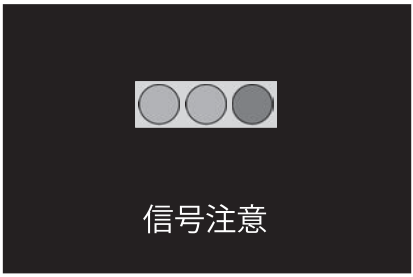
地図データを用いることにより、交差点で停車しているときに、右または左方向から交差点に進入してくる車両がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、接近する右または左方向の車両を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

低速走行中にも、表示による注意喚起を行います。

・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ **赤信号注意喚起**

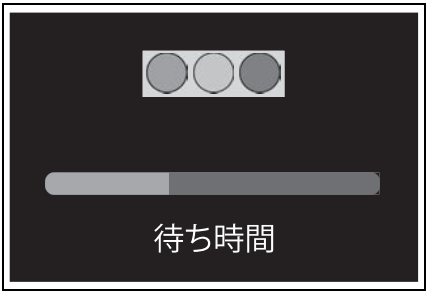
赤信号の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、赤信号を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。



■ **信号待ち発進準備案内**

赤信号で停車したとき、青信号にかわるまでの待ち時間の目安をバー表示で表します。

待ち時間が残り少なくなるとバー表示が消え、まもなく信号がかわることを表します。



■ **緊急車両存在通知**

緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているときに、ブザーと音声案内により、自車に対する緊急車両のおおよその方向・距離・進行方向を表示します。

緊急車両の距離と進行方向が表示されていないときは、自車のすぐ近くに緊急車両がいることを表します。

知識

■ **交差点ごとの作動する通知・案内・注意喚起について**

道路に設置されている DSSS 用路側装置の種類により発信している情報が異なるため、交差点によって作動する通知・案内・注意喚起は異なります。

■ **システムが正常に作動しないおそれがあるとき**

● 例えば次のような状況などでは、車両の位置や向きを正しく特定できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
- 高いビルや高い街路樹に囲まれているとき
- トンネルや高架下を通過しているとき
- エンジンを始動してから、しばらく走行するまでのあいだ

● 例えば次のような状況などでは、正しく通信ができず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
- 周囲に大型車が走行しているときなど、通信がさえぎられたとき
- 通信を妨害する電波が発せられているとき
- DSSS 用路側装置の向きがかわってしまっているとき
- DSSS 用路側装置がメンテナンス中や故障しているとき
- 他車両の通信機が故障しているとき

● 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
- 交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
- 周囲の環境や天候、DSSS 用路側装置の劣化などの影響により、対向車や歩行者の検知性能が低下しているとき
- 対向車や歩行者が周囲の建物や別の車両に隠れているとき
- DSSS 用路側装置の検知範囲外に対向車や歩行者がいるとき
- DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

● 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
- 交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
- 地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
- 相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

●出会い頭注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・交差点手前で一旦停止せずに通過しようとしたとき
・地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

●赤信号注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・遅い速度で走行しているとき
・停車しているとき
・交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●信号待ち発進準備案内は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・前方の信号機が青信号・黄信号または矢印信号のとき
・青信号にかわるまでの待ち時間が残り少ないとき
・停車していないとき
・交差点付近の側道や駐車場など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所に停車しているとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●緊急車両存在通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・緊急車両と自車の距離が一定以上離れているとき
・緊急車両が自車から遠ざかる方向に走行しているとき
・立体交差付近を走行しているとき
・緊急車両から受信した情報が誤っているとき

各機能の設定変更

マルチメディア画面のカスタマイズ設定から、ITS Connect の設定を変更することができます。

● 支援タイミング

次の機能の支援タイミング（早い／遅い）を切りかえることができます。※1（初期設定：早い）

- 赤信号注意喚起
- 右折時注意喚起

● 信号情報

次の機能の ON ／ OFF を切りかえることができます。※2（初期設定：ON）

- 赤信号注意喚起
- 信号待ち発進準備案内

● 道路環境情報

次の機能の ON ／ OFF を切りかえることができます。※2（初期設定：ON）

- 右折時注意喚起
- 出会い頭注意喚起 ※3

● 緊急車両通知

緊急車両存在通知の ON ／ OFF を切りかえることができます。（初期設定：ON）

● 通信利用型クルーズ

通信利用型レーダークルーズコントロールの ON ／ OFF を切りかえることができます。（初期設定：ON）

※1 各機能の支援タイミングを個別に変更することはできません。

※2 “ 信号情報 ” または “ 道路環境情報 ” に含まれる各機能を個別に ON ／ OFF することはできません。

※3 FCTA の注意喚起が非作動のときは作動しません。

知識

■出会い頭注意喚起の支援タイミングについて

出会い頭注意喚起の支援タイミングは、FCTA の注意喚起タイミングと連動して変更されます。

BSM（ブラインドスポットモニター）

ブラインドスポットモニターは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

警告

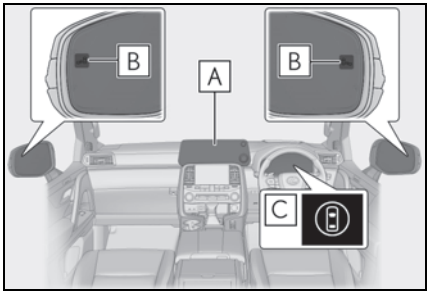
■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悶の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

システムの構成部品



A マルチメディア画面

ブラインドスポットモニターの ON ／ OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーター（→P.75）が点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅し、ブザーが鳴ります。

C 運転支援情報表示灯

ブラインドスポットモニターが OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.583）

■後側方レーダーセンサーの取り扱いについて

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので、消さないでください。製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

R 202-LSF078

C5-000-1

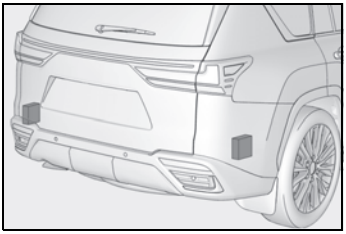
警告

■システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

警告

●センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく
センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM 機能の作動条件（→P.296）でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。



●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない

●センサー周辺のリヤバンパーを塗装しない

●センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずレクサス販売店にて点検を受けてください。

・センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた

・センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている

●センサーを分解しない

●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない

●センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

●センサーはリヤバンパー表面の塗装の影響を受けやすく、正しい修理をしないと警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。
塗装修理の際はレクサス販売店にご相談ください。

ブラインドスポットモニターの ON ／ OFF を切りかえるには

ブラインドスポットモニターの ON ／ OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.583）

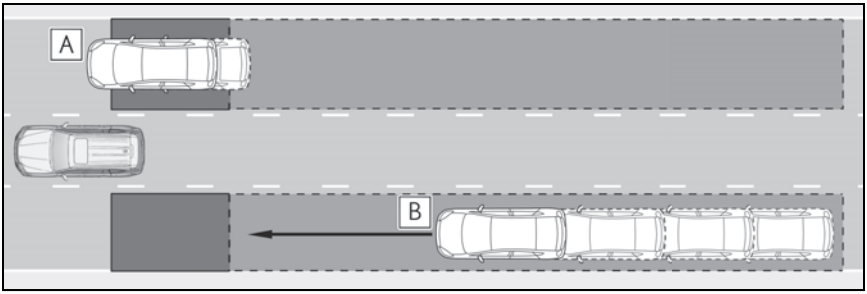
ブラインドスポットモニターが OFF になると、運転支援情報表示灯（→P.75）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

エンジンスイッチが ON になるたび、ブラインドスポットモニターは ON になります。

ブラインドスポットモニターの作動

■ 走行中に検知できる車両

ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

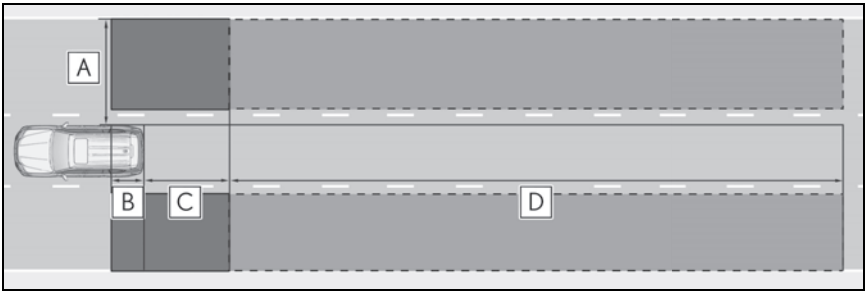


A ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

B 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

■ 走行中に検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

A 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域 ※1

B リヤバンパーから約 1m 前方の領域 ※2

C リヤバンパーから約 3m 後方の領域

D リヤバンパーから後方約 3m ～ 70m の領域 ※3

※1 車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

※2自車が追いこされる場合には、リヤバンパーから約 3m 前方まで車両の検知を継続します。

※3自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

■ 関連機能

隣の車線を走行する車両の検知を用いた機能が LDA（レーンディパーチャーアラート）にあります。本機能の作動条件などの詳細については P.250 を参照してください。

知識

■作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- ●エンジンスイッチが ON のとき
- ●ブラインドスポットモニターが ON のとき
- ●シフトレバーが R 以外のとき
- ●車速が約 10km/h 以上のとき

■センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- ●隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき
- ●小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき
- ●他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■システムが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- ●小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※
- ●対向車
- ●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※
- ●同じ車線を走行する後続車 ※
- ●2 つ隣の車線を走行する他車 ※
- ●大きい速度差で自車が追いこす他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■ブザーが鳴らない条件

次のような状況では、方向指示レバーを操作していてもドアミラーインジケーターは点滅しますが、ブザーは鳴りません。

- ●方向指示レバーを継続して操作したまま、2 台目の車両を検知したとき
- ●大きい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき ※

※ 状況によってはブザーが鳴ることがあります。

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

- ●次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。
  - ・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
  - ・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
  - ・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき

・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
・自車と他車の速度差に変化があるとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
・停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
・ブラインドスポットモニターを ON にした直後
・けん引しているとき

●特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・タイヤがスリップ（空転）しているとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・けん引しているとき

後方車両接近告知

後方車両接近告知は、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者に後方車両の接近をお知らせすることで、回避要否の判断を支援するシステムです。

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

後方車両接近告知は自車の後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

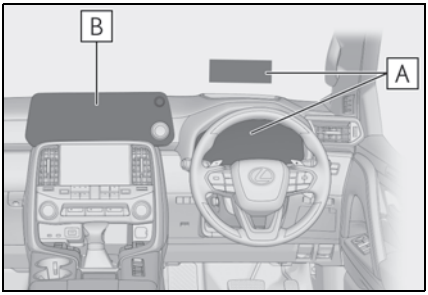
後方車両接近告知を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムを正しく作動させるために

→P.293

システムの構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ・ヘッドアップディスプレイ

後方車両の通行を妨げる可能性がある場合、メッセージとブザーでお知らせします。

B マルチメディア画面

後方車両接近告知の ON ／ OFF を切りかえます。

後方車両接近告知の ON ／ OFF を切りかえるには

後方車両接近告知の ON ／ OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.583）

知識

■ブザー音の聞こえ方について

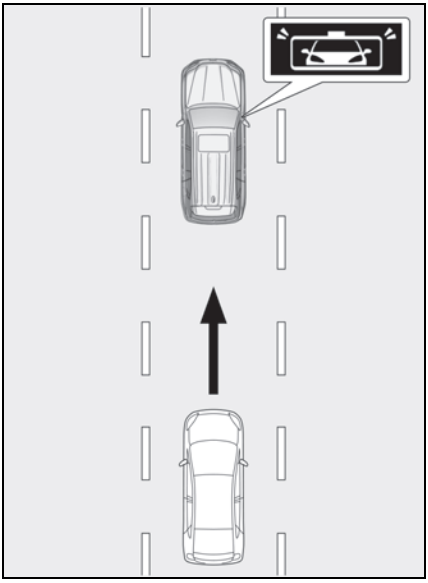
大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.583）

後方車両接近告知の作動

後方車両接近告知は後側方レーダーセンサーにより自車の後方から接近してくる車両を検知し、マルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイの表示とブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



知識

■後方車両接近告知の作動条件

後方車両接近告知は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●エンジンスイッチが ON のとき

●後方車両接近告知が ON のとき

●シフトレバーが R 以外のとき

●車速が約 60km/h 以上のとき

●方向指示レバーを操作していないとき

●ブレーキペダルを踏んでいないとき

●前回作動から約5分以上経過していること

■センサーが車両を検知する条件

後方車両接近告知は、同じ車線を走行する後方車両が近づいた状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■システムが検知しない条件

後方車両接近告知は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など※

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※

●対向車

●隣の車線を走行する他車※

※状況によっては検知をすることがあります。

■後方車両接近告知が正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
・けん引しているとき
・後方車両と自車の中心がずれているとき
・斜め後方から車両が近付いてくるとき
・自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
・他車の前方に割り込んだとき
・後方車両の周辺に他車が存在するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・後続車が自車に接近した後、一度離れて再度接近してきたとき
・後続車が自車から離れていくとき
・後続車が自車を追いこそうとしているとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき

●特に次のような状況では、後続車の接

近の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- けん引しているとき
- 自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
- 自車が右左折するときに後続車が自車の真後ろを通過したとき
- 後方車両が近距離から自車を追いこしたとき
- 車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線を走行する車両が検知範囲に入ったとき
- 後方車両の周辺に複数の車両が存在するとき
- 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき
- 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
- カーブ中に隣接車両がいるとき
- 他車の前方に割り込んだとき

周辺車両接近時サポート（録画機能、通報提案機能）

周辺車両接近時サポートは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用して至近距離の後方車両を検知し、運転者へ対処方法を提案するシステムです。

ドライブレコーダー（前後方）※が装着されている車両は、ドライブレコーダー（前後方）の録画機能を使用して、状況を自動で記録します。

※ 標準装備、メーカーオプションまたはメーカーパッケージオプションのドライブレコーダー（前後方）装着の場合に限ります。用品（販売店オプション）のドライブレコーダーではご利用になれません。

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

周辺車両接近時サポートは後方車両が至近距離まで接近したときの対処方法を運転者に提案する補助的なシステムです。

周辺車両接近時サポートを使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

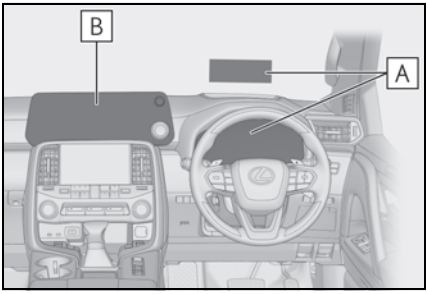
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■システムを正しく作動させるために

→P.293

システムの構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ・ヘッドアップディスプレイ

警察への通報またはヘルプネットへの接続を提案します。

B マルチメディア画面

周辺車両接近時サポートの ON ／ OFF を切りかえます。

周辺車両接近時サポートの ON ／ OFF を切りかえるには

周辺車両接近時サポートの ON ／ OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。
（→P.583）

知識

■音声の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、音声が聞こえづらくなる場合があります。

周辺車両接近時サポートの作動

後方車両が至近距離まで接近したときに、マルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイと音声で下記の対処方法を提案します。

ドライブレコーダー装着車は、後方車両の映像を記録します。

■ 通報提案

携帯電話をマルチメディアとハンズフリー接続しているときは、ハンズフリー電話での警察への通報を提案します。

通報する場合は、マルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイで “はい（YES）” を選択してください。

ハンズフリー電話の詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ ヘルプネット接続提案

ヘルプネットを契約しているときは、ヘルプネットセンターへの通報を提案します。

通報する場合は、ヘルプネットボタンを押してください。

ヘルプネットの詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を

参照してください。

■ **イベント録画（ドライブレコーダー［前後方］装着車）**

車両後方の映像をイベント録画します。

ドライブレコーダー（前後方）の詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

知識

■**イベント録画の通知（ドライブレコーダー［前後方］装着車）**

通報提案もヘルプネット接続提案もしない場合は、イベント録画が記録されたことを通知します。

■**周辺車両接近時サポートの作動条件**

周辺車両接近時サポートは、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- ●エンジンスイッチが ON のとき
- ●周辺車両接近時サポートが ON のとき
- ●シフトレバーが R 以外のとき
- ●車速が約 60km/h 以上のとき
- ●方向指示レバーを操作していないとき
- ●ブレーキペダルを踏んでいないとき
- ●前回作動から約 10 分以上経過しているとき

■**通報提案の作動条件**

通報提案は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- ●携帯電話がマルチメディアと Bluetooth® でハンズフリー接続されているとき

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。トヨタ自動車株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。その他の商標および登録商標は、それぞれの所有者の商標および登録商標です。

- ●携帯電話の電波が圏外でないとき
- ●携帯電話が着信中、発信中、通話中でないとき

■**ヘルプネット接続提案の作動条件**

- ●通報提案がされていないとき
- ●ヘルプネットの契約がされている

■**センサーが車両を検知する条件**

周辺車両接近時サポートは、同じ車線を走行する後方車両が至近距離にいる状態が続いた状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■**システムが検知しない条件**

周辺車両接近時サポートは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- ●小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※
- ●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※
- ●対向車
- ●隣の車線を走行する他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■周辺車両接近時サポートが正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
・けん引しているとき
・後方車両と自車の中心がずれているとき
・斜め後方から車両が近付いてくるとき
・自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
・他車の前方に割り込んだとき
・後方車両の周辺に他車が存在するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき

●特に次のような状況では、後続車の接近がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・けん引しているとき
・自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
・自車が右左折するときに後続車が自車の真後ろを通過したとき
・後方車両が近距離から自車を追いこしたとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・後方車両の周辺に複数の車両が存在するとき
・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・カーブ中に隣接車両がいるとき
・他車の前方に割り込んだとき

後方車両への接近警報

後方車両への接近警報は、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、後方車両からの追突の可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながすシステムです。

警告

■安全にお使いいただくために

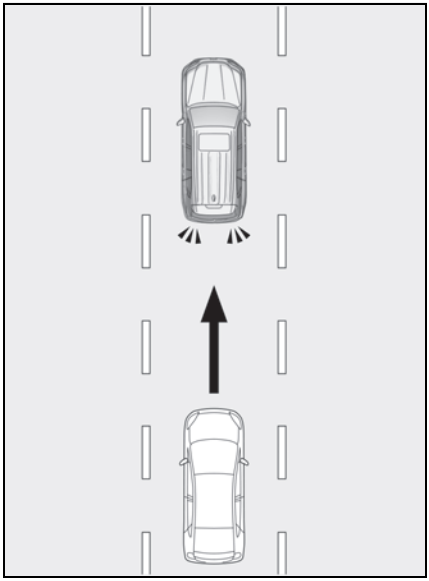
安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
後方車両への接近警報は自車の後方から接近してくる車両に追突される可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながす補助的なシステムです。
後方車両への接近警報を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムを正しく作動させるために

→P.293

後方車両への接近警報の作動

同じ車線を走行する後方車両を後側方レーダーセンサーで検出し、追突の可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながします。このときマルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、後方車両の接近を運転者に知らせます。



知識

■後方車両への接近警報の作動条件

次の条件を満たしたときシステムが作動します。

- エンジンスイッチが ON のとき
- シフトレバーが R 以外のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 自車から見た後方車の接近速度が約 30km/h ～ 100km/h のあいだ
- 自車の車速が約 10km/h 以下、または前進時でブレーキを踏んでいる

■センサーが車両を検知する条件

後方車両への接近警報は、同じ車線を走行する後方車両が追突の可能性が高い状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■システムが検知しない条件

後方車両への接近警報は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としませ

ん。

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●対向車

●隣の車線を走行する他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■**後方車両への接近警報が正しく作動しないおそれがある状況**

●次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面に停車、または走行しているとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
・けん引しているとき
・後方車両と自車の中心がずれているとき
・斜め後方から車両が近付いてくるとき
・自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
・後方車両の周辺に他車が存在するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき

●特に次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・けん引しているとき
・自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
・右左折待ちで停車したときなどに、自車の真うしろを車両が通過するとき
・道路脇に停車したときなどに、車両が真横を通過するとき
・後方車両が近距離から自車を追いこしたとき
・後方車両が近距離まで急接近したとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、停車中に後方車両からの追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキを制御することで、二次衝突による被害の軽減に寄与するシステムです。

警告

■安全にお使いいただくために

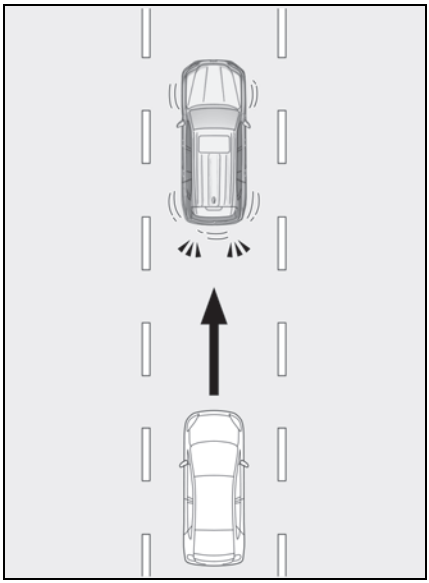
安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は停車中に同じ車線を走行する後方車両からの追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキを制御する補助的なシステムです。
セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムを正しく作動させるために

→P.293

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）の作動

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、停車中に同じ車線を走行する後方車両を後側方レーダーセンサーで検出し、追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、追突後の自車速度を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。



知識

■セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）の作動条件

次の条件を満たしたときシステムが作動します。

- エンジンスイッチが ON のとき
- シフトレバーが R 以外のとき ※
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 前回作動から約7分以上経過していること
- 自車から見た後方車の接近速度が約 30km/h ～ 100km/h のあいだ
- 自車の車速が約 0km/h のとき

※ シフトレバーがNのときはブレーキペダル・パーキングブレーキ・ブレーキホールドをいずれも操作していないときは作動しません。

■**センサーが車両を検知する条件**

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、同じ車線を走行する後方車両が追突の可能性が非常に高い状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■**システムが検知しない条件**

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●対向車

●隣の車線を走行する他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■**セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）が正しく作動しないおそれがある状況**

●次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面に停車しているとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
・けん引しているとき
・停車した直後に後方車両が接近したとき
・後方車両と自車の中心がずれているとき
・斜め後方から車両が近付いてくるとき
・自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
・後方車両の周辺に他車が存在するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

●特に次のような状況では、追突される可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・けん引しているとき
・右左折待ちで停車したときなどに、自車の真うしろを車両が通過するとき
・道路脇に停車したときなどに、他車が真横を通過するとき
・後方車両が近距離から自車を追いこしたとき
・後方車両が近距離まで自車に急接近したとき
・自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・停車間際・発進直後に後方車両が接近したとき
・走行中にすべりやすい路面などでのブレーキ操作により、自車のタイヤがロックしたときに後方車両が接近したとき
・洗車機で洗車しているとき

安心降車アシスト

安心降車アシストは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、各席乗員による降車時のドアと車両・自転車の衝突可能性の判断の支援をすることで、事故被害低減に貢献するシステムです。

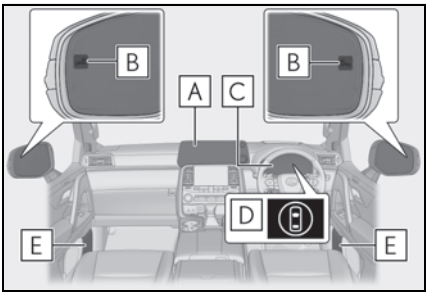
警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●安心降車アシストは、停車中に接近してくる車両や自転車の存在を乗員に提供する補助的なシステムです。本システムだけで安全を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、乗員は自らの目視やミラーなどによる安全確認を行う必要があります。

安心降車アシストのシステム構成部品



A マルチメディア画面

安心降車アシストの ON ／ OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

開いたドア（バックドアを除く）と衝突する可能性がある車両・自転車を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーター（→P.75）が点灯します。検知している側のドアを開いた場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

C マルチインフォメーションディスプレイ

衝突の可能性がある状態でドアの開放をした場合に対象のドアをメーターに表示します。また、ドアミラーインジケーターが点灯した状態でドアが開けられた場合などは、上記に加えてブザーで警報を行います。

D 運転支援情報表示灯

安心降車アシストが OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

E スピーカー

ドアミラーインジケーターが点滅した場合に音声にてシステムが作動したことを通知します。音声による通知が行われた後は、そのドアが全閉されるまで音声による再通知は実施されません。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■音声の通知について

以下のとき、音声による通知は実施されません。

●車内に乗員がいないと推定されるとき※

●ドアを開いて乗車後、エンジンを始動するまで

●エンジン停止後 3 分以上経過したとき

●マルチメディア画面の言語設定で音声発話に対応していない言語が設定されているとき

●外部より全ドアが施錠されているとき

●エンジン停止後、同一のドアが開いている状態が 1 分以上継続しているとき

●マルチメディア画面の ACC カスタマイズ（→P.584）が ON の状態で、エンジンが停止しているとき

●マルチメディア画面の駐車支援音量設定が OFF となっているとき

※ 各席毎に、走行前のドア開閉で乗車、走行後のドア開閉で降車と判断します。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.583）

警告

■システムを正しく作動させるために

→P.293

安心降車アシストの ON ／ OFF を切りかえる

安心降車アシストの ON ／ OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.583）

安心降車アシストが OFF になると、運転支援情報表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

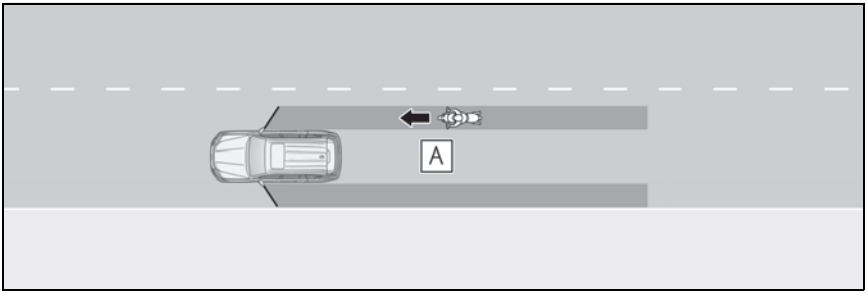
エンジンスイッチが ON になるたび、安心降車アシストは ON になります。※

※ エンジンスイッチ OFF 後、すぐにエンジンスイッチを ON にした場合は、安心降車アシストが ON にならない場合があります。

安心降車アシストの作動

■ 安心降車アシストが検知できる対象

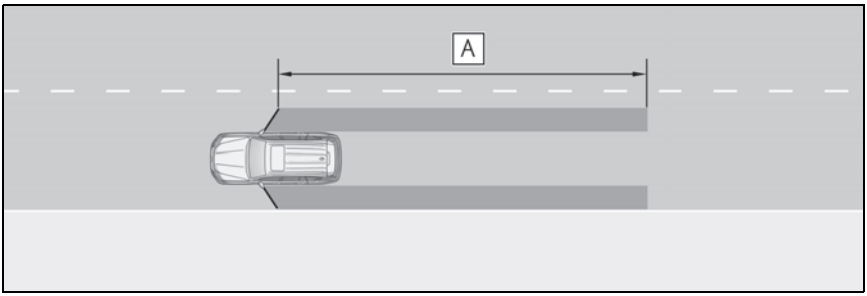
安心降車アシストは後側方レーダーセンサーにより自車の後方を走行する次の車両・自転車を検知し、ドアミラーインジケーター、ブザー、メーターの表示、および音声通知によってその車両の存在を乗員に知らせます。



A ドア（バックドアを除く）を開けたときにドアと衝突する可能性が高いと判断された車両・自転車

■ **安心降車アシストが検知できる範囲**

次の範囲に入った車両・自転車を検知します。



A フロントドアから後方約 45m の領域 ※

※ 接近する車両・自転車の速度が速いほど、ドアミラーインジケーターは車両・自転車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

知識

■ **安心降車アシストの作動条件**

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- ●エンジンスイッチが ON のとき、エンジン OFF 後 3 分以内、およびドアを開けて車内に乗り込んでから 3 分以内（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間がさらに延長される場合があります）
- ●安心降車アシストが ON のとき
- ●停車中
- ●シフトレバーが R 以外のとき

■ **センサーが車両を検知する条件**

安心降車アシストは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- ●停車している自車と並行に走行する車両や自転車がドア（バックドアを除く）を開けた範囲付近を通過するとき

■ **システムが車両を検知しない条件**

- ●安心降車アシストは、次のような車両・自転車や車両・自転車以外のものを検知対象としません。
  - ・接近する車両・自転車の速度が遅いとき ※
  - ・ドア（バックドアを除く）を開いたときに、衝突する可能性が低いと判断された車両・自転車 ※
  - ・真うしろから接近する車両・自転車 ※
  - ・前方から接近する車両・自転車 ※
  - ・ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※
  - ・歩行者・動物など ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

- ●安心降車アシストは、次のような状況では作動しません。
  - ・エンジン OFF 後に 3 分以上経過した場合（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間が延長される場合があります）
  - ・自車が完全に停車していないとき

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では車両や自転車を有効に検知しないおそれがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面に停車しているとき
・隣の駐車車両に後続する車両や自転車
・後方で急な進路変更をして接近する車両や自転車
・発進した直後の車両や自転車
・バックドアが開いているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやスロープを装着しているとき
・後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
・道路に対して傾いて停車しているとき
・接近する車両や自転車の周囲に走行する車両があるとき
・接近する車両や自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
・車両や自転車が高速で接近するとき
・けん引しているとき
・急勾配の坂道に停車しているとき
・カーブの途中や終了地点に停車しているとき

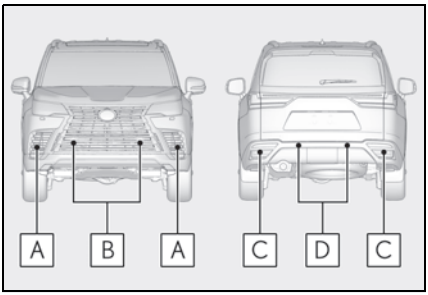
●特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・自車の後方からずれた状態で車両や自転車が接近するとき
・道路に対して傾いて停車しているとき
・斜めに駐車している後方を車両や自転車が接近するとき
・後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
・後方で急な進路変更をして接近する車両や自転車
・接近する車両や自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
・バックドアが開いているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやスロープを装着しているとき
・車両や自転車が高速で接近するとき
・けん引しているとき
・急勾配の坂道に停車しているとき
・カーブの途中や終了地点に停車しているとき
・隣接車線に停止している車両の後ろから車両や自転車が接近するとき

クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、マルチメディア画面の距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

システムの構成部品

■ センサーの種類



A フロントコーナーセンサー

B フロントセンターセンサー

C リヤコーナーセンサー

D リヤセンターセンサー

■ クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチメディア画面に表示されます。

イラストは説明のための例であり、仕様により異なります。

▶ マルチメディア画面の表示

■ クリアランスソナー検知表示灯★

静止物を検知するとクリアランスソナー検知表示灯が点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■クリアランスソナー検知表示灯の有無について

クリアランスソナーが OFF の状態でシフトポジションを R にしたとき、クリアランスソナー OFF 表示灯 (→P.312) が消灯する車両はクリアランスソナー検知表示灯があります。

クリアランスソナーの ON ／ OFF を切りかえるには

クリアランスソナーの ON ／ OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.583）

クリアランスソナー機能が OFF のときは、クリアランスソナー OFF 表示灯（→P.75）が点灯します。

OFF（非作動）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、カスタマイズメニュー（→P.583）から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。

（エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません）

クリアランスソナー検知表示灯がある車両は、シフトポジションを R にすると自動的に ON（作動）になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。
このとき、クリアランスソナー機能の ON ／ OFF を切りかえることができません。
クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。
正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。守れないときはシステムを OFF してください。

●センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。

●センサー付近に市販の部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けないでください。

●センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はレクサス販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はレクサス販売店にご相談ください。

●改造・分解・塗装をしないでください。

●ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。

●適正なタイヤ空気圧を維持してください。

●純正品以外のサスペンションを取り付けないでください。

■洗車時の注意

●高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識

■作動条件

●エンジンスイッチが ON のとき

●クリアランスソナー機能が ON のとき

●車両の速度が約 10km/h 以下のとき

●フロントコーナーセンサー：
・シフトポジションが P 以外にあるとき

●フロントセンターセンサー：
・シフトポジションが P・R 以外にあるとき

●リヤコーナー、リヤセンターセンサー：
・シフトポジションが R にあるとき

●クリアランスソナー検知表示灯がある車両は、シフトポジションを R にすると、クリアランスソナー機能を OFF（非作動）に設定している場合でも、自動的に ON（作動）になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。

クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

■センサーの検知について

●センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。

●静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。

●センサーが静止物に近付きすぎると検知できないことがあります。

●静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。

●オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

●他システムのブザー音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。

●メーター故障時はブザーの音が鳴らないことがあります。

■システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

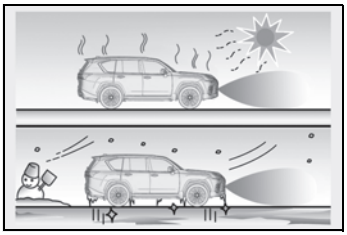
■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

●センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。

●炎天下や寒冷時



●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●大雨や水しぶきがかかったとき

●センサーに静止物が近付きすぎたとき

●超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）

●地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき

●風が強いとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●作動対象物と車両のあいだに検知できない対象物があるとき

●車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

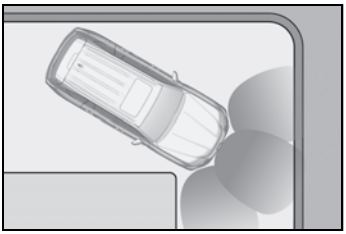
●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

●けん引しているとき

■**衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●狭い道路を走行するとき



●垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき

●地面にわだちや穴があるとき

●排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時

●急な登坂路や降坂路を走行するとき

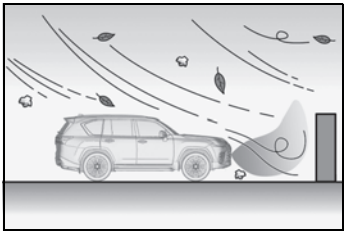
●冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●大雨や水しぶきがかかったとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●風が強いとき



●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

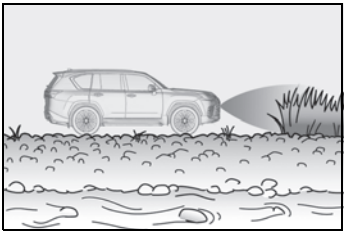
●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき

●立体駐車場や工事現場などで柱（H 形鋼など）の付近を走行するとき

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

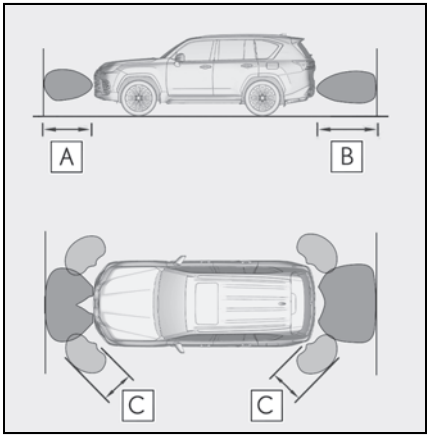


●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

●けん引しているとき

距離表示の見方

■ 静止物を検知できる範囲



A 約 100cm

B 約 150cm

C 約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

■ 検知距離とブザー音

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロントセンターセンサー： 約 100cm ～ 60cm※ リヤセンターセンサー： 約 150cm ～ 60cm※	断続音
約 60cm ～ 45cm※	速い断続音
約 45cm ～ 30cm※	非常に速い断続音
約 30cm 以下	連続音

※ 自動ミュート機能あり（→P.317）

音声案内とブザー音

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

ブザー音と同時に音声案内を行います。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
- 断続音ブザー吹鳴後、静止物との距離が近付かない場合は、自動でブザーが消音されます。（自動ミュート機能）

知識

■ ブザー音量調整

カスタマイズメニューから、クリアランスソナー、RCTA、RCD の音量を一括で切りかえることができます。（→P.583）

■ ブザー音の一時ミュート（消音）について

マルチメディア画面に一時ミュート（消音）スイッチが表示されているときにこのスイッチを押すと、一時的にブザー音を消すことができます。

クリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

- 次のとき、自動でミュート（消音）が解除されます。
  - ・シフトポジションを切りかえたとき
  - ・車速が一定値以上になったとき
  - ・センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
  - ・使用中の機能を OFF にしたとき
  - ・エンジンスイッチを OFF にしたとき

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能はリヤバンパー内側にあるブラインドスポットモニターの後側方レーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

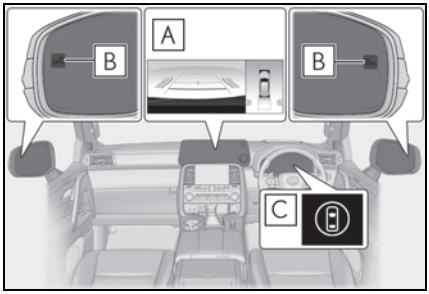
RCTA 機能を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムを正しく作動させるために

→P.293

システムの構成部品



A マルチメディア画面

マルチメディア画面上で RCTA 機能の ON ／ OFF を切りかえます。また、自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディア画面に検知した側の RCTA アイコン（→P.319）が点灯します。

イラスト ※ は両後方から車両が接近している例です。

※ 表示画面は、グレード、オプションなどにより異なる場合があります。

B ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーター（→P.75）が点滅し、ブザーが鳴ります。

C 運転支援情報表示灯

RCTA が OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

設定のしかた

RCTA の ON ／ OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.583）

RCTA 機能が OFF のとき、運転支援情報表示灯（→P.75）が点灯し、マ

ルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
エンジンスイッチが ON になるたび、RCTA 機能は ON になります。

知識

■ **ドアミラーインジケーターの視認性について**

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ **RCTA ブザー音の聞こえ方について**

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

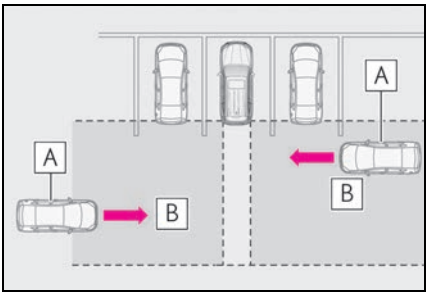
■ **後側方レーダーセンサーについて**

→P.293

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



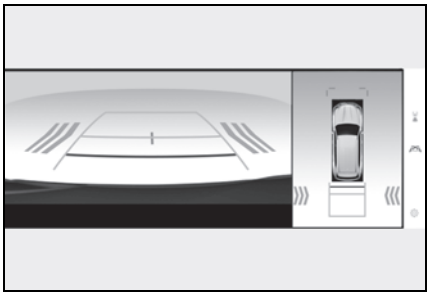
A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

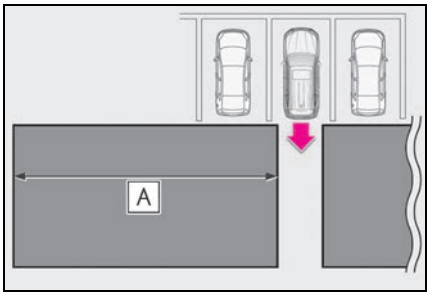
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディア画面上に次の表示をします。

例：両方向から車両が接近しているとき



■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両の速度	A 警報距離（概算）
56km/h（速い）	30m
8km/h（遅い）	4m

知識

■RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●エンジンスイッチが ON のとき

●RCTA 機能が ON のとき

●シフトポジションが R のとき

●自車の車速が約 15km/h 以下のとき

●接近する他車の車速が約 8km/h ～ 56km/h のあいだのとき

■ブザーの音量調整について

カスタマイズメニューから、RCTA、クリアランスソナー、RCD の音量を一括で切りかえることができます。（→P.583）

■ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチメディア画面上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。
これを押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

一時ミュート（消音）が解除されるとき：

●シフトポジションを切りかえたとき

●車速が一定値以上になったとき

●センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき

●使用中の機能を OFF にしたとき

●エンジンスイッチを OFF にしたとき

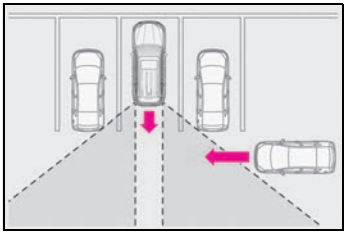
■システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●真後ろから接近する車両

●自車の隣の駐車スペースで後退する車両

●障害物のためにセンサーが検知できない車両



●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など※

●自車から遠ざかる車両

●自車の隣の駐車スペースから接近する車両※

●センサーと接近車両との距離が近すぎる場合

※状況によっては検知をすることがあります。

■システムが正常に作動しないおそれがある状況

RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

●センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

●泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき

●大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき

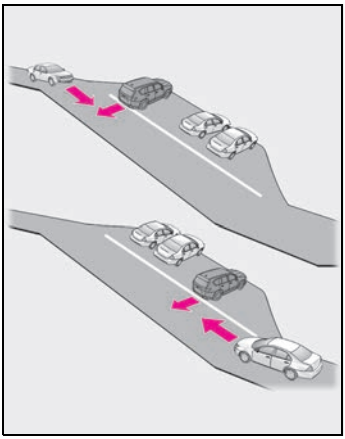
●複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき

●車両が高速で接近するとき

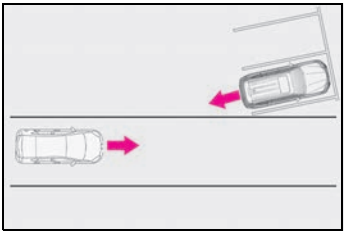
●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき

●勾配の変化が激しい坂で後退している

とき



●斜めの駐車場から出庫するとき



●RCTA 機能を ON にした直後

●RCTA 機能を ON にした状態で、エンジンをかけた直後

●障害物のためにセンサーが車両を検知できないとき

●けん引しているとき

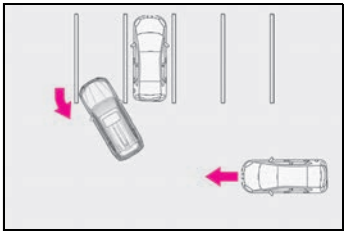
●検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき

●炎天下や寒冷時

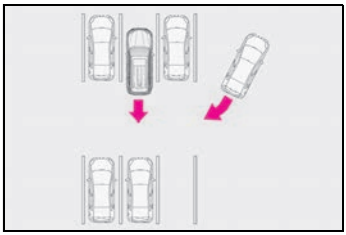
●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

●自車が旋回しているとき



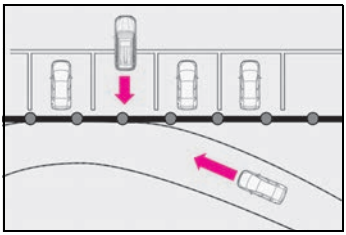
●旋回しながら車両が近付いてきたとき



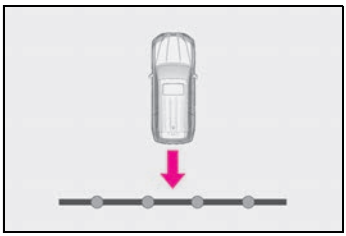
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

●駐車場に面した道を車両が走行しているとき



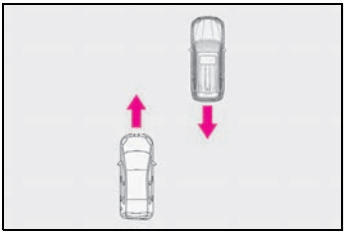
●車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき



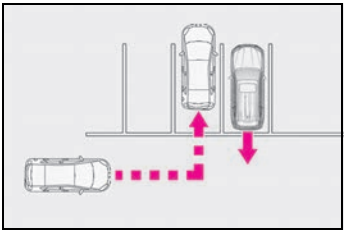
●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・

サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき

●車両が自車の横を通過するとき



●自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



●自車近くに室外機などの回転体があるとき

●センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき

●動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）

●ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき

●グレーチングや側溝

●炎天下や寒冷時

●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

●けん引しているとき

RCD（リヤカメラディテクション）

車両後退時、リヤカメラが後方の歩行者を検知すると、ブザーとマルチメディア画面上の表示により注意喚起を行います。

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。

システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●カメラに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。

●カメラ付近に市販の部品（字光式ナンバープレート、フォグランプなど）を取り付けないでください。

●カメラ周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はレクサス販売店で点検を受けてください。

●カメラを分解・改造・塗装しないでください。

●カメラにアクセサリー・ステッカーを付けないでください。

●リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリムなど）を取り付けないでください。

●適正なタイヤ空気圧を維持してください。

●バックドアを完全に閉めてください。

警告

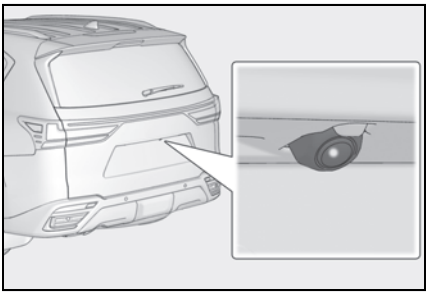
■RCD の機能を OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。RCD 機能が正常に作動しないことがあり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

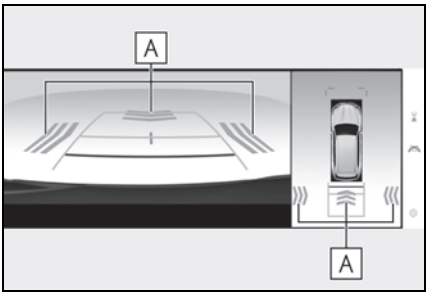
- 上記の内容が守られないとき
- 純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

システムの構成部品

リヤカメラの位置



RCD の表示



A 歩行者検知表示

車両後方の歩行者を検知すると、自動的に表示されます。

システムを作動させるには

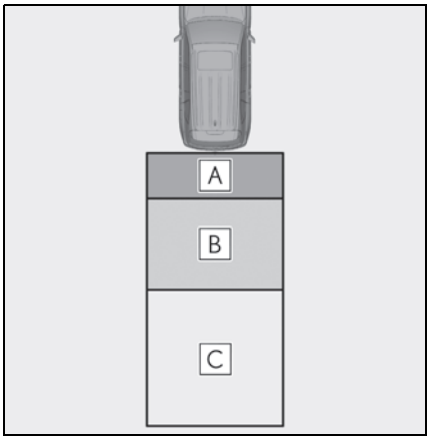
RCD の ON ／ OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.583）

RCD が OFF のとき、運転支援情報表示灯（→P.75）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

エンジンスイッチが ON になるたび、RCD は ON になります。

歩行者を検知した場合

車両後方エリアに歩行者がいる場合や、車両後方に向かって歩行者が接近してくるのをリヤカメラが検知した場合、下記のようにブザーとマルチメディア画面の歩行者検知表示で運転者に注意を促します。



A 歩行者が A エリアにいるとき
ブザー：くり返し吹鳴
歩行者検知表示：点滅

B 歩行者が B エリアにいるとき
ブザー（自車静止時）：3 回吹鳴
ブザー（自車移動時および歩行者

接近時）：くり返し吹鳴
歩行者検知表示：点滅

C C エリアにいる歩行者と自車が、接触する可能があるとシステムが判断したとき
ブザー：くり返し吹鳴
歩行者検知表示：点滅

知識

■ **作動条件**

● エンジンスイッチが ON のとき

● RCD 機能が ON のとき

● シフトポジションが R にあるとき

■ **ブザーの音量調整**

カスタマイズメニューから、クリアランスソナー、RCTA、RCD の音量を一括で切りかえることができます。（→P.583）

■ **ブザー音の一時ミュート（消音）**

作動対象を検知した場合、マルチメディア画面上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。スイッチを押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

次のいずれかの操作をすると、自動的にミュート（消音）を解除します：

● シフトポジションを切りかえたとき

● 車速が一定値以上になったとき

● センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき

● 使用中の機能を OFF にしたとき

● エンジンスイッチを OFF にしたとき

■ **システムが正常に作動しないおそれがあるとき**

● 例えば、次のような歩行者はカメラが正しく検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・ 前かがみになっている、またはしゃがんでいる人
・ 寝転んでいる人
・ 走っている人
・ 自車や建物の影から突然現れる歩行者
・ 自転車やスケートボードなどに乗っている人
・ 合羽やロングスカートなどを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
・ カートや荷物、傘などにより体の一部が隠れている歩行者
・ 夜間の歩行者や周囲の色とよく似た色の服装の歩行者

● 例えば、次のような状況ではカメラが対象となる歩行者を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・ 悪天候（雨、雪、霧など）
・ レンズに汚れ（泥、融雪剤など）や傷があるとき
・ 強い光がカメラに直接あたっているとき
・ 明暗差があるとき（ガレージや地下駐車場の開いたシャッター付近など）
・ 夜間（日没後）や薄暗い駐車場
・ カメラの位置や向きがずれているとき
・ けん引フックを取り付けているとき
・ カメラレンズ上に水滴が流れているとき
・ 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
・ タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
・ ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
・ リヤカメラ付近に市販の部品（字光式ナンバープレート、フォグランプなど）を取り付けているとき
・ リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリムなど）を取り付けているとき
・ けん引しているとき

■システムが作動するおそれがあるとき

●例えば、次のようなものに対しては、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・立体物（柱、パイロン、フェンス、駐車車両など）
・移動物（通行車両、バイクなど）
・動いている物（旗、排気ガス、大粒の雨や雪、路面の雨水など）
・路面に模様があるとき（白線、横断歩道、石畳、路面電車のレール、補修痕、落ち葉、砂利など）
・金属のフタ（グレーチング）や側溝
・水たまりやぬれた路面への物体の映り込み
・影

●例えば、次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・路肩や段差があるとき
・勾配変化があるとき
・車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
・リヤカメラ付近に市販の部品（字光式ナンバープレート、フォグランプなど）を取り付けているとき
・リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリムなど）を取り付けているとき
・カメラの位置や向きがずれているとき
・けん引フックを取り付けているとき
・カメラレンズ上に水滴が流れているとき
・カメラが汚れているとき（泥、融雪剤など）
・点滅する光源があるとき（ハザードランプなど）
・タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
・けん引しているとき

●検知を妨げる状況
・オーディオの音量が大きい場合や周囲が騒がしい場合、ブザーの警報音が聞こえない場合があります
・高温／低温環境では、ディスプレイの表示が見にくい場合があります

PKSB（パーキングサポートブレーキ）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ抑制で作動対象との衝突被害の低減に寄与するシステムです。

駐車支援機能

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります。）

- パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）：→P.330
- パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）：→P.332
- パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）：→P.333

警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。

センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害低減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■パーキングサポートブレーキを OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用するとき
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

警告

- センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を利用するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

■サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが作動対象物を正しく検知できなくなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあり危険です。サスペンションの改造はしないでください。

システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキの ON ／ OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.583）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）が OFF のとき、運転支援情報表示灯（→P.75）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にした場合、再度、カスタマイズメニュー（→P.583）から ON（作動）にしないとシステムは復帰しません。（エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません）

知識

■トランスファーレンジを L4 にしたときは

- PKSB は自動的に OFF（非作動）になります。

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチメディア画面およびマルチインフォメーションディスプレイに、システムによる加速制限を示すメッセージや、ブレーキ操作を促すメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

- エンジン出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

マルチメディア画面表示：表示なし

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“ 加速抑制中です ”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

- エンジン出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディア画面表示例：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディア画面表示例：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

マルチメディア画面表示例：“ブレーキを踏んでください”

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“アクセルが踏まれています ブレーキを踏んでください”、“ブレーキを踏んでください”

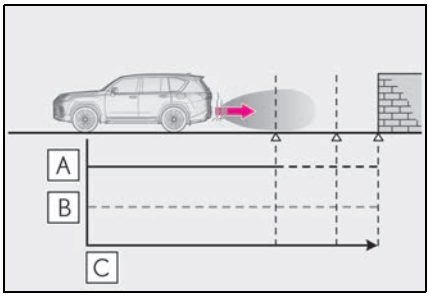
運転支援情報表示灯：点灯

ブザー：ピピピピ（連続音）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物、後方接近車両や後方歩行者）を検知したとき、エンジンの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（エンジン出力抑制制御：図 2）また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：図 3）

● 図 1（PKSB［パーキングサポートブレーキ］非作動時）

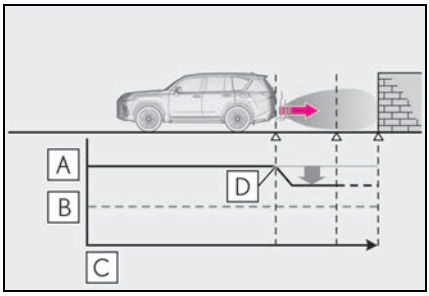


A エンジン出力

B 制動力

C 時間

● 図 2（エンジン出力抑制制御時）



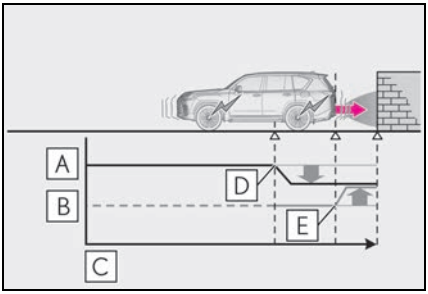
A エンジン出力

B 制動力

C 時間

D エンジン出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）

● 図 3（エンジン出力抑制制御かつブレーキ制御時）



A エンジン出力

B 制動力

C 時間

D エンジン出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）

E ブレーキ制御開始（作動対象と衝突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき）

知識

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、運転支援情報表示灯が点灯します。また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）作動後の復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止したときに、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合は、再度 PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON にするか、エンジンスイッチをいったん OFF にしてから、再度 ON にしてください。

また、次の状況でも自動的に PKSB（パーキングサポートブレーキ）が復帰し、運転支援情報表示灯が消灯します。（→P.75）

●シフトポジションを P にする

●進行方向の作動対象がなくなった状態で走行する

●車両の進行方向を切りかえる

■クリアランスソナーのブザーについて

クリアランスソナーの ON ／ OFF に関係なく（→P.312）、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させていなければ（→P.327）、ブレーキ制御とエンジン出力抑制制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、作動対象とのおよその距離をお知らせします。

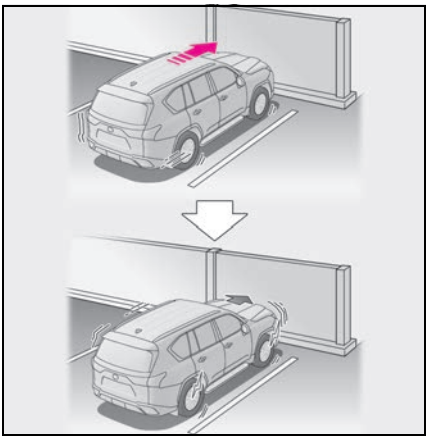
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジション選択を誤っての発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

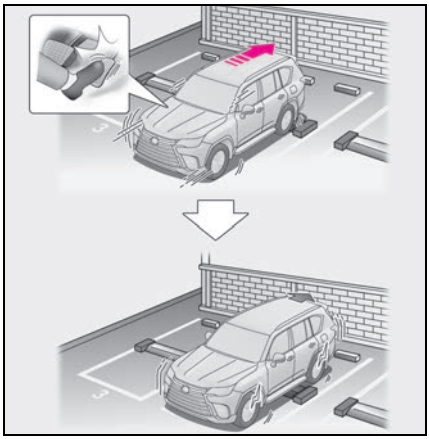
システム作動例（前後方静止物）

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

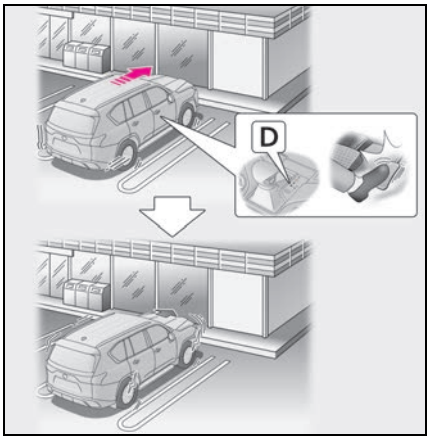
■ **低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき**



■ **アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき**



■ **誤ってシフトポジションを D にして前進してしまったとき**



センサーの種類

→P.312

警告

■ **システムを正しく作動させるために**

→P.313

警告

■万一、踏切内などで PKSB（パーキングサポートブレーキ）が誤って作動したときは

→P.329

■洗車時の注意

→P.313

知識

■パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯（→P.72）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●エンジン出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が約 15km/h 以下
・車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 2 ～ 4m 先まで）
・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
・エンジン出力抑制制御作動中
・衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●エンジン出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

●ブレーキ制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

■パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→P.316）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.314

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.315

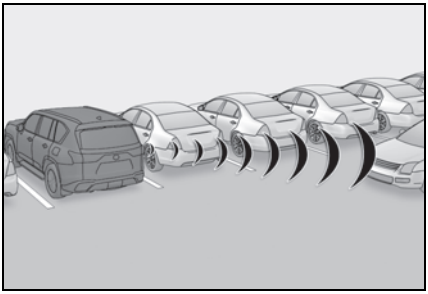
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）

後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

■ **後退時、車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき**



センサーの種類

→P.293

警告

■ **システムを正しく作動させるために**

→P.293

知識

■ **パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件**

運転支援情報表示灯が点灯（→P.72）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●エンジン出力抑制制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
- 車速が約 15km/h 以下
- 後側方から接近する車両の車速が約 8km/h 以上
- シフトポジションが R のとき
- 後側方からの接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
- エンジン出力抑制制御作動中
- 後側方からの接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ **パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件**

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●エンジン出力抑制制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
- 自車後側方への接近車両がなくなったとき

●ブレーキ制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.320

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

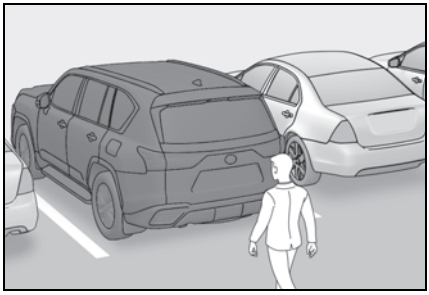
→P.321

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）

車両後退時、リヤカメラが検知した車両後方にいる歩行者と接触する可能性が高いとシステムが判断した場合は、警報やブレーキ制御により、後方歩行者との衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与します。

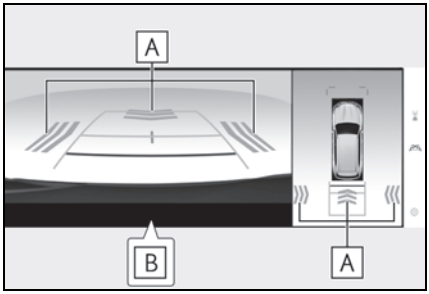
システム作動例

後退時、歩行者が車両後方に接近中、ブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったときにシステムが作動します。



後方歩行者の画面表示

車両後方の歩行者を検知すると自動的にマルチメディア画面上に表示され、ブレーキ操作を促します。



A 歩行者検知表示

B 例：“ブレーキ！”

警告

■万一、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）が誤って作動したときは

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）作動後はすぐにブレーキを踏んでください。（ブレーキを踏むとシステムは解除されます。）

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を正しくお使いいただくために

→P.322

知識

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯（→P.72）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●エンジン出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が 15km/h 以下
・シフトポジションが R のとき
・自車後方に歩行者がいるとき
・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
・エンジン出力抑制制御作動中
・後方歩行者との衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●エンジン出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
・後方歩行者がいなくなった、または検知できなくなったとき

●ブレーキ制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の復帰について

→P.329

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲は、RCD の検知範囲（→P.323）とは異なります。そのため、RCD が後方歩行者との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

→P.324

■システムが作動するおそれがあるとき

→P.325

マルチテレインモニター

マルチテレインモニターは、車両周辺の状況確認を補助するシステムです。オフロード走行時の状況把握や車庫入れ時の障害物の確認など、幅広い場面で運転者の状況判断を支援します。

知識

●本文中で使用している画面のイラストは例であり、イラストと実際に映し出される映像では車両の映り込みなどが異なることがあります。

警告

■安全にお使いいただくために

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●マルチテレインモニターを過信しないでください。
一般の車と同様、必ず後方・周囲の安全を直接確認しながら、慎重に運転してください。特に、周辺に駐車している車や障害物などに接触しないように注意してください。

●カメラのレンズの特性により、マルチテレインモニター画面に映る人や障害物などは、実際の位置・距離と異なります。必ず周囲の安全を直接確認した上で運転してください。

●運転操作時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

●画面だけを見ながら運転操作することは絶対にしないでください。画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあります。また、カメラの映し出す範囲は限られていますので、画面だけを見て右左折、後退することは絶対にしないでください。車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やデジタルインナーミラー・ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意した上で運転してください。

●乗車人数、積載量、路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

●外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像がうすれたりすることがあります。
特に動いているものの映像がゆがむ、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

●タイヤを交換すると、画面に表示されるガイド線の示す位置に誤差が生じることがあります。

注意

■マルチテレインモニターについて

カメラが故障したときは、画面が次のように表示されることがあります。

●シフトポジションを R 以外にしたとき、またはカメラスイッチを押したときにカメラ映像が表示されたままになる

●画面の一部、もしくはすべてが黒映像で表示される

注意

- シフトポジションを R にしたとき、またはカメラスイッチを押したときにカメラ映像に切りかわらない
- カメラ映像にガイド線などが表示されず、着目マークや注意文が表示される

マルチテレインモニターで表示できる画面

走行状況に応じて、次の各画面表示を選択できます。

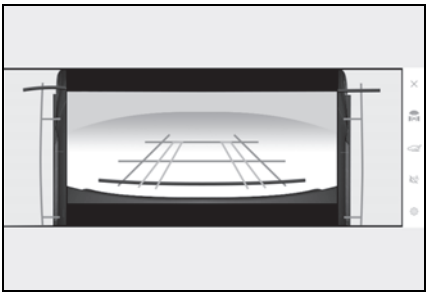
・ 現在のシフトポジションや車速などの条件により、選択できる画面は異なります。（→P.339）

・ 表示する画面によっては、通常表示から全画面表示への切りかえが可能です。

■ トランスファーレンジがL4またはH4 かつマルチテレインセレクトが ON のとき

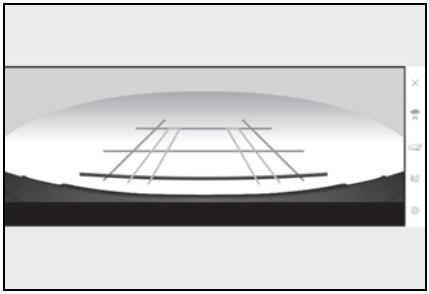
● 車両前方・側方を確認するとき

▶ フロントビュー＆両サイドビュー



→P.345

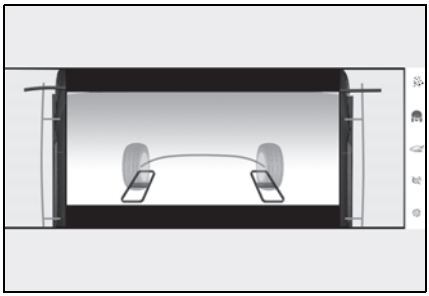
▶ フロントビュー（拡大時）



→P.345

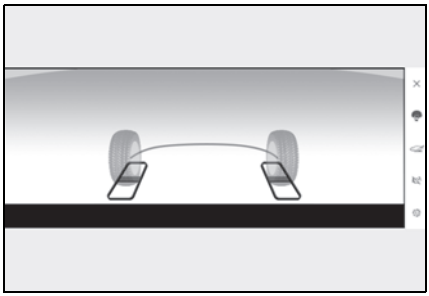
● フロア下の路面状況を確認するとき

▶ アンダーフロアビュー＆両サイドビュー



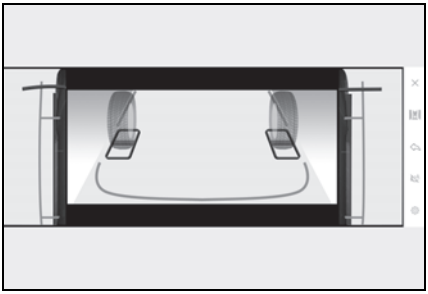
→P.347

▶ アンダーフロアビュー（拡大時）



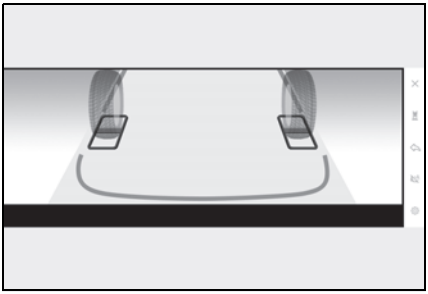
→P.347

▶ アンダーフロアビュー（後輪）＆両サイドビュー



→P.350

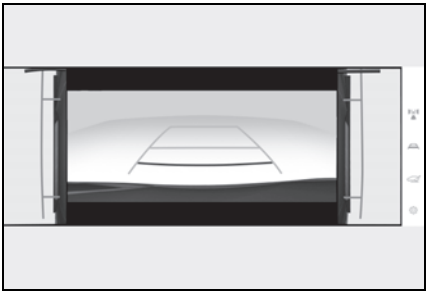
▶ アンダーフロアビュー（後輪）（拡大時）



→P.350

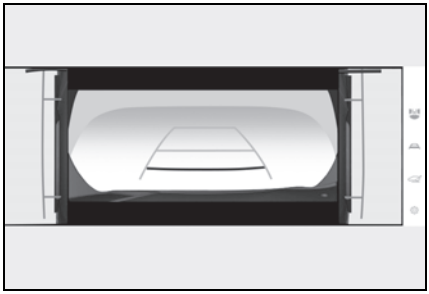
● 車両後方を確認するとき

▶ バックビュー＆両サイドビュー



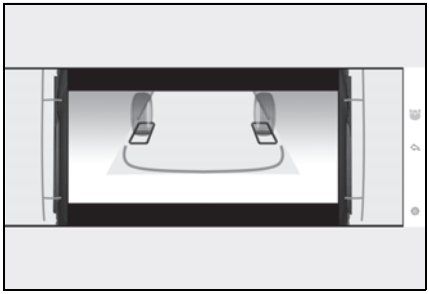
→P.353

▶ ワイドバックビュー＆両サイドビュー



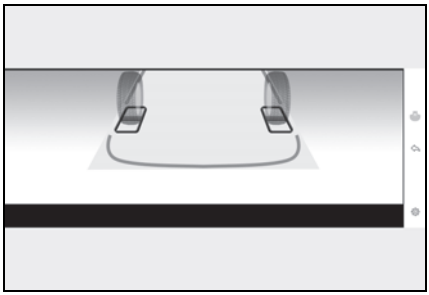
→P.353

▶ バックアンダーフロアビュー＆両サイドビュー



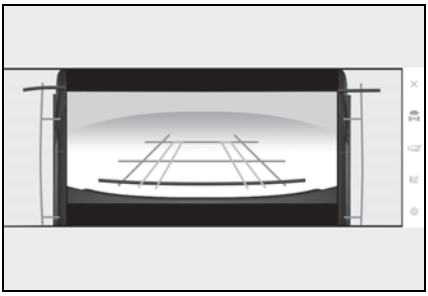
→P.356

▶ バックアンダーフロアビュー（拡大時）



→P.356

▶ ワイドフロントビュー＆両サイドビュー

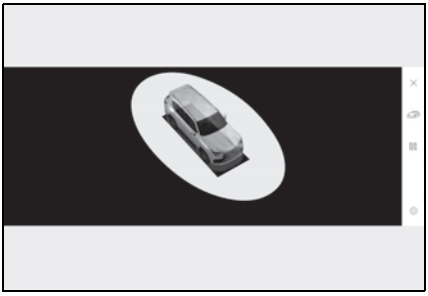


→P.341

■ **トランスファーレンジが H4 かつマルチテレインセレクトが OFF のとき**

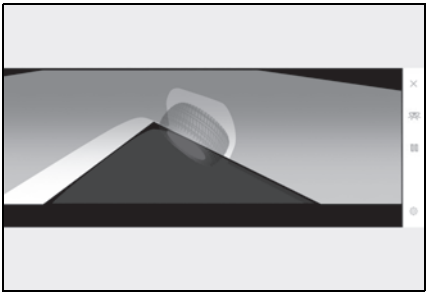
● 周囲を確認するとき

▶ ムービングビュー



→P.359

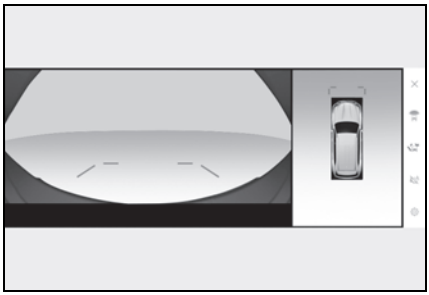
▶ シースルービュー



→P.359

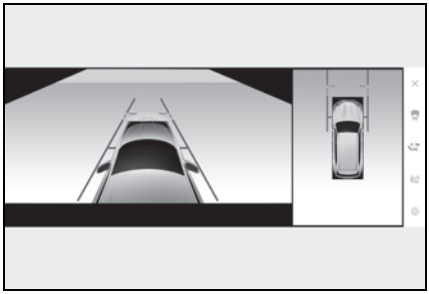
● 車両前方・側方を確認するとき

▶ パノラミックビュー＆ワイドフロントビュー



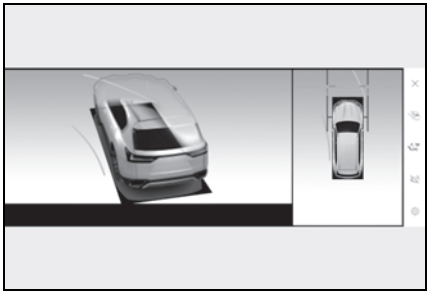
→P.361

▶ パノラミックビュー＆サイドクリアランスビュー



→P.361

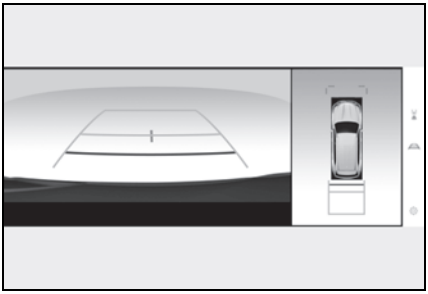
▶ パノラミックビュー＆コーナリングビュー



→P.361

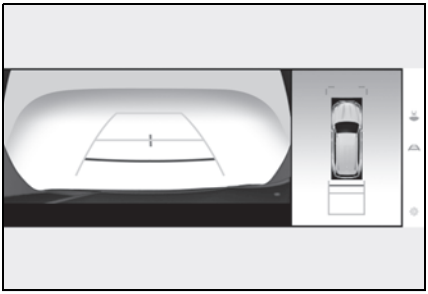
● 車両後方・側方を確認するとき

▶ パノラミックビュー＆バックビュー



→P.369

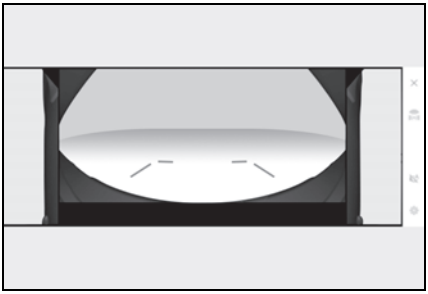
▶ パノラミックビュー＆ワイドバックビュー



→P.369

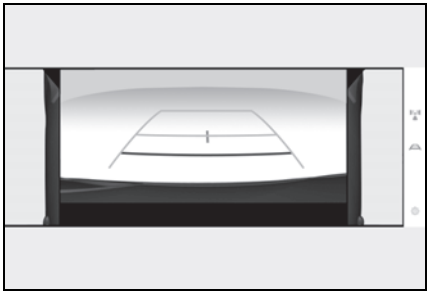
● ドアミラー格納時

▶ サイドビュー＆ワイドフロントビュー



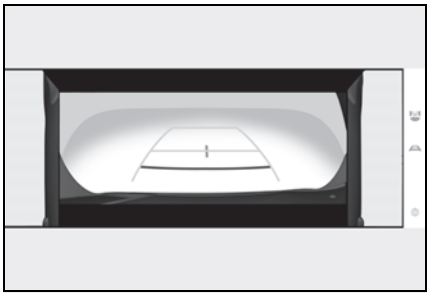
→P.377

▶ サイドビュー＆バックビュー



→P.377

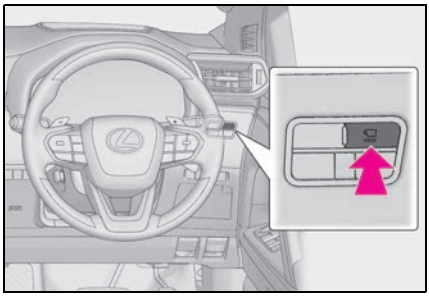
▶ サイドビュー＆ワイドバックビュー



→P.377

カメラスイッチについて

マルチテレインモニターの表示と画面の切りかえをします。

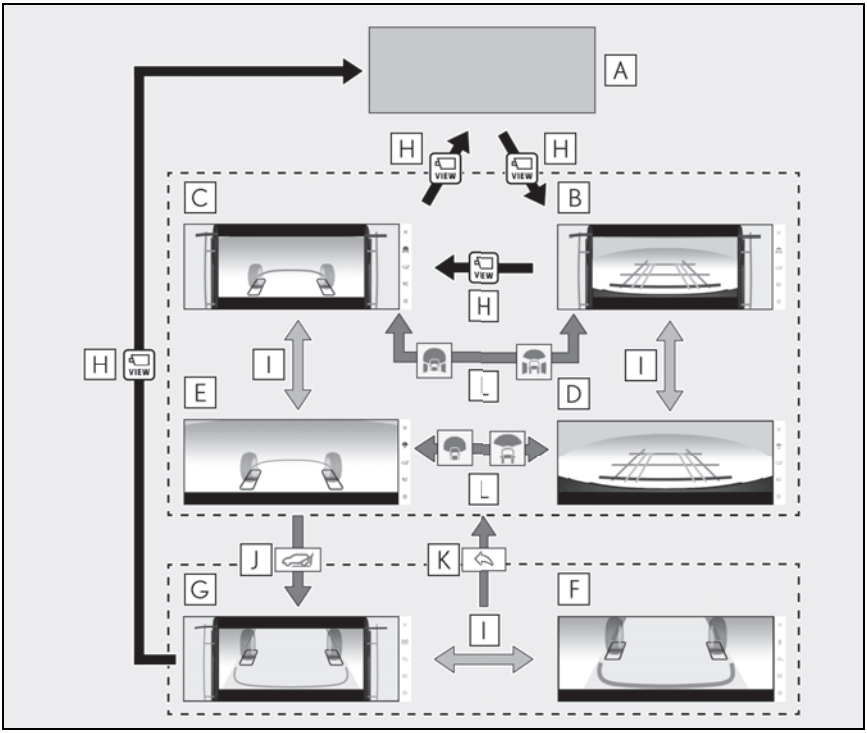


画面表示条件について

エンジンスイッチが ON の状態で、カメラスイッチを押したときに次の画面が表示されます。（以下は一例です）

トランスファーレンジが L4 または H4 かつマルチテレインセレクトが ON のとき

■ シフトポジションが P・D・N のとき



A ナビゲーション画面・オーディオ画面など

B フロントビュー＆両サイドビュー

C アンダーフロアビュー＆両サイドビュー

D フロントビュー（拡大時）

E アンダーフロアビュー（拡大時）

F アンダーフロアビュー（後輪）（拡大時）

G アンダーフロアビュー（後輪）＆両サイドビュー

H カメラスイッチを押す

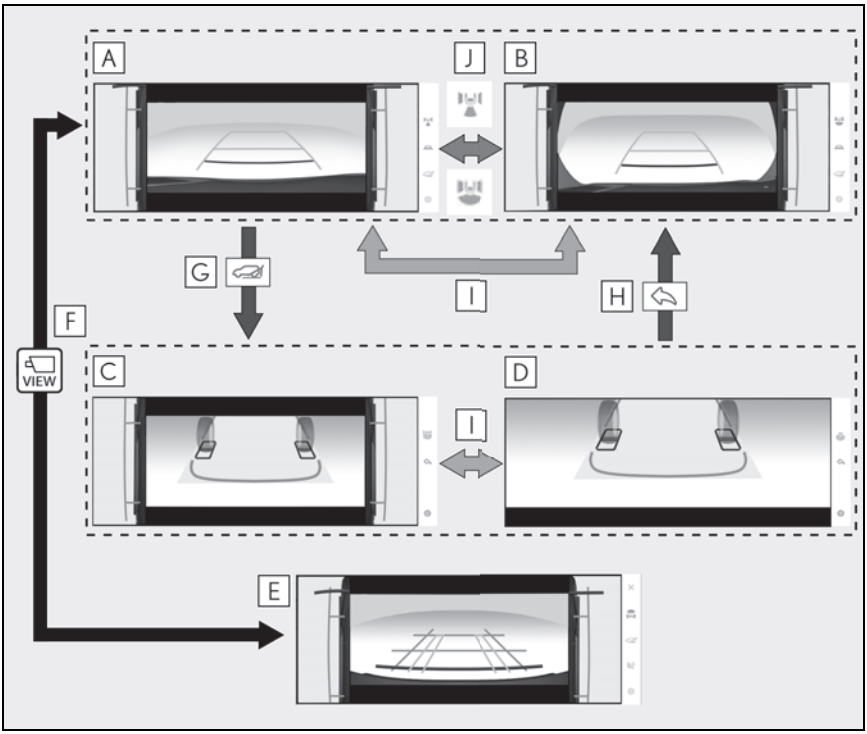
I 表示画面をタッチ

J アンダーフロアビュー（後輪）表示スイッチをタッチ

K アンダーフロアビュー（後輪）解除スイッチをタッチ

L 画面切りかえスイッチをタッチ

■ シフトポジションが R のとき



A バックビュー＆両サイドビュー

B ワイドバックビュー＆両サイドビュー

C バックアンダーフロアビュー＆両サイドビュー

D バックアンダーフロアビュー（拡大時）

E ワイドフロントビュー＆両サイドビュー

F カメラスイッチを押す

G バックアンダーフロアビュー表示スイッチをタッチ

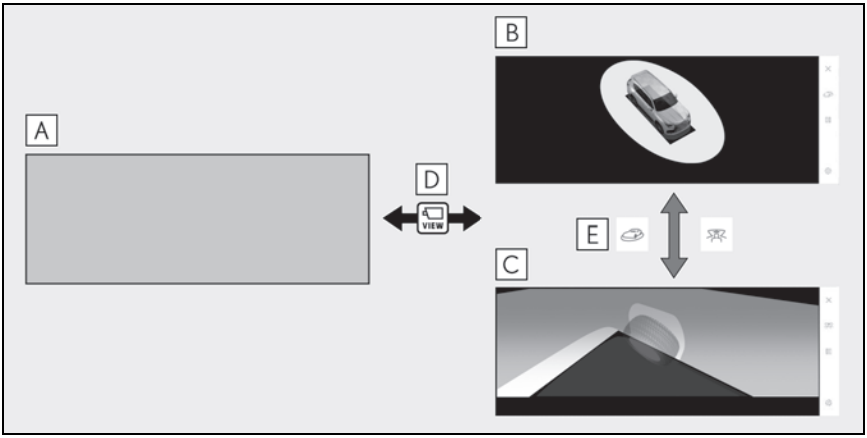
H バックアンダーフロアビュー解除スイッチをタッチ

I 表示画面をタッチ

J 画面切りかえスイッチをタッチ

トランスファーレンジが H4 かつマルチテレインセレクトが OFF のとき

■ シフトポジションが P のとき



A ナビゲーション画面・オーディオ画面など

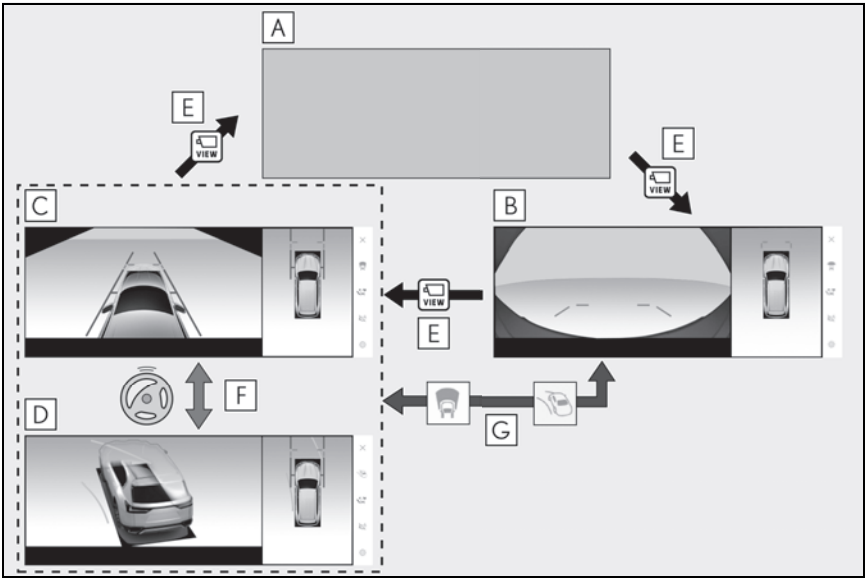
B ムービングビュー

C シースルービュー

D カメラスイッチを押す

E 画面モード切りかえスイッチをタッチ

■ シフトポジションがD・Nのとき



A ナビゲーション画面・オーディオ画面など

B パノラミックビュー＆ワイドフロントビュー

C パノラミックビュー＆サイドクリアランスビュー

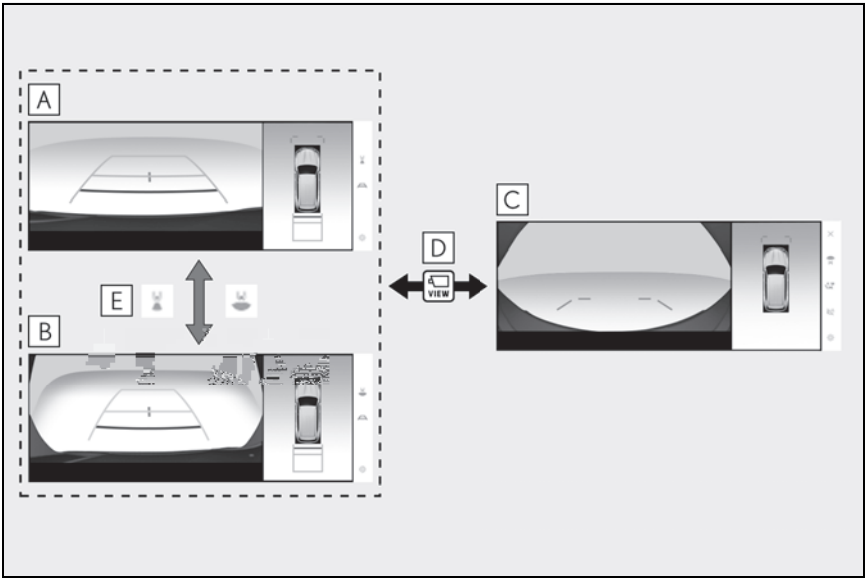
D パノラミックビュー＆コーナリングビュー

E カメラスイッチを押す

F 直進状態から180度以上ハンドルを操作

G 画面モード切りかえスイッチをタッチ

■ シフトポジションが R のとき



A パノラミックビュー＆バックビュー

B パノラミックビュー＆ワイドバックビュー

C パノラミックビュー＆ワイドフロントビュー

D カメラスイッチを押す

E 画面モード切りかえスイッチをタッチ

知識

■マルチテレインモニター画面の表示について

●車速が約 20km/h 以下でカメラスイッチを押した場合、約 8 秒間マルチテレインモニター画面を表示します。車速が約 20km/h 以上になると、マルチテレインモニター画面が消えてもとの画面に戻ります。

●車速が約 20km/h 以上でカメラスイッチを押した場合、車速が約 20km/h 以下にならない限り、約 5 分間はマルチテレインモニター画面が表示されます。ただし、車速が約 20km/h 以下になった場合は、約 8 秒間はマルチテレインモニター画面が表示され、車速が約 20km/h 以上になると、マルチテレインモニター画面が消えてもとの画面に戻ります。

●画面表示タイマー機能を作動していないとき、車速が 20km/h 以上になると、マルチテレインモニター画面が消えて元の画面に戻ります。

●ガイド線表示モードなどの表示設定は、ドライバー登録をすることでマイセッティングとして保存され、乗車時に呼び出すことができます。

●エージェント（音声対話サービス）を使用して、マルチテレインモニター画

面の表示、画面モードの切りかえなどの操作を行うことができます。

●画面表示タイマー機能はカスタマイズ設定で変更できます。

画面表示の見方や機能などについて（トランスファーレンジが L4 または H4 かつマルチテレインセレクトが ON）

表示される各画面には、前進・後退時の障害物の確認や、オフロード走行時の路面状況の把握など、さまざまな走行状況を補助する情報が表示されます。

フロントビュー＆両サイドビューについて

車両前方付近の状況確認に利用できます。

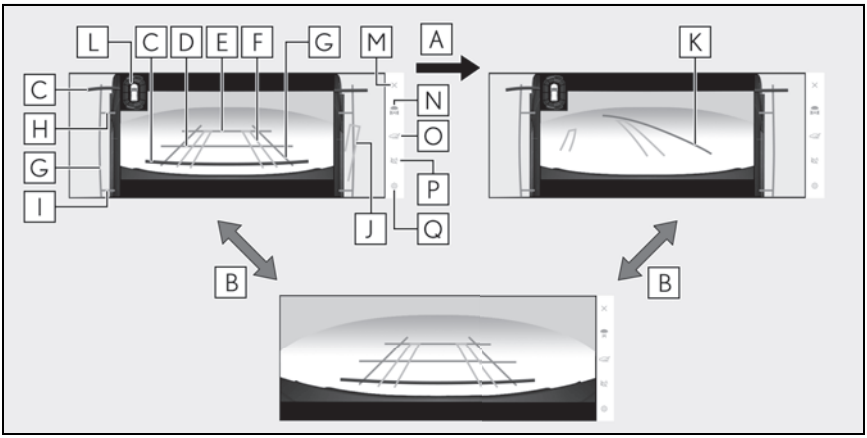
- 車両前方の映像に加えて、進行方向を決定する際の目安となる、ガイド線が合成表示されます。
- 表示されている画面をタッチすると、通常表示から拡大表示に切りかわります。（再度画面をタッチすると、通常表示にもどります）
- ハンドルを約 270°　以上操作しているときは、右左折を補助するガイド線などが自動で表示されます。

画面を表示する

1 シフトポジションを P・D または N にする

2 カメラスイッチをフロントビュー＆両サイドビューが表示されるまで押す

フロントビュー＆両サイドビューについて



A ハンドルを約 270°　以上操作しているとき

B 表示画面をタッチ

C 0.5m 距離目安線（赤）

D 1.0m 距離目安線（青）

E 2.0m 距離目安線（青）

C ～E は、それぞれ車両前端からの距離の目安を示します。

F フロントタイヤ進路線（黄）

ハンドル操作に連動して、前輪の進路の目安を示します。

G 車幅延長線（青）

自車幅から約 0.5m の距離の目安を表示します。

H フロントタイヤ接地線（青）

映像上におけるタイヤの位置の目安を示します。

I リヤタイヤ接地線（青）

映像上におけるタイヤの位置の目安を示します。

J リヤタイヤ進路線（黄）

後輪の軌跡の目安を示します。

K 前進ガイド線（青）

最も小まわりして前進した場合の軌跡の目安を示します。

L クリアランスソナー

クリアランスソナーが ON のとき、クリアランスソナーが静止物を検知すると、画面にインジケーターが表示されます。

M 画面消去スイッチ

カメラ映像を消して、オーディオ画面など以前表示していた画面にもどります。

N 画面モード切りかえスイッチ

スイッチを押すたびに、画面モードが切りかわります。

O アンダーフロアビュー（後輪）表示スイッチ

アンダーフロアビュー（後輪）＆両サイドビュー表示に切りかわります。（→P.350）

P 自動表示モード切りかえスイッチ

→P.347

Q カスタマイズ設定スイッチ

表示される車両のボディーカラーやクリアランスソナーの検知距離などの設定を変更できます。（→P.381）

自動表示モードについて

カメラスイッチの操作による表示に加え、車速に応じて自動的にパノラミックビュー＆ワイドフロントビュー、パノラミックビュー＆サイドクリアランスビュー、パノラミックビュー＆コーナリングビュー、アンダーフロアビュー＆両サイドビュー、フロントビュー＆両サイドビューが表示される自動表示モードを設定することができます。

● 自動表示モード切りかえスイッチにタッチすると、自動表示モードが ON にかわります。

● 自動表示モードを ON にすると、次の場合に自動で表示することができます。

- シフトポジションを D または N にしたとき
- 車速が約 10km/h 以下に減速したとき（シフトポジションが R 以外）

知識

■ **フロントビュー＆両サイドビュー表示について**

シフトポジションが P・D・N のときに表示できます。

アンダーフロア＆両サイドビューについて

現在の車両位置より手前で撮影された映像の上に、現在の車両位置・タイヤ位置を示す線が合成表示され、車両下方の状況や前輪位置の把握などを補助します。

● 映像が表示されるには、一定以上の距離を走行する必要があります。

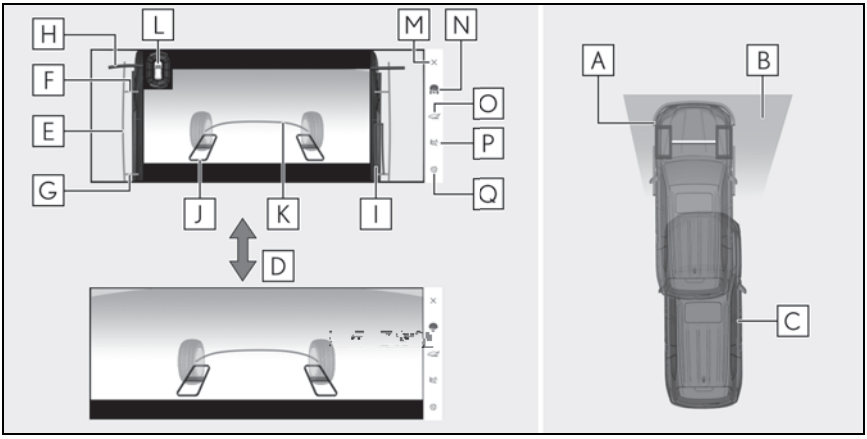
● 表示されている画面をタッチすると通常画面から拡大表示に切りかわります。（再度画面をタッチすると、通常画面にもどります）

画面を表示する

1 シフトポジションを P・D または N にする

2 カメラスイッチをアンダーフロアビュー＆両サイドビューが表示されるまで押す

アンダーフロアビュー＆両サイドビューについて



A 現在の車両の位置

B アンダーフロアビューで表示される映像（現在より手前で撮影された映像）

C 撮影時の車両の位置（現在より後方）

D 表示画面をタッチ

E 車幅延長線（青）

自車幅から約 0.5m の距離の目安を表示します。

F フロントタイヤ接地線（青）

映像上におけるタイヤの位置の目安を示します。

G リヤタイヤ接地線（青）

映像上におけるタイヤの位置の目安を示します。

H 0.5m 距離目安線（赤・黒）

車両前端からの距離の目安を示します。

I リヤタイヤ進路線（黄）

後輪の軌跡の目安を示します。

J タイヤ形状線（黒・白）

タイヤのある位置、および接地面の目安を示します。

K 車両形状線（青）

車両前端の位置の目安を示します。

L クリアランスソナー

クリアランスソナーが ON のとき、クリアランスソナーが静止物を検知すると、画面にインジケーターが表示されます。

M 画面消去スイッチ

カメラ映像を消して、オーディオ画面など以前表示していた画面にもどります。

N 画面モード切りかえスイッチ

スイッチを押すたびに、画面モードが切りかわります。

O アンダーフロアビュー（後輪）表示スイッチ

アンダーフロアビュー（後輪）＆両サイドビュー表示に切りかわります。（→P.350）

P 自動表示モード切りかえスイッチ

→P.349

Q カスタマイズ設定スイッチ

表示される車両のボディーカラーやクリアランスソナーの検知距離などの設定を変更できます。（→P.381）

自動表示モードについて

カメラスイッチの操作による表示に加え、車速に応じて自動的にパノラミックビュー＆ワイドフロントビュー、パノラミックビュー＆サイドクリアランスビュー、パノラミックビュー＆コーナリングビュー、アンダーフロアビュー＆両サイドビュー、フロントビュー＆両サイドビューが表示される自動表示モードを設定することができます。

● 自動表示モード切りかえスイッチ

にタッチすると、自動表示モードが ON にかわります。

● 自動表示モードを ON にすると、次の場合に自動で表示することができます。

- シフトポジションを D または N にしたとき
- 車速が約 10km/h 以下に減速したとき（シフトポジションが R 以外）

知識

■**アンダーフロアビュー＆両サイドビューについて**

●シフトポジションが P・D・N のときに表示できます。

●アンダーフロアビュー表示中に車速が約 20km/h 以上になると、アンダーフロアビュー表示が黒表示になります。

●次の場合は、アンダーフロアビュー表示が黒表示になります。

- ハンドルを最大近くまで操作しながら走行したとき
- エンジン始動後、またはシステムが正常復帰後、一定以上の距離を走行していないとき
- 車輪が空転したとき
- マルチテレイン ABS が作動したとき
- システムが正常に作動しないとき

●アンダーフロアビュー表示中にドアミラーを格納すると、別画面が表示されます。

●ハンドルを一定舵角以上操作しながら走行すると、画面の一部が欠けたような表示になることがありますが、異常ではありません。

●次のような状況では、システムが正常に作動しない場合があります
・積雪路
・太陽光や照明などによる光源により影があるとき
・すべりやすい路面や、車輪が空転したとき
・カメラレンズに汚れや異物などが付着しているとき
・水面（川・海など）
・オプション装備を取り付けたとき
・カメラを覆ったり、撮像範囲に物体があるとき
・タイヤを交換したとき
・バックドアが開いているなど、カメラの位置が正しい位置ではないとき
・ハンドルを一定舵角以上操作したとき
・坂道などの勾配があるとき

●過去に撮影された映像を表示しているため、次のような場合は、画面と実際の状況が異なることがあります。
・撮影後に障害物が現れたり動いたりしたとき
・撮影後に砂や雪などが崩れて動いたとき
・表示範囲に水たまりやぬかるみなどがあるとき
・車両がスリップしたとき

警告

■ガイド線について

乗車人数・積載量・路面の勾配・路面状況・周囲の明るさ・オプションの装備・指定以外のタイヤやサスペンション等の装着により、タイヤ形状線・車両形状線と実際の車両の位置とがずれる場合があります。必ず、周囲の安全を確認しながら運転してください。

■アンダーフロアビュー表示について

表示される映像は、過去に撮影された映像です。よって、撮影後にものが動くなど、アンダーフロアビュー表示と現在の状況とが必ずしも一致しない場合があります。また、夜間の暗い環境などでは、映像上で障害物などが確認できない場合があります。

アンダーフロアビュー（後輪）＆両サイドビューについて

現在の車両位置より手前で撮影された映像を車両の上に、現在の車両位置・タイヤ位置を示す線が合成表示され、車両下方の状況や後輪位置の把握などを補助します。

● 映像が表示されるには、一定以上の距離を走行する必要があります。

● 表示されている画面をタッチすると通常画面から拡大表示に切りかわります。（再度画面をタッチすると、通常画面にもどります）

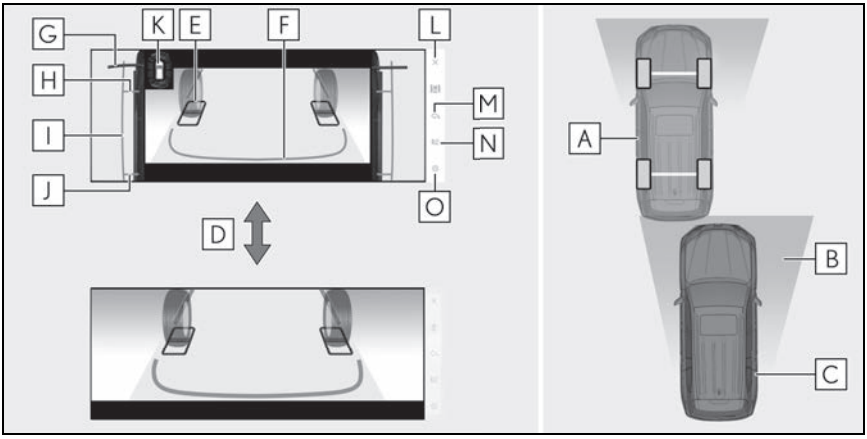
画面を表示する

1 シフトポジションをＰ・Ｄまたは N にする

2 カメラスイッチを押し、フロントビュー＆両サイドビュー、アンダーフロアビュー＆両サイドビューまたはそれらの拡大表示を表示させる

3 アンダーフロアビュー（後輪）表示スイッチを押す

アンダーフロアビュー（後輪）＆両サイドビューについて



A 現在の車両の位置

B アンダーフロアビュー（後輪）で表示される映像（現在より手前で撮影された映像）

C 撮影時の車両の位置（現在より後方）

D 表示画面をタッチ

E タイヤ形状線（黒・白）

タイヤのある位置、および接地面の目安を示します。

F 車両形状線（青）

車両端部の位置の目安を示します。

G 0.5m 距離目安線（赤・黒）

車両前端からの距離の目安を示します。

H フロントタイヤ接地線（青）

映像上におけるタイヤの位置の目安を示します。

I 車幅延長線（青）

自車幅から約 0.5m の距離の目安を表示します。

J リヤタイヤ接地線（青）

映像上におけるタイヤの位置の目安を示します。

K クリアランスソナー

クリアランスソナーが ON のとき、クリアランスソナーが静止物を検知すると、画面にインジケーターが表示されます。

L 画面消去スイッチ

カメラ映像を消して、オーディオ画面など以前表示していた画面にもどります。

M アンダーフロアビュー（後輪）解除スイッチ

アンダーフロアビュー（後輪）を表示する前の画面を表示します。

N 自動表示モード切りかえスイッチ

→P.352

O カスタマイズ設定スイッチ

表示される車両のボディーカラーやクリアランスソナーの検知距離などの設定を変更できます。（→P.381）

自動表示モードについて

カメラスイッチの操作による表示に加え、車速に応じて自動的にパノラミックビュー＆ワイドフロントビュー、パノラミックビュー＆サイドクリアランスビュー、パノラミックビュー＆コーナリングビュー、アンダーフロアビュー＆両サイドビュー、フロントビュー＆両サイドビューが表示される自動表示モードを設定することができます。

● 自動表示モード切りかえスイッチ

にタッチすると、自動表示モードが ON にかわります。

● 自動表示モードを ON にすると、次の場合に自動で表示することができます。

- シフトポジションを D または N にしたとき
- 車速が約 10km/h 以下に減速したとき（シフトポジションが R 以外）

知識

■ **アンダーフロアビュー（後輪）について**

●シフトポジションが P・D・N のときに表示できます。

●次の場合はアンダーフロアビュー（後輪）表示が終了し、自動で直前に表示していたカメラ画面にもどります。
また、次に表示できるまでアンダーフロアビュー（後輪）表示スイッチは操作できません。

- 車速が約 5km/h 以上になったとき
- ハンドルを最大近くまで操作しながら走行したとき
- 車輪が空転したとき
- マルチテレイン ABS が作動したとき
- システムが正常に作動しないとき
- ハンドルを一定舵角以上操作したとき

●アンダーフロアビュー（後輪）表示中にドアミラーを格納すると、別画面が表示されます。

●ハンドルを一定舵角以上操作しながら走行すると、画面の一部が欠けたような表示になることがありますが、異常ではありません。

●次のような状況では、システムが正常に作動しない、またはアンダーフロアビュー（後輪）への切りかえができない場合があります。また、次に表示できるまでアンダーフロアビュー（後輪）表示スイッチは操作できません。

- 積雪路
- 太陽光や照明などによる光源により影があるとき

・すべりやすい路面や、車輪が空転したとき
・カメラレンズに汚れや異物が付着しているとき
・水面（川・海など）
・オプション装備を取り付けたとき
・カメラを覆ったり、撮像範囲に物体があるとき
・タイヤを交換したとき
・バックドアが開いているなど、カメラの位置が正しい位置ではないとき
・ハンドルを一定舵角以上操舵したとき
・坂道などの勾配があるとき

●過去に撮影された映像を表示しているため、次のような場合は、画面と実際の状況が異なることがあります。
・撮影後に障害物が現れたり動いたりしたとき
・撮影後に砂や雪などが崩れて動いたとき
・表示範囲に水たまりやぬかるみなどがあるとき
・車両がスリップしたとき

警告

■ガイド線について

乗車人数・積載量・路面の勾配・路面状況・周囲の明るさ・オプションの装備・指定以外のタイヤやサスペンション等の装着により、タイヤ形状線・車両形状線と実際の車両の位置とがずれる場合があります。必ず、周囲の安全を確認しながら運転してください。

■アンダーフロアビュー（後輪）表示について

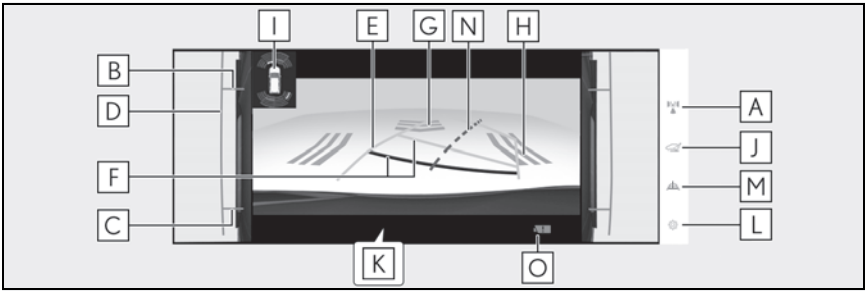
表示される映像は、過去に撮影された映像です。よって、撮影後にものが動くなど、アンダーフロアビュー（後輪）表示と現在の状況とが必ずしも一致しない場合があります。また、夜間の暗い環境などでは、映像上で障害物などが確認できない場合があります。

バックビュー＆両サイドビュー／ワイドバックビュー＆両サイドビューについて

駐車時の安全確認を行うために、車両側方からの映像と後方カメラからの映像を同時に表示するモードです。

画面を表示する

1 シフトポジションを R にする



A 画面モード切りかえスイッチ

スイッチを押すたびに、バックビュー＆両サイドビュー／ワイドバックビュー＆両サイドビューが切りかわります。

B フロントタイヤ接地線（青）

映像上におけるタイヤの位置の目安を示します。

C リヤタイヤ接地線（青）

映像上におけるタイヤの位置の目安を示します。

D 車幅延長線（青）

自車幅から約 0.5m の距離の目安を表示します。

E 後方予想進路線（黄）

ハンドル操作と連動して、進路の目安を示します。

F 後方距離目安線

車の後方の距離を示します。
・ 予想進路線と連動する。
・ リヤバンパー後端の中心位置から約 0.5m 先（赤色）／約 1m 先（黄色）を示します。

G RCD（リヤカメラディテクション）

後方の歩行者をリヤカメラが検知すると、画面にインジケーターが表示されます。

H RCTA（リヤクロストラフィックアラート）／ RCD（リヤカメラディテクション）

以下のときに画面にインジケーターが表示されます。
・ 後側方レーダーが後側方からの接近車両や障害物を検知したとき
・ リヤカメラが後方の歩行者を検知したとき

I クリアランスソナー

クリアランスソナーが ON のとき、クリアランスソナーが静止物を検知すると、画面にインジケーターが表示されます。

J バックアンダーフロアビュー表示スイッチ

バックアンダーフロアビュー＆両サイドビュー表示に切りかわります。（→P.356）

K PKSB（パーキングサポートブレーキ）

衝突の可能性がある対象物を検知すると、画面にメッセージ（例：“ブレーキ！”）が表示されます。

L カスタマイズ設定スイッチ

表示される車両のボディーカラーやクリアランスソナーの検知距離などの設定を変更できます。（→P.381）

M ガイド線切りかえスイッチ

スイッチをタッチするたびに、ガイド線表示モードが切りかわります。

N 車両中央予想進路線

ハンドル操作と連動して、車両中央の目安（緑色）を示します。

O カメラ汚れ検知アイコン

カメラの汚れを検知した場合にアイコンが表示されます。

知識

■バックビュー＆両サイドビュー／ワイドバックビュー＆両サイドビューについて

●シフトポジションがRのときに表示できます。

●シフトポジションがRのときにカメラスイッチを押すと、フロントビュー＆両サイドビューに切りかえできます。

●クリアランスソナーの表示位置とカメラ映像に映し出される作動対象の位置は合わないことがあります。

■ガイド線について

バックドアが閉じていないと、ガイド線が表示されません。バックドアが閉まっているのにガイド線が表示されない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

警告

■ガイド線について

乗車人数・積載量・路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

■表示について

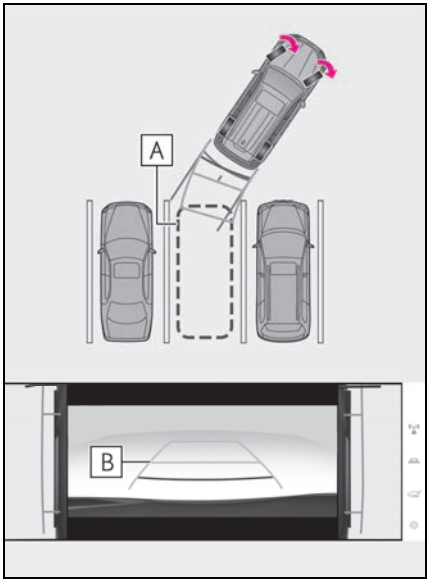
クリアランスソナー、RCTA（リヤクロストラフィックアラート）の表示は、カメラ映像に重畳して表示しているため、周囲の明るさや色などによっては見えにくい場合があります。

駐車する

以下の手順と逆方向の駐車スペースに駐車するときは、ハンドル操作がすべて左右逆になります。

1 シフトポジションを R にする

2 予想進路線が駐車スペースの中に入るようにハンドルを操作して、ゆっくり後退する

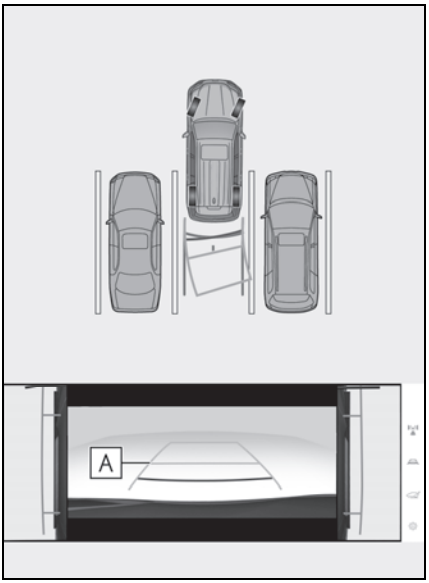


A 駐車スペース

B 予想進路線

3 車の後部が駐車スペースの中に入ったら、車幅延長線が駐車ス

ペース左右の区画線のあいだに入るようにハンドルを操作する



A 予想進路線

4 予想進路線と駐車スペースの区画線が平行になったら、ハンドルをまっすぐにして、車が駐車スペースにすべて入るまで、ゆっくり後退する

5 適切な位置で停車し、駐車を終える

バックアンダーフロアビュー＆両サイドビューについて

現在の車両位置より手前で撮影された映像を車両の上に、現在の車両位置・タイヤ位置を示す線が合成表示され、車両下方・後方の状況や後輪位置の把握などを補助します。

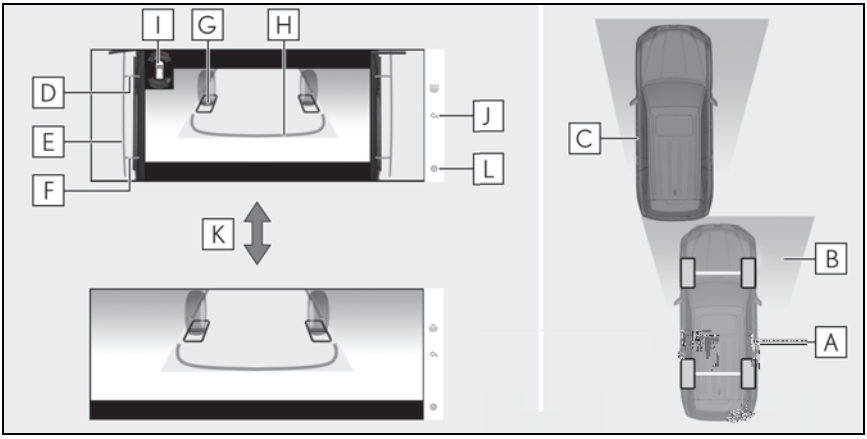
- 映像が表示されるには、一定以上の距離を走行する必要があります。
- 表示されている画面をタッチすると通常画面から拡大表示に切りかわります。（再度画面をタッチすると、通常画面にもどります）

画面を表示する

1 シフトポジションを R にし、バックビュー＆両サイドビューまたはワイドバックビュー＆両サイドビューを表示させる

2 バックアンダーフロアビュー表示スイッチを押す

バックアンダーフロアビュー＆両サイドビューについて



A 現在の車両の位置

B バックアンダーフロアビューで表示される映像（現在より手前で撮影された映像）

C 撮影時の車両の位置（現在より前方）

D フロントタイヤ接地線（青）

映像上におけるタイヤの位置の目安を示します。

E 車幅延長線（青）

自車幅から約 0.5m の距離の目安を表示します。

F リヤタイヤ接地線（青）

映像上におけるタイヤの位置の目安を示します。

G タイヤ形状線（黒・白）

タイヤのある位置、および接地面の目安を示します。

H 車両形状線（青）

車両端部の位置の目安を示します。

I クリアランスソナー

クリアランスソナーが ON のとき、クリアランスソナーが静止物を検知すると、画面にインジケーターが表示されます。

J バックアンダーフロアビュー解除スイッチ

バックアンダーフロアビューを表示する前の画面を表示します。

K 表示画面をタッチする

L カスタマイズ設定スイッチ

表示される車両のボディーカラーやクリアランスソナーの検知距離などの設定を変更できます。（→P.381）

知識

■バックアンダーフロアビューについて

●シフトポジションがRのときに表示できます。

●バックアンダーフロアビュー表示中に、車速が約 5km/h 以上になると自動で直前に表示していたカメラ画面にもどります。

●次の場合はバックアンダーフロアビュー表示が終了し、自動で直前に表示していたカメラ画面にもどります。また、次に表示できるまでバックアンダーフロアビュー表示スイッチは操作できません。
・車輪が空転したとき
・マルチテレイン ABS が作動したとき
・システムが正常に作動しないとき
・RCTA（リヤクロストラフィックアラート）・RCD（リヤカメラディテクション）や PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したとき
・バックドアが開いているとき

●バックアンダーフロアビュー表示中にドアミラーを格納すると、別画面が表示されます。

●ハンドルを一定舵角以上操作しながら走行すると、画面の一部が欠けたような表示になることがありますが、異常ではありません。

●次のような状況では、システムが正常に作動しない、またはバックアンダーフロアビューへの切りかえができない場合があります。また、次に表示できるまでバックアンダーフロアビュー表示スイッチは操作できません。
・積雪路
・太陽光や照明などによる光源により影があるとき
・滑りやすい路面や、車輪が空転したとき
・カメラレンズに汚れや異物が付着しているとき
・水面（川、海など）
・オプション装備を取り付けたとき
・カメラを覆ったり、撮像範囲に物体があるとき
・タイヤを交換したとき
・バックドアが開いているなど、カメラの位置が正しい位置ではないとき
・ハンドルを一定舵角以上操舵したとき
・坂道などの勾配があるとき

●過去に撮影された映像を表示しているため、次のような場合は、画面と実際の状況が異なることがあります。
・撮影後に障害物が現れたり動いたりしたとき
・撮影後に砂や雪などが崩れて動いたとき
・表示範囲に水たまりやぬかるみなどがあるとき
・車両がスリップしたとき

警告

■ガイド線について

乗車人数・積載量・路面の勾配・路面状況・周囲の明るさ・オプションの装備・指定以外のタイヤやサスペンション等の装着により、タイヤ形状線・車両形状線と実際の車両の位置とがずれる場合があります。必ず、周囲の安全を確認しながら運転してください。

警告

■バックアンダーフロアビュー表示について

●表示される映像は、過去に撮影された映像です。よって、撮影後にものが動くなど、バックアンダーフロアビュー表示と現在の状況とが必ずしも一致しない場合があります。また、夜間の暗い環境などでは、映像上で障害物などが確認できない場合があります。

●表示される映像の範囲には限界があります。必ず目視やデジタルインナーミラー・ドアミラーなどで周囲の安全を確認した上で運転してください。

画面表示の見方や機能などについて（トランスファーレンジが H4 かつマルチテレインセレクトが OFF）

表示される各画面には、前進・後退時の障害物の確認など走行状況を補助する情報が表示されます。

シフトポジションが P のときの表示モード

車両周辺の障害物を確認するため、各カメラから合成された映像を表示するモードです。運転席から見たような映像や、車両まわりの斜め上方から見たような映像を表示します。

画面を表示する

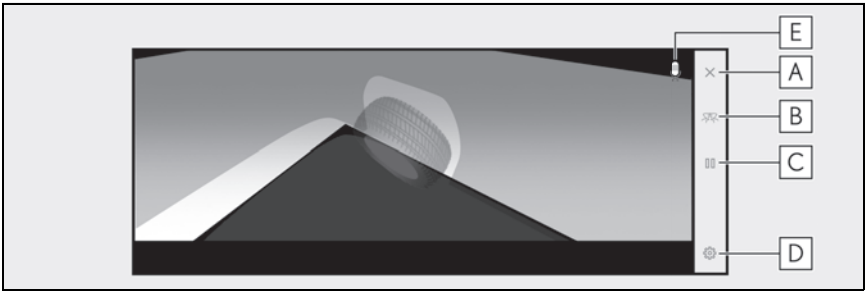
1 シフトポジションを P にする

2 カメラスイッチを押す

● 画面モード切りかえスイッチをタッチするたびに、モードが切りかわります。

● カメラスイッチをもう一度押すと、ナビゲーション画面など、以前表示していた画面にもどります。

▶ シースルービュー



A 画面消去スイッチ

カメラ映像を消して、オーディオ画面など以前表示していた画面にもどります。

B 画面モード切りかえスイッチ

シースルービュー／ムービングビューを切りかえます。

C 一時停止／再回転スイッチ

回転表示を一時停止、再開します。

D カスタマイズ設定スイッチ

表示される車両のボディーカラーやクリアランスソナーの検知距離などの設定を変更できます。（→P.381）

E 音声認識アイコン

エージェント（音声対話サービス）が作動しているときに表示されます。

▶ ムービングビュー

A 画面消去スイッチ

カメラ映像を消して、オーディオ画面など以前表示していた画面にもどります。

B 画面モード切りかえスイッチ

シースルービュー／ムービングビューを切りかえます。

C 一時停止／再回転スイッチ

回転表示を一時停止、再開します。

D カスタマイズ設定スイッチ

表示される車両のボディーカラーやクリアランスソナーの検知距離などの設定を変更できます。（→P.381）

E 音声認識アイコン

エージェント（音声対話サービス）が作動しているときに表示されます。

知識

■シースルービュー／ムービングビューについて

●クリアランスソナーが ON のときのみ、シースルービュー／ムービングビューを表示できます。

●シースルービュー／ムービングビュー画面の回転表示は、画面上の任意の場所をタッチしても一時停止／再開できます。

シフトポジションが D、N のときの表示モード

見通しの悪い交差点や丁字路などで、車両の前方と左右方向の状況確認をするために、車両上方からの映像と前方カメラからの映像を同時に表示するモードです。

画面を表示する

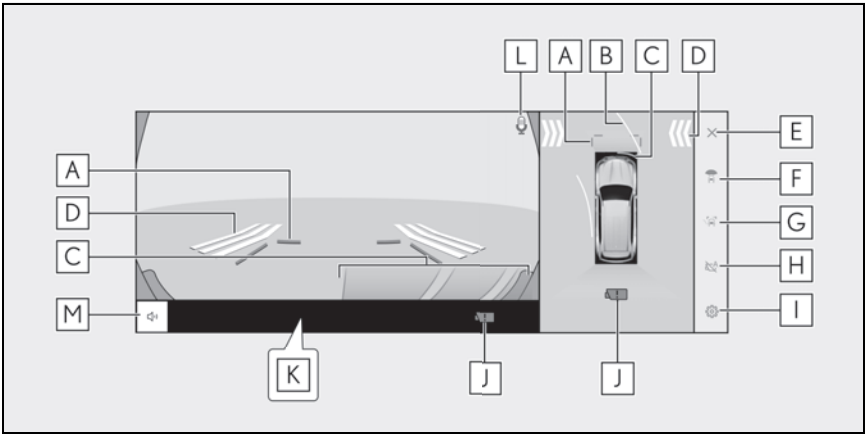
1 シフトポジションを D または N にする

2 カメラスイッチを押す

● カメラスイッチを押すたびにモードが切りかわります。

● コーナリングビューモードが ON になっている場合、ハンドルを直進状態から 180 度以上回転させると、パノラミックビュー＆サイドクリアランスビューからパノラミックビュー＆コーナリングビューに切りかわります。

▶ パノラミックビュー＆ワイドフロントビュー



A 前方距離目安線

車両前端から約 1m 先を示します。

B 前進予想進路線

ハンドル操作と連動して、進路の目安を示します。（黄色）

直進状態から 90 度以上ハンドル操作をした場合に表示します。

C クリアランスソナー

センサーが障害物を検知すると、画面にインジケーターが表示され、ブザーが鳴ります。

D FCTA（フロントクロストラフィックアラート）&ITS Connect

前方または側方からの接近車両や障害物を、FCTA（フロントクロストラフィックアラート）もしくは ITS Connect が感知すると、画面にインジケーターが表示されます。

E 画面消去スイッチ

カメラ映像を消して、オーディオ画面など以前表示していた画面にもどります。

F 画面モード切りかえスイッチ

スイッチをタッチするたびに、画面モードが切りかわります。

G ガイド線切りかえスイッチ

スイッチをタッチするたびに、ガイド線表示モードが切りかわります。（→P.366）

H 自動表示モード切りかえスイッチ

自動表示モードの ON/OFF を切りかえます。シフトポジションが D または N のとき、車速に応じて自動でパノラミックビュー＆ワイドフロントビューまたはパノラミックビュー＆クリアランスビュー／コーナリングビューが表示されます。（→P.367）

I カスタマイズ設定スイッチ

表示される車両のボディーカラーやクリアランスソナーの検知距離などの設定を変更できます。（→P.381）

J カメラ汚れ検知アイコン

カメラの汚れを検知した場合にアイコンが表示されます。

K PKSB（パーキングサポートブレーキ）

衝突の可能性がある障害物を感知すると、画面にメッセージ（例：“ブレーキ！”）が表示されます。

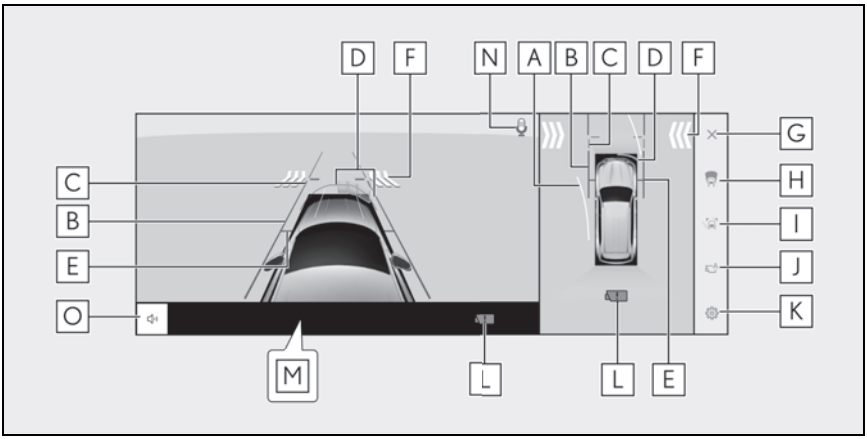
L 音声認識アイコン

エージェント（音声対話サービス）が作動しているときに表示されます。

M クリアランスソナーミュートスイッチ

クリアランスソナーの作動音を一時的にミュートします。

▶ パノラミックビュー＆サイドクリアランスビュー



A 前進予想進路線

ハンドル操作と連動して、進路の目安を示します。（黄色）
直進状態から 90 度以上ハンドル操作をした場合に表示します。

B 車幅平行線

ドアミラー分を含んだ車幅の目安を示します。

C 前方距離目安線

車両前端から約 1m 先を示します。

D クリアランスソナー

センサーが障害物を検知すると、画面にインジケーターが表示され、ブザーが鳴りま

す。

E 前輪接地線

前タイヤの位置を示します。

F FCTA（フロントクロストラフィックアラート）&ITS Connect

前方または側方からの接近車両や障害物を、FCTA（フロントクロストラフィックアラート）もしくはITS Connectが感知すると、画面にインジケーターが表示されます。

G 画面消去スイッチ

カメラ映像を消して、オーディオ画面など以前表示していた画面にもどります。

H 画面モード切りかえスイッチ

スイッチをタッチするたびに、画面モードが切りかわります。

I ガイド線切りかえスイッチ

スイッチをタッチするたびに、ガイド線表示モードが切りかわります。（→P.366）

J 自動表示モード切りかえスイッチ

自動表示モードのON/OFFを切りかえます。シフトポジションがDまたはNのとき、車速に応じて自動でパノラミックビュー＆ワイドフロントビューまたはパノラミックビュー＆クリアランスビュー／コーナリングビューが表示されます。（→P.367）

K カスタマイズ設定スイッチ

表示される車両のボディーカラーやクリアランスソナーの検知距離などの設定を変更できます。（→P.381）

L カメラ汚れ検知アイコン

カメラの汚れを検知した場合にアイコンが表示されます。

M PKSB（パーキングサポートブレーキ）

衝突の可能性がある障害物を感知すると、画面にメッセージ（例：“ブレーキ！”）がされます。

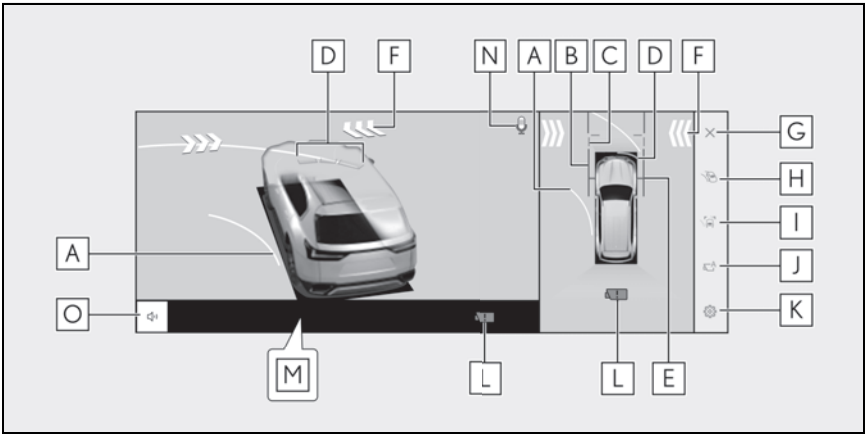
N 音声認識アイコン

エージェント（音声対話サービス）が作動しているときに表示されます。

O クリアランスソナーミュートスイッチ

クリアランスソナーの作動音を一時的にミュートします。

▶ パノラミックビュー＆コーナリングビュー



A 前進予想進路線

ハンドル操作と連動して、進路の目安を示します。（黄色）

直進状態から 90 度以上ハンドル操作をした場合に表示します。

B 車幅平行線

ドアミラー分を含んだ車幅の目安を示します。

C 前方距離目安線

車両前端から約 1m 先を示します。

D クリアランスソナー

センサーが障害物を検知すると、画面にインジケーターが表示され、ブザーが鳴ります。

E 前輪接地線

前タイヤの位置を示します。

F FCTA（フロントクロストラフィックアラート）&ITS Connect

前方または側方からの接近車両や障害物を、FCTA（フロントクロストラフィックアラート）もしくは ITS Connect が感知すると、画面にインジケーターが表示されます。

G 画面消去スイッチ

カメラ映像を消して、オーディオ画面など以前表示していた画面にもどります。

H 画面モード切りかえスイッチ

スイッチをタッチするたびに、画面モードが切りかわります。

I ガイド線切りかえスイッチ

スイッチをタッチするたびに、ガイド線表示モードが切りかわります。（→P.366）

J 自動表示モード切りかえスイッチ

自動表示モードの ON/OFF を切りかえます。シフトポジションが D または N のとき、車速に応じて自動でパノラミックビュー＆ワイドフロントビューまたはパノラミックビュー＆クリアランスビュー／コーナリングビューが表示されます。（→P.367）

K カスタマイズ設定スイッチ

表示される車両のボディーカラーやクリアランスソナーの検知距離などの設定を変更できます。（→P.381）

L カメラ汚れ検知アイコン

カメラの汚れを検知した場合にアイコンが表示されます。

M PKSB（パーキングサポートブレーキ）

衝突の可能性がある障害物を感知すると、画面にメッセージ（例：“ブレーキ！”）がされます。

N 音声認識アイコン

エージェント（音声対話サービス）が作動しているときに表示されます。

O クリアランスソナーミュートスイッチ

クリアランスソナーの作動音を一時的にミュートします。

知識

■パノラミックビュー＆サイドクリアランスビュー／コーナーリングビューについて

- クリアランスソナーが ON のときのみ、パノラミックビュー＆サイドクリアランスビュー、パノラミックビュー＆コーナリングビューを表示できます。
- クリアランスソナーの表示位置とカメラ映像に映し出される作動対象の位置は合わないことがあります。

警告

■ガイド線について

乗車人数・積載量・路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

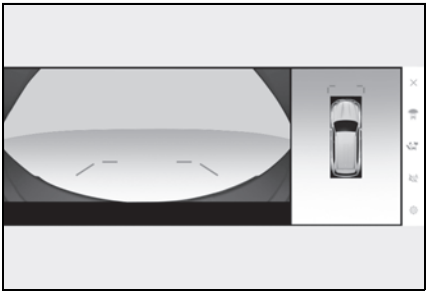
■表示について

クリアランスソナー、FCTA（フロントクロストラフィックアラート）＆ ITS Connect の表示は、カメラ映像に重畳して表示しているため、周囲の明るさや色などによっては見えにくい場合があります。

ガイド線表示モードの切りかえ

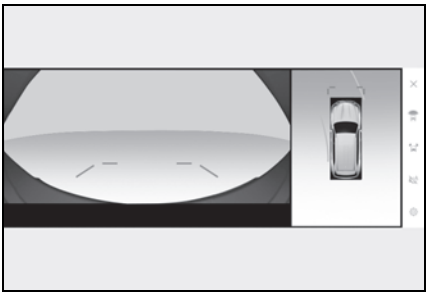
ガイド線切りかえスイッチをタッチするたびに、ガイド線表示モードが切りかわります。

▶ 距離目安線表示モード



● 車両前端から約 1m 先を示します。（青色）

▶ 予想進路線表示モード



● ハンドル操作と連動して、進路の目安を示します。（黄色）直進状態から 90 度以上ハンドルを操作した場合に表示されます。

自動表示モードについて

カメラスイッチの操作による表示に加え、車速に応じて自動的にパノラミックビュー＆ワイドフロントビュー、パノラミックビュー＆サイドクリアランスビュー、パノラミックビュー＆コーナリングビューが表示される自動表示モードを設定することができます。

● 自動表示モード切りかえスイッチにタッチすると、自動表示モードが ON にかわります。

● 自動表示モードを ON にすると、次の場合に自動で表示することができます。

- シフトポジションを D または N にしたとき
- 車速が約 10km/h 以下に減速したとき（シフトポジションが R 以外）

コーナリングビュー自動表示モードについて

ハンドル操作に応じて自動的にパノラミックビュー＆コーナリングビューが表示されるコーナリングビュー自動表示モードを設定できます。

● コーナリングビュー自動表示モードを ON にすると、次の場合に自動でコーナリングビューを表示できます。

- シフトポジションを D または N にしたとき
- 車速が約 12km/h 以下のとき
- 直進状態から 180 度以上ハンドルを操作したとき

知識

■コーナリングビュー自動表示モードについて

コーナリングビュー自動表示モードはカスタマイズ設定で変更できます。

クリアランスソナー連動表示機能について

クリアランスソナーの検知状態に応じて、パノラミックビュー＆ワイドフロントビューが自動的に表示されます。

● クリアランスソナーが障害物を検知したとき（シフトポジションがDまたはNのとき）に、自動で表示されます。

● クリアランスソナーの検知が終了したときに、自動でもとの画面へもどります。

知識

■ **クリアランスソナー連動表示機能について**

● 画面表示中にカメラスイッチを押すと、元の画面にもどることができます。

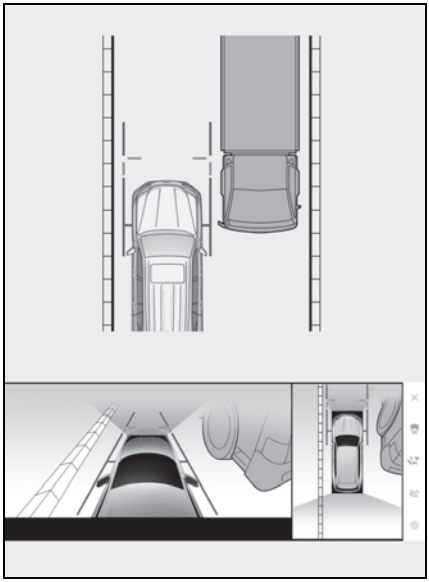
● クリアランスソナー感知状態でマルチテレインモニター画面を解除した場合、マルチメディアシステム画面に表示されるクリアランスソナーマークにタッチすると、再度マルチテレインモニター画面が表示されます。

車幅平行線の使い方

■ **パノラミックビュー＆サイドクリアランスビュー**

● 車幅平行線と障害物との位置関係を確認します。

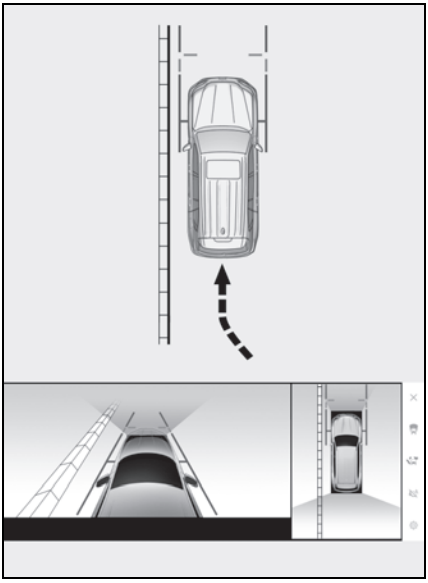
● 車幅平行線が実際の障害物などに重ならないようにハンドル操作をして前進します。



● 車両平行線と路肩の縁石などの目標物との位置関係を確認します。

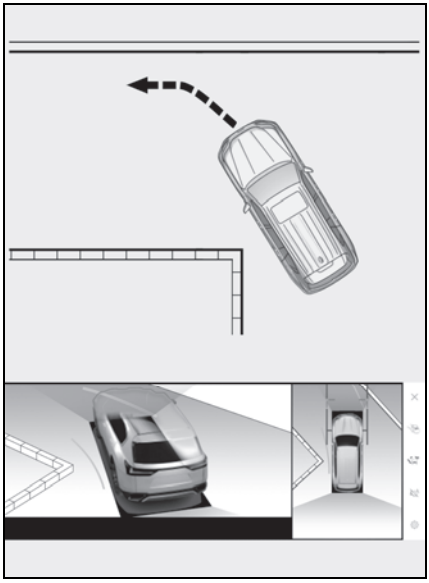
● 図のように車幅平行線が重ならないように車両を幅寄せします。

● 同時に車幅平行線と目標物が平行になるように運転操作することで、目標物に沿って駐車することができます。



関係を確認します。

● 前進予想進路線が実際の障害物と重ならないようにハンドルを操作して前進します。



前進予想進路線の使い方

■ パノラミックビュー＆コーナリングビュー

● 前進予想進路線と障害物との位置

シフトポジションが R のときの表示モード

駐車時の安全確認を行うために、車両上方からの映像と後方カメラからの映像を同時に表示するモードです。

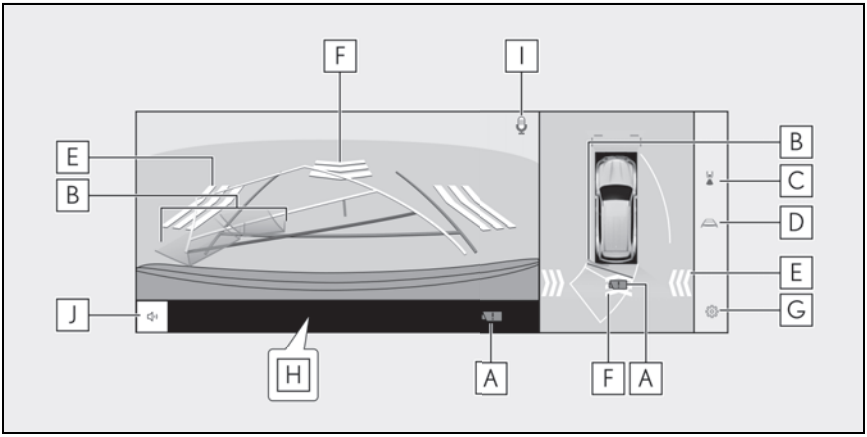
画面を表示する

1 シフトポジションを R にする

画面モード切りかえスイッチをタッチするたびに、モードが切りかわります。

● パノラミックビュー＆バックビュー／ワイドバックビューが表示されます。

▶ パノラミックビュー＆バックビュー



A カメラ汚れ検知アイコン

カメラの汚れを検知した場合にアイコンが表示されます。

B クリアランスソナー

センサーが障害物を検知すると、画面にインジケーターが表示され、ブザーが鳴ります。

C 画面モード切りかえスイッチ

スイッチをタッチするたびに、パノラミックビュー＆バックビューとパノラミックビュー＆ワイドバックビューが切りかわります。

D ガイド線切りかえスイッチ

スイッチをタッチするたびに、ガイド線表示モードが切りかわります。（→P.372）

E RCTA（リヤクロストラフィックアラート）/RCD（リヤカメラディテクション）

以下のときに画面にインジケーターが表示されます。
・ 後側方レーダーが後側方からの接近車両や障害物を検知したとき
・ リヤカメラが後方の歩行者を検知したとき

F RCD（リヤカメラディテクション）

後方の歩行者をリヤカメラが検知すると、画面にインジケーターが表示されます。

G カスタマイズ設定スイッチ

表示される車両のボディーカラーやクリアランスソナーの検知距離などの設定を変更できます。（→P.381）

H PKSB（パーキングサポートブレーキ）

衝突の可能性がある障害物を感知すると、画面にメッセージ（例：“ブレーキ！”）

が表示されます。

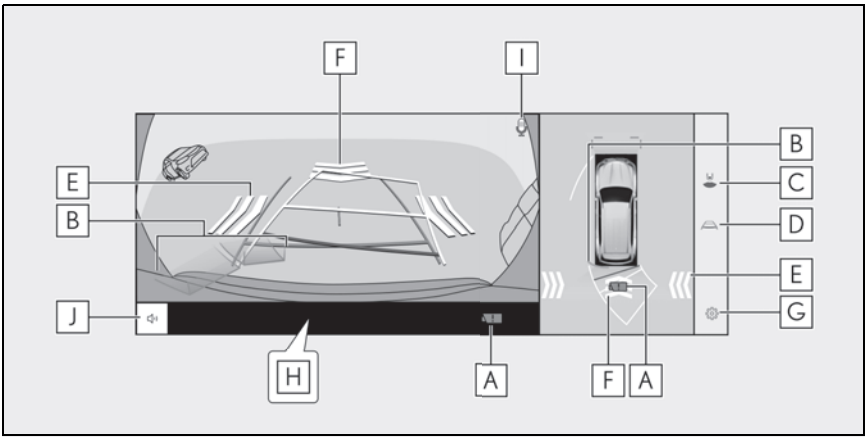
I 音声認識アイコン

エージェント（音声対話サービス）が作動しているときに表示されます。

J クリアランスソナー / RCTA（リヤクロストラフィックアラート）/ RCD（リヤカメラディテクション）ミュートスイッチ

クリアランスソナー / RCTA（リヤクロストラフィックアラート）/ RCD（リヤカメラディテクション）の作動音を一時的にミュートします。

▶ パノラミックビュー＆ワイドバックビュー



A カメラ汚れ検知アイコン

カメラの汚れを検知した場合にアイコンが表示されます。

B クリアランスソナー

センサーが障害物を検知すると、画面にインジケーターが表示され、ブザーが鳴ります。

C 画面モード切りかえスイッチ

スイッチをタッチするたびに、パノラミックビュー＆バックビューとパノラミックビュー＆ワイドバックビューが切りかわります。

D ガイド線切りかえスイッチ

スイッチをタッチするたびに、ガイド線表示モードが切りかわります。（→P.372）

E RCTA（リヤクロストラフィックアラート）/RCD（リヤカメラディテクション）

以下のときに画面にインジケーターが表示されます。

・ 後側方レーダーが後側方からの接近車両や障害物を検知したとき
・ リヤカメラが後方の歩行者を検知したとき

F RCD（リヤカメラディテクション）

後方の歩行者をリヤカメラが検知すると、画面にインジケーターが表示されます。

G カスタマイズ設定スイッチ

表示される車両のボディーカラーやクリアランスソナーの検知距離などの設定を変更できます。（→P.381）

H PKSB（パーキングサポートブレーキ）

衝突の可能性がある障害物を感知すると、画面にメッセージ（例：“ブレーキ！”）が表示されます。

I 音声認識アイコン

エージェント（音声対話サービス）が作動しているときに表示されます。

J クリアランスソナー / RCTA（リヤクロストラフィックアラート）/ RCD（リヤカメラディテクション）ミュートスイッチ

クリアランスソナー / RCTA（リヤクロストラフィックアラート）/ RCD（リヤカメラディテクション）の作動音を一時的にミュートします。

知識

■パノラミックビュー＆バックビュー／ワイドバックビューについて

- シフトポジションが R のときにカメラスイッチを押すと、パノラミックビュー＆ワイドフロントビューに切りかえできます。
- パノラミックビュー＆バックビュー表示中、表示部にタッチすることで、パノラミックビュー＆ワイドバックビューに切り替えることができます。
- クリアランスソナーの表示位置とカメラ映像に映し出される障害物の位置は合わないことがあります。

警告

■ガイド線について

乗車人数・積載量・路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

■表示について

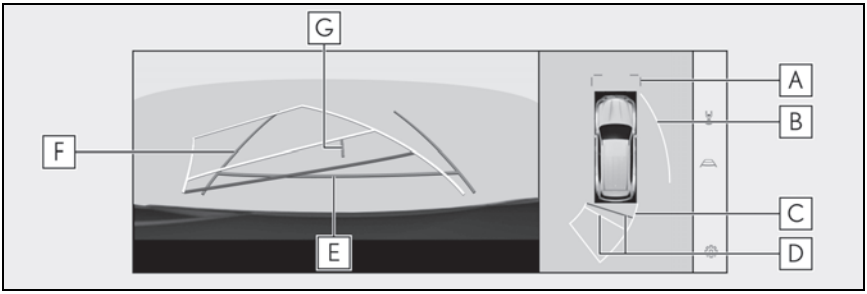
クリアランスソナー、RCTA（リヤクロストラフィックアラート）、RCD（リヤカメラディテクション）の表示は、カメラ映像に重畳して表示しているため、周囲の明るさや色などによっては見えにくい場合があります。

ガイド線表示モードの切りかえ

ガイド線切りかえスイッチをタッチするたびに、ガイド線表示モードが切りかわります。

▶ 予想進路線表示モード

ハンドル操作に連動した予想進路線などが表示されます。



A 前方距離目安線

車両前端から約 1m 先（青色）を示します。

B 側方予想進路線

ハンドル操作と連動して、進路の目安（黄色）を示します。

C 後方予想進路線

ハンドル操作と連動して、進路の目安（黄色）を示します。

D 後方距離目安線

車の後方の距離を示します。
・ 予想進路線と連動する。
・ リヤバンパー後端の中心位置から約 0.5m 先（赤色）・約 1m 先（黄色）を示します。

E 後方距離目安線

リヤバンパー後端から約 0.5m 先（青色）を示します。

F 後方車幅延長線

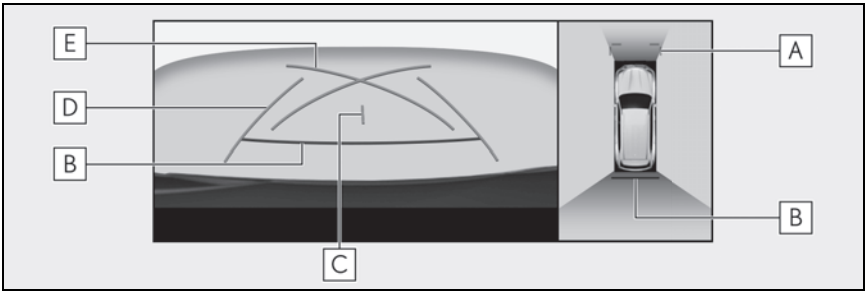
車をまっすぐ後退させたときの進路の目安を示します。
・ 実際の車幅より広く表示。
・ 直進状態になっているときは、予想進路線と重なる。

G 車両中央線

後方車幅延長線の中心位置（青色）を示します。

▶ 駐車ガイド線モード

ハンドルの切り返し点（駐車ガイド線）が表示されます。予想進路線表示を必要とせずに駐車できる、車両感覚に慣れた方におすすめします。



A 前方距離目安線

車両前端から約 1m 先（青色）を示します。

B 後方距離目安線

車の後方の距離を示します。
・ リヤバンパー後端の中心位置から約 0.5m 先（赤色）を示します。

C 車両中央線

後方車幅延長線の中心位置（青色）を示します。

D 後方車幅延長線

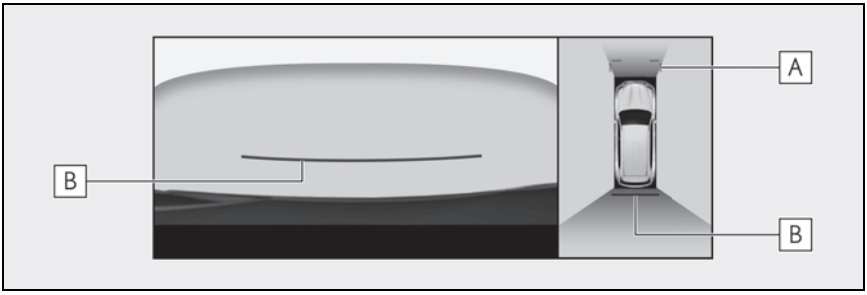
車をまっすぐ後退させたときの進路の目安を示します。
・ 実際の車幅より広く表示されます。

E 駐車ガイド線

もっとも後方へ小まわりしたときの進路の目安を示します。
・ 駐車時にハンドルを操作する位置の目安にしてください。

▶ 距離目安線モード

距離目安線のみ表示されるモードです。ガイド線を必要としない方におすすめします。



A 前方距離目安線

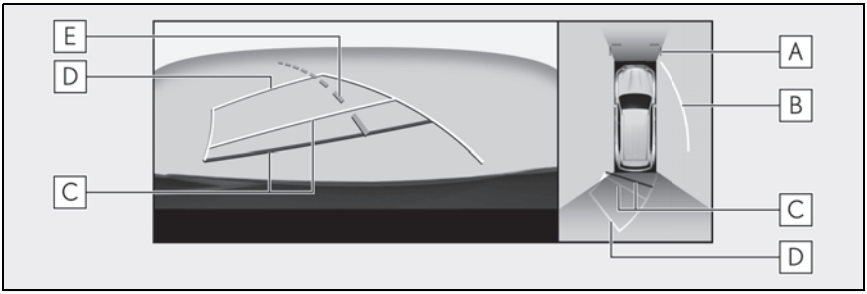
車両前端から約 1m 先（青色）を示します。

B 後方距離目安線

車の後方の距離を示します。
・ リヤバンパー後端の中心位置から約 0.5m 先（赤色）を示します。

▶ 車両中央予想進路線モード

ハンドル操作に連動して、予想進路線や車両中央線の目安などが表示されます。またリヤバンパーの中心を、看板やポールなどの目印に寄せる場合に使用します。



A 前方距離目安線

車両前端から約 1m 先（青色）を示します。

B 側方予想進路線

ハンドル操作と連動して、進路の目安（黄色）を示します。

C 後方距離目安線

車の後方の距離を示します。
・ 予想進路線と連動します。
・ リヤバンパー後端の中心位置から約 0.5m 先（赤色）／約 1m 先（黄色）を示します。

D 後方予想進路線

ハンドル操作を連動して、進路の目安（黄色）を示します。

E 車両中央予想進路線

ハンドル操作と連動して、車両中央の目安（緑色）を示します。

知識

■ガイド線表示モードについて

バックドアが閉じていないとガイド線は表示されません。バックドアを閉じてもガイド線が表示されない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

警告

■ガイド線表示モードについて

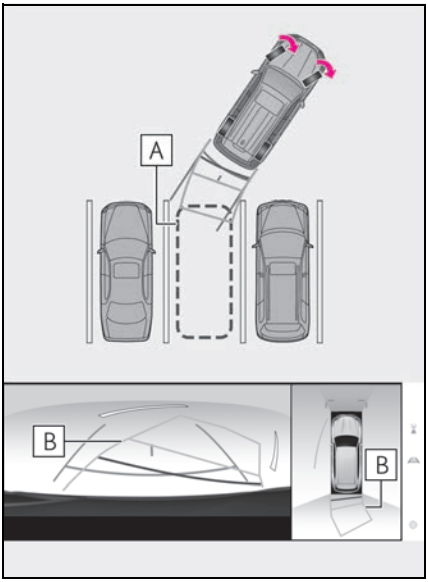
後方車幅延長線は、実際の車幅より広く表示されます。後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

予想進路線モードを使用して駐車する

以下の手順と逆方向の駐車スペースに駐車するときは、ハンドル操作がすべて左右逆になります。

1 シフトポジションを R にする

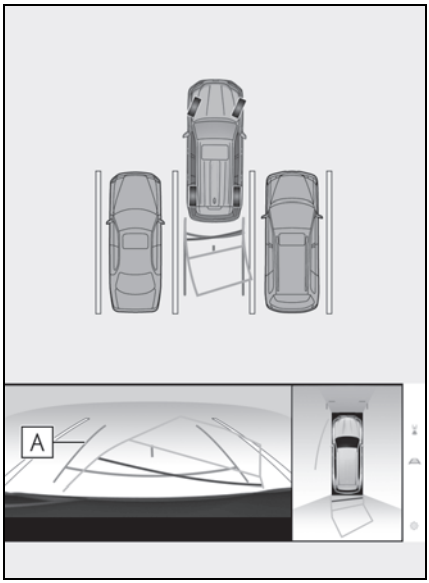
2 予想進路線が駐車スペースの中に入るようにハンドルを操作して、ゆっくり後退する



A 駐車スペース

B 予想進路線

3 車の後部が駐車スペースの中に入ったら、車幅延長線が駐車スペース左右の区画線のあいだに入るようにハンドルを操作する



A 車幅延長線

4 車幅延長線と駐車スペースの区画線が平行になったら、ハンドルをまっすぐにして、車が駐車スペースにすべて入るまで、ゆっくり後退する

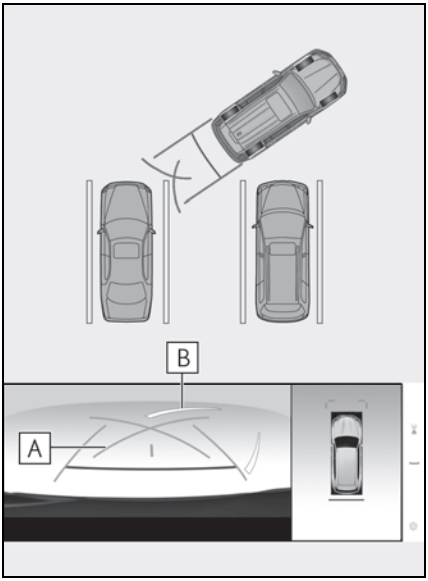
5 適切な位置で停車し、駐車を終える

駐車ガイド線モードを使用して駐車する

以下の手順と逆方向の駐車スペースに駐車するときは、ハンドル操作がすべて左右逆になります。

1 シフトポジションを R にする

2 駐車ガイド線が駐車スペースの左端の区画線に合うまで後退したら止まる



A 駐車ガイド線

B 駐車場の区画線

3 ハンドルを右いっぱいにまわして、ゆっくり後退する

4 車が駐車スペースと平行になったら、ハンドルをまっすぐにして、車が駐車スペースにすべて入るまで、ゆっくり後退する

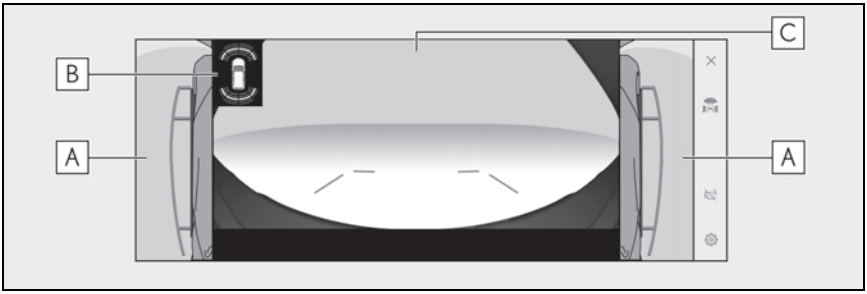
5 適切な位置で停車し、駐車を終える

ドアミラー格納時の画面について

ドアミラーを格納した場合、パノラミックビューのかわりにサイドカメラからの映像が表示されます。狭い場所での幅寄せ駐車の際などに、車両周辺の安全確認を補助します。

画面表示について

▶ サイドビュー＆ワイドフロントビュー



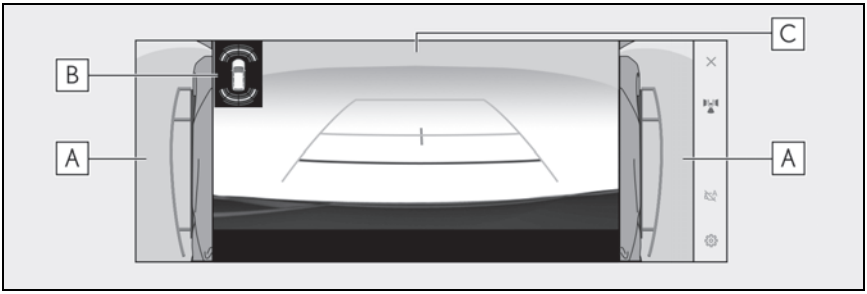
A サイドビュー

B クリアランスソナー

センサーが障害物を検知すると、画面にインジケーターが表示され、ブザーが鳴ります。

C ワイドフロントビュー

▶ サイドビュー＆バックビュー



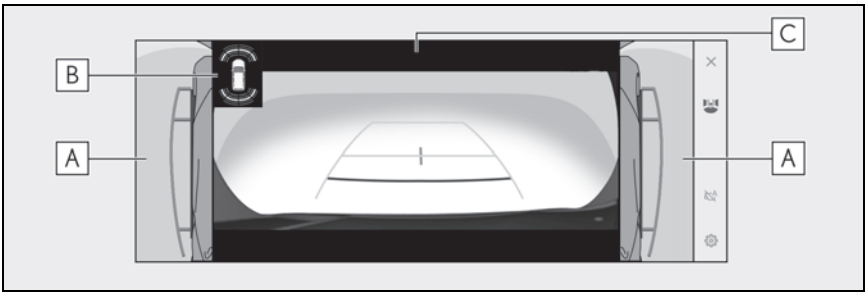
A サイドビュー

B クリアランスソナー

センサーが障害物を検知すると、画面にインジケーターが表示され、ブザーが鳴ります。

C バックビュー

▶ サイドビュー＆ワイドバックビュー



A サイドビュー

B クリアランスソナー

センサーが障害物を検知すると、画面にインジケーターが表示され、ブザーが鳴ります。

C ワイドバックビュー

知識

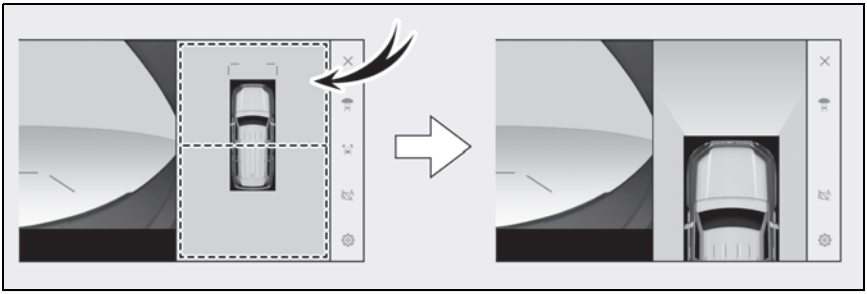
■表示について

クリアランスソナーの表示位置とカメラ映像に映し出される障害物の位置は合わないことがあります。

画面を拡大表示する（パノラミックビュー）

画面に映っているものが小さく見えにくい場合に、画面を拡大して表示させることができます。

パノラミックビューの拡大させたいエリアをタッチします。



● 選択したエリアが拡大表示されます。

● パノラミックビューは、車両の前後 2 カ所のいずれかを拡大して表示させることができます。

● 拡大表示を解除するには、再度画面を選択します。

知識

■拡大機能について

●次の条件をすべて満たすと拡大機能を使用することができます。
・車速が 12km/h 以下
・クリアランスソナーが ON になっている

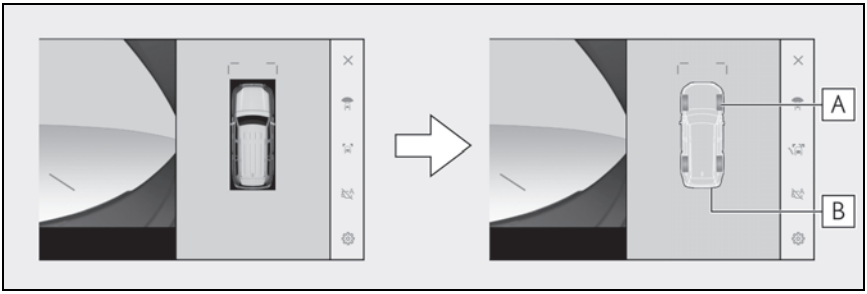
●次のいずれかの条件を満たすと拡大表示が自動的に解除されます。
・車速が 12km/h 以上になった
・クリアランスソナーを OFF にした

●シフトポジションが R のときの パノラミックビュー＆フロントビューでは、拡大表示使用できません。

●パノラミックビューの拡大表示は、通常のパノラミックビューとは違い、ガイド線を表示しません。

床下透過映像を表示する（パノラミックビュー）

現在の車両位置から撮影された過去のカメラ映像が車両下に合成表示され、車両下の状況やタイヤ位置の把握などを補助できます。映像はパノラミックビュー、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューに表示させることができます。



A タイヤ形状線

ハンドルと連動してタイヤ位置の目安を示します。

B 車両形状目安線

車両の外形の目安を示します。

知識

■床下透過映像について

●床下透過映像表示は、カスタマイズ設定画面の設定を ON にし、車両を前進または後退すると表示されます。

●次の場合は、床下透過映像表示が表示されません。
・車速が約 20km/h 以上になったとき
・車両が停止し、一定時間経過したとき
・車両始動後、一定以上の距離を走行していないとき
・ドアミラーを格納しているとき
・マルチテレイン ABS が作動したとき
・システムが正常に作動しないとき

●次のような状況では、システムが正常に作動しない場合があります。
・積雪路
・照明などによる影があるとき
・カメラレンズに汚れや異物が付着しているとき
・水面（川・海など）
・オプション装備を取り付けたとき
・カメラの前に障害物があるとき
・タイヤを交換したとき
・バックドアが開いて、カメラの位置が正しくない場合
・すべりやすい路面や車輪が空転したとき
・坂道などの勾配があるとき

●過去に撮影された映像を表示しているため、次のような場合は、画面と実際の状況が異なることがあります。
・撮影後に障害物が現れたり動いたりしたとき
・撮影後に砂や雪などが崩れて動いたとき
・表示範囲に水たまりやぬかるみなどがあるとき
・車両がスリップしたとき

●次のような状況では、床下透過映像が一部、もしくはすべて黒映像で表示される場合があります。
・撮影した映像がない状態で発進したとき
・ハンドルを一定以上の角度まで回したとき
・車両が停止し、一定時間が経過したとき

警告

■**床下透過映像について**

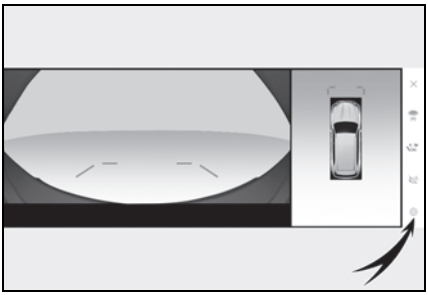
●乗車人数・積載量・路面の勾配・路面状況・周囲の明るさ・オプションの装備・タイヤ交換などにより、タイヤ形状線や車両形状目安線と実際の車両位置がずれる場合があります。必ず周囲の安全を確認しながら運転してください。

●表示される映像は、過去に撮影された映像です。そのため、撮影後に障害物が動くなど、床下透過映像表示と実際の状況とが必ずしも一致しない場合があります。

マルチテレインモニターの設定を変更する

コーナリングビュー自動表示や車両のボディーカラー・クリアランスソナーの検知距離などの設定を変更できます。

1 マルチメディア画面の⚙にタッチし、“マルチテレインモニター”にタッチする



2 各項目を設定する

● コーナリングビュー

コーナリングビューの自動表示の ON/OFF を設定できます。

● 床下透過の映像表示

床下透過映像表示の設定を ON/OFF できます。設定を ON にし、車両を前進または後退すると、現在の車両位置から撮影された過去のカメラ映像が車両下に合成表示され、車両下の状況やフロントタイヤ位置の把握などを補助できます。映像はパノラミックビュー、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューに表示されます。

● クリアランスソナー 3D 表示

クリアランスソナー 3D 表示の ON/OFF を設定できます。

● クリアランスソナー検知距離

クリアランスソナーによる障害物検知の開始距離を切りかえることができます。

● ボディーカラー

画面に表示されるボディーカラーを変更できます。

● カメラ映像自動オフ

画面表示タイマー機能の ON/OFF を設定できます。

知識

■**マルチテレインモニターの設定変更について**

走行中は安全のため、設定変更画面を表示できません。

ご使用上の注意

マルチテレインモニターを使用するときは、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、運転操作時は必ず後方・周囲の安全を直接確認してください。

警告

■マルチテレインモニターを使用してはいけないとき

次のような状況では、マルチテレインモニターを使用しないでください。使用すると、システムが正常に働かず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 凍結、すべりやすい路面、または雪道
- タイヤチェーン・応急用タイヤを使用しているとき
- フロントドア・バックドアが完全に閉まっていないとき
- 坂道など平坦でない道路
- タイヤをメーカー指定のものから交換しているとき
- サスペンションを改造しているとき
- 画面に映るエリアに社外品を装着しているとき

■ガイド線について

乗車人数・積載量・路面の勾配・路面状況・周囲の明るさなどにより、タイヤ位置目安線・車両形状目安線と実際の車両の位置とがずれる場合があります。必ず、周囲の安全を確認しながら運転してください。

注意

■パノラミックビューについて

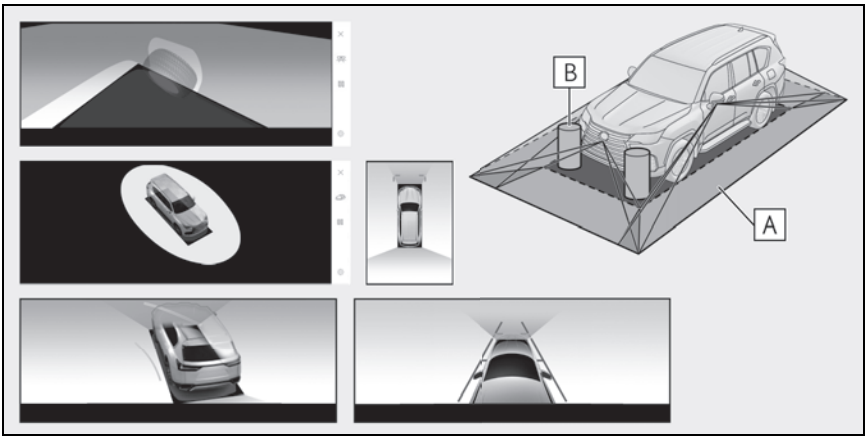
- シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビュー、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューは、フロントカメラとリヤカメラ、左右サイドカメラが撮影した映像を合成処理した映像です。表示可能な範囲や表示内容には限界があるため、マルチテレインモニターの特性を十分理解した上で使用してください。
- シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビュー、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューの四隅には、それぞれのカメラ映像境界位置を中心に映像合成処理領域が存在し、映像の鮮明度が低下することがありますが、故障ではありません。
- それぞれのカメラ付近の照度条件により、シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビュー、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューに明暗ができる場合があります。
- シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビュー、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューでは、それぞれのカメラの取り付け位置や撮像範囲より上部は表示されません。
- 車両付近には死角がありマルチテレインモニターには表示されない領域があります。

注意

- ワイドフロントビューまたはバックビュー、ワイドバックビュー、サイドビューに表示されている立体物が、シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビュー、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューでは表示されない場合があります。
- マルチテレインモニターは、人物や障害物などの立体物が実際と異なって表示される場合があります。（倒れているように表示される場合や、映像合成処理領域付近で消えてしまう場合、映像合成処理領域付近から現れるように表示される場合、表示位置の距離感が実際と異なるなど）
- リヤカメラが取り付けられたバックドア、サイドカメラを内蔵したドアミラーが取り付けられたフロントドアが開いている場合、マルチテレインモニターは正しく表示されません。
- シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビュー、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューに表示される車両アイコンは、コンピューターグラフィックによる画像を表示しているため、実際の車両とは色や形状、大きさなどが異なります。このため、車両付近の立体物が車両と接触しているように見える場合や、立体物との位置関係が実際の位置関係と異なる場合があります。

画面に映る範囲について

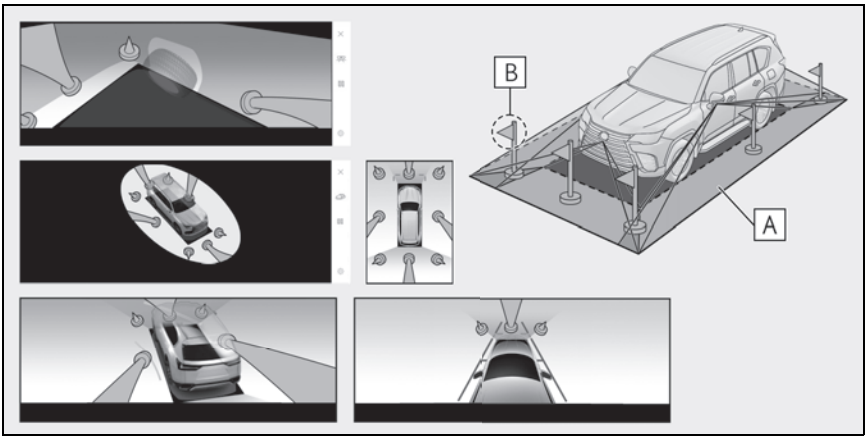
車両付近には死角があり、表示されない領域があります。画面では車両の周辺に何も表示されていなくても、実際には障害物が進路上にあるため、接触することがあります。必ず周囲の安全を直接確認してください。



A 画面に映るエリア

B 画面に映らない障害物

黒色部分内にある障害物は画面に表示されません。



A 画面に映るエリア

B 画面に映らない障害物

路面より高い部分は画面に表示されません。

知識

■**画面に映る範囲について**

●車両アイコンまわりの黒色部分はカメラに映らない部分です。直接確認してください。

●シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビュー（拡大表示を含む）、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューは、4つのカメラから得られた画像を平らな路面を基準に加工して表示しているため、次のように表示されることがあります。

・立体物が倒れて細長く、もしくは大きく見える

・路面より高い位置にある立体物が実際より遠くに見える、もしくは見えない

・高さのあるものが合成のつぎ目から現れてくるように見える場合がある

●照度条件により、カメラごとの映像の明るさにばらつきが出る場合があります。

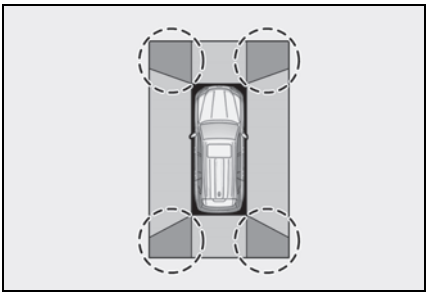
●乗員人数・積載状況・燃料残量による車体の傾きや車高の変化などにより、表示映像がずれる場合があります。

●ドアが完全に閉まっていないと、表示映像やガイド線が正しく表示されない場合があります。

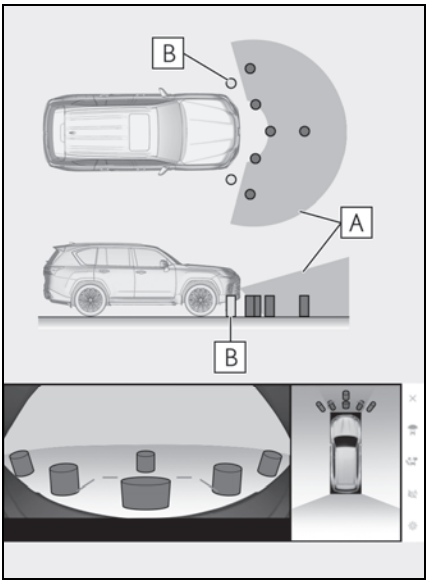
●シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビュー（拡大表示を含む）、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューに表示されている車両アイコンと、路面・障害物との位置関係は実際の位置とは異なる場合があります。

●字光式ナンバープレートを装着していると、画面上に映り込むことがあります。

●下図の○部分は画像を合成しているため、映像が見えにくい場合があります。



■ ワイドフロントビュー



A 画面に映るエリア

B 画面に映らない障害物

バンパーの両端付近は画面に映りません。

知識

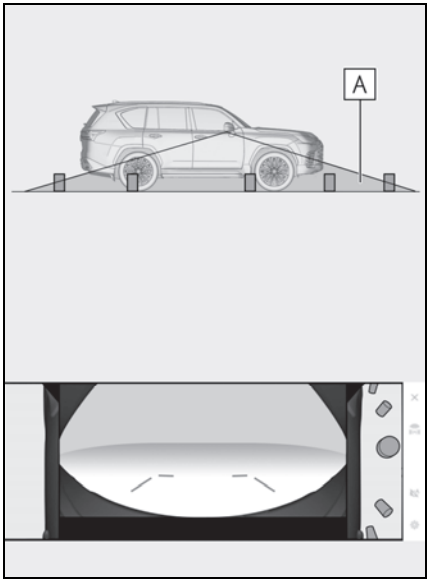
■ワイドフロントビューに映る範囲について

●カメラの映し出される範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの真下付近にあるものは映し出されません。

●画面に映る映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。

●ワイドフロントビューのカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に映る映像の距離感は実際の距離とは異なります。

■ サイドビュー＆バックビュー（ドアミラー格納時）について



A 画面に映るエリア

知識

■サイドビュー＆バックビューに映る範囲について

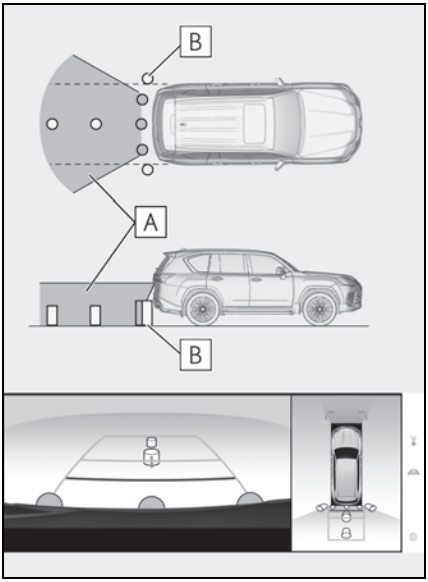
●車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。

●カメラの映し出される範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの真下付近にあるものは映し出されません。

●画面に映る映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。

●サイドビュー＆バックビューのカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に映る映像の距離感は実際の距離とは異なります。

■ バックビュー

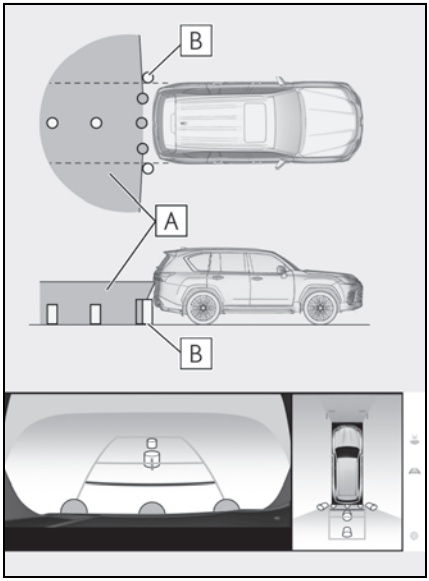


A 画面に映るエリア

B 画面に映らない障害物

バンパーの両端付近は画面に映りません。

■ ワイドバックビュー



A 画面に映るエリア

B 画面に映らない障害物

バンパーの両端付近は画面に映りません。

知識

■バックビュー・ワイドバックビューに映る範囲について

●車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。

●カメラの映し出される範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの真下付近にあるものは映し出されません。

●画面に映る映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。

●バックビュー・ワイドバックビューのカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に映る映像の距離感は実際の距離とは異なります。

●リヤカメラより高い位置にあるものについては、モニターに映らないことが

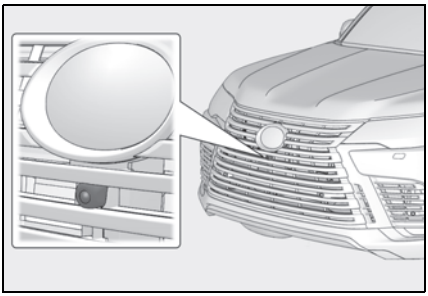
あります。

●字光式ナンバープレートを装着していると、画面上に映り込むことがあります。

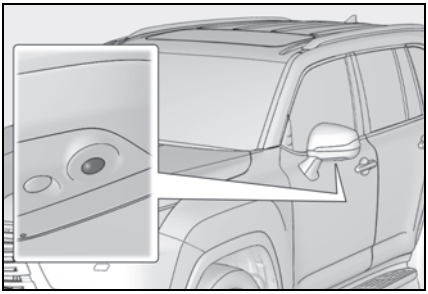
カメラについて

マルチテレインモニターの各カメラは図の位置にあります。

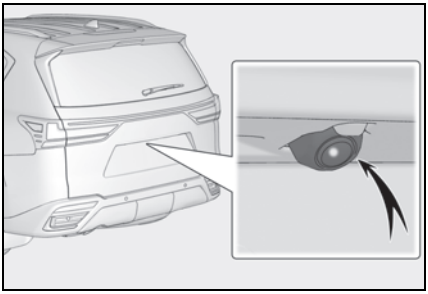
■ フロントカメラ



■ サイドカメラ



■ リヤカメラ



カメラのお手入れについて

カメラに水滴・雪・泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。この場合、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってください。

注意

■カメラについて

●マルチテレインモニターが正常に作動しなくなるおそれがありますので、以下のことにご注意ください。

・カメラ部を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。

・カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。

・カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってください。カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷付いて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。

・カメラのカバーは樹脂ですので、有機溶剤・ボディワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。

・寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。

・洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

注意

●カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

ウォッシャー液によるカメラ洗浄について

リヤカメラレンズの汚れは、カメラ洗浄用のウォッシャーを作動させて洗浄することができます。
(→P.217)

● カメラ洗浄中は、噴射されるウォッシャー液により、車両後方の状態が見えにくくなることがあります。必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意した上で運転してください。

● カメラ洗浄後にウォッシャー液がカメラレンズ面に残った場合、夜間に後方車両ヘッドランプの高さや傾きにより、車両後方の状態が見えにくくなることがあります。

● カメラ洗浄をしても、汚れによっては完全にきれいにならない場合があります。この場合、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズの水滴をふき取ってください。

● カメラ洗浄は、カメラレンズ面にウォッシャー液を噴射するため、カメラ周辺に付着した氷や雪などの映り込むものについては、洗浄することができません。

注意

■カメラ洗浄について

●ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときはノズルのつまりを点検してください。

●ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。ポンプが故障するおそれがあります。

●ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。ピンなどで取り除かないでください。ノズルが損傷するおそれがあります。

●リヤカメラ洗浄をしても、汚れによっては完全にきれいにならない場合があります。この場合、大量の水でリヤカメラの汚れを洗い流したあと、水で湿らせた柔らかい布でリヤカメラレンズをふき取ってください。リヤカメラレンズを強くこするとリヤカメラレンズが傷ついて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。

●リヤカメラ洗浄は、リヤカメラレンズ面にウォッシャー液を噴射するため、リヤカメラレンズ面以外（ガーニッシュなど）に付着した氷や雪など映り込むものについては、洗浄することはできません。

●ウォッシャー液の凍結防止のため、ウォッシャー液は外気温に適したものを使用してください。

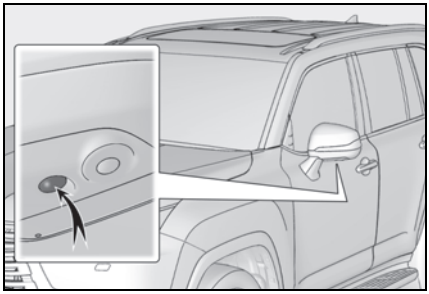
●洗車時に高圧洗車機でノズルに直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。また、ノズル噴射口に水が入り込み、凍結しウォッシャー液が正しく噴射できないおそれがあります。

注意

- 寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
- ウィンドウシールドウォッシャーとウォッシャタンクを共用しているため、リヤカメラ洗浄を多用すると、ウォッシャー液の補充頻度が高くなります。
- ノズル部を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。ノズルの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
- 車両に強い振動がかかる場合、ノズルから水滴が垂れカメラ映像が見えづらくなることがあります。
- リヤカメラ洗浄駆動により、リヤウィンドウシールドウォッシャも駆動されます。
- リヤカメラ洗浄中は、噴射されるウォッシャー液によりリヤカメラ映像が見えづらくなる場合があります。必ず車両周囲の状況を直接確認してください。
- リヤカメラ洗浄後にウォッシャー液がレンズ面に残る場合があります。その際、夜間に後方車両のヘッドライトの高さや傾きにより映像が見えにくくなることがあります。

パーキングアシストランプについて

マルチテレインモニターのパーキングアシストランプは図の位置にあります。



注意

■パーキングアシストランプについて

- マルチテレインモニターが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。
  - ランプ部を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。ランプの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
  - ランプ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。
  - ランプ部を洗うときは、大量の水でランプの汚れを流したあと、水で湿らせた柔らかい布でランプ部をふき取ってください
  - ランプのカバーは樹脂ですので、有機溶剤・ボディワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
  - 寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
  - 洗車時に高圧洗浄機でランプやランプ周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

注意

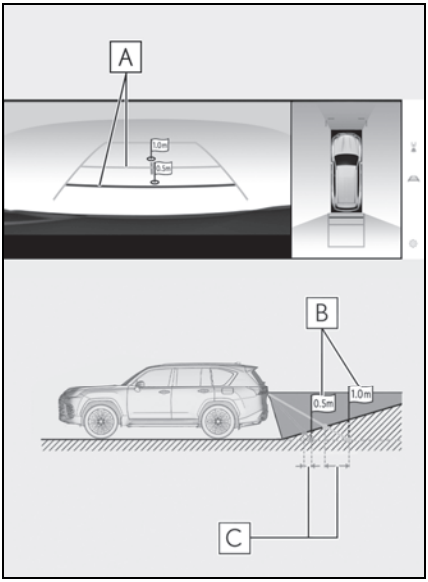
●ランプ部をぶつけたときは、ランプの故障などのおそれがあります。早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

画面と実際の路面との誤差について

マルチテレインモニターの合成映像・ガイド線は、平らな路面に対しての距離の目安を示しています。そのため、以下の状態のときは、画面のガイドと実際の路面上の距離・進路に誤差が生じます。

急な上り坂が後方にあるとき

実際の距離より手前に距離目安線が表示されます。そのため、上り坂にある障害物は実際より遠くに見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。



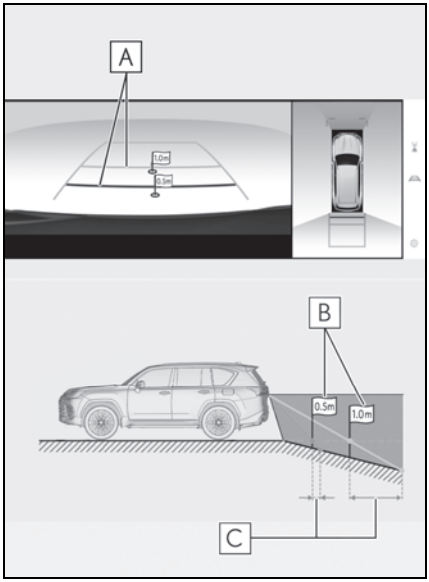
A 距離目安線

B 実際の距離

C 誤差

急な下り坂が後方にあるとき

実際の距離よりうしろに距離目安線が表示されます。そのため、下り坂にある障害物は、実際より近くに見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。



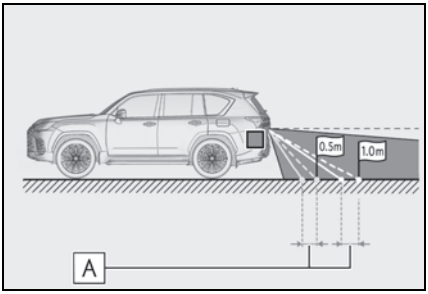
A 距離目安線

B 実際の距離

C 誤差

車が傾いているとき

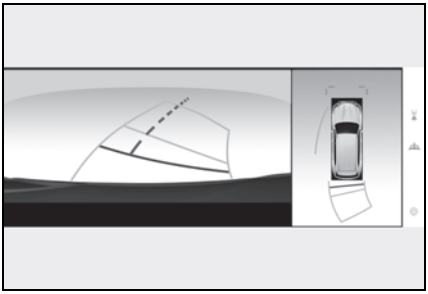
乗車人数、積載量などにより車が傾いているときは、実際の距離、進路と誤差が生じます。



A 誤差

車両中央予想進路線について

リヤバンパー付近の空中にガイド線が描かれているため、車両の中央からずれているように見えることがあります。



画面と実際の立体物との誤差について

画面に表示されるガイド線は路面に対して表示されているため、立体物の位置を判断することができません。張り出しのある立体物（トラックの荷台のような障害物）が近くにあるときは、次のことにご注意ください。

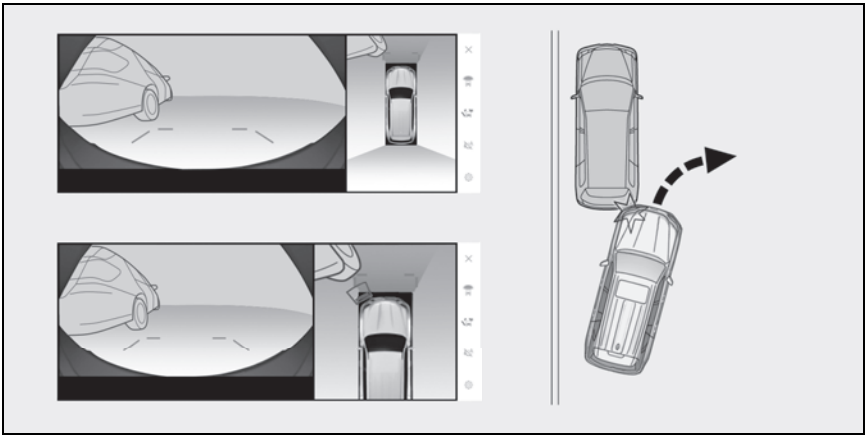
警告

■ **クリアランスソナーの割り込み表示について**

クリアランスソナーの表示が赤色のときは、必ず直接確認して、それ以上進まないでください。車をぶつけるなど、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

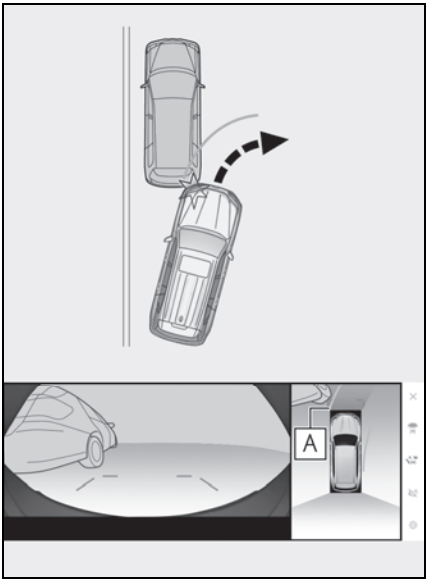
パノラミックビュー（拡大表示を含む）の表示

画面では車両のバンパーとのあいだに余裕があり、ぶつからないように見えても、実際には車両が進路上にあるためぶつかることがあります。周囲の安全を直接確認してください。



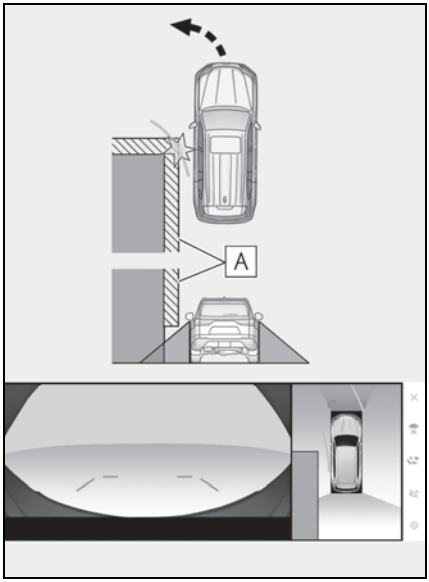
予想進路線について

● 画面では車両のバンパーが予想進路線の外側にあり、ぶつからないように見えても、実際には車両が進路上にあるためぶつかることがあります。周囲の安全を直接確認してください。



A 予想進路線

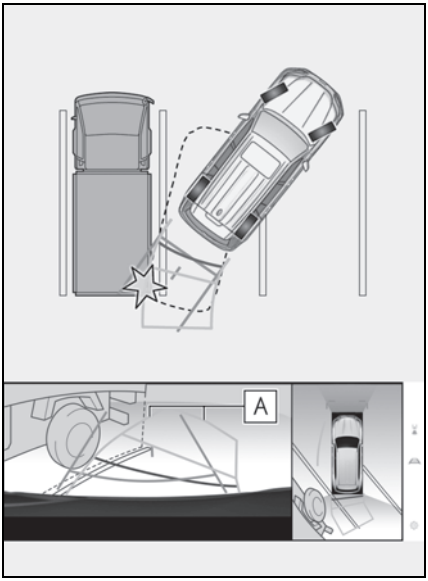
● 高い位置にある立体物（張り出しのある壁やトラックの荷台など）は、画面に映らない場合があります。周囲の安全を直接確認してください。



A 壁の張り出し部分

● 画面では、トラックの荷台が予想進路線の外側にあり、ぶつからないように見えても、実際は荷台が

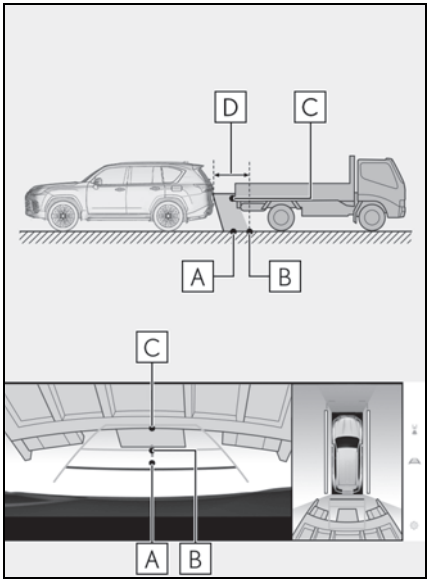
進路上に張り出しているためぶつかることがあります。周囲の安全を直接確認してください。



A 予想進路線

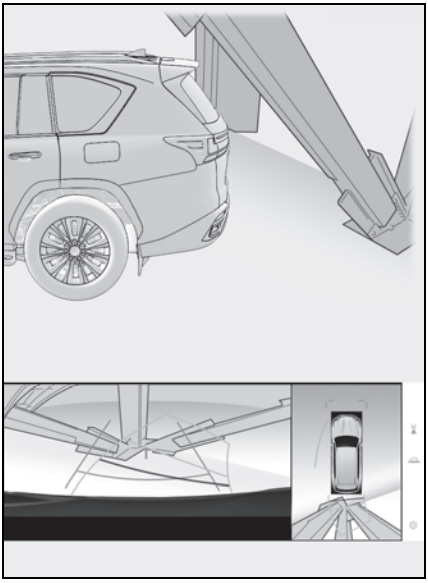
距離目安線について

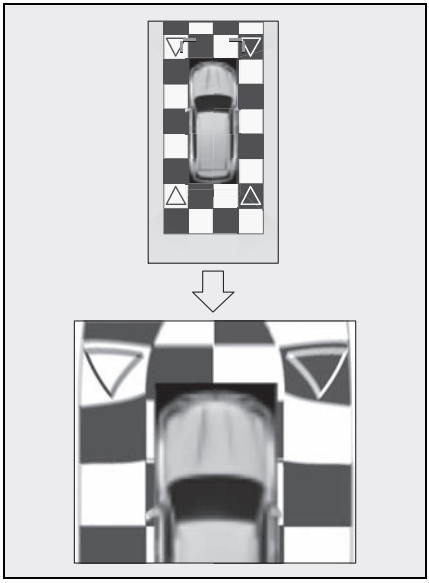
画面では、距離目安線によりB の位置にトラックが駐車してあるように見えますが、実際にはA の位置まで後退すると、ぶつかります。画面ではA ・B ・C の順に近く見えますが、実際の距離はA とC は同じ距離で、B はA とC より遠い距離にあります。後方や周囲の安全を直接確認してください。D の距離は約1m です。



斜めの柱の張り出し部について

パノラミックビューでは倒れた柱がまっすぐでぶつからないように見えても、実際は柱の上部が張り出しているため、ぶつかる可能性があります。後方や周囲の安全を直接確認してください。





拡大機能について

パノラミックビューの拡大機能は、通常のパノラミックビューとは違い、車両アイコンのほうへ映像を縮めています。そのため、路上の白線や壁などが曲がって見える場合があります。

アンダーフロアビューについて

乗車人数・積載量・路面の勾配・路面の状況・周囲の明るさなどにより、タイヤ位置目安線、車両形状目安線と実際の車両位置がずれる場合があります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

知識

■アンダーフロアビューについて

●現在の位置より手前で撮影した過去の映像を表示しているため、次のような場合は、画面と実際の状況が異なることがあります。
・撮影した時点よりあとにものが動く、入り込むなど状況が変化したとき
・砂や雪などが崩れたり動いたりしたとき
・障害物が動いたとき
・表示範囲内に水たまりやぬかるみなどがあるとき
・スリップなどで車両がすべったとき

●次の場合は、車両形状とタイヤ位置目安線・車両形状目安線が異なって表示される場合があります
・タイヤを交換したとき
・オプション装備を取り付けたとき

警告

■ガイド線について

表示されているガイド線は過去に撮影された映像に合成しているため、現在の状況と必ずしも一致しない場合があります。

必ず周囲の安全を確認しながら運転してください。

知っておいていただきたいこと

故障とお考えになる前に

下記のような症状で気になったりお困りになったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

処置をしても直らないときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
画面が見にくい	●夜間など暗いところで使用 ●レンズ付近の温度が高い、または低い ●外気温が低いとき ●カメラに水滴がついた ●雨天時など湿度が高い ●カメラ付近に異物（泥など）がついた ●太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたった ●蛍光灯・ナトリウム灯・水銀灯などの照明下で使用した	車両周囲の状況を直接確認しながら、運転してください。 カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再度マルチテレインモニターをご使用ください。 マルチテレインモニターの画質調整の方法は、ナビゲーション画面の調整と同じです。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

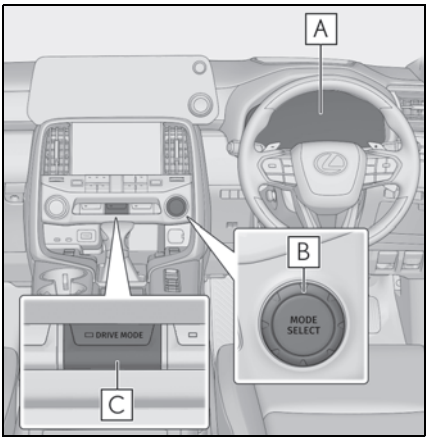
症状	考えられる原因	処置
画面が不鮮明	カメラのレンズに水滴、雪、泥など異物や汚れが付着している	大量の水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってください。 リヤカメラ：カメラ洗浄システムを作動させて、カメラレンズを洗浄してください。（→P.217）
画面がずれている	カメラ部に強い衝撃が与えられた	レクサス販売店で点検を受けてください。
ガイド線が大きくずれる	カメラの位置がずれている	レクサス販売店で点検を受けてください。
	●車が傾いているとき（重い荷物の積載やパンクしてタイヤ空気圧が低いときなど） ●傾斜地で使用するとき	車両周囲の状況を直接確認しながら、運転してください。
ハンドルが直進状態であるにもかかわらず予想進路線が曲がっている（車幅延長線と予想進路線がずれる）	ステアリングセンサーの信号に異常が発生した	レクサス販売店で点検を受けてください。
ガイド線が表示されない	バックドアが開いている	バックドアを閉めてください。 直らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。
パノラミックビューが拡大できない シースルービュー／ムービングビュー、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューが表示されない	クリアランスソナーに異常（汚れ・故障など）が発生した	クリアランスソナー異常時の対処方法に従ってください。（→P.312）

症状	考えられる原因	処置
リヤカメラのウォッシャー液がでない	ウォッシャー液の量が不足している。	ウォッシャー液を補充してください。
	ノズルがつまっている。	レクサス販売店で点検を受けてください。
	ウォッシャー液が凍結している。	ウォッシャー液は外気温に適したものに交換してください。
	バックドアが開いている。	バックドアを閉める。
	長期間作動されていないことにより、洗浄経路ホース内にウォッシャー液が充填されていない。	リヤカメラ洗浄を複数回作動してください。
リヤカメラ映像がクリヤにならない	リヤカメラレンズに汚れ（水滴、泥、雪、融雪剤など）が付着している。	大量の水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってください。
	リヤカメラレンズ面以外に付着した氷、雪、泥などが映像に映りこんでいる。	付着した氷、雪、泥などを取り除いてください。

ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて走行モードを選択できます。

システムの構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ（→P.84）

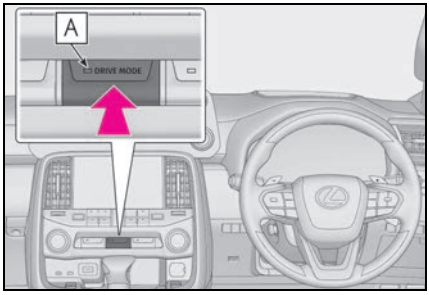
B MODE SELECT スイッチ

C DRIVE MODE スイッチ

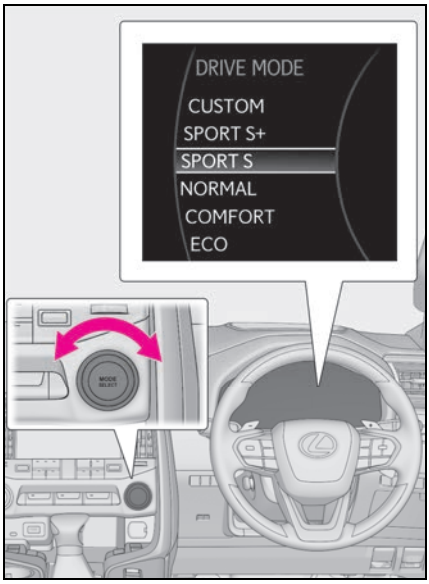
走行モードを選択するには

1 DRIVE MODE スイッチを押す

インジケーターA が点灯します。



2 MODE SELECT スイッチを左右に操作し、マルチインフォメーションディスプレイ表示からドライブモードを選択する



・ ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスがよく、市街地を走行する場合に適しています。

・ コンフォートモード

サスペションを制御することにより、より快適な乗り心地になります。市街地走行に適しています。コンフォートモード表示灯が点灯します。

・ エコドライブモード

スロットル特性をおだやかに設計することで、エコ運転中の運転者のアクセル操作をアシストします。またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費の向上を意識した走行に適しています。エコドライブモード 表示灯が点灯します。

・ スポーツ S モード

トランスミッションとエンジンの制御により、アクセルレスポンスを向上させます。力強い加速をしたいときに適しています。スポーツ S モード表示灯が点灯します。

・ スポーツ S ＋モード

トランスミッションとエンジンに加え、ステアリングやサスペンションを総合的に制御することにより、操縦性・安定性の確保に貢献し、スポーティな走りを楽しみたいときに適しています。スポーツ S+ モード表示灯が点灯します。

・ カスタムモード

パワートレーン制御、ステアリング制御、サスペンション制御、またはエアコン動作の機能をお好みで設定し走行することができます。カスタムモードは、マルチメディア画面で設定します。（→P.583）カスタムモード 表示灯が点灯します。

知識

■ **作動条件**

トランスファースイッチが H4 のとき

■ **エコドライブモード時のエアコン作動について**

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

● エコ空調モードを OFF にする（→P.450）

● 風量を調整する（→P.449）

● エコドライブモードを解除する（→P.398）

■ **走行モードの自動解除**

次のときは、走行モードが解除されノーマルモードにもどります。

▶ スポーツＳモード/スポーツＳ＋モード/カスタムモード選択時

● エンジンスイッチを OFF にし、再度エンジンスイッチを ON にしたとき

● トランスファースイッチを L4 にしたとき

● マルチテレインセレクトを ON にしたとき

▶ エコドライブモード / コンフォートモード選択時

● トランスファースイッチを L4 にしたとき

● マルチテレインセレクトをON にしたとき

■ **カスタマイズ機能**

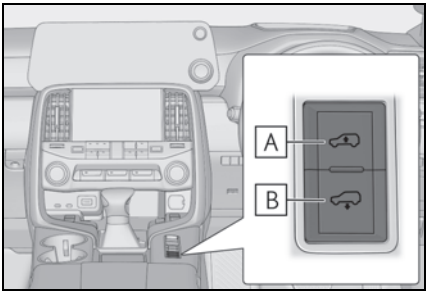
カスタムモードの設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.599）

AHC（アクティブハイトコントロール）

走行・使用状況に合わせて車高モードを選択できます。

システムの構成部品

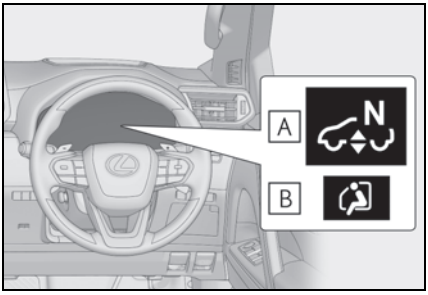
■ 車高切りかえスイッチ



A 車高上昇

B 車高下降

■ メーター表示

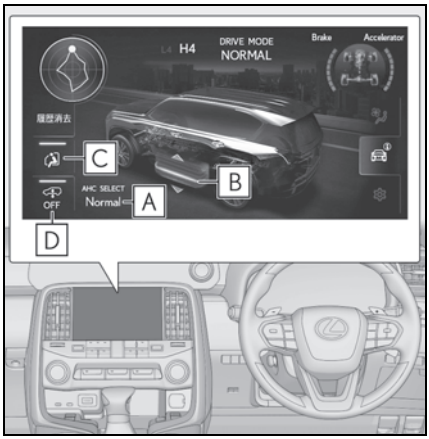


A AHC 表示

停車時は選択した車高モードが表示されます。走行時は現在の車高モードが表示されます

B 乗降モード表示灯

■ フロントマルチオペレーションパネル



A 車高モード

選択した車高モードが表示されます。

B AHC 表示

停車時は選択した車高モードが表示されます。走行時は現在の車高モードが表示されます。

C 乗降モードスイッチ

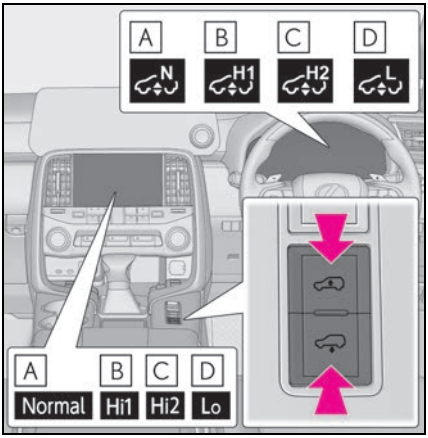
D 車高制御 OFF スイッチ

車高を切りかえるには

車高切りかえスイッチを押す

メーター内の AHC 表示とフロントマルチオペレーションパネルに選択した車高モードが表示されます。

作動中は AHC 表示の一部が点滅し、作動が停止すると点滅から点灯にかわります。



A N（Normal）モード

B H1（Hi1）モード

C H2（Hi2）モード

D L（Lo）モード

車高モード

車高モードは、車高切りかえスイッチを操作することで以下の表のように切りかわります。

現在の車高モード	操作するスイッチ	
H2	H1	H2
H1	N	H2
N	L	H1
L	L	N

■ N モード

標準車高です。一般的な走行に適しています。

■ H1 モード

▶ トランスファースイッチが H4 のとき

未舗装路走行、ダート走行に適しています。

車速が約 100km/h 以下のときに選択できます。N モードとくらべ、車高が約 25mm 高くなります。

▶ トランスファースイッチがL4のとき

極悪路走行に適しています。

車速が約 80km/h 以下のときに選択できます。N モードとくらべ、車高が約 55mm 高くなります。

■ H2 モード

▶ トランスファーレンジが H4 のとき

悪路走行に適しています。

● 車速が約 30km/h 以下のときに選択できます。N モードとくらべ、車高が約 75mm 高くなります。

● 車速が約30～60km/hのときに選択できます。N モードとくらべ、車高が約 55mm 高くなります。

▶ トランスファースイッチがL4のとき

極悪路走行に適しています。

● 車速が約 15km/h 以下のときに選択できます。N モードとくらべ、車高が約 85mm 高くなります。

● 車速が約15～50km/hのときに選択できます。N モードとくらべ、車高が約 75mm 高くなります。

■ L モード

車への乗り降りや、荷物の積み降ろ

しが容易になります。

車速が約 12km/h 以下のときに選択できます。N モードとくらべ、車高が約 25mm 低くなります。

車高モード切りかえ条件

車速により選択できない車高モードがあります。以下の表を参照してモードを切りかえてください。

○：選択可

×：選択不可

▶ トランスファースイッチが H4 のとき

車速	車高モード			
	L	N	H1	H2
約12km/h 以下	○	○	○	○
約12km/h～60km/h	×	○	○	○
約60km/h～100km/h	×	○	○	×
約100km/h 以上	×	○	×	×

▶ トランスファースイッチがL4のとき

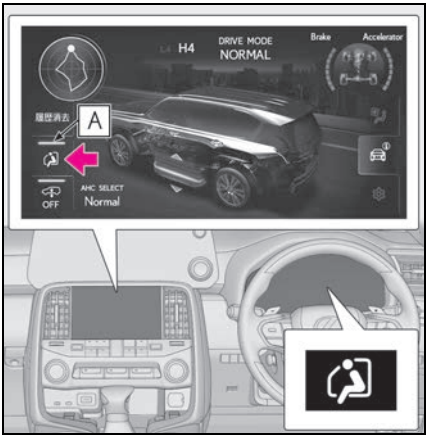
車速	車高モード			
	L	N	H1	H2
約12km/h 以下	○	○	○	○
約12km/h～50km/h	×	○	○	○
約50km/h～80km/h	×	○	○	×
約80km/h 以上	×	○	×	×

乗降モード

車への乗り降りや、荷物の積み降ろしが容易になります。

乗降モードを作動させるには、トランスファースイッチを H4 に切りかえて、フロントマルチオペレーションパネルの乗降モードスイッチを押す

乗降モードが ON のとき、スイッチの作動表示灯 A が点灯し、メーター内の乗降モード表示灯が点灯します。



乗降モードが ON のとき、停車してから約 30 秒以内にエンジンスイッチを OFF にすると、自動的に車高が下がります。

車高が下がり始めるときにブザーが 2 回鳴り、作動中はメーター内の乗降モード表示灯が点灯して車高が下がっていることを知らせます。

作動が停止すると乗降モード表示灯が消灯します。

知識

■乗降モードの作動条件

●次の条件をすべて満たしているときに作動します。
・車高モードが N モードのとき
・車両が平坦な場所に停止しているとき
・シフトレバーが P にあるとき
・停車してからドアまたはバックドアを開けなかったとき

●車高切りかえスイッチの を押したとき、車高の下降が停止し再び上昇します。

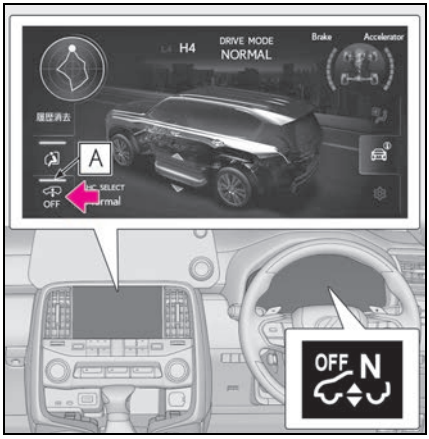
車高制御の停止方法

停車中にフロントマルチオペレーションパネルの車高制御 OFF スイッチを押す

スイッチの作動表示灯 A が点灯し、メーター内の AHC 表示に “OFF” が表示されます。

車高制御 OFF モードのとき、車高切りかえスイッチを押しても車高はかわりません。

車高制御の停止を解除するときは、再度スイッチを押します。



知識

■AHC の作動条件

●エンジンがかかっていること

●車高制御が停止されていない（車高制御 OFF モードでない）こと

●すべてのドア（バックドアを含む）が閉まっていること

■車高制御速度について

車高制御速度は、AHC の作動状況によって異なります。

■エンジン停止中の車高モードの切りかえ

●車高が下降中にエンジンを停止した場合、下降を継続します。

●エンジンスイッチを OFF にしてから約

30 秒間は、人が降りたり荷物を降ろしたりして車高が上がると、オートレベリング機能により車高が下がることがあります。

●エンジン停止中は、車高切りかえスイッチの操作は受け付けません。

■車高モードの自動切りかえ

●次の条件をすべて満たしているときに、車高は自動的に N モードへ移行します。
・トランスファースイッチを H4 に切りかえたとき
・マルチテレインセレクトを OFF にしたとき

●次のいずれかの場合、車高は自動的に H2 モードへ移行します。
・トランスファースイッチを L4 に切りかえたとき
・マルチテレインセレクトを ON にしたとき ※

※ 選択したモードによって車高モードが異なります。

■H1 モードでの車高自動変更

▶トランスファースイッチが H4 のとき

●車速が約 100km/h をこえたとき、車高は自動的に N モードへ移行します。

●車速が約 80km/h 以下になったら、自動的に H1 モードの位置へもどります。

▶トランスファースイッチが L4 のとき

●車速が約 80km/h をこえたとき、車高は自動的に N モードより約 25mm 高い位置まで移行します。

●車速が約 60km/h 以下になったら、自動的に H1 モードの位置へもどります。

■H2 モードでの車高自動変更

▶トランスファースイッチが H4 のとき

●車速が約 30km/h をこえたとき、車高は自動的に N モードより約 55mm 高い位置まで移行します。

●車速が約 60km/h をこえたとき、車高は自動的に H1 モードへ移行します。

●車速が約 100km/h をこえたとき、車高は自動的に N モードへ移行します。

●車速が約 80km/h 以下になったら、自動的に H1 モードの位置へもどります。

●車速が約 40km/h 以下になったら、N モードより約 55mm 高い位置へもどります。

●車速が約 10km/h 以下になったら、自動的に N モードより約 75mm 高い位置へもどります。

▶トランスファースイッチが L4 のとき

●車速が約 15km/h をこえたとき、車高は自動的に N モードより約 75mm 高い位置まで移行します。

●車速が約 50km/h をこえたとき、車高は自動的に H1 モードへ移行します。

●車速が約 80km/h をこえたとき、車高は自動的に N モードより約 25mm 高い位置まで移行します。

●車速が約 60km/h 以下になったら、自動的に H1 モードの位置へもどります。

●車速が約 30km/h 以下になったら、N モードより約 75mm 高い位置へもどります。

●車速が約 5km/h 以下になったら、自動的に N モードより約 85mm 高い位置へもどります。

■L モードでの車高自動変更

車速が約 12km/h をこえたとき、車高は自動的に N モードへ移行します。

■エクストラハイモード

H2 モードでトランスファースイッチが L4 のときに車がスタックすると、自動的にエクストラハイモードへ移行します。車高が H2 モードより約 20mm 高くなります。

●H2 モードにもどる条件
・車速が約 10km/h 以上になる
・トランスファースイッチを H4 に切りかえる

●エクストラハイモードで車高切りかえスイッチ の を押すと、H1 モードへ移行します。

●エクストラハイモードはスイッチ操作による選択はできません。

■車高制御の停止について

●エンジンを停止しても、車高制御の停止状態は記憶されています。

●車高制御 OFF スイッチにより車高制御を停止しても、下記の車速をこえると、停止状態が解除されます。
・H2・L モード：車速約 30km/h 以上
・N・H1 モード：車速約 100km/h 以上

■オートレベリング機能

すべてのモードで乗員数や荷物などの積載条件がかわっても、常に一定の高さになるように車高が自動で制御されます。

■運転中に停車したとき

オートレベリング機能が作動し車高がかわる場合がありますが、異常ではありません。

■車高がかわらないとき

積荷が重すぎる場合、車高を上げることができません。また、車両下部が路面と接触している場合、車高を下げることができません。

●次のいずれかの場合、車両の積荷が重すぎることを示しています。この状態で走行するときは、十分に注意してください。
・N モードで車高が上がらず、マルチインフォメーションディスプレイの AHC 表示に “L” と表示されたとき
・H1 モードで車高が上がらず、マルチインフォメーションディスプレイの AHC 表示に “L” または “N” と表示されたとき
・H2 モードで車高が上がらず、マルチインフォメーションディスプレイの AHC 表示に “L”、“N” または “H1” と表示されたとき

●積荷を降ろしても車高が上がらないときは、車高切りかえスイッチの を押して一度車高を下げたあと、車高切りかえスイッチの を押して車高を上げてください。

■AHC が作動しないとき

●メーター内の AHC 表示が点滅します。

●車高の切りかえをひんぱんに行ったとき

●サスペンションフルードの温度が約－30 ℃以下のとき

●サスペンションに氷が付いているとき

●サスペンションが伸びきるような凹凸の激しい路面を走行しているとき

●センターデフロック作動状態（→P.408）かつトランスファースイッチ（→P.407）が H4 選択時に、ハンドルを約 3/4 回転以上まわしたとき

■寒冷時の取り扱い

●サスペンションフルードの温度が約－15 ℃以下になると、車高の調整に必要な時間が長くなります。

●サスペンションフルードの温度が約－30 ℃以下になると、AHC は作動しません。この場合、車高切りかえスイッチを押しても車高はかわりません。一度しばらく走行し、サスペンションフルードを通常の温度まで上げると、AHC が作動し、自動的に選択したモードの車高に調整されます。

■駐停車について

●オフロード走行後、すぐにエンジンを

停止して駐車する場合、車高が少し下がります。駐車時は、車両が下がった際に車体に接触するものがないか確認してください。なお、車高はエンジンを始動するともとにもどります。

●長期間にわたって駐車する場合、気温の変化により車高がかわる場合があります。長期間駐車するときは、車高がかわった際に車体に接触するものがないか確認してください。なお、車高はエンジンを始動するともとにもどります。

■プロペラシャフトの音

坂道での車高調整や、駐停車中にシフトレバーがPまたはN以外で車高調整した場合、プロペラシャフトの伸縮により作動音が発生することがありますが、異常ではありません。

■AHCが故障したときは

●AHCが故障した場合、Nモードが自動的に選択されます。また、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示され、修理を受けるまでAHCを使用することができません。

●エンジンを停止して、再始動したときに警告が表示されなければ、システムは正常です。警告が表示されたままのときは、ただちにレクサス販売店で修理を受けてください。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.599）

警告

■車高モードの切りかえ時の警告

車高を下げる前に車の下やまわりに人がいないこと、障害物がないことを確認してください。お守りいただかないと、車両に体が挟まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■H2モードについて

このモードはオフロードなど悪路を走行するときのみ使用してください。重心が高くなるため、ハンドル・ブレーキ・アクセルなどを慎重に操作してください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ジャッキアップ時やタイヤチェーンを取り付けるときは

車高制御を停止させてエンジンを停止してください。お守りいただかないと、オートレベリング機能により車高がかわり車両に体が挟まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■渡河走行するときは

車高をH2モードに切りかえてから車高制御を停止させ、30km/h以下で走行してください。お守りいただかないと、オートレベリング機能により車高がかわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■他車にけん引してもらうときは

4輪接地でかつエンジンがかかっている状態で他車にけん引してもらうときは、車高をNモードにしてから車高制御を停止させてください。お守りいただかないと、オートレベリング機能により車高がかわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

■脱輪したときは

車高制御を停止させてください。お守りいただかないと、オートレベリング機能により車高がかわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■高さ制限のある場所に駐車するときは

乗員が降りたときや積荷を降ろしたときは、通常より車高が高めになりますので、高さ制限のある場所では注意してください。

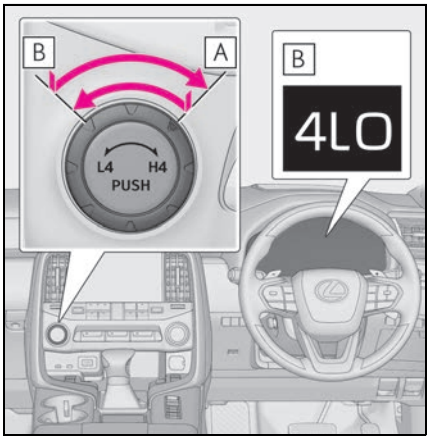
■車高モードの切りかえ時の注意

- L モードにしても、車が発進すると自動的に N モードになるため、高さ制限のある場所では注意してください。
- 凹凸のある路面では、L モードにしないでください。車が路面に接触し、損傷するおそれがあります。
- 凹凸のある路面や水中を走行するとき、またはけん引するときは、乗降モードを ON にしないでください。
- 車高の切りかえをひんぱんに行うと、ポンプが損傷するおそれがあります。車高を連続して切りかえるときは、数秒間待ってから次の切りかえを行ってください。

フルタイム 4WD

トランスファースイッチおよびセンターデフロックスイッチを操作して駆動系の作動状態を切りかえます。

トランスファースイッチ



A H4（ハイレンジ）

一般走行に適しています。通常はこの位置で使用します。

B L4（ローレンジ）

悪路・氷雪路・砂地・泥地など、とくに大きな駆動力を必要とする走行時に適しています。

L4 作動表示灯が点灯します。

トランスファーレンジの切りかえ

■ H4 から L4 へ切りかえ

1 車両を完全に停車させる
2 シフトレバーを N にする
3 トランスファースイッチを押しながら左（L4）へまわす

L4 に切りかわると L4 作動表示灯が点灯します。点灯するまで他の操作をしないでください。

■ L4 から H4 へ切りかえ

1 車両を完全に停車させる
2 シフトレバーを N にする
3 トランスファースイッチを押しながら右 （H4）へまわす

H4 に切りかわると L4 作動表示灯が消灯します。消灯するまで他の操作をしないでください。

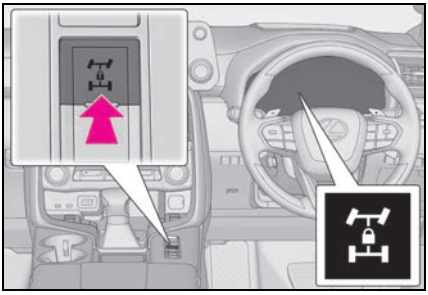
センターデフロックスイッチ

ぬかるみなどでスタック（立ち往生）した場合の脱出時や急な降坂路の走行など、大きな駆動力を必要とする走行時に使用します。

ON ／ OFF を切りかえる

センターデフロック状態になると、センターデフロック作動表示灯が点灯します。

もう一度押すと、センターデフロック状態が解除されます。



知識

■ トランスファースイッチの使用条件

●エンジンスイッチが ON のとき

●シフトレバーが N にあるとき

●車両が完全に停車しているとき

■ L4 作動表示灯について

H4 と L4 の切りかえ作動中は、表示灯が点滅します。

■ すべりやすい路面を走行するときは

●険しいオフロードを走行する場合、トランスファースイッチを L4、シフトレバーを M モードの 2 レンジにすることで、アクティブ TRC のブレーキ制御をより効果的に活用できます。

●スタック（立ち往生）した場合の脱出時や急な降坂路の走行など、最大の駆動力やエンジンブレーキを必要とする場合にはシフトレバーを M モードの 1 レンジにします。

■ センターデフロックスイッチの使用条件

●エンジンスイッチが ON のとき

●車速が約 100km/h 以下のとき

■ センターデフロック作動表示灯について

センターデフの切りかえ作動中は、表示灯が点滅します。

■ センターデフロックについて

●L4 でセンターデフロック状態にした場合、VSC OFF 表示灯が点灯し、VSC は作動しません。

●センターデフロックスイッチを操作後、表示灯が点滅したままのときや、センターデフロックを解除しても表示灯が消灯しないときは、周囲の安全を確認して、加減速または後退をしてください。

●センターデフロック状態での急旋回は避けてください。急旋回した場合、前・後輪の回転差によりブレーキをかけた状態と同じような現象を起こし、運転しにくくなります。

■ フルタイム 4WD の取り扱い

●4WD 車といっても万能車ではありませ

ん。アクセル・ハンドル・ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転を心がけてください。

●スタック（立ち往生）したら、タイヤの下に石や木などをあてがい脱出するか、前進・後退をくり返し慣性を利用して脱出します。また、ぬかるみがひどいときはタイヤチェーンを利用するのも効果的です。

●急坂路を登るときは、登る前にあらかじめ路面の状態を確かめ、凹凸の少ないところを選びます。登りはじめと終わりはなだらかな斜面を選びます。

●急坂路を降りるときは、降りる前にあらかじめ路面の状態を確かめ、斜度にあった変速ギヤを選びます。降りる途中での変速は避けてください。

■L4 作動表示灯またはセンターデフロック作動表示灯が点滅したときは

●トランスファーレンジ切りかえ時に L4 作動表示灯が点滅し続けたときは、車両を完全に停車しシフトレバーが N に入っていることを確認してから、もう一度トランスファースイッチを操作し直してください。

●トランスファースイッチを操作した際、L4 作動表示灯が点灯または消灯する前にシフトレバーを操作すると、トランスファーの切りかえが完了せず、シフトポジションに関係なく駆動軸が拘束されません。（表示灯が点滅し、ブザーが鳴ります）

この場合、シフトレバーを P に入れても車両が動くおそれがあり危険です。必ず、トランスファーの切りかえを完了させてください。

切りかえを完了させるためには、車両を完全に停車しシフトレバーを N にして、切りかえが完了したこと（表示灯が点灯または消灯したこと）を確認してください。

●エンジンが極端に冷えているときは、トランスファーレンジが切りかわらないことがあります。エンジンが暖まってから、もう一度トランスファースイッチを操作してください。

以上を実施しても、L4 作動表示灯またはセンターデフロック作動表示灯が点滅し続けたときは、エンジン・ブレーキ系統もしくはトランスファーの異常のおそれがあります。この場合、トランスファーレンジやセンターデフの切りかえはできません。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■渡河について

●4WD 車といえども水中走行に対しては万全ではありません。やむを得ず渡河する場合は次の事項を厳守してください。
・水中走行する前にあらかじめ河川の深さ・地形などを確かめてください
・河川進入時は最徐行（5km/h 以下）してください
・河川に対し、直角または下流方向へ横断してください
・渡河途中での変速操作は避け、一気に渡りきってください

●渡河など水中走行したときは、次の項目を必ず点検し、メンテナンスを行ってください。
・ブレーキの効き具合
・エンジン・トランスミッション・トランスファー・ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化（白濁している場合、水が混入していますのでオイルの交換が必要です）
・プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

警告

■トランスファーレンジを L4 で走行するときは（プラスサポート装着車）

プラスサポートを使用しないでください。プラスサポートの急アクセル時加速抑制が作動した場合、駆動が制限され思わぬ事故につながるおそれがあります。

■走行中の警告

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 脱輪などにより、いずれかの車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください
- 車両旋回中や車輪空転中は、トランスファースイッチ操作およびセンターデフロックスイッチ操作を行わないでください
- タイヤが空転中に急激なブレーキ操作をしないでください

注意

■センターディファレンシャルの損傷を防ぐために

乾燥した舗装路面では、必ずセンターデフロック状態を解除して走行してください。また、高速道路ではトランスファースイッチを H4 で走行してください。

フロントデフロック★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントデフロックは、すべりやすい路面や凹凸のある路面でタイヤが空転するときにのみ使用する緊急脱出用の装置です。特に前輪が空転しているときに効果を発揮します。

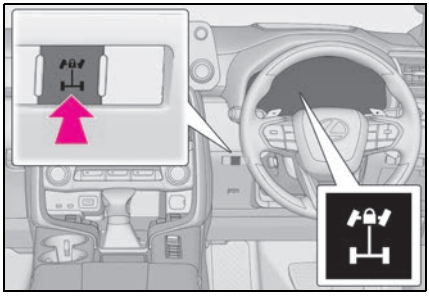
フロントデフロックスイッチ

ON ／ OFF を切りかえる

スイッチを押すと、フロントデフロック作動表示灯・デフロック表示内の表示灯が数秒間点滅し、フロントデフロックが完了すると表示灯が点灯にかわります。

表示灯が点灯したら、システムが使用できます。

もう一度押すと、フロントデフロック状態が解除され、表示灯が消灯します。



知識

■フロントデフロックを使用するときは

フロントデフロックを使用する前に、まず、脱出できそうな場合は、センターデフロック状態で、トランスファースイッチを L4 に切りかえて脱出を試みてください。それでも脱出できない場合は、フロントデフロックを使用してください。

●タイヤが止まっていることを確認してからロックしてください。

●脱出できたら、ただちにフロントデフロック状態を解除してください。

■フロントデフロックの解除について

フロントデフロックを解除しても作動表示灯が点滅し続ける場合は、車両が動いているときに、周囲の安全を確認の上、ハンドルを左右にまわすと、フロントデフロック状態が解除されます。

■フロントデフロック状態自動解除機能

次のいずれかの操作をすると、フロントデフロック状態が解除されます。

●トランスファースイッチを H4 に切りかえる

●センターデフロック状態を解除する

■フロントデフロック使用後は

フロントデフロック作動表示灯・デフロック表示内の表示灯が消灯したことを確認してください。

■フロントデフロック作動表示灯・デフロック表示内の表示灯について

●フロントデフの切りかえ作動中は表示灯が点滅します。

●フロントデフロックへ切りかえたときに、表示灯が点滅し続けた場合は、車両が動いているときに、周囲の安全を確認の上、ハンドルを左右にまわしてください。

以上を実施しても、表示灯が点滅し続けたときは、4WD システムに異常があるおそれがあります。この場合、フロントデフロックの切りかえはできません。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■フロントデフロック状態のときは

フロントデフロック状態のときは、次のシステムが使用できません。

●マルチテレイン ABS

●ブレーキアシスト

●VSC

●ダウンヒルアシストコントロールシステム

●ターンアシスト機能

●アクティブ TRC※

※ フロントデフロック／リヤデフロック状態のとき

警告

■フロントデフロックを使用するにあたって

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●一般走行中に使用しない

・ フロントデフロックを使用すると、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

・ 直進性が非常に強くなるため、舗装路では非常に曲がりにくくなります。

・ 雪や氷の路面では安定した旋回ができなくなります。

・ 片側のタイヤのみがすべりやすい路面にある場合、減速時や加速時に車両の向きが急にかわりやすくなります。

●空転が止まるまで使用しない

●フロントデフロック状態では、車速約 8km/h 以上で走行しない

●フロントデフロックの使用後はすぐにスイッチを OFF にし、フロントデフロック状態のまま走行しない

リヤデフロック★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤデフロックは、すべりやすい路面や凹凸のある路面でタイヤが空転するときにのみ使用する緊急脱出用の装置です。特に後輪が空転しているときに効果を発揮します。

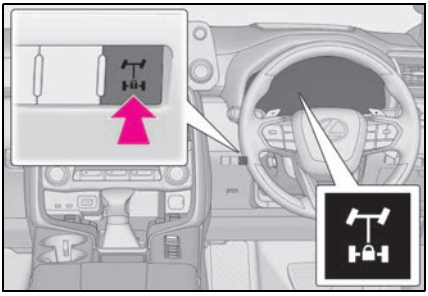
リヤデフロックスイッチ

ON ／ OFF を切りかえる

スイッチを押すと、リヤデフロック作動表示灯・デフロック表示内の表示灯が数秒間点滅し、リヤデフロックが完了すると表示灯が点灯にかわります。

表示灯が点灯したら、システムが使用できます。

もう一度押すと、リヤデフロック状態が解除され、表示灯が消灯します。



知識

■リヤデフロックを使用するときは

リヤデフロックを使用する前に、まず、脱出できそうな場合は、センターデフロック状態で、トランスファースイッチを L4 に切りかえて脱出を試みてください。それでも脱出できない場合は、リヤデフロックを使用してください。

●タイヤが止まっていることを確認してからロックしてください。

●脱出できたら、ただちにリヤデフロック状態を解除してください。

■リヤデフロックの解除について

リヤデフロックを解除しても作動表示灯が点滅し続ける場合は、車両が動いているときに、周囲の安全を確認の上、ハンドルを左右にまわすと、リヤデフロック状態が解除されます。

■リヤデフロック状態自動解除機能

次のいずれかの操作をすると、リヤデフロック状態が解除されます。

●トランスファースイッチを H4 に切りかえる

●センターデフロック状態を解除する

■リヤデフロック使用後は

リヤデフロック作動表示灯・デフロック表示内の表示灯が消灯したことを確認してください。

■リヤデフロック作動表示灯・デフロック表示内の表示灯について

●リヤデフの切りかえ作動中は表示灯が点滅します。

●リヤデフロックへ切りかえたときに、表示灯が点滅し続けた場合は、車両が動いているときに、周囲の安全を確認の上、ハンドルを左右にまわしてください。

以上を実施しても、表示灯が点滅し続けたときは、4WD システムに異常があるおそれがあります。この場合、リヤデフロックの切りかえはできません。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■リヤデフロック状態のときは

リヤデフロック状態のときは、次のシステムが使用できません。

●マルチテレイン ABS

●ブレーキアシスト

●VSC

●ダウンヒルアシストコントロールシステム

●ターンアシスト機能

●アクティブ TRC※

※ フロントデフロック／リヤデフロック状態のとき

警告

■リヤデフロックを使用するにあたって

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●一般走行中に使用しない

・ 直進性が非常に強くなるため、舗装路では非常に曲がりにくくなります。

・ 雪や氷の路面では安定した旋回ができなくなります。

・ 片側のタイヤのみがすべりやすい路面にある場合、減速時や加速時に車両の向きが急にかわりやすくなります。

●空転が止まるまで使用しない

●リヤデフロック状態では、車速約 8km/h 以上で走行しない

●リヤデフロックの使用後はすぐにスイッチを OFF にし、リヤデフロック状態のまま走行しない

クロールコントロール（ターンアシスト機能付き）

アクセルペダルやブレーキペダルを踏まなくても、凹凸の大きなオフロードを一定の低速度で走行でき、すべりやすい路面でのスリップや車輪の空転を最小限に抑え、安定して走行できます。

警告

■クロールコントロール（ターンアシスト機能付き）をお使いになる前に

クロールコントロール（ターンアシスト機能付き）を過信しないでください。車両の限界性能を高めるものではないので、常に路面状況をよく確認した上で、安全運転に心がけてください。

■クロールコントロール（ターンアシスト機能付き）を使用するときは（プラスサポート装着車）

プラスサポートを使用しないでください。プラスサポートの急アクセル時加速抑制が作動した場合、駆動が制限され思わぬ事故につながるおそれがあります。

■正しく作動しないおそれのある状況

次の路面を走行する場合、車両の一定速度を維持できないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●極端な急勾配

●凹凸の激しい路面

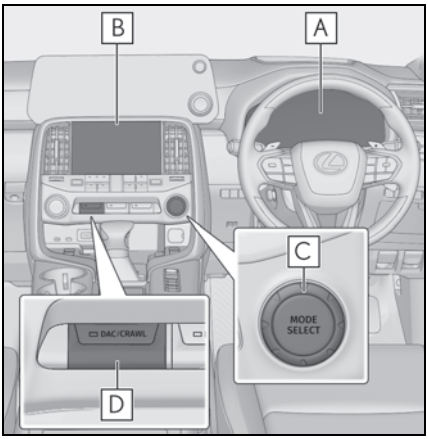
●積雪路などのすべりやすい路面

注意

■ターンアシスト機能をお使いになる前に

ターンアシスト機能は、オフロード路面での回頭性を向上させる機能です。舗装された路面では制御の効果が十分発揮できない場合があります。

システムの構成部品



A メーター（→P.72, 84）

B フロントマルチオペレーションパネル（→P.440）

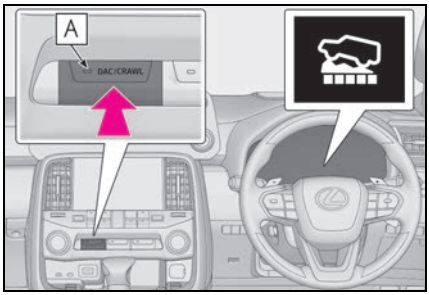
C MODE SELECT スイッチ

D DAC/CRAWL スイッチ

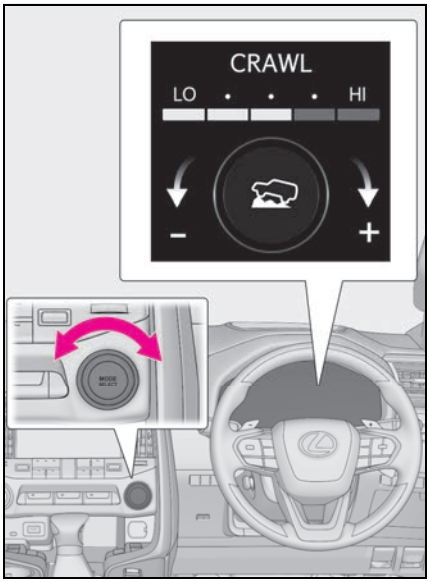
クロールコントロールを作動させるには

1 DAC/CRAWL スイッチを押す

スイッチ上のインジケーターA とメーター内のクロールコントロール作動表示灯が点灯し、スリップ表示灯が点滅します。

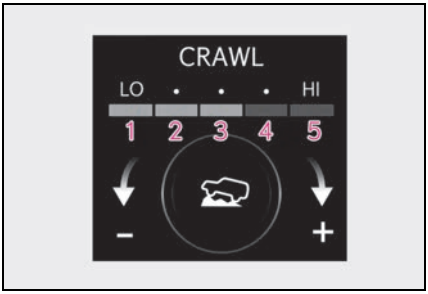


2 MODE SELECT スイッチを左右に操作し、メーター表示からモードを選択する



選択可能なモード

次の 5 つのモードから路面状況に合わせてモードを選択することができます。



1 LO

岩石路や下り坂を走行するときなどに適しています。

2 Lo - Mid

岩石路・下り坂・モーグル路の登り坂を走行するときなどに適しています。

3 Mid

モーグル路の登り坂を走行するときなどに適しています。

4 Mid - Hi

モーグル路の登り坂・ガレキ路の登り坂、雪・泥・ぬかるみ・砂利・草地などの上を走行するときなどに適しています。

5 Hi

モーグル路の登り坂・ガレキ路の登り坂、雪・泥・ぬかるみ・砂利・草地などの上を走行するときなどに適しています。

クロールコントロールを解除するときは

▶ DAC/CRAWL スイッチのインジケーター点灯時

DAC/CRAWL スイッチをもう一度押す

▶ DAC/CRAWL スイッチのインジケーター消灯時

DAC/CRAWL スイッチを押してインジケーターを点灯している状態にします。

点灯している状態で DAC/CRAWL スイッチをもう一度押す

クロールコントロールが解除されると、クロールコントロール作動表示灯、スリップ表示灯とターンアシスト表示灯（ターンアシスト機能使用時のみ）が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイにクロールコントロールが解除されたことを示すメッセージが数秒間表示されます。

走行中にクロールコントロールを解除するときは、とくに慎重に運転してください。

知識

■クロールコントロールの作動条件

●エンジンがかかっているとき

●シフトレバーが P・N 以外にあるとき

●トランスファースイッチが L4 にあるとき

●運転席ドアが閉まっているとき

■クロールコントロールの自動解除

次のいずれかのときに、ブザーが継続的に鳴り、クロールコントロール表示灯が点滅後、消灯し、マルチインフォメーションディスプレイにクロールコントロールが解除されたことを示すメッセージが数秒間表示され、クロールコントロールが解除されます。また、ターンアシスト機能が ON のときは、ターンアシスト表示灯が消灯後、同時に解除されます。

●シフトレバーを P または N にしたとき

●トランスファースイッチを H4 にしたとき

●運転席ドアを開けたとき

■クロールコントロールの機能制限

●次の場合は、下り坂を一定の速度で降りるようなブレーキ制御はできますが、

上り坂を一定の速度で登るエンジン制御はできません。
・車速が約 10km/h をこえたとき

●次の場合は、エンジン制御・ブレーキ制御とも一時的に機能を停止します。この場合、クロールコントロール表示灯が点滅します。
・リヤデフロック★状態：車速が約 10km/h をこえたとき
・リヤデフロック★が解除状態：車速が約 25km/h をこえたとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■長時間の使用について

●クロールコントロールを長時間連続的に使用すると、ブレーキシステムが異常過熱することがあります。このときは、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに異常を知らせるメッセージが表示され、クロールコントロール表示灯が点滅した後消灯します。一時的にクロールコントロールが作動しなくなりますので、速やかに安全な場所に停車して、表示が消えるまでブレーキシステムを十分に冷却してください。また、この間の通常走行は可能です。

●クロールコントロールを長時間連続的に使用すると、オートマチックトランスミッションが異常過熱することがあります。このときは、ブザーが鳴り、クロールコントロールが自動的に解除されます。また、マルチインフォメーションディスプレイに異常を知らせるメッセージが表示されることがあります。この場合は、表示が消えるまで、安全な場所に停車してください。

■作動音や振動について

●エンジン始動時や発進直後に、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●クロールコントロールが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる

■システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯します。
（→P.542, 547）

ターンアシスト機能

切り返し操作なしでは通過困難なタイトコーナーを走行するときに、一定の低速度を維持しながら、運転者のハンドル操作に応じて回頭性を向上させる制御を実施し、切り返し操作回数を低減します。

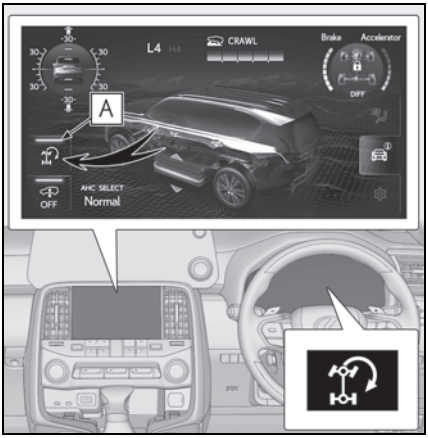
ターンアシスト機能を作動させるには

1 クロールコントロール作動中にフロントマルチオペレーションパネルの を選択して、オフロード走行情報画面を表示させる
（→P.440）

2 ターンアシストスイッチを押す

スイッチ上のインジケーター A とメーター内のターンアシスト表示灯が点灯します。

OFF にするには再度スイッチを押します。



ターンアシスト機能を解除するときは

1 ターンアシスト機能作動中にフロントマルチオペレーションパネルの を選択して、オフロード走行情報画面を表示させる。(→P.440)

2 ターンアシストスイッチを押す

ターンアシストスイッチ上のインジケーターとターンアシスト表示灯が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイにターンアシスト機能が解除されたことを示すメッセージが数秒間表示されます。

知識

■ターンアシスト機能の作動条件

●車速が約 10km/h 以下のとき

●クロールコントロールが作動しているとき

●フロントデフ★・リヤデフ★をロックしていないとき

●ブレーキ操作をしていないとき

●シフトレバーが P・R・N 以外にあるとき

●ハンドル操作角度が大きいとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ターンアシスト機能の自動解除

フロントデフ★・リヤデフ★をロックしたとき、ブザーが断続的に鳴り、ターンアシスト機能が自動的に解除されます。この場合、ターンアシスト表示灯が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイにターンアシスト機能が解除されたことを示すメッセージが数秒間表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ターンアシスト機能の機能制限

次の場合は、ターンアシスト機能を一時的に停止します。この場合、ターンアシスト表示灯が点滅します。

●車速が約 10km/h をこえたとき

●シフトレバーを R にしたとき

■バッテリーをはずしたとき

ターンアシスト表示灯が点滅します。システムを初期化する必要がありますので、約 35km/h 以上の車速でしばらく直進走行することで初期化できます。初期化操作を行ってもターンアシスト表示灯が点滅している場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

マルチテレインセレクト

マルチテレインセレクトは、オフロードでの走破性を向上させるシステムです。

あらかじめ用意されたモードの中から、走行する路面状況に適したモードを選択することで、各状況に合わせてブレーキ制御、駆動力制御やサスペンション制御が最適化されます。
AUTO モードを選択すると、路面状況に合わせて自動で最適化されます。

警告

■マルチテレインセレクトを使用するときは

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です

●選択したモードの表示灯が点灯していることを確認してから走行してください。各表示灯が消灯している状態ではマルチテレインセレクトの制御が作動しません。

●「走行モードの切りかえ」に記載している路面状況は、あくまで参考情報です。路面状況（勾配・路面の摩擦係数・起伏）によっては、十分な効果を発揮できない場合があります。路面状況をよくご確認の上、走行してください。

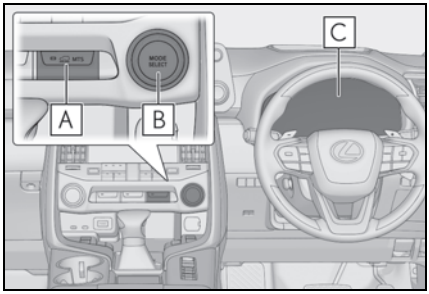
●マルチテレインセレクトは車両の性能限界を高める装置ではありません。路面状況や走行ルートをあらかじめよく確認した上で、安全に注意して走行してください。

注意

■使用上の注意

マルチテレインセレクトは、オフロード走行時のみ使用してください。

システムの構成部品



A MTS スイッチ

B MODE SELECT スイッチ

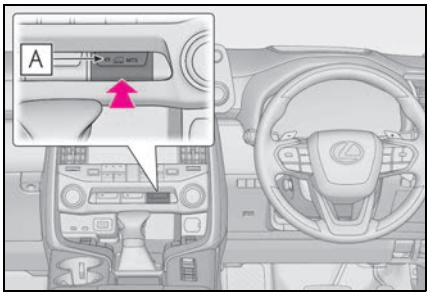
C マルチインフォメーションディスプレイ

選択しているモードが表示されます。

走行モードの切りかえ

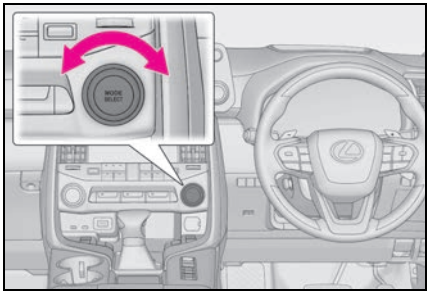
1 MTS スイッチを押す

スイッチの作動表示灯 A が点灯します。



2 MODE SELECT スイッチを右または左に操作し、走行モードを選択する

トランスファーレンジの状態により、次のモードを選択することができます。



▶ トランスファーレンジが L4 のとき

モード		路面状況
	AUTO	路面状況に適した制御状態になります。
	SAND	砂地路の走行に適しています。
	MUD	泥濘路の走行に適しています。
	ROCK	岩石路の走行に適しています。

ブレーキ制御が作動すると、スリップ表示灯が点滅します。

▶ トランスファーレンジが H4 のとき

モード		路面状況
	AUTO	路面状況に適した制御状態になります。
	DIRT	未舗装路の走行に適しています。
	SAND	砂地路の走行に適しています。
	MUD	泥濘路の走行に適しています。
	DEEP SNOW	深雪路の走行に適しています。

ブレーキ制御が作動すると、スリップ表示灯が点滅します。
「SAND」・「MUD」・「DEEP SNOW」選択時は、VSC OFF 表示灯が点灯します。

知識

■マルチテレインセレクトについて

マルチテレインセレクトはオフロードでの走破性を高めるため、駆動力を最大限に利用できるように車両を制御します。そのため、マルチテレインセレクトが作動していない状態にくらべて、十分な燃費性能が発揮できない場合があります。

■機能の自動解除

次のいずれかの場合、マルチテレインセレクトが自動的に解除されます。

●トランスファーレンジが H4 のときに DRIVE MODE スイッチを操作したとき

●エンジンスイッチを OFF にしたとき

■AUTO モードについて

走行する路面状況を推定しブレーキ制御、駆動力やサスペンション制御を最適化しています。
走行状況の推定には限界があるため、路面状況をよくご確認の上、走行してください。路面状況（勾配・路面の摩擦係数・起伏）や走行方法によっては、十分な効果を発揮できない場合があります。その際は、路面状況に応じて各モードを選択し走行してください。

■マルチテレインセレクトの作動を停止するときは

次の操作を行うとマルチテレインセレクトの作動が停止し、マルチインフォメーションディスプレイの表示が消えます。

▶ MTS スイッチのインジケーター点灯時

MTS スイッチをもう一度押す

▶ MTS スイッチのインジケーター消灯時

MTS スイッチを押してインジケーターが点灯している状態にします。点灯している状態で再度 MTS スイッチを押す

■スタックしたときは

トランスファースイッチと 4WD システムを切りかえてください。
切りかえについては、次のページを参照してください。

●フルタイム 4WD（→P.407）

●センターデフロック（→P.408）

●フロントデフロック★（→P.410）

●リヤデフロック★（→P.412）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■マルチテレインセレクトの各モードで走行中は

次のようなことが起こる場合がありますが、異常ではありません。

●車体やハンドルに振動を感じる

●エンジンルーム内から作動音が聞こえる

■レクサス販売店で点検が必要なとき

次の場合は、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

●スリップ表示灯が点灯している

●MTS スイッチを操作しても、マルチインフォメーションディスプレイに表示灯が表示されない

ダウンヒルアシストコントロールシステム

急な下り坂を一定の低速度で走行することができます。

システムはトランスファースイッチが H4 で、ブレーキペダルとアクセルペダルを操作しておらず、かつ車速が 30km/h 以下のときに使用できます。

警告

■**ダウンヒルアシストコントロールシステムを使うときは**

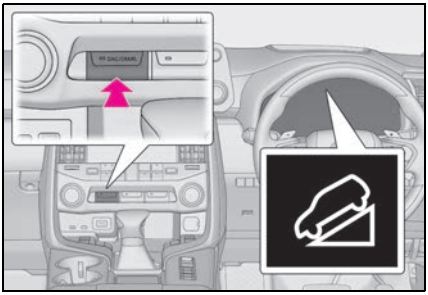
ダウンヒルアシストコントロールシステムを過信しないでください。車両性能の限界を高めるためのものではないので、常に路面状況をよく確認した上で、安全運転を心がけてください。

ダウンヒルアシストコントロールシステムを使用するときは

DAC/CRAWL スイッチを押す

ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯すれば作動可能状態です。

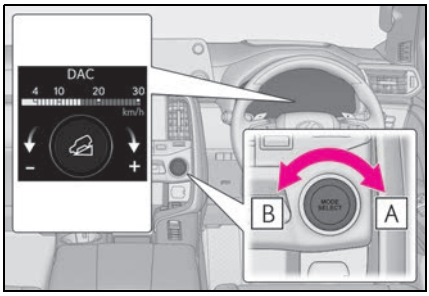
システムが作動しているときはスリップ表示灯が点滅します。このとき制動灯とハイマウントストップランプが点灯します。また、作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。



ダウンヒルアシストコントロールシステムの速度を設定する

希望の速度（約 4 ～ 30km/h）に設定するには、MODE SELECT スイッチをまわします。

設定速度はマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



A 速度を上げる

B 速度を下げる

ダウンヒルアシストコントロールシステムの解除

▶ DAC/CRAWL スイッチのインジケーター点灯時

DAC/CRAWL スイッチをもう一度押す

▶ DAC/CRAWL スイッチのインジケーター消灯時

DAC/CRAWL スイッチを押してインジケーターを点灯している状態にします。

点灯している状態で DAC/CRAWL スイッチをもう一度押す

ダウンヒルアシストコントロールシステムは徐々に作動を解除します。解除中はダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、解除されると消灯し

ます。

表示灯が点滅している最中はシステムは作動しません。システムを作動させたいときは、もう一度スイッチを押します。

知識

■ダウンヒルアシストコントロールシステムを使用するときは

ダウンヒルアシストコントロールシステムはシフトレバーがP以外のときに作動しますが、システムの効果を十分に発揮するために、前進時はMモードの1または2レンジにすることをおすすめします。

■ダウンヒルアシストコントロールシステムが使用できないとき

フロントデフロック★・リヤデフロック★を使用しているとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅したとき

●次の場合は、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、システムが作動しません。
・トランスファースイッチをH4以外に変更したとき
・シフトレバーがPにあるとき
・車速が約30km/hをこえたとき
・ブレーキシステムが異常過熱したとき

●次の場合は、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅しますが、システムは作動します。
・シフトレバーがNにあるとき
・DAC/CRAWLスイッチのインジケーター点灯時にDAC/CRAWLスイッチを押したとき

ダウンヒルアシストコントロールシステムは徐々に作動を解除します。解除中はダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、解除されると消灯します。

■長時間の使用について

ダウンヒルアシストコントロールシステムが長時間作動すると、ブレーキシステムが異常過熱するおそれがあるため、ブザーが鳴り機能が一時的に停止されます。この場合、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、マルチインフォメーション内に“TRC Offしました”が表示されます。（通常走行は可能です）

しばらくして、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯にかわり、“TRC Offしました”の表示が消えればシステムが使用可能となります。

■作動音や振動について

●エンジン始動時や発進直後に、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●ダウンヒルアシストコントロールシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる

■システムに異常があるときは

次の場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

●DAC/CRAWLスイッチを押しても、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯しない

●スリップ表示灯が点灯する

警告

■正しく作動しないおそれのある状況

次の路面を走行する場合、特に、タイヤのグリップ性能の限界をこえるときや、タイヤが十分に接地していないときは、車両を一定の低速度に維持できないことがあり、乗員が重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 泥、砂利の道路などのすべりやすい路面
- 凍結路
- 凹凸が大きな荒れた路面

プラスサポート（販売店装着オプション）

プラスサポートは、お客様の運転を補助し、より安全なドライブを支援します。プラスサポートを使用するためには、プラスサポート用スマートキー（以下、サポキー）が必要です。プラスサポートおよびサポキーは販売店装着オプションです。

プラスサポートでできること

プラスサポートを使用すると、機能の追加や、音声案内シーンの追加でより安心なドライブを支援します。また、通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定が可能です。

■ 機能の追加

- 急アクセル時加速抑制
- 交差点対向車注意喚起

■ 音声案内シーンの追加（進入禁止区間に進入した場合など）

対象機能：

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- RSA（ロードサインアシスト）
- 急アクセル時加速抑制
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）

■ 通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定

対象機能：

- PCS（プリクラッシュセーフティ）

- LDA（レーンディパーチャーアラート）
- RSA（ロードサインアシスト）
- BSM（ブラインドスポットモニター）
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
- RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）
- 安心降車アシスト
- クリアランスソナー

知識

■カスタマイズ初期値の変更

カスタマイズ設定から、各システムの設定を変更することができます。

サポキーで起動した場合、通常の電子キーとは異なる設定でシステムが作動します。

サポキーで起動後に変更した設定はサポキーにのみ記憶されます。通常キーには記憶されません。

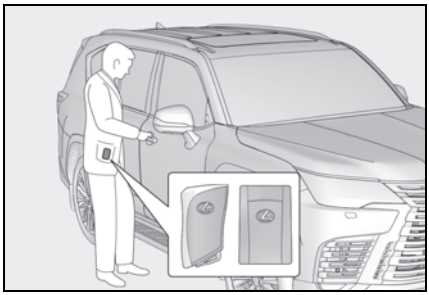
より安全に運転いただくため、通常の電子キーでは設定の変更ができた音声案内など、一部の項目が作動状態に固定されます。

プラスサポートを使用するには

■ プラスサポートを始動するには

1 サポキーを携帯していることを確認して、ドアを解錠する（→P.98, 103）

エンジンスイッチが OFF 以外の状態でドアが施錠されているときは、サポキーでドアを解錠しても、プラスサポートは作動可能になりません。

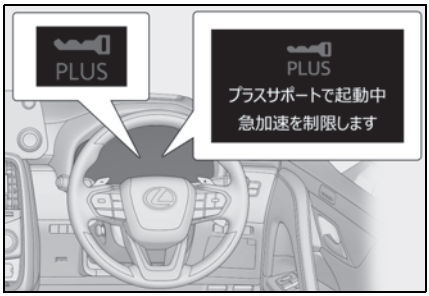


2 通常の手順でエンジンを始動する（→P.188）

3 “プラスサポートで起動中　急加速を制限します” というメッセージが表示され、プラスサポート表示灯が点灯したことを確認する

エンジンスイッチを OFF にするまで、プラスサポートが作動可能な状態になります。

エンジンの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。



4 メーター操作スイッチの を押してメッセージを非表示にする

メッセージ表示後約 30 秒経過するまで、またはスイッチ操作によりメッセージを

非表示とするまで、“プラスサポートで起動中 急加速を制限します” のメッセージは表示されたままになります。

■ プラスサポートが不要なときは

標準装備の電子キーを携帯してドアを解錠し、エンジンを始動してください。プラスサポートが非作動になり、標準車と同様の制御になります。

警告

■プラスサポートを正しく使用するために

●必ずサポキーを携帯していることを確認してください。標準装備の電子キーを携帯しているときは、プラスサポートが始動しません。

●サポキーと標準装備の電子キーを同時に携帯しないでください。プラスサポートが始動しない場合があります。

●エンジンの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください（→P.75）。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。

■プラスサポートを使用するときは

次のシステムを使用しないでください。

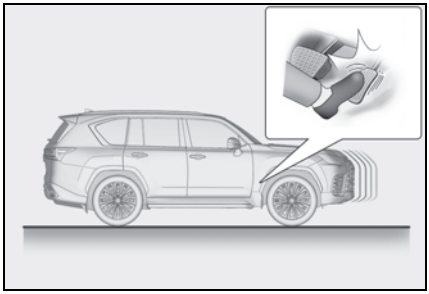
急アクセル時加速抑制が作動した場合、駆動力が制限され思わぬ事故につながるおそれがあります。

●4WD システムの L4

●クロールコントロール

急アクセル時加速抑制について

低速走行（約 30km/h 以下）中に、ペダルの踏み間違いなどでアクセルペダルが速く強く踏み込まれたとシステムが判断したとき、エンジンの出力を抑制することで、車両が急加速しないように制御します。



警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。

●急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制後も車両は惰性で動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。

警告

- 急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにもエンジンの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。
- お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動すると、エンジンの出力を抑制します。すみやかにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだままでいると、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■右左折・車線変更するとき

必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、急アクセル時加速抑制によりエンジンの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動したときは、ブザーや音声発話でお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

メッセージが表示されたときは、すみやかにアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

知識

■急アクセル時加速抑制の作動条件

プラスサポートが始動したあと、次の条件をすべて満たした場合、急アクセル時加速抑制が作動します。

- シフトポジションが P・N 以外のとき
- 車速が約 30km/h 以下のとき
- アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき）

次の条件のいずれかを満たした場合、エンジンの出力抑制量を少なくし、前進時は約 30km/h、後退時は約 12km/h※ までゆるやかに加速します。

- 加速抑制作動中にアクセルペダルを約 5 秒間踏み続けたとき
- 加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります

■急アクセル時加速抑制が作動しないとき

次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急アクセル時加速抑制が作動しません。アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。

- 方向指示灯の点滅中、または消灯した

あと約 2 秒間（前進時）

●ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと約 2 秒間（前進時）

●急な上り坂に自車がいるとき

■**システムが正常に作動しないおそれのある状況**

次のような状況ではシステムが正常に作動しない場合があります。

●車両姿勢の変化
・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響
・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
・坂道の出口など車両姿勢が急激に変化したとき
・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

■**加速したい場面でシステムが作動するおそれのある状況**

次のような状況では踏み間違いでなくてもシステムが作動する場合があります。アクセルを離してゆっくり踏み直してください。

●車両姿勢の変化
・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響
・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
・坂道の入り口など車両姿勢が急激に変化したとき
・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

●運転操作の影響
・車線変更や右折などで方向指示灯を点滅させずに急いで加速しようとしたとき
・惰性走行から急いで加速しようとしたとき
・ETC ゲート通過後に急加速したとき
・ブレーキホールドによるブレーキ保持中に急発進しようとしたとき

交差点対向車注意喚起について

交差点で接近してくる対向車がいるときに右折しようとする場合、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点対向車注意喚起が作動したとき

交差点対向車注意喚起が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

知識

■交差点対向車注意喚起の作動条件

方向指示灯が点滅していないときは、交差点対向車注意喚起が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度
対向車両	約 15 ～ 30km/h	約 10km/h 以上
対向自動二輪車	約 15 ～ 30km/h	約 25km/h 以上

排出ガス浄化装置（GPF）

排出ガス清浄装置内のフィルターに排気ガスに含まれるススを捕集します。

車両の状況に応じて、自動的にススを燃焼することでフィルターを再生します。

フィルターの再生について

- 通常走行時に、自動で捕集したススを燃焼することでフィルターの再生が行われます。
- 燃焼不足でフィルターの再生が十分に行われない場合、排出ガス清浄装置内のフィルターは徐々に目づまりします。

知識

■特に外気温が低いときは

- エンジンの暖機に時間がかかることがあります。そのため、ひんぱんに短い距離や低速で走行すると、フィルターが目づまりする可能性が高くなります。
- できるだけススの堆積を減らす運転を心がけてください。

■ススの堆積を減らすには

- 運転する前にエンジンを暖機してください。
- 定期的に60km/h以上で走行すること※で、効果的にススを燃焼してフィルターの再生を行うことができます。

※ ススの過度な堆積を防ぐために、高速道路や自動車専用道路で高速走行する場合は、アクセルペダルを踏んだり離したりしながら長時間連続的に走行することをおすすめします。

■マルチインフォメーションディスプレイにフィルターの目づまりに関する出力制限中の表示がされたときは

●ススが堆積された状態の高負荷走行時にメッセージが表示されることがあります。

●一定量のススが堆積されると、エンジン出力（エンジン回転数）が制限されますが、走行することはできます。

●次のような状況ではススがより多く堆積されることがあります。そのため、保護機能が作動することがあります。アクセルペダルを踏んでも速度が速くならないなど通常と車両の挙動が異なるおそれがありますが、故障ではありません。ススの堆積が減ると通常の挙動にもどります。ススの堆積を減らしフィルターの再生をうながす運転を心がけてください。（→P.428）

・ひんぱんに短い距離や低速で走行したとき

・日常的に外気温が低い状況で繰り返し走行したとき

⚠注意

■排出ガス浄化装置の損傷を防ぐために

指定されたオイルと燃料を使用してください。指定されたオイルや燃料以外を使用すると、フィルターが目づまりする可能性があり、排気管の交換が必要になる場合があります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

■ マルチテレイン ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時、またはすべりやすい路面やオフロード（砂利・砂地・泥地・氷雪路など）でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

マルチテレイン ABS・アクティブ TRC・VSC・EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急な

ハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ トレーラースウェイコントロール

トレーラーのふらつきが検知されたとき、各タイヤに対してブレーキ圧を選択的に適用して駆動トルクを低減することで、運転者がトレーラーのふらつきを制御するのに役立ちます。

■ アクティブ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面や険しいオフロードでの発進時や加速時に生じる車輪の空転を 4 輪別々に抑制すると共に車両の方向安定性と駆動力を確保します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）

マルチテレイン ABS・ブレーキアシスト・アクティブ TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール・EPS を総合的に制御します。
すべりやすい路面の走行などで急な運転操作をした際に、ブレーキ・エンジン出力・ハンドル操作力を制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

■ NAVI・AI-AVS （AVS：アダプティブバリアブルサスペンションシステム）

路面の状態や運転操作などに応じ、ショックアブソーバーの減衰力を 4 輪独立に制御することで、なめらかな乗り心地と優れた安定感の確保に貢献し、車両の姿勢維持に寄与します。

また、ドライブモードセレクトで走行モードを選択することで減衰力を切りかえたり（→P.398）、トランスファースイッチを L4 にすることでオフロード走行での乗り心地を確保することができます。（→P.407）

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

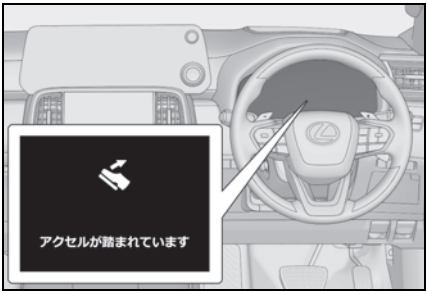
■ セカンダリーコリジョンブレーキ

SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

■ 衝突時の急加速抑制

SRS エアバッグのセンサーが軽度の衝突を検知したときに、急アクセルによるエンジン出力を自動的に抑制することで、二次衝突による被害の軽減に寄与します。

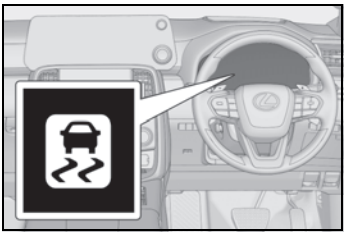
システム作動時はブザー、音声案内とマルチインフォメーションディスプレイのメッセージでお知らせします。



知識

■マルチテレイン ABS・VSC・アクティブ TRC・トレーラースウェイコントロールが作動しているとき

マルチテレイン ABS・VSC・アクティブ TRC・トレーラースウェイコントロールが作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

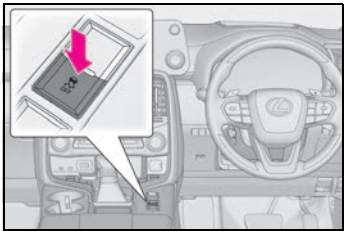


■アクティブ TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、アクティブ TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに、VSC OFF スイッチを押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

アクティブ TRC を停止するには VSC OFF スイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイに “TRC OFF しました” と表示されます。もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。



■アクティブ TRC・VSC・トレーラースウェイコントロールを停止するには

アクティブ TRC・VSC・トレーラースウェイコントロールを停止するには、停車時に VSC OFF スイッチを押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “TRC OFF しました” と表示されます。※

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→P.237)

■VSC OFF スイッチを押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

アクティブ TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はレクサス販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない
- エンジンスイッチが ON

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●シフトレバーをPまたはNの位置にした

●アクセルペダルを踏んだ

●ブレーキペダルを踏んで、かつパーキングブレーキをかけた

●ブレーキペダルから足を離して最大 2 秒経過した

●エンジンスイッチが OFF

■マルチテレイン ABS・ブレーキアシスト・VSC・トレーラースウェイコントロール・アクティブ TRC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

●エンジン始動時や発進直後や、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる

■ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

●運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー” という音）

●エンジン停止後 1 ～ 2 分後経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

■アクティブ TRC・VSC・トレーラースウェイコントロールの自動復帰について

アクティブ TRC・VSC・トレーラースウェイコントロールを作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

●エンジンスイッチを OFF にしたとき

●（アクティブTRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき

ただし、アクティブ TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■長時間の使用について

ブレーキシステムが異常過熱するおそれがあるため、ブザーが鳴り、マルチインフォーメーションディスプレイに “TRC Off しました” と表示され、アクティブ TRC とヒルスタートアシストコントロールが一時的に作動出来なくなります。この場合、速やかに安全な場所に停車して、表示が消えるまでブレーキシステムを十分に冷却してください。（この間の通常走行は可能です）

しばらくして表示が消えれば、アクティブ TRC とヒルスタートアシストコントロールが作動可能となります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●車両の減速度から急ブレーキであるとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。

ただし構成部品が破損した場合システムは作動しません。

■セカンダリーコリジョンブレーキの解除条件

次のいずれかのとき自動的にシステムが解除されます

●車速が約 0 km /h になったとき

●作動して一定時間経過したとき

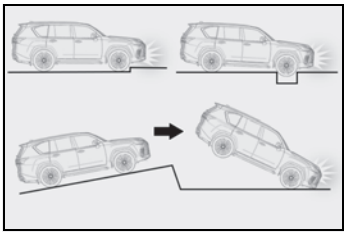
●アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

■衝突時の急加速抑制について

●次の条件をすべて満たすと、システムが作動します。
・車速が約 60km/h 以下のとき
・SRS エアバッグのセンサーが車両前方に軽度の衝突を検知したとき
・衝突の直前にブレーキ操作をしていないとき
・アクセルペダルを速く強く踏み込んだ※ あとに衝突した、または衝突後にアクセルペダルを速く強く踏み込んだ※ とき

※ アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき

●次のような状況では衝突していなくても、システムが作動する場合があります。
・縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
・深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
・ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



●アクセルペダルを離すとシステムの作動が解除されます。

■NAVI・AI-AVS の NAVI 協調機能

ナビゲーションの道路コーナー情報により、コーナーの前からあらかじめ減衰力を制御します。これにより、優れたコーナーリング性能を確保します。ナビゲーションにおいてルート探索可能な道路で作動します。

警告

■マルチテレイン ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

警告

■マルチテレインABSが作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

マルチテレインABSは制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■アクティブTRCやVSCの効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、アクティブTRCやVSCが作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

アクティブTRC、マルチテレインABS、VSCが作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■アクティブTRCやVSC、トレーラースウェイコントロールをOFFにするときは

アクティブTRCやVSC、トレーラースウェイコントロール は自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。
そのため、必要なとき以外はアクティブTRCやVSC、トレーラースウェイコントロールを作動停止状態にしないでください。アクティブTRCやVSC、トレーラースウェイコントロールを作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■タイヤまたはホイールを交換するときは

4輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。
（→P.581）
異なったタイヤを装着すると、マルチテレインABS・アクティブTRC・VSC・トレーラースウェイコントロールなど、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

警告

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■トレーラースウェイコントロールに関する注意

トレーラースウェイコントロールシステムは、すべての状況においてトレーラーのふらつきの低減を可能にするものではありません。車両やトレーラーの状態、路面の状態、走行環境といった様々な要因から本システムの効果が得られない可能性があります。トレーラーを適切にけん引する方法については、トレーラーに関する取扱説明書を参照してください。

■トレーラーがふらつくときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ハンドルをまっすぐ、しっかりと握ってください。ハンドルを操作してトレーラーのふらつきを抑えようとしないでください。
- アクセルペダルから急に足を離さず、徐々に離して速度を落としてください。速度を上げないでください。ブレーキを掛けないでください。

急ハンドルや急ブレーキをかけなければ車両とトレーラーのふらつきが安定するはずです。(→P.185)

■セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■衝突時の急加速抑制

- 衝突時の急加速抑制を過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 本システムは急加速を抑制するものであり、ブレーキを作動させるものではありません。必要に応じてブレーキペダルを操作してください。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬の前の準備について

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

- エンジンオイル
- 冷却水
- ウォッシャー液

● バッテリーの点検を受けてください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）※ を使用してください。
タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。（タイヤについて：→P.508）

※ 20 インチタイヤ以外には、タイヤチェーンを装着することはできません。

知識

■タイヤチェーンについて（20 インチタイヤ装着車）

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

●安全に作業できる場所で行う

●後 2 輪に取り付ける

●タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う

●取り付け後 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■タイヤチェーンについて（20 インチタイヤ装着車を除く）

タイヤとボデーのすき間が狭いため、タイヤチェーンを装着できません。

■AHC について

寒冷時は、AHC の作動に制限がかかる場合があります。（→P.405）

警告

■冬用タイヤを装着するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●空気圧を推奨値に調整する

●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーン取り付け時の警告（20 インチタイヤ装着車）

AHC を OFF にしてください。オートレベリング機能により車高がかわり車両に体が挟まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。（→P.400）

警告

■タイヤチェーンを装着するとき（20インチタイヤ装着車）

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない

●路面の凹凸や穴を避ける

●急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける

●カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

●LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない

注意

■タイヤチェーンの使用について

●この車両に適合したレクサス純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
なお、レクサス純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。市販のタイヤチェーンを使用する場合は、車体に干渉しないことをあらかじめご確認ください。
詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

●アルミホイールにタイヤチェーンを取り付けると、ホイールに傷が付くことがあります。

■タイヤを修理・交換するときは

タイヤの取り付け・取りはずしは、タイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。（タイヤについての詳しい説明は P.508 を参照してください）

■タイヤチェーンの装着（20 インチタイヤ装着車）

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

● フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 外装ランプ・ドアミラー・ドアガラス・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

● 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。
レクサス販売店で各車指定のブレード

をお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

⚠注意

■ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

● パーキングブレーキのオートモードを OFF にしてください。パーキングブレーキが自動的に作動し、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。また、次のシステムの使用は控えてください。オートモードを OFF にしていても、パーキングブレーキが自動的に作動します。

・ブレーキホールドシステム

● パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、必ず輪止め※1 をしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーを P に入れたあとにパーキングブレーキを解除してください。(→P.197)
パーキングブレーキスイッチを押しながら、エンジンスイッチを OFF してください。

● パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーを P に入れた状態でシフトレバーが動かないこと※2 を確認してください。

● 寒冷時にブレーキ部品がぬれた状態で車を駐車したままにすると、凍結のおそれがあります。

※1 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

※2 ブレーキペダルを踏まないで P からシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

室内装備・機能

5

5-1. ディスプレイ

フロントマルチオペレーションパネル..... 440

リヤマルチオペレーションパネル（4 人乗り車）..... 443

5-2. レクサスクライメイトコンシェルジュ

レクサスクライメイトコンシェルジュ 447

5-3. エアコンの使い方

フロントオートエアコン..... 448

リヤオートエアコン..... 456

ステアリングヒーター／シートヒーター＆ベンチレーター..... 460

5-4. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 464

5-5. 収納装備

収納装備一覧 469

ラゲージルーム内装備..... 475

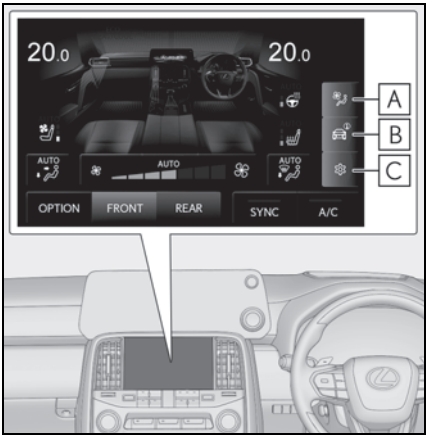
5-6. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備..... 480

フロントマルチオペレーションパネル

フロントマルチオペレーションパネルを使ってエアコンの操作をすることができます。また、オフロード走行に関する情報を表示することもできます。

フロントマルチオペレーションパネルの操作について



A エアコン操作画面を表示する（→P.448, 456）

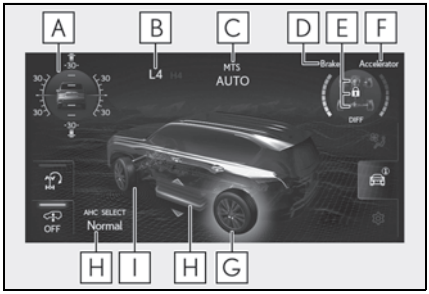
B オフロード走行情報画面を表示する

C フロントマルチオペレーションパネル設定画面を表示する

オフロード走行情報画面について

オフロード走行に関する情報を表示することができます。

▶ マルチテレインセレクト作動時



A 傾斜計表示

車両の前後方向・左右方向のおおよその傾き角度を表示します。

B トランスファーレンジ表示

C マルチテレインセレクトモード表示

D ブレーキペダル踏度表示

ブレーキペダルの踏み込み量を表示します。

E デフロック作動表示

F アクセルペダル踏度表示

アクセルペダルの踏み込み量を表示します。

G アクティブ TRC 作動表示

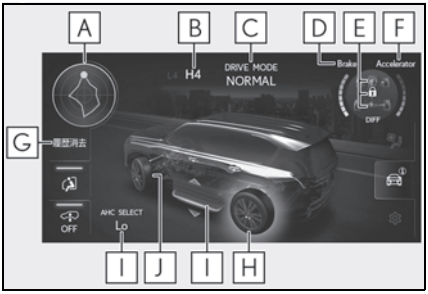
作動しているタイヤを橙色で表示します。

H AHC（アクティブハイトコントロール）表示

I フロントタイヤ方向表示

現在のフロントタイヤの方向の目安を表示します。

▶ マルチテレインセレクト非作動時



A G モニター表示

車両にかかる前後左右の G（加速度）を表示します。

B トランスファーレンジ表示

C ドライブモードセレクト表示／クロールコントロールモード表示／ダウンヒルアシストコントロールシステム設定速度表示

D ブレーキペダル踏度表示

ブレーキペダルの踏み込み量を表示します。

E デフロック作動表示

F アクセルペダル踏度表示

アクセルペダルの踏み込み量を表示します。

G G モニターの履歴消去

車両にかかる前後左右の G（加速度）の軌跡をリセットすることができます。

H アクティブ TRC 作動表示

作動しているタイヤを橙色で表示します。

I AHC（アクティブハイトコントロール）表示

J フロントタイヤ方向表示

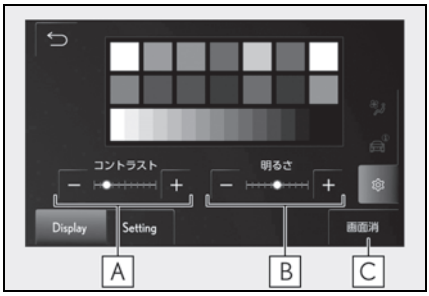
現在のフロントタイヤの方向の目安を表示します。

フロントマルチオペレーションパネルの設定について

画面の操作規制の設定や画面の明るさなどを調整できます。

■ 画質の調整

“Display” を選択し、各調整スイッチを選択する。



A コントラストを調整する。

B 明るさを調整する。

C 画面を消す。

画面を再度表示させるには、画面にタッチして、画面中央のボタンをタッチします。

■ 設定の変更

“Setting” を選択し、各項目の設定内容を選択する。

A 操作を行わなかった場合、画面表示が切りかわる時間を 20 秒、1

分、5 分のあいだで設定できます。

B 画面の操作感度を 1（低）2（普通）3（高）のあいだで設定できます。

C ソフトウェアの情報を表示します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■操作画面について

●画面保護のため、操作画面は指で軽くタッチしてください。

●操作画面の反応がないときは、一度画面から手を離してから再度タッチしてください。

●画面に が表示されているときに を選択すると、ひとつ前の画面に戻ります。

●次のときは、操作画面が反応しなかったり、誤作動することがあります。
・手袋を着用しているとき
・爪で操作したとき
・他の指や手のひらが、他のスイッチに近付いたとき
・汚れや水分が付着しているとき
・操作画面の表面にフィルムなどを貼ったとき
・操作画面の表面を塗装したとき
・近くにテレビ塔・発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
・無線機や携帯電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●操作画面が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているときは、操作画面が反応しなかったり、誤作動することがあります。
・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●清掃の際、操作画面をふくことで操作画面が反応することがあります。

●操作画面に手を近付けた状態で、エンジンスイッチを ACC または ON にすると、操作画面が反応しないことがあります。その場合、操作画面から手を離し、エンジンスイッチを OFF にしてから ON にしてください。

■液晶画面について

●液晶画面は、斜めからみると画面が白っぽく見えたり、黒っぽく見えたりします。

●太陽の光などの外光が画面にあたると画面が見にくくなります。

●偏光レンズを使用したサングラスなどを装着すると、画面が暗く見えたり、見にくくなったりします。

警告

■運転中の使用について

安全のため、運転者は走行中に極力操作をしないでください。走行中はハンドルの操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中に画面を見るときは、必要最小限の時間にしてください。

注意

■画面を清掃するときは

画面の汚れは、プラスチックレンズ用メガネふきなどのやわらかく乾いた布で軽くふき取ってください。

手で強く押したり、かたい布でこすると表面に傷が付くことがあります。また、液晶画面はコーティング処理してあります。ベンジンやアルカリ性溶液などが付着すると画面が損傷するおそれがあります。

■バッテリーあがりを防ぐために

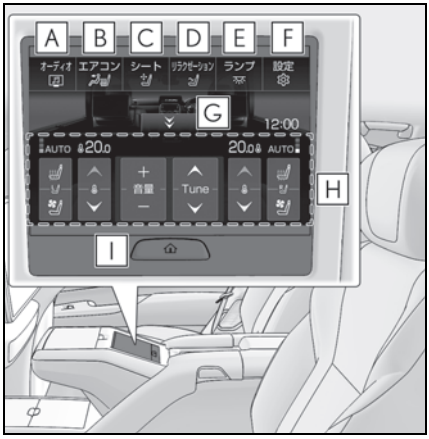
エンジンが停止しているときは、長時間操作をしないでください。

リヤマルチオペレーションパネル（4 人乗り車）

リヤアームレスト内のオペレーションパネルを使って、リヤのオーディオ・エアコン・シート・リラクゼーションシート・ランプの操作をすることができます。

リヤマルチオペレーションパネルの操作について

■ HOME 画面



A オーディオ操作画面を表示する（詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。）

B リヤエアコン操作画面を表示する（→P.456, 460）

C リヤシート操作画面を表示する（→P.143, 172）

D リヤのリラクゼーションシート操作画面を表示する（→P.145）

E リヤのランプ操作画面を表示する

（→P.467）

F リヤマルチオペレーションパネル設定画面を表示する（→P.444）

G ショートカットスイッチ

押すごとに表示／非表示が切りかわります。

H ショートカット画面

次の機能を操作できます。

・ リヤエアコンの温度設定（→P.456）
・ リヤシートヒーター／リヤシートベンチレーター（→P.460）
・ オーディオ（詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。）

I ボタン

HOME 画面を表示します。画面表示時は、押し続けると画面が消灯します。

■ リヤマルチオペレーションパネル設定画面

画面の操作規制の設定や画面の明るさなどを調整できます。

A 画面を消す

ボタンを押すと、HOME 画面を表示します。

B 画面の明るさを調整する

C 自動画面遷移設定

D 画面操作をロックする

■ 自動画面遷移設定画面

A 一定時間画面操作を行わなかった場合、自動で画面が切りかわるかを設定できます。

B HOME 画面に切りかえるか画面表示を消すかを設定できます。

C 操作を行わなかった場合、画面表示が切りかわる時間を 10 秒、30 秒、60 秒、120 秒のあいだで設定できます。

画面消灯した場合、ボタンを押すと消灯前の画面が表示されます。もう一度押すと、HOME 画面が表示されます。

■ 画面ロック解除

上部のステータス表示（B）がすべて点灯するまでAを押し続けると、画面操作のロックが解除されます。

知識

■操作画面について

画面に が表示されているときに を選択すると、ひとつ前の画面に戻ります。

■リヤマルチオペレーションパネルの取り扱いについて

●操作は指で行ってください。爪やペン等では操作できません。

●操作は 1 本の指で行ってください。他の指がふれていると操作できないことがあります。

●エンジンスイッチをACCまたはONにしたとき、パネル上に手や物が置かれていたり、水や異物が付着していると、誤作動を起こすことがあります。その場合、それらを取り除き、30 秒ほど待ってから操作してください。万一、パネルの反応がもとにもどらない場合は、 ボタンを長押しして画面を OFF し、再度 ボタンを押してから操作を行ってください。

●以下の場合、リヤマルチオペレーションパネルが正しく反応しなかったり、誤作動することがあります。
・手袋を着用しているとき
・ぬれた手で操作したとき
・パネル面にフィルムを貼ったり、塗装をしたとき
・パネル面に水分や汚れが付着しているとき
・近くにテレビ塔・発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
・無線機や携帯電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●リヤマルチオペレーションパネルが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているときは、リヤマルチオペレーションパネルが反応しなかったり、誤作動することがあります。
・小銭
・鍵
・財布や鞄の金属部品
・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱やケース
・カイロ
・CD ／ DVD などのメディアや USB などのケーブル
・スマートフォンや携帯電話、タブレット端末などの機器

●リヤマルチオペレーションパネルが汚れていると、操作の反応が悪くなる場合があるため、定期的に清掃を行ってください。また、リヤマルチオペレーションパネルを清掃する際は、誤作動を防ぐため、画面を OFF にした状態で行ってください。

注意

■リヤマルチオペレーションパネルの故障を防ぐために

●リヤマルチオペレーションパネルに飲料水や雨水などをかけないでください。変色や漏電の原因になります。

注意

- リヤマルチオペレーションパネルの上に乗ったり、ものを上に置かないでください。故障の原因になります。
- リヤマルチオペレーションパネルを強く押したり、先のとがったもので操作したりしないでください。破損の原因になります。

レクサスクライメイトコンシェルジュ

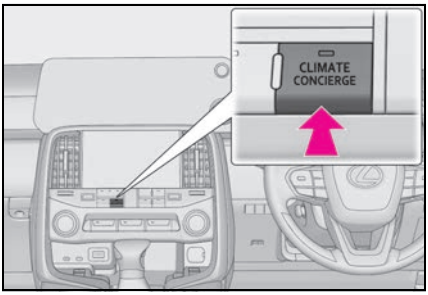
エアコンの設定温度、外気温、車室内温度などに応じて、各席のシートヒーターやベンチレーター、ステアリングヒーターがそれぞれ自動制御されます。
各システムの調整の手間を省き、快適な状態を維持するよう制御します。

クライメイトコンシェルジュを使用する

クライメイトコンシェルジュスイッチを押す

スイッチの上の作動表示灯が点灯し、エアコン・シートヒーター／ベンチレーター・ステアリングヒーターがオート設定で作動します。

いずれかのシステムを手動で操作すると、作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。



各システムの作動について

■ エアコン（→P.448, 456）

運転席・助手席およびリヤ席の設定温度を別々に調整することができます。

リヤエアコンは、セカンドシートの乗員を検知して、オート設定で作動します。

■ シートヒーター／ベンチレーター（→P.460）

エアコンの設定温度・外気温などに応じて、暖房・換気が自動的に切りかわります。

助手席およびセカンドシート外側席のシートヒーターやベンチレーターは、乗員を検知してオート設定で作動します。

■ ステアリングヒーター（→P.460）

外気温、車室内温度に応じて自動で作動します。

知識

■フロントエアコンの作動について

セカンドシートに乗員がいないときは、フロントシートへの空調効果を高めるため、リヤの吹き出し口が閉じる場合があります。

■リヤエアコンの作動について

セカンドシートに乗員がいないときは、リヤエアコンが自動で停止する場合があります。

■シートヒーター／ベンチレーターの作動について

シートヒーター／ベンチレーターのスイッチでオート設定にした場合は、乗員の検知を行いません。

フロントオートエアコン

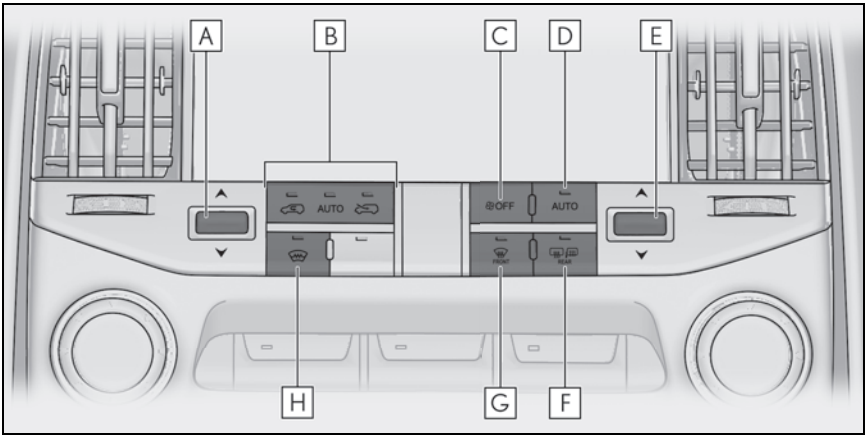
設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作パネルと、フロントマルチオペレーションパネルのエアコン操作画面で操作します。

フロントマルチオペレーションパネルについての詳しい説明は P.440 を参照してください。

エアコン操作スイッチについて

▶ エアコン操作パネル



A 助手席側温度調整スイッチ

B 内外気切りかえスイッチ

C OFF スイッチ

D AUTO スイッチ

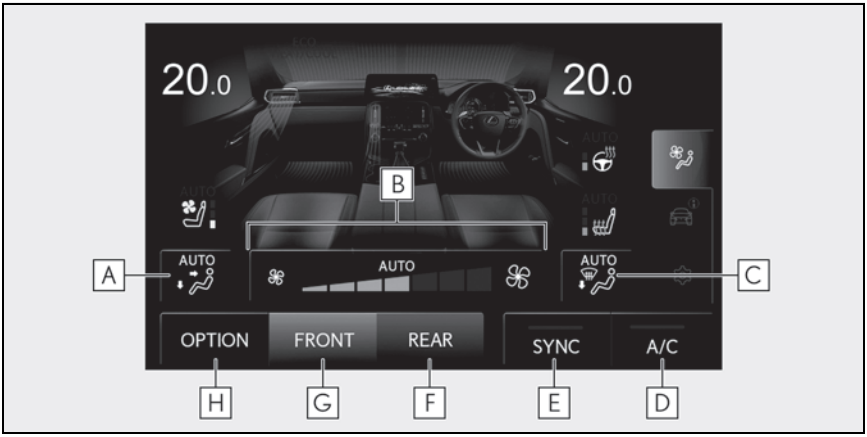
E 運転席側温度調整スイッチ

F リヤウインドウデフォッガー＆ ミラーヒータースイッチ

G フロントデフロスタースイッチ

H ウインドシールドデアイサー

▶ フロントマルチオペレーションパネル



A 助手席側吹き出し口切りかえスイッチ

B 風量調整スイッチ

C 運転席側吹き出し口切りかえスイッチ

D A/C スイッチ

E SYNC スイッチ

F REAR スイッチ（→P.456）

G FRONT スイッチ

H オプション画面表示スイッチ

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは、エアコン操作パネルにある温度調整スイッチを上に、下げるときは下に操作する

スイッチを操作し続けると、温度が連続して変化します。

A/C スイッチの作動表示灯が点灯していない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときはエアコン操作画面の風量増スイッチを、減らすときは風量減スイッチを選択する

風量は 7 段階に調整できます。

エアコン操作パネルの OFF スイッチを押すと、ファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

エアコン操作画面の吹き出し口切りかえスイッチを選択する

スイッチを選択するたびに吹き出し口が切りかわります。

: 上半身に送風

: 上半身と足元に送風

: 足元に送風

: 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

エアコン操作パネルの内外気切りかえスイッチを押す

スイッチを押すたびに次のように設定が切りかわります。

内気循環 → AUTO※ → 外気導入 → 内気循環

AUTO を選択したときは、内気循環と外気導入の切りかえを自動で行います。

※ エアコンが OFF のときは選択できません。

■ 冷房・除湿機能を使用する

エアコン操作画面の A/C スイッチを選択する

冷房・除湿機能が ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

■ エコ空調モード

燃費を優先するため冷房／暖房の効きを抑えます。

オプション画面のエコ空調スイッチを選択する（→P.450）

■ フロントウインドウガラスの曇りを取る

エアコン操作パネルのフロントデフロスタースイッチを押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

フロントデフロスターが ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

■ リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

エアコン操作パネルのリヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチを押す

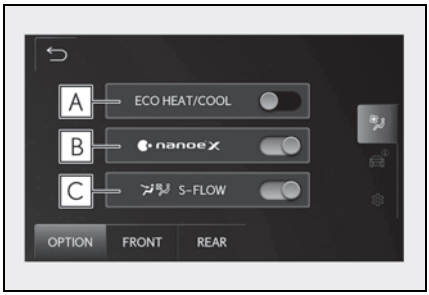
リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーターが ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、約 15 分後に自動的に OFF になります。（周囲の環境や外気温によっては 15 分後も作動を継続する場合があります）

■ オプション画面を表示するには

エアコン操作画面のオプション画面表示スイッチを選択する

次の機能の（作動）／（非作動）を切りかえることができます。



A エコ空調モード（→P.450）

B ナノイー X（→P.451）

C フロント席集中送風モード（S-FLOW）（→P.453）

知識

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、冷房・除湿機能を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

●冷房・除湿機能を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

A/C スイッチを選択しても除湿機能が働かない場合があります。

■エコ空調モードのエアコン作動について

●エコ空調モードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●走行モードをエコドライブモードにすると、自動でエコ空調モードに切りかわります。(→P.398)
その場合でもエコ空調スイッチを選択するとエコ空調モードを解除することができます。

●空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。
・風量を調整する
・エコドライブモードを解除する (→P.398)
・エコ空調モードを解除する

■ナノイー X※1, 2 について

エアコンにはナノイー X 発生装置が搭載されています。この装置はフロント席中央の吹き出し口からナノイー X を放出し、車室内を快適な空気環境に導きます。※3

●ナノイー X が ON のとき、ファンが作動すると、自動的にナノイー X 発生装置が作動します。

●ナノイー X 発生装置が作動中、次の条件で効果を発揮します。
・吹き出し口が上半身に送風または上半身と足元に送風のとき
・フロント席中央の吹き出し口が開いているとき

●ナノイー X 発生装置作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●ナノイー X 発生装置作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。
・ナノイー X 発生装置が作動するまでに多少時間がかかることがあります。
・作動直後は作動音が大きい場合があります。

※1 nanoe、ナノイーおよび nanoe マークは、パナソニック ホールディングス株式会社の商標です。

※2 ナノイー X は、ナノイーに比べて、効果の元である OH ラジカルをより多く含む微粒子イオンです。

※3 温湿度環境、風量・風向きによってはナノイーの効果が十分に得られない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

●駐車時に自動的に外気導入に切りかえることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生するにおいを緩和します。

■音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して、エアコンを操作することができます。

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■エアコンフィルターについて

→P.518

■クールボックスが ON のとき（クールボックス装着車）

フロントエアコンを停止することはできません。

■カスタマイズ機能

AUTO スイッチを ON にしたとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。（カスタマイズ一覧：→P.583）

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーターが作動しているとき

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■ナノイー X 発生装置について

高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、レクサス販売店にお問い合わせください。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

■ナノイー X 発生装置の損傷を防ぐために

フロント席中央の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。正常に働かなくなるおそれがあります。

オート設定で使用する

1 エアコン操作パネルの AUTO スイッチを押す

2 AUTO モードになるまで内外気切りかえスイッチをくり返し操作する

外気導入と内気循環を自動で切りかえます。

3 温度を設定する

4 ファンを止めたいときは、エアコン操作パネルの OFF スイッチを押す

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

日射の影響により、暖房時でも上半身付近に冷風が出る場合があります。

■内外気切りかえの AUTO モードについて

AUTO モードでは、排気ガスなどの有害成分を検知し、自動で外気導入と内気循環を切りかえます。エアコンが OFF で送風が作動しているときに AUTO モードにすると、エアコンが ON になります。

各席の設定温度を連動して設定する（SYNC モード）

SYNC モードを ON にするには、SYNC スイッチを押す

運転席側温度調整スイッチで運転席および助手席・リヤ席★の設定温度を調整できます。運転席および助手席・リヤ席★の設定温度を別々に設定するには、助手席側温度調整スイッチまたはリヤオートエアコン★の温度調整スイッチを操作するか、再度 SYNC スイッチを押してください。

SYNC モードが ON のときは、SYNC スイッチの表示灯が点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロント席集中送風モード（S-FLOW）を使用する

スイッチ操作によりフロント席のみへの送風と全席への送風を切りかえることができます。無駄な冷暖房を抑えることで、燃費の向上に貢献します。

エアコン操作画面のオプション画面から を選択し、送風を切りかえます。

- （作動）：フロント席のみへの送風
- （非作動）：全席への送風

知識

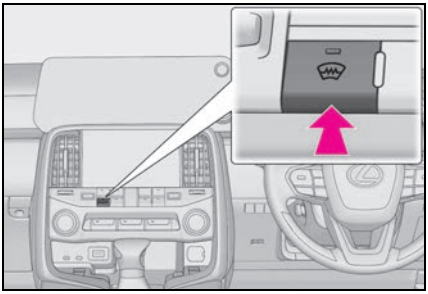
フロント席のみへの送風に切りかえた場合でも、リヤ席に乗員がいると自動的に全席に送風されることがあります。

ウインドシールドデアイサー

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

ウインドシールドデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

ウインドシールドデアイサーは、約 15 分後に自動的に OFF になります。



警告

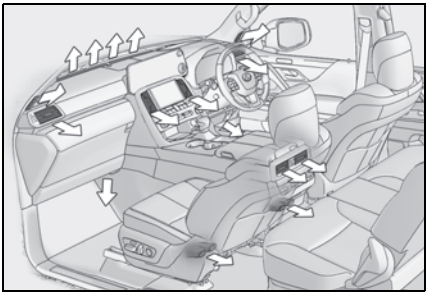
■ウインドシールドデアイサーが作動しているとき

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

吹き出し口の配置・操作

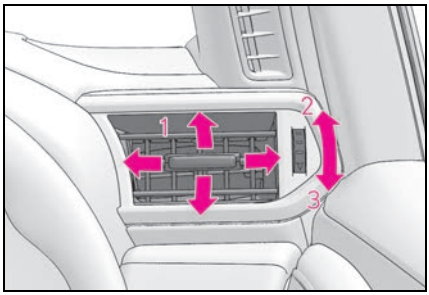
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ フロント（サイド）

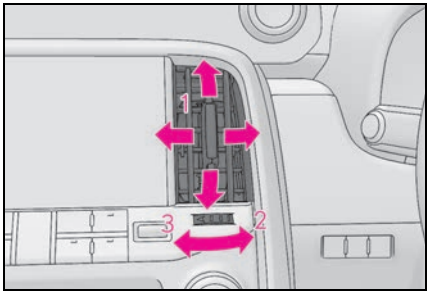


1 風向きの調整

2 吹き出し口を開く

3 吹き出し口を閉じる

▶ フロント（センター）

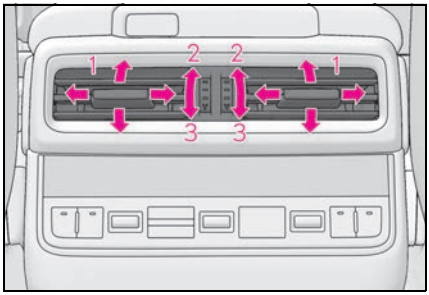


1 風向きの調整

2 吹き出し口を開く

3 吹き出し口を閉じる

▶ リヤ



1 風向きの調整

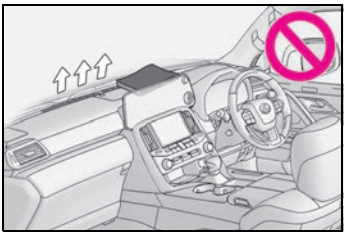
2 吹き出し口を開く

3 吹き出し口を閉じる

警告

■フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために

吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



注意

■エアコンの故障を防ぐために

ダッシュボード上の吹き出し口にものが落ちないようご注意ください。

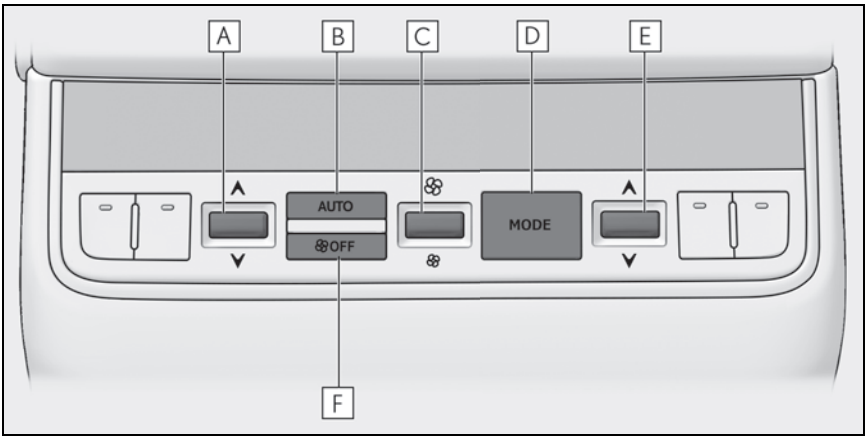
ものが落ちると故障の原因となるおそれがあります。

リヤオートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

リヤエアコン操作スイッチについて

▶ エアコン操作パネル（5 人乗り車／ 7 人乗り車）



A 助手席側温度調整スイッチ

B AUTO スイッチ（オート設定）

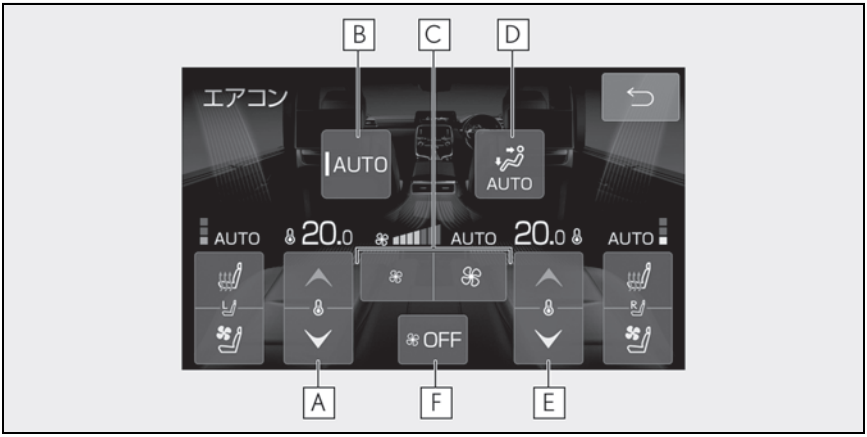
C 風量調整スイッチ

D 吹き出し口切りかえスイッチ

E 運転席側温度調整スイッチ

F OFF スイッチ

▶ リヤマルチオペレーションパネル（4 人乗り車）



A 助手席側温度調整スイッチ

B AUTO スイッチ（オート設定）

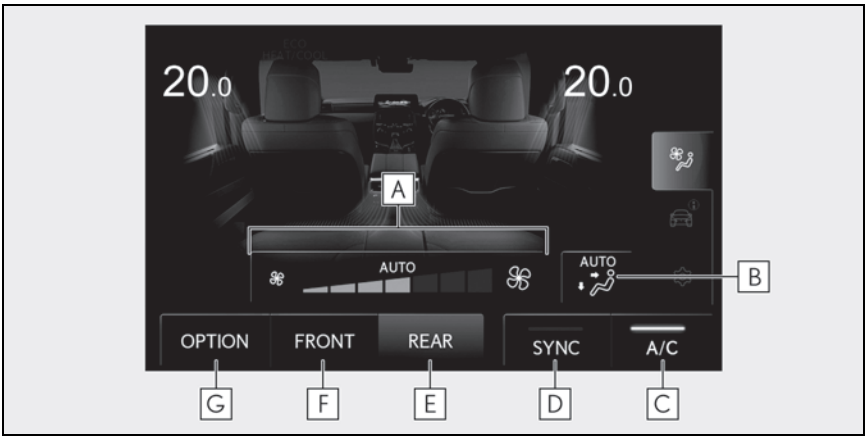
C 風量調整スイッチ

D 吹き出し口切りかえスイッチ

E 運転席側温度調整スイッチ

F OFF スイッチ

▶ フロントマルチオペレーションパネル



A 風量調整スイッチ

B 吹き出し口切りかえスイッチ

C A/C スイッチ（→P.450）

D SYNC スイッチ（→P.453）

E REAR スイッチ

F FRONT スイッチ（→P.448）

G オプション画面表示スイッチ（→P.450）

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは、エアコン操作パネルにある温度調整スイッチを上に押す、またはエアコン操作画面にある温度調整スイッチの▲を選択する

設定温度を下げるときは、エアコン操作パネルにある温度調整スイッチを下に押す、またはエアコン操作画面にある温度調整スイッチの▼を選択する

右側席と左側席で異なる温度調整が可能です。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときはエアコン操作パネルの風量調整スイッチを上に押す、またはエアコン操作画面の風量増スイッチを選択する

風量を減らすときはエアコン操作パネルの風量調整スイッチを下に押す、またはエアコン操作画面の風量減スイッチを選択する

風量は 7 段階に調整できます。

送風を停止するときは、OFF スイッチを押します。

■ 吹き出し口を切りかえる

エアコン操作パネルの吹き出し口切りかえスイッチを押す、またはエアコン操作画面の吹き出し口切りかえスイッチを選択する

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

: 上半身に送風

: 上半身と足元に送風

: 足元に送風

知識

■リヤエアコンの作動条件について

フロントエアコンが停止しているときは、冷房・除湿機能は作動せず、送風のみとなります。

■換気とエアコンの臭いについて

エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はリヤエアコンを使用しないでください。

オート設定で使用する

1 エアコン操作パネルの AUTO スイッチを押す、またはエアコン操作画面の AUTO スイッチを選択する

2 温度を調整する

3 ファンを止めたいときは、OFF スイッチを押す

風量や吹き出し口を切りかえると、ディスプレイ上の AUTO スイッチ作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチを選択した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

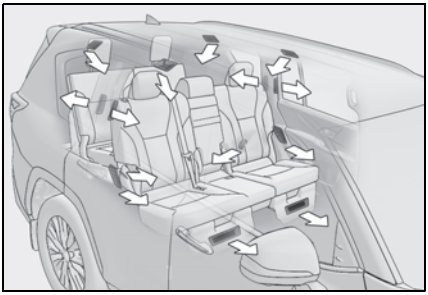
日射の影響により、暖房時でも上半身付近に冷風が出る場合があります。

吹き出し口について

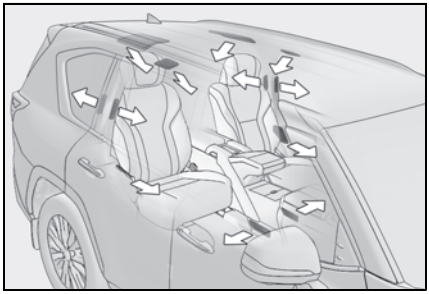
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。

▶ 5 人乗り車／7 人乗り車

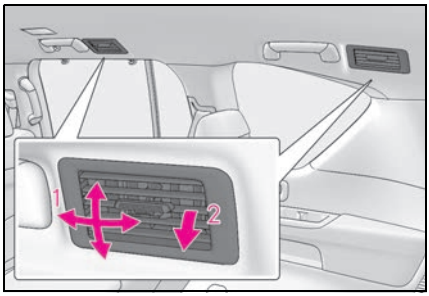


▶ 4 人乗り車



■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ ルーフサイド



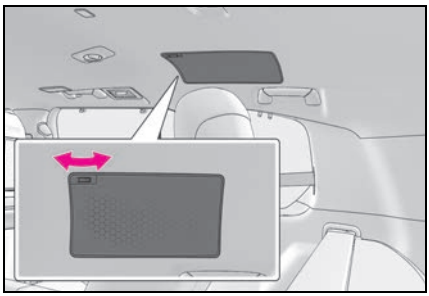
1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

閉めるときは、ノブをいっぱいまで車両下方に動かします。

▶ ルーフ（4 人乗り車）

吹き出し口の開閉



ステアリングヒーター／シートヒーター＆ベンチレーター

● ステアリングヒーター

ハンドルのグリップ部を暖めることができます。

● シートヒーター＆ベンチレーター

シートを暖めたり、シート内部に装備されたファンで換気することにより、シート表面の通気をよくしたりすることができます。

警告

■低温やけどについて

次の方がシートヒーターにふれないようにご注意ください。

●乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方

●皮膚の弱い方

●疲労の激しい方

●深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

注意

■シートヒーターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で使用しないでください。

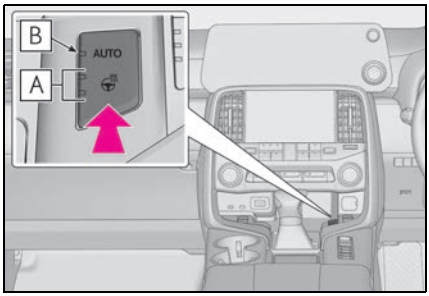
ステアリングヒーター

システムの ON ／ OFF を切りかえる

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO（点灯）→ 強（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF

作動中は AUTO インジケーター B 、またはレベルインジケーター A のいずれか、または両方が点灯します。



知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■インジケーターが点滅した場合

スイッチを OFF にし、もう一度スイッチを押してください。点滅がさらに続く場合はシステムの異常が考えられます。作動を停止し、レクサス販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

ステアリングヒーターのオート設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.583）

シートヒーター

■ フロント席

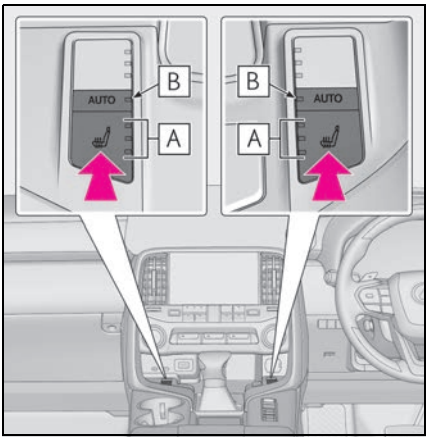
システムの ON ／ OFF を切りかえる

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO（点灯）→ 強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→OFF

作動中は AUTO インジケーター B 、またはレベルインジケーター A のいずれか、または両方が点灯します。

AUTO モードが作動すると、状況に応じてシートベンチレーターやシートヒーターが作動します。



■ **リヤ外側席（5 人乗り車／ 7 人乗り車）**

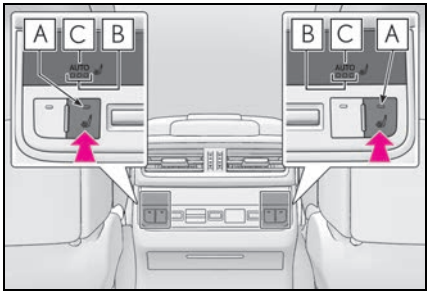
システムの ON ／ OFF を切りかえる

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO（点灯）→ 強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→OFF

作動中はスイッチ上のインジケーター A とレベルインジケーター B 、またはレベルインジケーター B と AUTO インジケーター C の両方が点灯します。

AUTO モードが作動すると、状況に応じてシートベンチレーターやシートヒーターが作動します。



■ **リヤ席（4 人乗り車）**

HOME 画面で “ エアコン ” を選択すると、エアコン操作画面が表示され、リヤシートヒーターを操作できます。（→P.443）

また、ショートカット画面でもリヤシートヒーターを操作できます。

▶ エアコン操作画面

リヤシートヒーターの温度を上げる

スイッチを選択するたびに、作動状態とレベルインジケーター（橙）が次のように切りかわります。

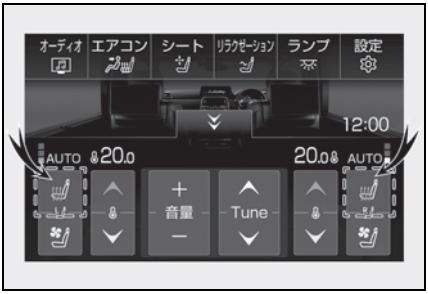
AUTO（点灯）→ 強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF

▶ ショートカット画面

リヤシートヒーターの温度を上げる

スイッチを選択するたびに、作動状態とレベルインジケーター（橙）が次のように切りかわります。

AUTO（点灯）→ 強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF



知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■カスタマイズ機能

シートヒーターのオート設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.583）

警告

■異常加熱や低温やけどを防ぐために

シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

●長時間連続使用しない

●毛布・クッションなどを使用しない

シートベンチレーター

■ フロント席

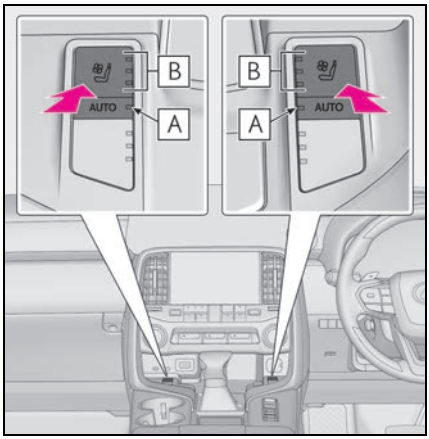
システムの ON ／ OFF を切りかえる

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO（点灯）→ 強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→OFF

作動中は AUTO インジケーター A 、またはレベルインジケーター B のいずれか、または両方が点灯します。

AUTO モードが作動すると、状況に応じてシートベンチレーターやシートヒーターが作動します。



■ リヤ外側席（5 人乗り車／ 7 人乗り車）

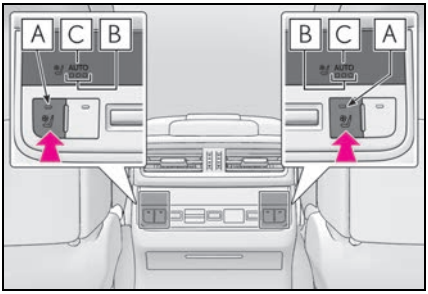
システムの ON ／ OFF を切りかえる

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO（点灯）→ 強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→OFF

作動中はスイッチ上のインジケーター A とレベルインジケーター B 、または レベルインジケーター B と AUTO インジケーター C の両方が点灯します。

AUTO モードが作動すると、状況に応じてシートベンチレーターやシートヒーターが作動します。



■ **リヤ席（4 人乗り車）**

HOME 画面で “ エアコン ” を選択すると、エアコン操作画面が表示され、リヤシートベンチレーターを操作できます。（→P.443）

また、ショートカット画面でもリヤシートベンチレーターを操作できます。

▶ エアコン操作画面

リヤシートベンチレーターの風量を切りかえる

スイッチを選択するたびに、作動状態とレベルインジケーター（青）が次のように切りかわります。

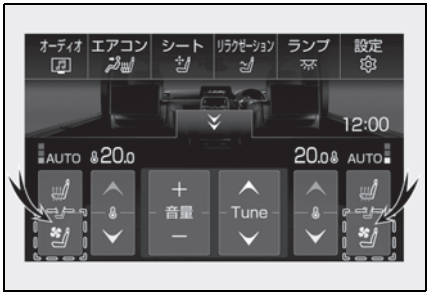
AUTO（点灯）→ 強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF

▶ ショートカット画面

リヤシートベンチレーターの風量を切りかえる

スイッチを選択するたびに、作動状態とレベルインジケーター（青）が次のように切りかわります。

AUTO（点灯）→ 強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF



知識

■ **作動条件**

エンジンスイッチが ON のとき

■ **エアコン連動制御モードについて**

シートベンチレーターが強のとき、エアコンの風量に応じてシートベンチレーターの風量が強くなります。

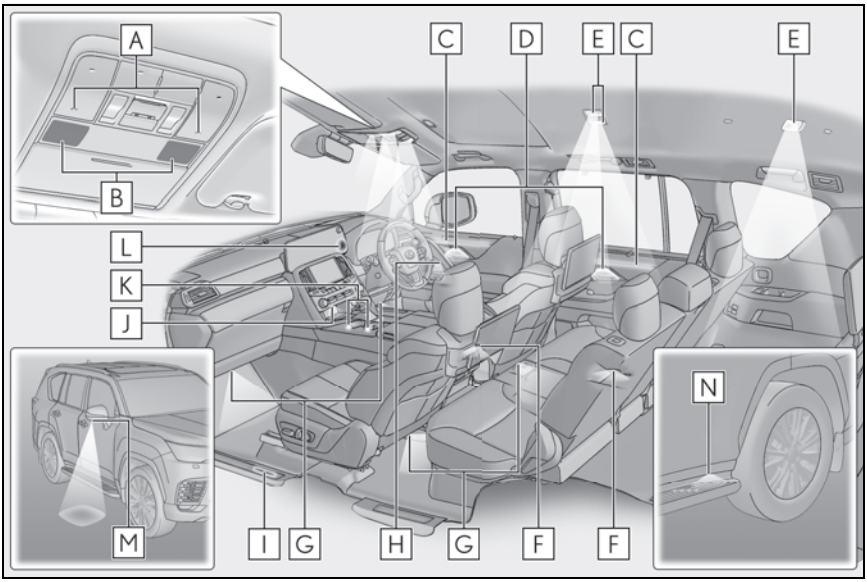
■ **カスタマイズ機能**

シートベンチレーターのオート設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.583）

室内灯一覧

室内灯の位置

▶ 5人乗り車／7人乗り車



A シフトレバー照明

B フロントインテリアランプ・フロントパーソナルランプ（→P.466, 467）

C ドアトリムオーナメント照明

D インサイドハンドル照明

E リヤパーソナルランプ（→P.467）

F ドアカーテシランプ

G 足元照明

H スポット照明

I スカッフプレート照明

J 小物入れ照明

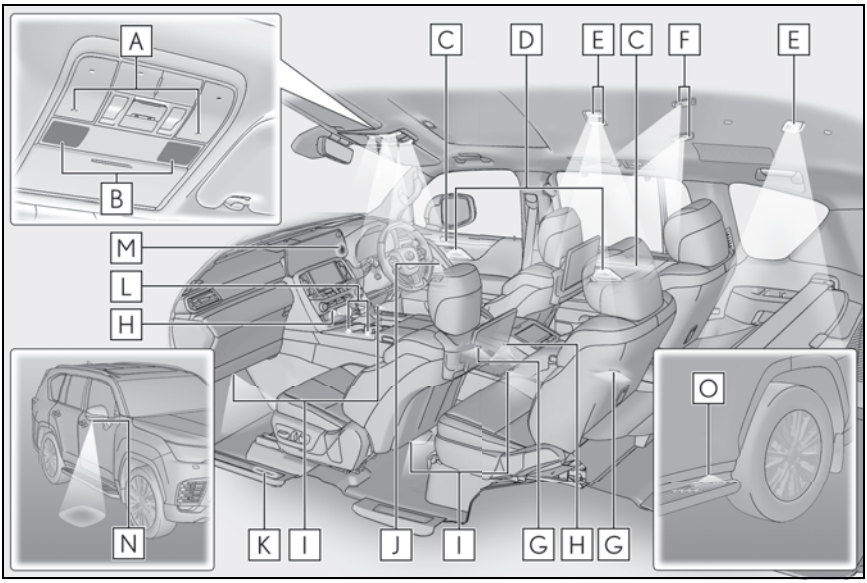
K カップホルダー照明

L エンジンスイッチ文字照明

M ドアミラー足元照明

N サイドステップ照明

▶ 4人乗り車



A シフトレバー照明

B フロントインテリアランプ・フロントパーソナルランプ（→P.466, 467）

C ドアトリムオーナメント照明

D インサイドハンドル照明

E リヤパーソナルランプ（→P.467）

F 読書灯（→P.467）

G ドアカーテシランプ

H 小物入れ照明

I 足元照明

J スポット照明

K スカッフプレート照明

L カップホルダー照明

M エンジンスイッチ文字照明

N ドアミラー足元照明

O サイドステップ照明

知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。また、シフト操作と連動して照度が自動的に調整されます。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンスイッチを OFF にしたときに、室内灯が点灯したままの場合は、約 10 分後に自動消灯します。

■音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して次の操作をすることができます。

●各部の照明の ON ／ OFF の切りかえ

●各部の照明の照明色の変更

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■室内灯の自動点灯について

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。

手動操作で消灯することもできますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。（衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります。）

■カスタマイズ機能

室内灯の消灯までの時間や室内灯の照明色などを設定できます。（カスタマイズ一覧：→P.583）

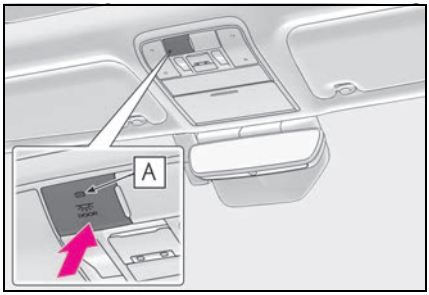
注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

インテリアランプを操作するには

■ ドアポジション（ドア連動）を ON にする



ドア連動スイッチを押す

ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯が切りかわります。

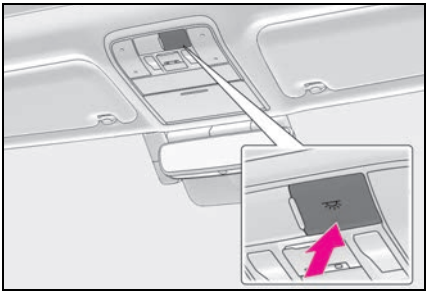
ON のときはインジケーター A が点灯します。

■ ランプを点灯・消灯する

ランプを点灯・消灯する

フロントインテリアランプに連動して、リヤパーソナルランプが点灯します。

ドアポジション（ドア連動）が ON のときは、ドアが開くとランプが点灯します。

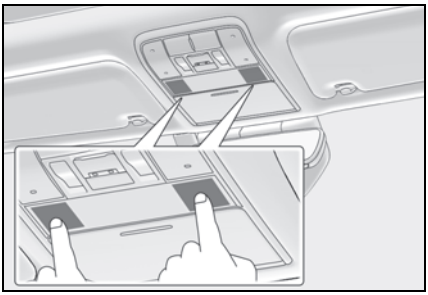


パーソナルランプを操作するには

■ フロントパーソナルランプ

ランプを点灯・消灯する（ランプにタッチする）

ドアポジション（ドア連動）が ON で点灯しているときは、スイッチを押しても消灯しません。

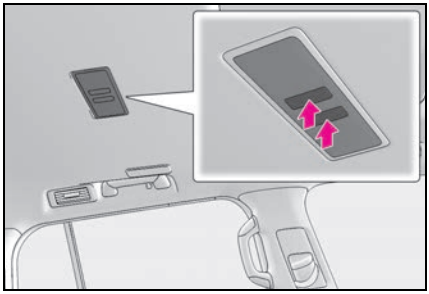


■ リヤパーソナルランプ

▶ セカンドシート

ランプを点灯・消灯する

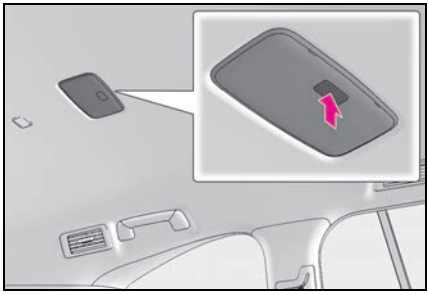
インテリアランプと連動して点灯しているときや、ドアポジション（ドア連動）が ON で点灯しているときは、スイッチを押しても消灯しません。



▶ サードシート

ランプを点灯・消灯する

インテリアランプと連動して点灯しているときや、ドアポジション（ドア連動）が ON で点灯しているときは、スイッチを押しても消灯しません。



知識

■ フロントパーソナルランプが正常に反応しないおそれのある状況

- レンズ面に水や汚れなどが付着しているとき
- ぬれた手で操作したとき
- 手袋などを装着しているとき

読書灯★を操作するには

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

1 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で “ランプ” をタッチする（→P.443）

2 読書灯を点灯・消灯するには、操作ボタンをタッチする

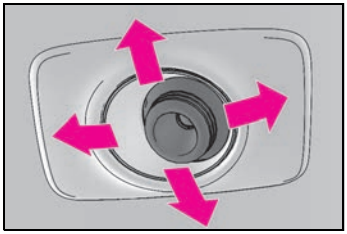
操作ボタンをタッチするたびに明るさを3段階に切りかえることができます。

操作ボタンをタッチし続けると、どの段階の明るさからでも消灯します。

知識

■**読書灯について**

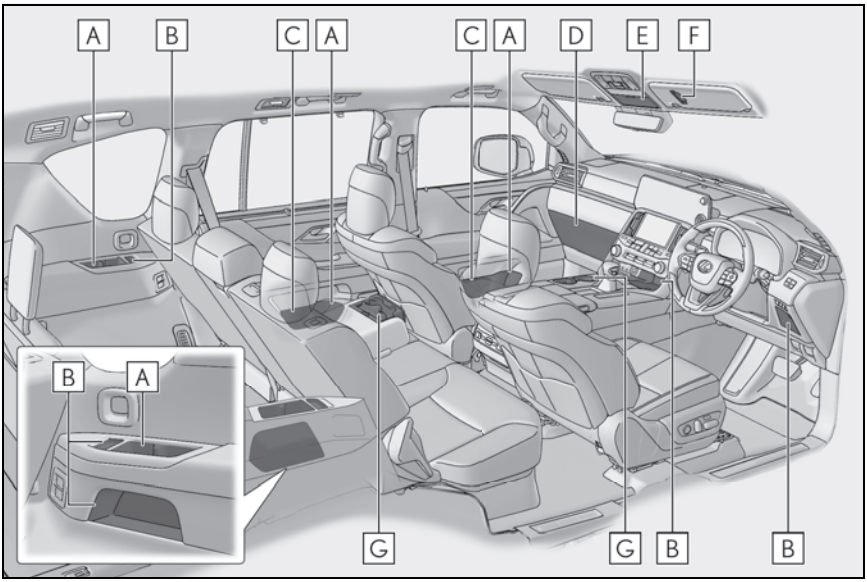
お好みの角度に調整できます。



収納装備一覧

収納装備の位置

▶ 5人乗り車／7人乗り車



A ボトルホルダー（→P.473）

B 小物入れ★（→P.474）

C ドアポケット

D グローブボックス（→P.471）

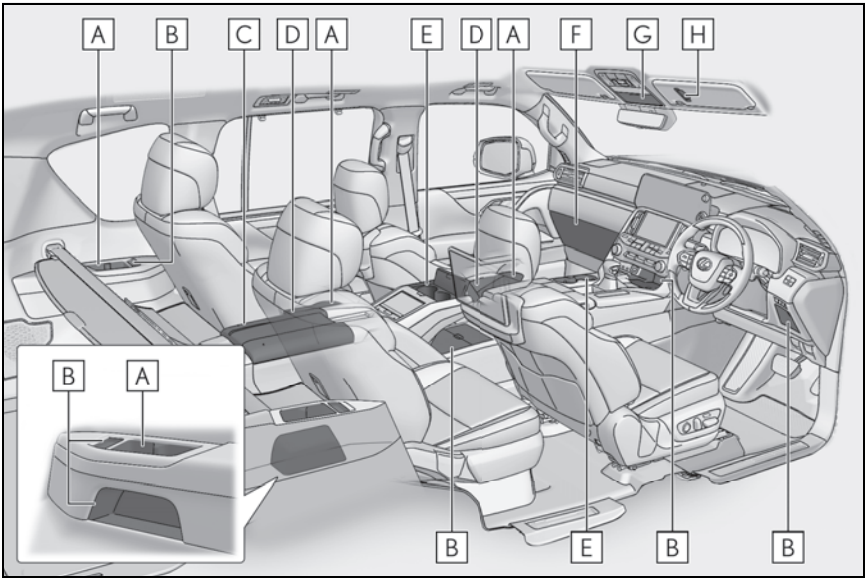
E オーバーヘッドコンソールボックス（→P.472）

F カードホルダー（→P.474）

G カップホルダー（→P.472）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ 4人乗り車



A ボトルホルダー（→P.473）

B 小物入れ★（→P.474）

C コンソールボックス（→P.471）

D ドアポケット

E カップホルダー（→P.472）

F グローブボックス（→P.471）

G オーバーヘッドコンソールボックス（→P.472）

H カードホルダー（→P.474）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

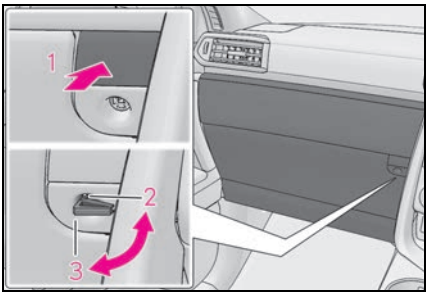
■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

●室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす

●室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックスを使うには



1 開ける

2 メカニカルキーで解錠

3 メカニカルキーで施錠

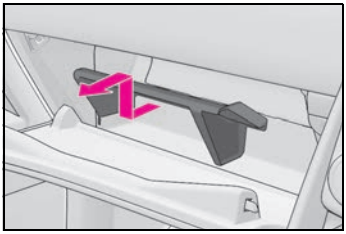
知識

■グローブボックスランプ

車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。

■仕切り板について

グローブボックス内の仕切り板は、引き抜くことで取りはずすことができます。



警告

■グローブボックスを使用しないときは

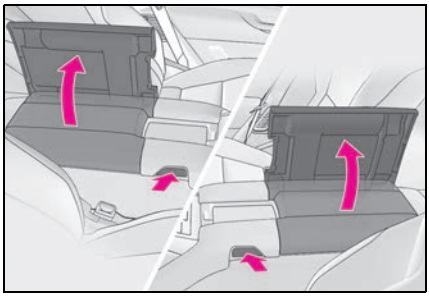
グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コンソールボックス★を使うには

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ボタンを押してからフタを持ち上げて開く

左右から開けることができます。



警告

■**コンソールボックスを使用しないときは**

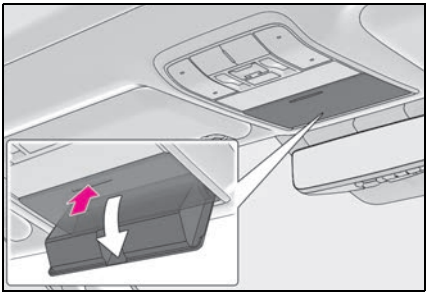
コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**コンソールボックスを開閉するときは**

指などを挟まないよう注意してください。

オーバーヘッドコンソールボックス

フタを押す



警告

■**収納してはいけないもの**

オーバーヘッドコンソールボックスに200g 以上のものを入れないでください。200g 以上のものを入れるとフタが開き収納されているものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

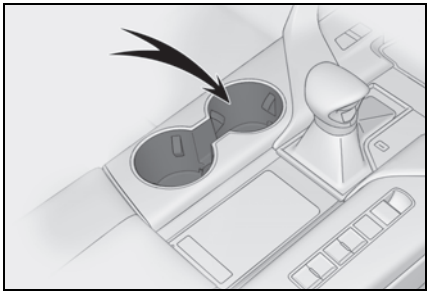
■**オーバーヘッドコンソールボックスを使用しないときは**

オーバーヘッドコンソールボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カップホルダーを使うには

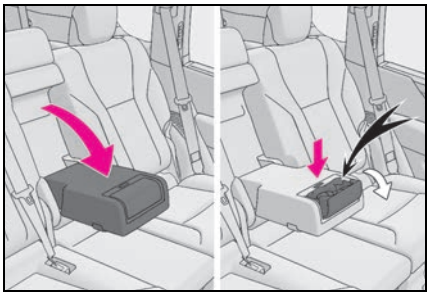
■ フロントシート



■ セカンドシート（A タイプ）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

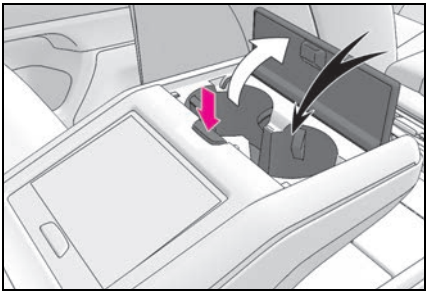
アームレストを手前に倒しボタンを押して開ける



■ セカンドシート（B タイプ）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ボタンを押して開ける



警告

■収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。また、フタを閉じているときでも、ものを収納しないでください。

急ブレーキや事故により収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■使わないときは（セカンドシート）

フタを必ず閉じてください。

走行中の思わぬ事故や急停止により、けがをするおそれがあります。

注意

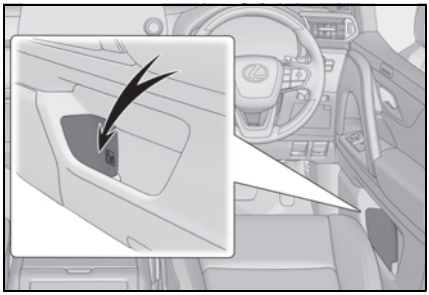
■カップホルダーの破損を防ぐために（セカンドシート [A タイプ] ★）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

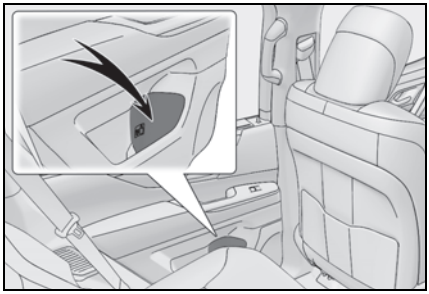
リヤカップホルダーが出ている状態で、リヤアームレストを格納しないでください。

ボトルホルダーを使うには

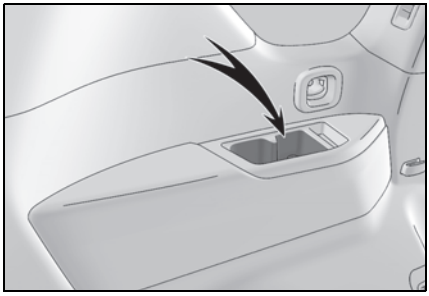
■ フロントドア



■ リヤドア



■ リヤサイドトリム



知識

■ボトルホルダーについて

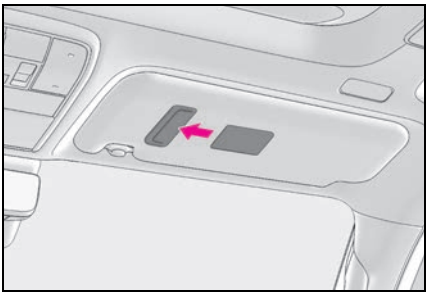
- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

注意

■収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。
ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

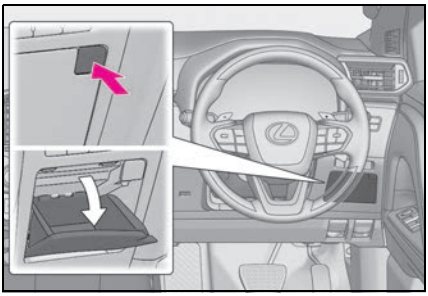
カードホルダーを使うには



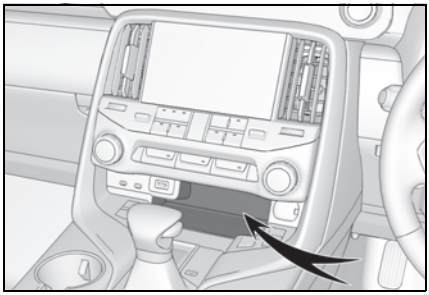
小物入れを使うには

■ インストルメントパネル

ボタンを押す



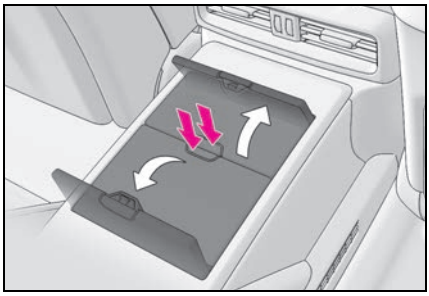
■ フロント部



■ リヤ部★

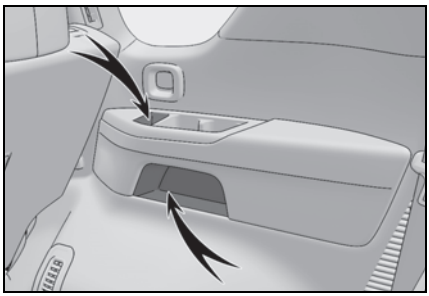
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ボタンを押して開ける



■ リヤサイドトリム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



警告

■収納してはいけないもの

小物入れには、転がりやすいものや、凹面からはみ出るようなものを置かないでください。

急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■小物入れを使用しないとき

フタを必ず閉じてください。

急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ラゲージルーム内装備

警告

■走行中の警告

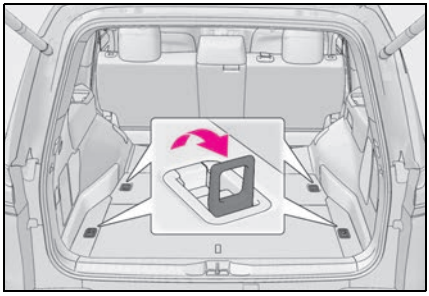
デッキボードのフタを必ず閉じてください。急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カーゴフックを使うには

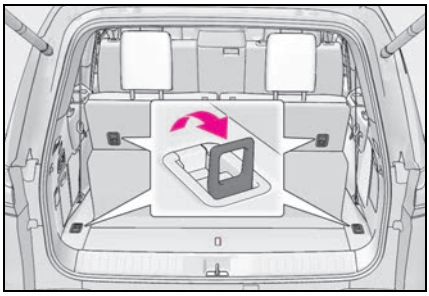
フックを起こして使用する

フックを使って荷物を固定することができます。

▶ 4 人乗り車／ 5 人乗り車



▶ 7 人乗り車

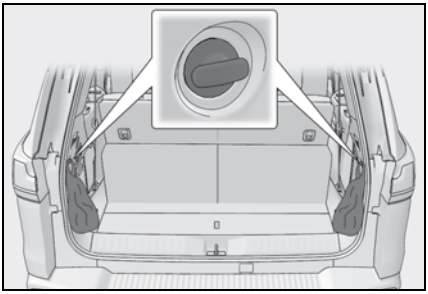


警告

■カーゴフックを使用しないときは

けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

買い物フック



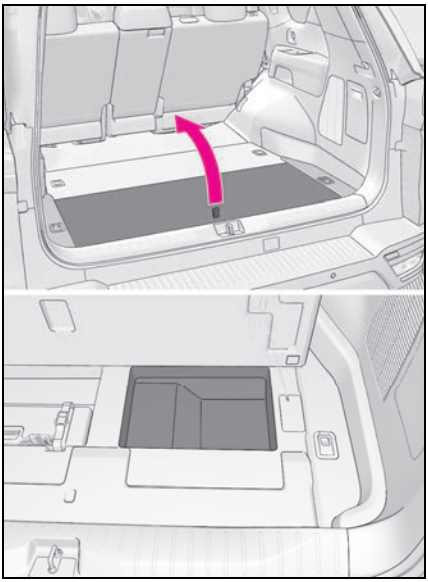
⚠ 注意

■買い物フックの損傷を防ぐために

3kg 以上のものや大きいものを買い物フックに吊り下げないでください。

小物入れを使うには（4 人乗り車／ 5 人乗り車）

デッキボードを持ち上げる

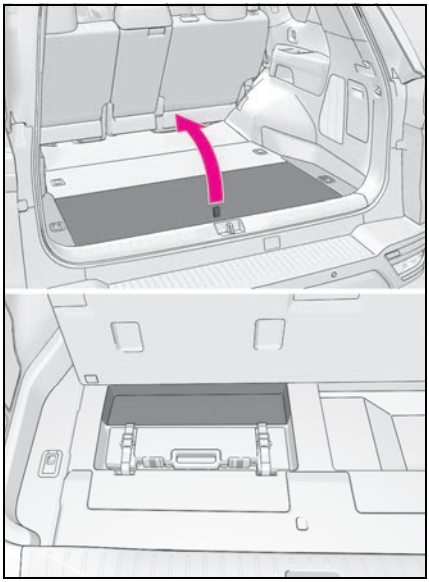


三角表示板等収納スペース

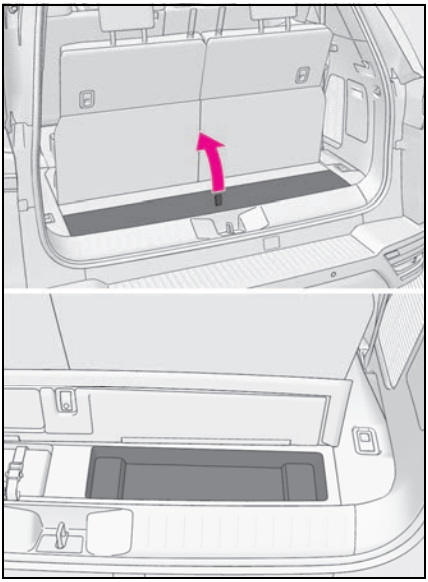
デッキボードを持ち上げる

三角表示板は、レクサス販売店で購入することができます。

▶ 4 人乗り車／ 5 人乗り車



▶ 7 人乗り車



知識

■ **停止表示板について**

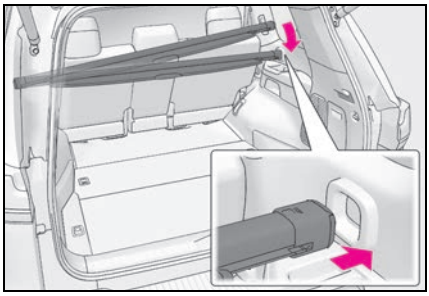
ケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

トノカバー★を使うには（5 人乗り車）

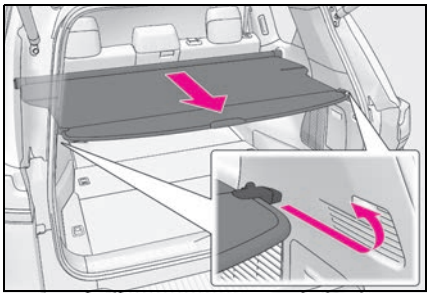
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **トノカバーを取り付けるときは**

1 トノカバー本体の一方をホルダーに取り付け、もう一方の先端を内側に押し込みながらホルダーに取り付ける

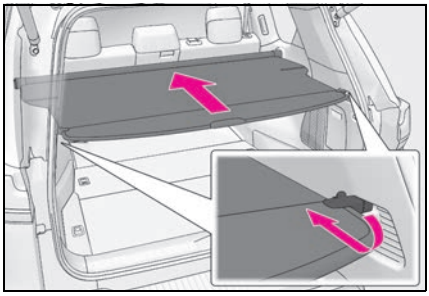


2 トノカバーを引き出して、左右のホルダーにツメをかける



■ **トノカバーを取りはずすときは**

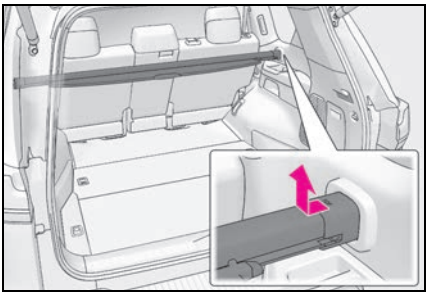
1 トノカバーを左右のホルダーから取りはずし、巻き取る



2 一方の先端を内側に押し込んで、ホルダーから取りはずす

取りはずしたあとは、車から降ろして保

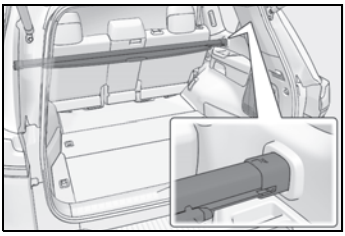
管してください。



知識

■トノカバーを取り付けるときは

両端の “TOP” を上にして取り付けてください。



警告

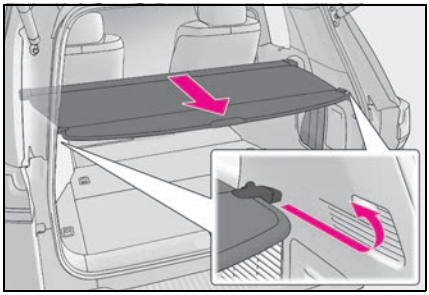
■トノカバーを使用するときは

- トノカバーの上には、お子さまが乗ったりしないようにしてください。トノカバーが破損しお子さまが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- トノカバーを操作するときは、トノカバーとまわりの部品のあいだに指や腕などを入れないように注意してください。指や腕を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

トノカバーを使うには（4 人乗り車）

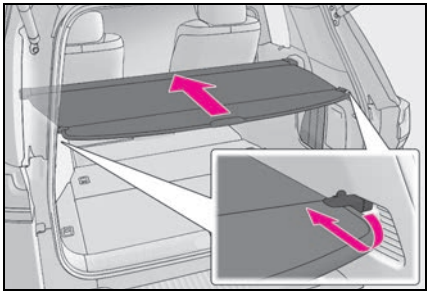
■ トノカバーを引き出すときは

トノカバーを引き出して、左右のホルダーにツメをかける



■ トノカバーを巻き取るときは

トノカバーを左右のホルダーから取りはずし、巻き取る



知識

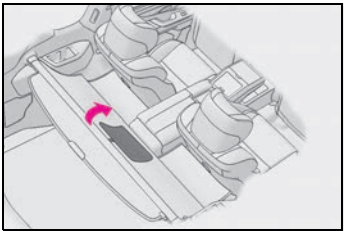
■トノカバーの取りはずしについて

お客様ご自身で取りはずすことを推奨しておりません。取りはずしが必要な場合は、レクサス販売店へお問い合わせください。

■長い荷物を積むとき

シートとトノカバーのあいだにあるフタを開けることで、長い荷物を積むことができます。

使用しないときは、フタを閉めておいてください。



警告

■トノカバーを使用するときは

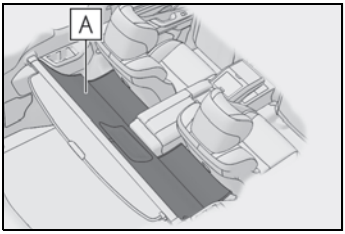
●トノカバーの上には、お子さまが乗ったりしないようにしてください。トノカバーが破損しお子さまが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●トノカバーを操作するときは、トノカバーとまわりの部品のあいだに指や腕などを入れないように注意してください。指や腕を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■トノカバーの損傷を防ぐために

シートとトノカバーのあいだ A にものを置かないでください。



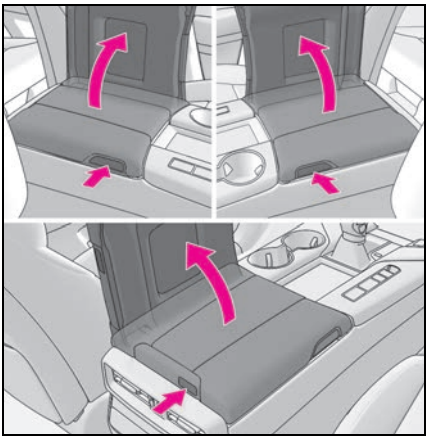
その他の室内装備

クールボックスを使うには

エンジンがかかっているとき、エアコンを利用した保冷をすることができます。

1 ボタンを押しながらフタを持ち上げて開く

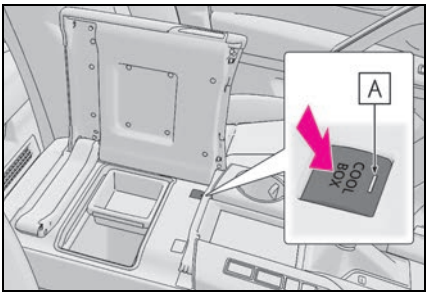
左右・後方から開けることができます。



2 ON ／ OFF を切りかえる

クールボックスが ON のときは、作動表示灯 A が点灯します。

フロントエアコン停止中にクールボックスを ON にすると、自動的にフロントエアコンが作動します。



知識

■ **クールボックスが ON のとき**

● フロントエアコンを停止することはできません。

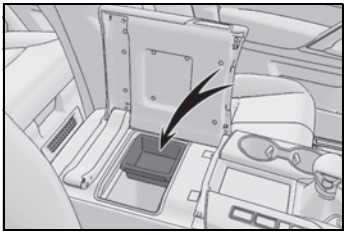
● クールボックス内の温度を調整するために、一時的に作動停止する場合があります。

■ **外気温が約 0 ℃以下のとき**

保冷機能が作動しない場合があります。

■ **クールボックス内のトレイについて**

クールボックス内のトレイを左右に移動する、または引き上げて取りはずすことができます。



■ **クールボックスに入れるものとして適さないもの**

● フタがされていない容器に入ったもの

● 割れもの・腐るもの・臭いが強いもの

● 取扱説明書・車検証・電子機器・CD など

■ **クールボックス内を清掃するときは**

水を少し含ませた布などで、汚れをふき取ってください。ボックス内に直接水をかけると、故障の原因になります。

警告

■走行中の警告

クールボックスを開けたままにしないでください。急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

■クールボックスを開閉するときは

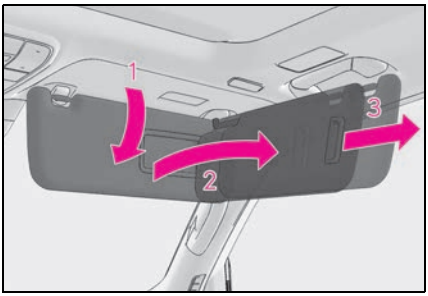
指などを挟まないよう注意してください。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、クールボックスを長時間使用しないでください。

サンバイザーを使うには



1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

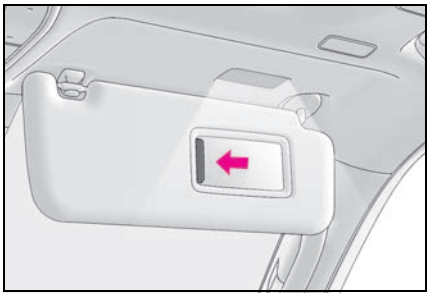
2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

3 エクステンダーを使用するには、バイザーを横にした状態からうしろへ引く

バニティミラーを使うには

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



知識

■自動消灯について

エンジンスイッチが OFF の場合、バニティミラーランプが点灯したままのときは、約 10 分後に自動消灯します。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

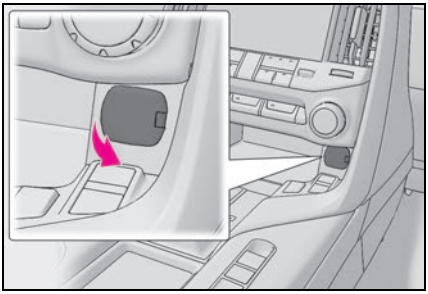
アクセサリーソケットを使うには

DC12 V/10 A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

電気製品の使用時は、車両に装着されているすべてのアクセサリーソケットの合計で、最大消費電力が 120W 以下になるようにしてください。

■ フロント

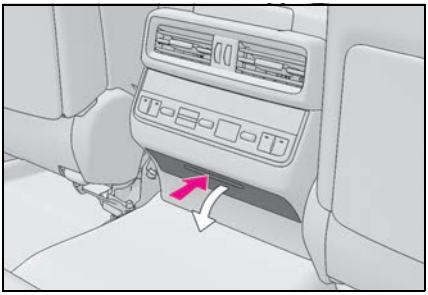
フタを開ける



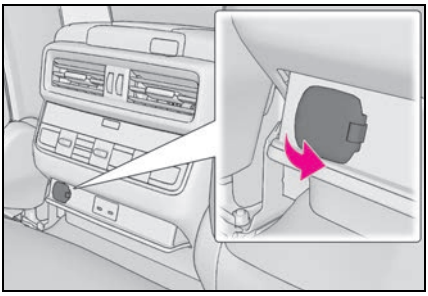
■ センターコンソール後部★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フタを開ける



フタを開ける

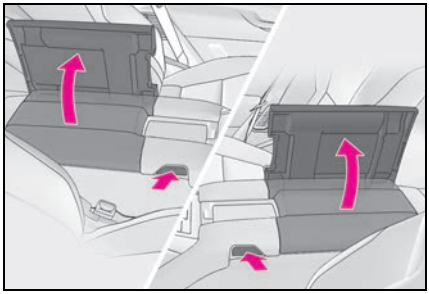


■ コンソールボックス★

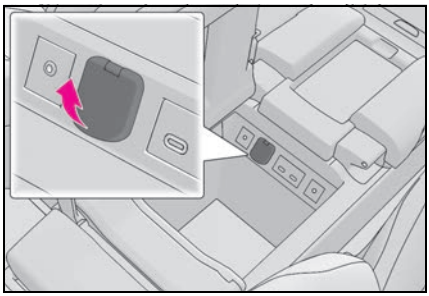
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ボタンを押してからフタを持ち上げて開く

左右から開けることができます。



フタを開ける



知識

■作動条件

エンジンスイッチが ACC、ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

■エンジンスイッチを OFF にするとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。
接続したままにしておくと、エンジンスイッチを正常に OFF することができなくなる場合があります。

警告

■センターコンソール後部のフタについて★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

センターコンソール後部のフタにはものを置いたり、置いたままフタを閉じたりしないでください。また、アクセサリーソケットを使用しないときはフタを閉じてください。

急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、置いたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

■アクセサリーソケットを使用しないときは

ショートや故障を防ぐために、アクセサリーソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

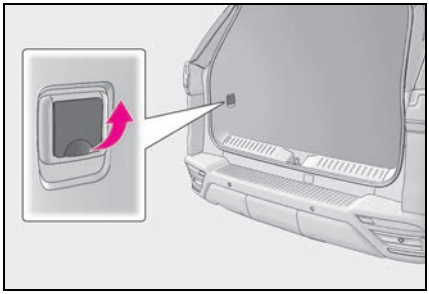
■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

アクセサリーコンセントを使用するには

AC100V で最大消費電力 100W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む



知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■アクセサリーコンセントについて

AC100 V で最大消費電力が 100W 以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。

■正常に使用できないおそれのある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 100 W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切りかえ（50/60Hz）のある機器
- 極めて安定した電力供給を必要とするその他の電気製品

注意

■ショートや故障を防ぐために

コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で、アクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。

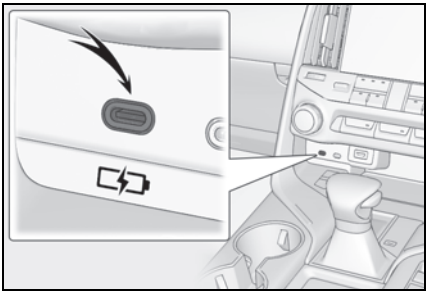
充電用 USB Type-C 端子

DC5V/3.0A（消費電力 15W）の電源としてお使いください。

この USB Type-C 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。

また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

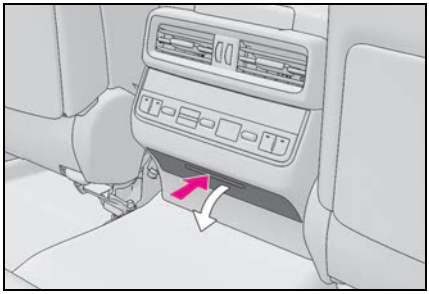
■ フロント

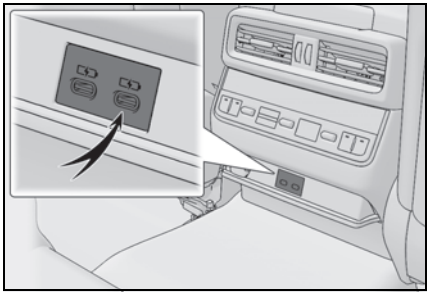


■ センターコンソール後部★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フタを開ける

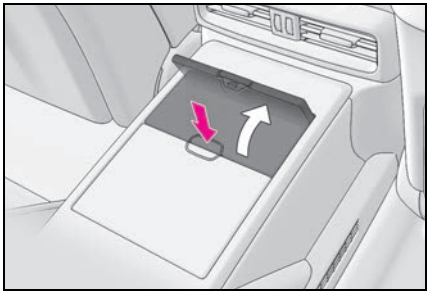


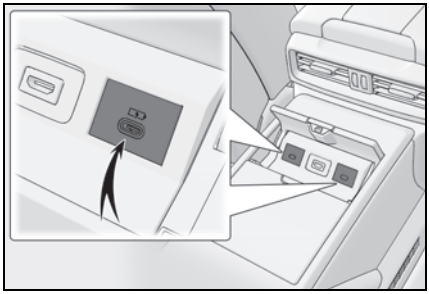


■ 小物入れ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ボタンを押して開ける



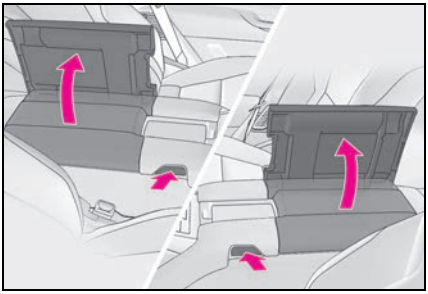


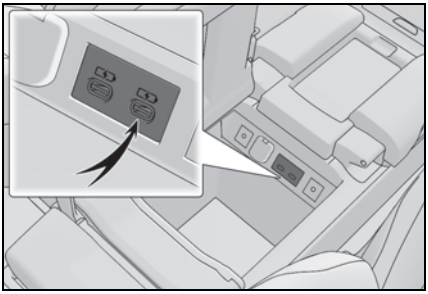
■ コンソールボックス★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ボタンを押してからフタを持ち上げて開く

左右から開けることができます。

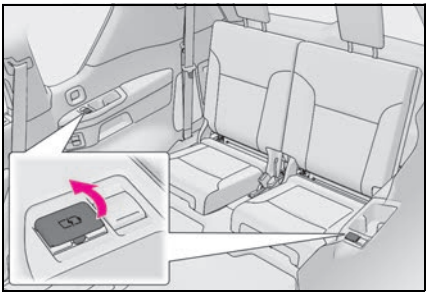




■ リヤサイドトリム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フタを開ける



知識

■充電用 USB Type-C 端子の作動条件

エンジンスイッチが ACC、ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

■充電用 USB Type-C 端子が正常に働かないおそれのある状況

●DC5V/3.0A（消費電力 15W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき

●パソコンと通信を行う機器を接続したとき

●接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）

●炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

警告

■センターコンソール後部のフタについて★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

センターコンソール後部のフタにはものを置いたり、置いたままフタを閉じたりしないでください。また、充電用 USB Type-C 端子を使用しないときはフタを閉じてください。

急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、置いたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

■充電用 USB Type-C 端子の損傷を防ぐために

●端子部に異物を入れないでください。

●水や液体をかけないでください。

●充電用 USB Type-C 端子を使わないときはフタを必ず閉じてください。端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。

●強い力や衝撃を加えないでください。

●分解や改造、取りはずしをしないでください。

■外部機器の損傷を防ぐために

●機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。

●機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、充電用 USB Type-C 端子を長時間使用しないでください。

ワイヤレス充電器（おくだけ充電）を使うには

ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格 Qi に適合したスマートフォンやモバイルバッテリーなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

適合機器は WPC のホームページ（https://www.wirelesspowerconsortium.com/）でご確認いただけます。

充電トレイより大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。
ご使用になる携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください。

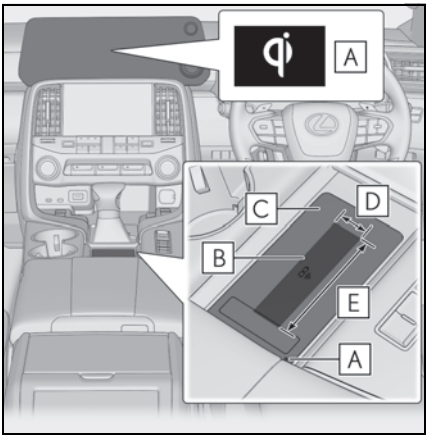
■「Qi」マークについて

The Qi logo is a trademark of the Wireless Power Consortium. Qi ID: 14561

■「おくだけ充電」マークについて

「おくだけ充電」、「おくだけ充電」ロゴは、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

■ 各部の名称（フロント）



A 作動表示灯

B 充電エリア ※

C 充電トレイ

D 約 2.5cm

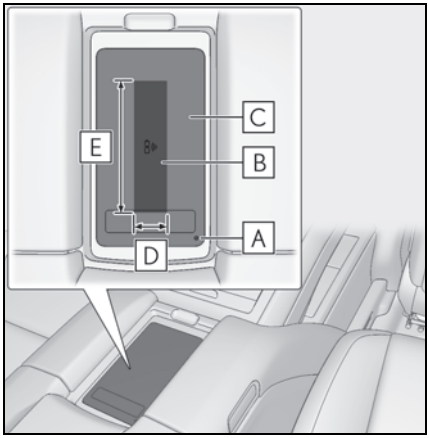
E 約 10cm

※ ワイヤレス充電器内の充電用コイルは、携帯機器内の充電用コイル位置まで充電エリア内を移動することができます。携帯機器のコイル中心が充電エリア内に入っていれば充電が可能です。

また、2 つ以上の携帯機器を同時に充電トレイに置くと、正しく充電用コイルを検出できず、充電できないことがあります。

■ 各部の名称（リヤ★）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



A 作動表示灯

B 充電エリア ※

C 充電トレイ

D 約 2.5cm

E 約 10cm

※ ワイヤレス充電器内の充電用コイルは、携帯機器内の充電用コイル位置まで充電エリア内を移動することができます。携帯機器のコイル中心が充電エリア内に入っていれば充電が可能です。

また、2 つ以上の携帯機器を同時に充電トレイに置くと、正しく充電用コイルを検出できず、充電できないことがあります。

■ 充電する

携帯機器を置く

携帯機器の充電面を下にして、機器の中央が充電エリアの中央に来るように置いください。

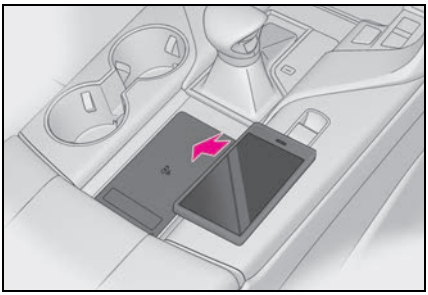
充電中は充電トレイ側の作動表示灯が橙色に点灯します。

充電が行われないときは、「機能が正常に働かないおそれのある状況」（→P.491）をご確認ください。

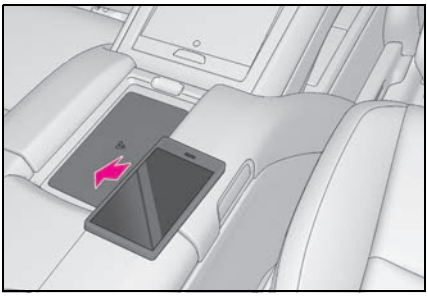
充電が行われないときは、ワイヤレス充電器側の作動表示灯が緑色と橙色にゆっくり点滅し、充電コイルの作動音がくり返し聞こえることがあります。

充電が完了すると充電トレイ側の作動表示灯が緑色に点灯します。

フロント：



リヤ★：



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **作動表示灯の点灯状況**

作動表示灯		状況
充電トレイ側	マルチメディア画面側	
消灯	非表示	マルチメディア電源が OFF、またはエンジンスイッチが OFF のとき
緑（点灯）	灰	待機中（充電可能状態）※1
		充電完了時 ※2
橙（点灯）	青	充電中

■ **再充電機能**

● 充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。

● 充電エリア内で携帯機器が大きく動くと、充電用コイルがはずれて充電がいったん停止しますが、充電エリア内に充電用コイルの中心がある場合は、ワイヤレス充電器内の充電用コイルがその付近まで移動して充電を再開します。充電エリア外まで携帯機器が動くと、充電が停止します。充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。

■ **急速充電機能**

● 次の携帯機器に対しては急速充電が行えます。

- WPC の Ver1.3.2 に準拠した、急速充電に対応した携帯機器
- 7.5W 充電に対応した iOS を搭載している iPhone（iPhone 8 以降の機種）
- Galaxy 独自の急速充電規格に対応した携帯機器

● 急速充電に対応した携帯機器を充電すると、自動的に急速充電機能に切りかわります。

※1待機中は充電用の電力は出力していません。この状態で金属製のものを充電エリアに置いても、加熱されることはありません。

※2携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

■ ワイヤレス充電器が正しく作動しない状況

ワイヤレス充電器が正しく作動しない状況と、想定される原因の対処方法は次のとおりです。

作動表示灯		想定される原因・対処方法
充電トレイ側	マルチメディア画面側	
橙（1 秒間に 1 回の点滅をくり返す）	灰	**車両とワイヤレス充電器の通信不良** **→ エンジンが始動しているときは、一度エンジンを停止し、再始動してください。** エンジンスイッチのモードが ACC のときは、一度エンジンを始動してください。（→P.188）
緑（1 秒間に 1 回の点滅をくり返す）	非表示	**ワイヤレス充電器とマルチメディアシステムの通信異常** **→ エンジンが始動しているときは、一度エンジンを停止し、再始動してください。** エンジンスイッチのモードが ACC のときは、一度エンジンを始動してください。（→P.188）
緑（点灯）	青	**AM 放送局を自動選局している** **→ AM 放送局の自動選局が完了するのをお待ちください。また、自動選局が完了しないときは、自動選局を停止させてください。**
		スマートエントリー＆スタートシステムが電子キーの検出を行っている。 **→ 電子キーの検出が完了するのをお待ちください。**

作動表示灯		想定される原因・対処方法
充電トレイ側	マルチメディア画面側	
緑（点灯）	灰	**異物検知：** **充電エリア内に金属製の異物があり、異物の異常過熱防止機能が働いた** **→ 充電エリア内にある異物を取り除いてください。**
		携帯機器のずれ・充電面からの浮き： **携帯機器の充電用コイルの中心が充電エリアからはずれた、レンズの凸量が大きい、またはケースが厚いため、異常過熱防止機能が働いた** **→ 携帯機器を充電トレイから取り出し、5 秒後に充電トレイの中央付近に置き直してください。また、ケースやカバーを携帯機器に装着している場合は、はずしてください。**
		携帯機器のバッテリー保護機能： **満充電に達する前に、携帯機器のバッテリー保護機能により充電が停止した** **→ 携帯機器の仕様のため、設定を確認してください。**
		電子キーの検出状態が継続： **車両カスタマイズによってマルチメディア機能を利用しているとき、電子キーが確定されず検出状態が継続された** **→ エンジンスイッチを ACC または ON にして、キーを確定させてください。**
橙（4 回連続の点滅をくり返す）	灰	**ワイヤレス充電器内の温度が一定値をこえたことによる安全停止** **→ いったん充電を停止し、携帯機器を充電トレイから取り出して、温度が下がるまでしばらく待ってから充電を開始してください。**

知識

■使用条件

エンジンスイッチが ACC、ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

■使用できる携帯機器について

●ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、Qi Ver1.0 および 1.3.2 以降、および Qi2 規格の MPP（Magnet Power Profile）に対応した携帯機器に対しては、互換性を保証しているものではありません。

●携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。

●ただし、次の携帯機器に対しては、5W をこえる充電に対応しています。
・7.5W の充電に対応した iPhone に対しては、7.5W 以下の充電に対応しています。
・Galaxy 独自の充電規格に準拠した携帯機器に対しては、10W 以下の充電に対応しています。
・WPC 規格の Ver1.3.2 に規定されている EPP 出力に準拠した携帯機器に対しては、15W 以下の充電に対応しています。

■スマートエントリー＆スタートシステムの使用について

充電動作中にスマートエントリー＆スタートシステムが電子キーの検出を行うと、一時的に充電を停止します。電子キーが検出されると、充電は自動的に再開します。

■携帯機器にカバーやアクセサリーを付けるときは

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリーを付けた状態で充電しないでください。カバー（一部メーカー純正品を含む）やアクセサリーの種類によっては充電できない場合があります。また、本機は Qi2 に対応していないため、Qi2 に対応したアクセサリーおよびカバーを装着した状態では充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いても充電が行われないときは、カバーやアクセサリーをはずしてください。

■充電中の AM ラジオ放送連携機能

●充電中、AM ラジオにノイズが入る場合、充電の周波数を自動で切りかえてノイズを低減します。

●AM ラジオを自動選局中は、充電によって発生するノイズで誤選局しないよう、一時的に充電を停止します。選局が終了すると、充電は自動的に再開します。

■充電中についての留意事項

●車室内に電子キーを検出できない場合は、充電することができません。ドアの開閉時は、一時的に充電が停止することがあります。

●充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。

また、ワイヤレス充電器内の温度を下げるためファンが作動することがありますが、異常ではありません。

■作動中の音について

エンジンスイッチを押して ACC または ON に変更したとき、および携帯機器を検出中は“ジー”や“カチッ”と作動音がしますが、異常ではありません。

■清掃について

→P.502

■機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

●携帯機器が満充電のとき

●有線接続で携帯機器を充電中のとき

●充電エリアと携帯機器のあいだに異物があるとき

●充電により、携帯機器の温度が高温になっているとき

●炎天下などにより、充電エリア付近の温度が 35 ℃以上になっているとき

●携帯機器の充電面を上にして置いたと

き

●折りたたみ式等の小型の携帯機器の充電コイルが充電エリアからはずれているとき

●携帯機器が充電トレイよりも大きいとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが車内にないとき

●携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに次のようなものを挟んだり、装着したりしているとき
・厚みがあるケースやカバー
・充電面が平面状ではなく、段差や傾斜があるケースやカバー
・厚みがあるデコレーション
・指リングやストラップなどのアクセサリー
・カメラレンズを保護するカバー

●携帯機器の充電面にカメラなどの突起があり、携帯機器の充電面と充電エリアとのあいだにすき間ができるとき

●携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア
・金属製のデコレーション
・金属製のケースやカバー
・携帯機器の充電面側に磁石が入った手帳型ケース

●近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●2 つ以上の携帯機器を同時に充電エリアに置いたとき

●S ペン（Galaxy 端末付属のタッチペン）内蔵の端末（Note シリーズ等）をご使用の場合、S ペンを挿入したままトレイに置いたとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。レクサス販売店へお問い合わせください。

■スマートフォンの OS を更新したとき

スマートフォンの OS バージョンを更新したとき、充電の仕様が大きく変更されることがあります。WPC の対応バージョンが変更された場合、急速充電機能が使えなくなる場合があります。詳しくは各メーカーのホームページ 情報等でご確認ください。

■商標について

●iPhone は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。なお、iPhone の商標はアイホン株式会社のライセンスにもとづき使用されています。

●Galaxy は、Samsung Electronics Co.,Ltd. の商標または登録商標です。

警告

■運転中の注意

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■走行中の注意

コードレスヘッドフォンなど小型軽量の携帯機器は、走行中に充電しないでください。非常に軽量のため充電トレイから飛び出し、思わぬ事故の原因になるおそれがあり危険です。

警告

■電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■故障ややけどを防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと装置の故障や損傷、車両火災、発熱によるやけど、または感電につながるおそれがあります。

- 充電中に、充電エリアと携帯機器のあいだに金属物を挟まない
- 充電エリアにアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない
- 携帯機器本体および外付けのケースやカバーなどに対して、充電エリアと接触する側に、アルミなどのシールや金属製のものを貼り付けたまま充電しない
- 小物入れがわりにものを置かない
- 強い力や衝撃をかけない
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 磁気を帯びたものを近付けない
- 充電エリアに、ほこりがかぶった状態で充電しない
- 布などをかぶせて充電しない

注意

■故障やデータ破損を防止するために

- 充電中に、充電エリアにクレジットカード・ETC カードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。さらに、車両の電子キーを充電中の携帯端末上や充電トレイの空いているスペースに置くと、磁気の影響により電子キーが作動しなくなるおそれがあります。また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりするおそれがありますので、近付けないでください。
- 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに、交通系 IC カードなど非接触型 IC カードを挟んだまま充電しないでください。IC チップが非常に高温になり、携帯機器や IC カードが破損するおそれがあります。特に、非接触型 IC カードを取り付けられるケースやカバーを携帯機器に装着したまま充電しないようにご注意ください。
- 携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因になります。

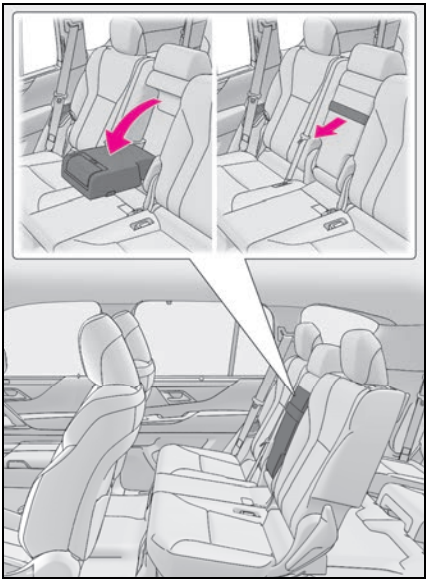
■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

アームレストを使うには（セカンドシート）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

手前に倒して使用する



注意

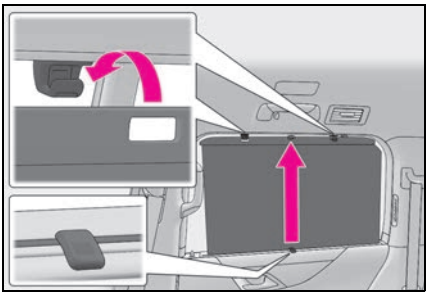
■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

リヤドアサンシェードを使うには

ツマミをしっかりと持って引き出し、フックにかける

もどすときはフックからはずし、ゆっくり収納します。



警告

■リヤドアサンシェードについて

- リヤドアサンシェード操作中は、フックや溝に指などを置かないでください。巻き込まれてけがをするおそれがあります。
- フックが片方はずれた状態で使用しないでください。

リヤドアサンシェードがはずれ、ケガをするおそれがあります。

注意

■正常に機能させるために

次のことをお守りください。

- 開閉のさまたげになる部分にものを置かない
- リヤドアサンシェードにものを貼らない
- リヤドアサンシェードをフックにかけているときに過度の負荷をかけない
- リヤドアが開閉しているときは、リヤドアサンシェードを操作しない
- 収納するときに傾けた状態で収納しない
  傾けた状態で収納すると、スクリーン部のしわの原因になります。

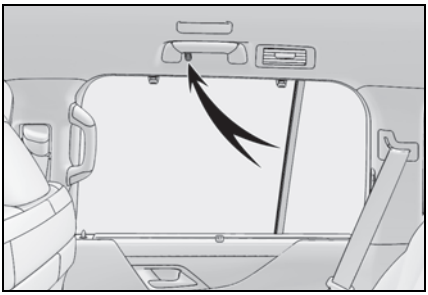
■リヤドアサンシェードの破損を防止するために

次のことをお守りください。

- フックにはリヤドアサンシェード以外のものをかけない
  フックが破損するおそれがあります。
- フックにかけた状態でスクリーン部をひっぱらない
  スクリーン部が破損するおそれがあります。

コートフックを使うには

リヤドアの上にあるアシストグリップには、コートフックが付いています。



警告

■**コートフックへかけてはいけないもの**

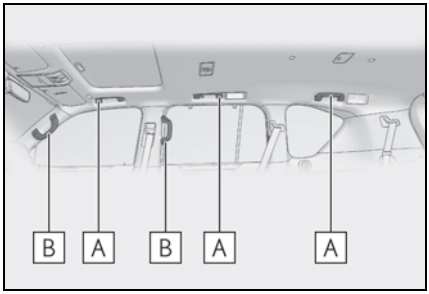
ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。

SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

アシストグリップを使うには

天井に取り付けられているアシストグリップ（回転式）は、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。

乗降時などでは、ピラーに取り付けられているアシストグリップ（固定式）をお使いください。



A アシストグリップ（回転式）

B アシストグリップ（固定式）

警告

■**アシストグリップ（回転式）について**

アシストグリップ（回転式）は、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

注意

■**破損を防ぐために**

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけたりしないでください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 498

内装の手入れ 502

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 505

エンジンルームカバー 506

ウォッシャー液の補充 508

タイヤについて 508

タイヤ空気圧について 517

エアコンフィルターの交換 518

電子キーの電池交換 520

ヒューズの点検・交換 522

電球（バルブ）の交換 524

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。（およそ体温以下を目安としてください）

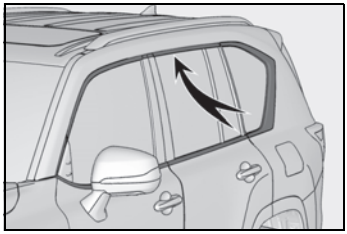
なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、レクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

知識

■黒色ステンレスモール★について

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

図で示す部品には、黒色ステンレスの表面処理を施しています。塗装の損傷を防ぐため、研磨剤などで表面を強くこすらないでください。塗装がムラになることがあります。



■自動洗車機を使うとき

●お車を洗う前に：
・ドアミラーを格納する
・パワーバックドアを停止する

走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。

●ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。

●洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

●自動洗車機に入れる前に、車両の給油口がしっかり閉まっていることを確認してください。

■高圧洗浄機を使うとき

●室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

●駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。

近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■スマートエントリー＆スタートシステムについて

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてくだ

さい。
・キーを車両から約 2m 以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）
・キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P.125）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。すべてのドアを施錠すると警報は止まります。

■ホイール・ホイールキャップについて（マット塗装ホイール非装着車）

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。

●塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・硬いブラシを使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ホイール・ホイールキャップについて（マット塗装ホイール装着車）

マット塗装のホイール・ホイールキャップの場合はお手入れ方法が異なります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

●水洗いで早めに汚れを落としてください。汚れがひどい場合は、中性洗剤をうすめて使用してください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流し、やわらかい布で水滴をふき取ってください。

●スポンジまたはやわらかい布を用いて手洗いで汚れを落としてください。

●マット塗装の損傷や艶が出ることを防ぐために、次のことをお守りください。
・コーティング剤やワックスは使用しない
・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・タイヤクリーナやタイヤワックスを付着させない
・乾いた布やブラシ等で磨いたり、こすったりしない
・自動洗車機を使用する際は、ホイール専用ブラシでの洗浄は行わない
・高圧式スプレーガンやスチームクリーナは使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキキャリパーの塗装について

●洗剤を使用する場合は中性洗剤を使用してください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●ブレーキキャリパーが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■ブレーキパッドやディスクローターについて

水にぬれた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

●フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす

●汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する

●コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない

●金属製の道具で霜取りをしない

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

●中性洗剤を水で約5%にうすめてやわらかい布に含ませふき取る

●乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る

●油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

警告

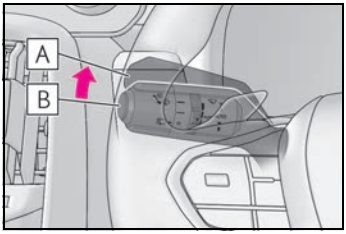
■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■フロントウインドウガラスを清掃するときは

ワイパースイッチを OFF にしてください。

AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



A OFF

B AUTO

●雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき

●水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき

●フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき

●車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■リヤバンパー・フロントバンパーについて

リヤバンパーまたはフロントバンパーの塗装に傷がつくと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。レクサス販売店にご相談ください。

●Lexus Safety System +

●BSM

●後方車両への接近警報

●RCTA

●安心降車アシスト

●後方車両接近告知

●周辺車両接近時サポート

警告

- セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）
- PKSB
- クリアランスソナー

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
  - ・海岸地帯を走行したあと
  - ・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
  - ・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
  - ・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
  - ・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
  - ・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
  ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。
  レンズを損傷するおそれがあります。

■自動洗車機を使用するときは

ワイパースイッチを OFF にしてください。AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使用するときは

- 洗浄時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。
  高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- レーダー専用カバー裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。部品故障の原因になるおそれがあります。
- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
  高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
  - ・駆動系部品
  - ・ステアリング部品
  - ・サスペンション部品
  - ・ブレーキ部品
- モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

車内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1 % にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
  水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■デジタルインナーミラーのお手入れについて

→P.155

警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。（→P.37）
  電気の不具合により、エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ワイヤレス充電器（おくだけ充電）（→P.486）をぬらさないでください。発熱によるやけど、または感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

注意

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。(→P.225)

■フロントウインドウガラス・リヤウインドウガラス・リヤクォーターガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

サテン仕上げ金属コーティング部分の手入れをするには

● 水で湿らせたやわらかい布または合成セーム皮で汚れをふき取る

● 乾いたやわらかい布で表面に残った水分を完全にふき取る

知識

■サテン仕上げ金属コーティング部分のお手入れについて

表面に本物の金属層を使用していますので、普段のお手入れが大切です。汚れたまま長いあいだ放置すると、汚れが落ちにくくなります。

本革部分の手入れをするには

● 掃除機などでほこりや砂を取り除く

● うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

ウール用の中性洗剤を水で約 5 % にうすめて使用してください。

● 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る

● 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

注意

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

注意

● ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

合成皮革部分の手入れをするには

● 掃除機などでほこりを取り除く

● 中性洗剤を水で約 1% にうすめてやわらかい布に含ませふき取る

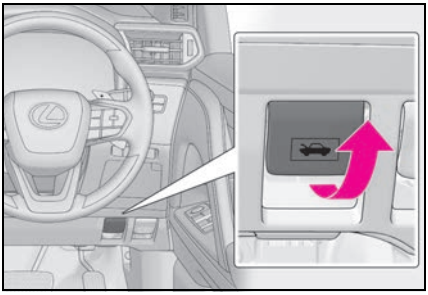
● 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

ボンネット

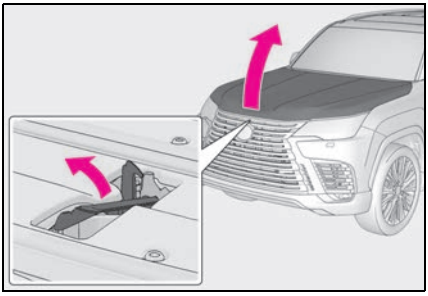
ボンネットを開けるには

1 ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを引き上げてボンネットを開ける



警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■けがを防ぐために

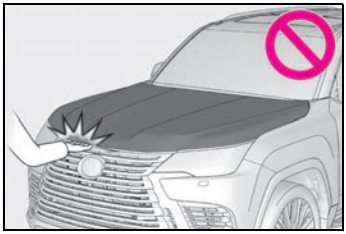
走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



注意

■ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

● ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

注意

●ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。

・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない

・ロッド部を軍手などでふれない

・ボンネットにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けない

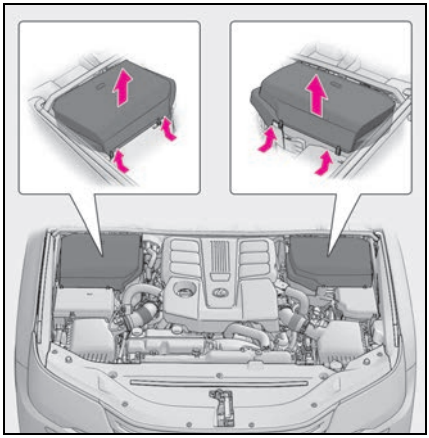
・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

エンジンルームカバー

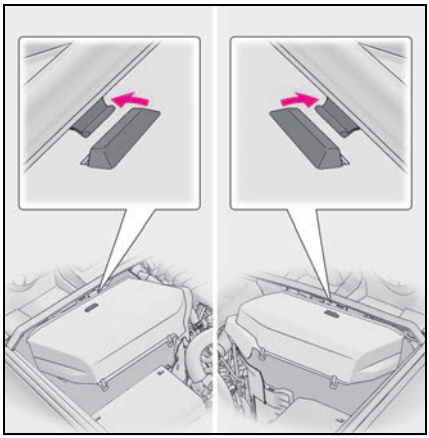
メンテナンス時など、必要に応じてエンジンルームカバーを開けたままにしたり、取りはずすことができます。

エンジンルームカバーを開けたままにするには

1 ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

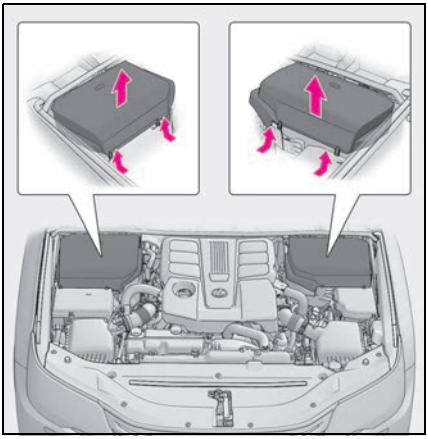


2 図のようにカバー上部の穴にツメを挿し込んでカバーを固定する

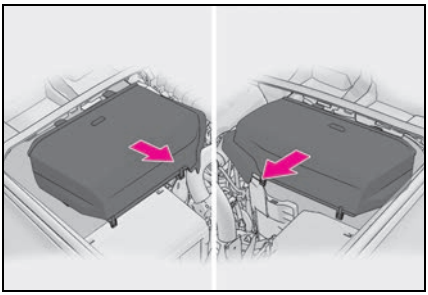


エンジンルームカバーを取りはずすには

1 ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

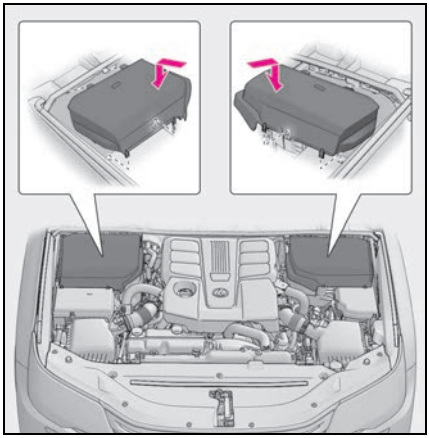


2 カバーを手前に引いて取りはずす



エンジンルームカバーを取り付けるには

図のようにツメを挿し込んで、カバーを取り付ける



警告

■けがを防ぐために

エンジンルームカバーを開けたままにするか、取りはずす前に、エンジンスイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

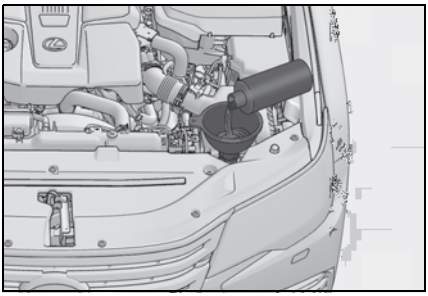
■エンジンルームカバーを取り付けたあとは

もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

ウォッシャー液の補充

補充するには

ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに “ウォッシャー液を補充してください” と表示されたら、ウォッシャー液を補充する



警告

■ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

知識

■タイヤ空気圧について

▶265/70R18 116H

前輪：230kPa（2.3kg/cm^2）※

後輪：230kPa（2.3kg/cm^2）※

▶265/55R20 113V

前輪：230kPa（2.3kg/cm^2）※

後輪：230kPa（2.3kg/cm^2）※

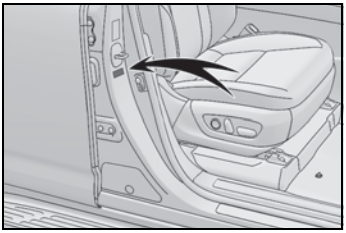
▶265/50R22 109V

前輪：230kPa（2.3kg/cm^2）※

後輪：230kPa（2.3kg/cm^2）※

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧



■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■走行中に空気もれが起こったら

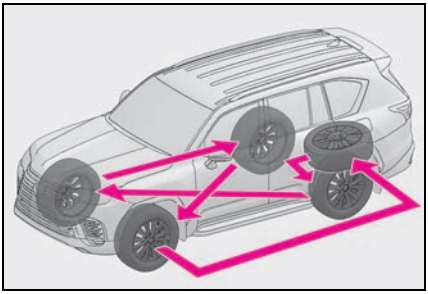
走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。



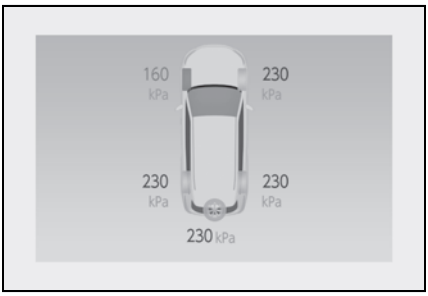
タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、レクサスは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムへタイヤ位置の登録の操作を確実に行ってください。(→P.512)

タイヤ空気圧警報システム

ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

タイヤ空気圧警報システムは状況に応じて 2 種類の警報とタイヤ空気圧警告灯、ブザーでお知らせをします。



● マルチインフォメーションディスプレイに “ 空気圧を調整してください ” が表示されたとき

通常の使用によって、タイヤの空気圧が低下した場合に表示されます。

● マルチインフォメーションディスプレイに “ すみやかに安全な場所でタイヤ点検 ” が表示されたとき

急激にタイヤの空気圧が低下した場合に表示されます。
ただし、このシステムはパンク等を検出することができない場合があります。

● タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をマルチメディア画面に表示できます。(→P.93)

表示される単位を変更することができます。

知識

■タイヤ空気圧警報システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。
日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

■タイヤ空気圧表示について

●エンジンスイッチを ON にしたあと、空気圧が表示されるまで約 3 分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで約 3 分かかります。

●タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

●次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。
・純正ホイール以外を使用したとき
・純正装着タイヤ以外に交換したとき

・指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
・タイヤチェーンなどを装着しているとき
・中子式ランフラットタイヤを装着しているとき
・電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
・車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
・タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
・タイヤ空気圧警報バルブ／送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
・タイヤ空気圧警報バルブ／送信機の ID がタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき

●次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。
・近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況がかわることで正しく表示されることがあります。

●停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。

●タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、検出できません。

空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

バルブ／送信機を装着する場合は、専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。（→P.514）

知識

■ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約 10 分走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。

注意

■タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

●タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。

●レクサス指定の純正ホイールを使用してください。
レクサス指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。

●ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。
空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。

●バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが腐食し、固着やエアーもれの原因となります。

注意

●バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

タイヤ位置を登録するには

■ タイヤ位置の登録が必要なとき

タイヤローテーションを行ったときは、タイヤの位置を登録する必要があります。

お客様自身でタイヤ位置を登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることでタイヤ位置は登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。

■ タイヤ位置の登録のしかた

1 車を安全な場所に駐車し、15 分以上エンジンを停止する

2 エンジンを始動する

車両が動いているときは、タイヤ位置の登録操作はできません。

3 マルチメディア画面の⚙を選択する

4 “車両カスタマイズ” を選択する

5 “タイヤ空気圧” を選択する

6 “タイヤローテーション” を選択する

7 “OK” を選択する

マルチインフォメーションディスプレイにタイヤ位置登録中のメッセージが表示されます。タイヤ空気圧表示が “---” になり、タイヤの位置判定を開始します。

8 約 40km/h 以上で適度に右左折や直進をしながら約 10 ～ 30 分走行する

タイヤの位置判定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに各タイヤの空気圧の表示と登録完了のメッセージが表示され、タイヤ位置の登録が完了します。

約 40km/h 以上を維持できない場合でも長時間運転すると登録は完了しますが、1 時間以上走行しても登録ができない場合は、エンジンスイッチは ON のまま、安全な場所に約 15 分以上停車したあと、再度走行し直してください。

知識

■タイヤ位置を登録するとき

●通常は約 30 分以内の走行で登録が完了します。

●車速が約40km/h以上のときに行われます。

■タイヤ位置登録の操作について

●タイヤ位置登録中にエンジンスイッチを OFF にしてしまった場合は、次回 ON にしたとき、自動的にタイヤ位置判定処理が再開されるため、あらためて登録し直す必要はありません。

●タイヤ位置判定中にタイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時はタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

■タイヤ位置登録がうまくいかないとき

●次の場合は、タイヤ位置の登録に時間がかかる場合や、登録ができない場合があります。

・約 40km/h 以上で走行していない
・未舗装の場所を走行した

●1 時間以上走行しても登録が完了できない場合は、安全な場所に約 15 分以上停車したあと、再度走行し直してください。

●タイヤ位置登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。

タイヤの空気圧を設定するには

■ タイヤ空気圧の設定が必要なとき

次のような場合は、タイヤの空気圧をタイヤ空気圧警報システムに設定する必要があります。

● 指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき

● タイヤのサイズを変更するなどして、タイヤの設定空気圧を変更したとき

タイヤ空気圧を指定空気圧に調整している場合は、指定空気圧の値を選択して設定します。(→P.513)

指定サイズ以外のタイヤの使用などにより、タイヤ空気圧が指定空気圧以外の場合は、現在の空気圧で設定します。必ず空気圧を適切な値に調整してから設定操作をしてください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。(→P.513)

■ 指定空気圧での設定のしかた

1 エンジンを始動する

車両が動いているときは、空気圧は設定できません。

2 マルチメディア画面の⚙を選択する

3 “車両カスタマイズ” を選択する

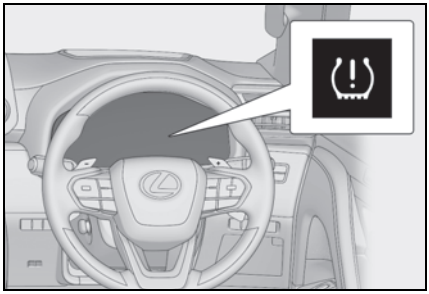
4 “タイヤ空気圧” を選択する

5 “指定空気圧設定” を選択し、フロントタイヤとリヤタイヤの空気圧を選択する

6 “OK” を選択する

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅します。

空気圧の設定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに設定完了のメッセージが表示されます。



■ 現在の空気圧での設定のしかた

1 タイヤの空気圧を適切な値に調整する

タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。

2 エンジンを始動する

車両が動いているときは、空気圧は設定できません。

3 マルチメディア画面の⚙を選択する

4 “車両カスタマイズ” を選択する

5 “タイヤ空気圧” を選択する

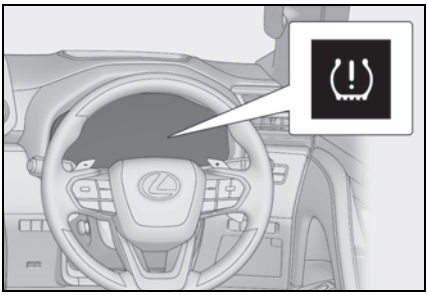
6 “現在の空気圧を設定” を選択する

7 “継続” を選択する

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに設定中のメッセージが表示されます。

空気圧の設定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに設定完了

のメッセージが表示されます。



知識

■タイヤ空気圧警報システムの警報精度について（現在の空気圧で設定するとき）

●現在の空気圧で設定する場合、タイヤ空気圧警報システムの警報精度は、空気圧設定を実施したときの状況によって異なります。このため、空気圧がわずかに低下している場合や、空気圧設定したときより高い空気圧の場合でも警報することがあります。

●必ず空気圧を調整した上で、現在の空気圧で設定を実施してください。なお、空気圧の調整および設定操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。

■空気圧設定の操作について（現在の空気圧で設定するとき）

●空気圧設定中にエンジンスイッチをOFFにしてしまった場合は、次回ONにしたとき、自動的に設定処理が再開されるため、あらためて設定し直す必要はありません。

●空気圧設定の必要がない状態で誤って現在の空気圧で設定の操作を行ってしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度指定空気圧で設定もしくは、現在の空気圧で設定で空気圧設定操作を行ってください。

■タイヤ空気圧の設定がうまくいかないとき

●現在の空気圧で設定をする場合、通常約3分で終了します。

●空気圧設定操作時にタイヤ空気圧警告灯が3回点滅しない場合、設定が開始されていないおそれがありますので、設定手順を最初からやり直してください。

●上記の方法でも空気圧を設定できない場合は、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■現在の空気圧で設定するとき

必ず空気圧を適切な値に調整してから設定操作をしてください。お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

IDコードを登録するには

■ IDコード登録が必要なとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有のIDコードが設定されているため、新しいバルブ／送信機を装着したときは、車両のコンピューターにIDコードを登録する必要があります。

■ IDコードの登録のしかた

登録操作を行う前に、車両の近くにタイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールがないことを確認してください。

1 車を安全な場所に駐車し、15分以上エンジンを停止する

2 エンジンを始動する

車両が動いているときは、ID コードの登録操作ができません。

3 マルチメディア画面の⚙を選択する

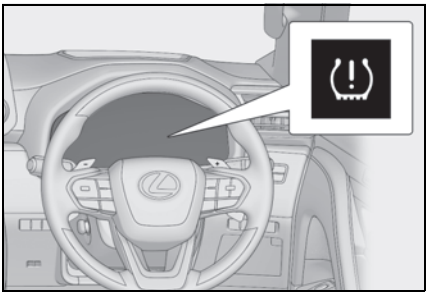
4 “車両カスタマイズ” を選択する

5 “タイヤ空気圧” を選択する

6 セット選択に表示されているセット（“セット 1” または “セット 2”）を確認する

表示されているセットに ID コードを登録します。
登録するセットを変更したい場合は、表示されているセットをタッチし、登録したいセットを選択します。

すでに ID コードが登録されているときは、タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに切りかえ中のメッセージが表示されます。

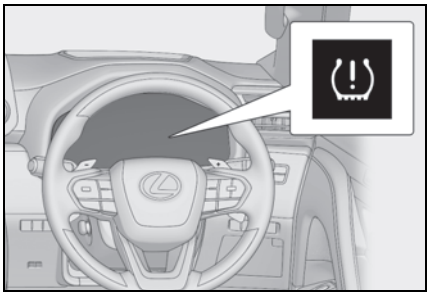


7 “新規タイヤ登録” を選択する

8 “OK” を選択する

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに登録中のメッセージが表示されます。ID コードの切りかえが中止され、登録を開始します。

ID コードの登録が開始すると、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅したあと点灯します。また、登録中はマルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧表示が “---” になります。



9 約 40km/h 以上で適度に右左折や直進をしながら約 10 ～ 30 分走行する

登録が完了すると、タイヤ空気圧警告灯が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイに登録完了のメッセージが表示されます。

約 40km/h 以上を維持できない場合でも時間をかけることにより登録は完了しますが、1 時間以上走行しても登録できない場合は、最初からやり直してください。

10 異なる空気圧に調整されているタイヤを取り付けた場合は、タイヤ空気圧警報システムにタイヤ空気圧を設定する（→P.513）

同じ空気圧に調整されている場合は、空気圧を設定する必要はありません。

知識

■ID コードの登録をするとき

- 通常は約 30 分以内の走行で登録が完了します。
- 車速が約40km/h以上のときに行われます。
- ID コードはお客様自身で登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。

●すでに ID コードの登録がされているタイヤセットを使用する場合は、ID 切りかえを行うと短い時間で切りかえることができます。(→P.516)

■ID コードの登録がうまくいかないとき

●次の場合は、ID コードの登録に時間がかかる場合や、登録できない場合があります。
・走行前に約 15 分以上駐車していない
・約 40km/h 以上で走行していない
・未舗装の場所を走行した
・他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない
・タイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールが車内や車両の近くにある

●登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。

●1 時間以上走行しても登録できない場合は、ID コードの登録手順を最初からやり直してください。

●登録操作時にタイヤ空気圧警告灯が点滅しない場合、ID コードが登録されていないおそれがありますので、登録手順を最初からやり直してください。

●上記の方法でも ID コードを登録できない場合は、レクサス販売店にご依頼ください。

ID コードの登録を中止するには

ID コードの登録を中止するには、マルチメディア画面の “ 新規タイヤ登録 ” を再度選択します。

ID コードの登録を中止すると、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。

タイヤ空気圧警告灯が消灯しないときは、ID コードの登録が正常に中止できていません。正しく中止するためには、再度、“ 新規タイヤ登録 ” を選択し、タイヤ空気圧警告灯が消灯することを確認してください。

ID コードを切りかえるには

この車両は 2 セット分の ID コードを登録することができるタイヤ空気圧警報システムが備わっています。通常使用するタイヤと冬用タイヤの 2 セットを登録しておくと便利です。

● この機能は 2 セット目（セット 2）のタイヤを登録してある場合のみ、切りかえをすることができます。セット 2 のタイヤが登録されていない場合、“ セット 2（未登録）” と表示され、選択しても切りかえはできません。

ID コードの登録はお客様自身で登録することができます。(→P.514)

● ID コードを登録したときのセットでタイヤの交換をしたときのみ切りかえをすることができます。他のセットの ID コードを混在させた場合は作動しません。

● ID コード登録中は、正常に ID コードの切りかえができないおそれがあります。ID コードの登録を中止してから切りかえを行ってください。

■ ID コードの切りかえかた

1 切りかえをしたいタイヤセットに交換する

2 マルチメディア画面の⚙を選択する

3 “ 車両カスタマイズ ” を選択する

4 “ タイヤ空気圧 ” を選択する

5 セット選択に表示されているセット（“セット 1” または “セット 2”）を選択する

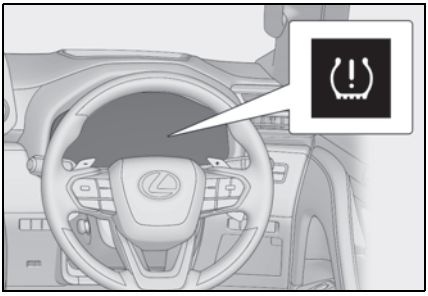
6 登録したいセットを選択し、“OK” を選択する

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、切りかえ中のメッセージが表示され、ID コードの切りかえを開始します。

ID コードの切りかえが開始すると、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅したあと点灯します。また、切りかえ中はマルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧表示が “---” になります。

約 2 分後に ID コードの切りかえが完了し、タイヤ空気圧警告灯が消灯して、マルチインフォメーションに登録完了のメッセージが表示されます。

約 4 分経過しても切りかえが完了しない場合は、切りかえが完了しないメッセージが表示されます。
装着しているタイヤセットを確認して、切りかえ手順を最初からやり直してください。



7 異なる空気圧に調整されているタイヤを取り付けた場合は、タイヤ空気圧警報システムにタイヤ空気圧を設定する（→P.513）

同じ空気圧に調整されている場合は、空気圧を設定する必要はありません。

8 タイヤの位置を登録する（→P.512）

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。（→P.581）

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、レクサス販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告

■タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大（路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

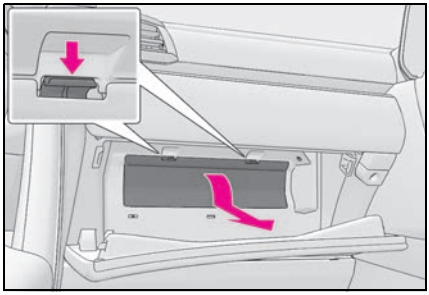
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換するには

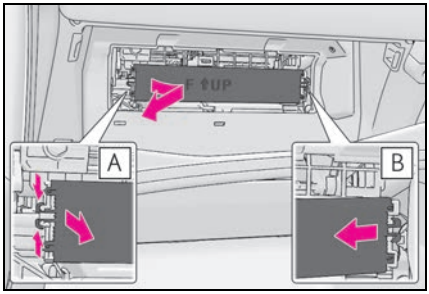
1 エンジンスイッチを OFF にする

2 グローブボックスを開き、仕切り板を取りはずす（→P.471）

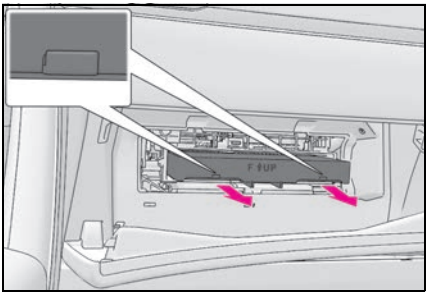
3 パネルを取りはずす



4 フィルターカバーのロックをはずし（A）、ツメからフィルターカバーを抜き（B）、フィルターカバーを取りはずす

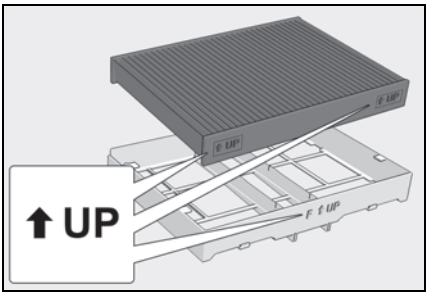


5 フィルターケースを取りはずす



6 フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「⇧ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

15000km［7500km※1］ごと、ただし12ヶ月をこえないこと※2

※1大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※2芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを交換してください。

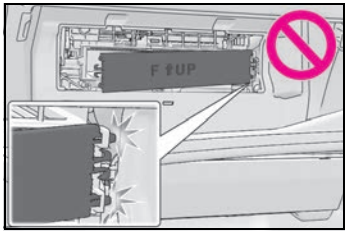
注意

■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーのロックをはずすときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力がかからないように注意してください。ツメが破損するおそれがあります。



電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。電池はご自身で交換できますが、部品が破損するおそれがあるので、レクサス販売店で交換することをおすすめします。

知識

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

■カードキー★の電池交換が必要なときは

カードキーの電池はレクサス販売店で交換してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

事前に準備するもの

交換をするには、次のものを準備してください。

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池：CR2032 または CR2450

知識

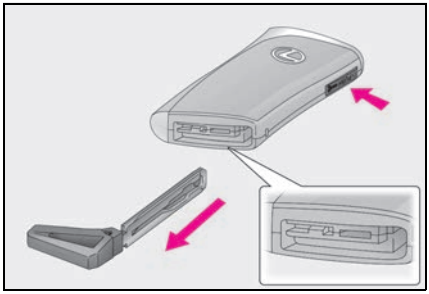
■リチウム電池の入手

電池はレクサス販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

電池を交換するには

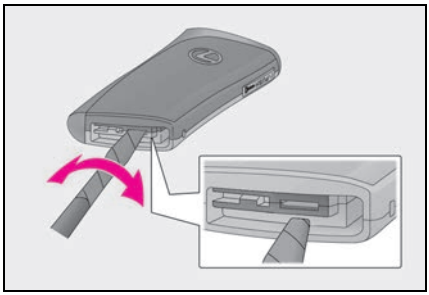
▶ Type A

1 メカニカルキーを抜く



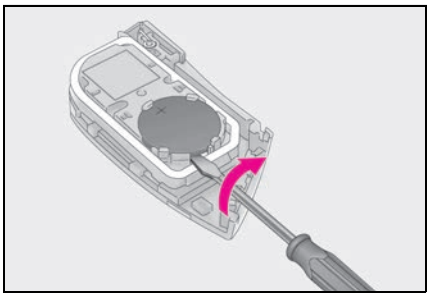
2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



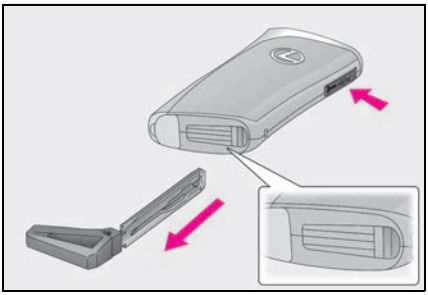
3 小さいマイナスドライバーを使って消耗した電池を取り出す

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。

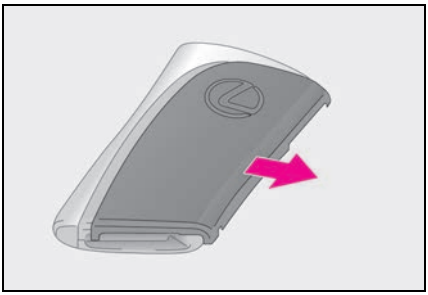


▶ Type B

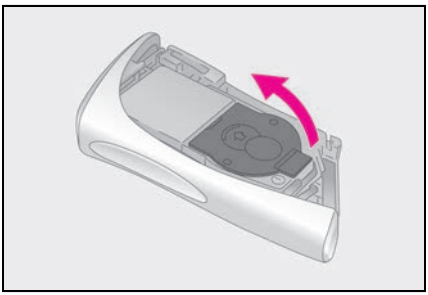
1 メカニカルキーを抜く



2 カバーをはずす

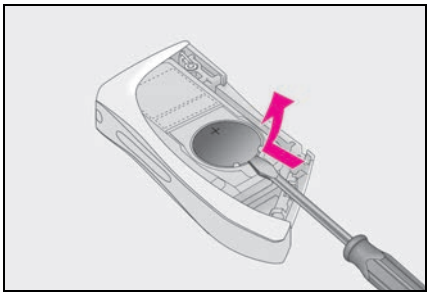


3 バッテリーカバーをはずす



4 消耗した電池を取り出す

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。



警告

■電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、レクサス販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

警告

■電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

●同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。

●極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。

●電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

注意

■電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

●ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。

●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない

●電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

ヒューズの点検・交換をするには

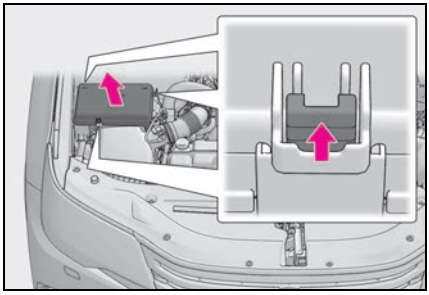
1 エンジンスイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム

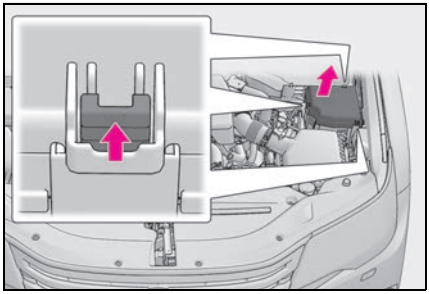
A タイプ：

エンジンルームカバーを開けたままにするか、取りはずし（→P.506）、ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



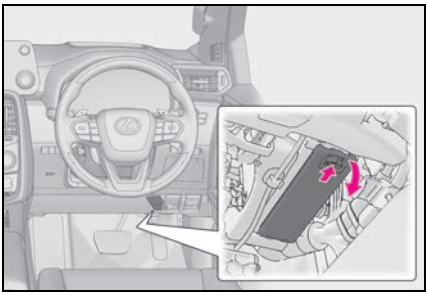
B タイプ：

エンジンルームカバーを開けたままにするか、取りはずし（→P.506）、ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



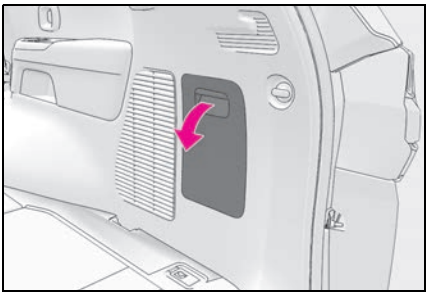
▶ 運転席足元

ヒューズボックスカバーを取りはずす

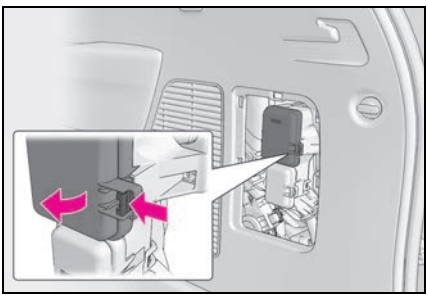


▶ ラゲージルーム

カバーを取りはずす

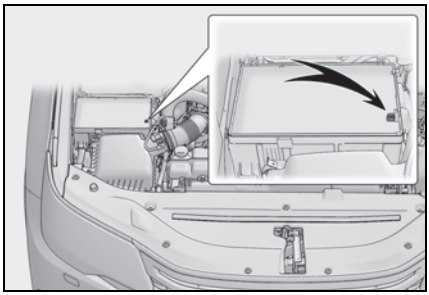


ヒューズボックスカバーを取りはずす



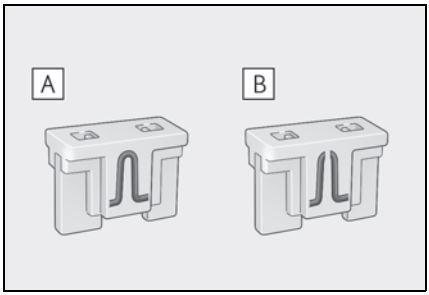
3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



A 正常

B ヒューズ切れ

知識

■ヒューズを交換したあと

- カバーを取り付けるときは、ツメをしっかり取り付けてください。
- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P.524)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ランプなどの電装部品を交換するとき

この車両に指定されているレクサス純正品のご使用をおすすめします。一部の電装部品は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のレクサス純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

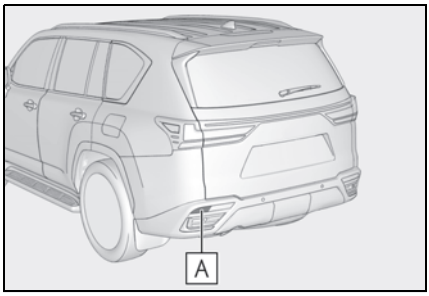
電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。交換する前に、切れた電球の W（ワット）数を確認してください。部品が破損するおそれがあるので、レクサス販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→P.582）

電球の位置



A リヤフォグランプ

■ レクサス販売店で交換が必要なランプ

次のランプが切れたときは、
レクサス販売店で交換してください。

- ヘッドランプ（前照灯）
- 車幅灯／LED デイタイムランニングランプ
- フロント方向指示灯／非常点滅灯
- フロントフォグランプ
- コーナリングランプ
- サイド方向指示灯／非常点滅灯

- 尾灯
- 制動灯
- リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- 後退灯
- ハイマウントストップランプ
- 番号灯
- ドアミラー足元照明
- サイドステップ照明

知識

■LED ランプについて

リヤフォグランプ以外のランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

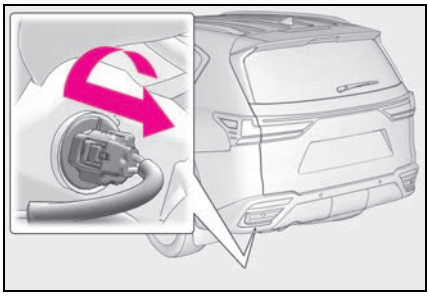
■ランプなどの電装部品を交換するとき

→P.524

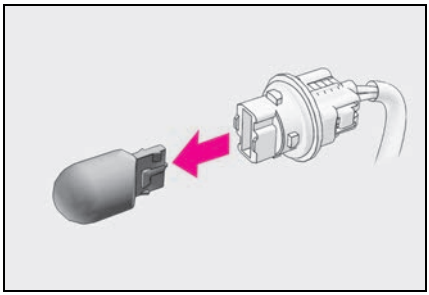
電球交換をするには

■ リヤフォグランプ

1 ソケットを左にまわして取りはずす



2 電球を取りはずす



3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の順序で取り付ける

警告

■電球を交換するとき

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。

警告

- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
  やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、または内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

- 電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。
- 発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

万一の場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは..... 528
非常点滅灯（ハザードランプ）. 529
発炎筒 529
車両を緊急停止するには..... 530
水没・冠水したときは..... 531
車中泊が必要なときは..... 532

7-2. 緊急時の対処法

けん引について..... 533
フューエルポンプシャットオフシステム 537
警告灯がついたときは..... 538
警告メッセージが表示されたときは 547
パンクしたときは..... 555
エンジンがかからないときは .. 565
キーをなくしたときは..... 567
電子キー、または指紋認証システムが正常に働かないときは..... 567
バッテリーがあがったときは .. 569
オーバーヒートしたときは 573
スタックしたときは..... 576

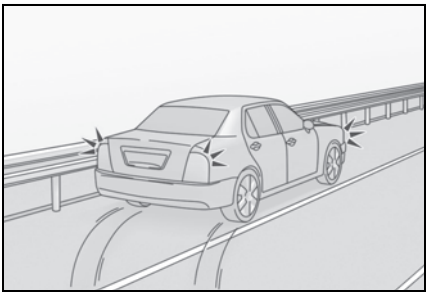
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

● 非常点滅灯（→P.529）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



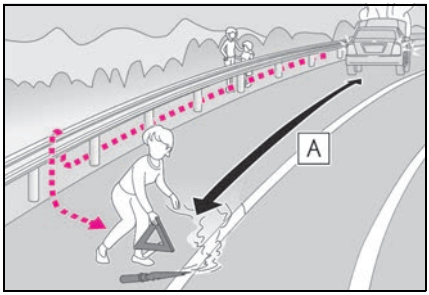
● 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

1 同乗者を避難させる

2 車両の 50m 以上後方（A）に発炎筒（→P.529）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する

・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。

・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

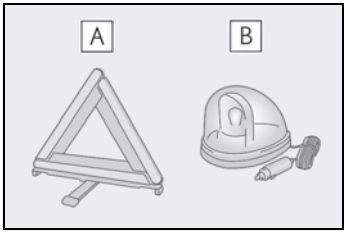


3 その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

■停止表示板・停止表示灯について

●高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。



A 停止表示板

B 停止表示灯

●停止表示板のご購入については、レクサス販売店にお問い合わせください。

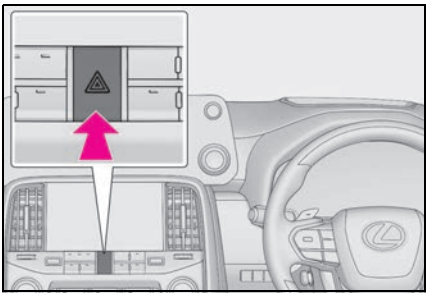
非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

■非常点滅灯について

●エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

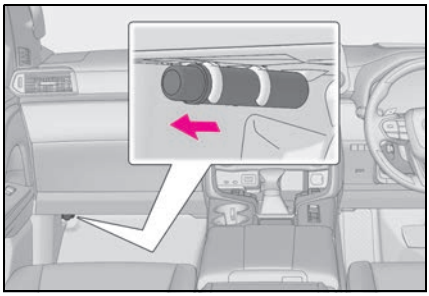
●SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。
非常点滅灯スイッチを 2 回押すか、約 20 分経過すると消灯します。（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります。）

発炎筒

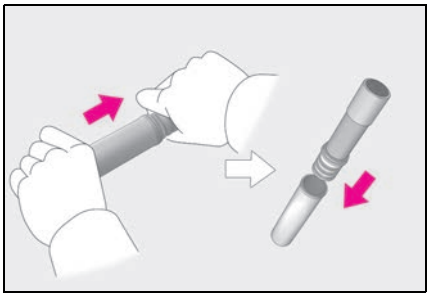
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す



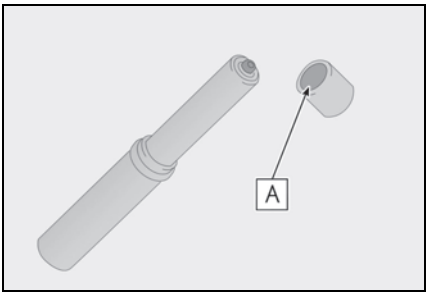
2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬 A で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。



知識

■発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、レクサス販売店でお求めください。
有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車を停止させてください。

車を停止するには

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

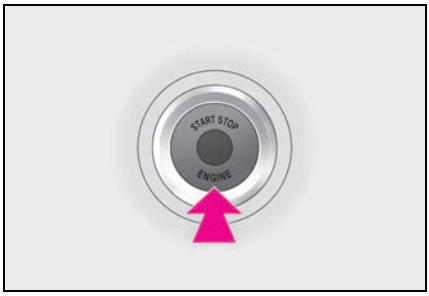
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する



5 車を安全な道路脇に停める

知識

■緊急停止したときは

バッテリーの消費電力を抑えるためにエ

アコンなどの一部機能の作動を制限することがあります。

警告

■走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、バッテリーの残量や使用状況によっては、車両が停止する前に操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になるおそれがあるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドウが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー※の使用について

この車両のフロントウインドウガラスとドアガラスには合わせガラスが使用され

ております。合わせガラスは、緊急脱出用ハンマー※で割ることができません。

※詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

警告

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは

警告

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

●詳しい注意事項などを以下の URL で確認することができます。

https://lexus.jp/news/bousai/#help_book

けん引について

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

注意

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車または、車両運搬車でけん引してください。他車にけん引してもらうと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

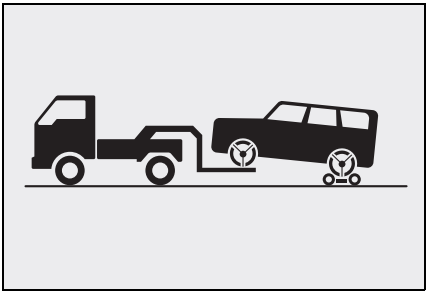
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、レクサス販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンはかかるが車が動かない
- 異常な音がする

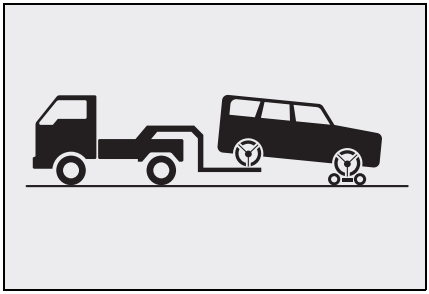
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは



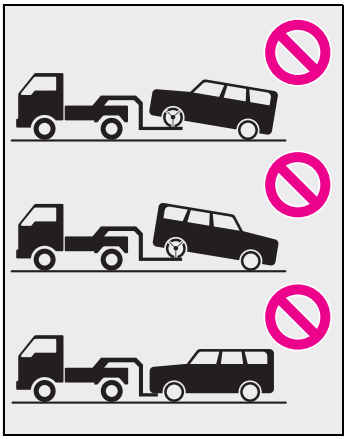
台車を使用して前輪を持ち上げる

警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

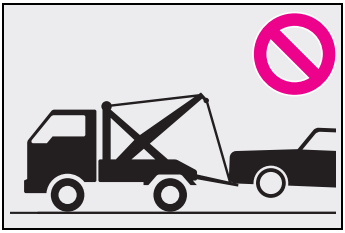
4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



注意

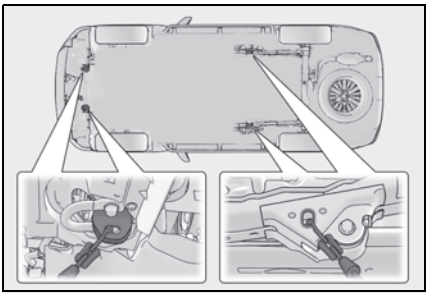
■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

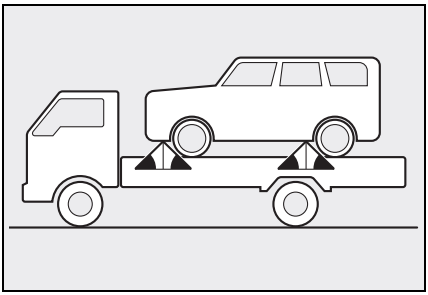


車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45°になるように固縛する



注意

■車両運搬車に車を固縛するとき

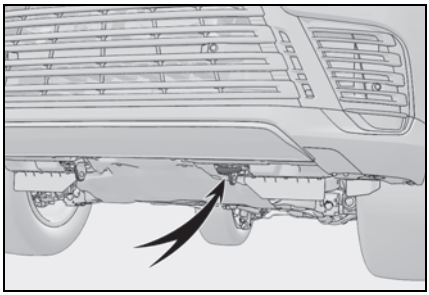
●ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

●AHC の車高調整機能が作動しないように、AHC を OFF にしてください。固縛後に車高がかわると、車両の損傷につながるおそれがあります。（→P.403）

他車にけん引してもらうとき

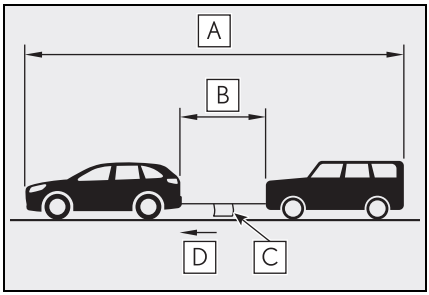
1 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。



2 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm×30cm）以上



A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

3 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンを始動する

エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチを ON にしてください。

4 トランスファースイッチを H4 かつフロント・センター・リヤの各デフロックを OFF の状態にし、各表示灯が消灯したことを確認する

5 車高を N（標準）モードにして車高制御を停止する（→P.403）

6 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。（→P.198）

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→P.194

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

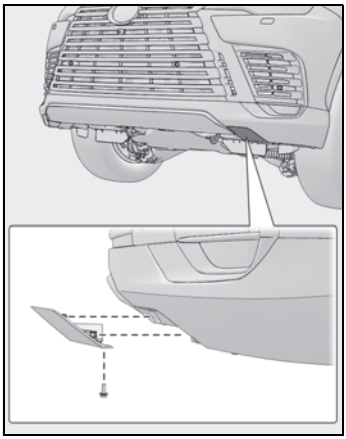
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ロープがバンパーに当たるときは

ロープをかける角度によりロープがバンパーに当たるときは、カバー★を取りはずしてください。

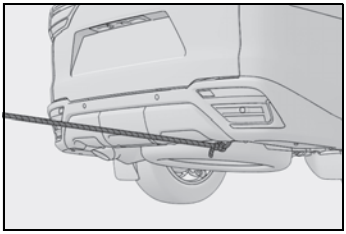
・ボルトを取りはずし、カバーを手前に引いてツメ（2ヶ所）を取りはずします。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



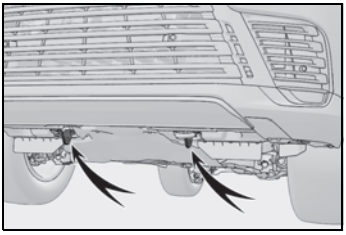
■リヤ側フックについて

このフックは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときに使用することができます。



■輸送用フックについて

このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりすることはできません。



警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■他車にけん引してもらうときの運転について

●けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

●AHC の車高調整機能が作動しないように、AHC を OFF にしてください。
作動を停止しないと車高がかわり、車両に体が挟まれるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
（→P.403）

●エンジンスイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

注意

■車両の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない

・速度 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する

・前進方向でけん引する

・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）（ヒッチメンバー付き車以外）などをけん引しないでください。

■リヤ側フックについて

やむを得ない場合以外は使用しないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

■輸送用フックについて

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

エンジンを始動するには

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

1 エンジンスイッチを ACC または OFF にする

2 エンジンを再始動する

注意

■エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。
地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（赤色）	●ブレーキ液の不足 ●ブレーキ系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（黄色）	●パーキングブレーキシステムの異常 ●電子制御ブレーキシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ 充電警告灯（警告ブザー）※

警告灯	警告内容・対処方法
	充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 油圧警告灯（警告ブザー）※

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジンオイル圧力の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 高水温警告灯（警告ブザー）※

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジン冷却水の高温異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.573）に従ってください。**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ エンジン警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●エンジン電子制御システムの異常 ●電子制御スロットルの異常 ●トランスミッション電子制御システムの異常 ●排出ガス浄化装置の異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●SRS エアバッグシステムの異常 ●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ ABS ＆ブレーキアシスト警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●マルチテレイン ABS の異常 ●ブレーキアシストの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （赤色） （黄色）	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ PCS 警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	PCS（プリクラッシュセーフティ）の異常が考えられます。 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。

■ LTA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	LTA（レーントレーシングアシスト）の異常 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ LDA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	LDA（レーンディパーチャーアラート）の異常が考えられます。 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ PDA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	PDA（プロアクティブドライビングアシスト）の異常が考えられます。 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ クルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	クルーズコントロールの異常が考えられます。 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ レーダークルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（黄色）	レーダークルーズコントロールの異常が考えられます。 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ 運転支援情報表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	次のシステムに異常が考えられます。 ●PCS（プリクラッシュセーフティ） ●LDA（レーンディパーチャーアラート） ●後方車両への接近警報 ●後方車両接近告知 ●セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応） **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** 次のシステムのいずれかが異常、停止、または設定が OFF になっています。 ●PKSB（パーキングサポートブレーキ） ●RCD（リヤカメラディテクション） ●BSM（ブラインドスポットモニター） ●RCTA（リヤクロストラフィックアラート） ●安心降車アシスト **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ クリアランスソナー OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	クリアランスソナーの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。****（→P.550）**

■ ペダル誤操作警告灯（警告ブザー）※

警告灯	警告内容・対処方法
	ブザーが鳴った場合： ●ブレーキオーバーライドシステムの異常 ●ドライブスタートコントロールの異常 ●ドライブスタートコントロール作動時 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** ブザーが鳴らなかった場合： ブレーキオーバーライドシステム作動時 **→ アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●VSC システムの異常 ●トレーラースウェイコントロールの異常 ●アクティブ TRC システムの異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 ●ダウンヒルアシストコントロールシステムの異常 ●マルチテレインセレクトの異常 ●クロールコントロールの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ L4 作動表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
4LO （点滅）	表示灯が速く点滅した場合： 4WD システムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ フロントデフロック作動表示灯★

警告灯	警告内容・対処方法
（点滅）	表示灯が速く点滅した場合： フロントディファレンシャルロックシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ センターデフロック作動表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
（点滅）	表示灯が速く点滅した場合： センターディファレンシャルロックシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ リヤデフロック作動表示灯★

警告灯	警告内容・対処方法
（点滅）	表示灯が速く点滅した場合： リヤディファレンシャルロックシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ パーキングブレーキ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
（点滅）	パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性がある **→ パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。** パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

■ ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
HOLD （点滅）	ブレーキホールドシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ 燃料残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	燃料の残量が約 12L 以下になった **→ 燃料を補給する**

■ タイヤ空気圧警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	警告灯が約 1 分間点滅したあとに点灯した場合： タイヤ空気圧警報システムの異常 **→ レクサス販売店で点検を受けてください。** 警告灯が点灯した場合： 次のようなタイヤ空気圧の低下を表します。 ●自然要因 ●タイヤのパンク **→ ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.545）に従ってください。**

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※）

警告灯	警告内容・対処方法
	リヤ席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**

※ リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：
リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

知識

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

バッテリーの充電が不十分な場合、また

は一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤがパンクしていないか確認してください。

パンクしているときは：

→P.555

パンクしていないときは：

エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度 ON にして、タイヤ空気圧警告灯が点灯しているか点滅しているかを確認してください。

▶ タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅したあとに点灯した場合

タイヤ空気圧警報システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

▶ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

1 タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整する

2 数分たっても警告灯が消灯しない場合は、タイヤ空気圧が適切な値であることを確認し、タイヤ空気圧警報システムの空気圧設定を行う（→P.513）
空気圧設定を行ってから数分たっても警告灯が消灯しない場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■スペアタイヤに交換した場合

スペアタイヤにも空気圧バルブ／送信機が装備されています。スペアタイヤの空気圧が低下している場合、空気圧警告灯は点灯します。タイヤがパンクした場合、スペアタイヤに交換しても空気圧警告灯は消灯しません。正常なタイヤと交換後、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。

■自然要因によるタイヤ空気圧警報について

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況

→P.510

警告

■警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

メッセージの内容に従って対処してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店にご連絡ください。
ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を調整してください。

●タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯している場合はタイヤがパンクしている可能性がありますので、確認してください。タイヤがパンクしている場合はスペアタイヤに交換し、最寄りのレクサス販売店でタイヤの修理をしてください。

●急ハンドル・急ブレーキは避けてください。もしタイヤの状態が悪化した場合、ハンドル操作またはブレーキが効かなくなるおそれがあります。

■タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

注意

■タイヤ空気圧警報システムについての注意

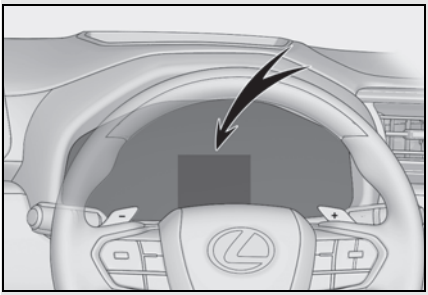
●純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から送信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。

●構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。

●タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、空気圧設定では解除できません。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。



処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。販売店で点検をするように表示されたときは、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告ブザー ※	警告内容
—	あり	・走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。 ・車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。

警告灯	警告ブザー ※	警告内容
点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
ー	なし	・電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。 ・車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■販売店での点検をうながすメッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。

すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

■各部の操作に関するメッセージが表示されたときは

●アクセルペダル・ブレーキペダルの操作に関するメッセージが表示されたとき

・PCS（プリクラッシュセーフティ）やレーダークルーズコントロールなどの運転支援システムの作動中、ブレーキ操作に関する警告メッセージが表示される場合があります。
メッセージが表示されたときは、必ず減速、または画面で指示された操作を行ってください。

・ブレーキオーバーライドシステムが作動したときに、警告メッセージが表示されます。（→P.178）

・ドライブスタートコントロールが作動したときに、警告メッセージが表示されます（→P.182）。画面の指示に従って対処してください。

●エンジンスイッチの操作に関するメッセージが表示されたとき

正しい手順で始動操作をしていないときや、誤操作の可能性があるときなどに、エンジンスイッチの操作に関するアドバイスが表示されます。
画面の指示に従って操作し直してください。

●シフトレバーの操作に関するメッセージが表示されたとき

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、シフトレバーの操作が指示されることがあります。
その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

●各部の開閉状態や、消耗品の補充などに関するメッセージ・画像が表示されたとき

画面の表示、または警告灯で指示された部位を確認し、開いているドアを閉めたり、消耗品を補充したりするなどの対処を行ってください。

■取扱書の確認をうながすメッセージが表示されたときは

●次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。
・“エンジン冷却水高温　安全な場所に停車して取扱書を確認してください”（→P.573）

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
・“トランスミッションオイル　高温　安全な場所に停止し取扱書を確認してください”
・“スマートエントリー＆スタートシステム故障”
・“BrakeHold 作動不可”

●次のメッセージが表示されたときは、ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
・“エンジン油圧不足”
・“故障のためブレーキ力が低下”

●“補機バッテリー充電システム異常 安全な場所に停車し取扱書を確認” が表示されたときは

充電系統が故障している可能性があります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。メッセージが表示されているときは、バッテリーの消費電力を抑えるためにエアコンなどの一部機能の作動を制限することがあります

■“エンジン停止のためハンドルが重くなります” が表示されたときは

走行中にエンジンが停止したときにメッセージが表示されます。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■“駐車時はPレンジに入れてください”が表示されたときは

シフトレバーが P 以外でエンジンスイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。駐車時は P にしてください。

■“バッテリー保護のため自動で電源を OFF しました” が表示されたときは

自動電源 OFF 機能が作動したときに表示されます。

この場合、次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約 5 分間その回転数を保持しバッテリーを充電してください。

■“エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください” が表示されたときは

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■“アクセルを戻してください” が表示されたときは

次の機能が作動したときに表示されます。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

●ドライブスタートコントロール（→P.182）

●プラスサポート（販売店装着オプション）（→P.424）

■“機能停止 ソナーに水滴、雪等が付着しています” が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに水滴、氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの水滴、

氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。

また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

汚れているセンサーの位置はディスプレイ上に表示されます。水滴・氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考え られますので、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ **“機能停止 周辺監視用カメラ視界不良 取扱書を確認” が表示されたときは**

次のいずれかのシステムが停止しています。

- RCD（リヤカメラディテクション）
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）

後方カメラの汚れや付着物を取り除いてください。

■ **“機能故障 販売店で点検” が表示されたときは**

次のいずれかのシステムが停止しています。

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）
- LTA（レーントレーシングアシスト）
- LCA（レーンチェンジアシスト）
- AHB（オートマチックハイビーム）
- AHS（アダプティブハイビームシステム）
- レーダークルーズコントロール
- RSA（ロードサインアシスト）
- 発進遅れ告知
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
- BSM（ブラインドスポットモニター）
- RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
- 後方車両接近告知
- セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）
- 後方車両への接近警報
- 周辺車両接近時サポート
- 安心降車アシスト
- クリアランスソナー
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）
- RCD（リヤカメラディテクション）

すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ **“機能停止 取扱書を確認” が表示されたときは**

次のいずれかのシステムが停止しています。

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）
- LTA（レーントレーシングアシスト）
- LCA（レーンチェンジアシスト）

- AHB（オートマチックハイビーム）
- AHS（アダプティブハイビームシステム）
- レーダークルーズコントロール
- RSA（ロードサインアシスト）
- 発進遅れ告知
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
- BSM（ブラインドスポットモニター）
- RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
- 後方車両接近告知
- セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）
- 後方車両への接近警報
- 周辺車両接近時サポート
- 安心降車アシスト
- クリアランスソナー
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）
- RCD（リヤカメラディテクション）

次の対処法に従ってください。

・ バッテリー電圧を確認する
・ Lexus Safety System + で使用するセンサーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.225）
・ RCD 装着車：バックドアが開いていないか確認してください。
・ センサーが正しく作動しなくなる状況を確認し、該当する場合は改善してください。（→P.296, 299, 303, 305, 307, 311, 314, 320, 324）
・ センサー周辺のリヤバンパーに付着物がないか確認し、ある場合は取り除いてください。（→P.293）
・ センサーとカメラに付着物がないか確認し、ある場合には取り除いてください。（→P.312）
・ 地図情報取得の妨げとなる製品を取り付けている場合は取り除いてください。（例：TV キャンセラーなど）
・ センサーが正しく作動しなくなる状況が解決すると、表示が消える場合があります。

■ “機能停止 前方カメラ視界不良 取扱書を確認” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）
- LTA（レーントレーシングアシスト）
- LCA（レーンチェンジアシスト）
- AHB（オートマチックハイビーム）
- AHS（アダプティブハイビームシステム）
- レーダークルーズコントロール
- RSA（ロードサインアシスト）
- 発進遅れ告知
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。

・ ワイパー機能を使って、フロントウイ

ンドウガラスの汚れや付着物を取り除く。
・エアコン機能を使って、フロントウインドウガラスの曇りを取り除く。
・ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、カメラの視界を遮らないようにする。

■ **“機能停止 前方カメラ作動温度範囲外 常温までお待ちください” が表示されたときは**

次のいずれかのシステムが停止しています。

● PCS（プリクラッシュセーフティ）
● LDA（レーンディパーチャーアラート）
● LTA（レーントレーシングアシスト）
● LCA（レーンチェンジアシスト）
● AHB（オートマチックハイビーム）
● AHS（アダプティブハイビームシステム）
● レーダークルーズコントロール
● RSA（ロードサインアシスト）
● 発進遅れ告知
● PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。
・炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる
・特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります
・極寒での駐車時など、前方カメラが低温の時は、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる

■ **“機能停止 前方レーダー汚れ 汚れを除去してください” が表示されたときは**

次のいずれかのシステムが停止しています。

● PCS（プリクラッシュセーフティ）
● LTA（レーントレーシングアシスト）
● LCA（レーンチェンジアシスト）
● レーダークルーズコントロール
● 発進遅れ告知
● PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。
・レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.226）
・砂漠・草原・郊外などの、周辺車両や構造物が少ない広々とした地域を走行すると表示される場合があります。
車両周辺に構造物や車両などが存在する場所まで走行すると、表示が消える場合があります。

■ **“機能停止 前方レーダー作動温度範囲外 常温までお待ちください” が表示されたときは**

次のいずれかのシステムが停止しています。

● PCS（プリクラッシュセーフティ）
● LTA（レーントレーシングアシスト）
● LCA（レーンチェンジアシスト）
● レーダークルーズコントロール

●発進遅れ告知

●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

レーダー周辺の温度が作動条件外です。適切な温度になるまでお待ちください。

■ **“ 機能停止 前方レーダー向き調整中 取扱書を確認 ” が表示されたときは**

次のいずれかのシステムが停止しています。

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●LCA（レーンチェンジアシスト）

●レーダークルーズコントロール

●発進遅れ告知

●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。

・レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.226）
・レーダの向きがずれている可能性があり、レーダーが走行中に自動で再調整しています。しばらく走行を続けてください。

■ **“ 条件を満たしていないため 開始できません 取扱書を確認 ” が表示されたときは**

LCA の作動条件を満たしていないため使用できません。（→P.247）

すべての作動条件を満たしているときに、再度方向指示レバーを操作してください。

■ **“ クルーズコントロール 使用できません 取扱書を確認してください ” が表示されたときは**

次のいずれかのシステムが停止しています。

●レーダークルーズコントロール

●クルーズコントロール

走行支援スイッチを短時間に繰り返し操作したときにメッセージが表示されることがあります。走行支援スイッチを短く確実に押してください。

■ **“ ドライバーモニター作動温度範囲外 常温までお待ちください ” が表示されたときは**

次のシステムが停止しています。

●ドライバーモニター

●アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）

ドライバーモニターカメラの温度が作動条件外です。適切な温度になるまでお待ちください。

■ **“ ドライバーモニター使用できません 取扱書を確認してください ” が表示されたときは**

ドライバーモニターカメラのレンズが汚れている可能性があります。

レンズを傷付けないよう乾いたやわらかい布で汚れをふき取ってください。

■**次のメッセージが表示されたときは、作動条件を確認してください。表示が消えたら使用可能です。**

● “Drive Mode Select 使用不可 取扱書を確認してください ” （→P.398）

● “DAC 使用不可 取扱書を確認してください ” （→P.421）

● “CRAWL 使用不可 取扱書を確認してください ” （→P.415）

● “MTS 使用不可 取扱書を確認してください ” （→P.418）

- “ターンアシスト機能操作時は作動条件の確認をして下さい”（→P.417）
- “ターンアシスト機能操作時はCRAWLを ON にして下さい”（→P.414）

警告

■警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは

メッセージの内容に従って対処してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■エンジンオイル量に関する警告が表示されたとき

エンジンオイルが不足した状態で走行を続けると、エンジンの損傷につながります。

パンクしたときは

パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P.508 を参照してください）

警告

■タイヤがパンクしたとき

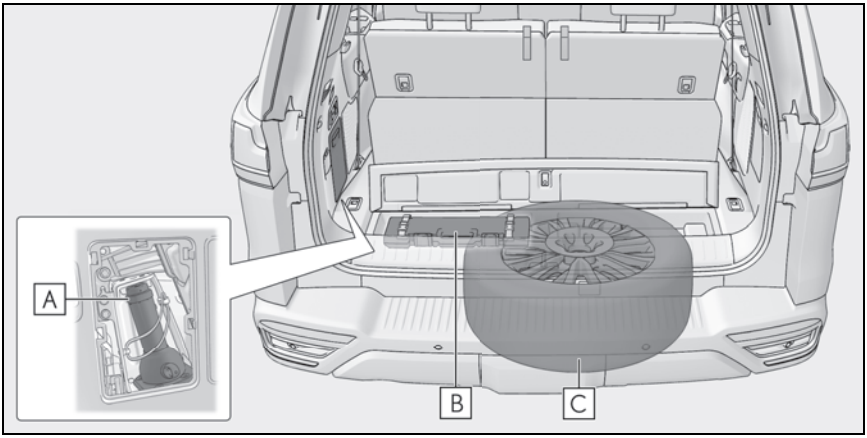
パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- 侵入・傾斜センサーを OFF にする（→P.65）
- AHC を OFF にする（→P.400）
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→P.529）

スペアタイヤ・工具・ジャッキの位置

▶ 7 人乗り車

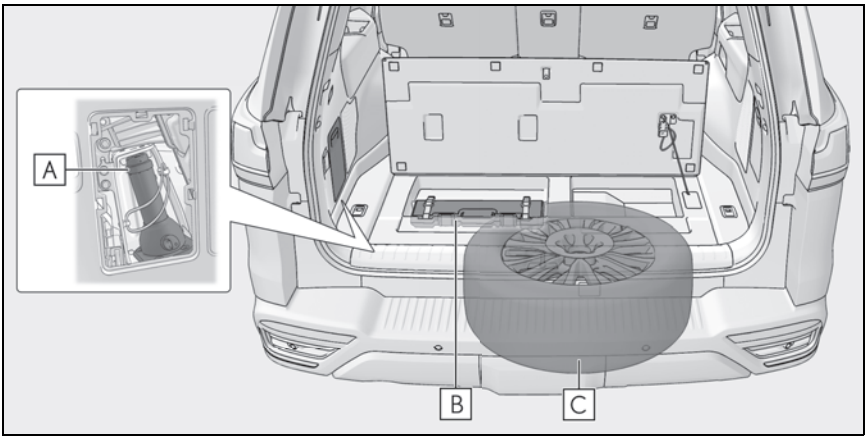


A ジャッキ

B 工具箱

C スペアタイヤ

▶ ４人乗り車／５人乗り車

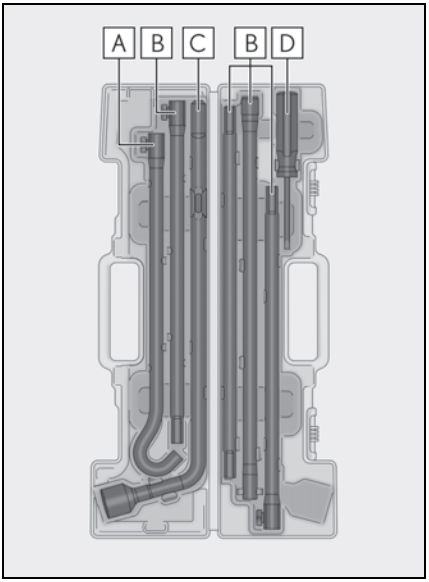


A ジャッキ

B 工具箱

C スペアタイヤ

工具



A ジャッキハンドルバー

B ジャッキハンドル延長バー

C ホイールナットレンチ

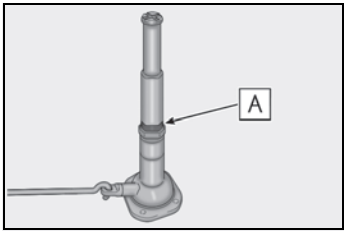
D ドライバー

警告

■ジャッキの使用について

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- AHC が OFF の状態で、エンジンを停止する（→P.400）
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを載せない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 黄色い警告線 A が見えたら、それ以上にジャッキアップしない



- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する

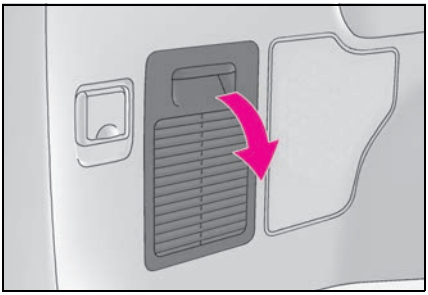
車両を下げる際はとくに、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

■ジャッキハンドルを使用するときは

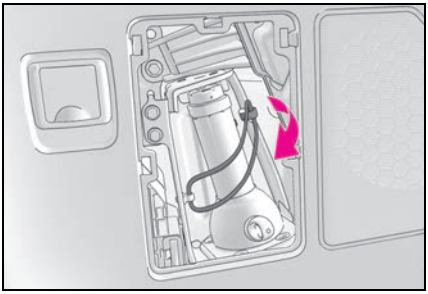
ジャッキハンドルが不意に分解しないように、ジャッキハンドルを組み付けたあと、ホイールナットレンチの穴部を使いネジ部を確実に締め付けてください。

ジャッキを取り出すには

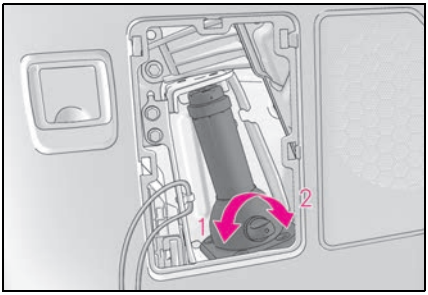
1 カバーを取りはずす



2 固定バンドをはずす



3 ジャッキをゆるめて取りはずす



1 ゆるめる

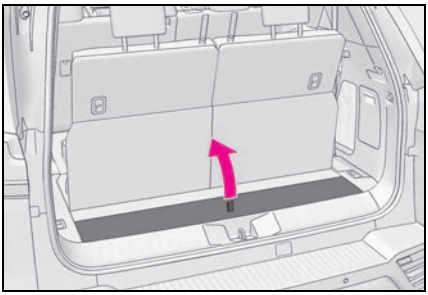
2 締める

使用後は取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。また、ジャッキはバンドで確実に固定してください。

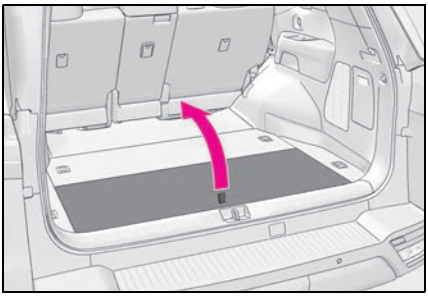
工具箱を取り出すには

1 デッキボードを持ち上げる

▶ 7 人乗り車

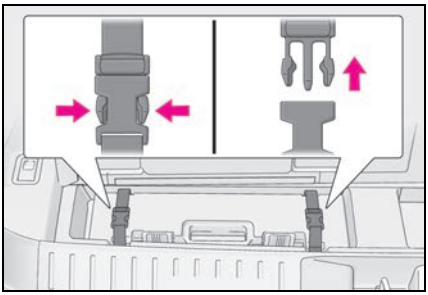


▶ 4 人乗り車／5 人乗り車

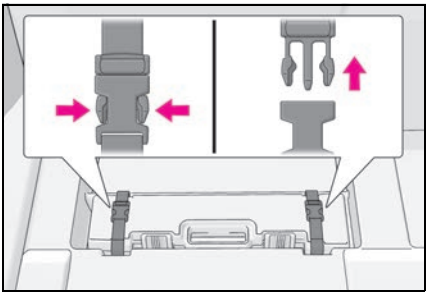


2 固定バンドをはずして取り出す

▶ 7 人乗り車



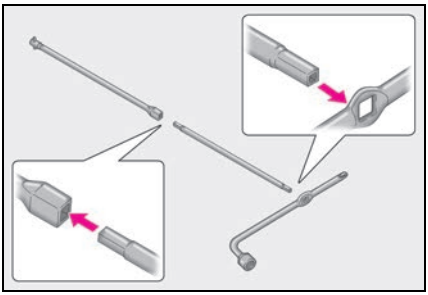
▶ 4人乗り車／5人乗り車



スペアタイヤを取り出すには

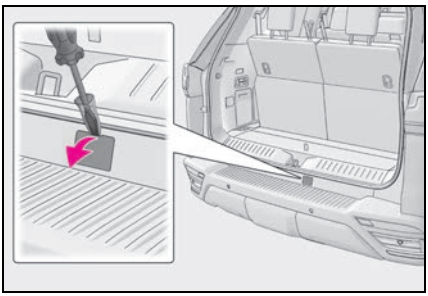
1 ジャッキハンドルを組み付ける

工具箱からジャッキハンドル延長バーとホイールナットレンチを取り出し、次の手順で組み付けます。

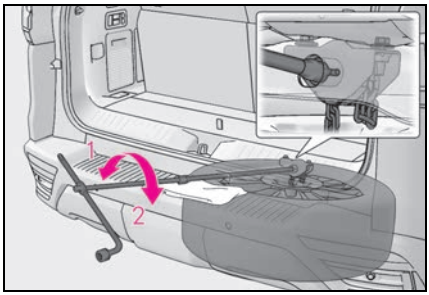


2 リヤバンパーのフタを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 組み付けたジャッキハンドルを挿し込む

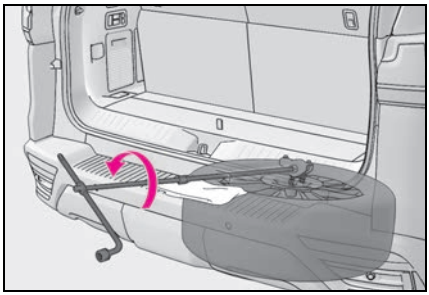


1 下がる

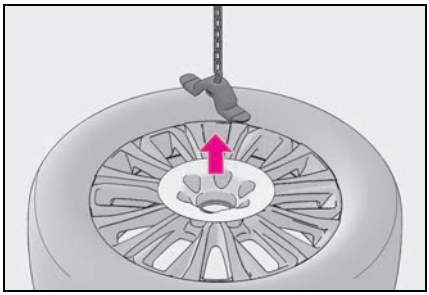
2 上がる

あて布をジャッキハンドルの下にしてリヤバンパーを保護してください。

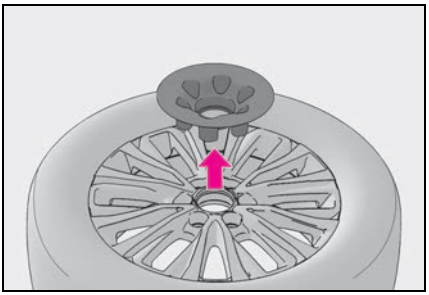
4 スペアタイヤが完全に地面に着くまで下げる



5 スペアタイヤを引き出し、アンカープレートを取りはずす

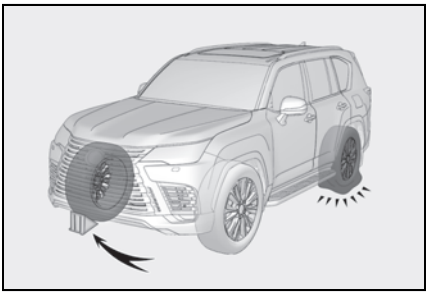


6 スペアホイールカバーを取りはずす



パンクしたタイヤを交換するには

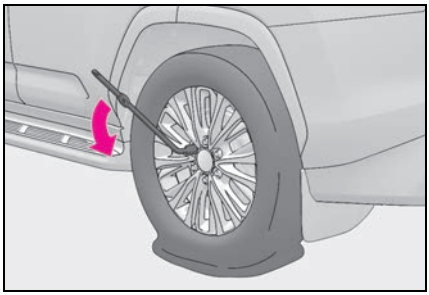
1 輪止め※をする



パンクしたタイヤ	輪止めの位置
左前輪	右側後輪うしろ
右前輪	左側後輪うしろ
左後輪	右側前輪前
右後輪	左側前輪前

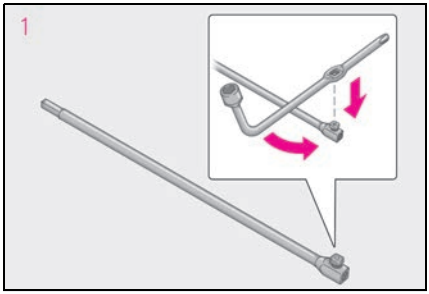
※ 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

2 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

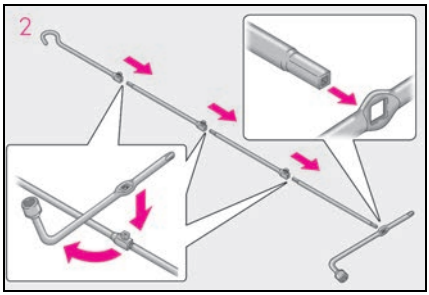


3 ジャッキハンドルを組み付ける

工具箱からジャッキハンドルバー、ジャッキハンドル延長バー、ホイールナットレンチを取り出し、次の手順で組み付けます。



1 ホイールナットレンチの穴部を使い、ジャッキハンドル延長バーの接続用ボルトをゆるめる



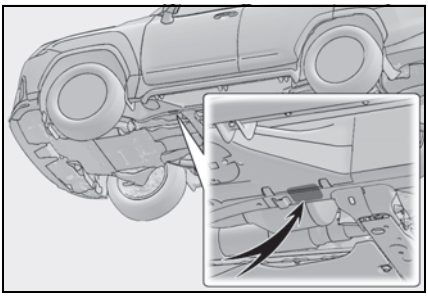
2 ジャッキハンドルバーとジャッキハンドル延長バーを接続して、ホイールナットレンチの穴部を使

い、接続用ボルトを締め付ける。ジャッキハンドル延長バーをホイールナットレンチの穴部に確実に挿し込む。

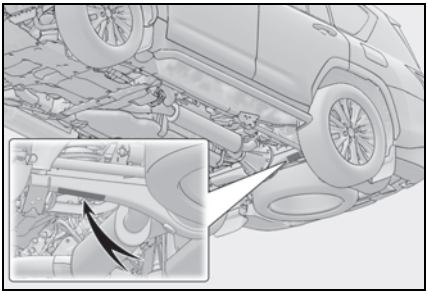
ボルトがしっかりと固定されていることを確認します。

4 組み付けたジャッキハンドルをジャッキの穴部に挿し込み、ジャッキセット位置にジャッキをかける

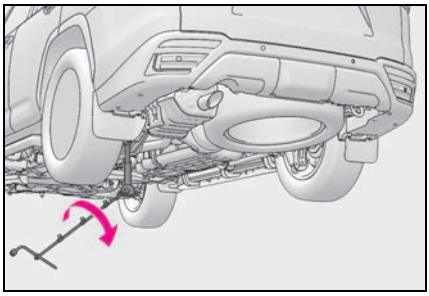
▶ フロント側



▶ リヤ側

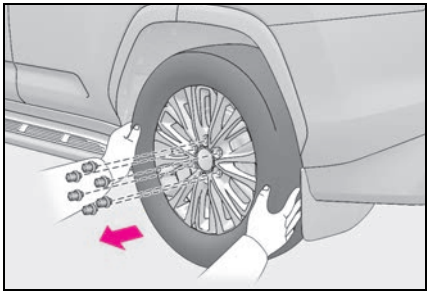


5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。



警告

■タイヤ交換について

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

警告

●次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

・スペアタイヤは完全に地面に降ろしてから取り出す

・センターオーナメントは直接手をかけて取らない

取り扱いには十分に注意してください。けがをするおそれがあります。

・AHC を OFF にしてください。オートレベリング機能により車高がかわり車両に体が挟まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。（→P.400）

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。ナットを取り付けるときに、オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

・タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認してください。
締め付けトルク：131N・m（1336kgf・cm）

・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する

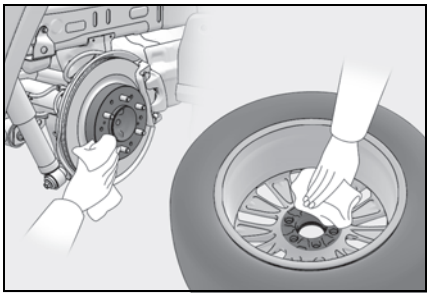
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける

●タイヤ交換などをする際は、パワーバックドアの作動（→P.122）を停止してください。停止しないと、誤ってパワーバックドアを作動させたときにバックドアが動き、指や手を挟んでけがをするおそれがあります。

スペアタイヤを取り付けるには

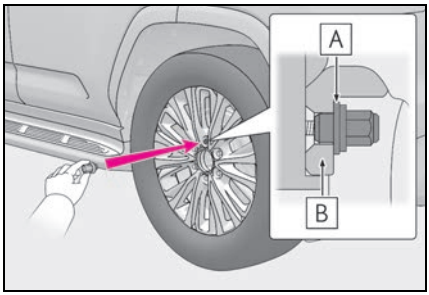
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

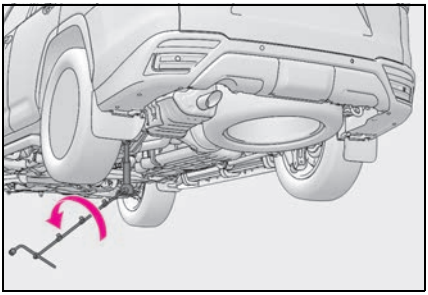


2 スペアタイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットの座金 A がホイール B にあたるまでまわします。

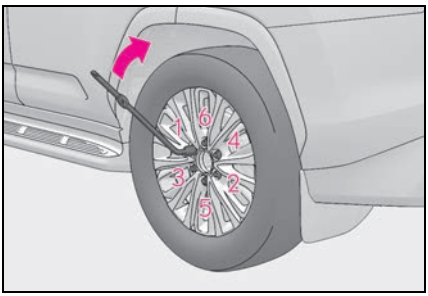


3 車体を下げる



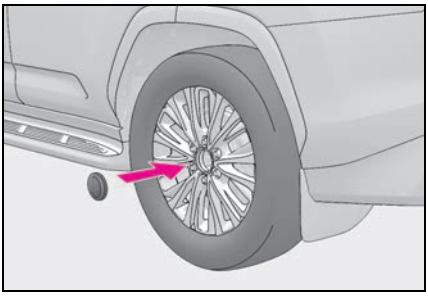
4 ホイールナットレンチを使用し、図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
131N・m（1336kgf・cm）



5 センターオーナメントを取り付ける

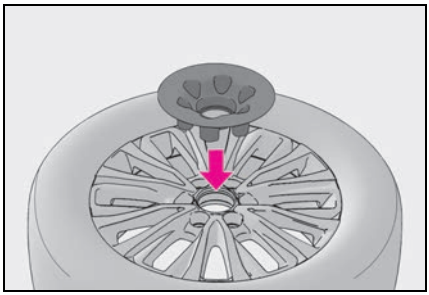
はずしたタイヤからセンターオーナメントを取りはずして、交換したタイヤに取り付けます。



パンクしたタイヤ・ジャッキ・工具の収納

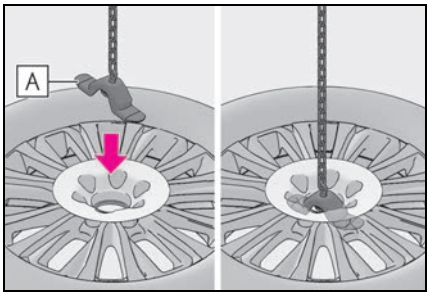
1 タイヤの外側が上になるように地面に置く

2 スペアホイールカバーを取り付ける



3 アンカープレート A を取り付け、ジャッキハンドルをまわして鎖のたるみをなくす

アンカープレートがホイールの中心にあることを確認してください。



4 ジャッキハンドルをまわしてタイヤを上げる

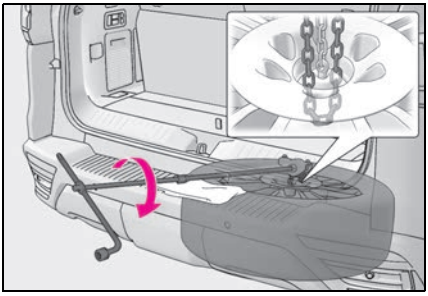
あて布をジャッキハンドルの下にしてリヤバンパーを保護してください。

タイヤはまっすぐ上げてください。走行中、急ブレーキや衝突の際にタイヤが前方に飛び出すのを防ぐため、周囲の部品を巻き込まないようにしてください。

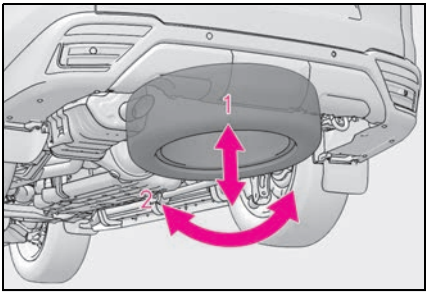
タイヤを半分まで上げたら、鎖がタイヤ

の穴に正しく収まっていることを確認してください。

締め付けトルク：
47 N・m （480 kgf・cm）



5 タイヤを巻き上げたら、タイヤが確実に固定されていることを確認する



1 タイヤを上下にゆする

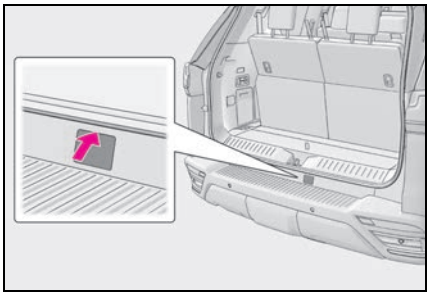
2 回転させる

タイヤが周囲の部品に干渉していないことを直接目で確認してください。

ゆるんだり、正しく収納できなかったりした場合は、手順 **4** と手順 **5** をくり返してください。

6 タイヤが下がったときや不安定なときは、手順 **5** をくり返す

7 図のようにリヤバンパーのフタを取り付ける



8 工具・ジャッキを収納する

知識

■タイヤを交換したあとは

タイヤ空気圧警報システムの初期化を確実に行ってください。（→P.510）

警告

■パンクしたタイヤを収納するときは

正しい手順をお守りいただかないと、スペアタイヤキャリアの損傷やタイヤの落下により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ジャッキや工具を使用したあとは

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

注意

■スペアタイヤを格納するときは

●タイヤと車両とのあいだにものが挟まっていないことを確認してください。

注意

●タイヤを格納したあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとタイヤががたつき、走行中にはずれるおそれがあります。

■タイヤを交換するときは

タイヤ・ホイール・タイヤ空気圧警告システムのバルブや送信機を取りはずしたり、付けかえるときは、レクサス販売店へご連絡ください。タイヤ空気圧警告システムのバルブと送信機の扱いを誤ると、バルブと送信機が損傷するおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P.188）に従っても、エンジンがかからないときは、次の状況の中であてはまるものを確認し、適切に対処してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

● 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。

● 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→P.188）に従って、エンジンをかけてください。

● エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P.62）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

● バッテリーあがりの可能性があります。（→P.569）

● バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合

次の原因が考えられます。

- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→P.566）
- 指紋認証システムがONのときは、指紋認証に失敗、または指紋センサーが故障している可能性があります。（→P.67）

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P.569）
- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く（→P.197）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2. シフトレバーがPの位置にあることを確認する
3. エンジンスイッチをACC※1にする※2
4. ブレーキペダルをしっかり踏んでエンジンスイッチを約15秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

※1 カスタマイズメニューでON／OFFを切りかえることができます。（→P.584）

※2 ACCがない場合は、エンジンスイッチをONにしたあとにエンジンスイッチをOFFにして、5秒以内に次の手順を実施してください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

注意

■電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキー★をすべてお持ちの上、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電子キー、または指紋認証システムが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P.126）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

指紋認証に成功せずエンジンの始動が出来ないとき、または指紋センサーが故障したときは次の手順でエンジンを始動することができます。

知識

■電子キーが正常に働かないとき

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→P.583）
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。（→P.125）
- 電子キーの機能が停止している可能性があります。（→P.126）

注意

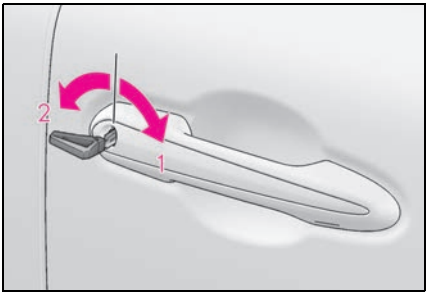
■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キー（カードキー★を含む）をお持ちください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドアを施錠・解錠するには

メカニカルキー（→P.102）を使って次の操作ができます。（運転席ドアのみ）

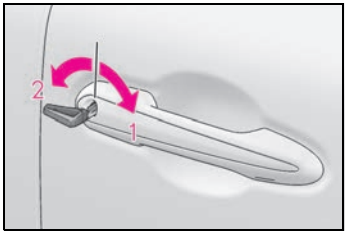


1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

知識

■キー連動機能



1 ドアガラスとムーンルーフが閉まる（まわし続ける）※

2 ドアガラスとムーンルーフが開く（まわし続ける）※

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

警告

■メカニカルキーを使ってドアガラスやムーンルーフを操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

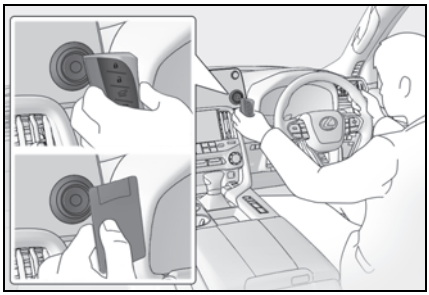
エンジンを始動するには

1 シフトレバーがＰの状態でブレーキペダルを踏む

2 電子キーのレクサスエンブレム面でエンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ON へ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっている、かつ ACC カスタマイズが ON のときは、ACC へ切りかわります。



3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに とメッ

セージが表示されていることを確認する

4 エンジンスイッチを短く確実に押す

指紋認証システムの異常でエンジンが始動できなかった場合は、カスタマイズ機能で指紋認証システムをOFF にしてください。この状態でも、電子キーを携帯していればエンジンの始動は可能です。（→P.584）

処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

知識

■エンジンの停止方法

通常のエンジンの停止方法と同様に、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてエンジンスイッチを押します。

■電子キーの電池交換

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→P.520）

■オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。（→P.63）

■エンジンスイッチのモードの切りかえ

エンジン始動方法の手順 **3** で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→P.191）

バッテリーがあがったときは

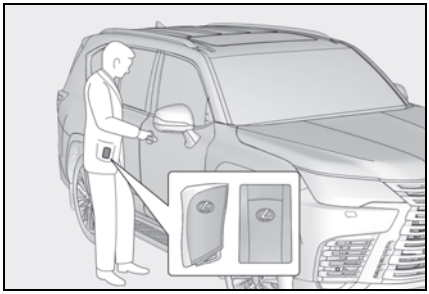
バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

エンジンを再始動するには

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

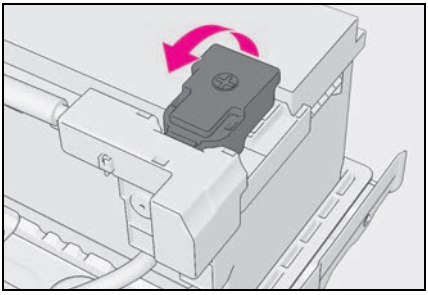
1 電子キーを携帯していることを確認する

ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。（→P.64）

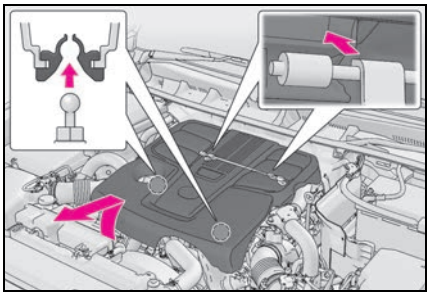


2 ボンネットを開けて（→P.505）、エンジンルームカバーを開けたままにするか、取りはずす（→P.506）

3 バッテリーの＋端子のカバーを開ける



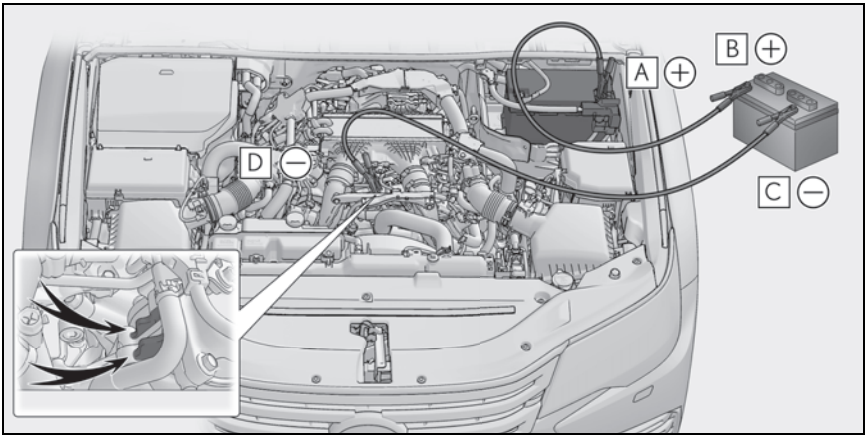
先端を持ち上げてカバーを固定ピンからはずし、カバー本体を手前に引いて取りはずします。



4 エンジン上部のカバーをはずす

5 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子 A につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子 B につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子 C につなぎ、もう一方の端を金属部 D につなぐ

ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所に届くものを使用してください。



A バッテリーの＋端子（自車）

B バッテリーの＋端子（救援車）

C バッテリーの－端子（救援車）

D 図に示す金属部

6 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約５分間自車のバッテリーを充電する

7 エンジンスイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

8 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったん ON にしてからエンジンを始動する

9 エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

取りはずしたときと逆の手順で、エンジン上部のカバーを取り付けます。取り付け後は、固定ピンが確実にはめ込まれていることを確認してください。

エンジンがかかっても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

●ACC カスタマイズが OFF のときは、エンジンスイッチが OFF の状態でもマルチメディアシステムに電源が供給されます。

●エンジンが停止しているときは、ランプやエアコン、オーディオなどの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがあがってしまったとき

●コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはレクサス販売店で点検を受けてください。

●初期設定が必要な機能があります。（→P.603）

■バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、レクサス販売店にご相談ください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

■バッテリーあがり時や取りはずし時など

●バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●バッテリー脱着後、最初の始動操作ではエンジンが始動できないことがありますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。

●車両は常にエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがり時、バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。バッテリーがあがる前のエンジンスイッチの状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

■バッテリーを交換するときは

●欧州規格バッテリーを使用してください。

●交換前と同一のケースサイズ（LN4）、20 時間率容量（20HR）が同等

（80Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（689A）以上のバッテリーを使用してください。
・ケースサイズが異なると、バッテリーが正しく固定されません。
・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であってもバッテリーがあがって、エンジンの始動ができなくなるおそれがあります。
・適切なバッテリーをご使用いただかない場合は、バッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンの始動ができなくなるおそれがあります。

●詳しくは、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■バッテリー端子をはずすときは

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがあるほか、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない

●＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない

●ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない

●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする

●必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない

●誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

●誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける

●バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う

●お子さまをバッテリーに近付けない

■バッテリーを交換するときは

バッテリーの交換については、レクサス販売店にご相談ください。

注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

⚠注意

■ブースターケーブルを接続するときは

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

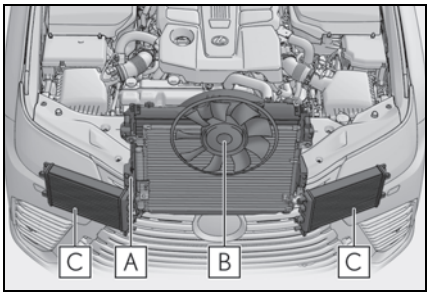
- 水温計（→P.78）の表示がレッドゾーンに入ったり、エンジンの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温　安全な場所に停車して取扱書を確認してください”が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処するには

1 安全な場所に停車し、エアコンをOFF にしてから、エンジンを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する



A エンジンラジエーター

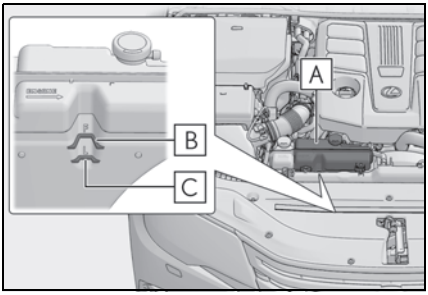
B ファン

C インタークーラーラジエーター

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がリザーバータンクの“F”（上限）と“L”（下限）のあいだにあるかを点検する

▶ エンジン

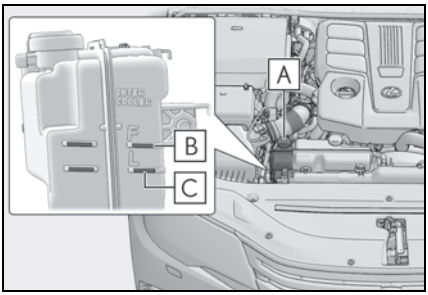


A リザーバータンク

B “F”（上限）

C “L”（下限）

▶ インタークーラー



A リザーバータンク

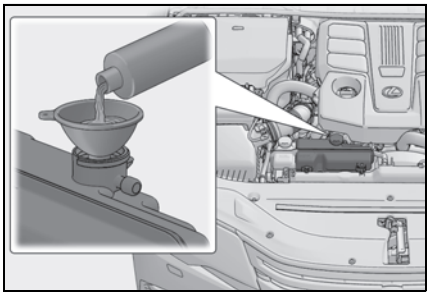
B “F”（上限）

C “L”（下限）

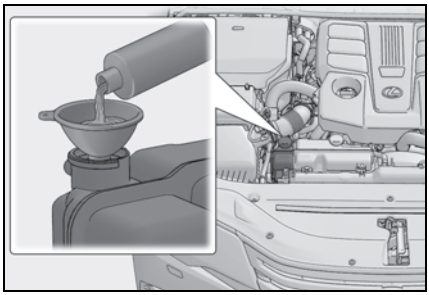
5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する（→P.579）

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

▶ エンジン



▶ インタークーラー



6 エンジンを始動し、ラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、レクサス販売店に連絡する
ファンが作動している場合：
最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

8 マルチインフォメーションディスプレイの“エンジン冷却水高温
安全な場所に停車して取扱書を

確認してください” 表示を確認する

表示が消えていない場合：
すぐにエンジンを停止し、レクサス販売店に連絡してください。
表示が消えている場合：
最寄りのレクサス販売店で点検を受けてください。

警告

■エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ボンネット（→P.505）、エンジンルームカバー（→P.506）の注意事項も併せてお読みください。
- エンジンおよびエンジンラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

注意

■冷却水を入れるとき

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

脱出するには

1 パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にして、エンジンを停止する

シフトレバーを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

2 後輪周辺の土や雪などを取り除く

3 後輪の下に木や石などをあてがう

4 エンジンを再始動する

5 シフトレバーを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

次の方法もお試しください。

- アクティブ TRC を OFF にする（→P.431）
- トランスファーレンジを切りかえる（→P.407）
- センターデフロックを使用する（→P.408）
- フロントデフロック★を使用する（→P.410）
- リヤデフロック★を使用する（→P.412）
- クロールコントロールを使用する（→P.413）
- マルチテレインセレクトを使用する（→P.418）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- 後輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。
- スタックから脱出する際にオートマチックトランスミッションの油温に関する警告メッセージが表示されたときは、ただちにアクセルペダルから足を離して警告メッセージが表示されなくなるまで待ってください。トランスミッションが故障するおそれがあります。（→P.547）

車両情報 8

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 578

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能 583

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 603

8-4. フリー／オープンソースソフトウェア

フリー／オープンソースソフトウェア情報 604

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）※1 バイオ混合ガソリン（プレミアム）※2	80

※1無鉛レギュラーガソリンを使用することもできます。その場合、エンジン性能を十分に発揮できません。

※2エタノールの混合率 10% 以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

エンジンオイル

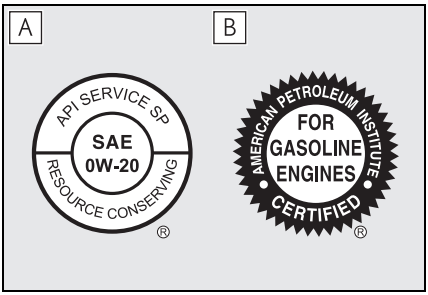
指定銘柄	容量 [L]（参考値 ※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： 弊社純正モーターオイル SP 0W-20 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 適合： 弊社純正モーターオイル SP 5W-30 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30	7.0	7.3

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。
0W-20 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。
0W-20 が入手困難な場合は、5W-30 もご使用いただけます。
なお、ILSAC 規格合格油の缶には

ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

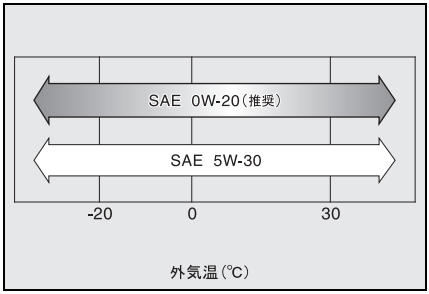


A API マーク

B ILSAC CERTIFICATION マーク

■ **エンジンオイル推奨粘度**

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L]（参考値）	
	エンジン	インタークーラー
弊社純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12 ℃ 濃度 50%　－ 35 ℃	14.6	3.8

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	容量 [L]（参考値 ※）
弊社純正オートフルード WS	11.4

※ 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください。

注意

■オートマチックトランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ディファレンシャル

▶ フロント

指定銘柄（推奨粘度）	仕様	容量 [L]（参考値）
弊社純正ディファレンシャルギアオイル LT（API GL-5 SAE 75W-85）	デフロック非装着車	1.16
	デフロック装着車	1.32

▶ リヤ

指定銘柄（推奨粘度）	仕様	容量 [L]（参考値）
弊社純正ディファレンシャルギアオイル LT（API GL-5 SAE 75W-85）	デフロック・LSD 非装着車	5.45
	デフロック装着車	5.18
弊社純正ディファレンシャルギアオイル LX（API GL-5 SAE 75W-85）	LSD 装着車	5.25

注意

■ディファレンシャルフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

トランスファー

指定銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
弊社純正トランスファーギヤオイル LF（SAE 75W）	1.78

サスペンション

指定銘柄
弊社純正サスペンションフルード AHC

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
弊社純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※	145 以上

※ エンジン回転時に 300N（31kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値です。

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
4.8

タイヤ・ホイール

■ サイズ・空気圧

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
		前輪	後輪
265/70R18 116H	18 × 7 1/2J	230（2.3）	230（2.3）
265/55R20 113V	20 × 8J	230（2.3）	230（2.3）
265/50R22 109V	22 × 8J	230（2.3）	230（2.3）

■ ホイールナット締め付けトルク

トルク［N・m（kgf・cm）］
131（1336）

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	リヤフォグランプ	21

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
VJA310W	V35A-FTS（3.5L ガソリン）	4WD（4 輪駆動）

重量（ヒッチメンバー付き車）※

項目	グレード	重量
許容車両総重量	すべて	3280kg
けん引能力	ブレーキ装着トレーラー	3500kg
	ブレーキ非装着トレーラー	750kg

※ 許容車両総重量とトレーラー重量の合計重量は、6750kg をこえないでください。

ユーザーカスタマイズ機能

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてレクサス販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチメディア画面・マルチインフォメーションディスプレイの操作により設定を変更することができる機能もあります。

一部の車両カスタマイズ設定は、マイセッティングと連動して設定が変更されます。**（→P.173）**

設定を変更するには

■ メインメニューの⚙から設定する

1 マルチメディア画面の⚙をタッチする

2 “車両カスタマイズ” または “運転支援” をタッチする

3 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、（作動）・（非作動）を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、バー上のアイコンをスライドしてレベルを調整します。

■ メインメニューの🚗から設定する

1 マルチメディア画面の🚗をタッチする

2 “運転支援” をタッチする

3 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

作動・非作動の設定は、選択するたびに切りかわります。

作動状態を選択すると、項目が強調表示されます。

■ マルチテレインモニターの設定を変更する

1 カメラスイッチを押す

2 マルチメディア画面の⚙にタッチし、“マルチテレインモニター” にタッチする

知識

■カスタマイズ設定を行うとき

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。また、バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態で操作を行ってください。

⚠ 警告

■カスタマイズ設定を行うとき

エンジンを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■カスタマイズ設定を行うとき

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

A マルチメディア画面で設定変更可能

B レクサス販売店で設定変更可能

■ オートアラーム（→P.63）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	●する ●しない	—	○

■ 指紋認証システム ※1（→P.67）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
指紋認証システム機能 ※2	●あり ●なし ※3	○	○

※1設定方法については別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

※2指紋情報を登録していないときは変更することができません。

※3指紋情報を登録すると自動的に “あり” になります。

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ（→P.78, 84）

言語や単位などの一部の項目は、マルチメディア画面の設定に連動してメーター、マルチインフォメーションディスプレイの表示も変更されます。設定の変更については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
メーター表示タイプ ※	●タイプ 1 ●タイプ 2 ●タイプ 3	○	—
エコドライブインジケーターランプ ※	●あり ●なし	○	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
提案サービス ※	●あり ●あり（停止中のみ） ●なし	○	○
制動灯表示灯	●あり ●なし	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ヘッドアップディスプレイ（→P.86）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ヘッドアップディスプレイ表示 ※	●あり ●なし	○	—
ヘッドアップディスプレイ表示タイプ ※	●最小 ●標準 ●最大	○	—
ヘッドアップディスプレイの明るさ ※	●任意の照度	○	—
ヘッドアップディスプレイの表示位置 ※	●任意の位置	○	—
ヘッドアップディスプレイの傾き調整 ※	●任意の傾き	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ドアロック（→P.103, 567）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
メカニカルキーによる解錠	●1 回で全ドア解錠 ●1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	—	○
車速感応オートドアロック ※	●あり ●なし	○	○
シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠 （シフト操作連動ドアロック）※	●あり ●なし	○	○

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠 （シフト操作連動アンロック）※	●あり ●なし	○	○
運転席を開けたときの全ドア自動解錠 （運転席ドア開連動アンロック）※	●あり ●なし	○	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ リヤシートリマインダー（→P.105）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
リヤシートリマインダー ※	●あり ●なし	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通（→P.101, 124）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
作動の合図（ブザー音量調整）※	●レベル 0（なし）～レベル 7	○	○
作動の合図（非常点滅灯）※	●あり ●なし	○	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間 ※	●30 秒 ●60 秒 ●120 秒	—	○
半ドア警告ブザー	●あり ●なし	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ スマートエントリー＆スタートシステム（→P.124）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
スマートエントリー＆スタートシステム	●あり ●なし	○	○
解錠されるドアの選択	●全席解錠 ●運転席のみ解錠	○	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
全席解錠までのドアハンドル保持時間※	●1.5 秒 ●2.0 秒 ●2.5 秒 ●非作動	—	○
連続ロック操作の有効回数	●2 回 ●無制限	—	○
降車オートロック機能	●あり ●なし	—	○
パワーバックドア閉作動中降車オートロック機能	●あり ●なし	—	○
接近時オートアンロック機能	●あり ●なし	—	○
エンジンスイッチ文字照明	●あり ●なし	—	○

※ 解錠されるドアの選択を “ 運転席のみ解錠 ” にしたときに設定できます。

■ ワイヤレスドアロック（→P.101）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
解錠時の操作 ※	●1 回で全ドア解錠 ●1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	○
ドアが施錠されている状態で を操作したときのドアロック解錠作動（→P.111）	●あり（全ドア解錠） ●あり（バックドアのみ解錠） ●なし	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ パワーバックドア（→P.111）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
パワーバックドア機能	●あり ●なし	○	—
車内のスイッチを押してパワーバックドアを開くときの操作	●1 回押し ●1 回押し続ける	—	○

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ワイヤレスリモコンの🚗を押してパワーバックドアを開くときの操作	●1 回押し ●2 回押し ●1 回押し続ける ●非作動	—	○
パワーバックドア作動中のブザー音量	●小 ●中 ●大	○	—
パワーバックドア作動中のブザー吹鳴※1	●あり ●なし	—	○
パワーバックドア全開時の開度	●1 ～ 5※2	○	—
バックドアを引き下げたときの自動閉作動	●あり ●なし	—	○
バックドアオープンスイッチを押したときの自動開作動	●あり ●なし	—	○
クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能	●あり ●なし	—	○
ハンズフリーパワーバックドア（キックセンサー）の作動	●あり ●なし	○	—
キックセンサーの感度調整	●+0 ～ +2	—	○
キックセンサーが足を検知したときのブザー	●あり ●なし	—	○
ハンズフリークローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能	●あり ●なし	—	○

※1作動開始時のブザーを非吹鳴にすることはできません。

※2バックドア下部のスイッチ操作でお好みの開度に設定することもできます。
（→P.123）

■ ポジションメモリー（→P.168）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ヘッドレストと車両天井との干渉防止機能（メモリー位置呼び出し時）	●あり ●なし	—	○

■ パワーイージーアクセスシステム（→P.168）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
降車時の運転席シート前後移動量 ※	●少なめ ●標準 ●OFF	○	○
降車時のステアリング移動 ※	●上下のみ ●前後のみ ●全て作動 ●なし	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ドアミラー（→P.159）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
オート電動格納作動	●ドアの施錠・解錠と連動 ●エンジンスイッチと連動 ●なし	—	○

■ パワーウインドウ、ムーンルーフ共通（→P.162, 165）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
メカニカルキー連動開閉機能 ※	●あり ●なし	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能 ※	●あり ●なし	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図（ブザー）	●あり ●なし	—	○

※ パワーウインドウの設定を変更すると、ムーンルーフの設定も連動して変更されます。

■ ムーンルーフ（→P.165）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
メカニカルキー連動作動時の開閉部位	●スライドのみ ●チルトのみ	—	○
ワイヤレスリモコン連動作動時の開閉部位	●スライドのみ ●チルトのみ	—	○

■ ドライブスタートコントロール（→P.182）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
後退速度の抑制制御	●あり ●なし ※	○	—

※ “なし” に変更しても、エンジンスイッチを ON にするたびに “あり” にもどります。

■ エンジンスイッチ（→P.191）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ACC カスタマイズ ACC の ON ／ OFF を切りかえる	●ON ●OFF	○	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→P.204）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ライトセンサーの感度調整 （コンライト感度調整）※	●より暗い ●暗い ●標準 ●明るい ●より明るい	○	○
ランプ消し忘れ防止機能	●エンジンスイッチを OFF にする ●運転席ドアを開ける	—	○
ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能	●あり ●なし	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ランプ（→P.204）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
おむかえ照明機能の制御	●あり ●なし	—	○

■ ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）（→P.217）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
バックドア開連動リヤワイパー停止機能（→P.218）	●する ●しない	—	○
ウォッシャー液を噴射したときのリヤワイパー作動	●する ●しない	—	○
リバース連動機能（→P.218）	●1 回のみ作動 ●連続作動 ●しない	—	○

■ アダプティブハイビームシステム（→P.208）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
アダプティブハイビームの作動	●ON ●OFF※	—	○
車速に応じた、ハイビームの明るさと照らす範囲の調整	●15km/h ●30km/h ●80km/h	—	○
カーブを走行しているとき、進行方向側のハイビームを明るく照らす	●ON ●OFF	—	○
先行車との距離に応じた、ロービームの照らす範囲の調整	●ON ●OFF	—	○
雨天時用のハイビーム配光制御	●ON ●OFF	—	○
市街地用の配光制御	●ON ●OFF	—	○

※ オートマチックハイビームとして作動します。（→P.211）

■ プリクラッシュセーフティ（→P.234）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
プリクラッシュセーフティ	●ON ●OFF	○	—
警報タイミング ※	●遅い ●標準 ●早い	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ フロントクロストラフィックアラート（→P.260）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
フロントクロストラフィックアラート	●ON ●OFF	○	—
注意喚起タイミング ※	●遅い ●標準 ●早い	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ レーンディパーチャーアラート（LDA）（→P.250）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
レーンディパーチャーアラート（LDA）※	●ON ●OFF	○	—
警報タイミング ※	●標準 ●早い	○	—
警報手段 ※	●ハンドル振動 ●ブザー	○	—
低車速支援 ※	●ON ●OFF	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ レーンチェンジアシスト（→P.247）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
レーンチェンジアシスト ※	●ON ●OFF	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ レーダークルーズコントロール（DRCC）（→P.267）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
再発進可能時間延長 ※	●ON ●OFF	○	—
加速度設定 ※	●弱 ●中 ●強	○	—
速度設定（短押し）※	●1km/h ●5km/h ●10km/h	○	—
速度設定（長押し）※	●1km/h ●5km/h ●10km/h	○	—
ガイド文言表示 ※	●ON ●OFF	○	—
カーブ速度抑制 ※	●OFF ●弱 ●中 ●強	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ プロアクティブドライビングアシスト（→P.255）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
プロアクティブドライビングアシスト ※	●ON ●OFF	○	—
支援感度 ※	●低い ●中間 ●高い	○	—
操舵アシスト（SA）※	●ON ●OFF	○	—
減速アシスト（DA）※	●ON ●OFF	○	—
障害物先読みアシスト（OAA）※	●ON ●OFF	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 発進遅れ告知（→P.262）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
先行車 ※	●ON ●OFF	○	—
信号 ※	●ON ●OFF	○	—
告知タイミング ※	●遅い ●標準 ●早い	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ロードサインアシスト（→P.264）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ロードサインアシスト ※	●ON ●OFF	○	—
速度標識超過告知方法 ※	●無 ●表示 ●表示とブザー	○	—
その他告知方法 ※	●無 ●表示 ●表示とブザー	○	—
速度超過告知車速 ※	●10km/h ●5km/h ●2km/h	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 休憩提案（→P.252）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
休憩提案	●ON ●OFF	○	—

■ ITS Connect（→P.286）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
支援タイミング	●遅い ●早い	○	—
信号情報	●ON ●OFF	○	—
道路環境情報	●ON ●OFF	○	—
緊急車両通知	●ON ●OFF	○	—
通信利用型クルーズ	●ON ●OFF	○	—

■ アドバンスト ドライブ（渋滞支援）（→P.282）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
アドバンストドライブ ※	●ON ●OFF	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ドライバーモニター（→P.232）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
注意喚起 ※	●ON ●OFF	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ BSM（ブラインドスポットモニター）（→P.292）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ブラインドスポットモニター機能	●あり ●なし	○	—
ドアミラーインジケーターの明るさ ※	●暗い ●明るい	○	—
接近車両を知らせるタイミング（感度）※	●遅い ●標準 ●早い	○	—
ブザー警報 ※	●あり ●なし	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 後方車両接近告知（→P.298）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
後方車両接近告知機能 ※	●あり ●なし	○	—
接近車両を知らせるタイミング（感度）※	●遅い ●標準 ●早い	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 周辺車両接近時サポート（→P.300）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
周辺車両接近時サポート機能 ※	●あり ●なし	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 安心降車アシスト（→P.308）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
安心降車アシスト機能	●ON ●OFF	○	—
ドアミラーインジケーター表示 ※	●あり ●なし	○	—
接近車両検知の感度 ※	●低い ●中間 ●高い	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ クリアランスソナー（→P.312）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
クリアランスソナー機能 ※1	●あり ●なし	○	—
ブザー音量 ※1, 2	●小 ●中 ●大	○	—
フロントセンターセンサーの検知開始距離 ※3	●近い ●標準	○	—
リヤセンターセンサーの検知開始距離 ※3	●近い ●標準	○	—

※1マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※2クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラート、リヤカメラディテクションの音量調整は連動しています。

※3マルチテレインモニターの設定画面で設定を変更できます。（→P.381）

■ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）（→P.318）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
リヤクロストラフィックアラート	●ON ●OFF	○	—
リヤクロストラフィックアラート作動時のブザー音量 ※1, 2	●小 ●中 ●大	○	—

※1マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※2クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラート、リヤカメラディテクションの音量調整は連動しています。

■ RCD（リヤカメラディテクション）（→P.322）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
RCD 機能	●ON ●OFF	○	—

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→P.326）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
PKSB（パーキングサポートブレーキ）機能 ※	●ON ●OFF	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ マルチテレインモニター ※1（→P.335）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
コーナリングビュー ※2	●あり ●なし	○	—
床下透過の映像表示 ※2	●あり ●なし	○	—
クリアランスソナーの 3D 表示 ※2	●あり ●なし	○	—
クリアランスソナーのフロントセンターの検知距離 ※2	●近い ●標準	○	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
クリアランスソナーのリヤセンターの検知距離 ※2	●近い ●標準	○	—
ボディーカラー ※2	●カラー 1 ～ カラー 6	○	—
カメラ映像自動オフ ※2	●あり ●なし	○	—

※1マルチテレインモニターの設定画面を表示することで設定を変更することができます。（→P.381）

※2マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ AHC（アクティブハイトコントロール）（→P.400）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
車高制御	●あり ●なし	○	—
乗降時の車高調整機能	●あり ●なし	○	—

■ ドライブモードセレクトスイッチ（→P.398）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
カスタムモード時のパワートレーン制御	●Normal ●Power ●Eco	○	—
カスタムモード時のステアリング制御	●Normal ●Sport	○	—
カスタムモード時のサスペンション制御	●Normal ●Sport ●Comfort	○	—
カスタムモード時のエアコン作動	●Normal ●Eco	○	—

■ エアコン（→P.448）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる ※	●する ●しない	○	○
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C スイッチが連動して ON になる ※	●する ●しない	○	○
排ガスセンサー感度調節 ※	●-3 ～ 3 ●OFF	○	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ シートヒーター／シートベンチレーター（→P.460）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
運転席シートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整 ※	●-2（涼しめ）～ 2（暖かめ）	○	○
助手席シートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整 ※	●-2（涼しめ）～ 2（暖かめ）	○	○
左側リヤシートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整	●-2（涼しめ）～ 2（暖かめ）	○	○
右側リヤシートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整	●-2（涼しめ）～ 2（暖かめ）	○	○

※ シートヒーターのみマイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ステアリングヒーター（→P.460）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ステアリングヒーター AUTO モード時の温度調整 ※	●-2（低め）～ 2（高め）	○	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ イルミネーション（→P.464）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
室内灯の消灯までの時間 ※	●7.5 秒 ●15 秒 ●30 秒 ●OFF	○	○
エンジンスイッチ OFF 後の室内灯自動点灯機能	●あり ●なし	—	○
電子キーを携帯して車両に近付いたときの室内灯自動点灯	●あり ●なし	—	○
ドアを解錠したときの室内灯自動点灯	●あり ●なし	—	○
ドアトリムオーナメント照明、インサイドドアハンドル照明、スポット照明、足元照明、小物入れ照明、カップホルダーの照度などの照明色 ※	●各照明色 ●カスタム	○	○
すべてのエリア：ドアトリムオーナメント照明、インサイドドアハンドル照明、スポット照明、足元照明、小物入れ照明、カップホルダーの照度などの照明色 ※	●任意の照度	○	○
フロント部：フロントドアトリムオーナメント照明、フロントインサイドドアハンドル照明、スポット照明などの照明色 ※	●任意の照度	○	○
リヤ部：リヤドアトリムオーナメント照明、リヤインサイドドアハンドル照明などの照明色 ※	●任意の照度	○	○
足元照明の照度 ※	●任意の照度	○	○
ドアミラー足元照明、サイドステップ照明の消灯までの時間 ※	●7.5 秒 ●15 秒 ●30 秒 ●OFF	○	○

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
電子キーを携帯して車両に近付いたときのドアミラー足元照明、サイドステップ照明の点灯	●あり ●なし	—	○
ドアを解錠したときのドアミラー足元照明、サイドステップ照明の点灯	●あり ●なし	—	○
ドアを開けたときのドアミラー足元照明、サイドステップ照明の点灯	●あり ●なし	—	○
ドアを施錠して車両から離れたときの室内灯自動消灯	●あり ●なし	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

知識

■車両カスタマイズについて

● “車速感応オートドアロック” と “シフトレバーをP 以外にしたときの全ドア施錠” を両方とも “ あり ” にした場合次のように作動します。
・ シフトレバーを P 以外にすると全ドア施錠されます。
・ 全ドア施錠された状態で発進した場合、車速感応オートドアロックは作動しません。
・ 発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応オートドアロックが作動します。

●スマートエントリー＆スタートシステムが “ なし ” の場合、“ 解錠されるドアの選択 ” の設定はできません。

●解錠後にドアを開けなかったときの自動施錠が作動した合図は、 “ 作動の合図（非常点滅灯）” ・ “ 作動の合図（ブザー音量調整）” の設定に依存します。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
タイヤ空気圧警報システム	・タイヤサイズの変更などにより、タイヤの指定空気圧が変更になったとき（指定空気圧が複数ある場合）	P.510
クロールコントロール（ターンアシスト機能付き）	・バッテリーを脱着したとき	P.417
パワーバックドア	・バッテリーの充電・交換後の再接続時	P.119
パワーウインドウ	・正常に働かないとき	P.162
ムーンルーフ		P.166

フリー／オープンソースソフトウェア情報

計器類

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。

このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

https://www.yazaki-group.com/rd-tech/oss/913

ITS Connect

● 本製品は、トロンフォーラム（www.tron.org）の T-License2.0 に基づき T-Kernel ソースコードを利用しています。

● フリー／オープンソースソフトウェア情報について

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。
このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。
https://www.denso.com/global/en/opensource/v2x/toyota/

マルチテレインモニター

フリー/オープンソフトウェア情報について

本製品はフリー/オープンソースソフトウェアを含んでいます。
このようなフリー/オープンソフトウェアのライセンス情報は以下のURLで
入手することができます。

https://www.denso.com/global/en/opensource/svss/toyota/

フロントマルチオペレーションパネル

©1982-2013, QNX Software Systems Limited. All rights reserved.

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）
…… 606
車から音が鳴ったときは（音さくいん）…… 608
アルファベット順さくいん …. 611
五十音順さくいん …… 613

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、レクサス販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、レクサス販売店でレクサス純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.567）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにレクサス販売店にご相談ください。（→P.567）

施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.520）
- エンジンスイッチが ON になっていませんか？
  施錠するときは、エンジンスイッチを OFF にしてください。（→P.191）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→P.126）

リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
  チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.108）

故障かな？と思ったら

エンジンがかからない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→P.188）
- シフトレバーは P になっていますか？（→P.188）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.125）
- ステアリングロックされていませんか？（→P.189）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
  このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。（→P.568）
- バッテリーがあがっていませんか？（→P.569）
- 指紋認証に成功していますか？（→P.67）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

● エンジンスイッチは ON になっていますか？

エンジンスイッチが ON でブレーキを踏んでも解除できないとき（→P.194）

エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

● 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→P.189）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

● ウインドウロックスイッチが押されていませんか？
ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→P.164）

エンジンスイッチが自動的に OFF になった

● 一定時間 ACC または ON（エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P.191）

警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

● 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.608）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

● 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.538、547 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

● 車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤをスペアタイヤに交換してください。（→P.555）

立ち往生した

● ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.576）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P.63
ドアを開閉したとき	シフトレバーがP以外になっている	P.547
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P.63
	後方から自動車・自転車が接近している	P.308
エンジンスイッチをOFFにしたとき	リヤシートリマインダー機能が作動した	P.105
エンジンを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.520
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.125
	電子キーを車内に置き忘れている	P.547

※ スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンでドア・バックドアを解錠する、またはエンジンスイッチをONにするか、エンジンを始動すると、警報を解除することができます。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・バックドア・ボンネットが確実に閉まっていない	P.107
	パーキングブレーキが解除されていない	P.543
	シートベルトを着用していない ※	P.544
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P.196
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P.180
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P.272
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P.234

状況	原因	詳細
車線から逸脱しそうになったとき	LTA（レーントレーシングアシスト）を使用している	P.243
	LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用している	P.250
車線変更時、後方から車が接近しているとき	LCA（レーンチェンジアシスト）を使用している	P.247
低速で交差点などへ進入するとき、交差する車両の接近を検知したとき	FCTA（フロントクロストラフィックアラート）が作動した	P.260
前の車が発進または信号が青にかわっても停車し続けたとき	発進遅れ告知機能が作動した	P.262
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P.265
はみ出し通行禁止の道路で追い越しをかけたとき		
無操作運転が継続されたとき	ドライバー異常時対応システムが作動した	P.279

状況	原因	詳細
自車の後方から接近してくる車両を検知したとき	後方車両接近告知が作動した	P.298
障害物との距離が近付いたとき	クリアランスソナーが作動した	P.312
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）が作動した	P.318
後退時に後方の歩行者を検知したとき	RCD（リヤカメラディテクション）が作動した	P.322
対向車や右折先の歩行者がいるときに右折しようとしたとき	ITS Connectが作動した	P.286
左右から交差点に進入する車がいるときに発進しようとしたとき		
赤信号の交差点に進入しそうになったとき		
緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているとき		

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブ

ザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）..... 448, 456
ABS
（アンチロックブレーキシステム）
..... 429
AHB
（オートマチックハイビーム）.. 211
AHC
（アクティブハイトコントロール）
..... 400
AHS
（アダプティブハイビームシステム）
..... 208
AI-SHIFT
（アーティフィカルインテリジェンスシフト）..... 193
AVS
（アダプティブバリアブルサスペンションシステム）..... 430
BSM
（ブラインドスポットモニター）292
CRAWL
（クロールコントロール）..... 413
DAC
（ダウンヒルアシストコントロール）
..... 421
ECB
（エレクトロニカリーコントロールドブレーキシステム）..... 429
Eco Heat/Cool
エコ空調モード 450
EDR
（イベントデータレコーダー）..... 8
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）..... 430
FCTA
（フロントクロストラフィックアラート）..... 260
GPF
（ガソリンパティキュレートフィルタ）.....428
HUD
（ヘッドアップディスプレイ）....86
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）.....578
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）.....47
ITS Connect
通信利用型レーダークルーズコントロール 273
LCA
（レーンチェンジアシスト）.....247
LDA
（レーンディパーチャーアラート）
.....250
LED
（ライトエミッティングダイオード）
.....525
Lexus Safety System +
AHB（オートマチックハイビーム）
.....211
AHS（アダプティブハイビームシステム）.....208
RSA（ロードサインアシスト）.264
FCTA（フロントクロストラフィックアラート）.....260
LCA（レーンチェンジアシスト）
.....247
LDA（レーンディパーチャーアラート）.....250
LTA（レーントレーシングアシスト）.....243
クルーズコントロール.....276
ドライバー異常時対応システム279
ドライバーモニター.....232

発進遅れ告知機能 262
PCS（プリクラッシュセーフティ）
..... 234
PDA（プロアクティブドライビング
アシスト）..... 255
レーダークルーズコントロール267
LTA
（レーントレーシングアシスト）243
MTS
（マルチテレインセレクト）.... 418
PCS
（プリクラッシュセーフティ）.. 234
PDA
（プロアクティブドライビングアシ
スト）..... 255
PKSB
（パーキングサポートブレーキ）326
RCD
（リヤカメラディテクション）.. 322
RCTA
（リヤクロストラフィックアラート）
..... 318
RSA
（ロードサインアシスト）..... 264
S-FLOW
フロント席集中送風モード 453
SRS
（サプリメンタルレストレイントシ
ステム）..... 37
S-VSC
（ステアリングアシステッドビーク
ルスタビリティコントロール）429
SYNC
各席連動モード 453
TRC
（トラクションコントロール）430,
576
VDIM
（ビークルダイナミクスインテグレ
イテッドマネージメント）.....430
VSC
（ビークルスタビリティコントロー
ル）.....429

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処置）..... 569
アームレスト..... 493
ITS Connect..... 286
アウターミラー（ドアミラー）
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 318
安心降車アシスト 308
格納のしかた 160
操作..... 159
BSM 292
ポジションメモリー..... 169
ミラーヒーター 450
リバース連動機能 160
アクセサリーコンセント 483
アクセサリーソケット 481
アクティブ TRC..... 430
アクティブハイトコントロール（AHC）..... 400
乗降モード 402
アシストグリップ..... 495
足元照明 464
アダプティブハイビームシステム（AHS）..... 208
アダプティブバリアブルサスペンションシステム（AVS）..... 430
アドバンストドライブ（渋滞時支援）..... 282
ソフトウェアアップデートを確認する 221
アラーム
オートアラーム 63
音さくいん 608
警告ブザー 538, 547
安心降車アシスト..... 308
アンチロックブレーキシステム（ABS）..... 429
アンテナ
スマートエントリー＆スタートシステム..... 124

い

イージークローザー
サイドドア..... 107
バックドア..... 115
イグニッションスイッチ（エンジンスイッチ）..... 188
エンジンのかけ方 188
自動電源 OFF 機能..... 191
車両を緊急停止するには 530
モード切りかえ 191
位置交換（タイヤローテーション）..509
イベントデータレコーダー（EDR）.....8
イモビライザーシステム..... 62
イルミネーテッドエントリーシステム..... 466
インサイドハンドル照明..... 464
インジケーター（表示灯）..... 75
インストルメントパネル照度調整スイッチ..... 84
インテリアランプ 466

う

ウインカー（方向指示灯）..... 197
方向指示レバー 197
ランプの交換..... 524
ウインドウ
ウインドシールドデアイサー 453
ウォッシャー..... 214, 217
パワーウインドウ 162
リヤウインドウデフォッガー 450
ウインドウロックスイッチ..... 164
ウインドシールドデアイサー..... 453
ウォーニングランプ（警告灯）.73, 538

ウォッシャー
液の補充 508
スイッチ 214, 217
タンク容量 581
冬の前の準備・点検..... 436
動けなくなったときは（スタック）. 576
雨滴感知式ワイパー 214
運転
雨の日の運転 177
運転を補助する装置..... 429
寒冷時の運転 436
正しい運転姿勢 31
手順 177
運転支援システム情報表示 91
運転席シートベルト非着用警告灯... 544

え

エアコン 448, 456
エコ空調モード 450
曇り取り（フロントガラス）..... 450
曇り取り（リヤウインドウ）..... 450
ナノイー X..... 451
フィルターの交換 518
フロントオートエアコン..... 448
フロント席集中送風モード（S-FLOW）
..... 453
リヤオートエアコン..... 456
レクサスクライメイトコンシェルジュ 447
エアバッグ
SRS エアバッグ警告灯 539
改造・廃棄 43
作動条件 39
正しい姿勢 31
配置 37
エレクトリックパワーステアリング
（EPS）..... 430
パワーステアリング警告灯 539
エレクトロニカリーコントロールドブ
レーキシステム（ECB）.....429
エンジン
エンジンイモビライザーシステム.....62
エンジンが始動できない 565
エンジン警告灯 539
エンジンスイッチ（イグニッション）.188
エンジンの始動方法 188
エンジンルームカバー 506
エンジンを停止する前に 178
オーバーヒート 573
緊急時の停止方法 530
タコメーター 78
フューエルポンプシャットオフシステム
.....537
ボンネット 505
エンジンオイル
冬の前の準備・点検 436
メンテナンスデータ 578
油圧警告灯 538
容量 578
エンジン回転計（タコメーター）.....78
エンジンスイッチ（イグニッションス
イッチ）.....188
エンジンのかけ方 188
自動電源 OFF 機能.....191
車両を緊急停止するには 530
照明 464
モード切りかえ 191
エンジンフード（ボンネット）
開け方.....505
警告音.....107
エンジンルーム
エンジンルームカバー 506
エンジンルームから蒸気が出ている...573

お

オイル（エンジンオイル）..... 578
オーディオシステム連携表示 92
オートアラーム..... 63
オートエアコン..... 448, 456
フロントオートエアコン..... 448
リヤオートエアコン..... 456
レクサスクライメイトコンシェルジュ 447
オートドアロック・アンロック機能 108
オートマチックトランスミッション 193
シフトダウン制限警告ブザー 196
シフトポジション 193
パドルシフトスイッチ..... 195, 196
オートマチックハイビーム（AHB）. 211
オートレベリングシステム
ヘッドランプ 206
オーバーヒート..... 573
オーバーヘッドコンソールボックス 472
オープナー
給油扉 220
バックドア 110
ボンネット 505
おくだけ充電（ワイヤレス充電器）. 486
お子さまを乗せるとき
ウインドウロックスイッチ..... 164
お子さまの安全のために..... 46
シートヒーターに関する警告 460
シートベルトの着用..... 34
ステアリングヒーターに関する警告 .. 460
チャイルドシート 47
チャイルドシートの取り付け 47
チャイルドプロテクター..... 108
発炎筒の取り扱いに関する警告 530
バックドアに関する警告..... 109
バッテリーに関する警告..... 572
パワーウインドウに関する警告 163
ムーンルーフに関する警告..... 166
オドメーター
ODO TRIP スイッチ.....83
表示項目.....78
オフロード走行情報画面.....440

か

カーゴフック 475
カーテンシールドエアバッグ.....37
カードキー 98
カードホルダー 474
カーペット
洗浄 502
フロアマットの取り付け方 30
外気温度表示 78
外装の電球（バルブ）
交換要領.....524
ワット数.....582
買い物フック 476
カスタマイズ機能 583
型式.....582
カップホルダー 472
カメラ
サイドカメラ.....225, 387
前方カメラ.....225, 387
デジタルインナーミラー 155
ドライバーモニター 232
フロントカメラ.....225, 387
リヤカメラ.....225, 387
ガラスの曇り取り
前方カメラ取り付け部 228
フロントウインドウガラス 450
リヤウインドウガラス 450
冠水路走行 182
寒冷時の運転 436

き

キー

エンジンが始動できない..... 565
カードキー 98
キーナンバープレート..... 98
キーの構成 98
キーレスエントリー..... 101, 124
キーをなくした 567
正常に働かない 567
施錠・解錠ができない..... 568
電子キー 98
電池が切れた 520, 567
メカニカルキー 102
ワイヤレスリモコン..... 101
キーレスエントリー
スマートエントリー＆スタートシステム 124
ワイヤレスドアロック..... 101
きしみやひっかき音が聞こえる（ブレーキパッドウェアインジケーター）.. 180
キックセンサー..... 113, 114
給油 219
給油口の開け方 220
メンテナンスデータ..... 578
緊急時シートベルト固定機構 34
緊急始動機能..... 566
緊急時の対処
エンジンが始動できない..... 565
オーバーヒートした..... 573
キーの電池が切れた..... 520, 567
キーをなくした 567
警告灯がついた 538
警告メッセージが表示された 547
けん引 533
故障したときは 528
車両を緊急停止する..... 530
水没・冠水したときは..... 531
スタックした 576
電子キー、または指紋認証システムが正常に働かない 567
発炎筒.....529
バッテリーがあがった 569
パンクした.....555
緊急ブレーキシグナル.....430

く

空気圧（タイヤ）.....581
タイヤ空気圧警報システム 510
メンテナンスデータ 581
クールボックス 480
区間距離計（トリップメーター）
ODO TRIP スイッチ.....83
表示項目.....78
曇り取り
前方カメラ取り付け部 228
フロントガラス 450
ミラーヒーター 450
リヤウインドウデフォッガー 450
クラクション（ホーン）.....150
クリアランスソナー 312
クリアランスランプ（車幅灯）.....204
スイッチ.....204
ランプの交換.....524
クリップ
フロアマット 30
クルーズコントロール
クルーズコントロール 276
レーダークルーズコントロール.....267
グローブボックス 471
クロールコントロール.....413

け

警音器（ホーン）.....150
計器類（メーター）
マルチインフォメーションディスプレイ84
メーター.....78
警告灯 73

ABS ＆ブレーキアシスト 539
LDA 表示灯 540
LTA 表示灯 540
PCS..... 540
PDA 表示灯 540
SRS エアバッグ..... 539
運転支援情報表示灯..... 541
L4 作動表示灯 542
エンジン 539
クリアランスソナー OFF 表示灯..... 541
クルーズコントロール表示灯 540
高水温 539
シートベルト非着用..... 544
充電..... 538
スリップ表示灯 542
センターデフロック作動表示灯 543
タイヤ空気圧 544
ドライブスタートコントロール 542
燃料残量 543
パーキングブレーキ表示灯 543
パワーステアリング..... 539
プリテンショナー 539
ブレーキ 538
ブレーキオーバーライドシステム 542
ブレーキホールド作動表示灯 543
フロントデフロック作動表示灯 542
ペダル誤操作 542
油圧..... 538
リヤデフロック作動表示灯..... 543
レーダークルーズコントロール表示灯 541

警告ブザー
LDA..... 540
PDA..... 540
LTA（レーントレーシングアシスト）. 540
クリアランスソナー..... 541
クルーズコントロール..... 540
高水温 539
シートベルト非着用..... 544
シフトダウン制限 196
車線逸脱警報（LDA）.....250
充電 538
衝突警報（PCS）.....234
接近警報（レーダークルーズコントロール）.....272
手放し運転警告（LDA）.....252
手放し運転警告（PDA）.....259
ドライブスタートコントロール.....542
パーキングブレーキ未解除走行時.....199
半ドア.....105
半ドア走行.....107
PCS（プリクラッシュセーフティ）....540
ブレーキ.....538
ブレーキオーバーライドシステム.....542
ブレーキホールド 543
ペダル誤操作.....542
ボンネット開.....107
油圧 538
リバース.....193
レーダークルーズコントロール.....541

警告メッセージ 547
化粧ミラー（バニティミラー）.....481
けん引
けん引のしかた 533
トレーラーのけん引 185
フック.....534

こ

交換
エアコンフィルター 518
キーの電池.....520
スペアタイヤ.....555
電球（バルブ）.....524
ヒューズ.....522

工具（ツール）.....555
降車オートロック機能.....103

航続可能距離 93
後退速度の抑制制御（ドライブスタートコントロール）..... 182
後退灯（バックアップランプ）
ランプの交換 524
後方車両接近告知 298
作動条件 299
後方車両への接近警報 304
コートフック 495
コーナリングランプ 207
ランプの交換 524
子供専用シート
選択方法 47
取り付け方 48
小物入れ 474
コンセント
アクセサリーコンセント 483
コンソールボックス 471
コンライト（自動点灯・消灯装置）. 204

さ

サードシート 135
格納 140
調整 135
ヘッドレスト 147
サイドエアバッグ 37
サイド方向指示灯 197
方向指示レバー 197
ランプの交換 524
サイドミラー（ドアミラー）
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
..... 318
安心降車アシスト 308
格納のしかた 160
操作 159
BSM 292
ポジションメモリー 169
ミラーヒーター 450
リバース連動機能 160
三角表示板（停止表示板）..... 528
サンシェード
ムーンルーフ 165
リヤドア 494
サンバイザー 481

し

シート 130, 135, 143
シートヒーター 460
シートベンチレーター 462
正しい運転姿勢 31
チャイルドシート 47
調整 130, 135, 144
手入れ 502
パワーイージーアクセスシステム 168
フロントシート 130
フロントシートリフレッシュシステム 133
ヘッドレスト 147
ポジションメモリー 169, 172
メモリーコール機能 170
リヤシート 135, 143
リヤシートリラクゼーションシステム 145
シートヒーター 460
スイッチ 460
レクサスクライメイトコンシェルジュ 447
シートベルト
お子さまの着用 33, 34
緊急時シートベルト固定機構 34
高さ調節 35
正しく着用するには 34
着け方・はずし方 34
手入れ 502
妊娠中の方の着用 33
非着用警告灯 544
シートベルト非着用警告灯 544
シートベルトプリテンショナー
機能 35

プリテンショナー警告灯 539
シートベンチレーター 460
スイッチ 462
レクサスクライメイトコンシェルジュ 447
シートポジションメモリー ... 169, 172
室内灯一覧..... 464
始動のしかた..... 188
シフトポジション..... 193
シフトレバー..... 194
シフトポジション 193
シフトポジションの切りかえ 194
シフトレバーがシフトできないときは 194
シフトレンジの切りかえ..... 195, 196
シフトロックシステム（解除ボタン）. 194
操作 194
リバース警告ブザー..... 193
シフトロックシステム 194
指紋認証システム..... 67
ジャッキ
車載ジャッキ 555
ジャッキハンドル..... 557
車幅灯 204
スイッチ 204
ランプの交換 524
車両型式 582
車両仕様（スペック）..... 578
車両情報表示画面..... 92
車両データの記録..... 7
車両を緊急停止するには 530
充電用 USB Type-C 端子 484
収納装備 469
周辺車両接近時サポート 300
作動条件 302
瞬間燃費 90, 93
仕様（車両仕様）..... 582
衝撃感知ドアロック解除システム... 105
乗降モード..... 402
初期化
クロールコントロール（ターンアシスト機能付き）.....417
パワーウインドウ 162
パワーバックドア 119
ムーンルーフ.....166
初期設定 603
助手席シートベルト非着用警告灯 ...544
信号切替り告知機能 262
侵入・傾斜センサー 65

す

水温計 78
スイッチ
DAC/CRAWL.....414, 421
DRIVE MODE.....398
MODE SELECT 398, 414, 418, 421
ODO TRIP 83
アダプティブハイビームシステム.....208
イグニッション 188
インストルメントパネル照度調整.....84
ウインドウロック 164
ウォッシャー.....214, 217
MTS 418
LTA.....245
エンジン.....188
オートマチックハイビーム 211
カメラ.....339
クルーズコントロール 276
シート調整.....130, 135, 144
シートヒーター 460
シートベンチレーター 462
車間距離切りかえ（レーダークルーズコントロール）.....267, 269
車高切りかえスイッチ 400
侵入・傾斜センサー OFF.....65
ステアリングヒーター 460
センターデフロック 408
ターンアシスト 416

TRC OFF 431
デジタルインナーミラー..... 151
ドアミラー 159
ドアロック 106
ドライブモードセレクト..... 398
トランスファー 407
パーキングブレーキ..... 197
ハザードランプ 529
バックドアオープン..... 111
パドルシフト 195, 196
パワーウインドウ 162
パワーバックドア 111
ハンドルの位置調整..... 150
非常点滅灯（ハザードランプ）..... 529
VSC OFF 431
フォグランプ 213
ブレーキホールド 201
フロントデフロック..... 410
フロントワイパーデアイサー 453
方向指示レバー 197
ホーン（警音器）..... 150
ポジションメモリー..... 169
ムーンルーフ 165
メーター操作 89
ランプ 204
リヤウインドウデフォッガー 450
リヤデフロック 412
レーダークルーズコントロール 267, 269
ワイパー 214, 217
スタック 576
ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール（S-VSC）.. 429
ステアリングヒーター 460
スイッチ 460
レクサスクライメイトコンシェルジュ 447
ステアリングホイール（ハンドル）
位置調整 150
ステアリングヒーター..... 460
パワーイージーアクセスシステム.....168
ポジションメモリー 169
メーター操作スイッチ 89
ステアリングロック 189
ストップランプ（制動灯）
緊急ブレーキシグナル 430
ランプの交換.....524
スノータイヤ（冬用タイヤ）.....436
スピードメーター 78
スペアタイヤ
交換方法.....555
スペック（車両仕様）.....578
スマートエントリー＆スタートシステム
アンテナの位置.....124
エンジンの始動.....188
カスタマイズ設定.....583
緊急始動機能.....566
警告ブザー.....125
警告メッセージ.....125
作動範囲.....125
正常に働かないとき 567
節電機能.....125
電波がおよぼす影響について 129
ドアの解錠・施錠.....103, 110
バックドアの解錠・施錠 110
スモールランプ（車幅灯）.....204
スイッチ.....204
ランプの交換.....524
スリップ表示灯 431

せ

清掃.....498, 502
アルミホイール.....499
外装 498
シートベルト.....502
内装 502
レーダーセンサー 226, 293

制動灯
緊急ブレーキシグナル..... 430
ランプの交換 524
セカンダリーコリジョンブレーキ. 306, 430
セカンドシート..... 135, 143
格納..... 136
サードシートへの乗り降り..... 136
シートヒーター 461
シートベンチレーター..... 462
調整..... 135, 144
ヘッドレスト 147
リラクゼーションシステム..... 145
積算距離計（オドメーター）
ODO TRIP スイッチ..... 83
表示項目 78
セキュリティインジケーター 62, 63
接近警報（レーダークルーズコントロール）..... 272
先行車発進告知機能..... 262
センサー
RCTA..... 293
雨滴感知センサー 215
LTA 243
キックセンサー 113, 114
クリアランスソナー..... 312
後側方レーダー 225
侵入・傾斜センサー..... 65
前側方レーダー 225
前方カメラ 225
前方レーダー 225
デジタルインナーミラー..... 154
ドライバーモニターカメラ..... 226
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）..... 293
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）..... 312
パワーバックドア 116
BSM.....293
ライトセンサー.....205
洗車.....498
前照灯（ヘッドランプ）.....204
オートレベリングシステム 206
スイッチ.....204
ライトセンサー.....205
ランプ消し忘れ防止機能 206
ランプの交換.....524
センターデフロック 408

そ

走行時間 92
走行モード（ドライブモード）.....398
送信機（タイヤ空気圧警報システム）.....510
速度計（スピードメーター）.....78

た

ターボゲージ 93
ターンシグナルランプ（方向指示灯）.....197
方向指示レバー 197
ランプの交換.....524
タイヤ
空気圧.....517, 581
交換 509, 555
締め付けトルク 562, 581
タイヤ空気圧警告灯 544
チェーン.....436
点検 508
パンクしたときは.....555
冬用タイヤ.....436
ホイールサイズ.....581
ローテーション（位置交換）.....509
タイヤが空まわりする（スタックした）.....576

タイヤ空気圧警報システム
ID コードの切りかえ..... 516
ID コードの登録 514
機能について 510
空気圧バルブ／送信機について 511
空気圧表示画面 510
タイヤ位置の登録 512
タイヤ空気圧警告灯..... 544
タイヤ空気圧の設定..... 513
タイヤチェーン..... 436
ダウンヒルアシストコントロールシステム 421
タコメーター..... 78

ち

チェーン（タイヤチェーン）..... 436
チャイルドシート..... 47
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け 58
シートベルトでの固定..... 56
助手席にチャイルドシートを取り付けるとき..... 48
選択方法 47
トップテザーアンカレッジ..... 60
チャイルドプロテクター 108
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）
警告灯 543
警告メッセージ 199
操作..... 197
冬季の注意 438
パーキングブレーキ表示灯 543
未解除走行時警告ブザー..... 199

つ

通信利用型レーダークルーズコントロール 273
ツール（工具）..... 555

て

提案サービス機能 95
ディスプレイ
マルチメディア画面 89
フロントマルチオペレーションパネル 440
ヘッドアップディスプレイ 86, 89
マルチインフォメーションディスプレイ 84, 89
リヤマルチオペレーションパネル.....443
デイタイムランニングランプ.....205
スイッチ.....204
ランプの交換.....524
ディファレンシャル 580
手入れ
アルミホイール.....499
外装 498
シートベルト.....502
デジタルインナーミラー 155
内装 502
レーダーセンサー 226, 293
テールランプ（尾灯）.....204
スイッチ.....204
ランプの交換.....524
デジタルインナーミラー.....151
デッキボード 476
デフォッガー（リヤウインドウデフォッガー）.....450
電圧計.....78, 92
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）.....524
ワット数.....582
点検基準値（メンテナンスデータ）..578
電子キー 98, 520
作動範囲.....125
正常に働かないとき 567
節電機能.....125
電池が切れた.....520, 567

電池交換（キー）..... 520

と

ドア 103
イージークローザー..... 107, 115
オートドアロック・アンロック機能 .. 108
降車オートロック機能..... 103
衝撃感知ドアロック解除システム 105
スマートエントリー＆スタートシステム
..... 124
チャイルドプロテクター..... 108
ドアガラス 162
ドアロックスイッチ..... 106
ドアロックボタン 106
バックドア 109
ワイヤレスリモコン..... 103
ドアカーテシランプ..... 464
ドアミラー
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
..... 318
安心降車アシスト 308
格納のしかた 160
操作..... 159
BSM 292
ミラーヒーター 450
リバース連動機能 160
ドアミラー足元照明..... 464
ランプの交換 524
盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム 62
オートアラーム 63
指紋認証システム 67
読書灯 467
時計 78
トップテザーアンカレッジ 60
トノカバー..... 477, 478
ドライバー異常時対応システム 279
ドライビングポジションメモリー ...168
パワーイージーアクセスシステム.....168
ポジションメモリー 169
メモリーコール機能 170
ドライブスタートコントロール
急発進の抑制制御 182
後退速度の抑制制御 183
ドライブモードセレクトスイッチ ...398
トラクションコントロール（TRC)..430
トランスミッション 193
オートマチックトランスミッション...193
シフトダウン制限警告ブザー 196
シフトポジション 193
パドルシフトスイッチ 195, 196
メンテナンスデータ 579
トランスミッションフルード温度計 ..92
トリップメーター
ODO TRIP スイッチ.....83
表示項目.....78
トレーラースウェイコントロール ...430

な

内装
収納装備.....469
手入れ.....502
ナノイー X 451
ナビゲーションシステム連携表示86, 91

に

ニーエアバッグ 37
荷物
カーゴフック.....475
買い物フック.....476
積むときの注意.....184
荷室内装備.....475

ぬ

ぬかるみにはまった（スタック）.... 576

ね

燃費
瞬間燃費 90, 93
燃費情報 90
平均燃費 90, 93
燃料
給油 219
種類 578
燃料残量警告灯 543
フューエルポンプシャットオフシステム 537
容量 578
燃料計 78

は

パーキングサポートブレーキ（PKSB） 326
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）..... 332
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）..... 333
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）..... 330
パーキングブレーキ
操作 197
冬季の注意 438
パーキングブレーキ表示灯 543
ブレーキ警告灯 538
未解除走行時警告ブザー 199
パーソナルランプ..... 467
排気ガス 45
排出ガス浄化装置（GPF）..... 428
ハイビーム（ヘッドランプ）..... 204
AHB（オートマチックハイビーム）....211
AHS（アダプティブハイビームシステム） 208
スイッチ.....204
ランプの交換.....524
ハイマウントストップランプ
ランプの交換.....524
ハザードランプ（非常点滅灯）.....529
スイッチ.....529
ランプの交換.....524
挟み込み防止機能
パワーイージーアクセスシステム.....168
パワーウインドウ.....162
パワーバックドア.....116
ポジションメモリー.....169
ムーンルーフ.....165
メモリーコール機能.....171
発炎筒.....529
バックアップランプ（後退灯）
ランプの交換.....524
バックドア.....109
イージークローザー.....115
オープンスイッチ.....111
キックセンサー.....113, 114
バックドアハンドル.....113
パワーバックドア.....111
ハンズフリーパワーバックドア.....113
バッテリー
警告灯.....538
バッテリーがあがった.....569
バッテリーを交換するとき.....571
パドルシフトスイッチ.....195, 196
バニティ（化粧用）ミラー.....481
バニティミラーランプ.....481
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ）.....524
ワット数.....582
パワーイージーアクセスシステム...168

パワーウインドウ..... 162
ウインドウロックスイッチ..... 164
閉めることができないとき..... 162
操作..... 162
ドアロック連動ドアガラス開閉機能 .. 163
挟み込み防止機能 162
巻き込み防止機能 162
パワーステアリング
警告灯 539
パワーバックドア..... 111
パンクした
スペアタイヤ装着車..... 555
タイヤ空気圧警告灯..... 544
番号灯（ライセンスプレートランプ）
..... 204
スイッチ 204
ランプの交換 524
ハンズフリーパワーバックドア 113
ハンドル（ステアリングホイール）
位置調整 150
ステアリングヒーター..... 460
パワーイージーアクセスシステム 168
ポジションメモリー..... 169
メーター操作スイッチ..... 89

ひ

ビークルスタビリティコントロール
（VSC）..... 429
ビークルダイナミクスインテグレイテッ
ドマネージメント（VDIM）..... 430
ヒーター
オートエアコン 448, 456
シートヒーター 460
ステアリングヒーター..... 460
前方カメラ 228
フロントオートエアコン..... 448
ミラーヒーター 450
リヤオートエアコン..... 456
レーダー専用カバー 227
非常点滅灯（ハザードランプ）.....529
スイッチ.....529
ランプの交換.....524
尾灯（テールランプ）.....204
スイッチ.....204
ランプの交換.....524
ヒューズ 522
表示灯 75
日よけ
サンバイザー.....481
リヤドアサンシェード 494
ヒルスタートアシストコントロール 430

ふ

ブースターケーブルのつなぎ方 569
フォグランプ 213
スイッチ.....213
電球（バルブ）の交換 524
ランプの交換.....524
ブザー
RCD（リヤカメラディテクション）....323
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
.....319
FCTA（フロントクロストラフィックア
ラート）.....260
LTA（レーントレーシングアシスト）..540
音さくいん.....608
休憩提案機能（LDA）.....251
クリアランスソナー 316
高水温.....539
シートベルト非着用警告 544
シフトダウン制限 196
車線逸脱警報機能（LDA）.....250
充電 538
衝突警報（PCS）.....234
接近警報（レーダークルーズコントロー
ル）.....272

手放し運転警告（LDA）..... 252
手放し運転警告（PDA）..... 259
ドライバーモニター..... 232
ドライブスタートコントロール..... 542
パーキングブレーキ未解除走行時警告 199
発進遅れ告知機能 262
半ドア 107
半ドア警告 105, 125
PKSB（パーキングサポートブレーキ）327
PCS（プリクラッシュセーフティ）.... 540
ブレーキ 538
ブレーキオーバーライドシステム 542
ブレーキホールド 543
油圧..... 538
リバース警告 193
フック
カーゴフック 475
買い物フック 476
けん引フック 534
コートフック 495
フロアマット固定フック..... 30
フューエルポンプシャットオフシステム
..... 537
フューエルメーター（燃料計）..... 78
フューエルリッド（給油口）
給油口の開け方 220
冬の前の準備（寒冷時の運転）..... 436
冬用タイヤ..... 436
ブラインドスポットモニター（BSM）
..... 292
プリクラッシュセーフティ（PCS）
PCS 警告灯 540
機能..... 234
フルタイム 4WD..... 506
ブレーキ
緊急ブレーキシグナル..... 430
警告灯 538
パーキングブレーキ..... 197
ブレーキホールド 201
メンテナンスデータ 581
ブレーキアシスト 429
ABS ＆ブレーキアシスト警告灯.....539
ブレーキ付近からキーキー音が聞こえる
.....180
ブレーキフルード 581
ブレーキホールド 201
プロアクティブドライビングアシスト
（PDA）.....255
フロアマット 30
フロントクロストラフィックアラート
（FCTA）.....260
フロントシート 130
シートヒーター 460
シートベンチレーター 462
正しい運転姿勢.....31
調整 130
手入れ.....502
パワーイージーアクセスシステム.....168
ヘッドレスト 147
ポジションメモリー 169
メモリーコール機能 170
リフレッシュシステム 133
フロントデフロック 410
フロントフォグランプ.....213
スイッチ.....213
ランプの交換.....524
フロント方向指示灯 197
方向指示レバー 197
ランプの交換.....524
フロントマルチオペレーションパネル
.....440

へ

平均車速 92, 93
平均燃費 90, 93

ヘッドアップディスプレイ 86
運転支援システム表示..... 86
設定..... 88
ナビゲーションシステム連携..... 86
ヘッドランプ..... 204
オートレベリングシステム..... 206
クリーナー 214
スイッチ 204
ライトセンサー 205
ランプ消し忘れ防止機能..... 206
ランプの交換 524
ヘッドレスト..... 147
ベンチレーター
シートベンチレーター..... 462

ほ

ホイール
交換（タイヤ）..... 555
メンテナンスデータ..... 581
ホイールナットレンチ 557
方向指示灯..... 197
方向指示レバー 197
ランプの交換 524
ホーン（警音器）..... 150
ポジションメモリー 169, 172
保証 9
ボトルホルダー..... 473
ボンネット（エンジンフード）
開け方 505

ま

マイセッティング..... 173
巻き込み防止機能
パワーウインドウ 162
マルチインフォメーションディスプレイ
..... 84
運転支援システム情報..... 91
オーディオシステム連携 92
警告メッセージ.....547
ターボゲージ.....93
タイヤ空気圧.....510
提案サービス機能 95
電圧計.....92
ドライブインフォメーション 92
トランスミッションフルード温度計.....92
ナビゲーションシステム連携 91
燃費グラフ.....90
メーター操作スイッチ 89
油圧計.....92
油温計.....92
マルチテレイン ABS.....429
マルチテレインセレクト.....418
マルチテレインモニター
アンダーフロアビュー＆両サイドビュー
.....347
アンダーフロアビュー（後輪）＆両サイド
ビュー 350
拡大機能.....379
カメラスイッチ 339
シースルービュー／ムービングビュー 359
ドアミラー格納時の表示 377
バックアンダーフロアビュー＆両サイド
ビュー 356
バックビュー＆両サイドビュー／ワイド
バックビュー＆両サイドビュー 353
パノラミックビュー＆バックビュー／ワイ
ドバックビュー.....369
パノラミックビュー＆ワイドフロント
ビュー 361
フロントビュー＆両サイドビュー.....345
マルチテレインモニター画面表示条件 339
マルチテレインモニターで表示できる画面
.....336
マルチテレインモニターについて.....335
床下透過映像.....379

リヤカメラウォッシャー..... 217

み

ミラー
デジタルインナーミラー..... 151
ドアミラー 159
バニティミラー 481
ミラーヒーター 450

む

ムーンルーフ..... 165
閉めることができないとき..... 166
操作..... 165
ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能 165
挟み込み防止機能 165

め

メーター（計器類）..... 78
ODO TRIP スイッチ..... 83
警告灯 73, 538
警告メッセージ 547
照度調整 84
表示灯 75
ヘッドアップディスプレイ 86
マルチインフォメーションディスプレイ84
メーター操作スイッチ..... 89
メカニカルキー..... 102
メモリーコール機能..... 170
メンテナンスデータ..... 578

ゆ

油圧計 78, 92
ユーザーカスタマイズ機能 583
雪道ですべって動けない（スタックした）
..... 576
油脂類 578

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）
.....204
スイッチ.....204
ランプの交換.....524
ラゲージルーム 475
ラゲージルームランプ.....115
ラジエーター
オーバーヒート 573
メンテナンスデータ 579
ランプ
AHB（オートマチックハイビーム）....211
AHS（アダプティブハイビームシステム）
.....208
インテリアランプ.....466
コーナリングランプ.....207
室内灯一覧.....464
電球（バルブ）の交換 524
読書灯.....467
パーソナルランプ.....467
非常点滅灯（ハザードランプ）.....529
フロントフォグランプ.....213
ヘッドランプ（前照灯）.....204
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウインカー）.....197
ライトセンサー.....205
ランプ消し忘れ防止機能 206
リヤフォグランプ.....213
ワット数.....582
ランプ消し忘れ防止機能.....206

り

リバース連動機能 160
リヤアームレスト 493
リヤウインドウデフォッガースイッチ
.....450
リヤオートエアコン 456

リヤカメラデテクション（RCD）... 322
リヤクロストラフィックアラート（RCTA）... 318
リヤシート... 135, 143
サードシートの格納... 140
セカンドシートの格納... 136
調整... 135, 144
ヘッドレスト... 147
ポジションメモリー... 169, 172
リラクゼーションシステム... 145
リヤシートヒーター... 460
リヤ席シートベルト非着用警告灯... 544
リヤデフロック... 412
リヤドアサンシェード... 494
リヤフォグランプ... 213
スイッチ... 213
電球（バルブ）の交換... 524
ワット数... 582
リヤ方向指示灯... 197
方向指示レバー... 197
ランプの交換... 524
リヤマルチオペレーションパネル... 443

れ

冷却水
冬の前の準備... 436
メンテナンスデータ... 579
冷却装置（ラジエーター）
オーバーヒート... 573
メンテナンスデータ... 579
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）... 267
レーダークルーズコントロール
接近警報... 272
レーダー... 225
レーンチェンジアシスト（LCA）... 247
レーンディパーチャーアラート（LDA）... 250
レーントレーシングアシスト（LTA）243
レクサスクライメイトコンシェルジュ... 447
レバー
シフト... 194
方向指示... 197
ボンネット解除... 505

ろ

ロードサインアシスト（RSA）... 264
ロック
ウインドウロック... 164
シフトロック... 194
スマートエントリー＆スタートシステム... 124
チャイルドプロテクター... 108
ドア... 103, 106, 110
バックドア... 110
ワイヤレスリモコン... 101

わ

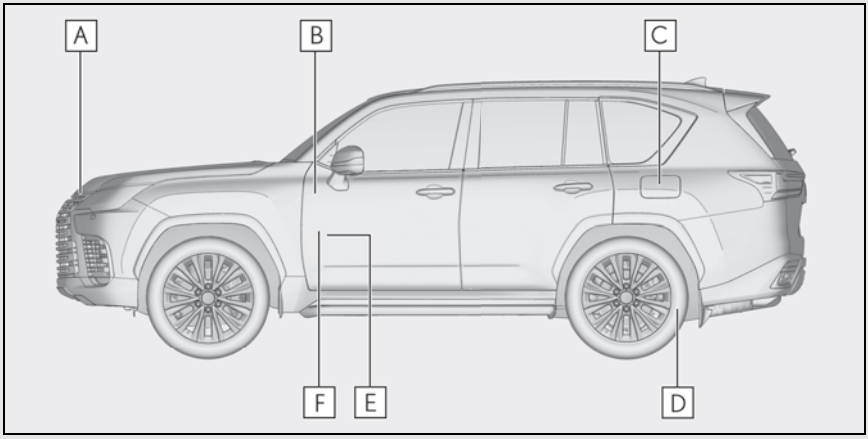
ワイパー＆ウォッシャー... 214, 217
ウインドシールドデアイサー... 453
ウォッシャー液の補充... 508
フロント... 214
リヤ... 217
ワイパーブレード（寒冷地用）... 437
ワイヤレス充電器（おくだけ充電）.. 486
ワイヤレスリモコン
作動の合図... 105
操作... 101
電池の交換... 520
半ドア警告ブザー... 105
ワックス... 498
ワット数... 582

次の装備は、別冊「マルチメディア取扱説明書」をお読みください。

・音声対話サービス
・ナビゲーション
・オーディオシステム
・リヤシートエンターテインメントシステム
・ハンズフリー電話
・ G-Link
・ ETC2.0 システム
・ドライブレコーダー

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



A ボンネットフック（→P.505）

B パワーバックドアスイッチ（→P.111）

C 給油口（→P.220）

D タイヤ空気圧（→P.581）

E 給油扉オープナー（→P.220）

F ボンネット解除レバー（→P.505）

燃料の容量（参考値）	80L
燃料の種類	P.578
タイヤが冷えているときの空気圧	P.581
エンジンオイル容量（参考値）	P.578
エンジンオイルの種類	P.578

「個人情報保護方針」については、https://lexus.jp にて掲載しております。

∃J-2

Publication No. M6A500
Part No. 01999-6A500
Printed in Japan 01-2610 Z
LX600